

浦尻貝塚 2



台ノ前貝層（54T）土器出土状況



台ノ前貝層（54T）土器出土状況



SK03土器出土状況



西向貝層（64T）上面土器出土状況

例 言

1. 本書は福島県南相馬市小高区大字浦尻字南台他に所在する浦尻貝塚の発掘調査報告書である。なお、南相馬市は原町市、相馬郡小高町・同鹿島町の1市2町による市町村合併を経て、平成18年1月1日付で誕生した新市である。
2. 報告する調査は、平成12年度の旧小高町町道建設計画に伴う試掘調査及び平成13～16年度にかけて実施した保存目的範囲確認調査である。いずれの調査も国庫補助対象事業として旧小高町教育委員会（現南相馬市教育委員会）が主体となって実施した。
3. 平成13年度からの保存目的範囲確認調査を実施するにあたり、学識経験者からなる浦尻貝塚調査指導委員会（以下、「調査指導委員会」という。）を組織し、調査の指導をお願いした。調査指導委員会には下記の方々に引き受けていただき、ご尽力を賜った。（敬称略）
委員長：藤沼邦彦（弘前大学）
副委員長：玉川一郎（福島県文化振興事業団）
委員：山田昌久（首都大学東京）
委員：樋泉岳二（早稲田大学）
指導機関：文化庁記念物課、福島県教育庁生涯学習・文化スポーツ領域文化財グループ
4. 整理調査は、調査指導委員会、文化庁ならびに福島県教育庁文化財グループの指導のもと、発掘調査時から平成17年度まで継続的に南相馬市教育委員会（旧小高町教育委員会）が実施している。平成17年度の調査体制は次のとおりである。

平成17年4月1日～平成17年12月31日

平成18年1月1日～平成18年3月31日

調査主体 小高町教育委員会

調査主体 南相馬市教育委員会

事務局 小高町教育委員会教育総務課

事務局 南相馬市教育委員会文化課

教育長 荒川 登
教育総務課長 阿部 貞康
課長補佐 高橋 清
主任主査 小高 千舟
主 事 安部 幹洋
主 事 木幡 琴絵
町史編さん
調査補助員 松本美和子

教育長 青木 紀男
事務局長 風越 清孝
事務局次長 藤原 直道
文化課長 鳥 中 清
課長補佐 引地 芳典
主 事 北原 美紀
事務補助 佐山 恵美

調査担当

調査担当

学芸員 川田 強
主 事 佐川 久

係 長 堀 耕 平
主 査 佐藤 友之
副主査 川田 強
副主査 荒 淑 人
主 事 佐川 久
嘱託学芸員 藤 木 海

整理調査補助員：牛渡由起子・松崎孝子・松本経子・渡部定子

5. 遺物の実測、図版作成、写真撮影は各調査参加者が行った。
6. 本書の執筆・編集は川田強が担当した。
7. 附編として掲載したAMS-¹⁴C年代測定については、国立歴史民俗博物館・年代測定研究グループにご協力をいただき、報告をいただいた。
8. 出土遺物のうち剥片石器については、株式会社ラングに実測、トレース、石材同定を委託し、実施した。磨製石斧・磨石等その他の石器の石材については、高木和夫氏（小高商業高等学校）に指導をいただいた。
9. 本報告は、上記調査のうち、南台（台地南部を除く）・台ノ前・西向地区の遺構及び縄文時代の遺構・貝層・遺物包含層から出土した縄文時代の遺物について掲載したものである。これらの調査地区の小土坑及び表土等遺構外の出土遺物、台ノ前地区Ⅰ区の出土遺物、弥生時代以降の遺構・出土遺物、小迫北・南地区の出土遺物、動物遺体等自然遺物、骨角製品については、今後整理調査し、報告する予定である。なお、本報告に係る調査のうち遺構等の調査状況については、「浦尻貝塚1」（2005 小高町教育委員会）に掲載している。
10. 遺跡の位置及び環境、調査経過については、「浦尻貝塚1」に掲載したため、本報告では省略した。
11. 本報告において、「浦尻貝塚1」で一部報告した遺物の出土位置、表示を訂正しているものがある。これらの出土遺物はすべて再掲載しているので、本報告をもって正式報告としたい。訂正したものについては、各節にまとめて記した。また、土器の型式分類についても、一部訂正している。
12. 調査および報告書作成にあたり、下記の方々に多大なご協力いただいた。記して感謝の意を示したい。（敬称略、五十音順）

青山 博樹、阿部健太郎、新井 達哉、新井 陽子、猪狩みち子、石川 功、石川日出志、石田 典子、磯村 幸男、市川 金丸、井戸川次男、植木 真吾、上原 真人、宇佐美雅夫、江田 真毅、大塚 初重、大平 好一、大平 理恵、岡田 康博、岡村 道雄、小川 勝和、小川 卓也、小川 長導、奥山 誠義、忍澤 成視、香川 慎一、梶原 圭介、梶原 文子、加藤 真二、菊池 徹夫、菊池 芳朗、木島 勉、木下 尚子、黒住 耐二、小林 三郎、小林 達雄、小林 雄一、今野 徹、坂口 隆、櫻井 信夫、佐藤 悦男、佐藤 耕三、佐藤 啓、坂井 秀弥、三瓶 秀文、嶋村 一志、宍戸 弘治、新海 和広、菅原 弘樹、鈴木 良一、鈴木 啓、鈴木 敬徳、鈴木 昇、関 口満、相馬 胤道、高木 和夫、高橋 満、谷畑 美帆、玉田 芳秀、丹野 隆明、富田 孝彦、中島 広顕、長島 雄一、西 徹雄、西谷 正、西本 豊弘、丹羽 茂、禰冨田佳男、長谷川 真、馬場 利夫、早瀬 亮介、藤原 妃敏、古谷 渉、宝玉 鼎、保坂 太一、堀江 格、本間 宏、町田 章、松嶋 直美、松田 哲、松本 茂、村田六郎太、村本 周三、森 幸彦、山崎 京美、山崎 充浩、山本 出、山谷 文人、門馬 一彦、横田 正美、吉田 秀享、吉田 陽一、和田 勝彦

13. 調査にあたっては、下記の地権者ならびに浦尻行政区に多大なご協力をいただいた。記して感謝の意を示したい。(敬称略、五十音順)

阿部 典明、阿部 義明、安部 克己、安部 完治、安部 信一、安部 千正、梅村 俊男、大原 富男、
小野田利行、小野田聖一、小野田武久、小野田弘明、小野田義昭、叶 茂、叶 ハル子、亀田 直記、
菅野 好彦、相浦 光一、相浦 吉治、佐々木廣志、佐藤 巧記、佐藤 孝治、佐藤 静枝、佐藤 智昭、
佐藤 秀雄、佐藤 芳言、佐藤 芳秀、佐藤ヤス子、志賀 丈彦、志賀 常雄、志賀 義雄、清野 利行、
竹野 平、船柳 定光、松平 毅、松平 儀良、松原 功典、松原 松衛、横山 邦彦、三浦 運芳

凡 例

- 1 掲載した出土遺物の縮尺は各挿図に記している。基準は下記のとおりである。
出土土器 復元実測 1／4 断面実測 1／3
その他の遺物 剥片石器 2／3 磨製石斧等 1／2 磨石等 1／4 土製品 1／2
- 2 遺物実測図の表現は次のとおりである。
繊維土器：断面 ▲
- 3 人工遺物写真の縮尺は不同である。
- 4 各写真図版の写真番号は掲載した図番号に対応している。

目 次

巻頭図版

例 言

凡 例

目 次

第1章 はじめに	1
第1節 土器分類	1
第2節 遺構種別・出土層	2
第2章 出土土器	3
第1節 南台地区遺構出土土器	3
第2節 南台地区遺物包含層出土土器	52
第3節 台ノ前南貝層出土土器	59
第4節 台ノ前北貝層出土土器	81
第5節 西向貝層出土土器	119
第6節 西向地区遺構・遺物包含層出土土器	135
第3章 その他の出土遺物	143
第1節 石製品	143
第2節 土製品	153
引用・参考文献	156
土器観察表	161
石製品観察表	210
土製品観察表	213
写真図版	217
附 編 浦尻貝塚における AMS - ¹⁴ C 年代測定	293

第1章 はじめに

第1節 土器分類

報告する縄文土器は、下記のように分類した。「浦尻貝塚1」で掲載した遺物は、型式分類を変更しているものがある。一部併行すると考えられる土器群も含めている。

- I群土器 縄文早期後葉の条痕文系土器群
- II群土器 縄文前期初頭～中葉の土器群
- III群土器 縄文前期後葉～末の土器群
 - III-1類 大木3式
 - III-2類 大木4式
 - III-3類 大木5式
 - III-4類 大木6式
 - III-5類 1～4類に伴う主に単斜縄文等地文のみ施される土器を一括した。一部はIV群土器に伴う可能性がある。
 - III-6類 1～4類に併行する異系統の土器を一括した。
- IV群土器 縄文中期前葉の土器群
 - IV-1類 大木7a式
 - IV-2類 大木7b式
 - IV-3類 1・2類に伴う主に無文の土器を一括した。
 - IV-4類 1・2類に伴う主に結束回転文等地文のみ施される土器を一括した。一部はIII群土器に伴う可能性がある。
 - IV-5類 1・2類に併行する異系統の土器を一括した。
- V群土器 縄文中期中葉の土器群
 - V-1類 大木8a式
 - V-2類 大木8b式
 - V-3類 1・2類に併行する異系統の土器を一括した。
- VI群土器 縄文中期後葉～末の土器群
 - VI-1類 大木9式
 - VI-2類 大木10式
 - VI-3類 1・2類に併行する異系統の土器を一括した。
- VII群土器 縄文後期前葉の土器群
 - VII-1類 綱取I式
 - VII-2類 綱取II式
 - VII-3類 堀ノ内II式
 - VII-4類 1～3類に併行する異系統の土器を一括した。
- VIII群土器 縄文後期中葉～後葉の土器群
 - VIII-1類 加曾利B式
 - VIII-2類 新地式
- IX群土器 縄文晩期の土器群

第2節 遺構種別・出土層

本報告では、出土土器を原則、遺構種別、各遺物包含層別に掲載している。遺構種別、出土層については、「浦尻貝塚1」で報告した分類基準を用いている。基準は次のとおりである。

1. 遺構種別

竪穴住居（遺構略称SI）

掘り込みがあり、床面が構築されているもの。貼床面、壁周溝、炉の構築のいずれかが確認できるものを竪穴住居としている。平面プランや堆積土の観察から推定しているものが一部ある。

土坑Ⅰ類（遺構略称SK）

柱痕跡が確認できる土坑で、「柱穴」と推定されるものを本類とした。

土坑Ⅱ類（遺構略称SK）

いわゆる「貯蔵穴」とされるものを本類とした。

土坑Ⅲ類（遺構略称SK）

Ⅱ類以外の大型の土坑である。掘り下げて調査していないものでは、Ⅱ類との分別が困難であるが、検出状況、分布状況等から、本類に推定して含めた。

土坑Ⅳ類（遺構略称SK）

その他のもので、概ね径が約50cm以上あるものを本類に含めた。

小土坑（遺構略称P）

概ね径が約50cm以下のものを小土坑とした。本報告では、一部の出土遺物のみ掲載している。

埋設土器（遺構略称SKまたはP）

土坑・小土坑中いわゆる埋設土器を伴うものを抽出した。

道路状遺構

南台地区台地中央部で確認されたもので、検出状況及び遺構の分布状況から道路状遺構とした。

2. 出土層

本報告では、縄文時代の堆積層から出土した遺物を掲載している。縄文時代の包含層をⅢ層とし、南台・西向・台ノ前地区ではこれを次のように分類した。

Ⅲ－1層 暗褐色系統の砂質土。南台地区台地北部を中心に堆積する。同地区では、遺構覆土の多くが含まれる。

Ⅲ－2層 台地上に堆積するもので、暗褐色・褐色を基調とする。Ⅲ－1層に比較し、粘質がある。

Ⅲ－3層 縄文時代の貝層。主に混貝率によって、次のとおり大別している。

混貝土層 貝の混入率が比較的高いもの。計測混貝率で概ね10%以上のものである。

土主体層 貝の混入率が低いもの。計測混貝率で概ね10%以下である。また、貝層最下層にあたり、比較的獣骨土器の出土多い層も含めた。

土層 貝の混入が認められなかったものであるが、混貝土層及び土主体層同様、動物遺体が含まれるなど、一連のものと考えられるもの。

Ⅲ－4層 西向・台ノ前地区の斜面部のⅢ－3層下にあり、ほとんど縄文時代の遺物を含まない。

Ⅲ－5層 西向・台ノ前地区の斜面部の堆積層のうちⅢ－3層以外のもので一定量の遺物が含まれるものをまとめた。

第2章 出土土器

第1節 南台地区遺構出土土器

1. 竪穴住居

竪穴住居（遺構略称SI）

SI01・02・03・04・06・07

52T西端に重複して検出された住居群である。ここで確認されている土坑及び小土坑については、どの竪穴住居に伴うものか即断できず、住居群とは異なる単独の遺構の可能性もあり、個々に遺構番号を付けている。ここでは、これらの遺構が竪穴住居群に関連するものと考え、各遺構別に掲載した。なお、本遺構群は西向貝層上に構築されている。

SI01〔SK141・142〕（図1-1～10）

土器埋設部（SK141）・石組部（SK142）からなる複式炉である。

1～3は同一個体で、埋設土器である。断面三角の隆線で区画でした文様が描かれている。4・6・7が断面三角の隆線により、5・8は沈線により文様が施されるものである。8は埋設土器である。10は注口浅鉢形土器であり、注口上位に橋状把手が付けられ、隆線により文様が描かれる。これらは、VI-2類と考えられる。

SK143（図1-11・12）

SK142に重複し、切られている。SI01に伴う遺構であるか不明である。11は結節回転文が施されている。11・12は、焼成・色調等から、III-5類と考えられる。

SK139（図1-13～16）

SK142に隣接するが、攪乱下から検出した遺構である。SI01等との重複関係は不明である。

14は上下を沈線区画し、網目状撚糸文が施されるIX群土器である。13は多条沈線による重弧状文を起点に垂下する文様が施されるVII-2類である。16は、口縁に縦位の刻み、多条の山形文が施されるIV-1類、15は口縁縄文ナデ磨消が認められ、焼成等からIII-5類と考えられる。

SK137（図1-17～22）

SI01・03内の攪乱下から確認した遺構であり、SI01・03との重複関係は不明である。17は沈線区画の磨消縄文が施される。VII-3類である。18・19は多条沈線により文様が描かれるVII-2類である。20は撚糸文を沈線区画するものでVII-1類、21は帯状文を施すものでVI-1類に含めておく。22は胴部球形のIII-5類である。

SK144（図2-1～7）

SI01の貼床面から構築される土坑である。3は縦方向の条線文が施されるIII-6類である。その他はIII-5類であり、1・2は底部に網代痕が認められる。5は結節回転文が、6は縦位に縄文が施され、4・5・7には胎土に少量の繊維が含まれる。

P102（図2-8）

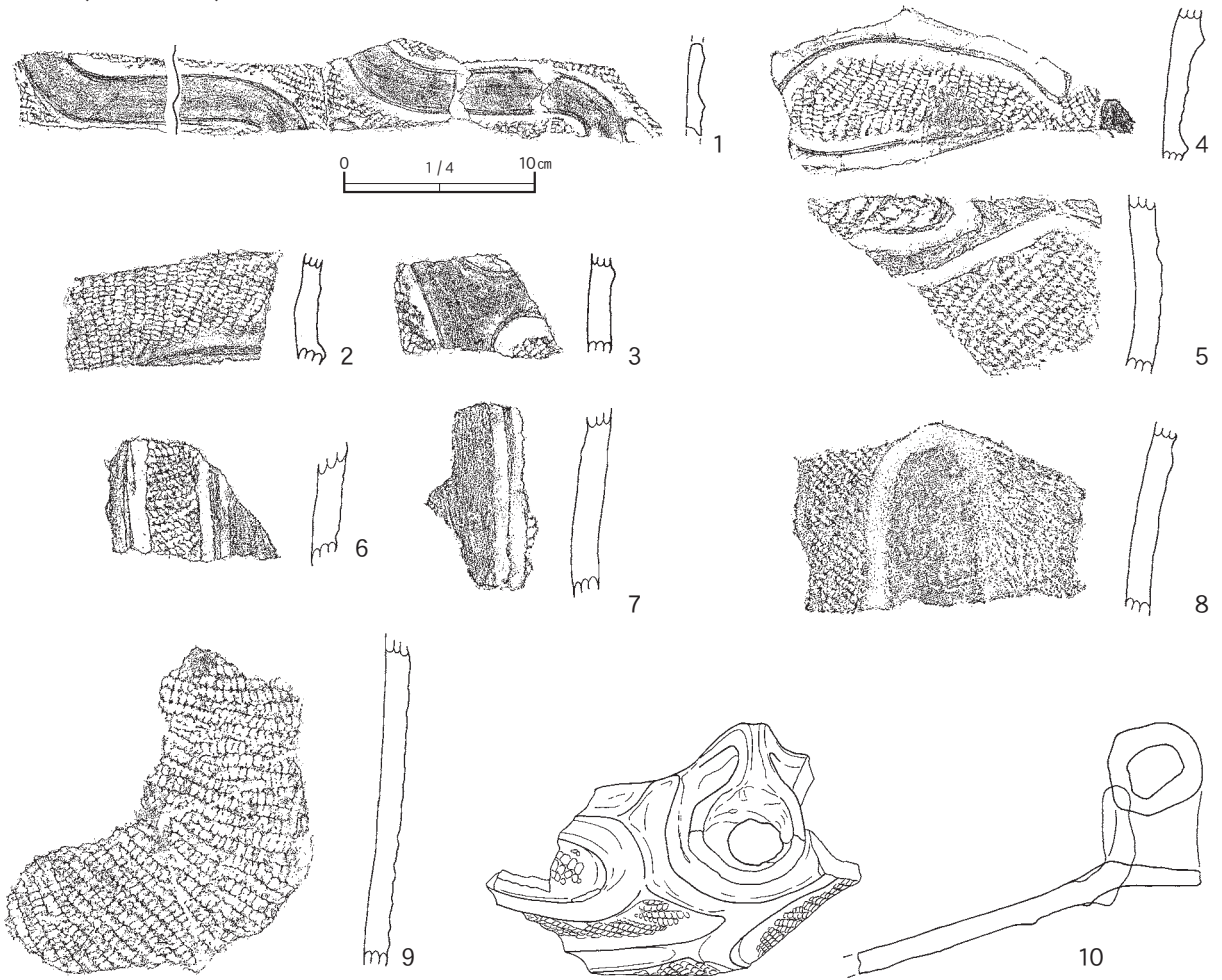
SK144内に確認された小土坑である。SK144を掘り方とするSI01の柱痕跡の可能性があり、8は口縁部に隆線が施される。V-2類である。

P103（図2-9）※1

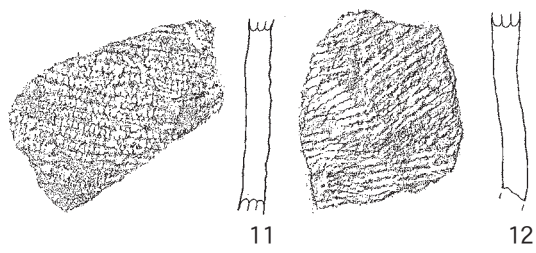
SK144に切られる小土坑である。SI01の下位に想定されるSI02の貼床面から構築している。9は刺突列と変形爪形文が施される。III-6類に相当する。

第1節 南台地区遺構出土土器

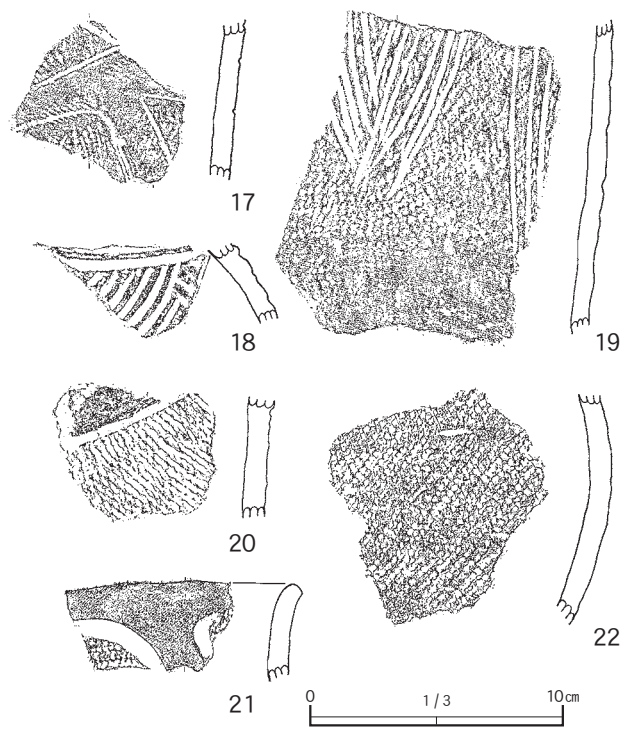
SI01(SK141・142)



SK143上面



SK137上面



SK139上面

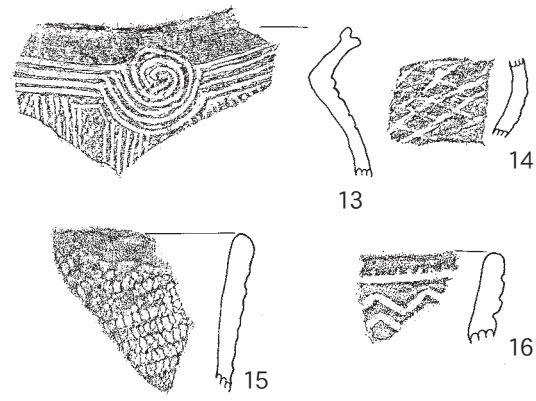
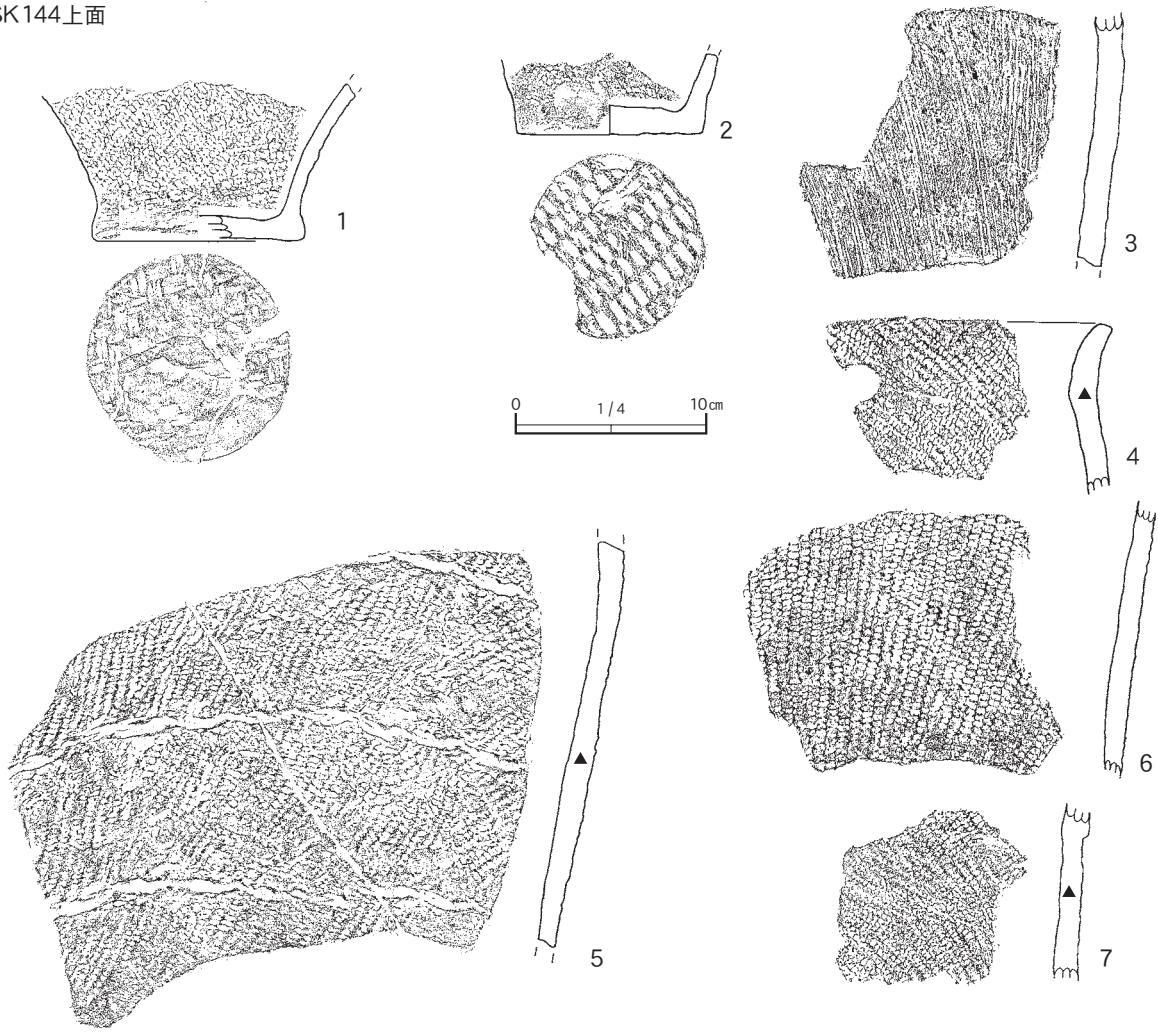
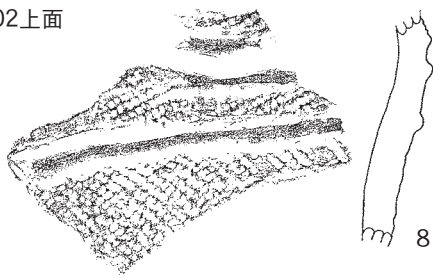


图1 豎穴住居出土土器①

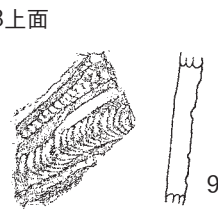
SK144上面



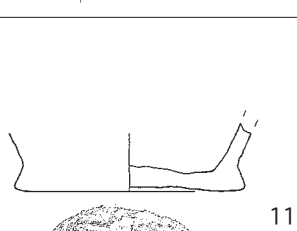
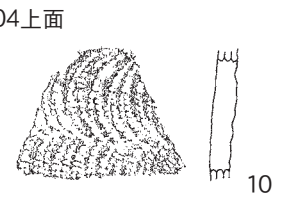
P102上面



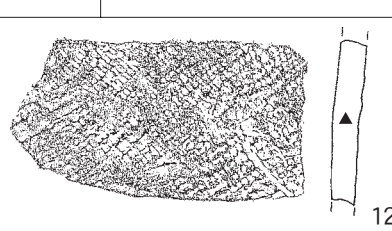
P103上面



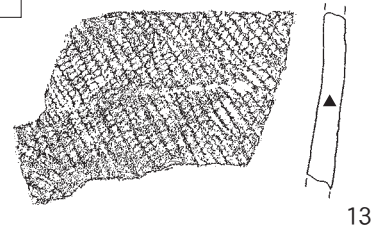
P104上面



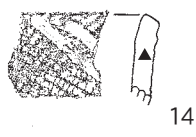
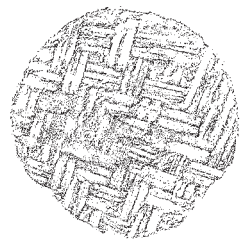
11



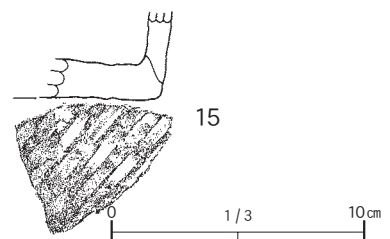
12



13



14



15

图2 竖穴住居出土土器②

P104 (図2-10~15)

SI01内に確認された土坑である。10は波状貝殻腹縁文が施される。Ⅲ-6類である。11~13・15はⅢ-5類と考えられる。11・15は底部網代痕が認められ、12・13は少量の繊維が含まれる。14は羽状縄文地に斜行沈線、円形竹管文が施される。Ⅱ群土器である。

P100 (図3-1・2)

SI01の下位に想定されるSI02の貼床面から構築される。1はⅣ-1類である。複合口縁に縦位短沈線が施され、頸部貼付文を起点とし、交互刺突文が充填される沈線をT字状に施文している。2は無文の土器でⅣ-3類と考えられる。

SI03 (図3-3~13) ※1

周溝に囲まれる貼床部をその範囲とする。東側は貼床が破壊されており、貼床下に相当する層位からも遺物が出土している。3は頸部に縄圧痕による押捺が施される。Ⅳ-4類である。4は縦位縄文地に単沈線による文様が施される。Ⅳ群に含めておく。5・6は結節回転文が認められるⅣ-4類である。7・8はⅥ-1類の口縁部、9・10は隆沈線、沈線によるクランク状の文様のⅤ-1類、11・12は同一個体で、縦位2条の微隆起線が認められるⅣ-2類、13はⅣ-4類と考えられる。

P97 (図3-14)

攪乱下から検出した遺構である。SI01等との重複関係は不明である。14は沈線によるクランク状文が施される。Ⅴ-1類である。

SK138 (図3-15~19)

SI03床上から構築される。埋設土器遺構である。15が埋設土器である。縦位の隆線による帯状区画で、胴部上半は、無文部が貫入し、縦位楕円形区画文が認められる。Ⅵ-1類と考えられる。16は口縁沈線区画のⅥ群、17は隆沈線施文のⅥ-1類、18はⅤ群、19はⅣ-3類に含められる。

SI04 (図4-1・2)

SI03に切られ、SI06・07を切る竪穴住居である。1は沈線に沿う三角形刻みが施されるⅣ-1類である。2は口縁下に半截竹管による刺突が施される。Ⅲ-4類である。

SK145 (図4-3・4)

SI04内にある土坑である。SI04に伴う可能性が高い。3は縦位結節回転文のⅣ-4類である。4は底部網代痕を残すもので、Ⅳ-3類に含めておく。

P109 (図4-5)

SI06周溝に連結する小土坑である。SI06に伴う可能性が高い。5は口縁部に縄文施文した鋸歯状貼付文が部分的に付けられるⅢ-3類である。

P119 (図4-6)

SI07貼床上から構築される小土坑である。SI07に伴う可能性が高い。6は無文の鋸歯状貼付文が部分的に付けられるⅢ-3類である。

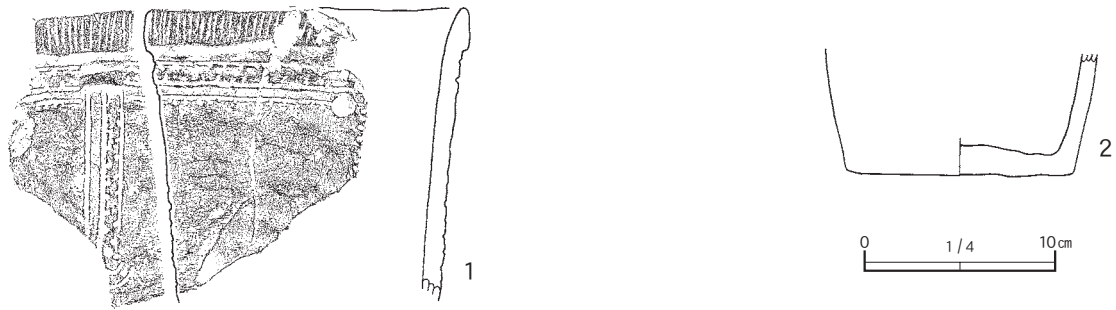
P107 (図4-7)

SI06貼床から構築される小土坑である。7は口縁を刻み付隆帯によって区画し、2条の単沈線による山形文、余白に三角形刻みが施文される。Ⅳ-1類である。

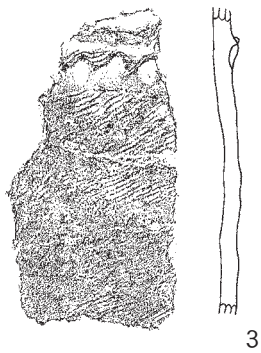
P112 (図4-8)

SI07貼床から構築される小土坑である。8は口縁に1条の沈線がめぐるⅦ-2類と考えられる。

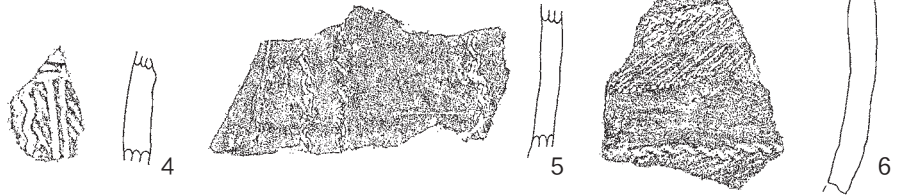
P100上面



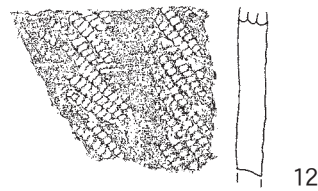
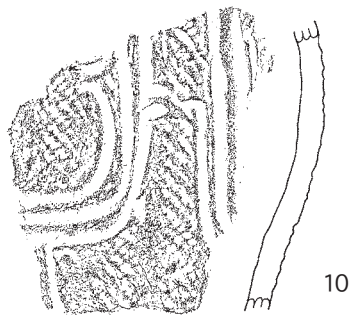
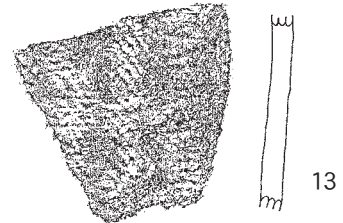
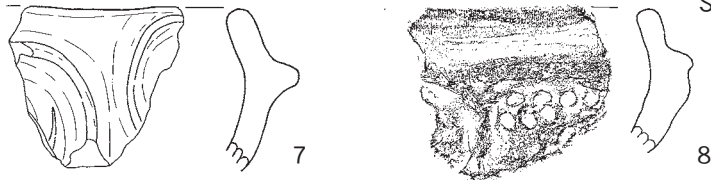
SI03床面



SI03周溝



SI03床下



P97上面



SK138

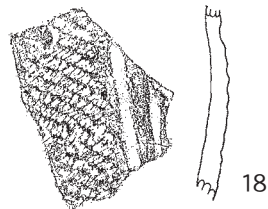
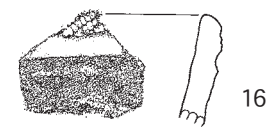
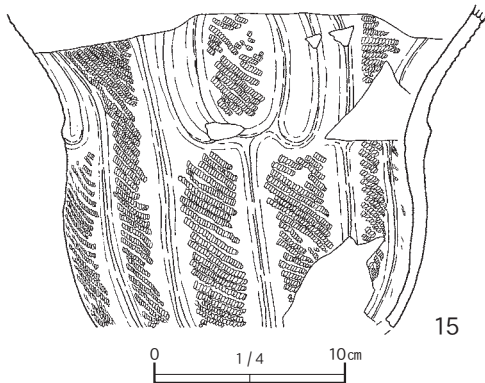


图3 竖穴住居出土土器③ (S=1/3·1/4)

第1節 南台地区遺構出土土器

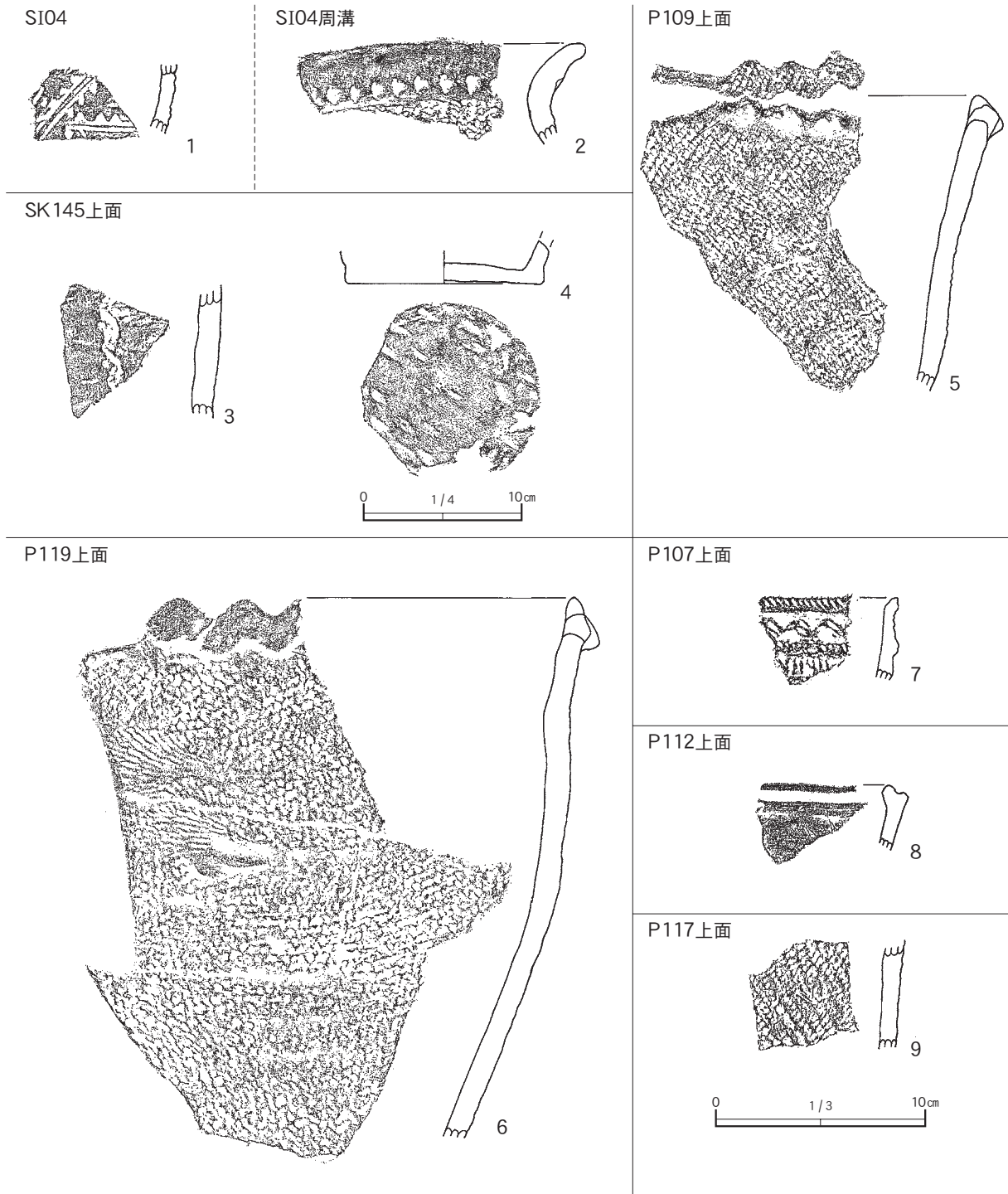


図4 竪穴住居出土土器④ (S=1/3・1/4)

P117 (図4-9)

SI07貼床に隣接する小土坑である。9は焼成等からⅢ-5類である可能性が高い。

SI09

53T西から検出されたものである。本遺構確認時に、覆土上からプランを確認したものを遺構と認識し、遺構番号をつけた。SK315~320がこれにあたるが、SK320以外は、SI09に伴うくぼみ状の堆積土であると考えられ、これらの出土遺物はSI09上層に相当する。

SK320 (図5-1・2)

SI09覆土上から構築される埋設土器遺構である。1は埋設土器である。直線的に立ち上がる器形で、胴部下半にナデ磨消が認められる。Ⅶ群と考えられる。2は渦巻文が施されるⅤ-2類である。

SK315 (図5-11)

SI09覆土上で確認したものである。11は格子状条線文を施す。Ⅶ群である。

SK316 (図5-8~10)

SI09覆土上で確認したものである。8はアルファベット文を描くⅥ-2類、9は隆線による渦巻文のⅥ-1類である。10は縄圧痕付隆線が口縁部に付くⅣ-2類である。

SK317 (図5-3~7)

SI09覆土上で確認したものである。4は条線文が施されるⅦ群である。3・6・7はⅥ群で、7は浅鉢と考えられる。5は沈線による弧状文が描かれるⅤ群と考えられる。

SK318 (図5-12~14)

SI09覆土上で確認したものである。12・13は縦位隆帯が施されるⅦ-1類、14はⅥ群に含めておく。

SK319 (図5-15)

SI09覆土上で確認したものである。15は沈線による楕円文が施されるⅥ-1類である。

SI09上層 (図5-16~19)

SI09覆土上のSK315~320確認時に出土したものである。16はアルファベット文が施されるⅥ-2類、17は沈線による帯状の区画文、18・19は隆線・隆沈線が施されるⅥ-1類である。

SI09 (図6・図7-1~5)

SI09覆土中から出土したものである。図6-2は炉埋設土器である。小波状口縁を呈する。Ⅵ群と考えられる。図6-3~5はⅦ-1類で、3は刻み隆帯が縦位に施される。4は沈線区画内刺突、5は円形浮文が施されている。図6-6~19・21~23はⅥ-1類である。6は三角形区画内に刺突が施される。7~9、18・19はアルファベット文が沈線・隆沈線により施される。10~12は隆沈線が施される口縁部である。13~17は縦位楕円文や帯状文が交互に配置される。21~23は縦位の沈線・隆沈線が胴部下部まで施される。図6-20は横位の文様が沈線で施されるⅥ-2類、図7-1~3は沈線・隆線による渦巻文が施されるⅤ-2類、同図4は平行沈線による垂下文が施されるⅣ-2類である。

SI09〔SK330〕 (図7-6)

SI09支柱穴に相当するSK330から出土したものである。6はⅥ群に含められる。

SI10

53T東で確認されたSK404が石囲炉であることから竪穴住居と考え、SI10とした。貼床及び周溝、壁は確認されていない。

SI10〔SK404〕 (図8-1)

SI10の石囲炉である。炉内に埋設土器(1)が出土した。口縁部を沈線区画し、ナデ磨消が施される。地文は縦位燃糸文である。Ⅶ群土器に相当する。

SK407 (図8-2~6)

SK404に掘りこまれる浅いくぼみ状の遺構である。SI10に伴う遺構と考えられる。2は横位沈線が施されものでⅥ-2類に含めておく。3はソーメン状隆線が施されるⅤ群である。5・6は同一個体で、単沈線による弧状文、横線文が施される。Ⅴ-2類と考えられる。

第1節 南台地区遺構出土土器

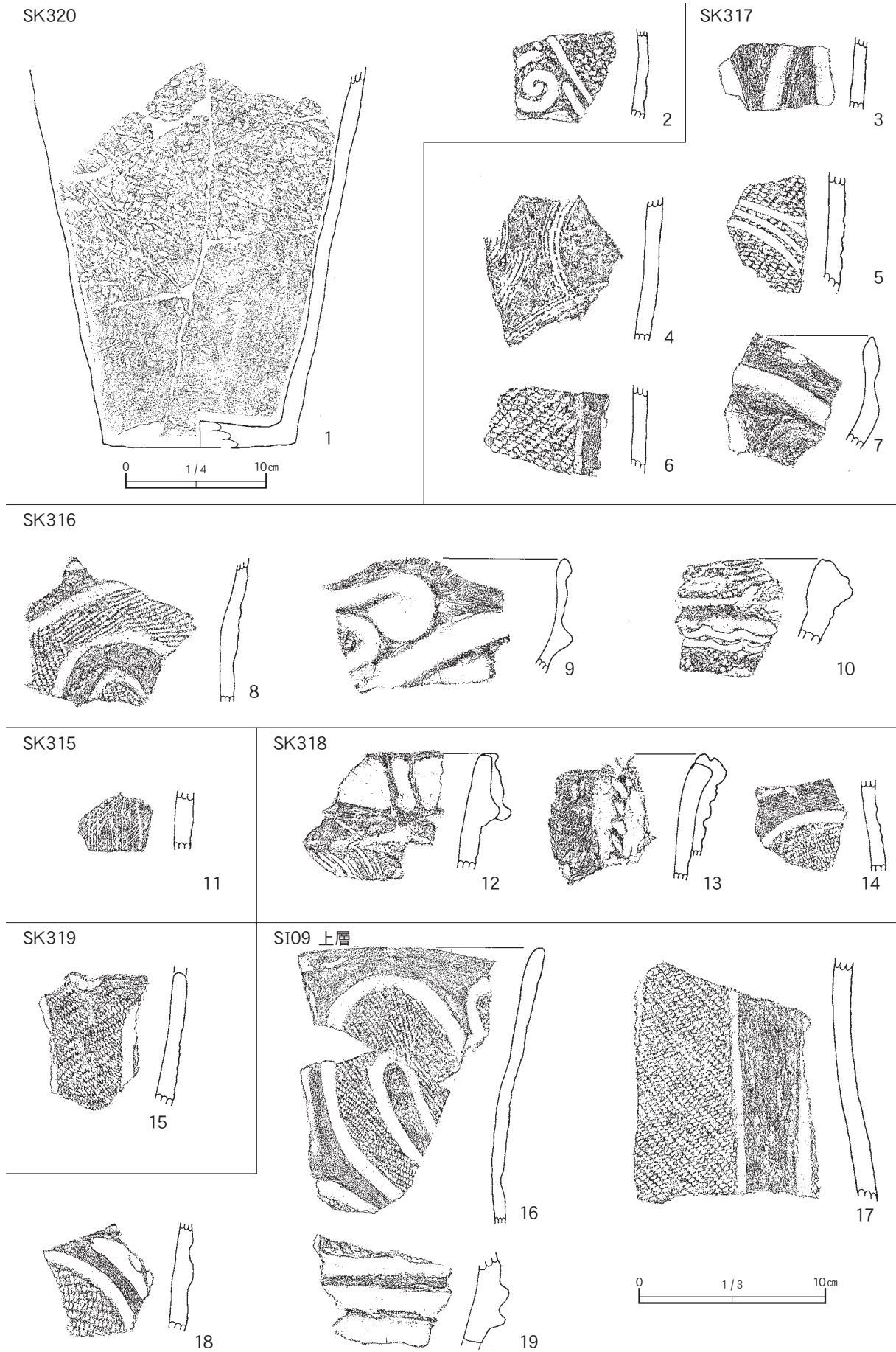


図5 豎穴住居出土土器⑤ (S=1/3・1/4)

S109

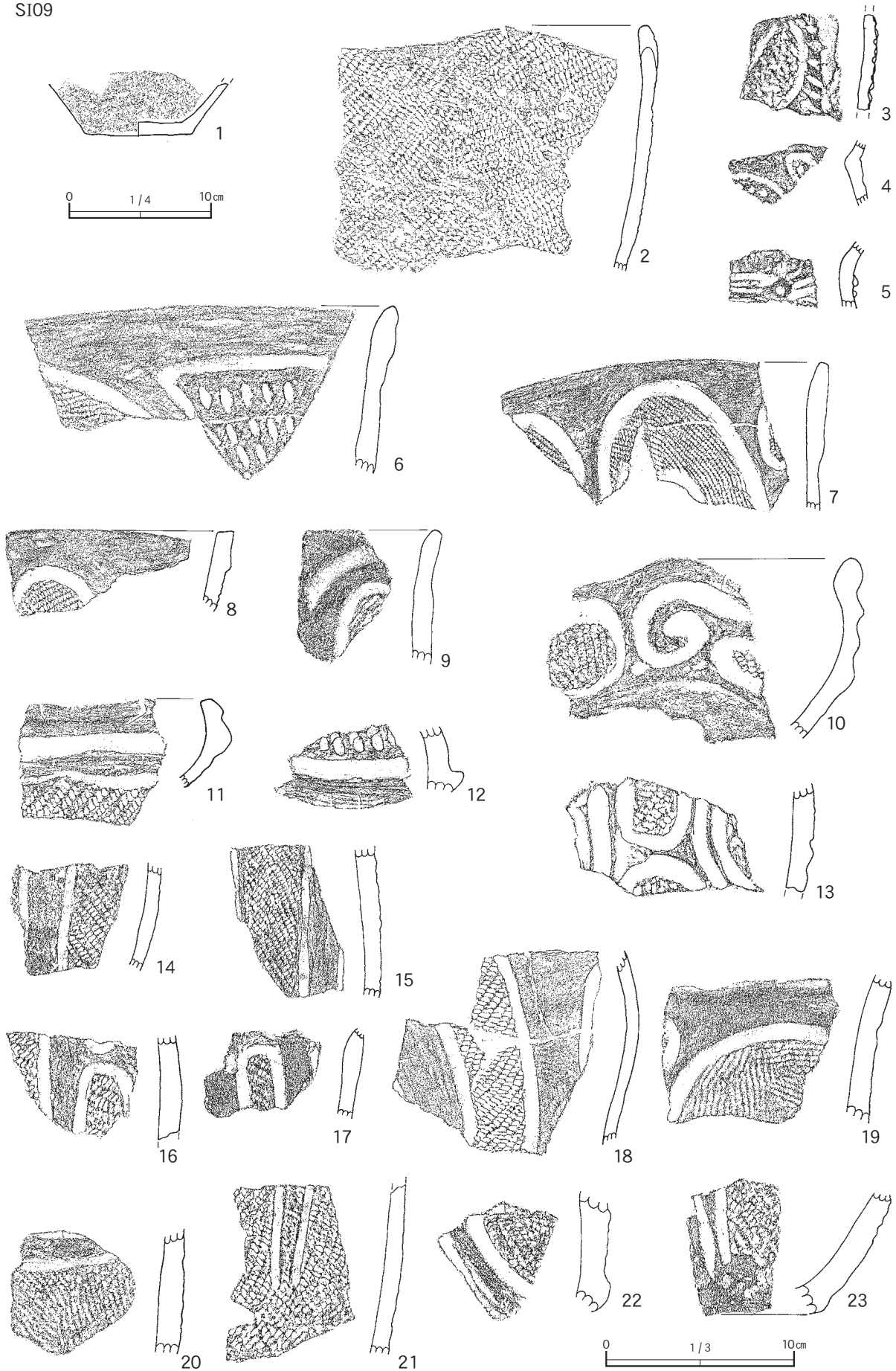


图6 竖穴住居出土土器⑥ (S=1/3·1/4)

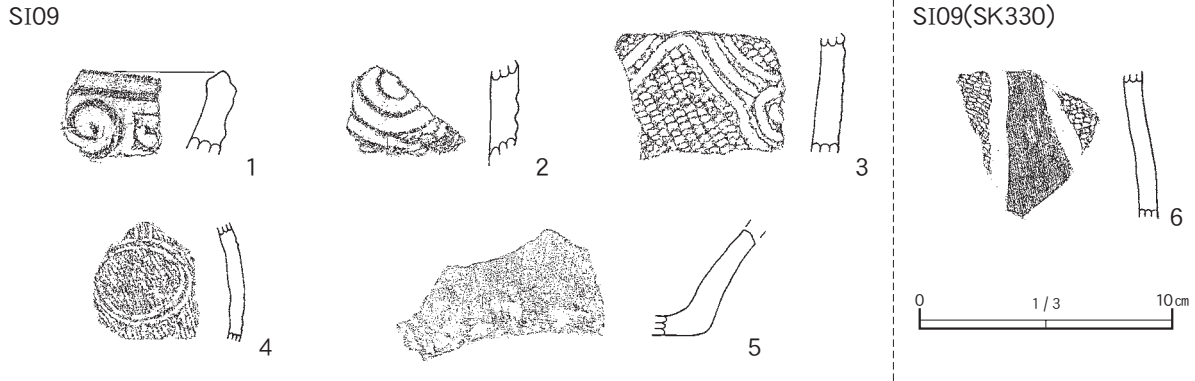


図7 竪穴住居出土土器⑦ (S=1/3)

SK411 (図8-7)

SK404を囲むような、くぼみ状の遺構である。SI10に伴う遺構と考えられる。7は口縁下横位隆帯、胴部に縦位条線文のVII-1類である。

SK399 (図8-8~16)

SI10に隣接する埋設土器遺構である。SI10に関連する遺構の可能性がある。8は埋設土器である。磨消縄文帯により、蕨手状等の文様が施文されるVII-2類である。11~13もVII-2類である。11は口縁下沈線区画し、12は多条沈線で文様を描く。13は蕨手状文が施文されている。9・10・16はVII-1類である。9はノ字状隆帯、10は8字状把手が認められる。10・16には頸部に鎖状隆帯が縦位に施される。

SI11 (図9-1~5)

SI11・12は、59T北で平面プランを確認し、竪穴住居と推定したものである。SI11の遺構確認時に少量の出土遺物がある。1は3単位の波状口縁で、波頂部がくぼみ、双頭状を呈す。横位沈線区画の縄文帯が施され、口縁内面に1条の沈線が施される。VII-3類である。2はVII群、3~5はVI群である。

SI13・14

SI13・14は、いずれも貼床、周溝を確認しておらず、正確な平面プランは不明である。

SI13 [SK494] (図9-10~12)

SK494で複式炉を確認したことから、竪穴住居とした。SK494は石組部・土器埋設部のみ確認したものである。10は埋設土器である。アルファベット文が施されるVI群である。11はソーメン状隆線が施されるV-1類、12はSK497出土の図9-6と同一個体である。

SK497 (図9-6・7)

SI13に伴うと考えられるくぼみ状の遺構である。6はSK494出土の図9-12と同一個体である。口縁部に沈線区画の無文部がある。7は隆沈線で区画される。いずれもVI群に含まれる。

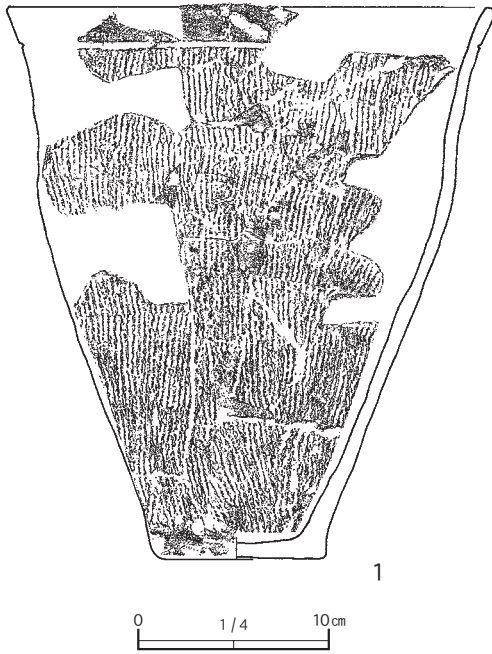
SK481 (図9-8・9)

SI14推定範囲に隣接する遺構である。SI13・14に伴う可能性がある。8は隆沈線で区画され、縄文、刺突文が認められるVI群である。9は縦位の隆線が施されるV群である。

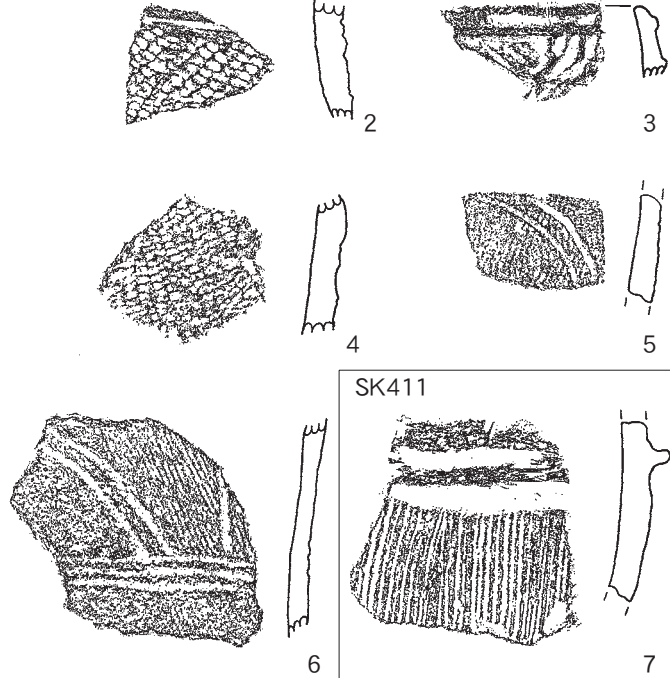
SI15

59Tで検出された竪穴住居である。堆積状況は黒色・暗褐色土の1~6層と褐色土の7層以下で大きく異なっている。覆土出土遺物を層位により2大別して掲載した。

SI10[SK404]



SK407



SK399

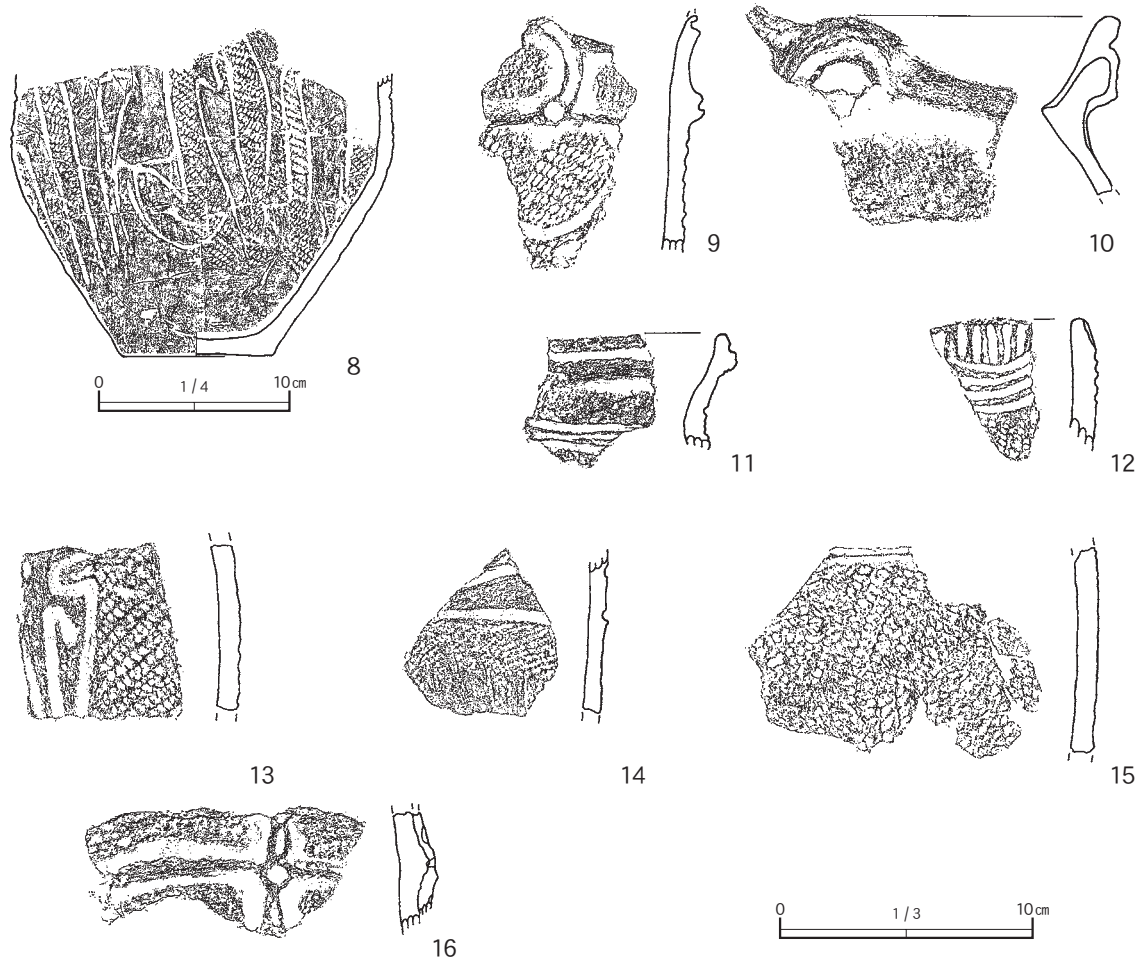
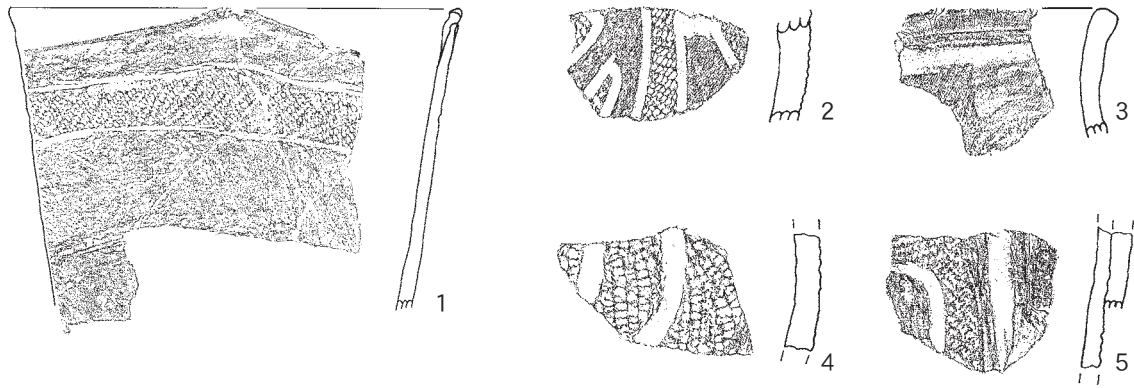
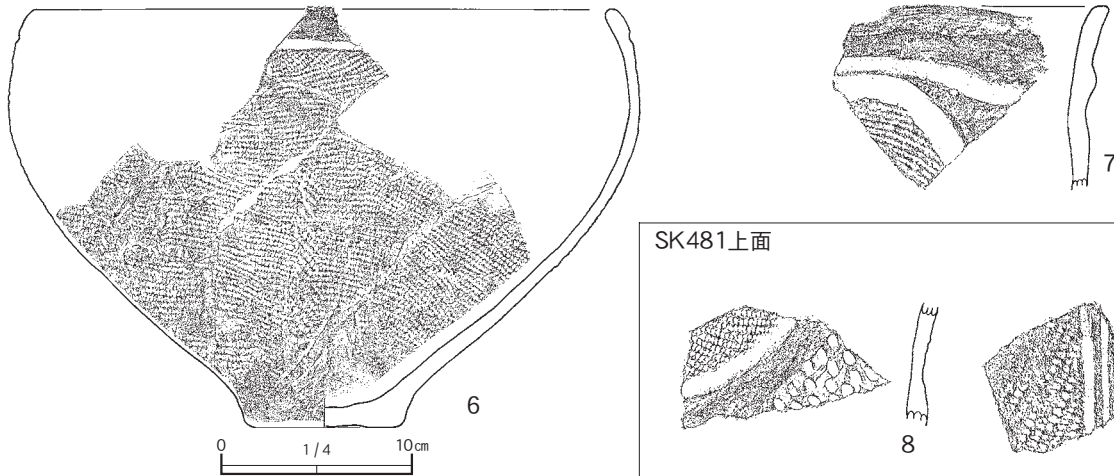


图8 豎穴住居出土土器⑧ (S=1/3·1/4)

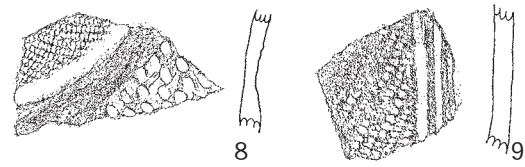
SI11上面



SK497



SK481上面



SI13(SK494)

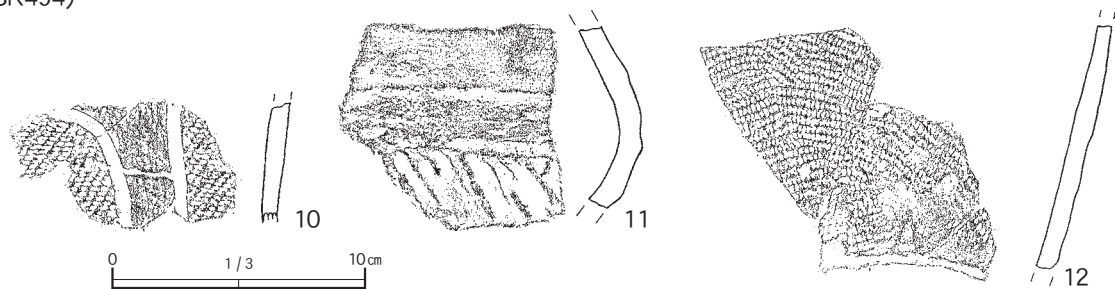


図9 竪穴住居出土土器⑨ (S=1/3・1/4)

SI15-1～4層 (図10、図11-1～9)

上層のくぼみ状の堆積土から出土したものである。

Ⅶ-1類 (図10-1～3) : 1～3は同一個体で、磨消縄文による曲線状のモチーフが描かれる。

Ⅵ-2類 (図10-4～13・15・22～25) : 4は横位の未調整沈線によって無文部を区画している。5～13・15は断面三角の隆線・隆沈線によって文様を描くものである。22～24は浅鉢で、25は注口が付く。いずれも隆線により文様を描く。

Ⅵ-1類 (図10-14・19～21) : 14はカマボコ状の隆沈線が施される。19・20は上下に縦位楕円文を配するものである。21はキャリパー状の器形の口縁部で渦巻文、楕円形区画文が認められる。

SI15・1~4層

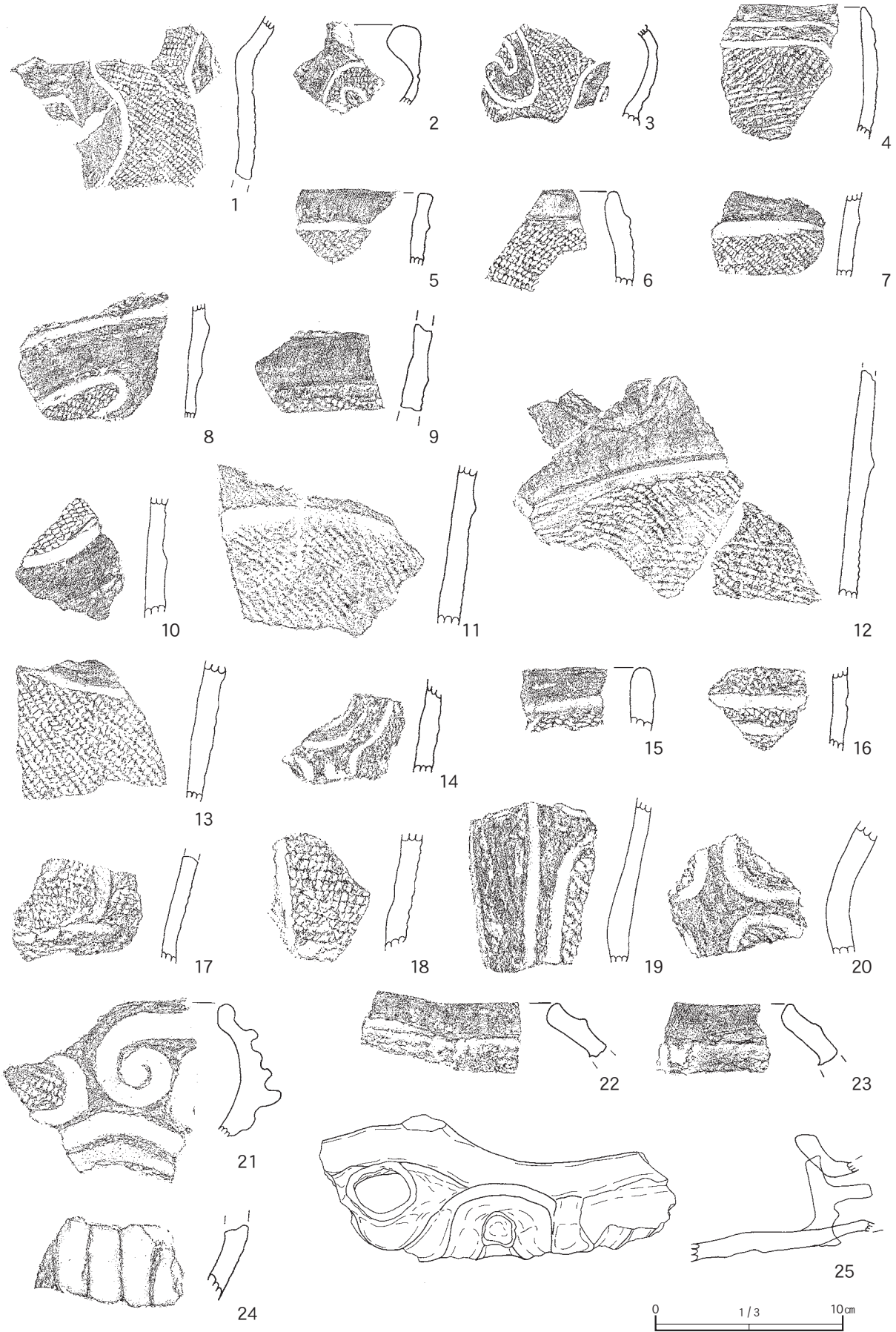


图10 竖穴住居出土土器⑩ (S=1/3)

第1節 南台地区遺構出土土器

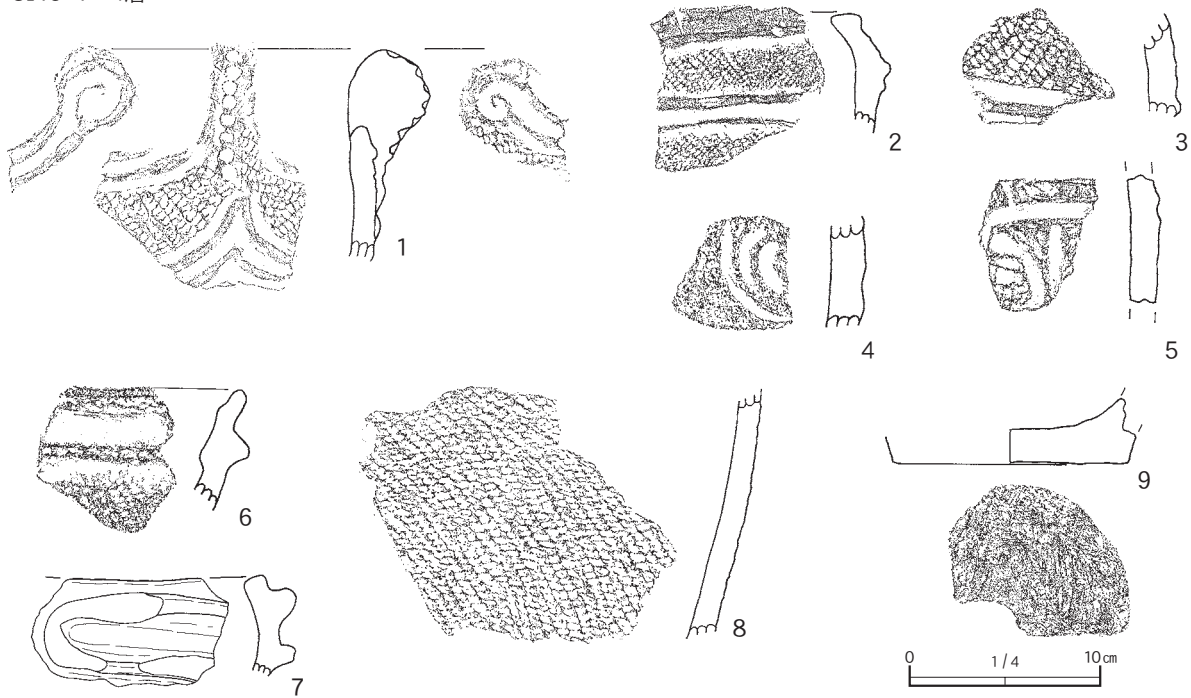
V群 (図11-1~5) : 1~3・5はカマボコ状の隆線が認められる。1は縦位の突起がつく口縁で、突起側面に渦巻状沈線が施される。4は沈線による渦巻文である。

IV群 (図11-6・7) : 6は横位の縄圧痕付隆帯、7は楕円形隆帯が施される。

SI15炉内 (図11-10~14)

複式炉内から出土したものである。13は埋設土器である。10・11・13は断面三角の隆線により文様が描かれる。VI-2類である。12・14もVI群で、14は縦位沈線が認められる。

SI15・1~4層



SI09 炉内

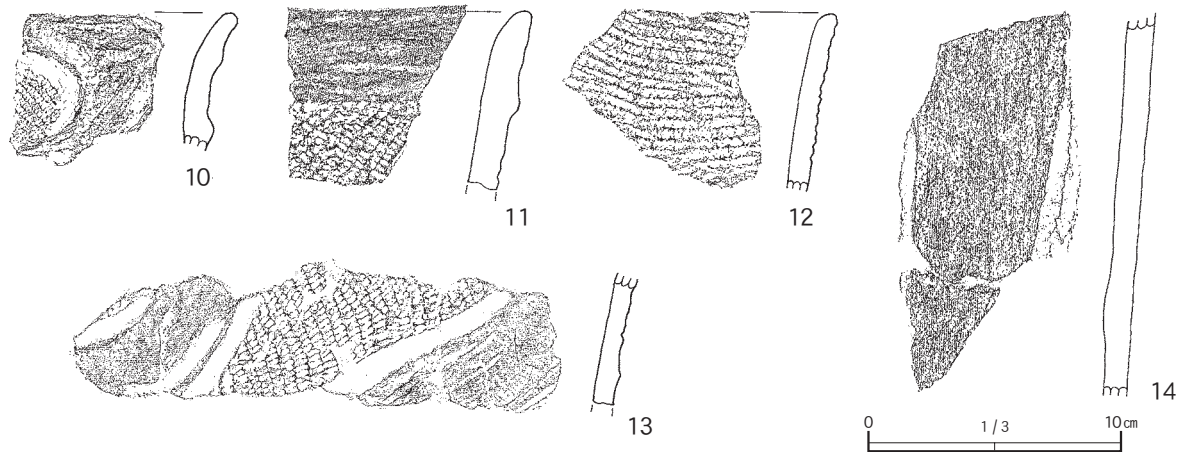


図11 竪穴住居出土土器⑪ (S=1/3・1/4)

SI15·7~13層



图12 竖穴住居出土土器⑫ (S=1/3)

SI15-7~13層 (図12、図13-1~8)

第一次堆積と考えられる下層から出土した遺物である。

Ⅶ群 (図12-1・2) : 1は口縁下沈線区画のⅦ-2類である。2は未調整沈線により文様を描いている。

Ⅵ-2類 (図12-3~8) : 3~8は断面三角の隆線区画の無文部により文様が描かれる。3・4は同一個体で緩やかな波状口縁を呈する。

Ⅵ-2類 (図12-10・14、図13-2~5) : 図12-10・14、図13-2・3は縦位の帯状文やH字状文が施されるものである。図13-4・5は隆沈線が施されるキャリパー状の器形の口縁部である。

Ⅵ群 (図12-11~13・15~17、図13-1) : 1・2類に細別が難しいものを一括した。沈線区画の縄文が認められるものである。

Ⅴ群 (図13-6~8) : 6は上下に渦巻文が施される突起がつく。Ⅴ-2類である。7・8は地文上に沈線文様を描くものである。Ⅴ-1類と考えられる。

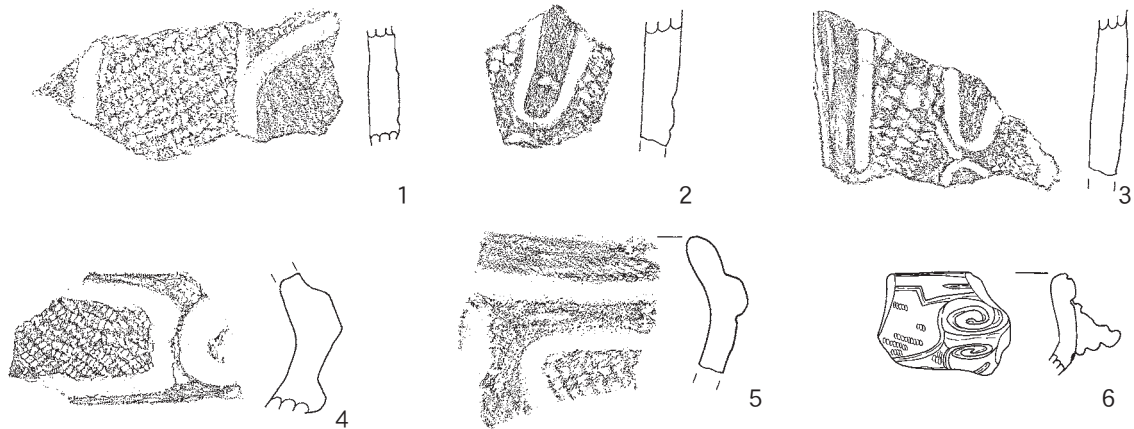
SI16 (図13-9・10)

床面と周溝を確認しただけであり、表土直下に検出されたものである。SK505及びSI15に切られる。周溝から出土した遺物を掲載した。9は口縁が外反し、頸部を2条の沈線で区画する。Ⅴ群としておく。10は縄文を沈線で区画したもので、Ⅵ群と考えられる。

SI17 (図14-1~14)

60Tにおいて、住居の北東隅が検出されたものである。1・2は口縁下を沈線で区画し、縦位の3条の短沈線が施文されている。3・5・6・8・9は多条沈線による文様が描かれている。4は横位の縄文帯がほど起こされ、胴部に曲線的なモチーフを描くものである。これらは、Ⅶ-

SI15・7~13層



SI16周溝

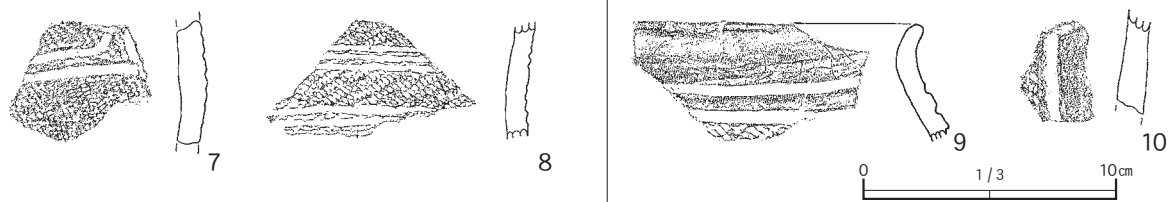


図13 竪穴住居出土土器⑬ (S=1/3)

2類に含められる。10～12はⅦ群と考えられる。7は縦位垂下文に弧状のアクセント文がつくⅣ-2類と考えられる。13は隆沈線が縦位に施されるⅥ-1類である。

SI24・25

南台地区台地北部の北端で確認されたものである。SI25は貼床面と炉を確認したことから、SI24は貼床面と周溝を確認したことから竪穴住居とした。

SI24 (図14-15~18)

貼床と石囲炉が確認されたものである。SI25を切って構築されている。15は断面三角の隆沈線で文様を描くⅥ-2類、16は縄文を沈線区画するⅥ-1類、17は撚糸文地に隆沈線を描くⅤ-2類である。

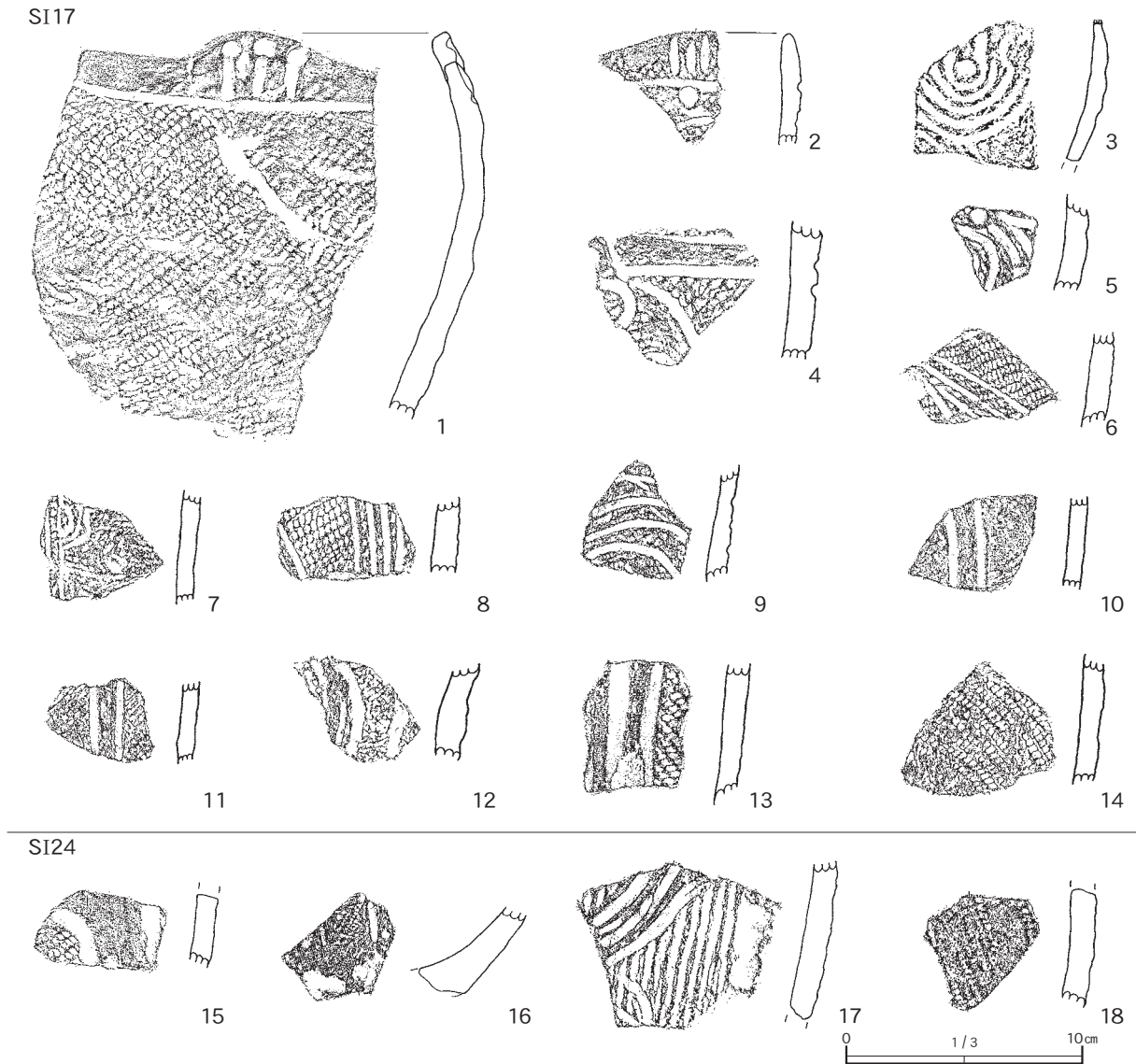
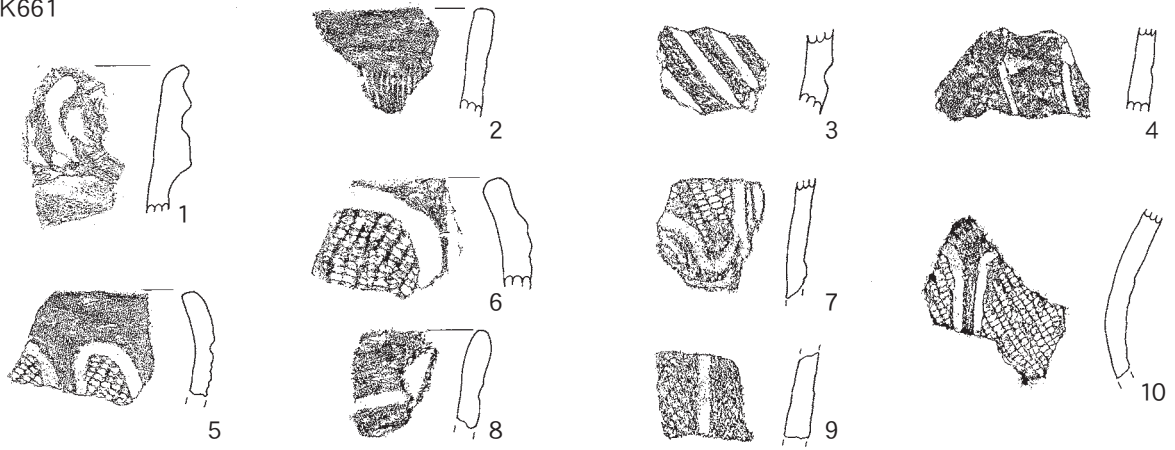


図14 竪穴住居出土土器⑭ (S=1/3)

第1節 南台地区遺構出土土器

SK661



SI25(66TⅢ層)



图15 豎穴住居出土土器⑮ (S=1/3)

SK661 (図15-1~10)

SI25の石囲炉を切って構築されている土坑であり、SI25に伴うものではないと考えられる。ただし、住居覆土上からの掘り込みではなく、床面上からの掘り込みであり、これらはほぼ同時に埋没した可能性が高い。1はノ字状隆帯が施されるⅦ-1類である。2は条線文、3・4は磨消縄文が施されるものでⅦ群と考えられる。5~10はⅥ群である。7は口縁部に曲線状沈線による区画があり、Ⅵ-2類に含められる。5・6・10は楕円文が施されるⅥ-1類と考えられる。

SI25〔66TⅢ層〕 (図15-11~32)

貼床面を確認したものであり、SI24に切られる。66Tは本住居を断ち割る形で調査されたものであり、Ⅲ-2層と大別したものが本遺構の覆土と考えられる。

11~16はⅦ群である。11は縦位蛇行沈線、12は磨消縄文、13は2条の円形刺突列が認められる。Ⅶ-1類と考えられる。14は多条沈線による渦巻状文が描かれる。Ⅶ-2類である。16は8字状隆帯がつく把手部である。17~26はⅥ群である。17・18は断面三角の隆線が施されるⅥ-2類、20~25はⅥ-1類と考えられ、20~22・24・25は2条の沈線・隆沈線により縄文を区画し、楕円文等を描くものである。23は単沈線による渦巻状文を施す。27~30はⅤ-2類である。27は上下に渦巻文が施される突起が付く。28・29は2~3条の沈線により曲線状の文様を描く。30は隆線による渦巻文が施される。31は縄文地に、多条沈線が施されている。Ⅴ-1類と考えられる。

2. 土坑Ⅰ類

土坑Ⅰ類は柱痕跡を確認したものやSI09の支柱穴に類似した径が大きく掘り方が深いものを「柱穴」として分類したものである。

SK15 (図16-1・2)※2

51Tで検出したものである。SK16(Ⅳ類)を切る。覆土からの出土遺物がある。1・2はⅧ-1類である。2は沈線間に弧状の区画が施される。

SK17 (図16-3~5)

51Tで検出したものである。覆土からの出土遺物(3)と遺構確認時の出土遺物(4・5)がある。3は縦位縄文施文であり、Ⅴ群の可能性がある。4は多条沈線が施されるⅦ-2類、5は口縁が内屈し、小突起が施されるⅦ-1類である。

SK28 (図16-6)

51Tで検出したものである。SK27に切られる。遺構確認時の出土遺物がある。6はカマボコ状の隆沈線が描かれる。Ⅵ群である。

SK44 (図16-7)

51Tで検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。7は口縁下に沈線が施される。Ⅵ群である。

SK45 (図16-8)

51Tで検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。8は縄文を沈線で区画している。Ⅵ群に含めておく。

SK93 (図16-9~11)

51Tで検出したものである。覆土からの出土遺物がある。9・11はⅥ群である。10は口縁を沈線区画している。Ⅶ-2類である。

第1節 南台地区遺構出土土器

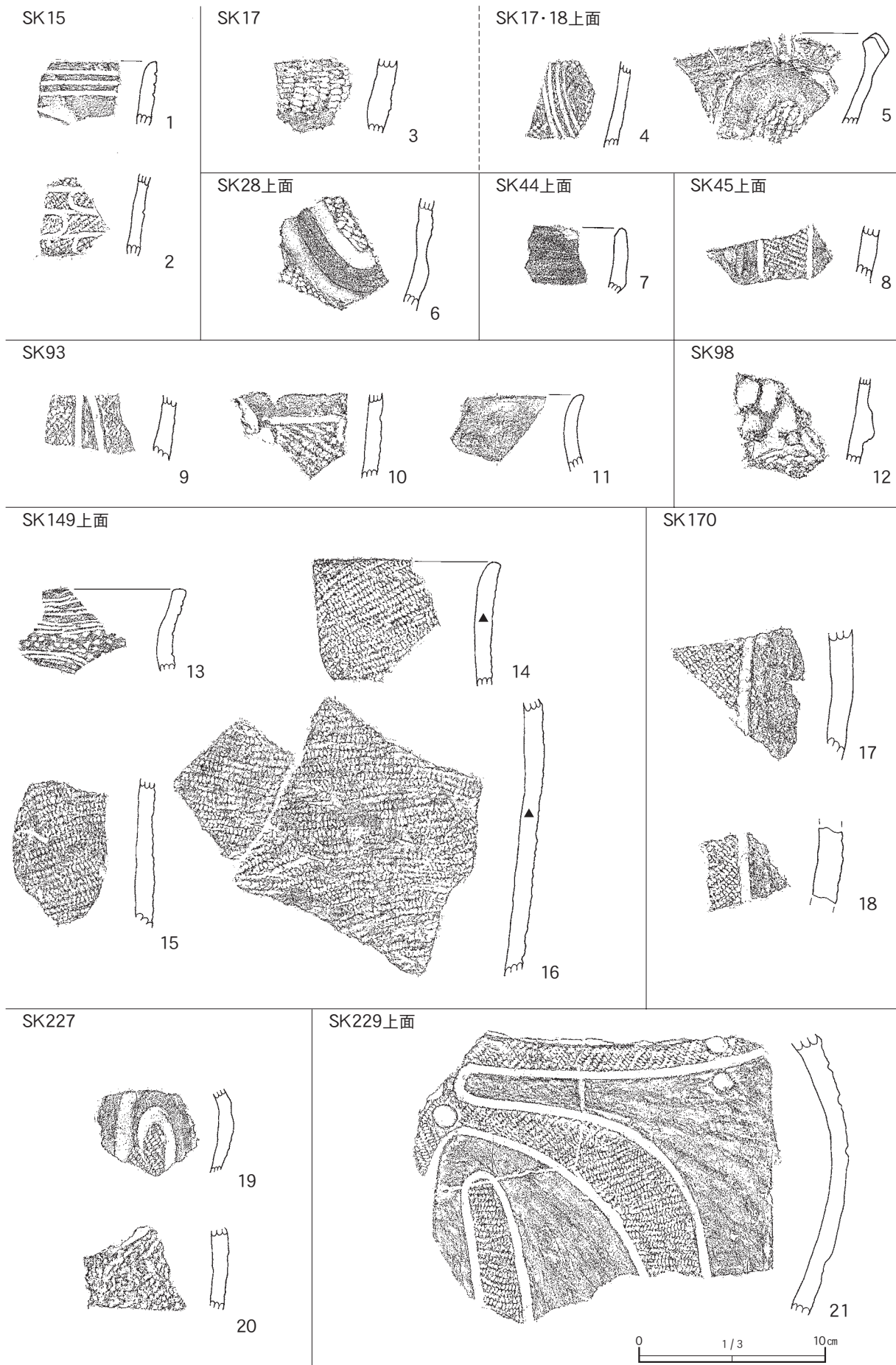


図16 土抗Ⅰ類出土土器① (S=1/3)

SK98 (図16-12)

51Tで検出したものである。覆土からの出土遺物がある。12は口縁隆帯区画で、ノ字状隆帯が施される。Ⅶ-1類である。

SK149 (図16-13~16)

52T西で検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。13は波状口縁を呈し、多条の平行沈線間に円形竹管文を施文している。波状口縁である。Ⅲ-6類である。14・16は胎土に繊維を少量含んでいる。15・16は結節回転文が認められる。これらはⅢ-5類である。

SK170 (図16-17・18)

52T西で検出したものである。SK169・173(Ⅲ類)を切っている。覆土中の出土遺物がある。17・18は同一個体であり、縦位の帯状文が施される。Ⅵ-1類に含めておく。

SK227 (図16-19・20)

52T東で検出したものである。覆土からの出土遺物がある。いずれもⅥ群と考えられる。19は隆沈線により文様を描くⅥ-1類である。

SK229 (図16-21)

52T東で検出したものである。SK226(Ⅳ類)に切られ、SK228(Ⅳ類)を切る。遺構確認時の出土遺物がある。21は口縁下を沈線で区画し、曲線状のモチーフが描かれる。交点等に盲孔が施されている。Ⅶ-2類である。

SK235 (図17-1~5)

52T東で検出したものである。SK246(Ⅱ類)を切る。覆土からの出土遺物がある。大形土器片(1・2)が出土している。いずれもⅦ-1類である。1は、J字状文、半月状の区画文が磨消縄文で施されている。2は、埋設土器遺構であるSK217(埋設土器遺構)出土土器片と遺構間接合したものである。剥離しているが胴部中途までの縦位隆帯が認められる。3~5もⅦ群と考えられる。4は多条沈線が描かれるⅦ-2類である。

SK245 (図17-6~8)

52T東で検出したものである。SK246(Ⅱ類)を切る。覆土からの出土遺物がある。6~8は口縁下隆帯で区画されるⅦ-1類である。7・8は同一個体である。

SK258 (図17-9~12)

52T東で検出したものである。覆土からの出土遺物がある。9は多条沈線が施されるⅦ-2類である。その他もⅦ群と考えられる。10は横位の沈線区画磨消縄文、12は縄文を施文する把手部である。

SK264 (図17-13~18)

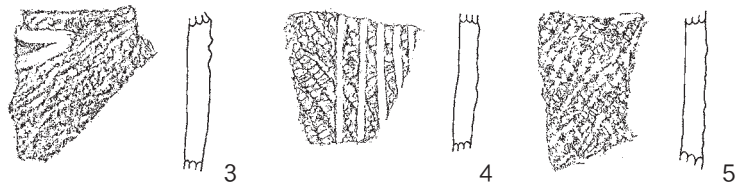
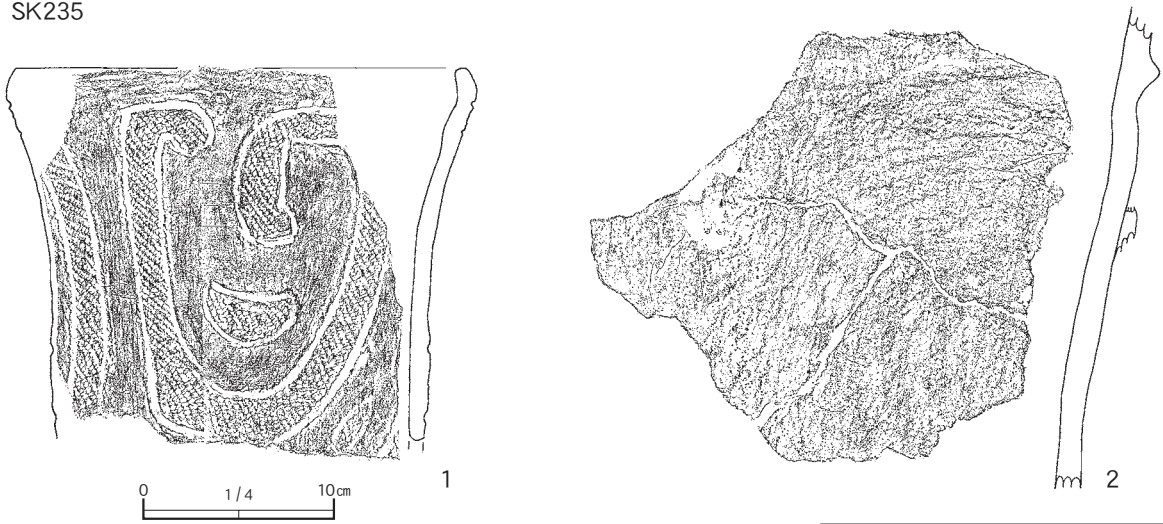
52T東で検出したものである。P191を切る。覆土からの出土遺物がある。13~15はⅦ-2類と考えられる。13は口縁を沈線区画し、縄文上に盲孔が施される。14は蕨手状文、15は曲線状のモチーフを描いている。16~18もⅦ群に相当する。

SK277 (図17-19)

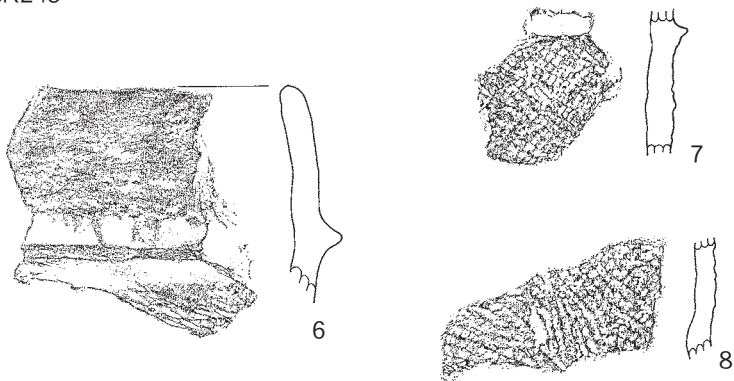
52T東で検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。19は口縁下に隆沈線が施されており、Ⅵ群と考えられる。

第1節 南台地区遺構出土土器

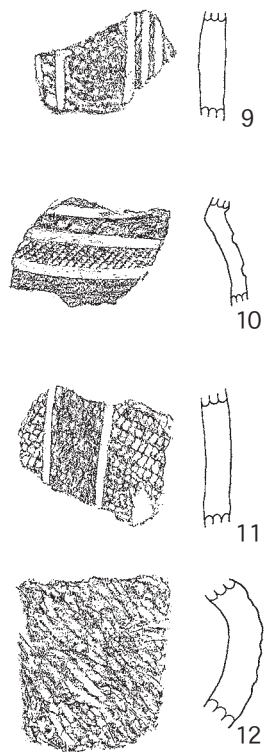
SK235



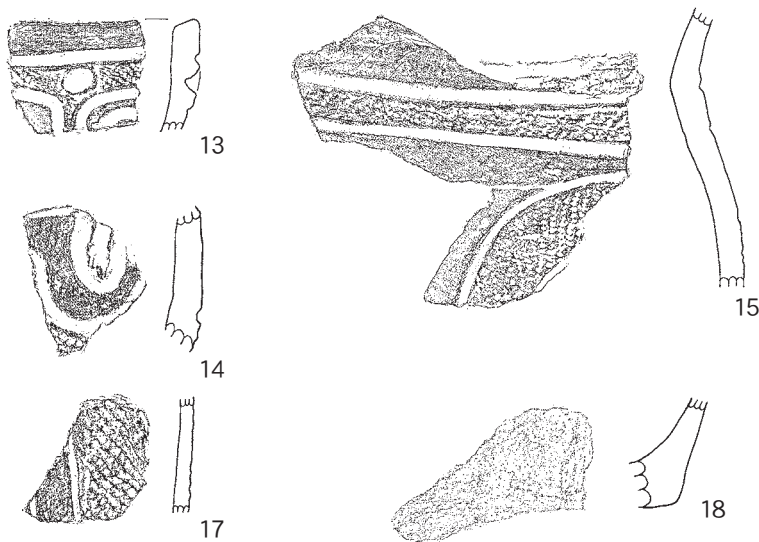
SK245



SK258



SK264



SK277上面

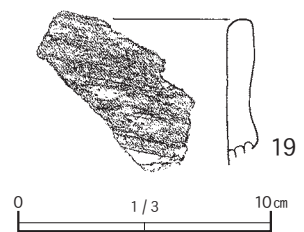


図17 土抗I類出土土器② (S=1/3・1/4)

SK531 (図18-1・2)

52T東で検出したものである。SK219 (IV類) に切られている。出土遺物は覆土中のものがあるが、SK219と一括してとりあげたものである。1・2はVII群と考えられる。2は単沈線による格子状文が施されている。

SK353 (図18-3)

53T東で検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。3は断面三角の隆線が口縁下に施される。VI-2類である。

SK355 (図18-4)

53T東で検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。4は縦位のカマボコ状の隆沈線が施される。V群である。

SK356 (図18-5~8)

53T東で検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。5は微隆起線上に刺突、6は多条沈線を施すVII群である。7は断面三角の隆沈線が施される。VI-2類である。8も縄文を沈線で区画するVI群と考えられる。

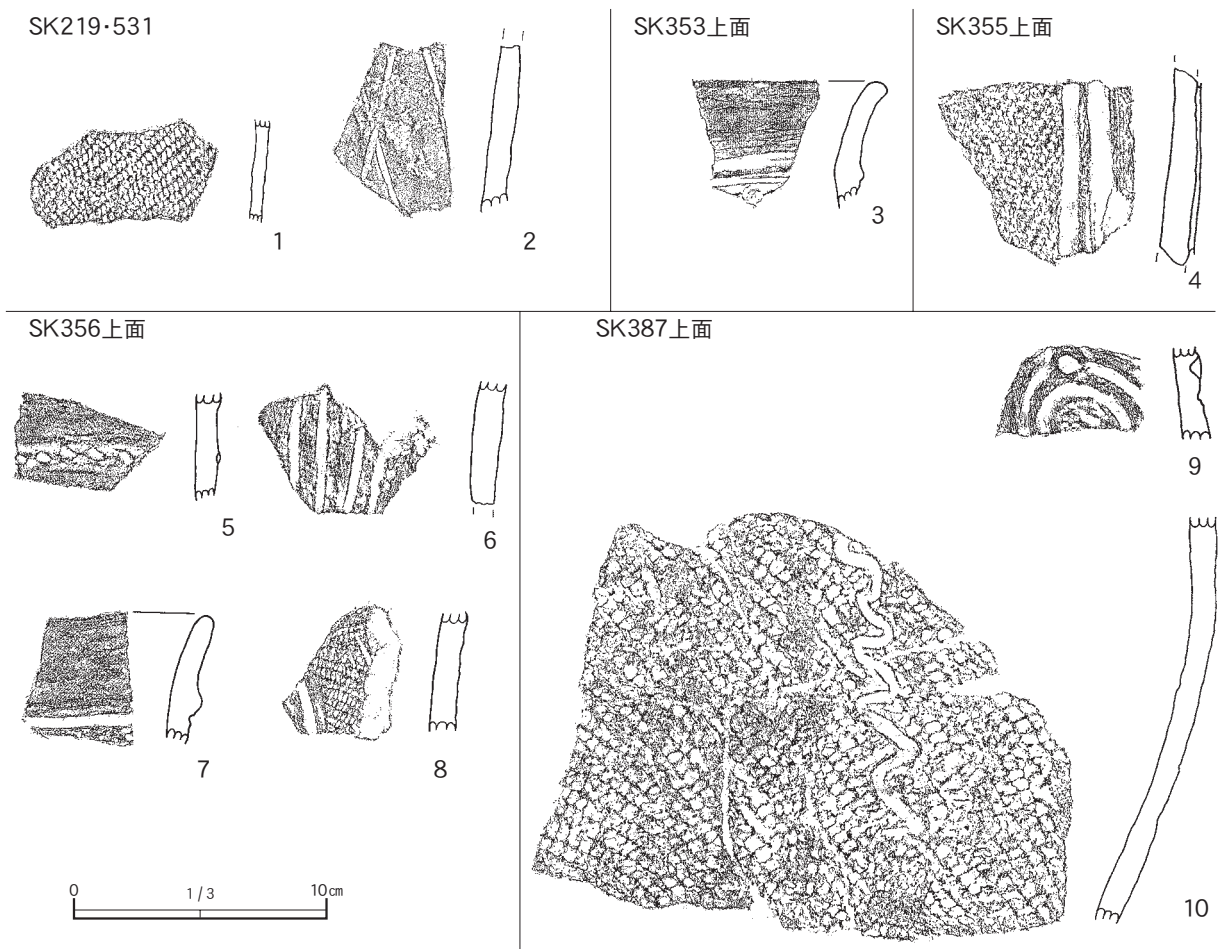


図18 土抗I類出土土器③ (S=1/3)

SK387 (図18-9・10)

53T東で検出したものである。SK388 (IV類) を切り、SK383 (IV類) に切られる。遺構確認時の出土遺物がある。いずれもVII-1類である。9は弧状の沈線文が施され、頂部に円形浮文が認められる。10は蛇行沈線が施される。

SK515 (図19-1・2)

59Tで検出したものである。SK516 (II類) を切る。覆土からの出土遺物がある。1は3条単位の縦位沈線が施される。V群と考えられる。2は盲孔に沿い2条の弧状文が施される口縁部である。III-4類である。

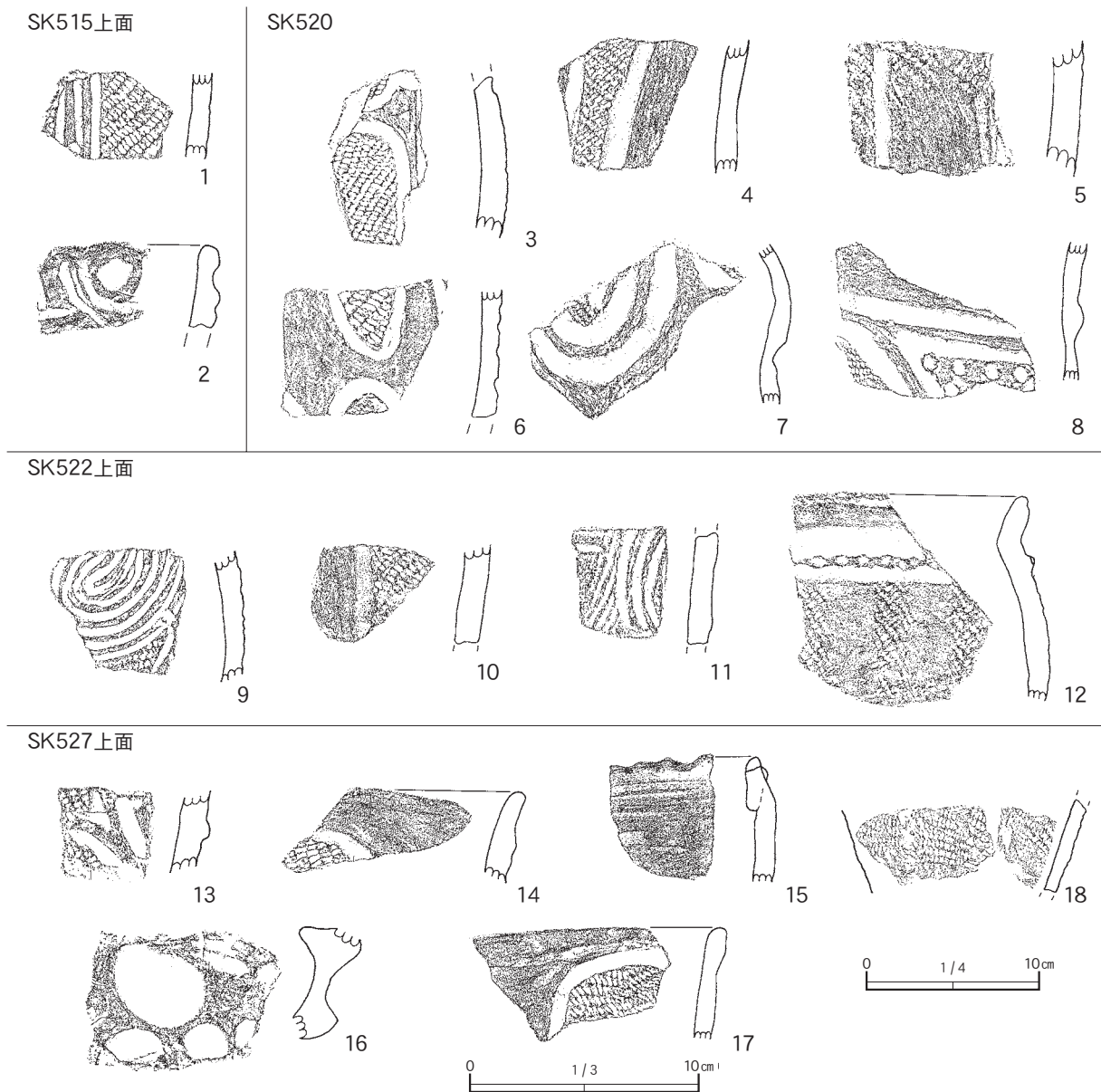


図19 土抗I類出土土器④

SK520 (図19-3~8)

59Tで検出したものである。SK521・522 (I類) を切る。覆土からの出土遺物がある。すべてVI-1類である。3~6は楕円文、帯状文が施されるものである。7は隆沈線による渦巻文、8は隆沈線区画内に縄文、刺突が充填されている。

SK522 (図19-9~12)

59Tで検出したものである。SK520 (I類) に切られる。遺構確認時の出土遺物がある。9は多条沈線による渦巻文が施される。VII-2類である。10はVI群、11は撚糸文地に沈線が描かれるV群である。12は頸部に押捺付の隆帯で区画し、口縁上端に1条の横位縄圧痕文が施文されている。IV-4類である。

SK527 (図19-13~18)

59Tで検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。13・14・16・17はVI群である。14は断面三角の隆線が施されるVI-2類である。13は隆沈線、16は隆線が施される口縁である。これらはVI-1類である。15は口縁上端が押捺により波状縁を呈すIV-3類である。18は単斜縄文が施される胴部下半の資料である。

3. 土坑II類

土坑II類はいわゆる「貯蔵穴」とされるものである。

SK03 (図20-1~11)

51Tで検出したものである。SK04を切る。1は遺構底面に据え置かれたように出土したものである。埋設土器と考えられる。土器内からは、磨石(図113-12)が出土している。1は口縁がキャリパー形を呈するが、底部を切ったような器形を呈する。口縁部は隆沈線により渦巻文が施され、胴部は方形、楕円形、円形の区画文が交互に配され、部分的には区画する隆線が上下に伸びて渦巻文を呈している。また沈線区画内に刺突文が充填されている部分もある。下端の区画文の下部は開放している。VI-1類である。

3は口縁隆沈線区画が施されるVI群である。4~10はV群である。6・9は曲線状の文様が多条沈線によって描かれるV-2類である。7・8は口縁を隆帯で区画し、刺突が施され、10は波状文により方形の区画をするものと考えられる。V-1類である。11は円盤状貼付文が楕円隆線文の中心に施されている。下部の沈線間には交互刺突文が施文されている。IV-2類と考えられる。

SK04 (図20-12)

51Tで検出したものである。SK03に切られる。覆土からの出土遺物がある。縦位の2条以上の沈線が施されるV群である。

SK272 (図20-13~14)

52T東で検出したものである。SK267~271 (IV類) に切られる。遺構確認時の出土遺物がある。13は縦位に隆線が施される。VI群である。14は繊維を胎土に少量含むIII-5類である。

SK290 (図20-15~22)

52T東で検出したものである。SK287・289 (IV類) に切られる。覆土からの出土遺物がある。15は曲線状のモチーフのVII群、16はVI群と考えられる。IV群が多く出土している(17~22)。18・19は複合口縁で口縁下端に押捺を施すIV-3類である。22は底部に網代痕を残している。

SK03

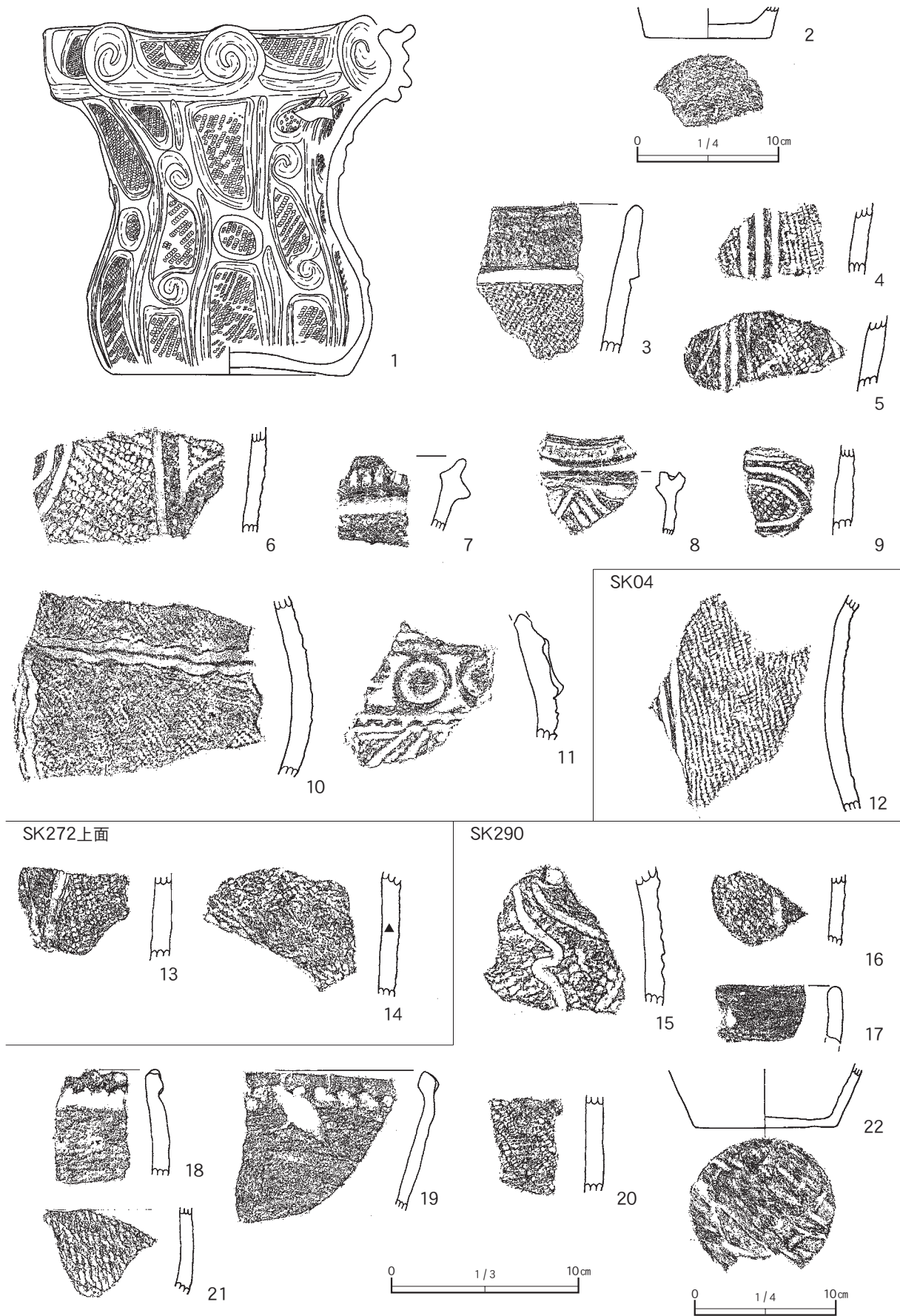


図20 土坑Ⅱ類出土土器① (S=1/3・1/4)

SK309 (図21-1~9)

53T西で検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。Ⅲ-2・3類が多く出土している。2~4は口縁上端に押捺、刻みが施される。また2・3・7~9には結節回転文が認められ、7は横位のコンパス文が施されている。Ⅲ-2類と考えられる。6は鋸歯状貼付文部分で、Ⅲ-3類である。1は底部網代痕を残すものである。5は不規則に縄文を施文している。Ⅲ-5類である。

SK310 (図21-10)

53T西で検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。10は口縁隆帯区画のⅦ-1類である。

SK506 (図22-1~5)

59Tで検出したものである。SI16を切る。遺構確認時の出土遺物がある。1は網目状撚糸文のⅨ群である。2・3は沈線で施文されるⅤ群、4は複合口縁のⅣ-4類、5は山形文が施されるⅢ-3類である。

SK507 (図22-7)

59Tで検出したものである。覆土からの出土遺物がある。7は底面に網代痕を残すものである。Ⅳ-3類に含めておく。

SK509 (図22-6)

59Tで検出したものである。覆土からの出土遺物がある。6は口縁に縦位短沈線が施されるⅣ-1類である。

SK518 (図22-8)

59Tで検出したものである。覆土からの出土遺物がある。8は結節回転文が施され、胎土に繊維を少量含むⅢ-2類である。

SK309上面

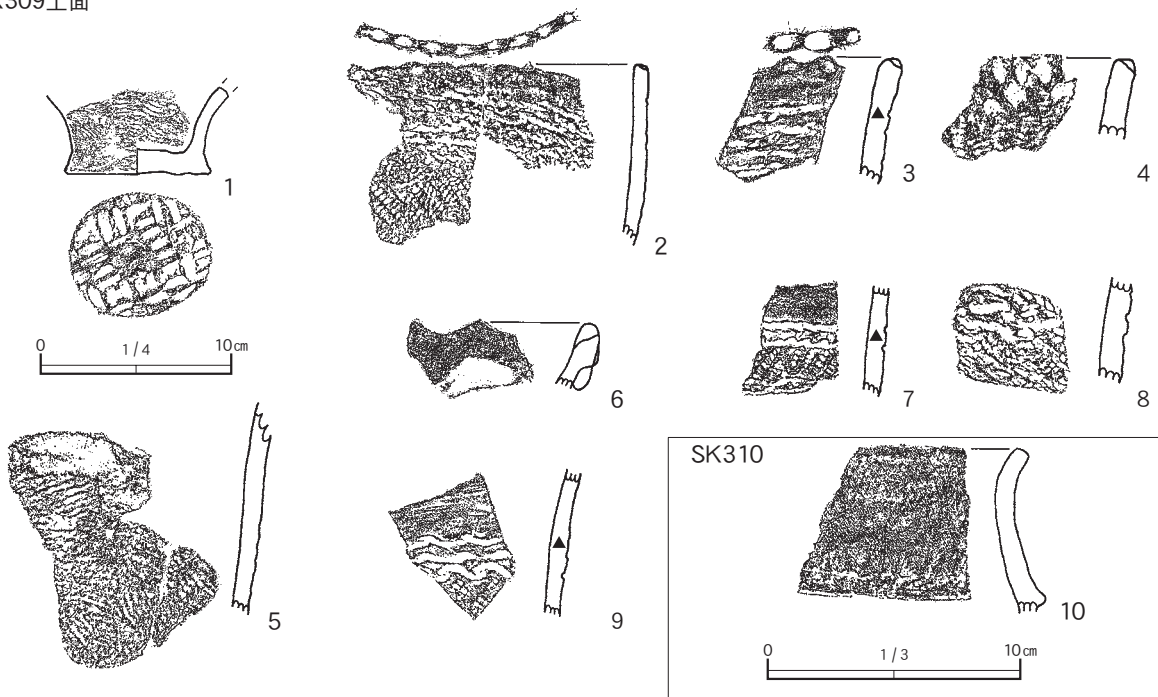


図21 土坑Ⅱ類出土土器② (S=1/3・1/4)

第1節 南台地区遺構出土土器

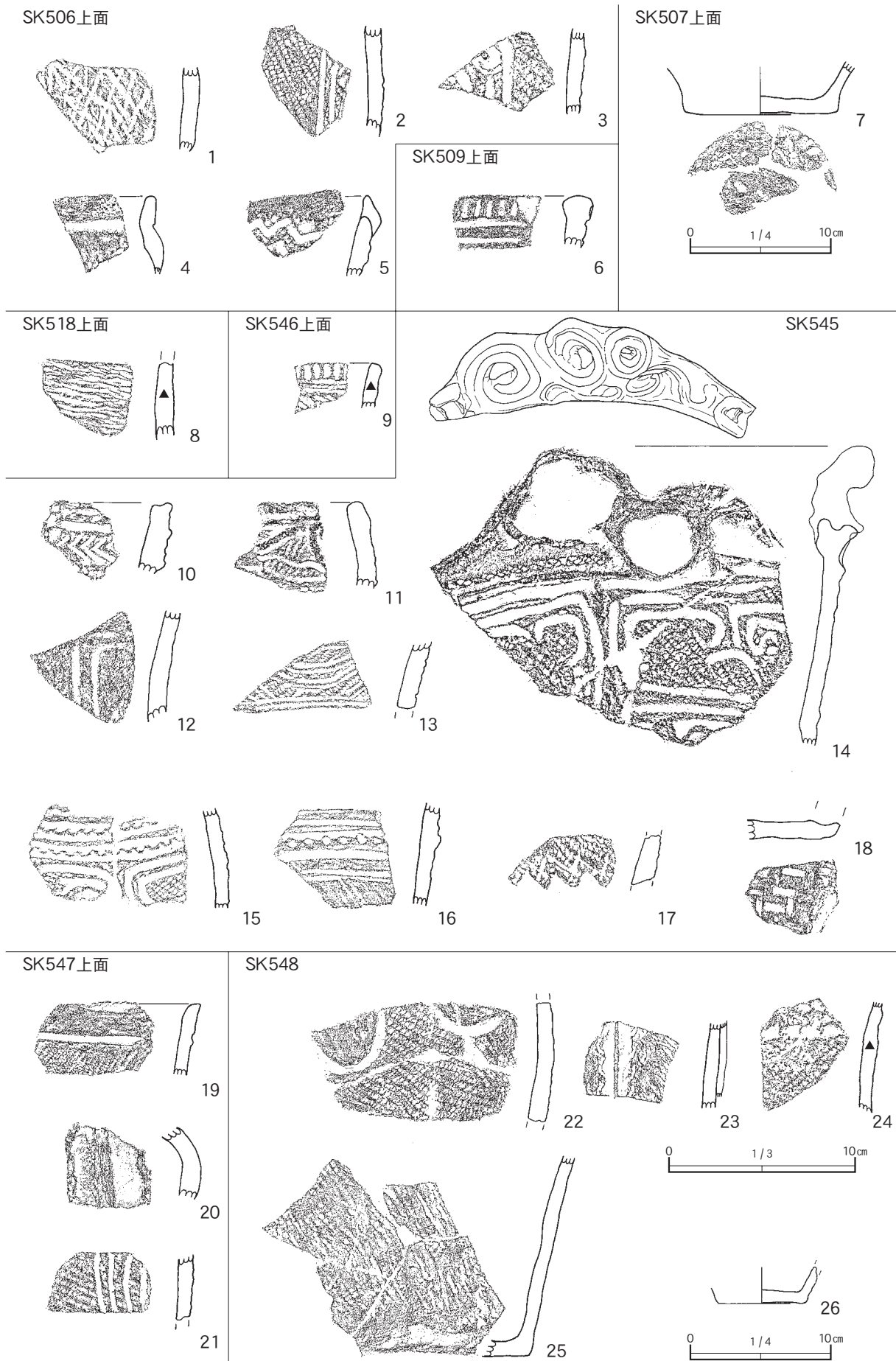
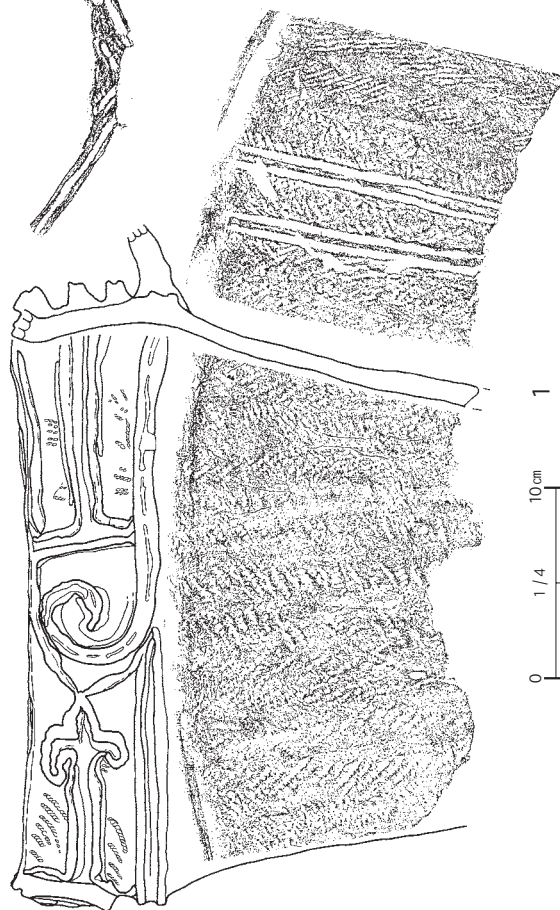
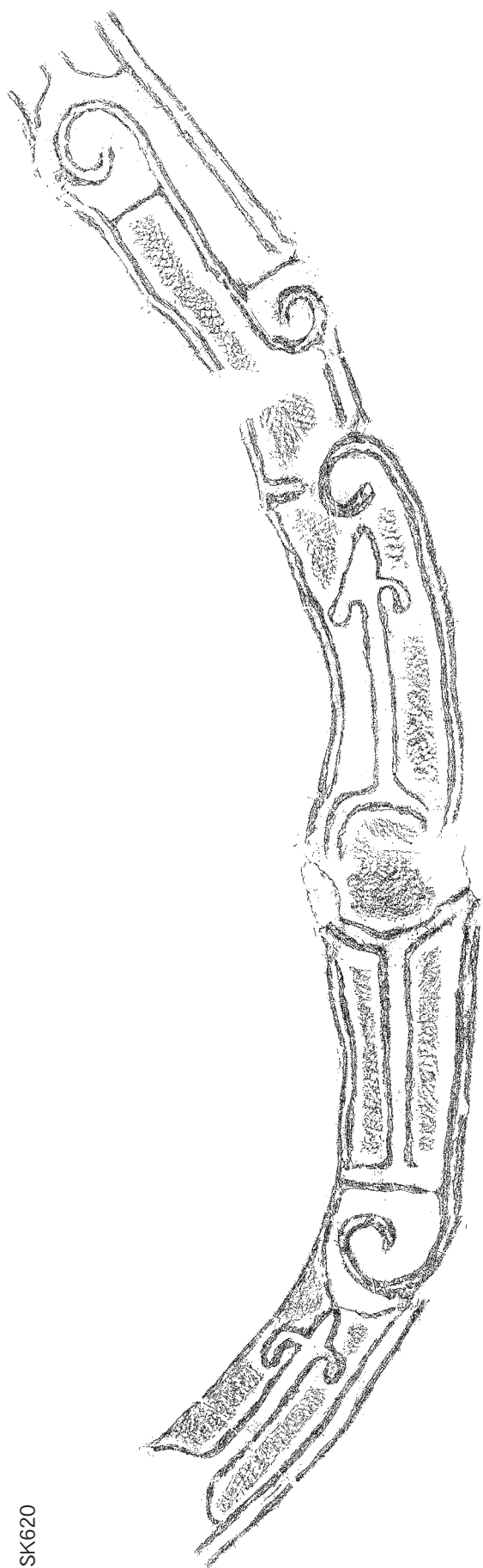
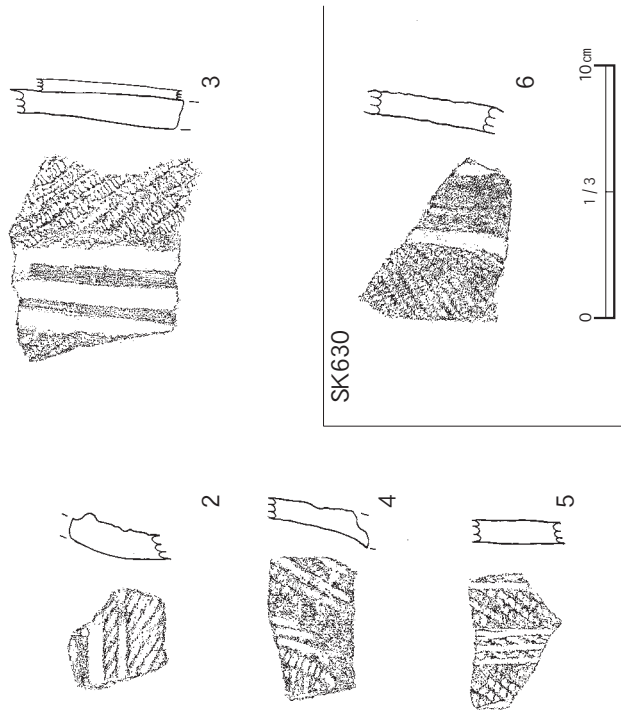


图22 土坑Ⅱ類出土土器③ (S=1/3·1/4)

SK620



0 1/4 10cm 1



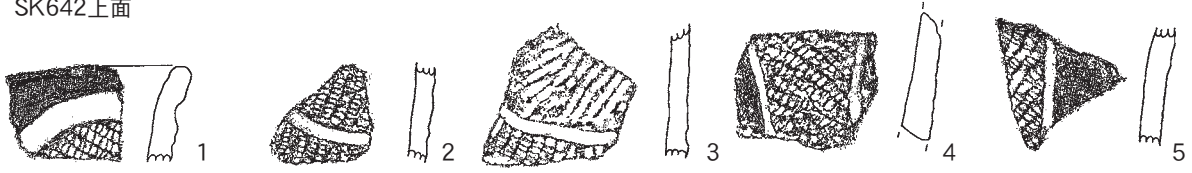
SK630

0 1/3 10cm 6

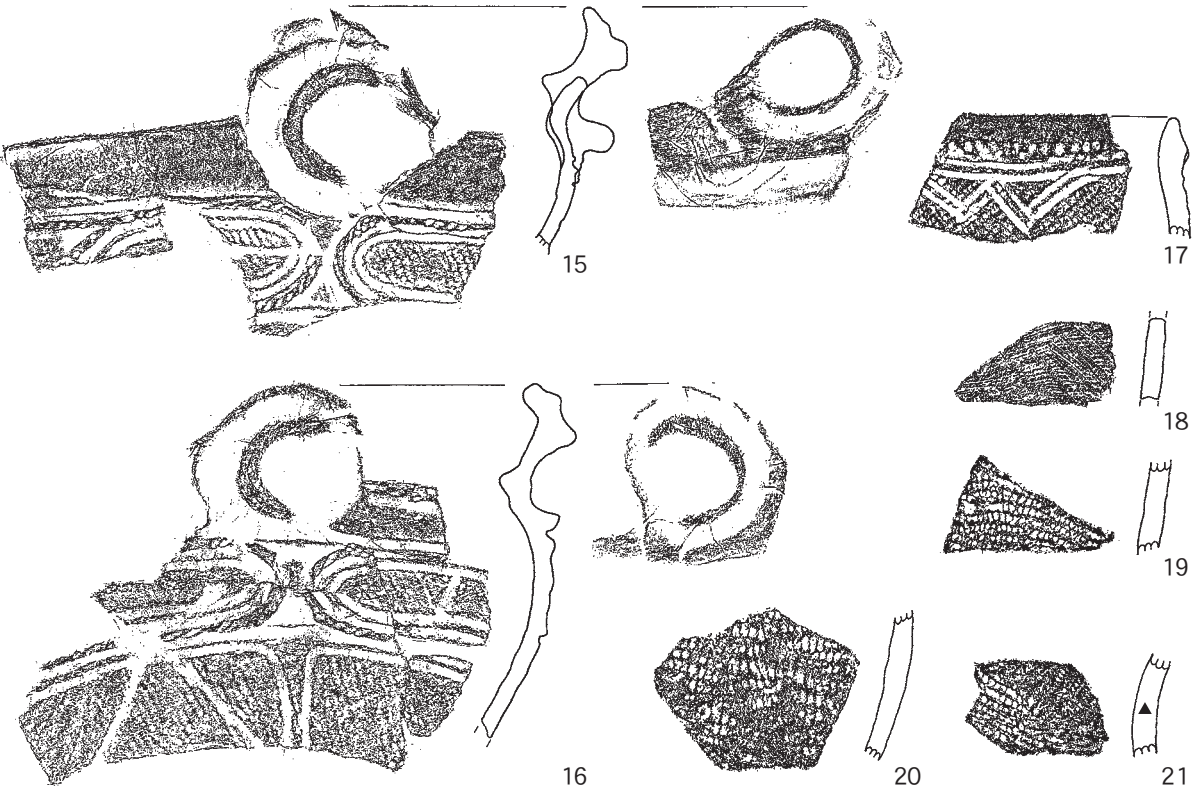
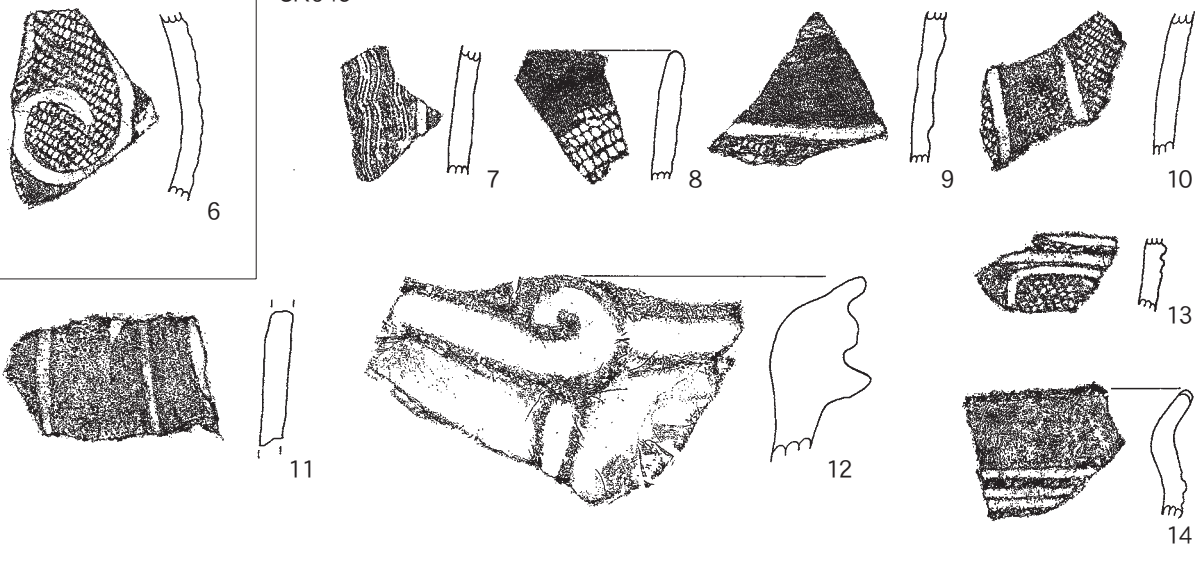
图23 土坑Ⅱ類出土土器④ (S=1/3·1/4)

第1節 南台地区遺構出土土器

SK642上面



SK643



SK649上面

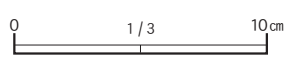
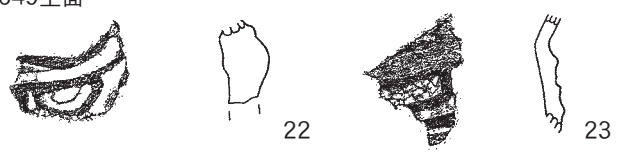


图24 土坑Ⅱ類出土土器⑤ (S=1/3)

SK545 (図22-10~18)

59Tで検出したものである。SK546 (Ⅱ類) を切る。覆土からの出土遺物がある。V-1類が多く出土している(10~12・14~16)。14は口縁上端に渦巻状の隆線が施される。胴部は隆沈線による方形区画内にランダムな蕨手状等のアクセント文が施文されている。横位区画としてソーメン状隆線による波状文も施されている。10・11はソーメン状隆線文により、口縁部の区画が成されている。15は交互刺突文、16は刺突付隆線文による横区画が認められる。13・17はⅢ-3類である。13は半截竹管による弧状文、17は山形文が施文される。

SK546 (図22-9)

59Tで検出したものである。SK545 (Ⅱ類) に切られる。遺構確認時の出土遺物がある。9は八字状縄圧痕文が施されるⅡ群である。

SK547 (図22-19~21)

59Tで検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。すべてⅦ群であり、20は両耳壺の把手である。21は多条沈線文が施されている。

SK548 (図22-22~26)

59Tで検出したものである。道路状遺構に切られると推定される。覆土からの出土遺物がある。22はⅥ-2類で楕円形の区画が施されている。23は縦位隆線に沿って結節回転文が施されている。Ⅳ-2類である。25は縦位縄文施文であり、Ⅳ-4類に含めておく。

SK620 (図23-1~5) ※3

59Tで検出したものである。覆土からの出土遺物がある。1は口縁が内湾する器形である。口縁を隆帯で区画し、文様は4単位に分割される。隆帯による渦巻文間に、縦位弧状文から横に伸びる矢印状の隆沈線等が施される。欠損しているが、把手があり、胴部に把手から垂下する2条単位の縦位直線文が施されている。V-1類と考えられる。沈線及び隆線で文様を描く2~5もV-1群に含めて考えられる。

SK630 (図23-6) ※3

59Tで検出したものである。SK632 (Ⅳ類) を切る。覆土からの出土遺物がある。6はⅥ群である。

SK642・643 (図24-1~21)

Ⅱ区で検出したものである。SK643が土坑Ⅱ類に相当する。SK642はSK643内に構築された浅いくぼみ状の遺構でSK643の上層部にあたる可能性がある。SK642出土遺物は遺構確認時の出土、SK643出土遺物は覆土からのものである。SK643はSK644 (Ⅳ類) に切れ、SK645 (Ⅳ類) を切る。SK642からはⅥ群が多く出土している(1~6)。6は渦巻文が施されるⅥ-1類である。SK643出土遺物にもⅥ群が含まれている(8~12)。9は隆沈線が横位に施されるⅥ-2類である。12は隆沈線による渦巻文が施されるⅥ-1類である。13~16は同一個体でⅣ-2類である。弧状の隆帯が付き、縄圧痕付の楕円形区画文が施される。胴部は沈線による方形区画が認められる。17は複合口縁で、2条単位の山形文が施文されるⅢ-4類である。

SK649 (図24-22・23)

Ⅱ区で検出したものである。SK648に切られる。覆土からの出土遺物がある。22・23はソーメン状隆線が施されるV-1類である。

4. 土坑Ⅲ類

Ⅱ類以外の大型土坑を本類とした。

SK20 (図26-1・2)

51Tで検出したものである。SK21～24(Ⅳ類)を切る。覆土からの出土遺物がある。1は沈線が施文されている。Ⅶ群の可能性はある。

SK54 (図25)

51Tで検出したものである。SK55～59(Ⅳ類)を切る。覆土からの出土遺物がある。1層中から多く出土している。1～23・27はⅧ群である。1～9は大波状口縁の土器である。1～3と4・5はそれぞれ同一個体である。4・5ならびに8・9は縄文帯内に縦位の沈線が付加されている。11は沈線の交点に盲孔が施される。これらはⅧ-1類に相当する。13・14は同一個体で櫛描の条線文、15は縄文地上に格子状文が施されている。24はⅦ-1類、25はⅤ-1類、26はⅣ群と考えられる。27は底部に布目痕を残している。

SK61 (図26-3)※2

51Tで検出したものである。SK62～63(土坑Ⅳ類)を切り、SK60(土坑Ⅳ類)に切られる。覆土からの出土遺物がある。3は口縁に盲孔列が施されるⅦ群である。

SK92 (図26-4～7)

51Tで検出したものである。覆土からの出土遺物がある。4・5は薄手で横位沈線区画の縄文帯が施されている。Ⅶ-3群に含めておく。6は小突起が施されるⅦ群、7は多条沈線のⅦ-2類と考えられる。

SK119 (図26-8～13)

51Tで検出したものである。Ⅲ-1層上から構築される。覆土からの出土遺物がある。8は内面に沈線が施され、口縁下に刻み付隆帯が施されている。Ⅶ-3類である。9は、縦位に垂下する沈線を施し、縄文が磨り消されているものである。Ⅶ群としておく。10～12もⅦ群と考えられる。12はノ字状隆帯が施されるⅦ-1類、13は弧状の多条沈線文様が施されるⅤ-1類と考えられる。

SK160・161 (図26-14～19)

52T西で検出したものである。異なる遺構としたが、SK160はSK161内に構築された浅いくぼみ状の部分でSK161の上層部にあたると考えられる。SK162(Ⅳ類)、SK169(Ⅲ類)を切る。14は小波状口縁で口縁を沈線で区画し、波頂部から垂下する縦位の沈線が施されている。Ⅶ群である。その他はⅥ群(15～19)である。15・16はカマボコ状の隆沈線であり、Ⅵ-1類に含められる。15は胴部下半の資料である。17～19は沈線区画の縄文が施されるものである。

SK163・164・169 (図26-20～24)

52T西で検出したものである。異なる遺構としたが、SK163・164はSK169内に構築された浅いくぼみ状の部分でSK169の上層部にあたると考えられる。よって、SK163覆土中からの出土遺物は、上層出土遺物に相当する。SK161(Ⅲ類)、SK170(Ⅰ類)に切られる。20がⅥ群、21～23はⅤ群である。21は撚糸文地に沈線が施されている。22・23は曲線状のモチーフを描くものである。24は2列の刺突列が認められるⅣ群と考えられる。

SK54

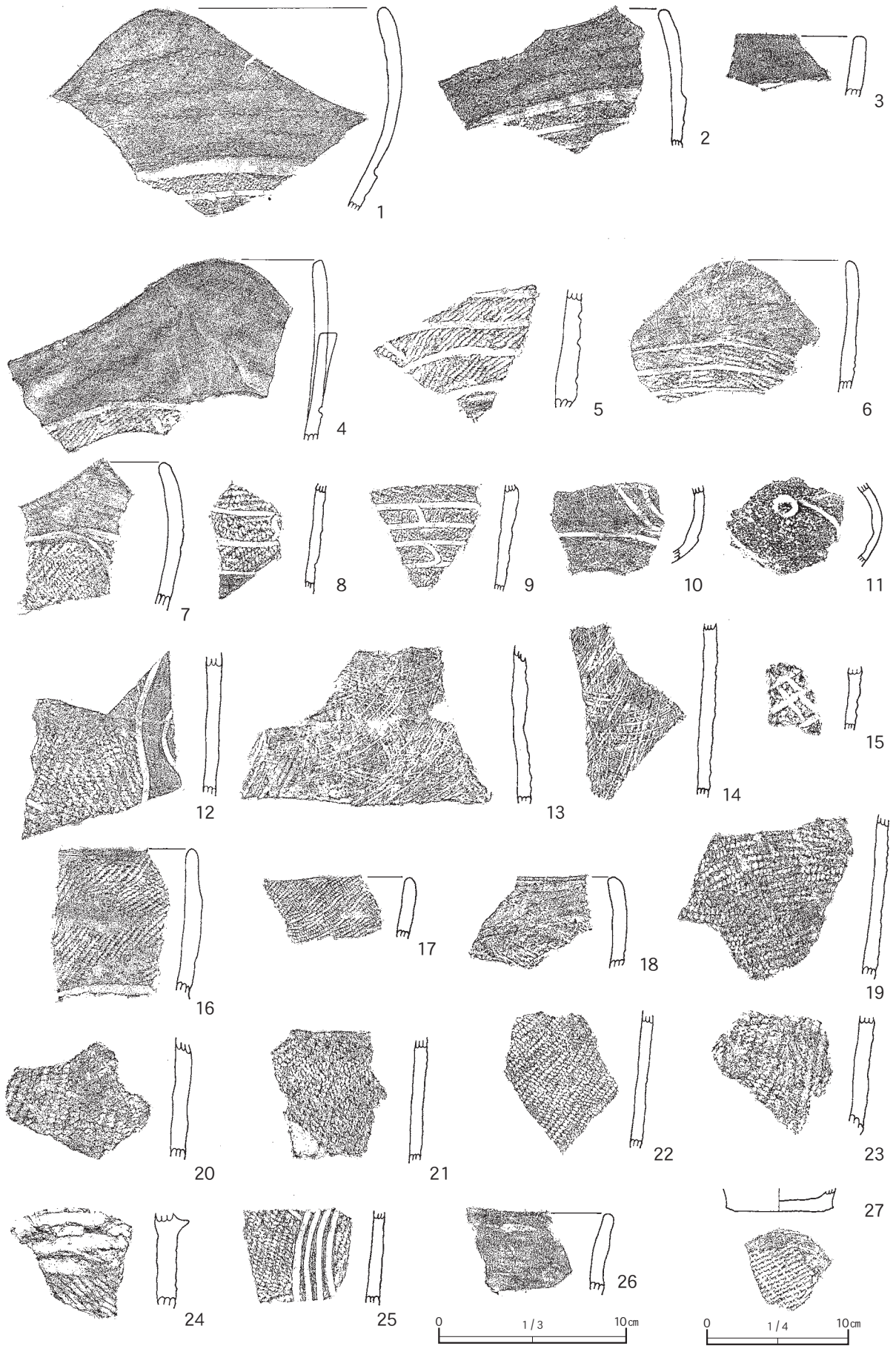


图25 土坑Ⅲ類出土土器① (S=1/3·1/4)

第1節 南台地区遺構出土土器

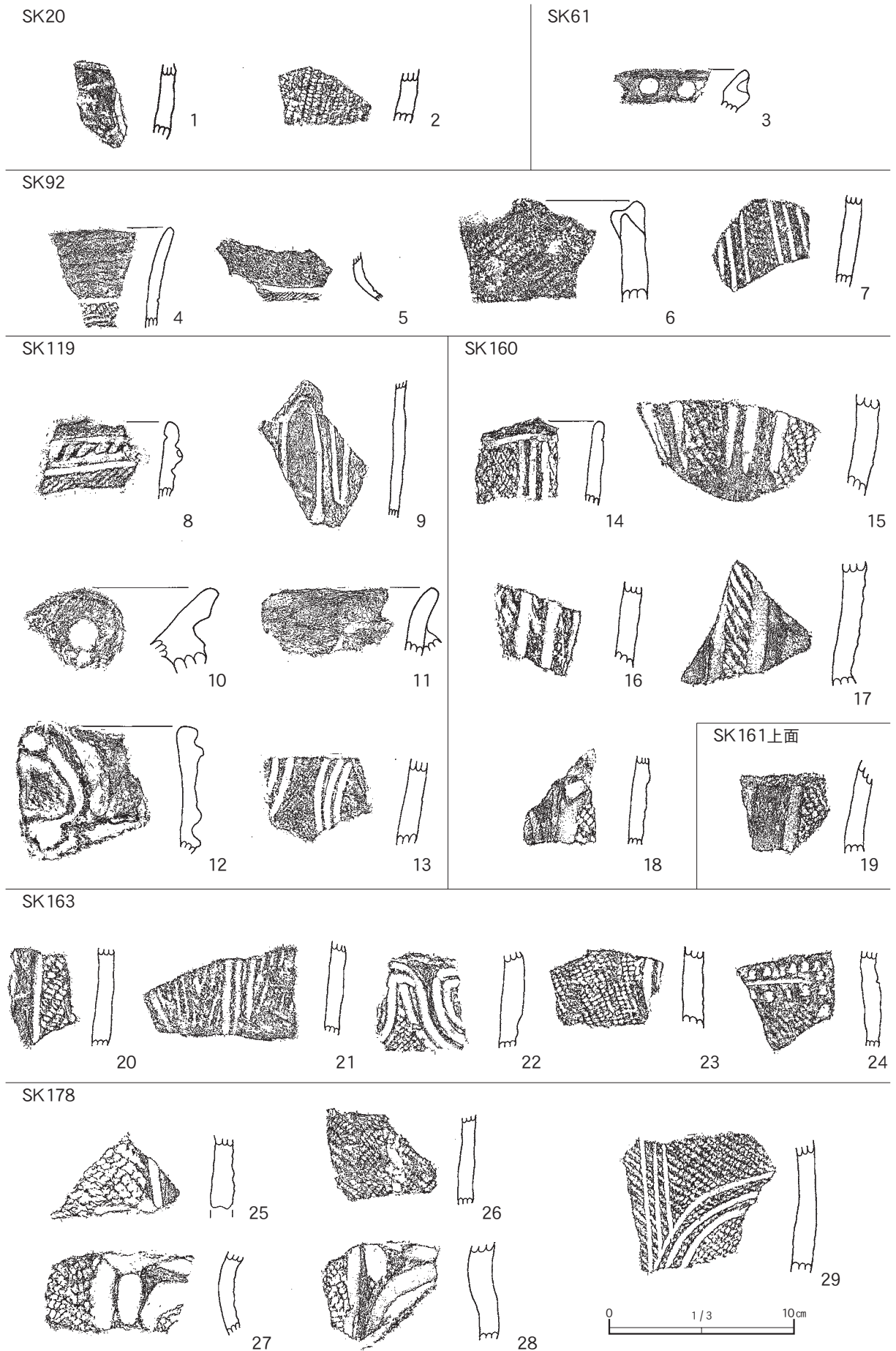
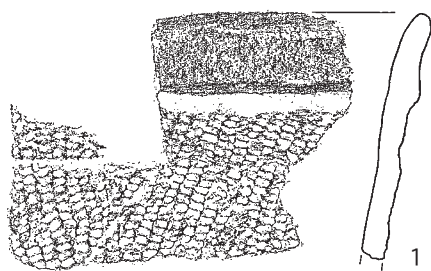
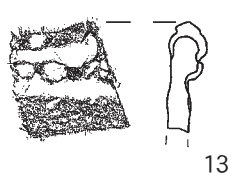
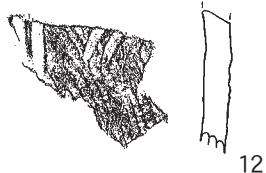
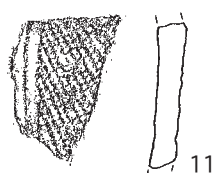
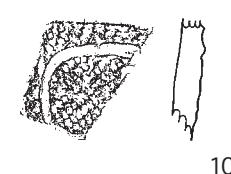
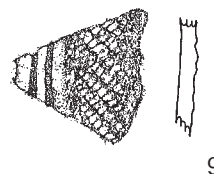
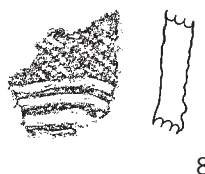
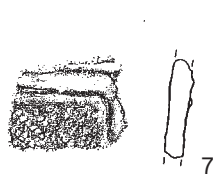
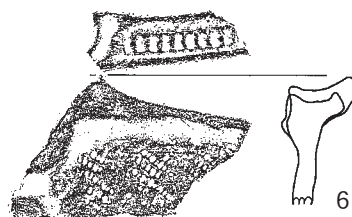
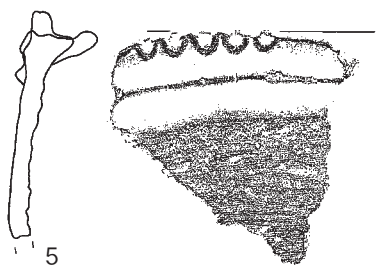
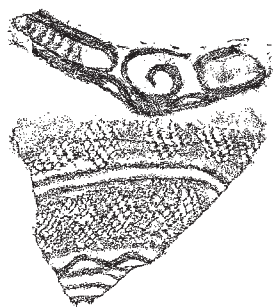
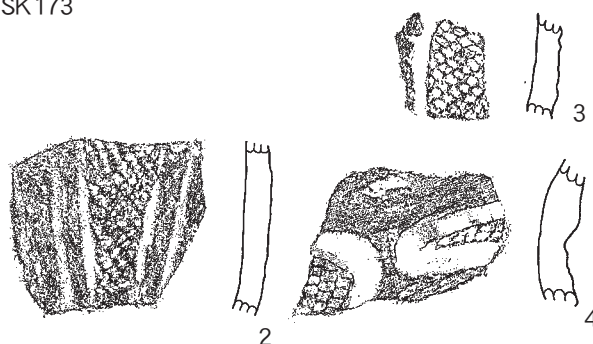


図26 土坑Ⅲ類出土土器② (S=1/3)

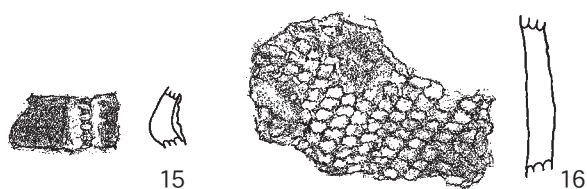
SK171



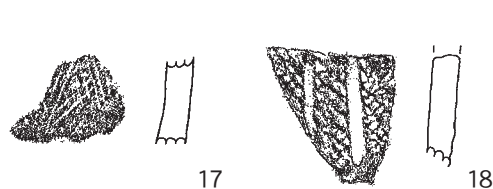
SK173



SK374上面



SK641上面



SK683上面

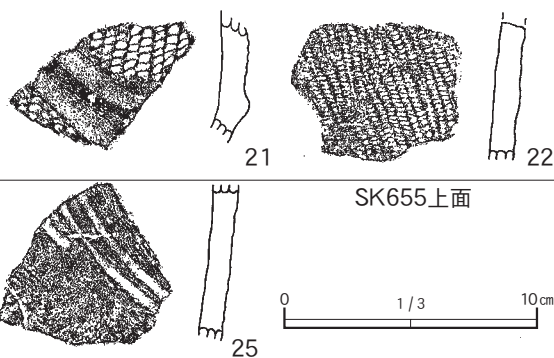
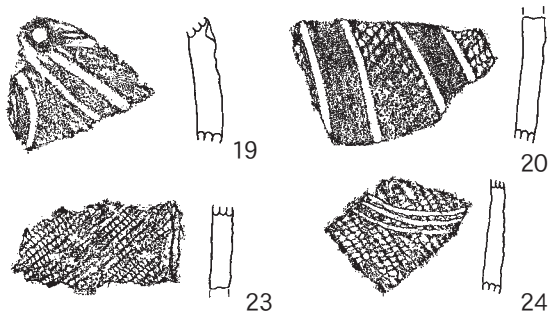


图27 土坑Ⅲ類出土土器③ (S=1/3)

SK171～173 (図27-1～14)

52T西で検出したものである。異なる遺構としたが、SK171はSK173内に構築された浅いくぼみ状の遺構でSK173の上層部にあたると考えられる。覆土からの出土遺物があり、SK171は上層、SK173は下層出土遺物である。SK170(土坑Ⅰ類)に切られている。1は口縁を隆線で区画するⅥ群である。2～4はⅥ-1類と考えられる。5～12はⅤ群である。5は口縁部を隆線で区画し、渦巻状の突起が付けられる。区画内に有節沈線が、胴部及び口縁内面はソーメン状隆線が施される。6は口縁隆線区画内に半截竹管による刺突が施される。7もソーメン状隆線により文様が描かれている。これらはⅤ-1類に相当する。8・9が隆沈線、10～12が沈線により文様を描く。13は楕円形隆線文が施されるⅣ-2類、14は斜位の結節回転文が施されるⅢ-5類である。

SK178 (図26-25～28)

52T西で検出したものである。覆土からの出土遺物がある。27・28は同一個体で隆沈線が施されるⅥ-1類である。25はⅥ群、29は3条の直線文、曲線文が描かれるⅤ-2類、26は縦位羽状縄文のⅣ-4類である。

SK374 (図27-15・16)

53T東で検出したものである。SK375(Ⅳ類)・SK377(Ⅲ類)を切り、SK373・378に切られている。遺構確認時の出土遺物がある。15は縦位Ⅰ字状隆帯が施されるⅦ-1類である。16もⅦ群と考えられる。

SK489 (図31-10～13)

59Tで検出したものである。SK483～485・488(Ⅳ類)に切られる。SI13・14推定範囲内にある。遺構確認時の出土遺物がある。10・11はⅦ群であり、SK485、59TⅢ-1層出土土器と同一個体と考えられる。12は断面三角の隆線によるⅥ群、13は突起が施されるⅣ-3類である。

SK641 (図27-17・18)

Ⅱ区で検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。17は条線文が施されるⅦ群、18はⅥ群である。

SK655 (図27-25)

Ⅱ区で検出したものである。SK657(Ⅲ類)を切り、SK684に切られている。遺構確認時の出土遺物がある。多条沈線が施される。Ⅶ群の可能性が高い。

SK683 (図27-19～24)

Ⅱ区で検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。19は円形浮文が施されるⅦ-1類、20は磨消縄文でⅦ群に含められる。21は隆沈線施文のⅥ-1類、23・24はⅤ群と考えられる。

5. 土坑Ⅳ類

土坑Ⅰ～Ⅲ類以外の縄文時代と推定される土坑を本類とした。

SK01 (図28-1)

51Tで検出したものである。覆土からの出土遺物がある。1は口縁小突起が付くⅦ群である。

SK27～29 (図28-2～4)

51Tで検出したものである。SK27がⅣ類、SK28がⅠ類、SK29がⅢ類に相当する。これらの遺構確認時の出土遺物がある。2は隆線、3は沈線が施されるⅤ-1類である。

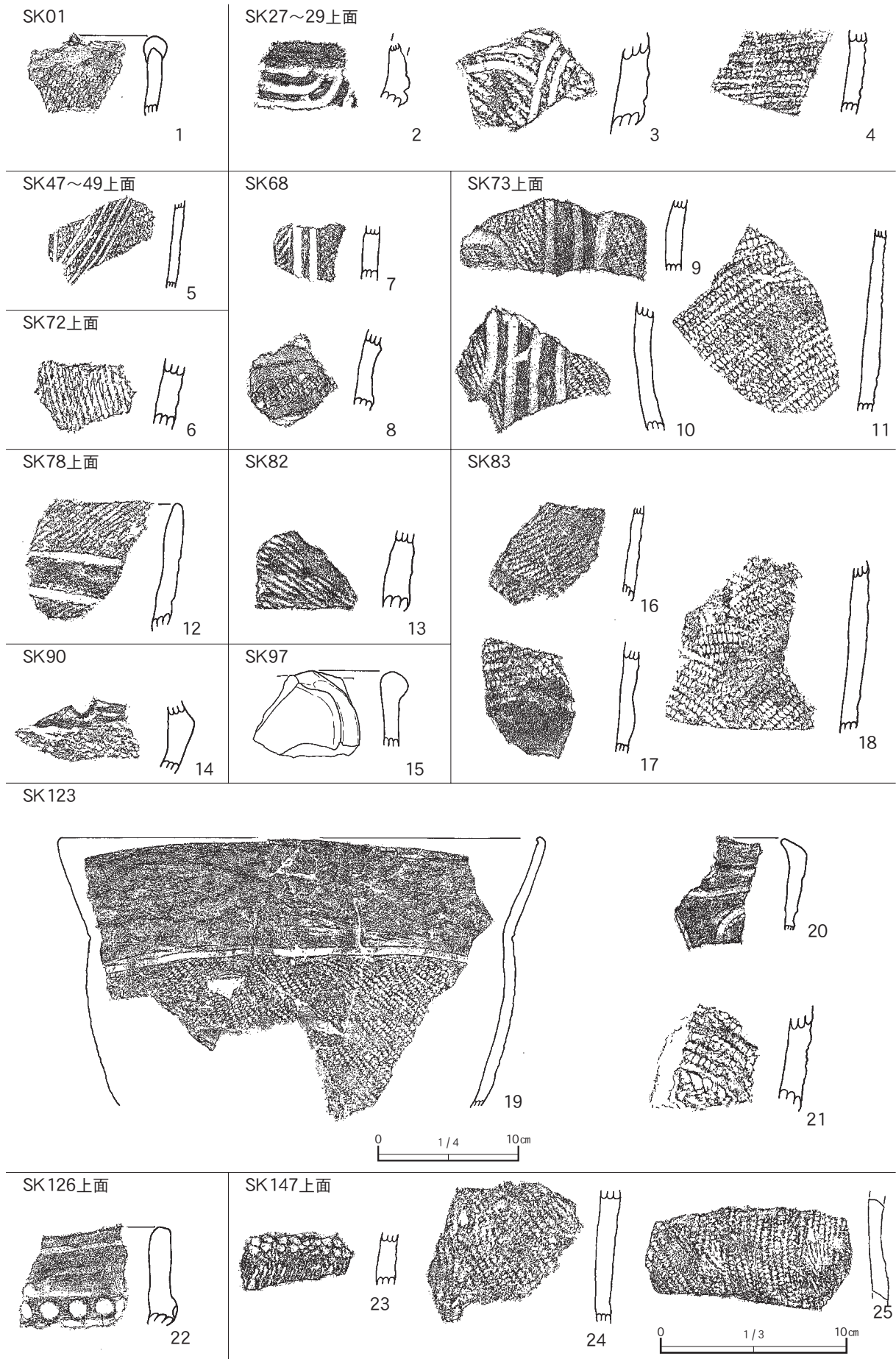


图28 土坑IV類出土土器① (S=1/3·1/4)

SK47～49 (図28-5)

51Tで検出したものである。いずれもIV類に相当し、これらの遺構確認時の出土遺物がある。5は多条沈線が施されるVII-2類である。

SK68 (図28-7・8)

51Tで検出したものである。SK69・70 (IV類) を切る。覆土からの出土遺物がある。7はV群、8は断面三角の隆線が施されるVI-2類である。

SK72 (図28-6)

51Tで検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。6は撚糸文で、VII群の可能性が高い。

SK73 (図28-9～11)

51Tで検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。9・10は同一個体で、縦位帯状文、楕円文が施されるVI-1類である。11はSK83出土資料 (図28-17・18) と同一個体である。焼成等からVIII群の可能性が高い。

SK78 (図28-12)

51Tで検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。12は口縁を沈線区画し、縄文を施文するVI群である。

SK82 (図28-13)

51Tで検出したものである。覆土からの出土遺物がある。13は縦位に縄文を施文している。

SK83 (図28-16～18)

51Tで検出したものである。覆土からの出土遺物がある。17・18及びSK73出土の図28-11は同一個体である。焼成が良く、節が大きい特徴がある。VIII群の可能性が高い。

SK90 (図28-14)

51Tで検出したものである。覆土からの出土遺物がある。14は盲孔が施されるVII-2類である。

SK97 (図28-15)

51Tで検出したものである。覆土からの出土遺物がある。15は弧状隆帯が施されるIV-2類である。

SK123 (図28-19～21) ※4

51Tで検出したものである。SK124 (IV類) を切る。覆土からの出土遺物がある。19は頸部で屈曲し、口縁が直線的に広がる器形である。口縁内面に沈線、頸部に沈線区画が施される。VII-3類に含めておく。20は口縁が内屈し、磨消縄文が施されるVII群である。

SK126 (図28-22)

51Tで検出したものである。SK125 (IV類) に切られる。遺構確認時の出土遺物がある。22は口縁を盲孔が施される隆帯で区画したVII-1類である。

SK147 (図28-23～25)

52T西で検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。23は刺突列が施されるIV群である。

SK150 (図29-1)

52T西で検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。1は縦位楕円文が隆線で施文されるVI-1類である。

SK158 (図29-2・3)

52T西で検出したものである。覆土からの出土遺物がある。2・3は口縁部沈線区画のVI-2類である。

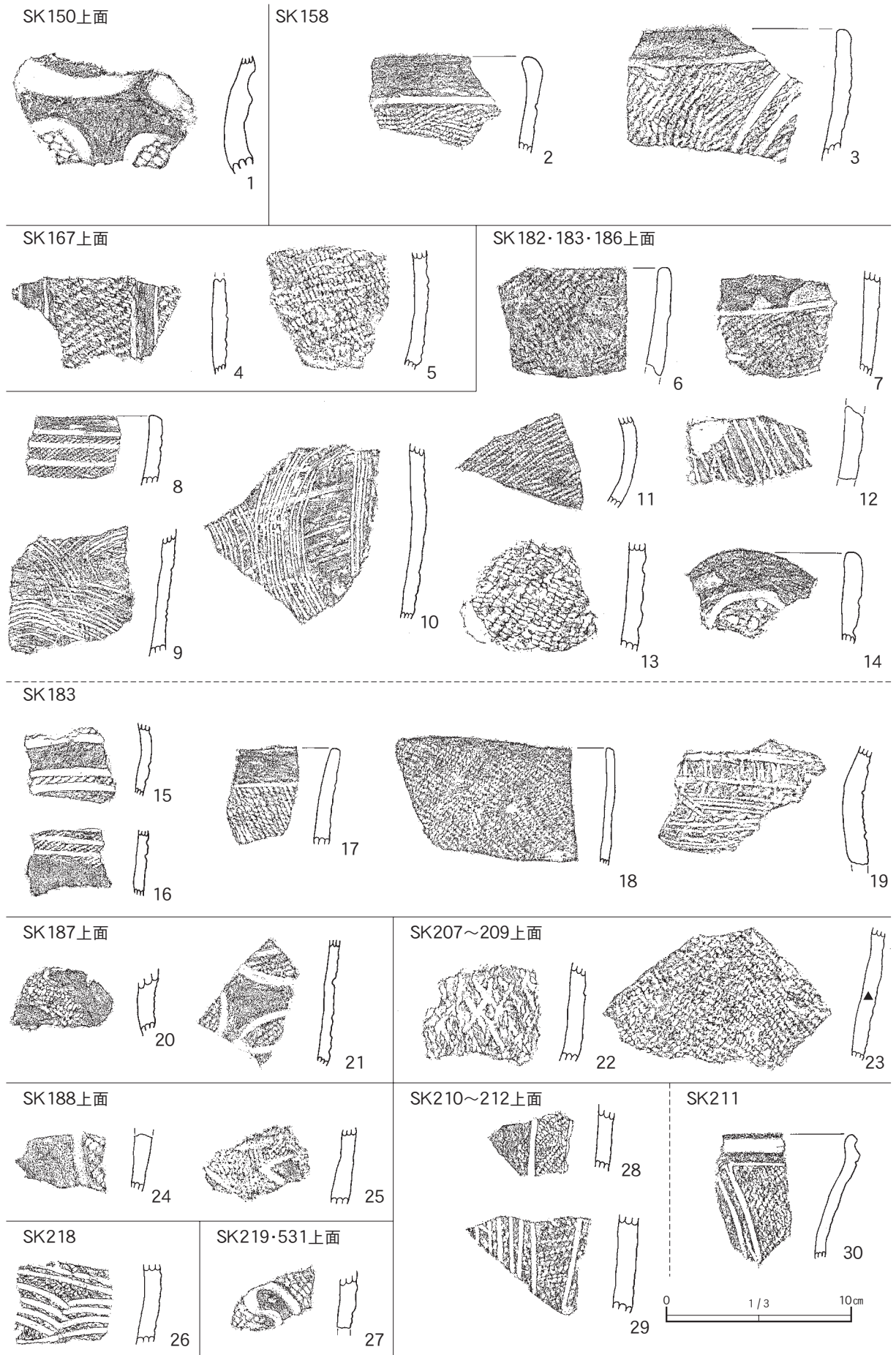


图29 土坑Ⅳ類出土土器② (S=1/3)

SK167 (図29-4・5)

52T西で検出したものである。SK168 (IV類) を切る。遺構確認時の出土遺物がある。4・5はVI群の可能性が高い。

SK182・183・186 (図29-6~19)

52T西で検出したものである。SK182がSK183・186を切る。遺構確認時の出土遺物(6~14)とSK183覆土からの出土遺物(15~19)がある。7は横位の沈線区画が施される。VI-2類の可能性が高い。8~10はVIII群である。8は口縁部に横位の磨消縄文帯が施されるVIII-1類である。9・10は曲線状の条線文である。14は波状口縁で沈線区画内に円形刺突が施されるVI群である。15・16はVIII-1類である。横位の磨消縄文帯が施されている。18も薄手の縄文施文であり、19は多条沈線による格子状文が施文されるものである。VIII群と考えられる。17は口縁を沈線で区画し、撚糸文が施されるVII群である。

SK187 (図29-20・21)

52T西で検出したものである。SD03に切られ、SK188を切る。上層を一部掘り下げた時の出土遺物がある。20・21はVIII-1群である。

SK188 (図29-24・25)

52T西で検出したものである。SD03に切られ、SK187に切られる。遺構確認時の出土遺物がある。24はVI群、25は鋭角的なモチーフが施されるVII-3群と考えられる。

SK207・208・209 (図29-22・23)

52T東で検出したものである。SK208が土師器片を含むSK207・209に切られている。SK208のみ縄文時代の所産と考えられる。これらの遺構確認時の一括出土遺物がある。22は網目状撚糸文が施されるIX群、23は少量の繊維が混入されるIII-5類である。

SK210・211・212 (図29-28~30)

52T東で検出したものである。同一遺構と考えていたが、3基の土坑と確認したものである。SK212⇒211⇒210の順に構築されたことを確認した。3遺構の遺構確認時の遺物とSK211覆土からの出土遺物がある。すべてVII群と考えられる。29は多条沈線、30は口縁に1条の沈線が施されるVII-2類である。

SK218 (図29-26)

52T東で検出したものである。覆土からの出土遺物がある。26は多条沈線による弧状文が施されるVIII-1類である。

SK219 (図29-27)

52T東で検出したものである。SK531 (I類) を切る。覆土からの出土遺物がある。27は蕨手状文と考えられるVII群である。

SK223 (図30-1~3)

52T東で検出したものである。覆土からの出土遺物がある。1は口縁部を沈線区画し、磨消縄文が施されるVII群と考えられる。2はVI群に含めておく。

SK224 (図30-7~9)

52T東で検出したものである。覆土からの出土遺物がある。7は沈線による文様を描くVI群と考えられる。

SK254・255 (図30-4)

52T東で検出したものである。SK254がSK255を切る。これらの遺構確認時の出土遺物がある。4は隆沈線による文様を描くVI群と考えられる。

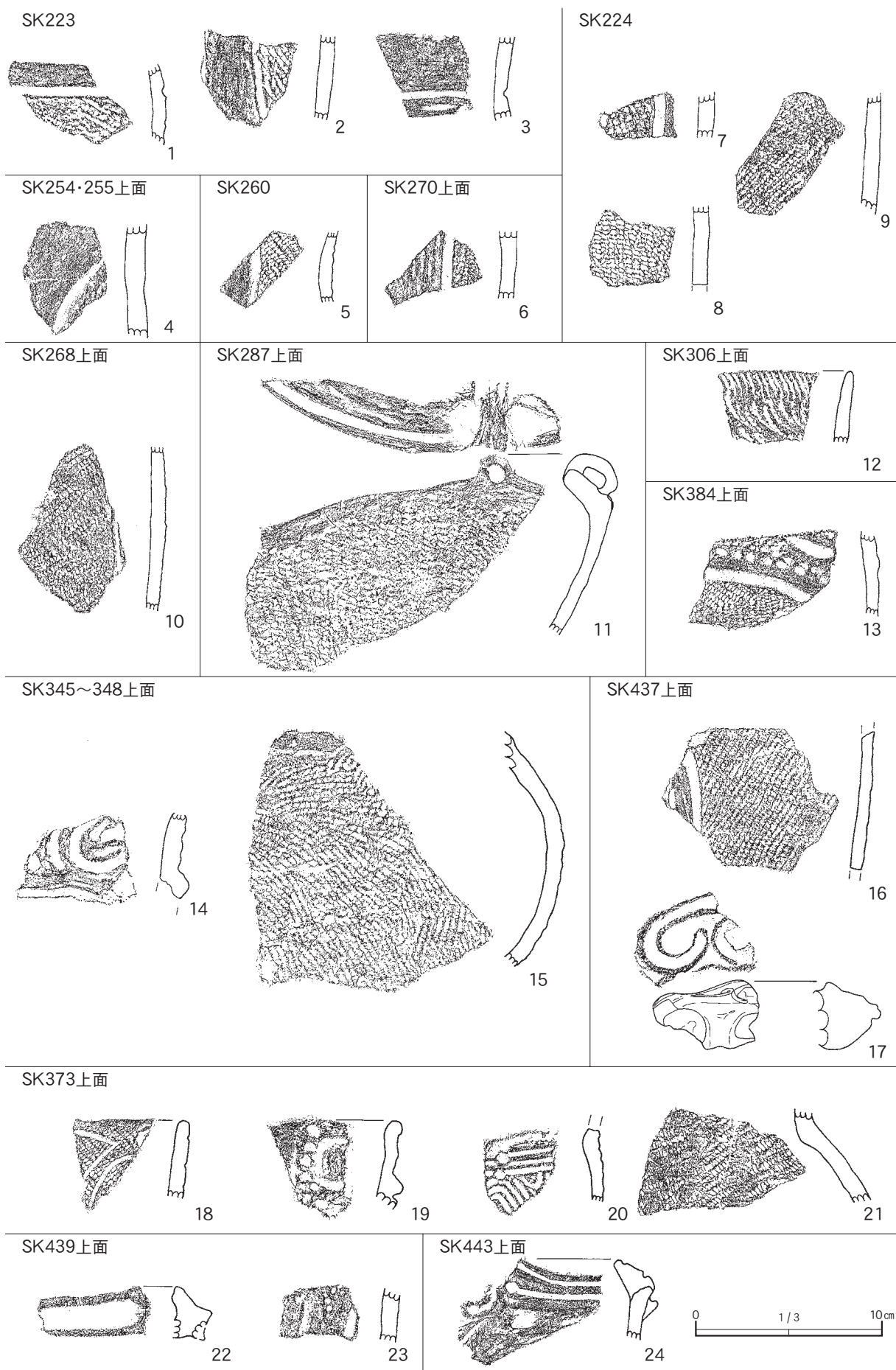


图30 土坑IV類出土土器③ (S=1/3)

SK260 (図30-5)

52T東で検出したものである。覆土からの出土遺物がある。5は隆線施文のVI群である。

SK268 (図30-10)

52T東で検出したものである。SK272(Ⅱ類)を切る。遺構確認時の出土遺物がある。10は縦位沈線が施されている。VI群に含めておく。

SK270 (図30-6)

52T東で検出したものである。SK272(Ⅱ類)を切る。遺構確認時の出土遺物がある。6は磨消縄文でⅦ群の可能性が高い。

SK287 (図30-11)

52T東で検出したものである。SK290(Ⅱ類)を切る。遺構確認時の出土遺物がある。口縁が内屈する器形である。橋状把手が付けられ、把手下に盲孔が施される。Ⅶ-2類である。

SK306 (図30-12)

53T東で検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。口縁に縦位の刻みがあり、貝殻腹縁文が施される。Ⅲ-6類である。

SK345~348 (図30-14・15)

53T東で検出したものである。Ⅲ-1層上から確認した遺構である。遺構確認時の出土遺物がある、14は単沈線による多条の弧状文が施されるⅢ-4類である。15は球形の胴部でⅢ-5類である。

SK373 (図30-18~21)

53T東で検出したものである。SK374(Ⅲ類)を切る。遺構確認時の出土遺物がある。18~20はⅦ群である。18は縄文地に沈線で曲線的な文様を施し、9は口縁下を隆帯で区画する。Ⅶ-1類である。20は多条沈線が施されるⅦ-2類である。21は胴部球形のⅢ-5類である。

SK384 (図30-13)

53T東で検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。隆沈線間に縄文及び刺突が施されるⅥ-1類である。

SK437 (図30-16・17)

53T東で検出したものである。SK440(Ⅱ類)、SK441(Ⅳ類)を切る。遺構確認時の出土遺物がある。16は磨消縄文が施されるⅦ群、17はⅤ-1類のS字状貼付文が施される突起である。

SK439 (図30-22・23)

53T東で検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。22はⅤ-1類の口縁部で、隆帯が施されるものである。23は隆沈線が施され、Ⅵ群と考えられる。

SK443 (図30-24)

53T東で検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。24は口縁に沈線と盲孔が施されるⅦ-2類である。

SK463 (図31-1~3)

59Tで検出したものである。SK464・465・472(Ⅳ類)を切る。遺構確認時の出土遺物がある。1~3はⅥ群に相当する。2は横位沈線が施されるⅥ-2類である。

SK485 (図31-4~7)

59Tで検出したものである。SI13・14推定範囲内にある。SK489(Ⅲ類)を切り、SK488(Ⅳ類)を切る。遺構確認時の出土遺物がある。4~7は同一個体である。SK489出土(図31-10・11)、59TⅢ-1層出土(図40-1)も同一個体である。集合沈線による弧状文が施さ

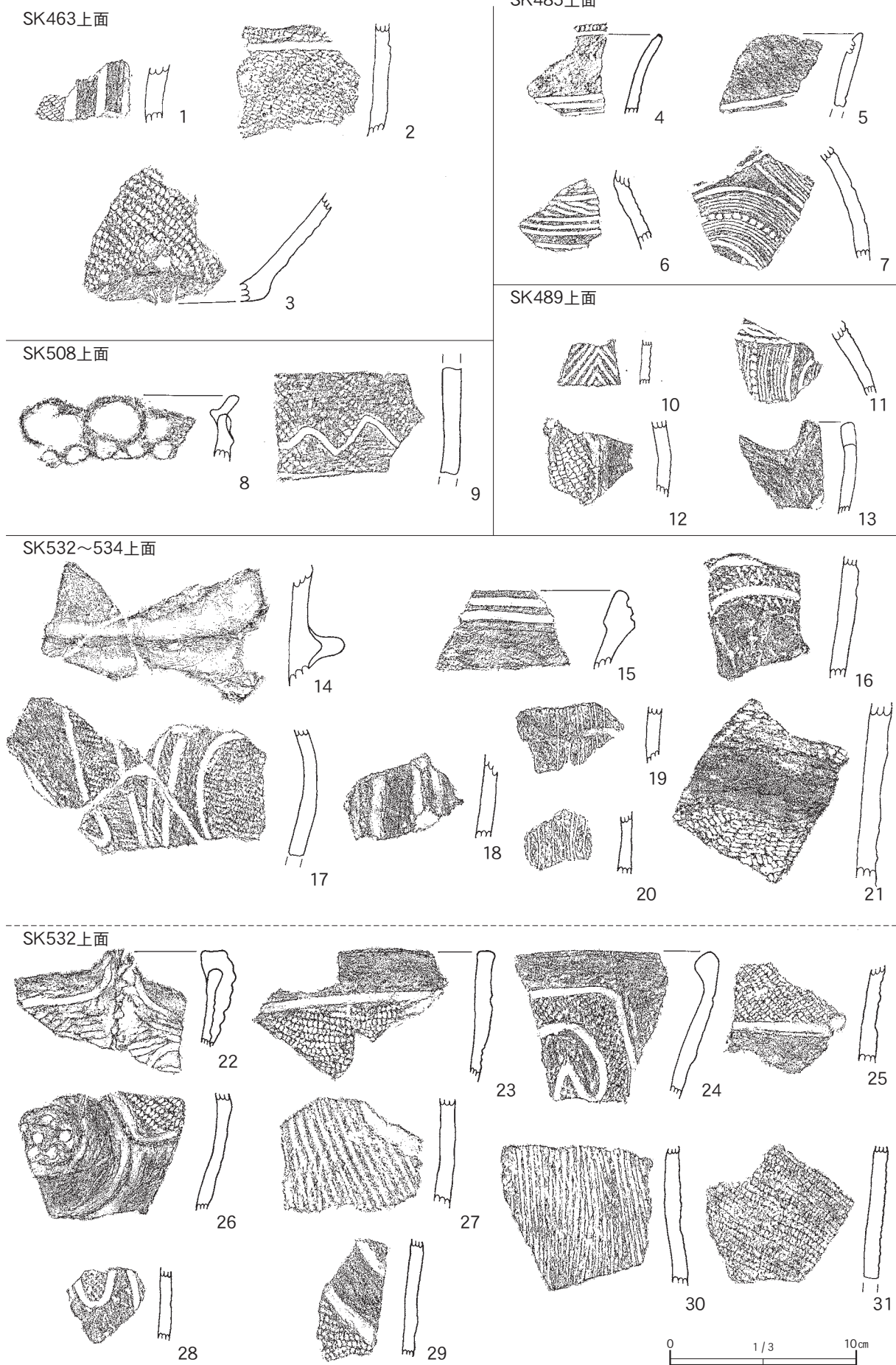


图31 土坑IV類出土土器④ (S=1/4)

第1節 南台地区遺構出土土器

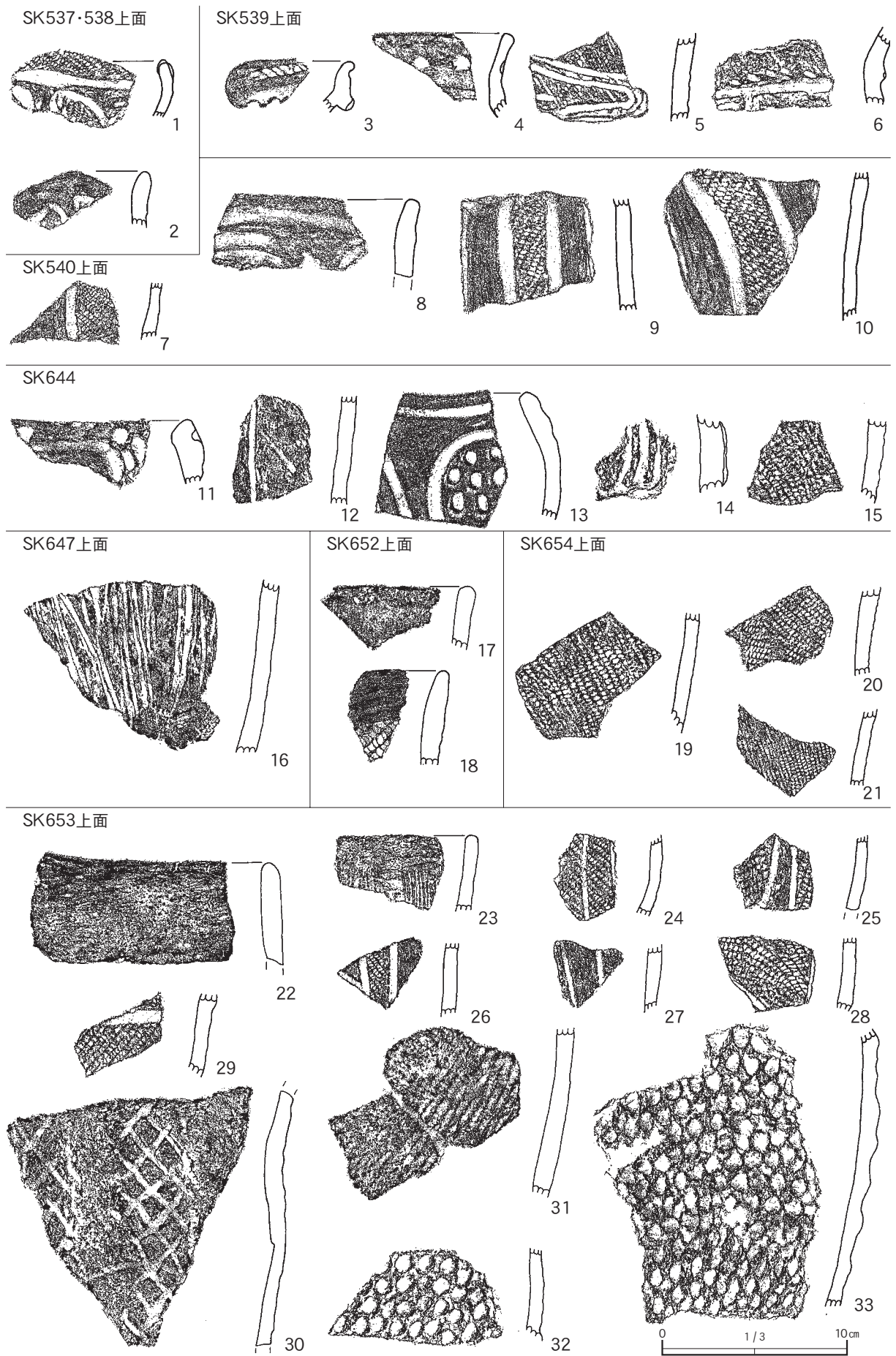


图32 土坑Ⅳ類出土土器⑤ (S=1/3)

れ、列点文が添えられている。口唇に刻みをもち（図31-4）、多条山形文（同図10）も施されている。Ⅷ-1類と考えられる。

SK508（図31-8・9）

59Tで検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。いずれもⅣ-2類である。8は口縁下端を押捺付隆帯で区画し、円形の突起が付けられている。9は単沈線による波状文が縄文地上に施されている。

SK532~534（図31-14~31）

60Tで検出したものである。SK534⇒533⇒532の順に構築されている。遺構確認時の出土遺物がある。一括上面出土では、Ⅶ群（14~17・19・20）とⅥ群（18・21）がある。14は口縁下降帯区画のⅦ-1類、17は磨消縄文により曲線的なモチーフを描くⅦ-2類である。21は横位に隆線による文様が展開するⅥ-2類である。SK532上面出土資料でも、Ⅶ群（22~25・27・30・31）とⅥ群（26・28・29）が認められる。22は縦位に刻み付隆帯が施されるⅦ-1類であ

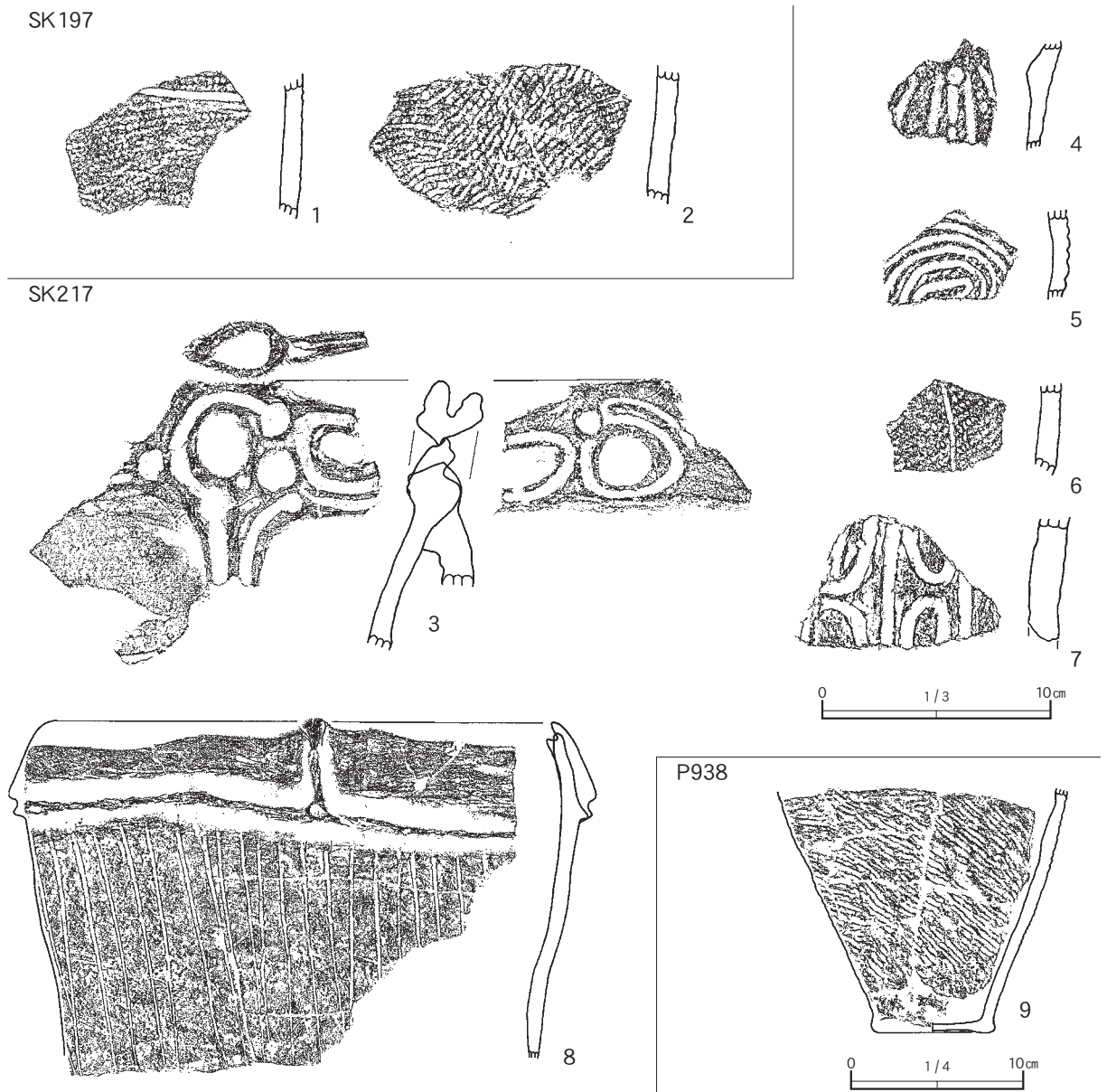


図33 埋設土器① (S=1/3・1/4)

る。23～25は磨消縄文により文様を描いている。26は隆線により無文部が切り合うVI-2類、28は楕円文が施されるVI-1類と考えられる。

SK537・538 (図32-1～2)

60Tで検出したものである。SK537がSK538を切る。遺構確認時の出土遺物がある。1・2はVI-2類と考えられる。波状口縁を呈する。

SK539 (図32-3～6)

60Tで検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。いずれもIV群である。3は隆線による楕円形区画内に縄圧痕文が施される。5は沈線による曲線文が描かれる。6は頸部を隆線で区画している。IV-2類と考えられる。4は頸部に刺突列が施されるIV-3類である。

SK540 (図32-7～10)

61Tで検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。いずれもVI群である。8は断面三角の隆線が施され、VI-2類と考えられる。

SK644 (図32-11～15)

II区で検出したものである。SK643 (II類)、SK645 (IV類) を切る。遺構確認時の出土遺物がある。11・12がVII群、13は沈線で区画し、刺突が施されるVI-2類である。14はカマボコ状の隆線が施文される。V-2類の可能性が高い。

SK647 (図32-16)

II区で検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。16は条線文が施されるVII群である。

SK652 (図32-17・18)

II区で検出したものである。遺構確認時の出土遺物がある。17・18は焼成等から、VI群の可能性が高い。

SK653 (図32-22～33)

II区で検出したものである。SK654 (IV類) を切る。遺構確認時の出土遺物がある。VII群が主体的である。25～28は未調整沈線のVII群、29は凹線状沈線のVI群と考えられる。30は縦位の網目状撚糸文が施されるIX群である。32・33は横方向からの刺突が全面に施文されるVII-4類である。

SK654 (図32-19～21)

II区で検出したものである。SK653 (IV類) に切られる。遺構確認時の出土遺物がある。縄文のみ施文されるものだが、焼成等からVIII群の可能性が高い。

6. 埋設土器

これまでに述べなかった埋設土器を伴う遺構について報告しておく。

SK197 (図33-1・2)

52T東で検出したものである。掘り下げた調査は行っておらず、上面確認で埋設土器遺構と確認したものである。SK196 (IV類) に切られる。1は未調整沈線が縄文地上に施される。2は埋設土器の破片である。これらはVII群の可能性が高い。

SK217 (図17-2、図33-3～8、図34)

52T東で検出したものである。図33-7がVI-1類である他はすべてVII群である。図34-1が埋設土器である。残存高約56cmの大型土器である。縄文が全面施文されるが、胴部下半に単沈線による格子状文が2箇所部分的に施されている。図33-8は図34-1に入れ子状になって出土したものである。口縁下隆帯区画で、I字状隆帯が施される。胴部の地文は縦位の多条単沈線

SK217



図34 埋設土器② (S=1/4)

SK424

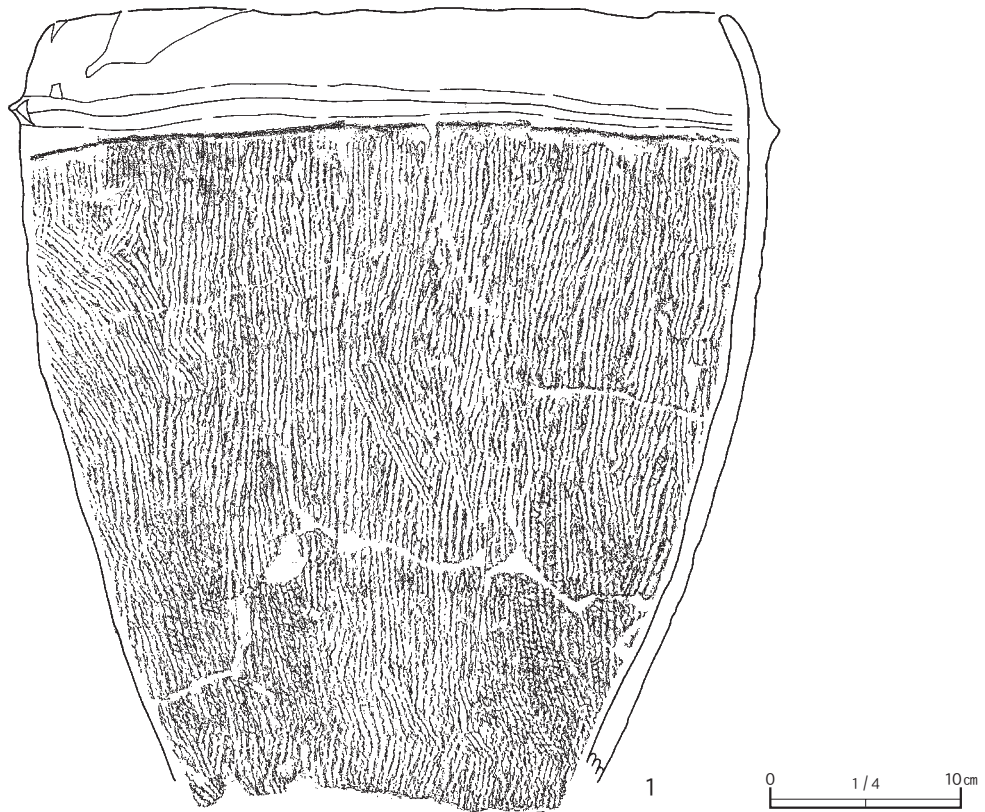


図35 埋設土器③ (S=1/4)

である。同図3は突起部に貫通孔、橋状把手が付けられている。図17-2はSK235出土土器片と本遺構の土器片が遺構間接合したものである。これらはⅦ-1類である。図33-4・5は多条の沈線により文様を描くⅦ-2類と考えられる。

SK424 (図35)

53T東で検出したものである。SK425・426(Ⅳ類)、SK427(Ⅲ類)を切る。横倒しになったような状況で1が出土した。口縁下端が隆帯で区画されるⅦ-1類である。地文は縦位撚糸文である。土器内から、磨石(図114-3)および石皿(図114-2)が出土している。

P938 (図33-9)

59Tで検出したものである。道路状遺構に隣接している。9が埋設土器である。胴部下半から底部にかけてのもので、縄文が施文される粗製土器である。

6. 道路状遺構 (図36)

59T南台地区台地中央部で確認された最大長約40m、幅3~4mのくぼみ状の遺構である。SI20、SZ05・06に切られ、SK548を切っている。1~6はⅥ群である。1~3は断面三角の隆線により文様を描くⅥ-2類である。7・8は縄文地に沈線で文様を描くもので、Ⅴ群と考えられる。

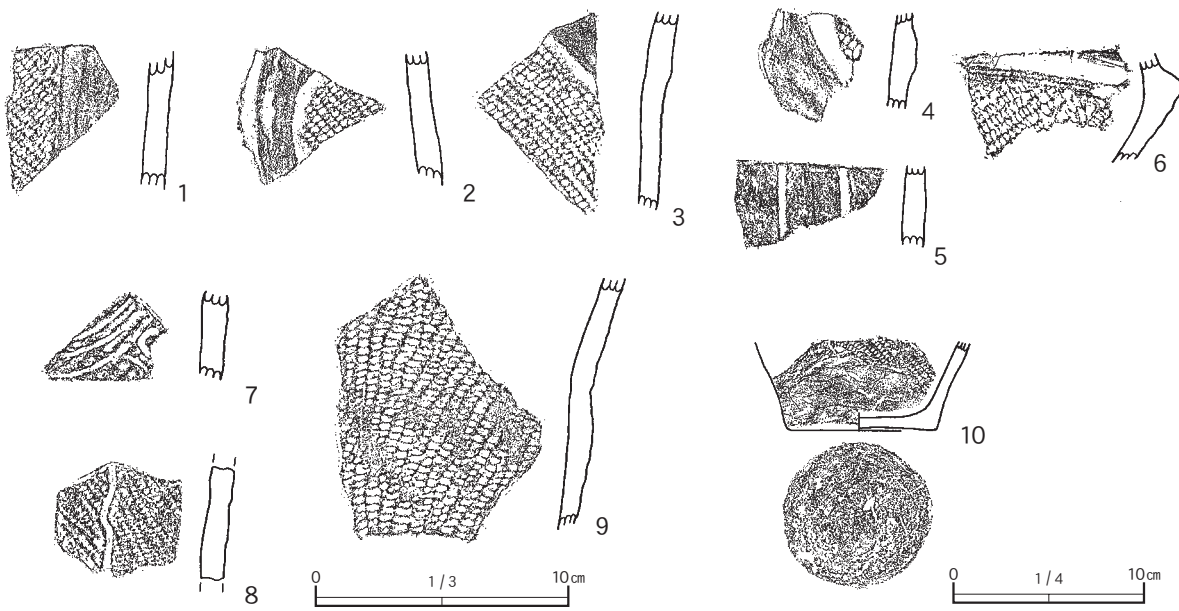


図36 道路状遺溝出土土器 (S=1/3・1/4)

註

- ※1 図3-10は、前報告にて、P103出土としたが、SI03床下出土の誤りである。
- ※2 図26-3は、前報告にて、SK15出土としたが、SK61出土の誤りである。
- ※3 図23-1は、前報告にて、SK630出土としたが、SK620出土の誤りである。
- ※4 図28-19は、前報告にて、SK75出土としたが、SK123出土の誤りである。

第2節 南台地区遺物包含層出土土器

南台地区の縄文時代に堆積したと考えられる貝層以外の土層から出土した土器をまとめた。

52T西Ⅲ－2層（図37）

52T西端に堆積しているもので、当初、縄文包含層として掘り下げて調査を行ったものである。Ⅲ－2層を除去したところ、SI01～04・06・07が確認されたため、本来これらに伴う遺構覆土であったと考えられる。ただし、遺存状況も良くないことから、各遺構に伴う土層の細別は、認識できなかった。

1・2はⅦ－2群である。1は多条沈線が描かれる。3～5はⅥ群である。3は浅鉢で横位隆線が施されるⅥ－2類、4・5は隆沈線による文様のⅥ－1類である。8～10はⅤ群である。9は口縁隆線区画、10はクランク状文が施されるⅤ－1類である。11～23はⅣ群である。11は楕円形隆線文、13は有節沈線、14は口縁に弧状貼付文が施されるⅣ－2類である。15は多条山形文、16は橋状貼付文の左右に単沈線による文様が描かれるⅣ－1類である。24～29はⅢ群である。24は爪形文による弧状文が施されるⅢ－4類である。26は鋸歯状貼付文と山形文が施されるⅢ－3類、27は口縁交互押捺のⅢ－2類である。28は繊維を少量含み、口縁上端に刺突、外面に円形竹管文が施されている。Ⅲ－1類と考えられる。30は羽状縄文を施文するⅡ群である。

52TサブトレンチⅢ－1層（図38－1～17）

52T東側南壁にサブトレンチを設定し、Ⅲ－1層を掘り下げて調査を行った。Ⅲ－1層を除去したところ、埋設土器遺構であるSK197等の遺構が平面プランとして確認された。断面観察から遺構の構築はⅢ－1層上面及び層中から成されていることが認められる。Ⅲ－1層は密集した遺構の覆土として考えることもできる。1～4はⅧ－1類である。3は沈線区画縄文帯に弧状の区画が施されている。5～8がⅦ群である。5はJ字状文が描かれるⅦ－1類である。9～14はⅥ群である。11・12は断面三角の隆線により横位に文様が展開するⅥ－2類である。14は隆沈線を施すⅥ－1類である。

53T西a・b層〔Ⅱ層〕（図38－18～26）

53T西端に堆積している土層である。西a層は破碎貝を主とした混貝土層である。破碎貝層であること、締りがいいことなどから、西向貝層の上位層または二次堆積と考えられる。西b層は西向貝層等縄文包含層の可能性もある。これらを掘り下げた調査を行っておらず、詳細は不明であるが、縄文時代の堆積層の可能性のあるものとして、上面から出土したものを掲載した。18は口縁下隆帯区画のⅦ－1類である。19～24はⅥ群である。19は隆沈線による文様、21はキャリパー状の口縁を隆沈線で区画した文様、22は楕円文が施される。これらはⅥ－1類と考えられる。26は三角形の波頂部をもつⅣ－2類である。

53T西Ⅲ－1層（図39－1～7）

53T西側のⅢ－1層堆積範囲において、遺構確認時に出土した遺物である。1～3はⅥ群である。1は口縁部を沈線で区画し、縦位に帯状文が施される。Ⅵ－2類としておく。4は口縁を隆線で区画するⅤ－2類、5はソーメン状隆線を施文するⅤ－1類である。6は口縁に縦位短沈線が施されるⅣ－1類、7が複合口縁のⅢ－4類である。

53T西サブトレンチⅢ－1層（図39－8～27）

53T西側南壁沿いにサブトレンチを設定し、Ⅲ－1層を掘りさげて調査をした。Ⅲ－1層を除去したところ、SI09等の遺構が平面プランとして確認された。ここでは、当該地点のⅢ－1層出土土器を示した。

52T 西Ⅲ-2層

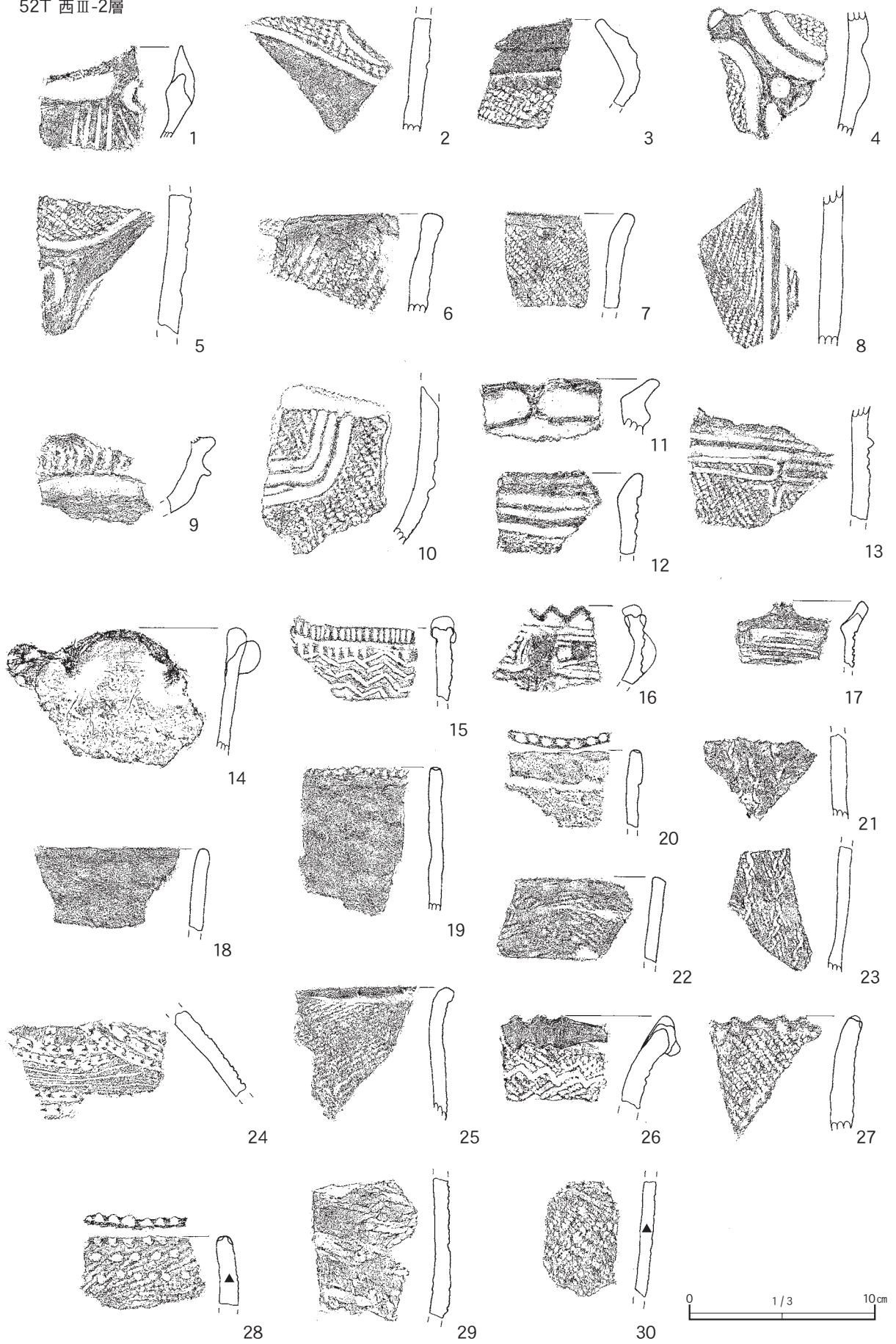
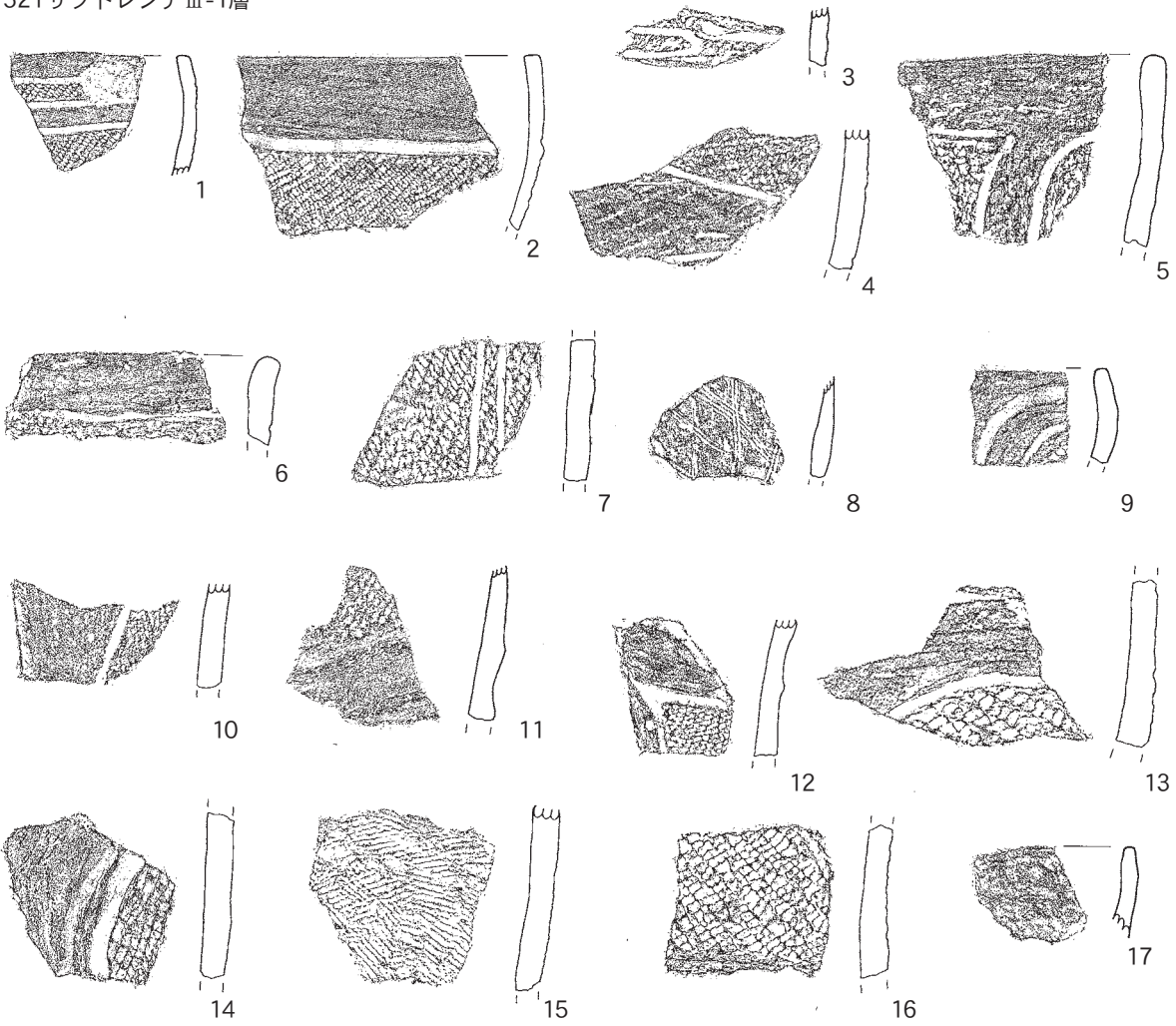


图37 遺物包含層出土土器① (S=1/3)

第2節 南台地区遺物包含層出土土器

52TサブトレンチⅢ-1層



53T西a・b層

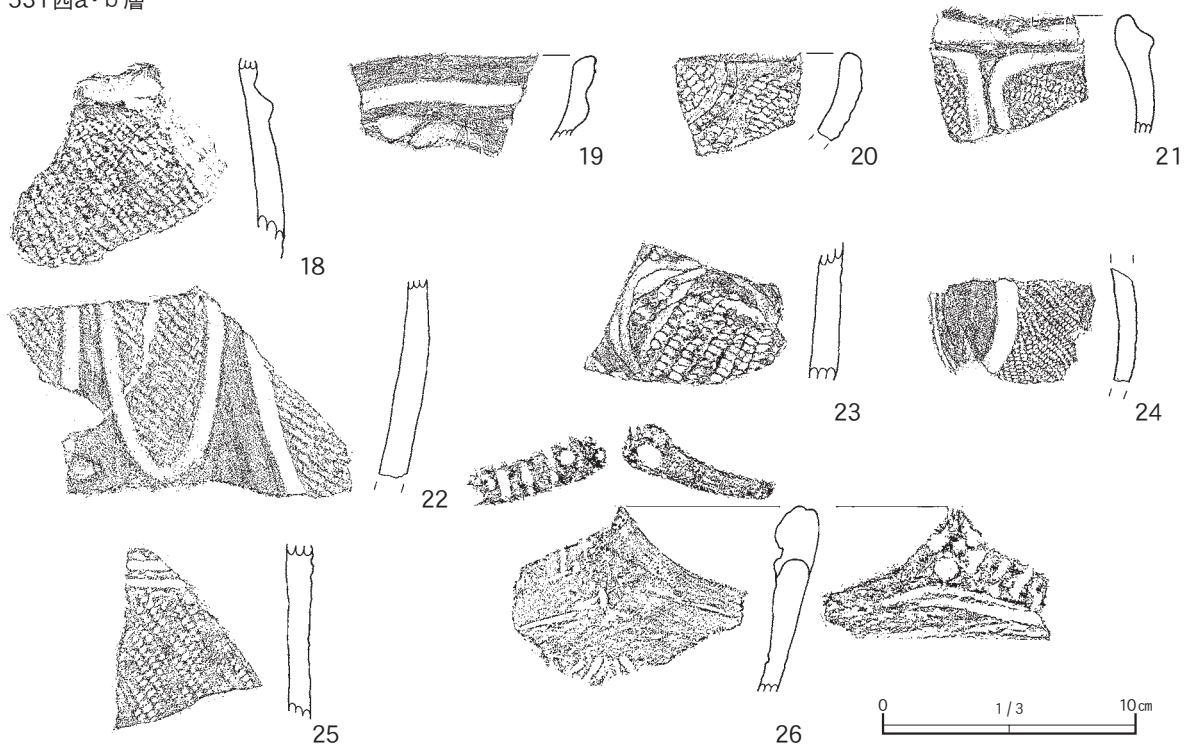
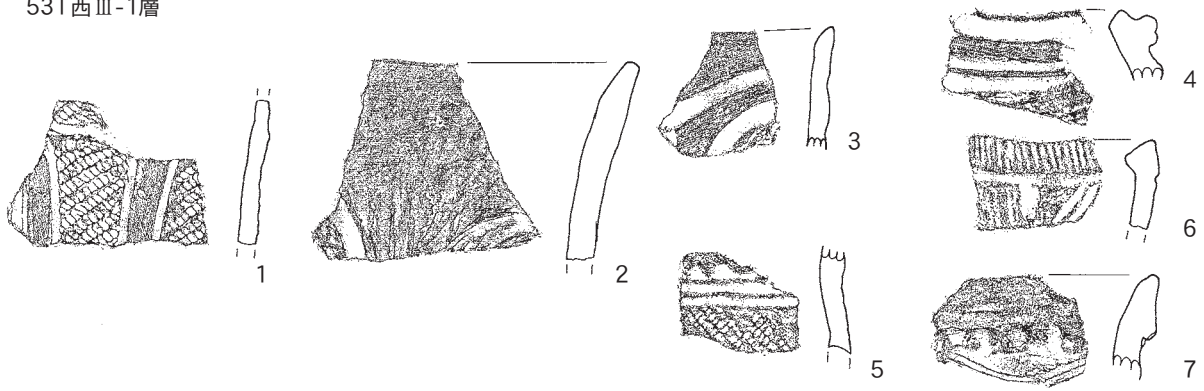


図38 遺物包含層出土土器② (S=1/3)

53T西Ⅲ-1層



53T西サブトレンチ(Ⅲ-1層)

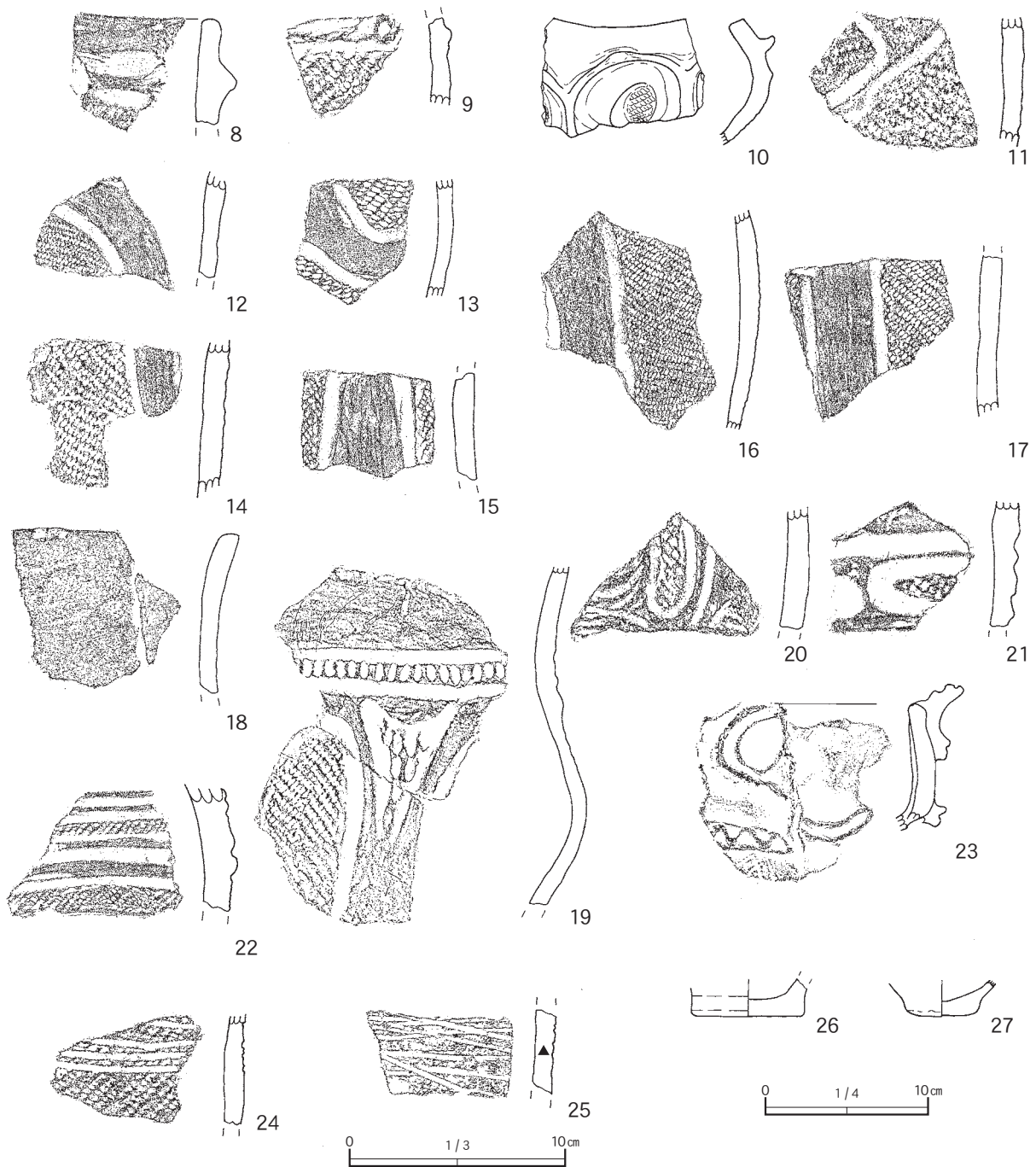
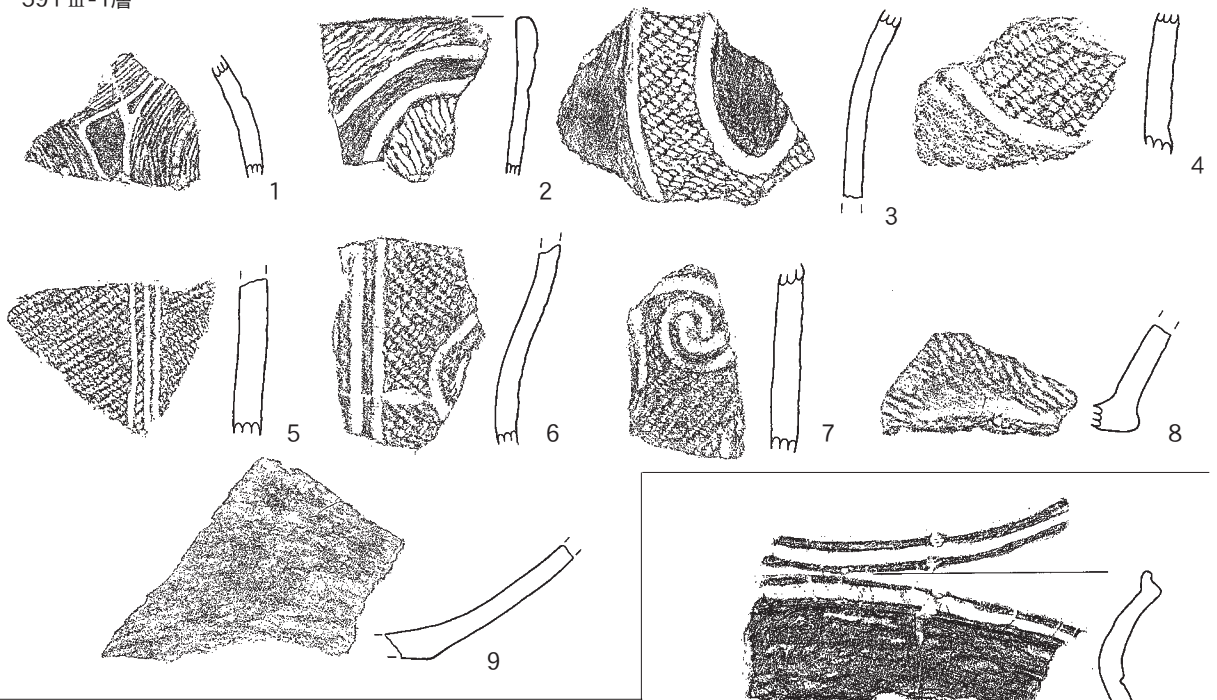


図39 遺物包含層出土土器③ (S=1/3・1/4)

第2節 南台地区遺物包含層出土土器

59TⅢ-1層



Ⅱ区Ⅲ-1層

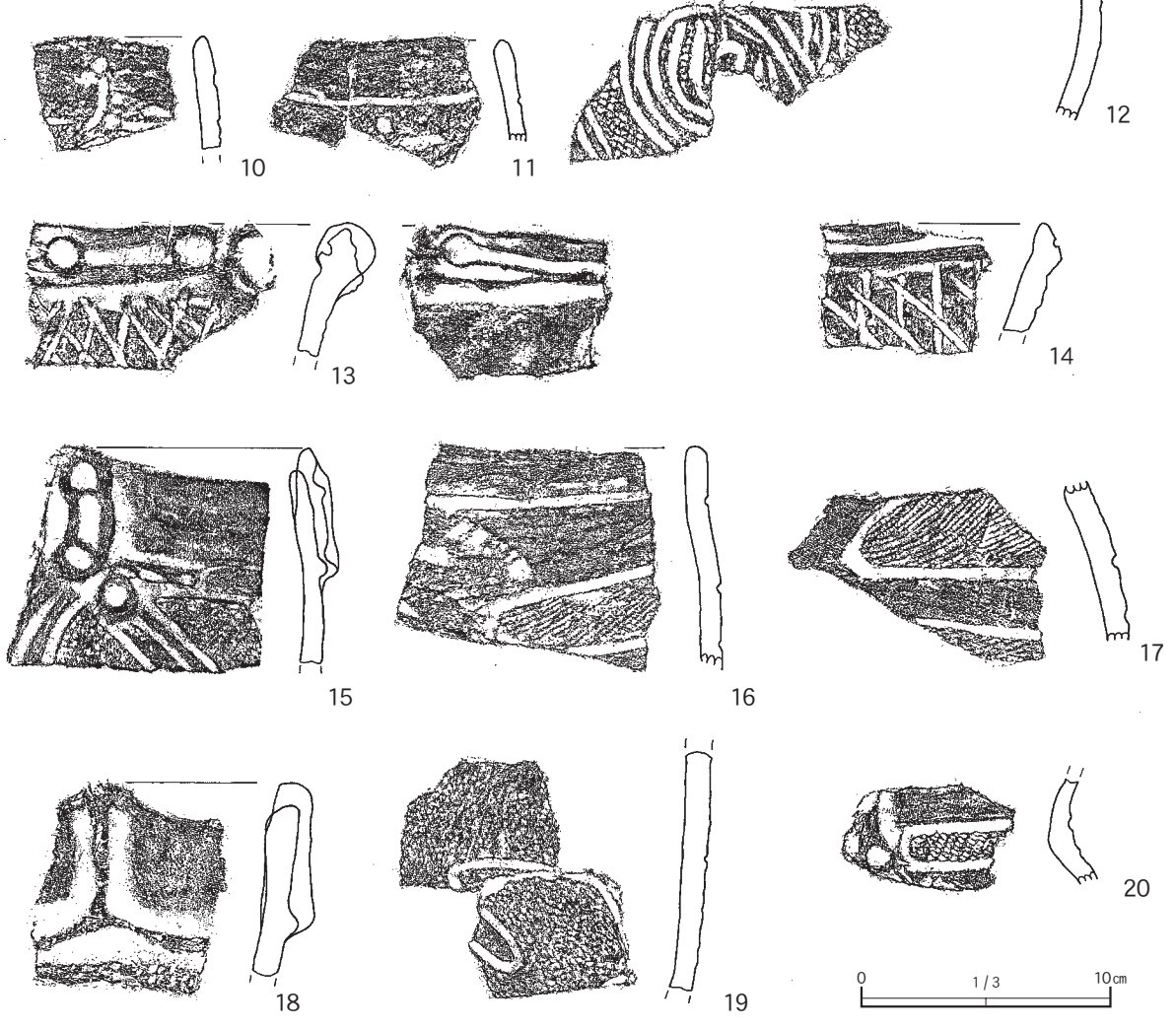


图40 遺物包含層出土土器④ (S=1/3)

II区III-1層

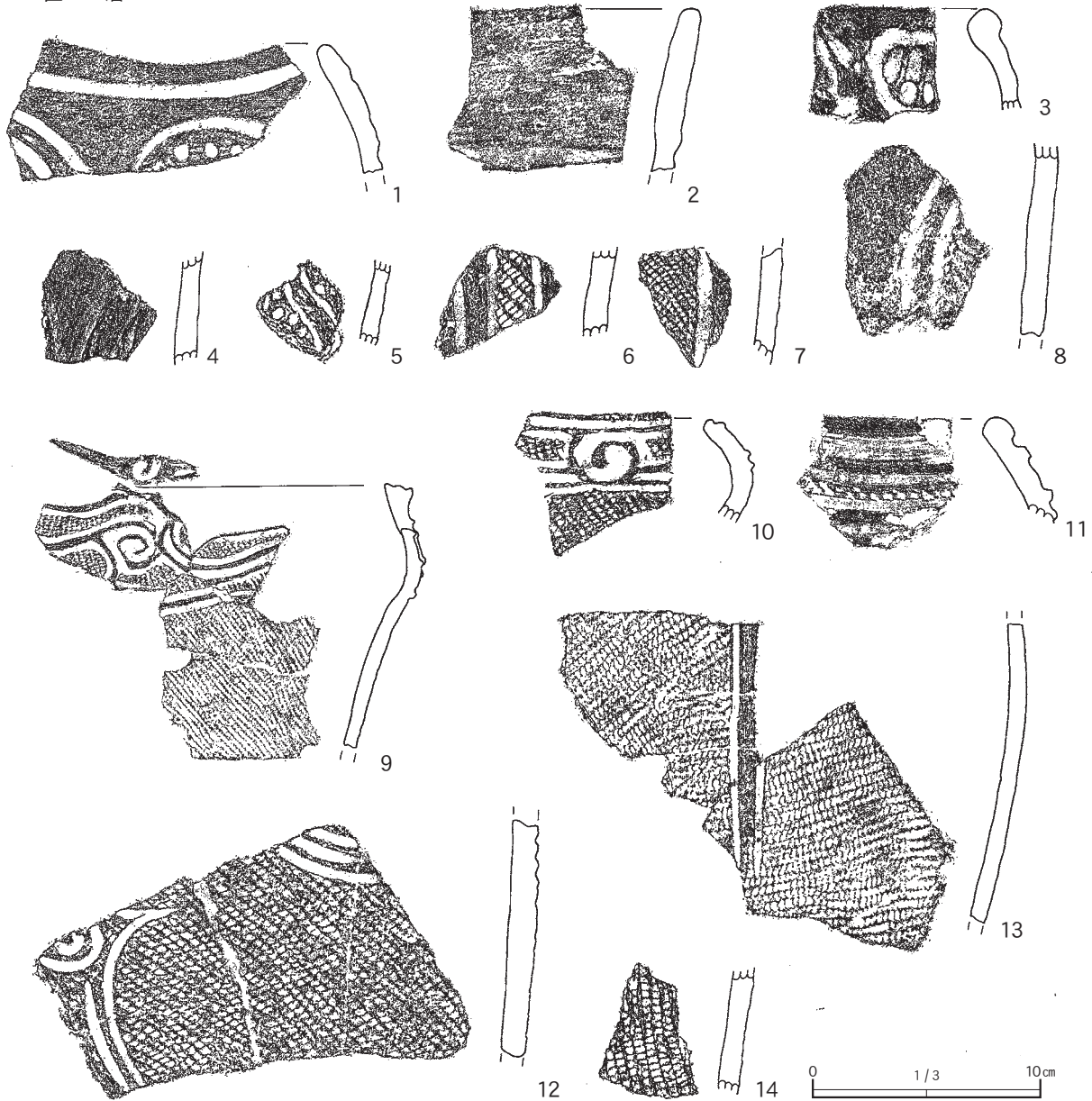


図41 遺物包含層出土土器⑤ (S=1/3)

8・9は口縁を隆帯で区画するVII-1類である。10～21がVI群である。10は浅鉢で、隆線により文様を施している。11は無文部で文様を描出するVI-2類である。12～17は沈線区画した縄文帯が施されている。18・19は同一個体で頸部を刻みが充填された沈線で区画し、胴部は隆沈線により文様が描かれる。頸部がすぼまり、口縁が外反する器形を呈する。VI-1類である。22～24がV群である。23はS字状貼付文が施されるV-1類である。25は条線文が施されるIII-6類である。

59T III-1層 (図40-1～9)

59T北端のIII-1層堆積範囲において、遺構確認時に出土した遺物である。当該地点のIII-1層を掘り下げて、SI11等の遺構を確認した時に出土した遺物を掲載した。1はSK485・489出土土器(図31)と同一個体でVIII-1類である。2～4はVI群で、2は口縁部の縄文帯を区画している。5～7はV-2類である。6・7は曲線状のモチーフを描く。

Ⅱ区Ⅲ－1層（図40－10～20、図41）

Ⅱ区はSD01等の後世の遺構以外の範囲において、ほぼ全面的にⅢ－1層が確認されている。これらを掘り下げて、遺構確認を実施し、SK643等の多数の遺構を確認した。ここでは、当該地点のⅢ－1層から出土した土器を示した。

Ⅶ群（図40－10～20、図41－13）：図40－12は頸部沈線区画で多条沈線による文様を描く。同図10・11・16・17・20は口縁部を沈線で区画し、同図19は曲線的なモチーフを磨消縄文で描く。これらは2類である。同図13・14は同一個体で、口縁部に円形浮文が施され、胴部に格子状沈線が認められる。同図15・18は口縁下隆帯区画である。これらは1類に相当し、図41－13もその胴部破片と考えられる。

Ⅵ群（図41－1～8）：3は隆沈線による区画内に刺突を施すもの、6・8は2条以上の沈線で縄文を区画するものである。1類と考えられる。4は断面三角の隆線で文様が施される2類である。

Ⅴ－2類（図41－9～12）：9・10は口縁部に隆沈線による渦巻文が、12は胴部沈線による渦巻文と剣先状のアクセント文が施されている。11は隆線文が横位に施されているものである。

第3節 台ノ前南貝層出土土器

1 台ノ前南貝層の概要

台ノ前南貝層は、東西最大約14m、南北約31mを測る。31・32Tで上端が、39・43Tで下端が確認されている。確認された最大厚は約1.0m（31T）を測る。斜面上位にある31・32Tでは土層・土主体層が多く、斜面下位の37～39Tでは混貝土層が中心である。

掘り下げて調査を行ったのは、31・38・39・43Tの調査区であり、これらの調査区から出土した資料を掲載した。

2 31T

台ノ前南貝層の斜面上位にあたるトレンチである。本調査区のⅢ－3層は、土層・土主体層が大部分を占めており、斜面下位の最下層に混貝土層（ⅢC・E層）が認められる。これをLⅢ貝層とした。

Ⅲ層下のⅣ層は基本的には貝・獣骨等をほとんど含まないが、2箇所において貝ブロックを確認した。それぞれLⅣ1・2貝層とした。LⅣ1貝層はⅣb層、LⅣ2貝層はⅣa層中から確認されている。また、50cm角のコラムサンプルを北東隅に設定し、厚さ5cm毎に18サンプルを採取している。コラムサンプル中にはLⅢ貝層、LⅣ2貝層が含まれている。サンプルは上位から順に番号をつけた。

Ⅲ層（図42～48）

A～E層に大別し、さらに各層ごとに細別を行っている。出土土器は一括して取り上げたものが多いが、一部細別層を記している。ⅢC・E層がLⅢ貝層に相当する。図44－1がⅥ群、図48－23・24がⅡ群である他はⅢ・Ⅳ群である。

Ⅳ－1類（図42、図44－2～25、図45－1～6・10～12）：口縁が内湾するもの（図42－1～4等）と直線的に開くもの（図44－3・5等）がある。内湾するものには縦位の貼付文や頸部を隆帯で区画するものも多い（図42－1等）。貼付文には渦巻状（図44－14）や円形のもの（図42－2）などもある。図44－7も円形貼付文が剥がれたものと考えられる。

図42－1・3・4、図44－2～13は沈線区画内に短沈線または刺突が施されている。三角刻み文が沈線に沿って施されるもの（図44－3・5・11）、文様の余白部に施文されるもの（図42－3、図44－4・6・10）、横位区画列となるもの（図42－4、図44－8）、交互刺突となるもの（図44－3）がある。文様モチーフは斜線と弧状（円形）文が組み合わさるものが多い。図44－3・5は、沈線によるY字状垂下文が認められる。図42－4はY字状垂下文の他に多様な図形を描いている。図44－12は渦巻文が上下に押しつぶされたかのような渦巻状長楕円区画の文様となっている。

図44－14・15・19～24は沈線文を描くものである。口縁下を隆帯で区画するものが多い。14・15は多条山形文、16・18は口縁下の幅の狭い範囲に多条の山形文、17は沈線区画内に多条山形文、21は縦位多条沈線文、22・23は格子状文、24は斜格子状文が施されている。

同図25は横線文間にソーメン状隆線文が施されており、Ⅲ－4類の可能性もある。図45－1～3は刺突列が施されるものである。同図4～6は縦位の多条単沈線文が地文となっており、4は縦位の山形状の文様が施されている。同図10～12は複合口縁に縦位短沈線が施されるものであり、10・12は口縁下に瘤状貼付文も施されている。

Ⅳ－4類（図43－1～5、7・9・10、図45－13～22、図46－1～17）：明瞭な文様モチーフを持たず、主に縦位の結節回転文が施されているものである。口縁内湾するもの（図43－1・

Ⅲ層

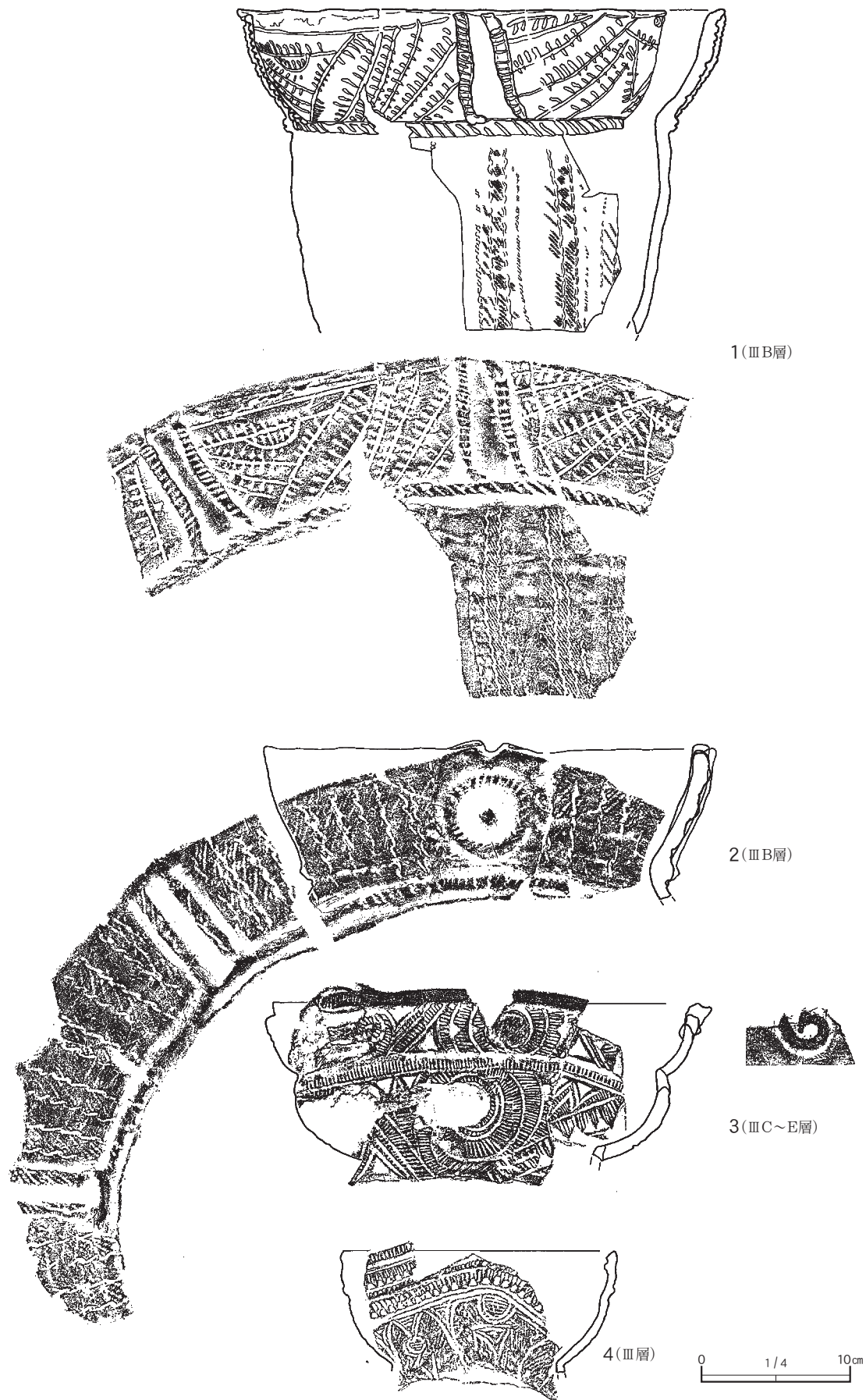


図42 31T出土土器① (S=1/4)

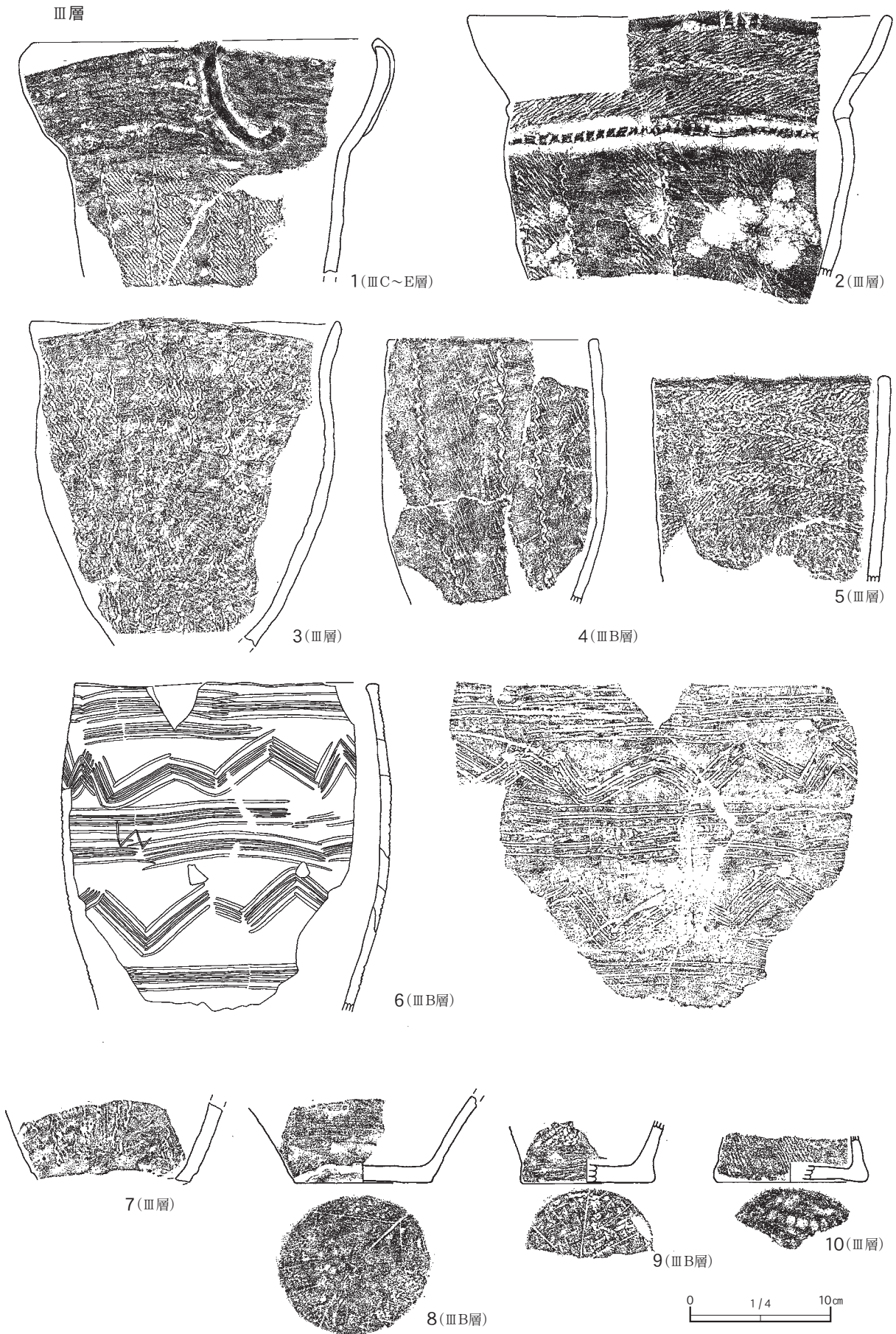


图43 31T出土土器② (S=1/4)

第3節 台ノ前南貝層出土土器



図44 31T出土土器③ (S=1/3)

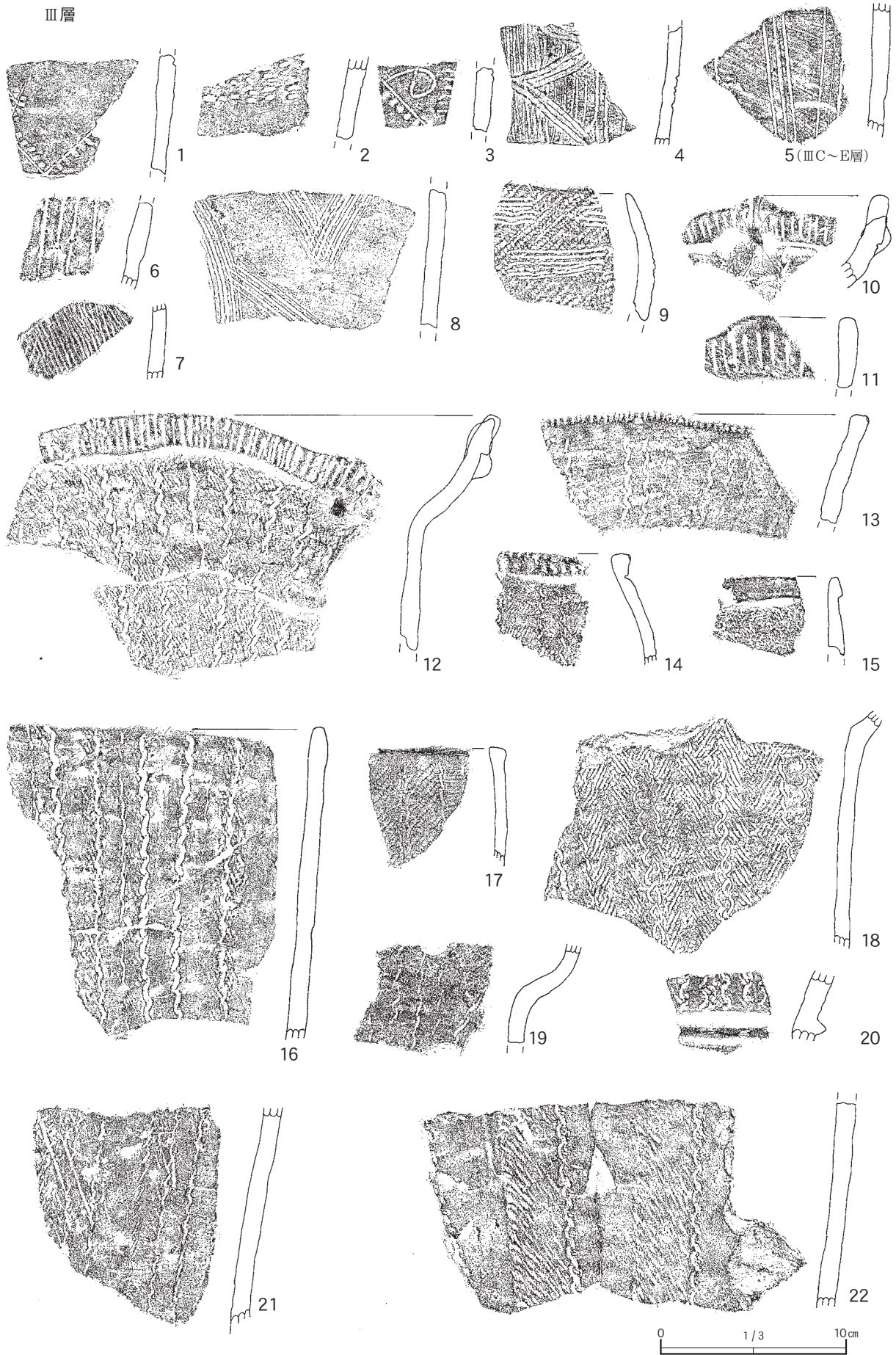


图45 31T出土土器④ (S=1/3)

第3節 台ノ前南貝層出土土器

Ⅲ層

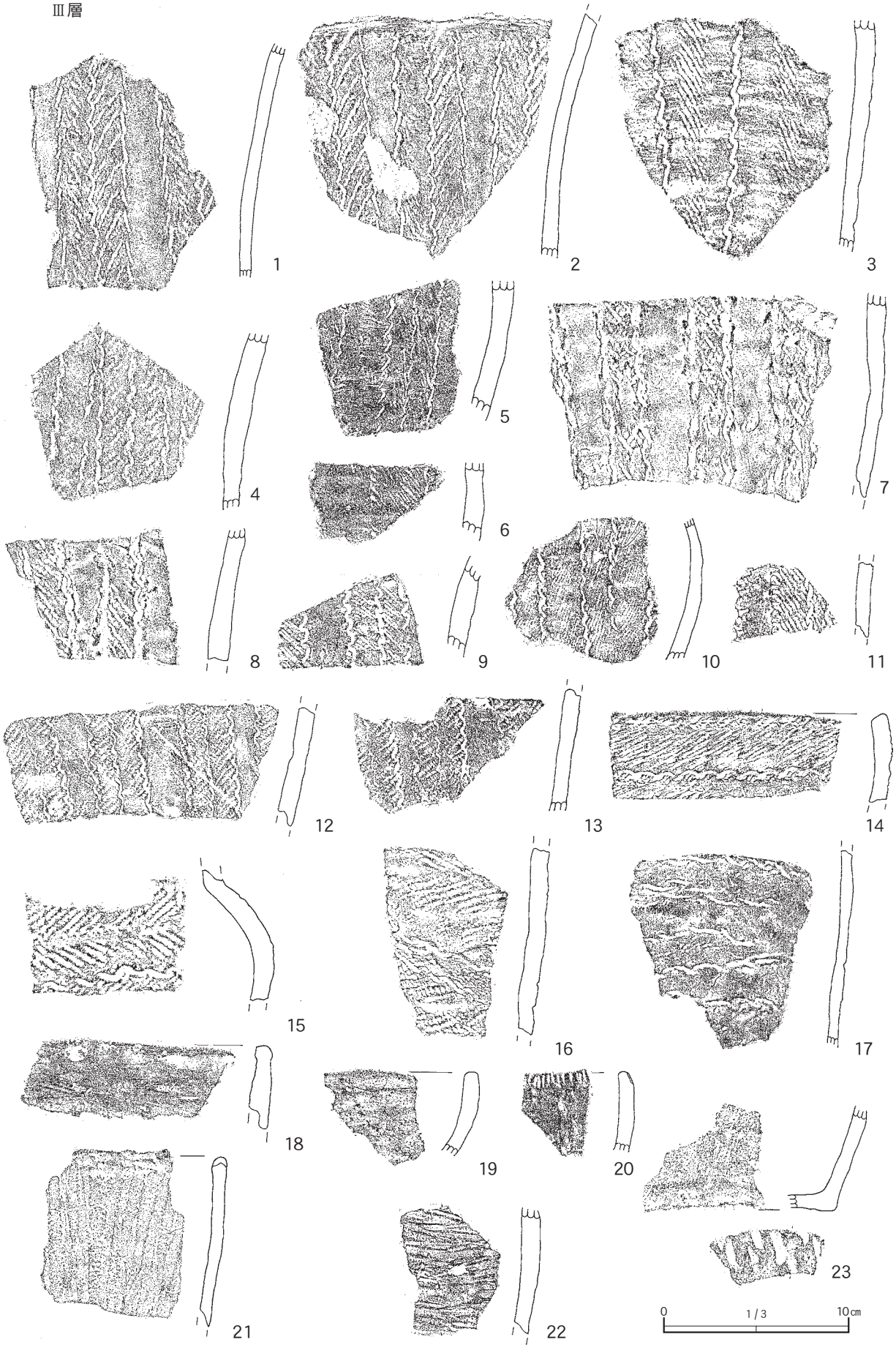


図46 31T 出土土器⑤ (S=1/3)

Ⅲ層

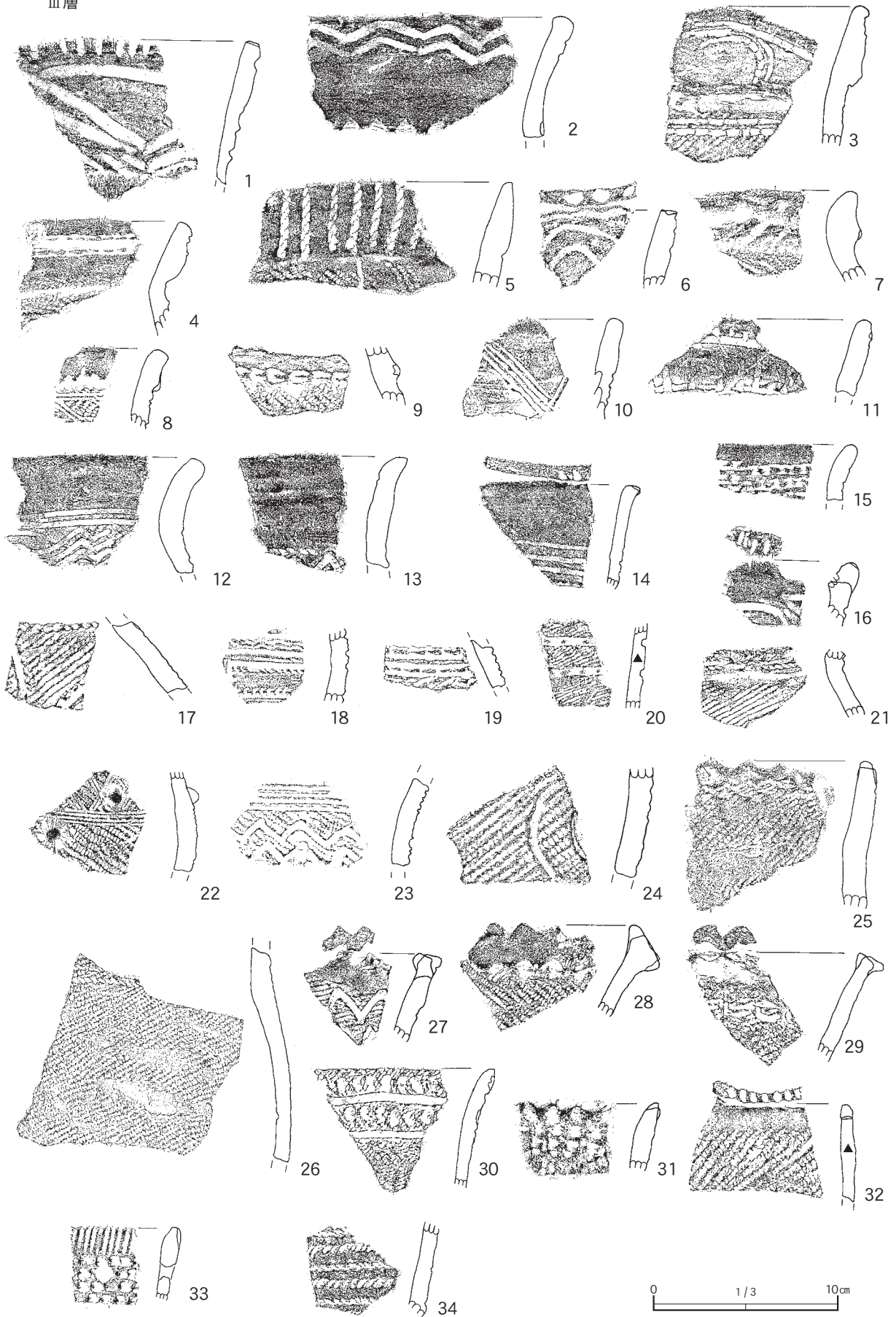


图47 31T出土土器⑥ (S=1/3)

第3節 台ノ前南貝層出土土器

Ⅲ層

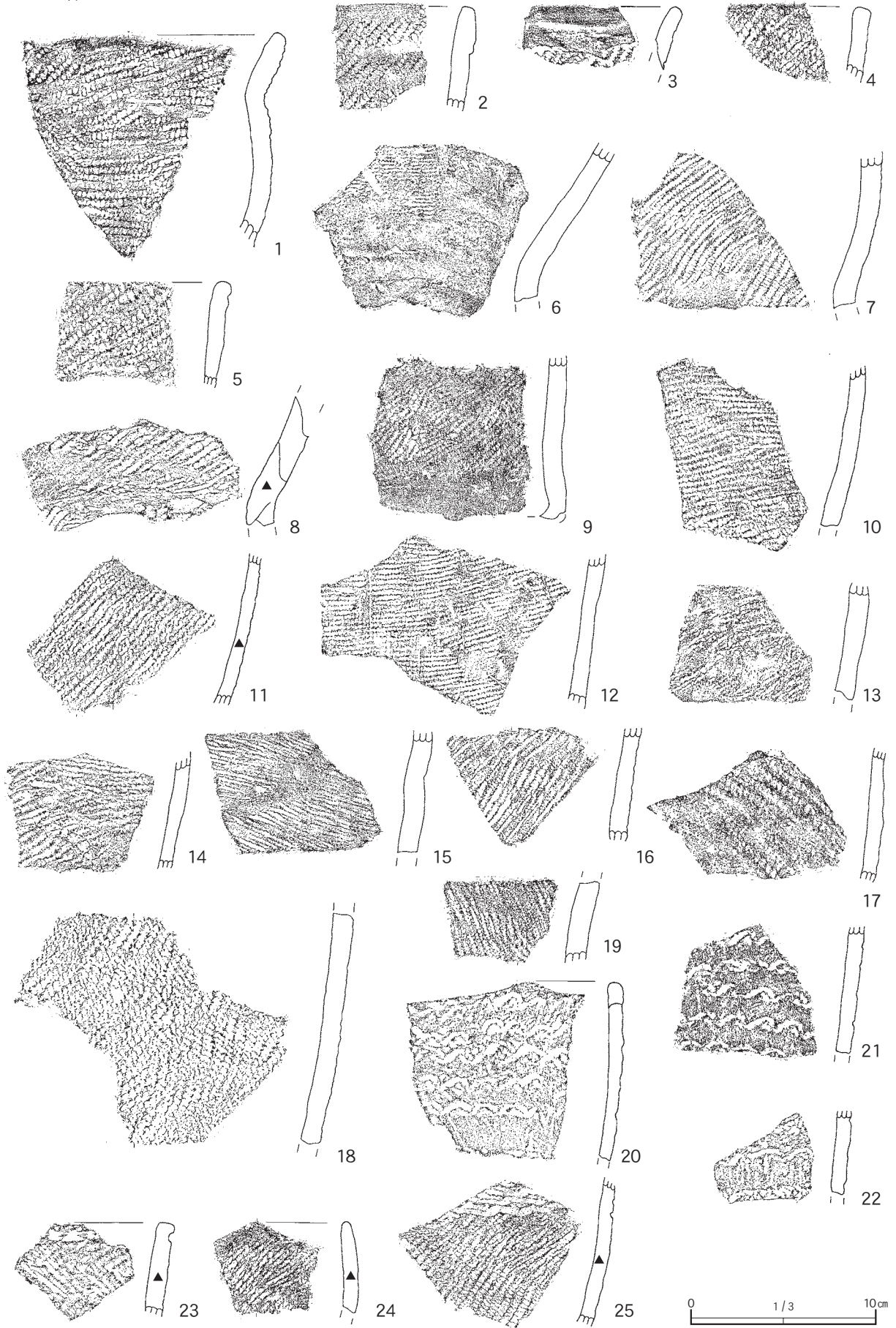


图48 31T出土土器⑦ (S=1/3)

2)、緩やかに外反するもの(同図3)、やや直立内湾気味に立ち上がるもの(同図4・5)がある。図43-1は、口縁にJ字状の隆帯が貼り付けられている。同図2は口縁横位、胴部縦位に縄文施文され、頸部を隆帯で区画している。図45-13・14は口縁上端に刻みが、同図14・15は複合口縁が認められる。横位結節回転文が施されるもの(図46-14~17等)や羽状縄文(同図1等)もある。底部は木葉痕(図43-9)と網代痕(同図10)が認められる。

Ⅳ-3類(図43-8、図46-18~23)：図46-20は口縁に刻み、同図21は小突起が施されている。

Ⅲ-4類(図47-1~13・15~19・22・24)：口縁が肥厚し、段を持つもの(3・4等)や段部に刻み、刺突を施すもの(1・2・7~9)が多い。文様は、太描沈線によるもの(1・2)、有節沈線によるもの(3)、爪形文によるもの(4・9・15)、縄圧痕文によるもの(5・6)、平行沈線によるもの(8・22)、櫛歯状工具によるもの(10)がある。同図11・17・18は沈線に沿い刺突、爪形文が施文されている。同図12・13は口縁部を無文とし、山形文が施されている。12は沈線区画、13は縄圧痕文区画である。22は瘤状貼付文が認められる。

Ⅲ-3類(図47-21・23・26~28・30) 21・26は横位の縄圧痕文が施されており、本類に伴う可能性が高い。27・28は鋸歯状貼付文が付けられている。23・27は山形沈線文が、30は沈線とC字形爪形文列が施文されている。

Ⅲ-1・2類(図47-14・20・25・29・31・32)：20は繊維を少量含み爪形文が施される。Ⅲ-1類と考えられる。その他は2類と考えられ、14は有節沈線で文様を描くもの、29は口縁に波状貼付文、31は口縁に交互押捺、32は口縁に刻みが施されている。

Ⅲ-5類(図45-7、図48-1~22・25)：図45-7は撚糸文が施される。図48-20~22は同一個体で、口縁部に結節回転文を重層して施文している。少量の繊維を含むもの(図48-8・11・25)は、Ⅲ-1・2類に伴う可能性が高く、その他はⅢ-3・4類に伴うものが多いと考えられる。

Ⅲ-6類(図43-6、図45-8、図47-33・34)：図43-6は砲弾形の器形を呈し、条線による横線文と山形文を交互に配するものである。胴部中位に波状貝殻腹縁文が部分的に施文されている。図47-33は口縁に縦位刻み(条線)と刺突列が、34は変形爪形文が施される。

コラムサンプルS11出土土器(図49-1~8)

本調査区の東端に設定したコラムサンプル内出土資料である。S11はⅢC2~4層に相当する。1・3がⅢ-4類である。1は口縁に縄圧痕による山形文が施される。3は頸部に刻み隆帯が付けられている。2は指頭押捺により、小波状口縁を呈し、上端に刻みが付く。Ⅲ-2類と考えられる。8は縦位平行沈線が施されるものである。4~7はⅢ-5類である。

Ⅳa層出土土器(図49-9~27、図50)

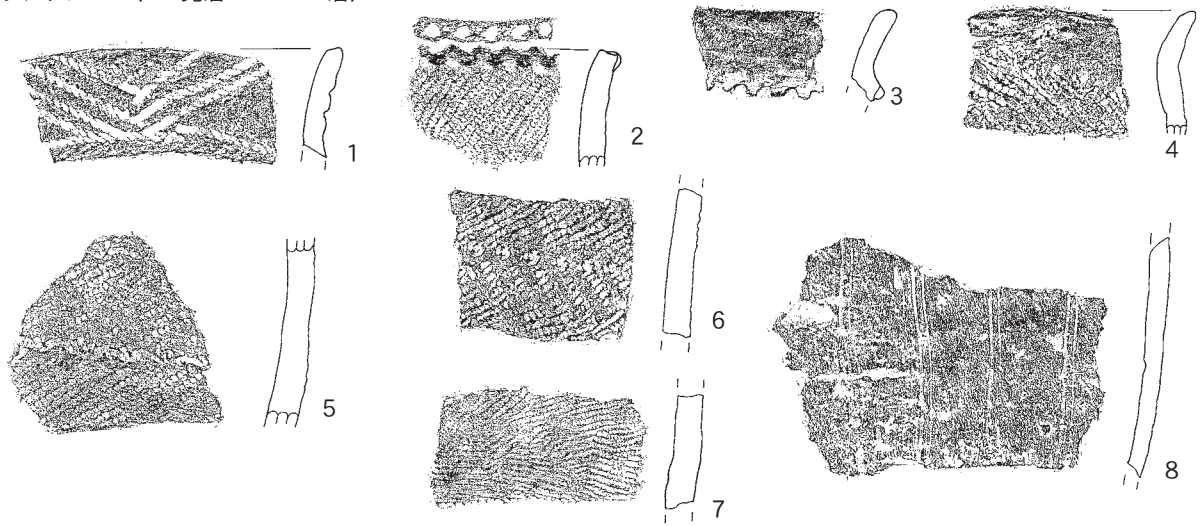
Ⅲ層下のⅣa層から出土したものである。図49-25は円形の突起のⅣ-1類である。同図26・27はⅣ-3類で、27は口縁下に有孔が認められる。図50-34・35は繊維を多く含むⅡ群である。これ以外はⅢ群に相当する。

Ⅲ-4類(図49-9・10・13~17・20~22)：9・10は胴部下半で屈曲し、胴部球形を呈するものである。13~17は単沈線または平行沈線により山形文・山形波状文を施文するものである。14は波状口縁を呈する。20は口縁に横位刺突列、21は結節浮線文による渦巻文と三角形刻み、22は口縁に半円状突起が施されるものである。

Ⅲ-3類(図49-18、図50-1~3・5~10)：図49-18は多条横線文で区画し、弧状文が施されている。図50-1~3は鋸歯状貼付文が、同図5は複合口縁の上下に刻み、同図6~8は粘土紐貼付文による山形文、9・10は単沈線による山形文が施されている。

第3節 台ノ前南貝層出土土器

サンプルS11(LⅢ見層・ⅢC2~4層)



IV層

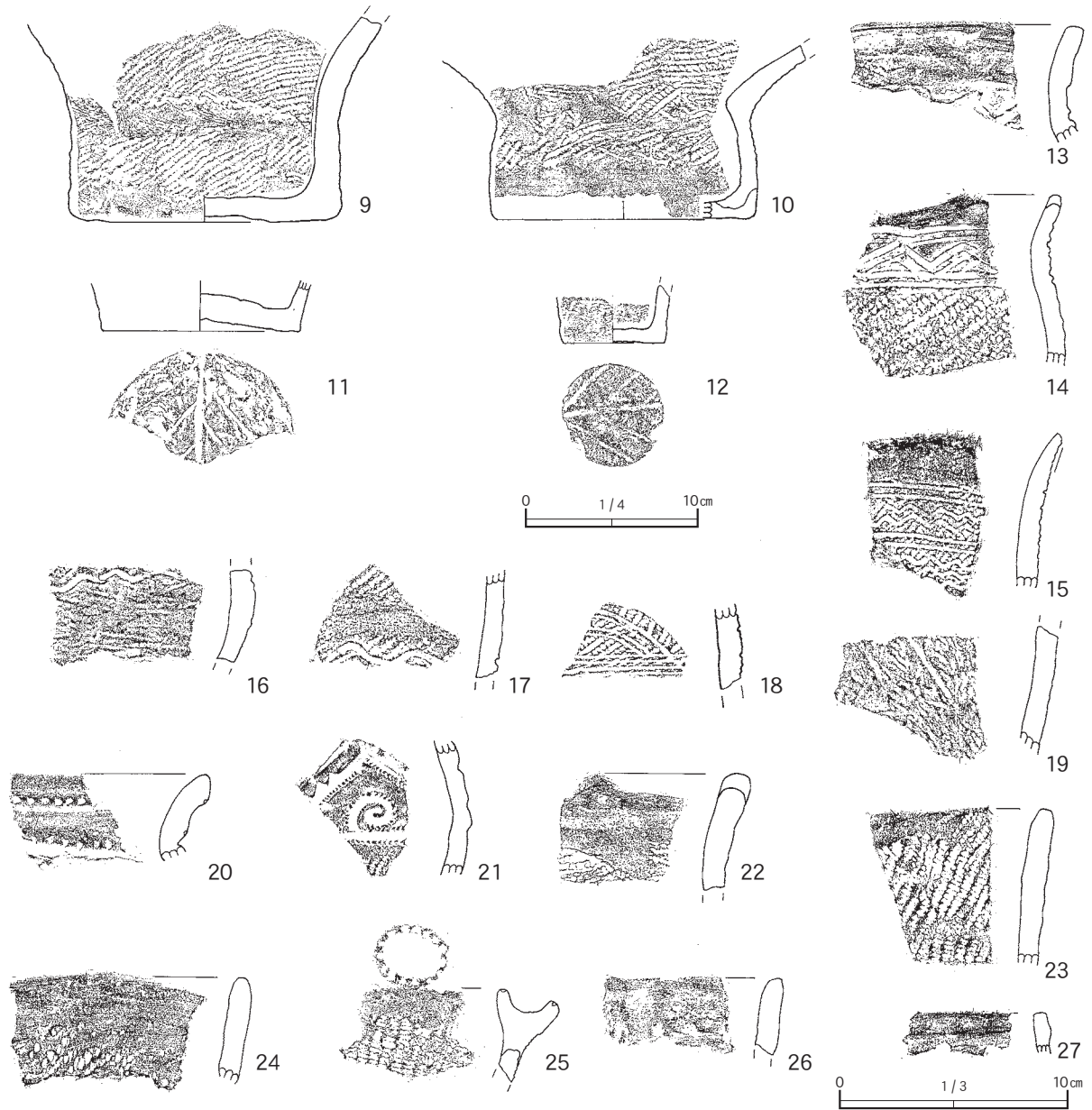


図49 31T出土土器⑧ (S=1/3・1/4)

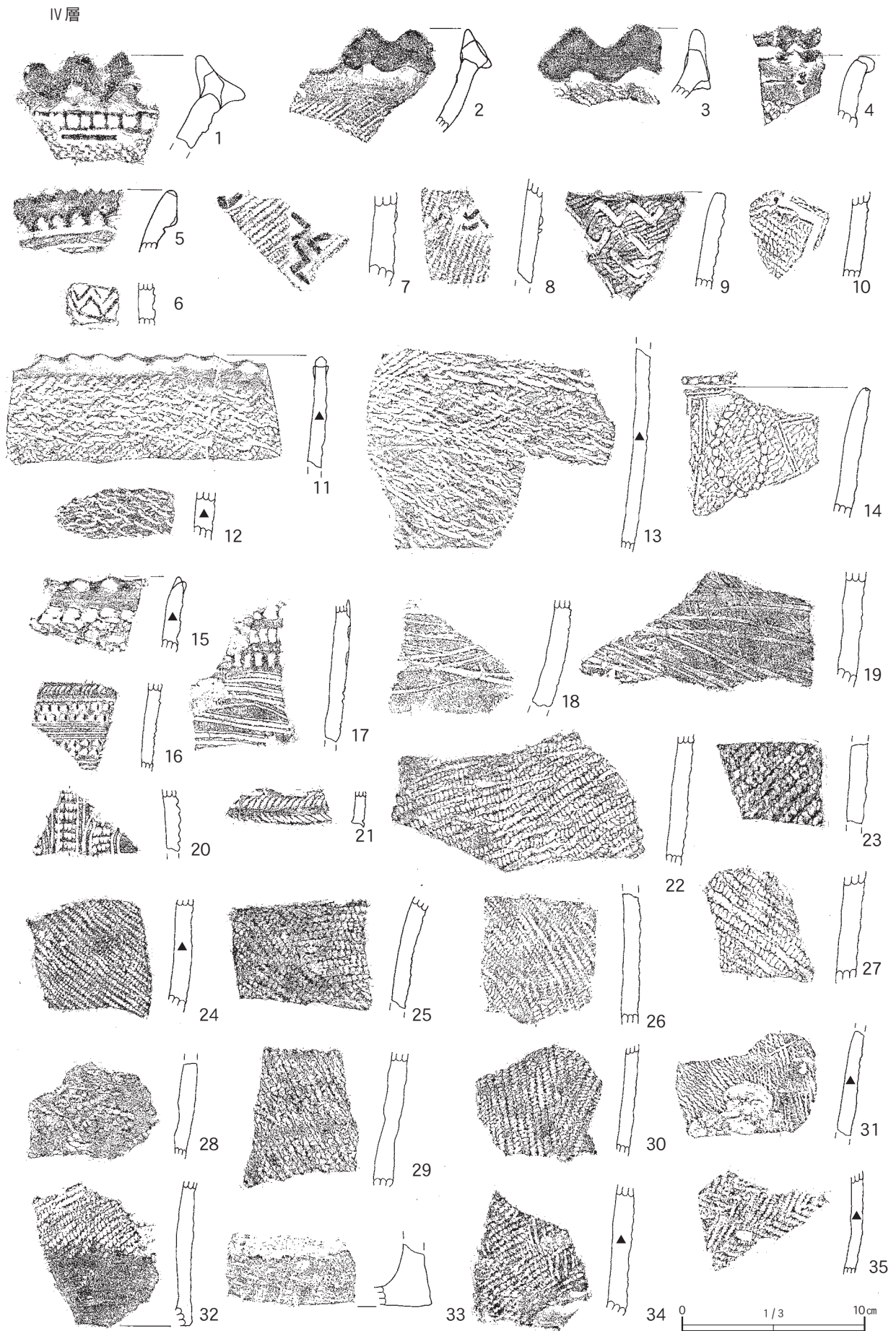


图50 31T出土土器⑨ (S=1/3)

Ⅲ-1・2類（図50-4・11~15）：14は円形竹管による縦位木葉文が施される。1類である。それ以外は2類である。4は口縁に波状粘土紐貼付文が施される。11~13は胎土に繊維を少量含み、結節回転文が重層して施されるものである。15は口縁を指頭による押捺が施され、口縁下に刺突列が見られる。

Ⅲ-5類（図49-11・12・19・23・24、図50-22~33）：少量の繊維を含むもの（図50-24・31）はⅢ-1・2類に、同図32などは胴部下端をナデ磨消しており、Ⅲ-4類に伴う可能性が高い。

Ⅲ-6類（図50-16~21）：変形爪形文（16・21）の他、条線文（17~19）などがある。16は刺突、変形爪形文、多条横線文が交互に配されている。20は沈線文間に櫛歯状工具で刺突を施すものである。

3 38T

台ノ前南貝層の斜面下位にあたるトレンチである。本調査区のⅢ-3層は、混貝土層と土主体層が互層となっている。38T土主体層は、31T土主体層と比較すると褐色を基調とする点は類似するが、全体的に混貝率は高く、層厚は薄いことが認められる。西側及び北側にサブトレンチを設定し、掘り下げて調査を行った。またサブトレンチ内にコラムサンプル（40×50cm）を設定し、厚さ5cm毎の21サンプルを採取している。サンプルは上位から順に番号をつけた。

ⅢA1層（図51-1・2・9~11）

Ⅲ層上面の漸移層である。1はⅥ群、2は带状文のⅥ-1類である。9~11はⅣ-2類と考えられる。10は隆線に沿ってC字形爪形文が施文される。ⅢC層出土の同図13と同一個体である。11は縦位の微隆起線が施されている。

ⅢC層（図51-3~8・12~20）

斜面上位のⅢ層上層にあたる。3・5~8はⅥ群である。3は隆沈線による渦巻文と楕円形区画文が認められるⅥ-1類である。4は波状口縁で隆線が施されるⅤ-2類である。12・13はⅣ-2類、14はⅣ-1類である。12はクランク状の隆線に沈線が沿うものである。頸部に刻み付貼付文が付けられている。19はⅣ群に伴う浅鉢と考えられる。15~18・20はⅢ群と考えられる。15は平行沈線区画内に円形刺突が施されるⅢ-1類である。16・18は焼成等からⅢ-4類に、20は胎土に繊維を含むことからⅢ-1・2類に伴う可能性が高い。

ⅢA~D層（図52-1~6）

本調査区のⅢ層上層にあたる。1が断面三角の隆線が施されるⅥ群、3・4・6がⅣ群、2・5がⅢ群に含められる。4は口縁上位を横位の縄文で区画し、縦位の羽状縄文が垂下するものである。頸部は縄圧痕付隆帯で区画している。6は頸部がくの字に屈曲し、胴部が膨らむ器形で、内外面にヘラ状工具によるナデが認められる。

ⅢD1層（図52-7~9）

斜面上位の中層にあたる。7・8はⅣ-3類である。8は赤彩が認められる。9は多条の有節沈線が横位に施されるⅢ-2類である。

ⅢD~E層（図52-10~12）

本調査区のⅢ層中層にあたる。10・11はⅣ-1類、12はⅣ-4類である。10は複合口縁に縦位の短沈線、胴部は沈線間に交互刺突、区画内には蕨手状のアクセント文が施されるものである。11は沈線区画内に山形文が施される。

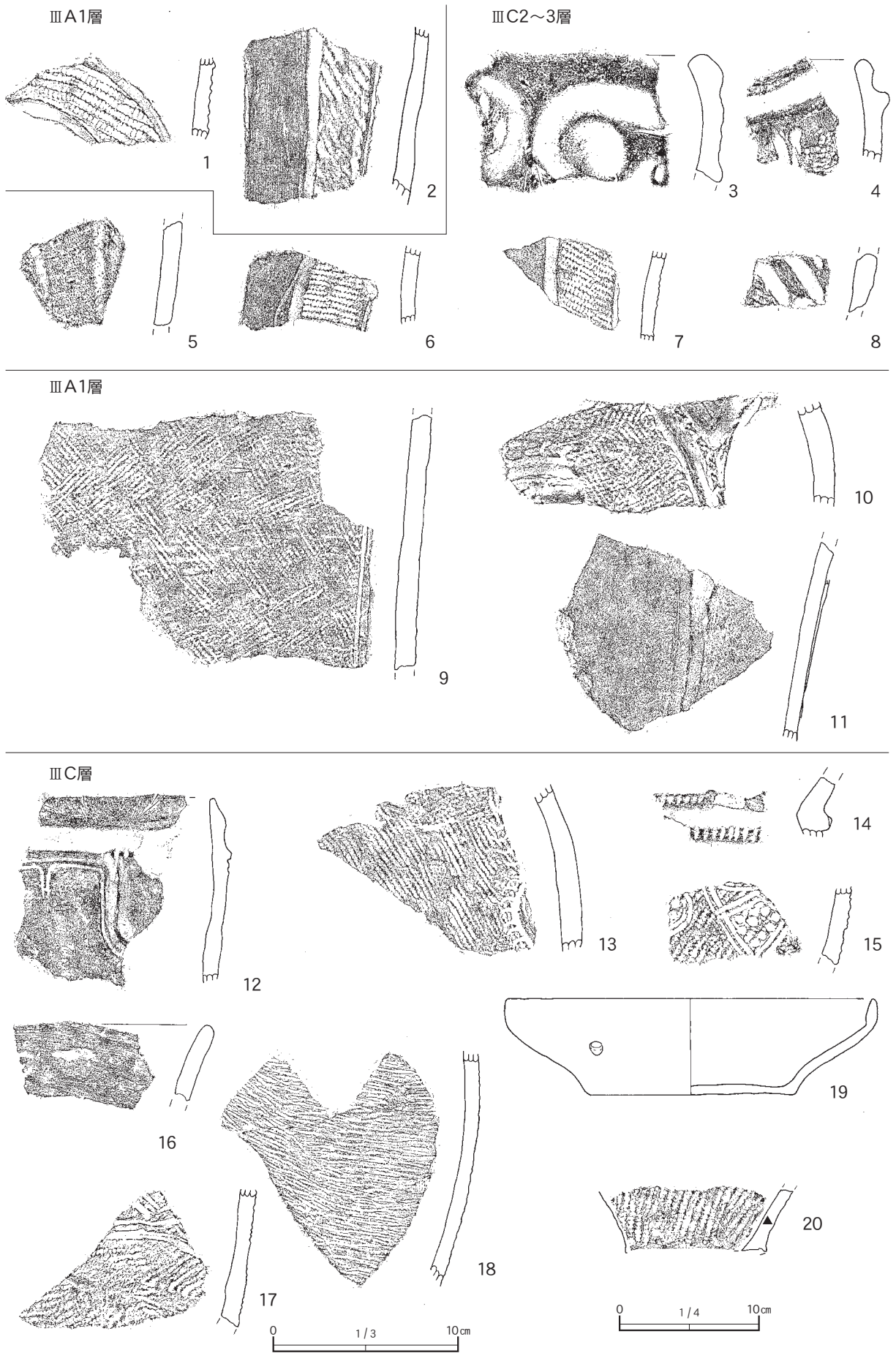


图51 38T出土土器① (S=1/3·1/4)

第3節 台ノ前南貝層出土土器

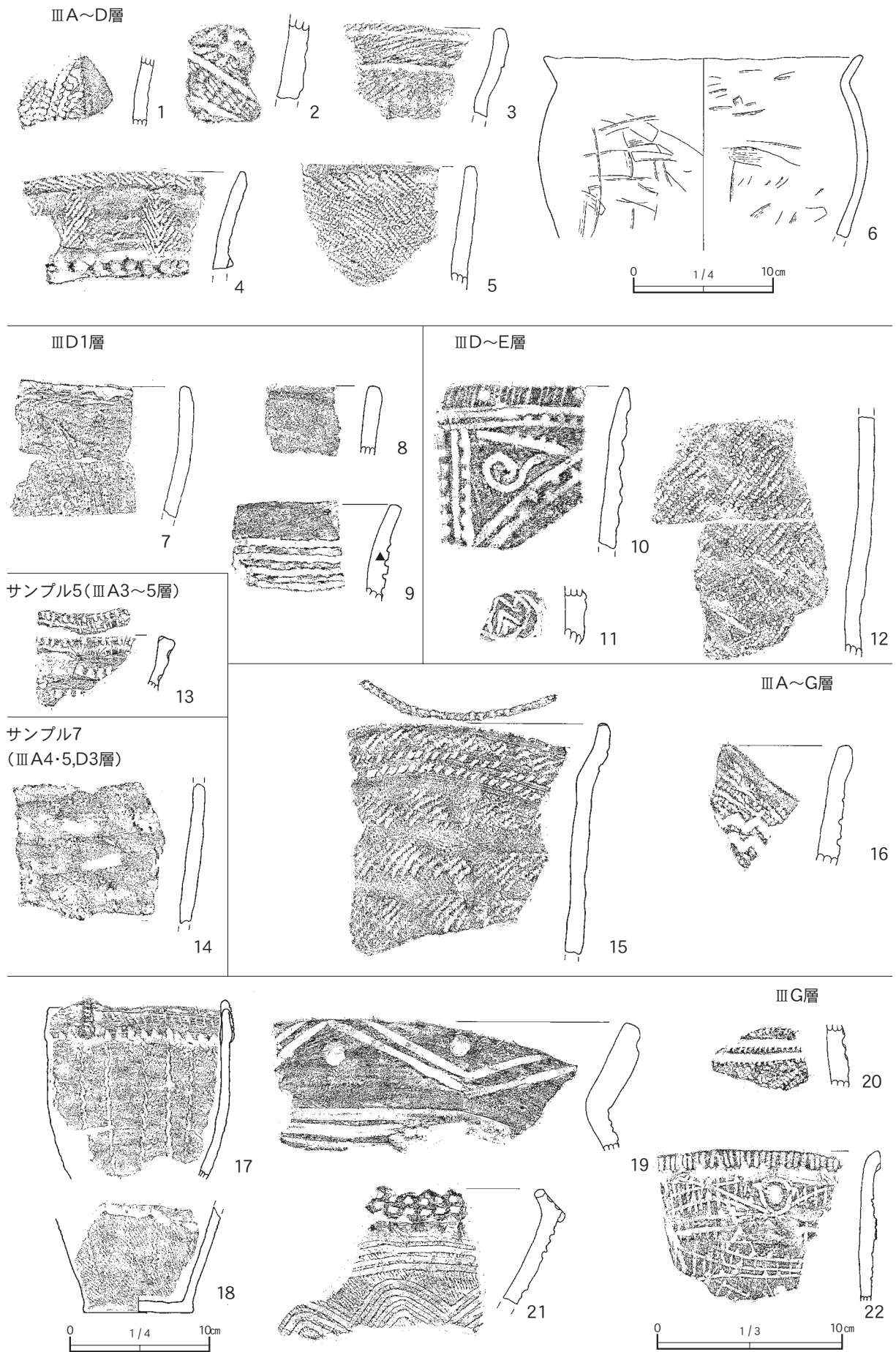


図52 38T出土土器② (S=1/3・1/4)

ⅢE~G層

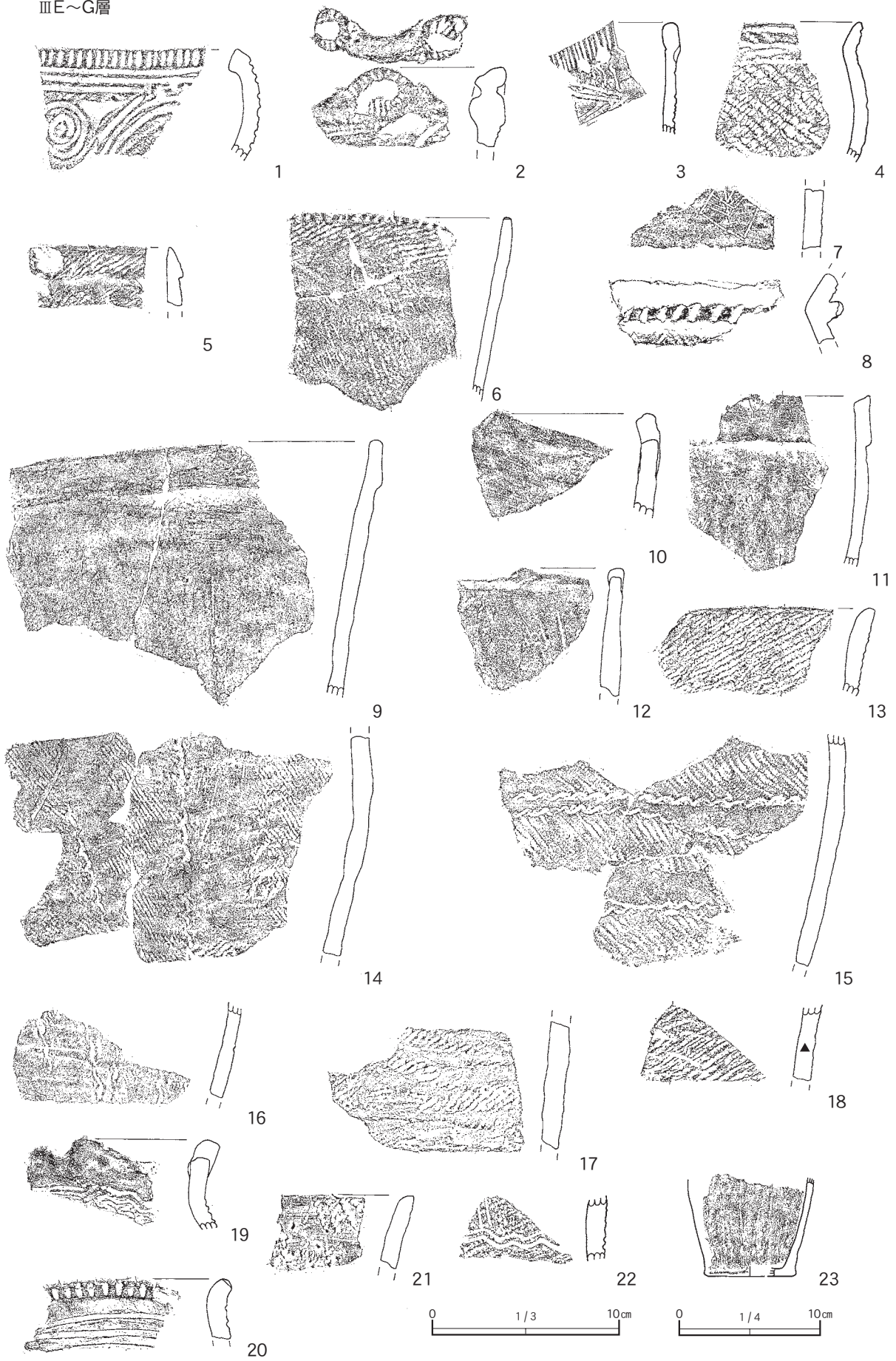


图53 38T出土土器③ (S=1/3·1/4)

ⅢG層

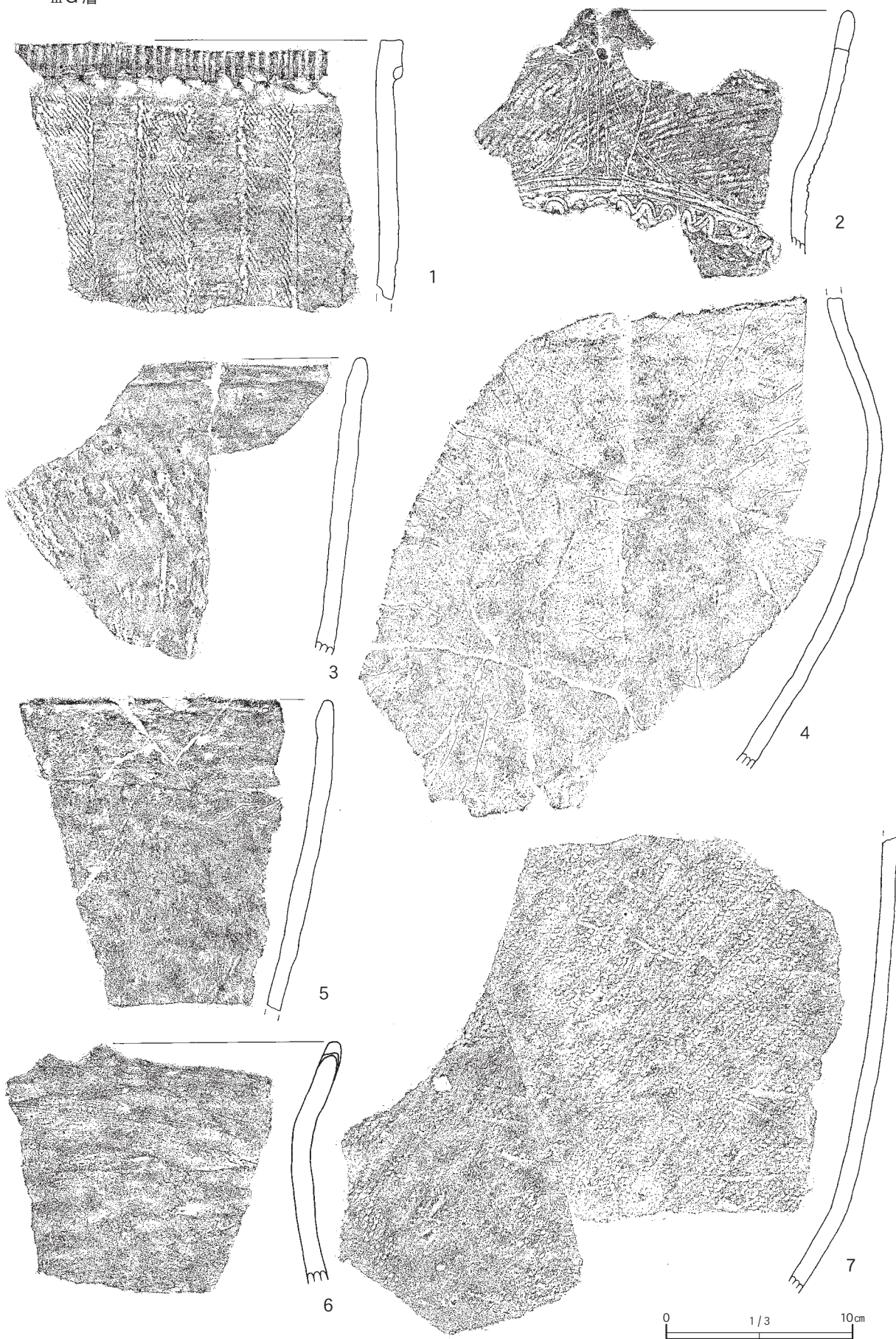


图 54 38T 出土土器④ (S=1/3)

サンプル5 (図52-13)

サンプル5はⅢA 3～5層に相当する。Ⅲ層上層にあたる。13は刺突列が複数列施される。Ⅳ群である。

サンプル7 (図52-14)

サンプル7はⅢA 4・5、D 3層に相当する。Ⅲ層中層にあたる。14はⅣ-3類である。

ⅢA～G層 (図52-15・16)

Ⅲ層からの一括出土資料である。15は受口状の口縁に結節回転文が施され、頸部に2列の刺突列が施される。Ⅳ群に含めておく。16は山形沈線文が施されるⅢ-3類である。

ⅢE～G層 (図53)

本調査区のⅢ層下層にあたる。

Ⅳ-1類 (1～3・7・8) : 1は多条沈線により、玉付三叉文が描かれるものである。弧状文と横線文の交点に交互刺突文が見られる。2は刻み付隆帯による渦巻状の突起が付く。3は口縁に三角刻みを施し、平行沈線による文様を描いている。7は垂下する矢羽状アクセント文を施文している。8は頸部に縄圧痕文が付けられた隆帯で区画し、口縁部には単沈線による文様が施されている。

Ⅳ-3類 (9～12・23) : 9・11は複合口縁である。10は波状口縁を呈し、10・12は山形状小突起がつく。

Ⅳ-4類 (4～6・14～16) : 4は口縁に横位縄圧痕文が施されている。5は複合口縁、6は口縁上端に刻みが施されており、胴部縄文は一部ナデ磨消されている。

Ⅲ-4類 (19・20・22) : 19は波状平行沈線文、20は多条横線文、22は地文上に平行沈線による文様が施されている。

Ⅲ-5類 (13・17・18・21) : 17・21は焼成等からⅢ-4類に、18は少量の繊維を含むことからⅢ-1・2類にそれぞれ伴う可能性が高い。

ⅢG層 (図52-17～22、図54)

本調査区のⅢ層最下層にあたる。

Ⅳ-1類 (図52-17・22、図54-1・2) : 図52-17・22、図54-1は縦位短沈線が施された複合口縁を呈するものである。17は縦位隆帯と口縁下端に三角刻みが施される。22は縦位の短沈線を地文とし、沈線による斜位、円形の文様モチーフが描かれる。図54-2は頸部をコンパス波状文と横線文により横位区画するものである。口縁の双頭状の突起から沈線が垂下し、方形の区画が施されている。

Ⅳ-3類 (図54-3～6) : 口縁が直線的に開くもの(3・5)と胴部が膨らみ頸部から緩やかに外反するもの(4・6)がある。6は双頭状突起が付けられている。

Ⅳ-4類 (図52-18、図54-7) : 図54-7はまだらな単斜縄文が施される。

Ⅲ群 (図52-19～21) : 19・20は4類、21は3類である。19は口縁の2条の山形文の余白に盲孔が施されている。20は沈線に沿う刻みが認められる。21は刺突が施される鋸歯状貼付文を持ち、撚糸文地に多条沈線による横線文と波状文が施されている。

Ⅳa層 (図55・56)

Ⅲ層最下層を一部含むが、主にⅢ層下の土層にあたる。

Ⅳ-1類 (図55-1～3・5) : 1は内湾する口縁に山形沈線文が施される。2・3は同一個体で細線文地に文様を描くものである。5は梯子状短沈線と三角刻み文による垂下文が描かれている。

第3節 台ノ前南貝層出土土器

IVa層

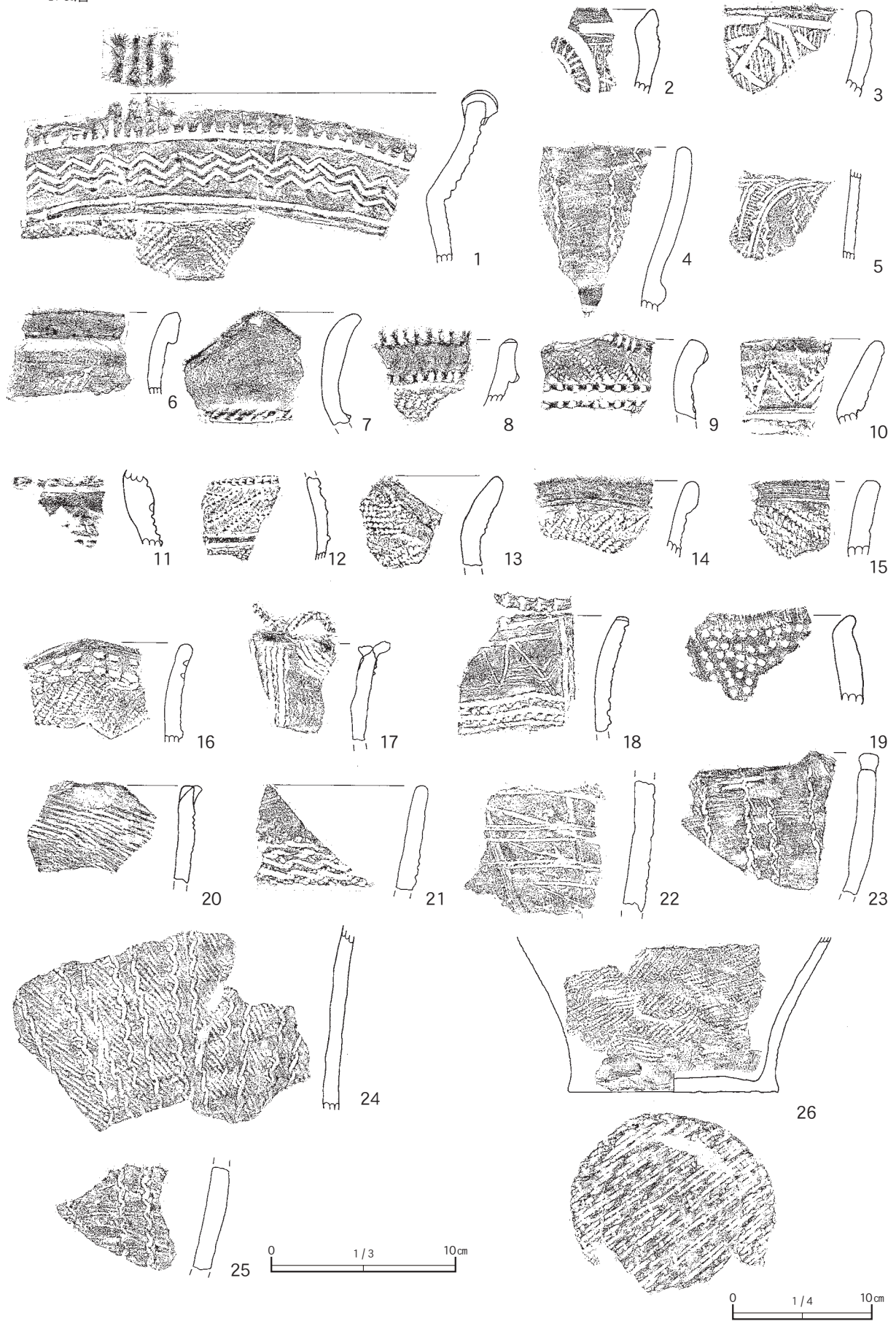


図55 38T出土土器⑤ (S=1/3・1/4)

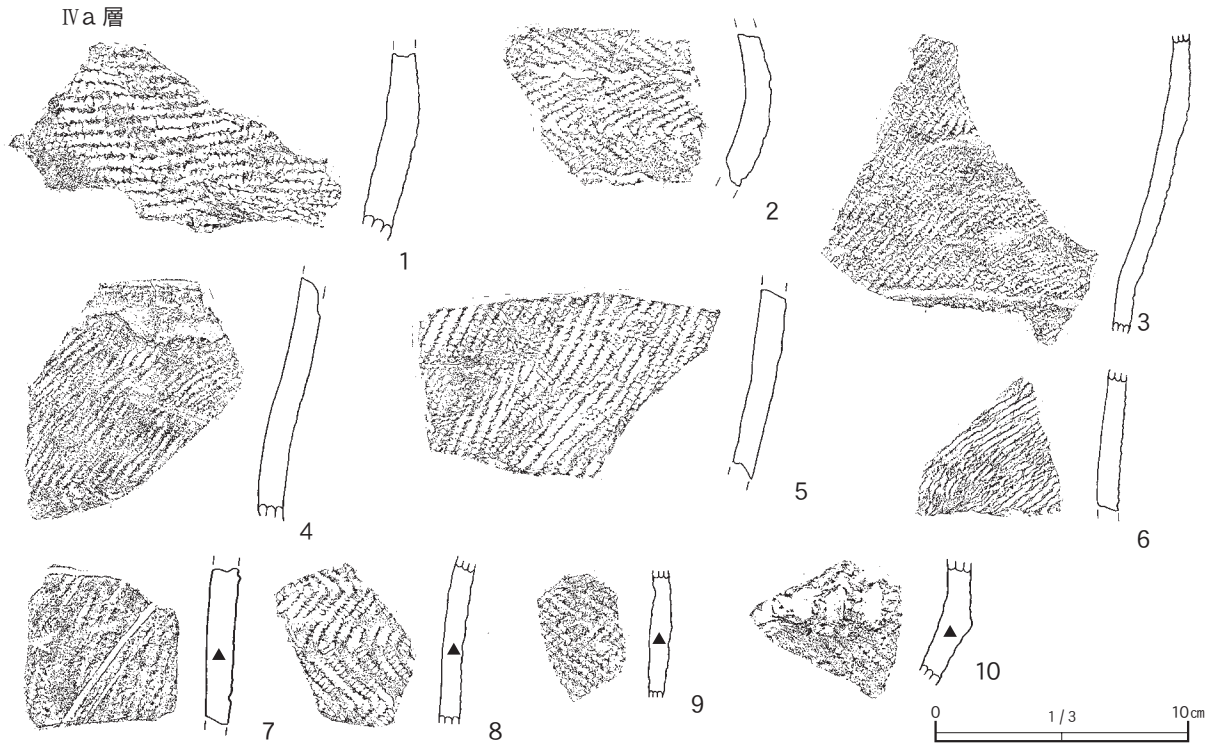


図56 38T出土土器⑥ (S=1/3)

Ⅳ-4類 (図55-4・6・23~25) : 4は頸部を隆帯で区画している。6は複合口縁を呈している。23は口縁に山形状小突起が施されている。

Ⅲ-4類 (図55-7・9~12) : 7・9は頸部隆線区画で、波状口縁を呈するものである。10は山形沈線文に沿う爪形文、11は隆帯に三角刻み、12は結節浮線文で文様を描くものである。

Ⅲ-3類 (図55-8・16) : 8は複合口縁で上下端に刻みが施されている。16は口縁に沿い2個1対の刺突列が施され、頸部に山形沈線文が描かれるものである。

Ⅲ-1・2類 (図55-17~21、図56-7) : 図55-17・18・20・21はⅢ-2類である。17・18は有節沈線で縦位の垂下文を描いている。17・20は口縁を交互押捺、21は口縁に無文部を残し、結節回転文が重層しているものである。図55-19は口縁に半截竹管による刻み、円形竹管文が施され、Ⅲ-1類と考えられる。図56-7は縄文地に沈線が施され、少量の繊維を含み、Ⅲ-1・2類に伴う可能性が高い。

Ⅲ-5類 (図55-13~15・26、図56-1~6) : 図55-13~15は口縁にナデ磨消が認められる。同図26は底部に網代痕を残す。これらは焼成等からⅢ-4類に伴う可能性が高い。

図55-22は条線文が施されるⅢ-6類である。図56-8・9は羽状縄文が施されるⅡ群、同図10は屈曲部に刺突、内面条痕が施されるⅠ群である。

第3節 台ノ前南貝層出土土器

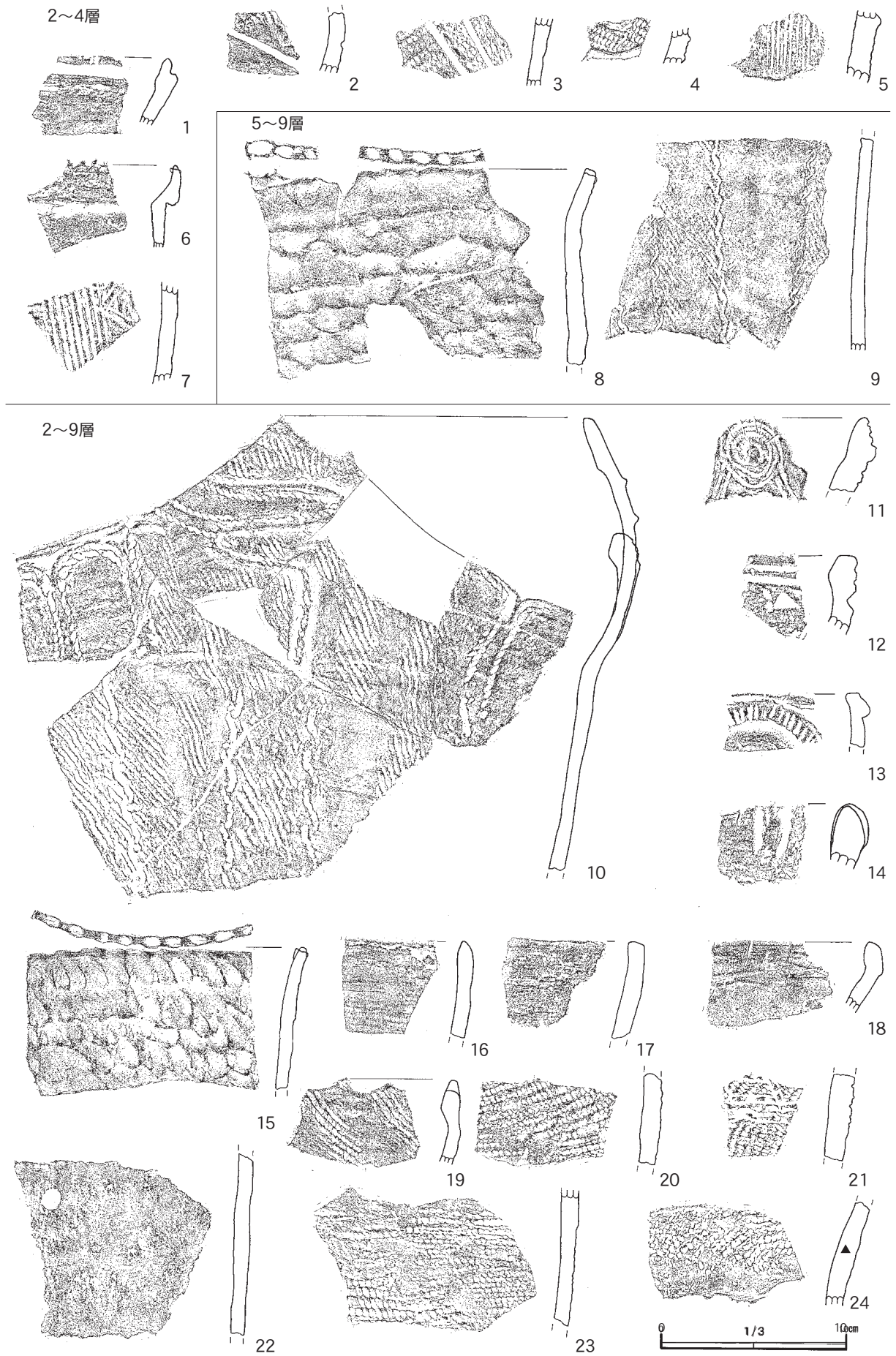


図57 39T出土土器① (S=1/3)

4 39T

台ノ前南貝層の斜面下位にあたるトレンチである。サブトレンチを設けて悉皆サンプルを採取した。本調査区のⅢ-3層は、斜面上位に混貝土層（1～4層）、土層（5～7層）が認められた。

2～4層（図57-1～7）

斜面上位のⅢ層上層にあたる。1～3・5はⅦ群である。1は口縁に単沈線が施される2類、5は口縁隆帯区画の1類と考えられる。4は断面三角の隆線が施されるⅥ-2類である。6は複合口縁で、受口状を呈し、口縁上端に刻みを施すⅣ-3類、7は集合沈線が施されるⅣ-1類である。

5～9層（図57-8・9）

本調査区Ⅲ層下層にあたる。8は輪積み痕を顕著に残し、口縁上端に押捺を施すⅣ-2類、9はⅣ-4類である。

2～9層（図57-10～24）

Ⅲ層の一括出土資料である。10～19・22はⅣ群である。10・11・15はⅣ-2類である。10は

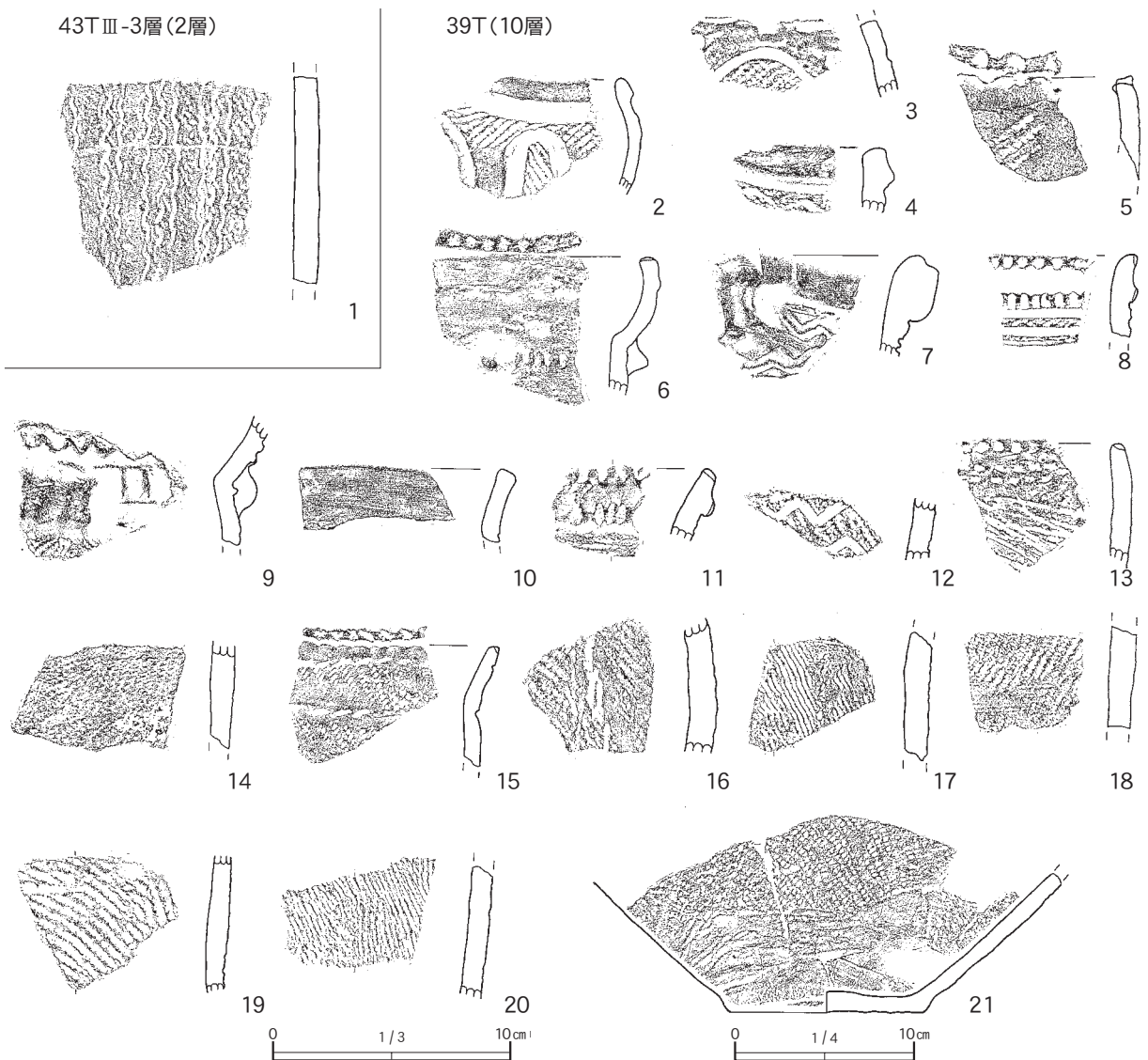


図58 39T・43T出土土器 (S=1/3・1/4)

第3節 台ノ前南貝層出土土器

三角形波状口縁で、波頂部片側に山形の小突起が施される。隆線文・縄圧痕文により、波頂部から垂下する蛇行状文、口縁に沿う下向連弧状文が施されている。11は渦巻文を施す円形の突起部で片側のみ半円状小突起がつく。15は輪積み痕を多段に残すものである。12は三角刻み、13は刻み付隆帯、14は口縁に縦位刻みを施している。19は山形状小突起を施すIV-4類、16~18・22はIV-3類である。

21は爪形文が施されるIII-4類、20・23・24はIII-5類である。24は胎土に少量の繊維を含む。

10層 (図58-2~21)

III層下の土層にあたる。一部表土下に検出されている。3は盲孔が施されるVII-2類、2は内湾する口縁のVI群である。4~6・15~17・21はIV群である。4は沈線で区画した文様を描く。5は口縁刻み、15は口縁に縄圧痕が施されるIV-4類、6は頸部に刺突列と瘤状貼付文が施されるIV-3類である。7~9はIII-4類である。7は口縁を隆帯で区画し、区画内に波状平行沈線文が施される。8は刻み付隆帯下に横線文、9は頸部に棒状貼付文を施し、ソーメン状隆線文により梯子状・波状の文様を描くものである。11は複合口縁の上下に刻み、12は山形文が施されるIII-3類である。10・18~20はIII-5類である。13は口縁に刺突列、胴部に条線文、14は貝殻腹縁文を施すIII-6類である。

5. 43T

台ノ前南貝層の斜面下位にあたるトレンチである。本調査区のIII-3層は、斜面上位に混貝土層(2層)を部分的に確認した。

2層 (図58-1)

表土下の混貝土層である。1は縦位結節回転文が施されるIV-4類である。

第4節 台ノ前北貝層出土土器

1. 台ノ前北貝層の概要

台ノ前北貝層は、東西最大約15m、南北約47mを測る。54・63Tで下端が、53・67Tで上端が確認されている。確認された最大厚は約1.8m（54T）を測り、土主体層が多い。54・63Tで混貝土層と土主体層が互層となっており、53Tでは混貝土層、67Tでは土層が中心である。掘り下げて調査を行ったのは、54・63Tの調査区であり、53・67Tは貝層上面の確認で留めている。これらの調査区から出土した資料を掲載した。

2 54T

台ノ前北貝層の斜面下位にあたるトレンチである。斜面上位及び下層に土主体層が多く、斜面下位及び上層に混貝土層が多い傾向が認められる。貝層下に獣魚骨・土器が多く出土するが、混貝率の低い28～30層があり、その下位に土層（31層）が堆積している。2～30層をⅢ－3層としている。調査は、幅60cmのサブトレンチを設けて実施し、2・8～30層の悉皆サンプルを採取している。

Ⅲ－3層上面（図59－1～15）

Ⅲ層確認時上面からの一括出土資料である。1は、口縁内面が突出し、弧状沈線文に縦位の集合沈線が施されている。頸部は、横位沈線で区画する。V－3類としておく。2はVI－1類、3は隆沈線による渦巻状文様を施すV－2類である。4～6はIV－2類と考えられる。4は縦位に、5は横位に縄圧痕文を施し、6は相対する弧状隆帯が口縁に付けられている。7～10・12・13はIV－1類である。7は突起形三角波状口縁である。頸部を沈線区画し、上下交互の三角刻みが見られる。内面にも三角刻みが施される。8は交互刺突文列、9は刺突によるT字状の文様が描かれている。10は口縁の斜格子状文上に三角刻みが施されている。12は頸部に貼付文を付け、平行沈線で横区画し、弧状の垂下文様が施されている。13は複合口縁で、口縁に縦位短沈線、下端に三角刻みが施されている。11は口縁部無文のIV－4類で、14・15はⅢ－4類である。14は双頭状突起が付けられる。15は複合口縁で、口縁上端を棒状工具による押捺、下端に爪形文を施している。

3層（図59－16・17）

Ⅲ層上の漸移層である。16は波頂部から縦位コンパス文が施されるⅢ－2類、17はY字状隆線文が施されるIV群である。

2層（図59－18～26）

斜面中位のⅢ層最上層である。本調査区では最も混貝率が高い。18・19はIV群である。いずれも口縁に横位有節沈線文が2条施され、内面に1条の単沈線が施される。20～22はIV－3類である。20は口縁上端に刻みが施され、21は波状口縁、22は複合口縁を呈する。23・24はIV－4類で、24は複合口縁を呈する。25・26は胎土に少量の繊維を含むⅢ－5類である。

8層（図60－1～15）

表土下及び斜面上位の2層下にあり、Ⅲ層上層にあたる。1・2はIV－3類で、1は口縁に指頭押捺が施される3段の輪積み痕を残している。3・12・13はIV－4類である。3は、口縁が横位、頸部は縦位の縄文が施文されている。4・5はIV－1類である。4は平行沈線による山形文、5は梯子状短沈線と三角刻みが施されている。6～10はⅢ－4類である。6～8は平行沈線、9は爪形文による文様が描かれる。11は外面赤彩が施される浅鉢である。Ⅲ－6類に含めておく。14・15はⅢ－5類である。

第4節 台ノ前北貝層出土土器

Ⅲ-3層上面

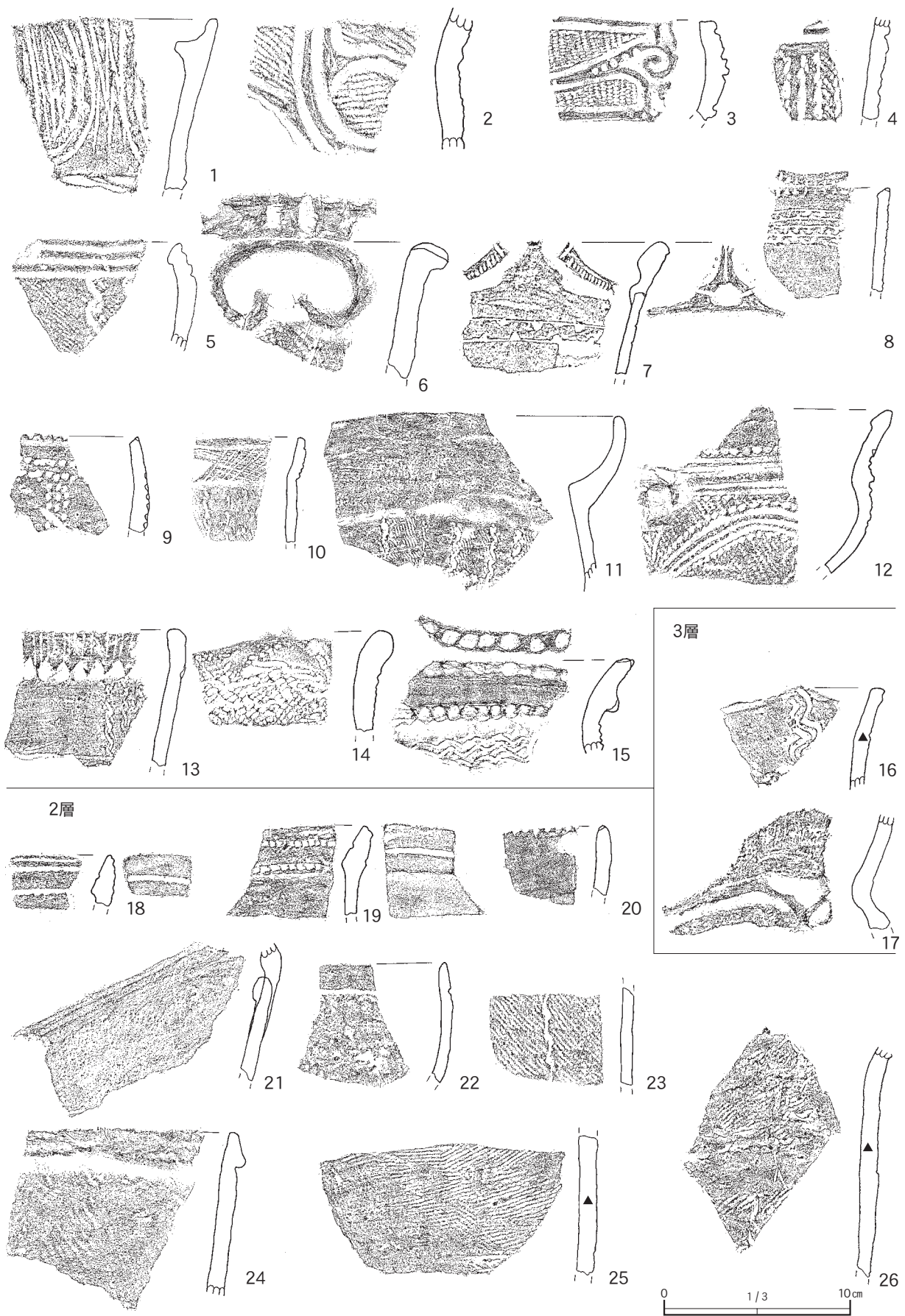


图59 54出土土器① (S=1/3)

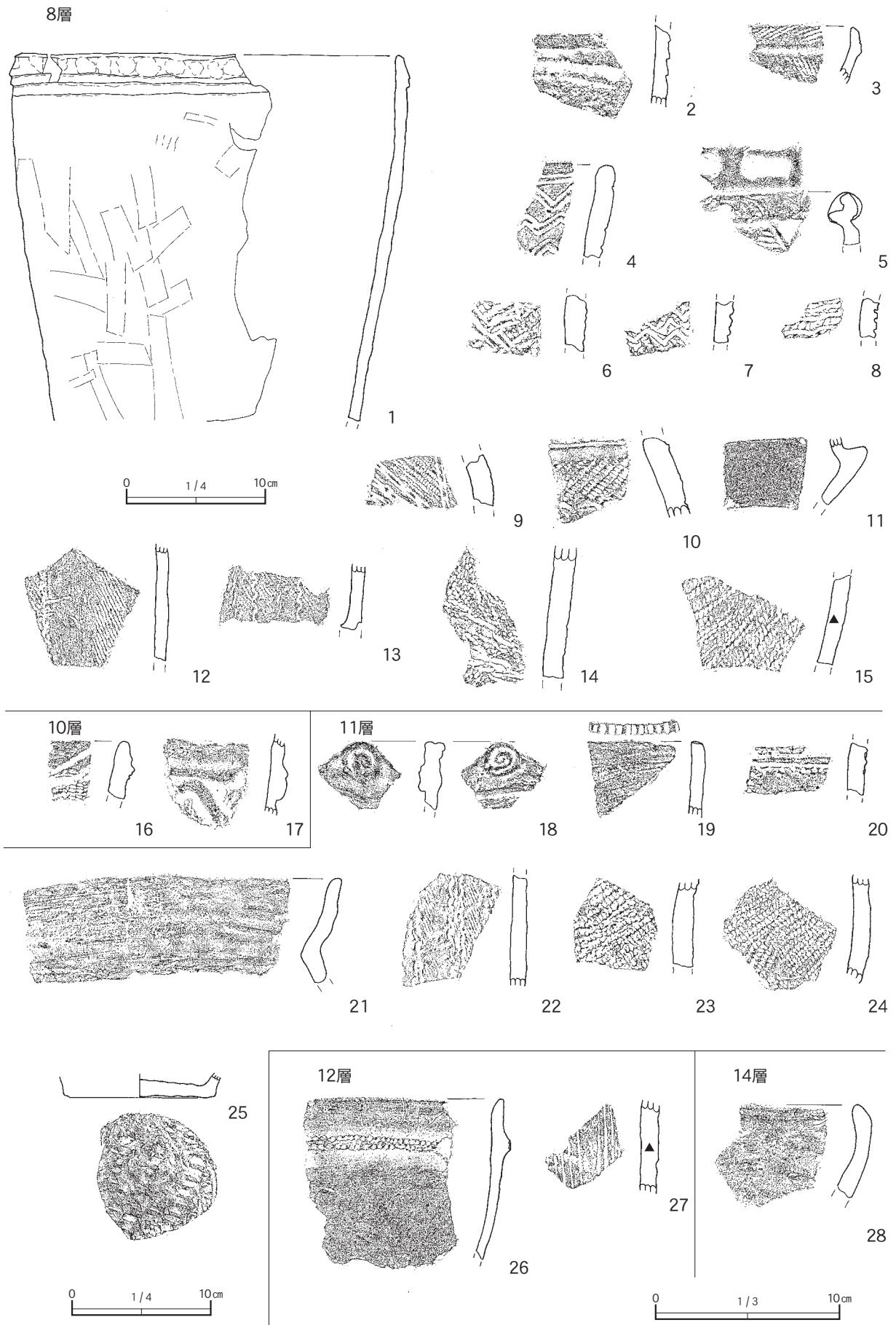


图60 54T出土土器② (S=1/3·1/4)

10層 (図60-16・17)

斜面上位の8層下にあり、Ⅲ層上層にあたる。16は複合口縁で、斜位の縄圧痕文が施される。Ⅳ-2類に含めておく。17はY字状隆線文が施される。Ⅳ群である。

11層 (図60-18~25)

斜面上位の8層下にあり、Ⅲ層上層にあたる。18・19・21はⅣ-3類、22はⅣ-4類である。18は内外面に渦巻文が施される波頂部である。19は口縁に刻みが施され、21は頸部が屈曲する器形を呈する。20は沈線に沿って三角刻みが施されるⅣ-1類である。23・24はⅢ-5類である。

12層 (図60-26・27)

斜面下位の8層下にあり、Ⅲ層上~中層にあたる。26は頸部に刺突が施された隆帯が横位に付けられるⅣ-3類、27は縦位多条平行沈線文が施されるⅢ-1・2類である。

14層 (図60-28)

斜面上位の11・13層下にあり、Ⅲ層上~中層にあたる。28は内湾する口縁のⅣ-3類である。

15層 (図61-1~7)

斜面下位の8層下にあり、Ⅲ層上~中層にあたる。1・2・6・7はⅣ-3類である。1は頸部が屈曲し、2は直線的に開く器形である。3はⅢ-4類で口縁上端に刻みを施している。4はⅣ-4類である。5は平行沈線による波状文が施されるⅢ-4類である。

17層 (図61-8・9)

斜面中位の15層下にあり、Ⅲ層中層にあたる。8は口縁上端に刻み、頸部に刺突列が施されるⅣ-3類である。9はⅢ-5類である。

18層 (図61-10~16)

斜面上位の14~16層下にあり、Ⅲ層中層にあたる。10・13はⅣ-3類である。10は直線的に開く器形である。13は複合口縁で、小波状を呈する。14は細線文地に横線文を描くⅣ-1類、15・16はⅣ-4類である。11は多条の平行沈線、有節沈線、爪形文が施されるⅢ-6類、12は複合口縁の下端に縦位刻みが施されるⅢ-4類である。

19層 (図61-17~22)

斜面中位の17・18層下にあり、Ⅲ層中層にあたる。17・18・21はⅣ-3類である。17は直線的に開く器形を呈している。18は複合口縁で、上下端に刻みが施される。19・20はⅣ-4類で、19は口縁下端を隆線で区画している。22はⅢ-5類である。

20層 (図61-23~26)

斜面上位の18層下にあり、Ⅲ層中層にあたる。23は縦位・斜位に縄圧痕文と三角刻みが施されている。Ⅳ-2類としておく。24~26はⅣ-3類である。26は口縁部に輪積み痕を多段に残している。

17~20層 (図62-1)

斜面上中位にあるⅢ層中層からの一括出土資料である。1はⅣ-4類で、直線的に立ち上がる器形である。

21層 (図62-2~13)

斜面中位の19・20層下にあり、Ⅲ層中層にあたる。

Ⅳ-1類 (3~5) : 3~5は同一個体である。波状口縁で波頂部は弁状を呈し、3個の刻みが付けられる。頸部は横線文とそれに沿う刺突、交互刺突によって横位区画し、橋状の貼付文が付けられている。胴部も同様の垂下文様が施される。

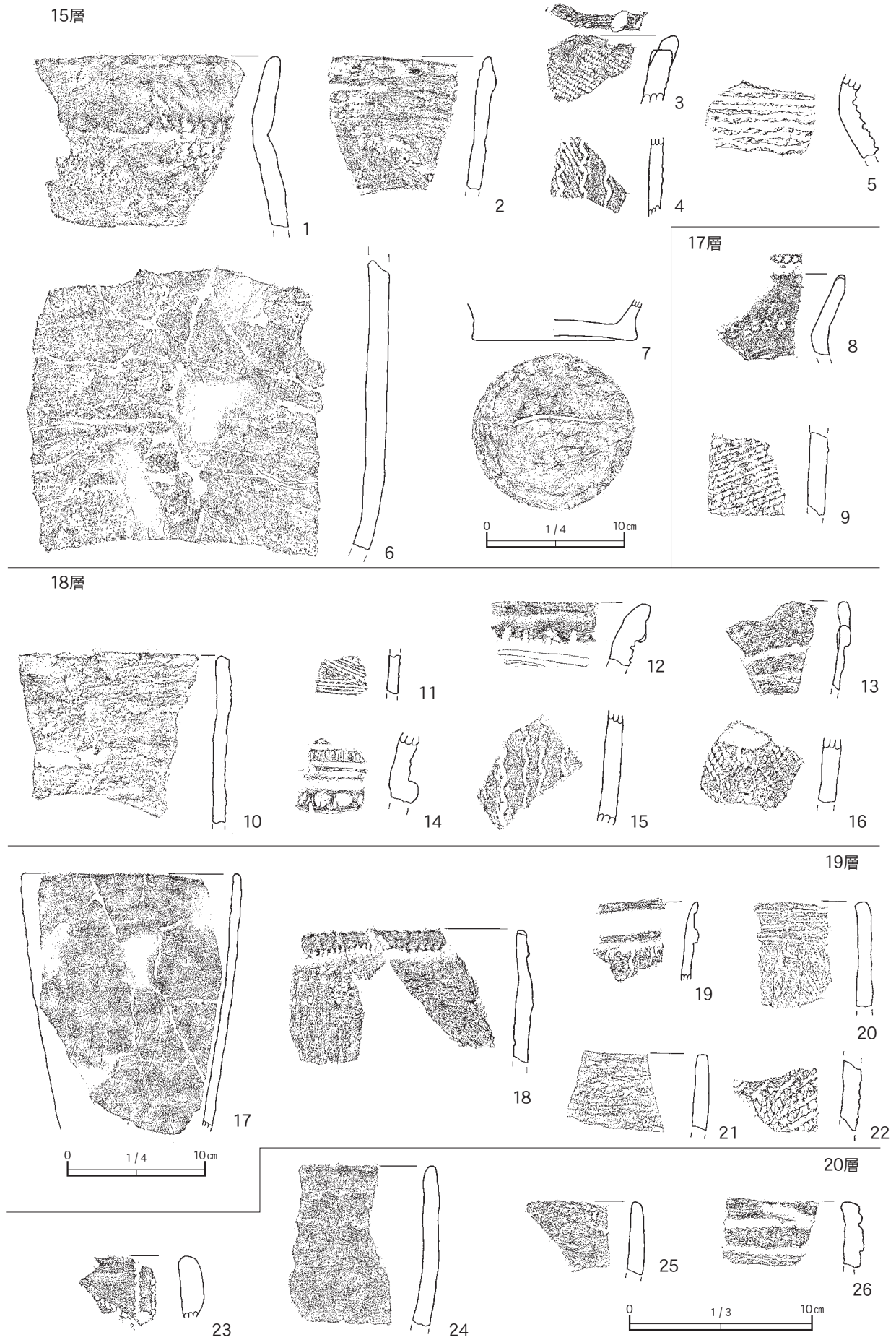


図61 54T出土土器③ (S=1/3・1/4)

第4節 台ノ前北貝層出土土器

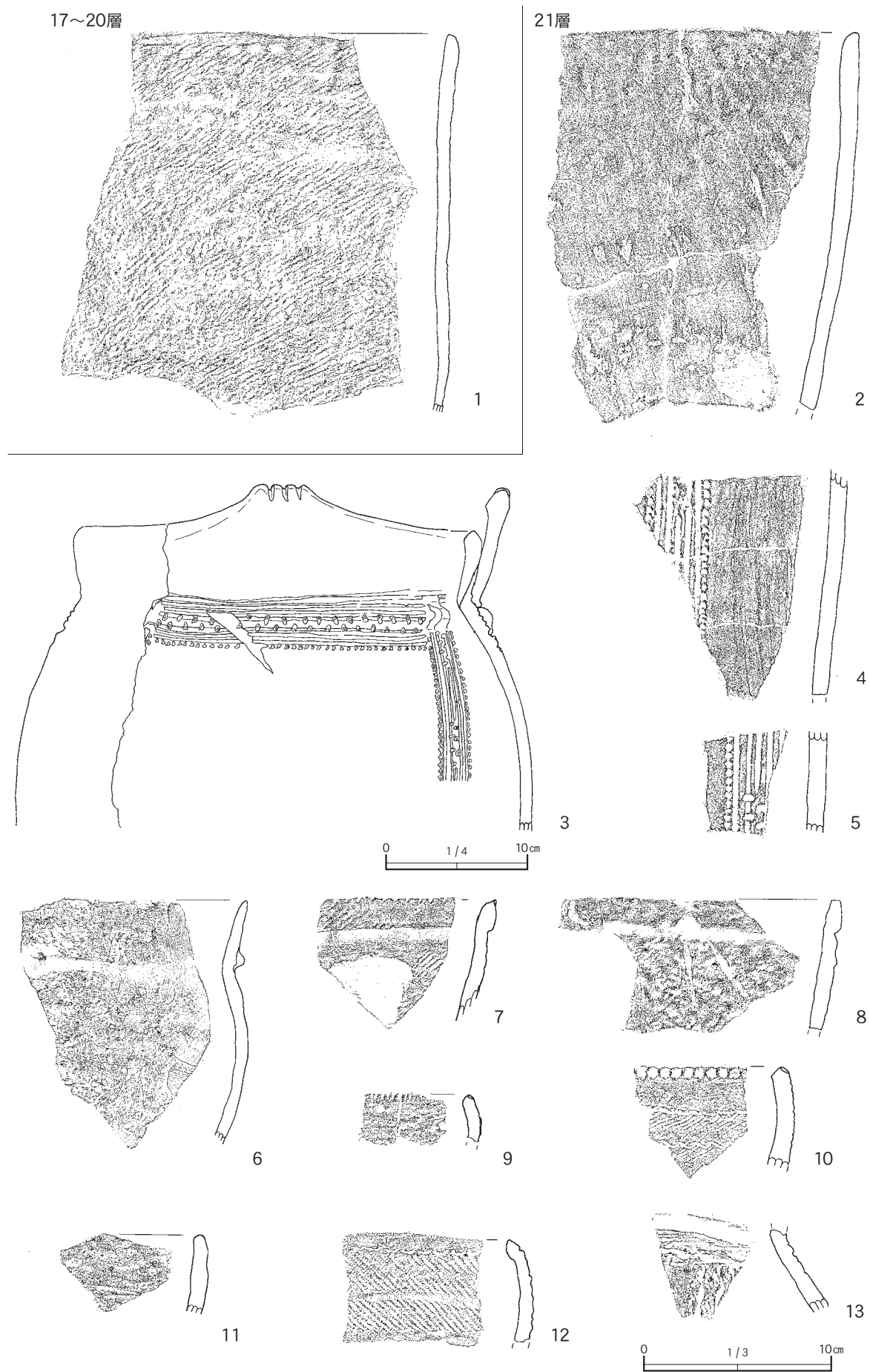


図62 54T出土土器④ (S=1/3・1/4)

IV-3類(2・6・8・9・11)：2は直線的に立ち上がる器形、6は頸部が屈曲し、わずかに輪積み痕を残し、瘤状貼付文を施す。8は複合口縁、9は口縁が内湾し、刻みが施されている。11は波状口縁である。

IV-4類(7・10・12・13)：7・10は上端に刻みが施され、7は複合口縁を呈する。13は縄文、結節回転文を縦横に施文し、T字状のモチーフを描いている。

22層(図63-1~23)

斜面下位の表土及び8層下にある、Ⅲ層中下層にあたる。

IV-1類(1・2・21)：1は口縁が大きく開く器形である。複合口縁を呈し、内面に1条の隆帯が施される。口縁下の文様帯に縦位の橋状貼付文が付けられる。胴部は縄文施文した隆線により方形の区画が成され、区画内に沈線による相対する弧状文と縦横の直線文を描く。沈線に沿って刺突も施されている。文様中央の交点部にも橋状の貼付文が付けられる。2は頸部が屈曲し、胴部がわずかに膨らむ器形である。頸部の横位沈線間に刺突を一部分充填し、刺突による三角形のモチーフを描いている。胴部には単沈線による大きな山形文を施している。21は縦位刻み付隆線で区画し、多条山形文を描くものである。

IV-2類(4)：4は波頂部から垂下する波状隆線文を施す。

IV群(8・22)：8は縦位の刺突、22は頸部隆線に刻みを施している。

IV-3類(5・7・12~15)：7は口縁上端に刻み、頸部に刺突列を施すものである。12は頸部が屈曲し、複合口縁を呈する。15も口縁上端に縄圧痕文による刻みが施されている。

IV-4類(10・11・16・17・19)：10は複合口縁で上端に刻みを施す。口縁部は横位、頸部には縦位に縄文が施されている。

6はソーメン状隆線文が施されるⅢ-4類、3・9・18・23はⅢ-5類、20は縦位条線文が施されており、Ⅲ-6類に含めておく。

23層(図64-1~23、図65-1~10)

斜面下位の表土下にある、Ⅲ層下層にあたる。

IV-2類(図64-2・8・9)：2は縦位沈線文を地文とし、胴部下端に連弧状文を施すものである。8・9は同一個体で、下向きの弧状隆線文とそれに沿う縄圧痕文が施されている。

IV-1類(図64-1・4、図65-6・10)：図64-1は波状口縁を呈する。頸部を沈線で区画し、Y字状の垂下文が胴部中途まで施される。口縁部は単沈線による多重の三角状文を描いている。同図4も波状口縁で、波頂部は弁状を呈し、刻みが施されている。波頂部から垂下する単沈線により縦位区画され、蕨手状のアクセント文が描かれている。図65-6は縦位沈線、同図10は刻み付隆線が施されるものである。

IV群(図64-3・6・7・12)：6は輪積み痕を残し、口縁上端に横位縄圧痕文を施している。12も輪積み痕を残すものである。7は隆線及び沈線により胴部を方形に区画している。

IV-3類(図65-1~3・5)：1~3は複合口縁を呈するものである。

IV-4類(図64-13~20・22・23、図65-4)：図64-13は波状口縁、同図17は上端に刻みを施し、口縁下に輪積み痕を残している。同図18は隆線貼付により小突起を施し、上端に刻みをつけている。

Ⅲ群(図64-5・10・11・21、図65-7~9)：図64-5は縦位山形文、図65-7は横位山形文が施されている。Ⅲ-3類に含めておく。図65-8・9は太描沈線で描くものでありⅢ-4類と考えられる。図64-21はⅢ-5類、同図10・11は櫛描条線文のⅢ-6類である。

第4節 台ノ前北貝層出土土器

22層

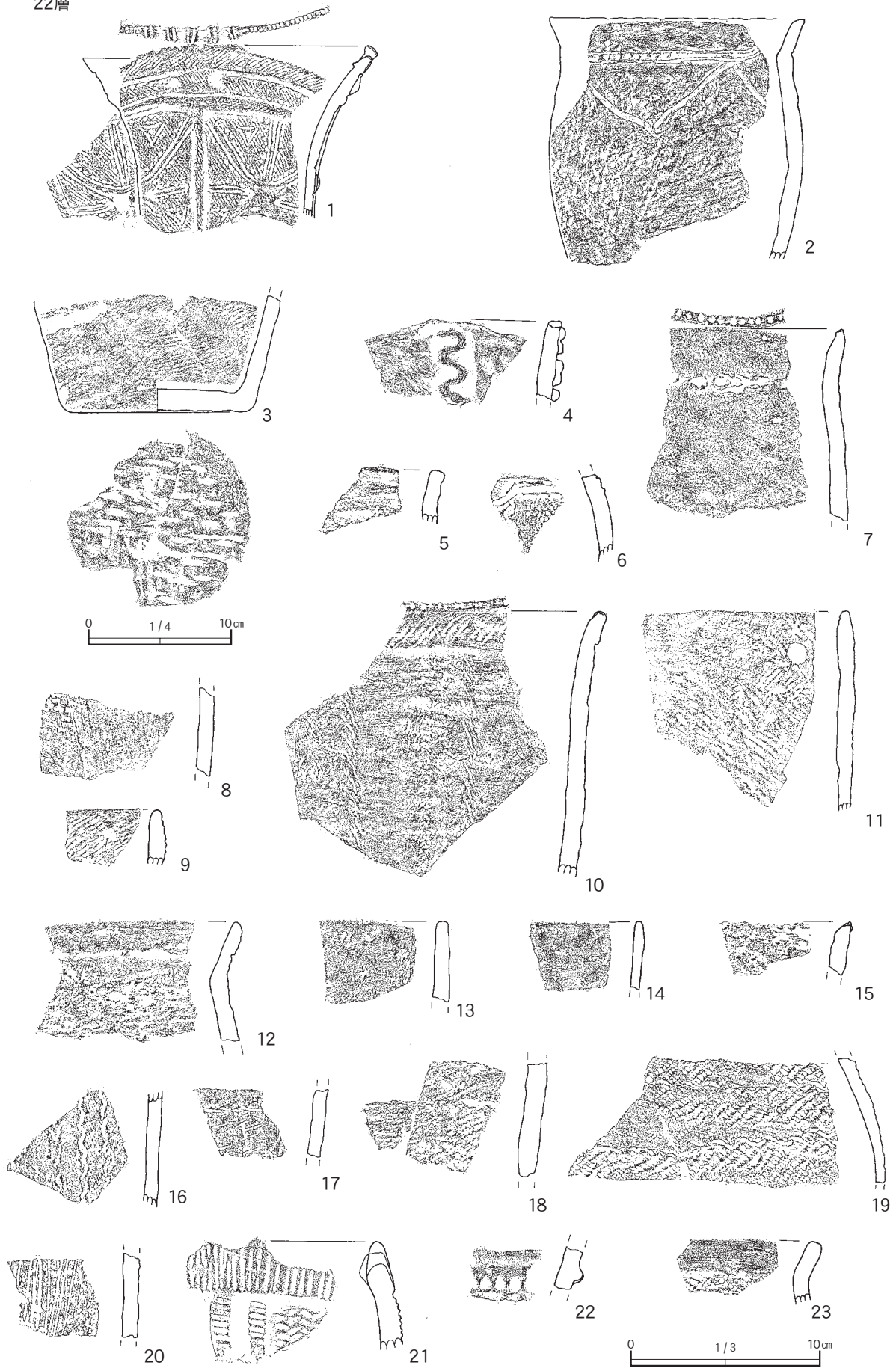


図63 54T出土土器⑤ (S=1/3・1/4)

23層

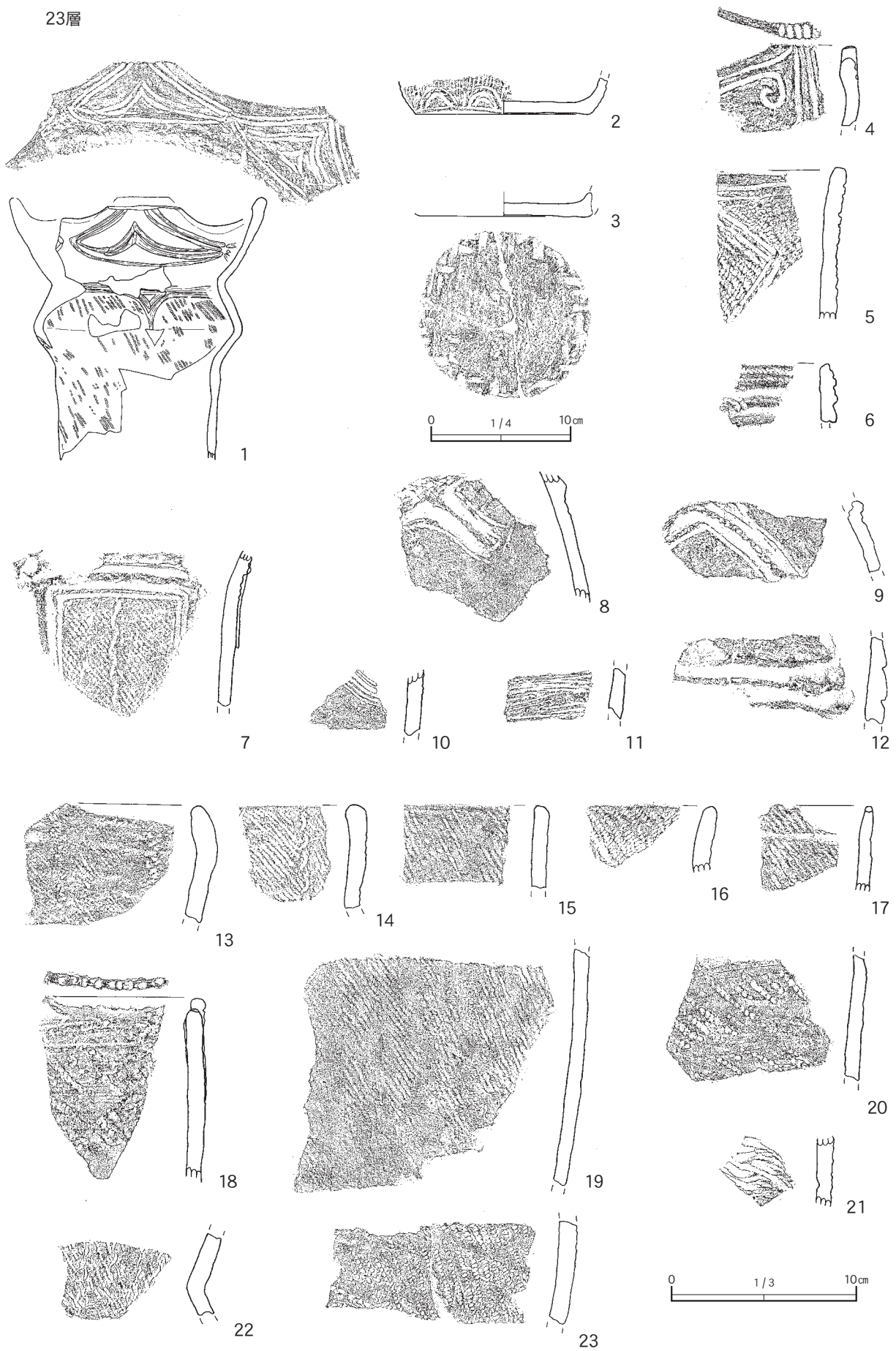


图64 54T出土土器⑥ (S=1/3·1/4)

第4節 台ノ前北貝層出土土器

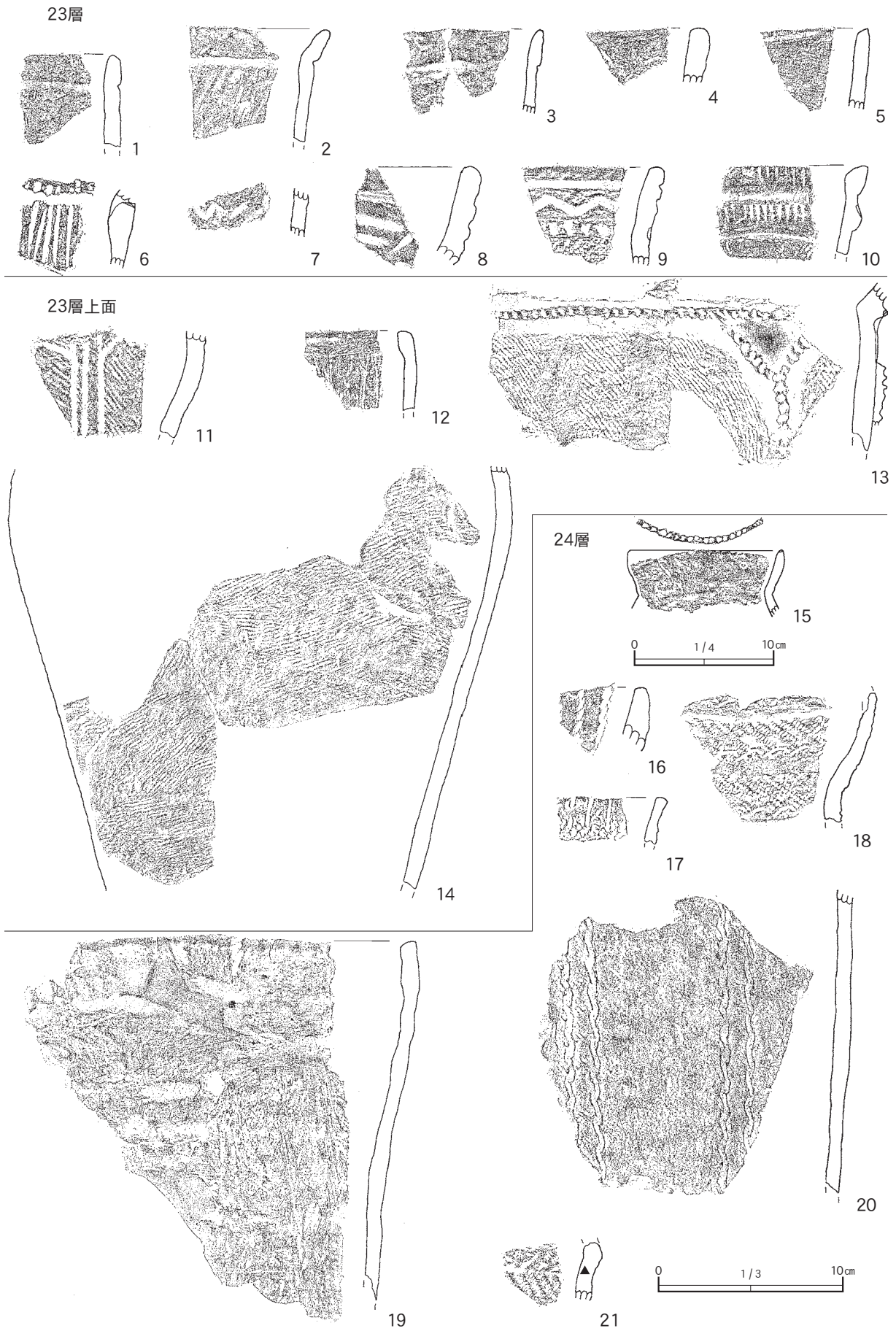


図65 54T出土土器⑦ (S=1/3・1/4)

23層上面 (図65-11~14) ※1

Ⅲ層確認時の、23層上面からの一括出土資料である。11・13はⅣ-2類である。11は縄圧痕文により文様を描く。13は縄圧痕付き隆線により横位区画及びY字状文が施されている。12はⅣ-3類、14はⅣ-4類である。

24層 (図65-15~21)

斜面上中位の18~22層下であり、Ⅲ層下層にあたる。16は縦位縄圧痕文が施される。Ⅳ-2類としておく。15・19はⅣ-3類である。15は頸部が屈曲し、口縁が内湾している。19は直線的に立ち上がり、口縁がやや内湾するものである。18・20はⅣ-4類である。17は口縁部であり、縄文地に縦位の短沈線が施されている。Ⅲ-1類に含めておく。21は頸部隆起部に刻みを施すⅡ群である。

25層 (図66-1~18)

斜面上位の20・21・24層下であり、Ⅲ層下層にあたる。

3・4・6・7はⅣ-1類である。3は複合口縁を呈し、口縁に横位の刺突列、口縁下に山形状に三角刻みが施されている。4は口縁縦位短沈線を施し、斜位沈線に沿う三角刻み文が施されている。6は沈線及び刺突によって文様を描き、7は縦位隆帯が貼り付けられている。8~11・17はⅣ-4類、18はⅣ-3類である。8は頸部に貼付文を施し、口縁が内湾している。5はⅢ-4類である。口縁に二山以上の突起が付き、頸部に爪形文により上下区画された山形文を描くものである。1は木目状撚糸文を縦位に施文するものである。2は入組木葉文を多条の沈線で描くものと考えられる。これらはⅢ-6類に含めておく。12~15はⅢ-5類、16はⅡ群である。

17~28層 (図66-19~23)

Ⅲ層中下層からの一括出土資料である。19・20はⅣ-1類である。19は三角刻みを施した複合口縁で、縦位の貼付文が施されている。胴部は沈線による上向弧状文間に三角刻みを充填している。20は頸部を刻み付隆帯で区画し、梯子状短沈線文が口縁に施されている。21~23はⅣ-3類である。21は口縁に横位1条の縄圧痕文が見られる。

26層 (図67-8、図68-1~12)

斜面上位の24層下であり、Ⅲ層下層にあたる。図67-8、図68-1~5はⅣ-1類である。図67-8は頸部に隆帯をめぐらせ、縦位棒状の貼付文がつく。隆帯の上下には爪形文を施文している。図68-1は口縁に瘤状の突起が付き、梯子状短沈線が施される。同図2は単沈線による文様、同図3は横線文、同図4は三角状の垂下文下に瘤状貼付文、同図5は隆帯区画内に刺突列を施している。図68-6・12はⅣ-3類である。6は口縁上端に刻みが見られる。同図7~10はⅣ-4類、同図11は縦位条線文でⅣ群に含めておく。

27層 (図67-1~7、図68-13~27、図69~70、図71-1~23)

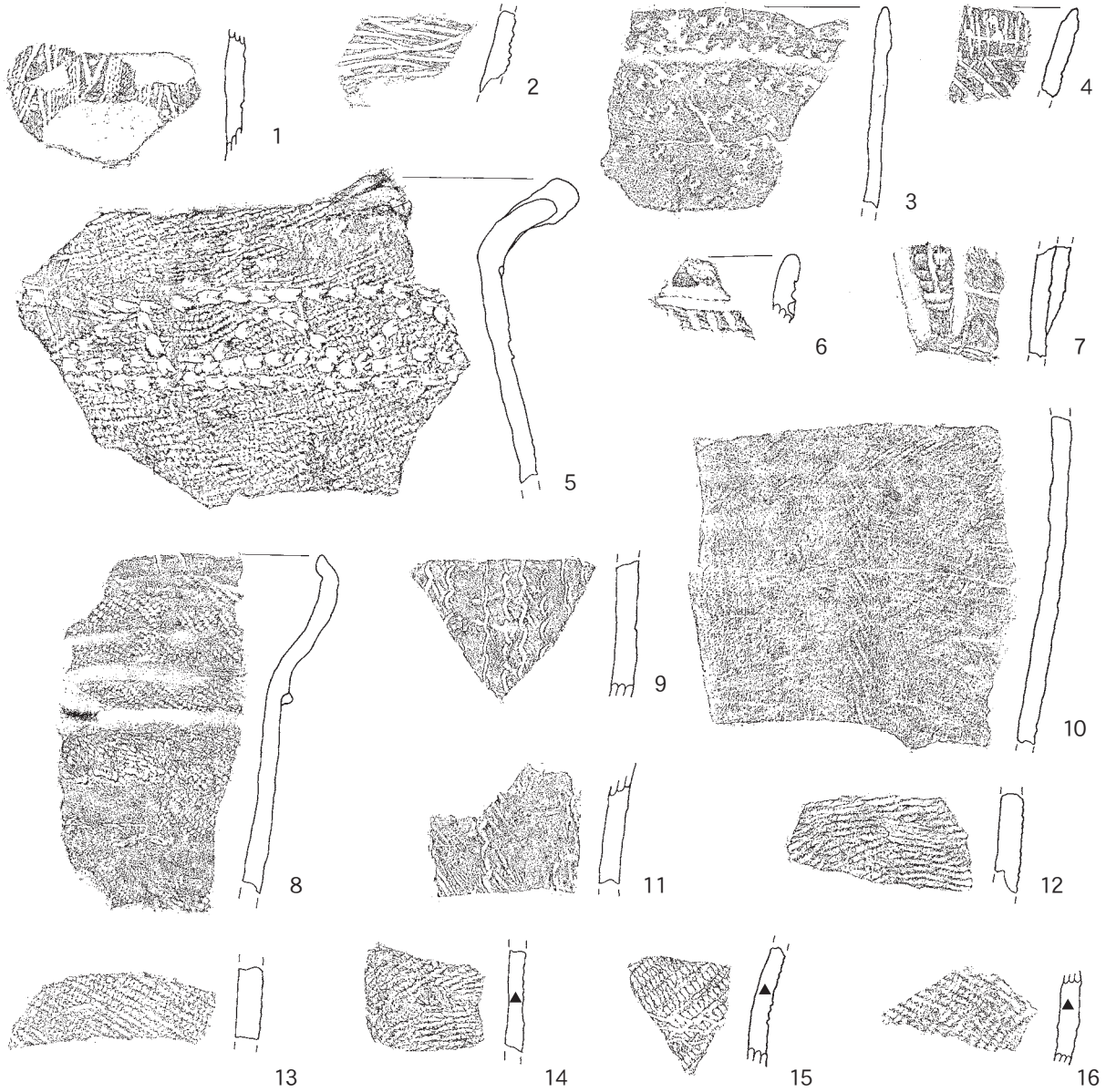
斜面上位の24・25層下であり、Ⅲ層下層にあたる。

Ⅳ-1類 (図67-1・4、図68-13~22・24・25、図69-1~12・14・22) : 図67-1は刻みを施した隆帯で上下及び縦位に区画し、区画内に多条山形文を施している。同図4は沈線で区画した口縁部に短沈線が施される。

図68-13は刻み付隆帯による渦巻文、同図14は隆帯区画内横位・斜位多条沈線文、同図15~17、図69-12は梯子状短沈線が施されている。図68-18は双頭状の口縁から垂下する2条の隆帯で縦区画し、多条山形文が描かれている。同図19~22・24も沈線により山形文や斜格子状文が描かれている。同図24・25は隆帯下端に三角刻みが見られる。

第4節 台ノ前北貝層出土土器

25層



17~28層

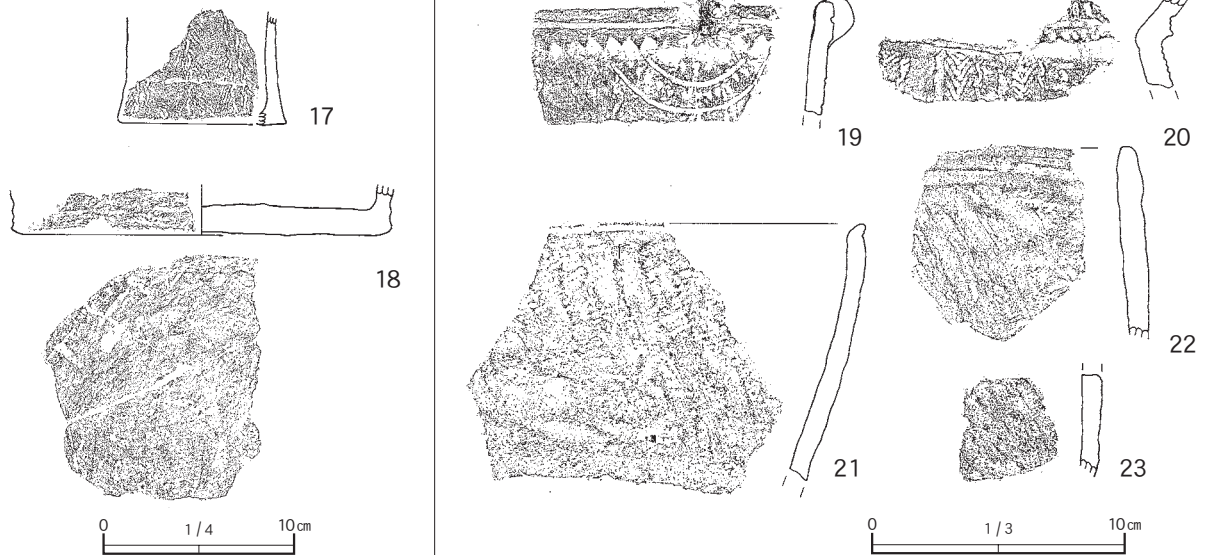
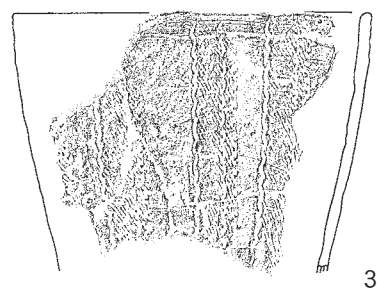
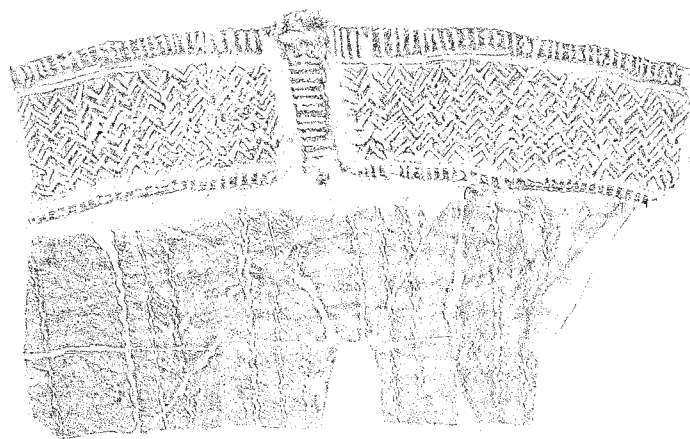
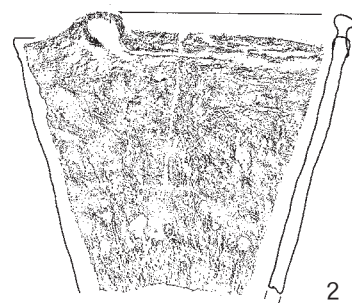
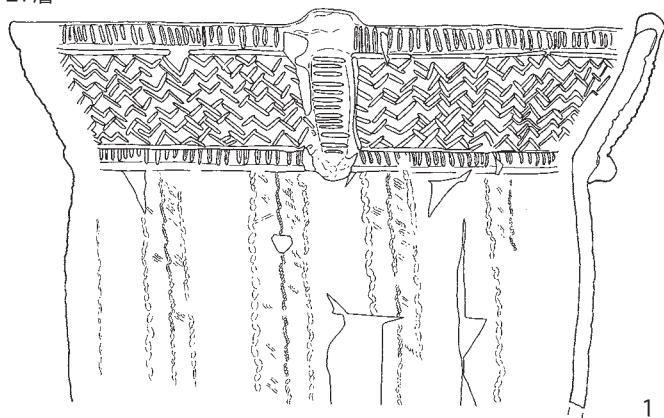


図66 54T出土土器⑧ (S=1/3・1/4)

27層



26層

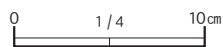
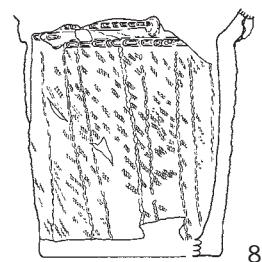
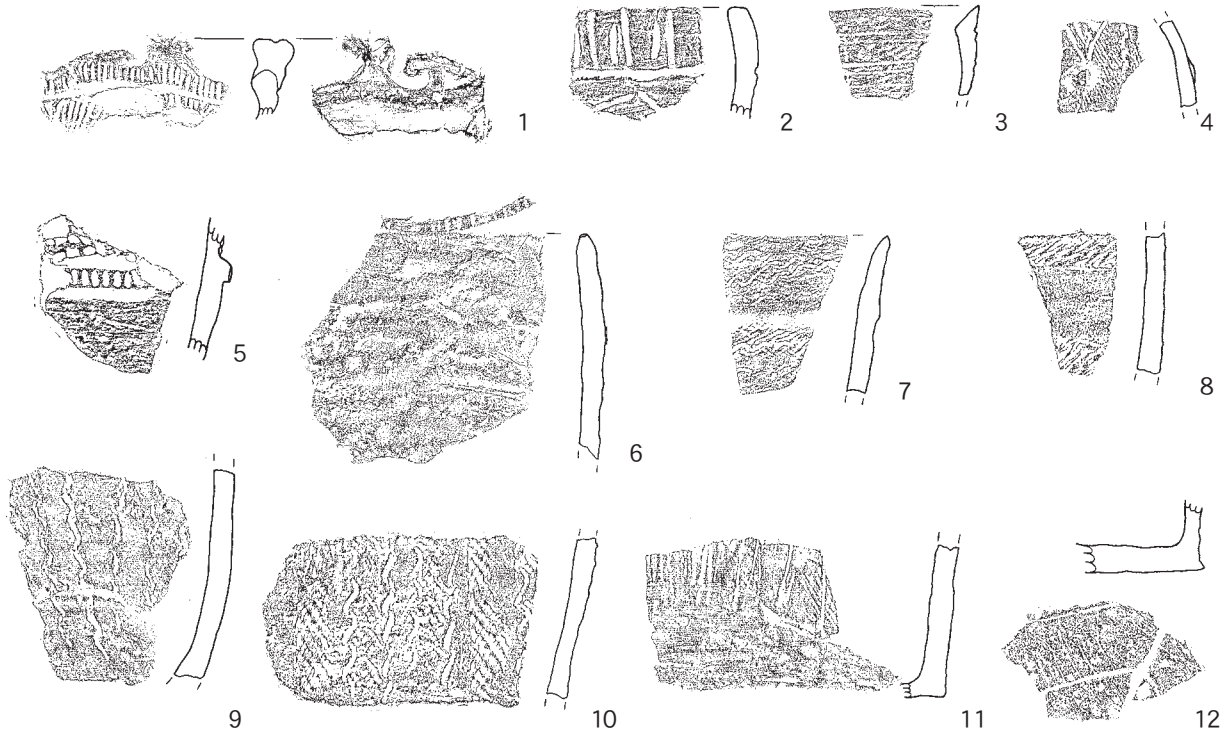


图 67 54T 出土土器⑨ (S=1/3·1/4)

第4節 台ノ前北貝層出土土器

26層



27層

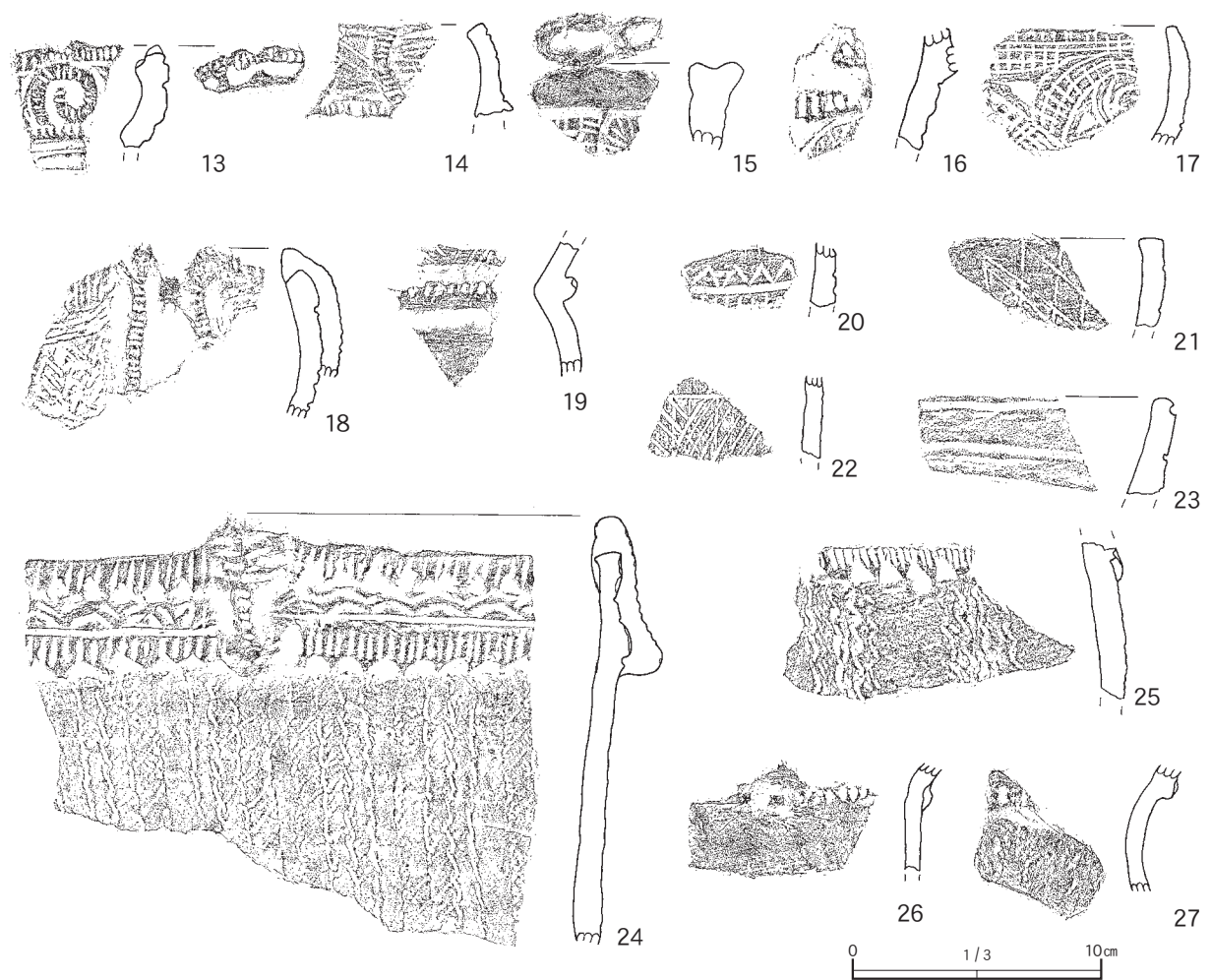


図68 54T出土土器⑩ (S=1/3)

27層

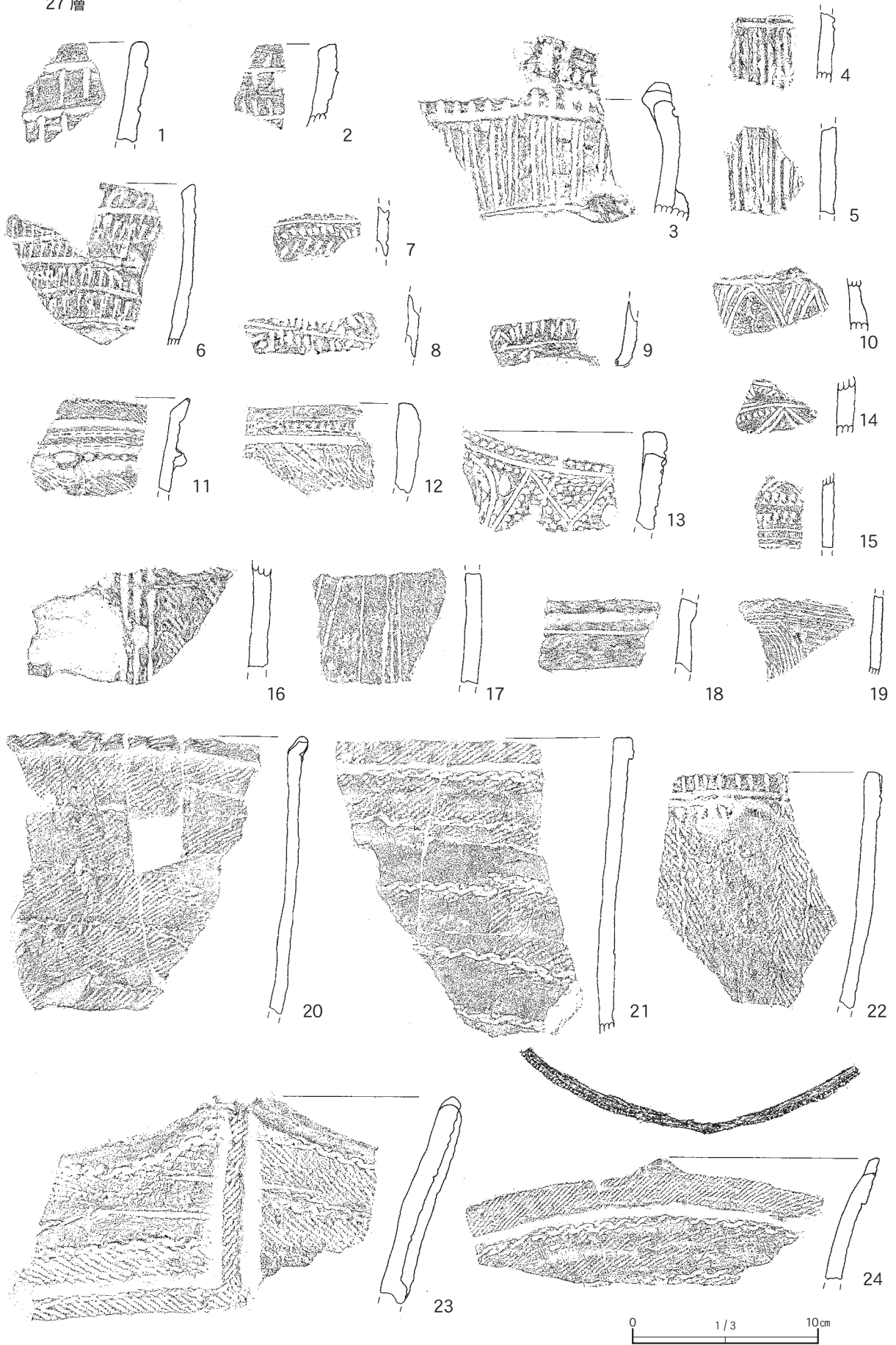


图69 54T出土土器① (S=1/3)

図69-1・2は沈線間に縦位の短沈線、同図3は口縁に刻み付突起が付き、口縁上位の沈線区画内に刻み、下位に縦位集合沈線が半截竹管により施されている。4・5も同様の縦位の集合沈線文が施される。同図6～9は同一個体で横位沈線間に鋭角的な刻みにより、文様を描くものである。同図10は単沈線によるY字状の垂下文、同図11は頸部隆帯区画内に横位爪形文、同図14は沈線に沿う刺突列、同図22は口縁の沈線区画内に縦位短沈線、沈線下の一部に刺突が施されるものである。

Ⅳ-4類（図67-3・5・6、図68-27、図69-20・21・23・24、図70-2・3・9～30、図71-1～9）：図67-3・5・6はやや内湾気味に立ち上がる器形を呈する。図68-27は頸部を刻み付隆帯で区画するものである。図69-21・24は複合口縁を呈し、24は片側に抉りが入った三角状突起が付けられる。同図20も複合口縁で、上端を押捺して波状を呈している。口縁部にも縄文が施文されている。同図23は波頂部が双頭状を呈し、そこから垂下する縦位隆帯と頸部の横位隆帯で口縁部を区画するものである。図70-2は波状口縁であり、隆帯貼付文を弧状に貼り付けた突起が付けられる。同図3は口縁上端に刻みが施される。横位結節回転文を施すものが少量存在する（図69-20・21・23・24、図70-9～11）。

Ⅳ-3類（図67-2、図68-26、図70-1・4・5・8）：図67-2は渦巻状突起が付けられている。図68-26は頸部に貼付文と刺突列が施される。図70-1は隆帯貼付文を弧状に貼り付けており、同図4は瘤状の突起が施される。

Ⅳ群（図69-16・17）：16は縄文地に、17は無文地に縦位多条沈線が施される。

Ⅲ-4類（図68-23、図69-18、図71-10・11・13・15）：図68-23は単沈線による横線文を施す。図69-18は複合口縁下に1条の横位沈線が施されている。図71-10・11は双頭状突起が付けられ、11は下端に三角刻みが見られる。同図13は口縁下に横線文が施される。同図15は爪形文で文様を描き、瘤状貼付文が施されるものである。

Ⅲ-1・2類（図69-13、図70-6）図69-13は波状口縁を呈し、短沈線による弧状文、山形文間に円形竹管文を充填している。1類と考えられる。図70-6は交互押捺が施される2類である。

Ⅲ-5類（図71-12・16～21）：図71-21は胎土に繊維を少量含み、Ⅲ-1・2類に伴う可能性がある。図71-12は口縁部、同図16は胴部下端の縄文のナデ磨消が認められる。これらはⅢ-4類に伴う可能性がある。

Ⅲ-6類（図69-15・19、図71-14）：図69-15は短沈線と刺突文を多段に配している。同図19は櫛描条線文が、図71-14は横位多条爪形文が施される。

Ⅱ群（図71-22・23）：22は結束羽状縄文、23は無節斜縄文が施される。

28層（図71-24～33、図72～75）

表土下及び22・26・27層下にあり、貝層下にあたる。

Ⅳ-1類（図73-1～4・8・9・13～19・21・24・25）：2は刻み付隆帯により弧状の文様が施されている。3・4・8は沈線により山形文・山形波状文を描いている。9・13は細線文・多条沈線文地に円形等の文様を描き、9には三角刻みも施されている。16は沈線により文様を描き、沈線間の一部に梯子状短沈線が見られる。17・18は沈線により山形文や弧状文等の文様モチーフを描いている。19は口縁に縦位短沈線を施し、横位の多条沈線文が描かれる。21・24・25は縦位集合沈線が施されるもので、21は頸部に円形貼付文の剥離痕が認められる。

Ⅳ-2類（図73-22・23）：22は頸部を隆帯で区画し、胴部にクランク状等の文様が隆線と平行沈線で描かれる。23は縦位の山形文等が平行沈線で描かれる。

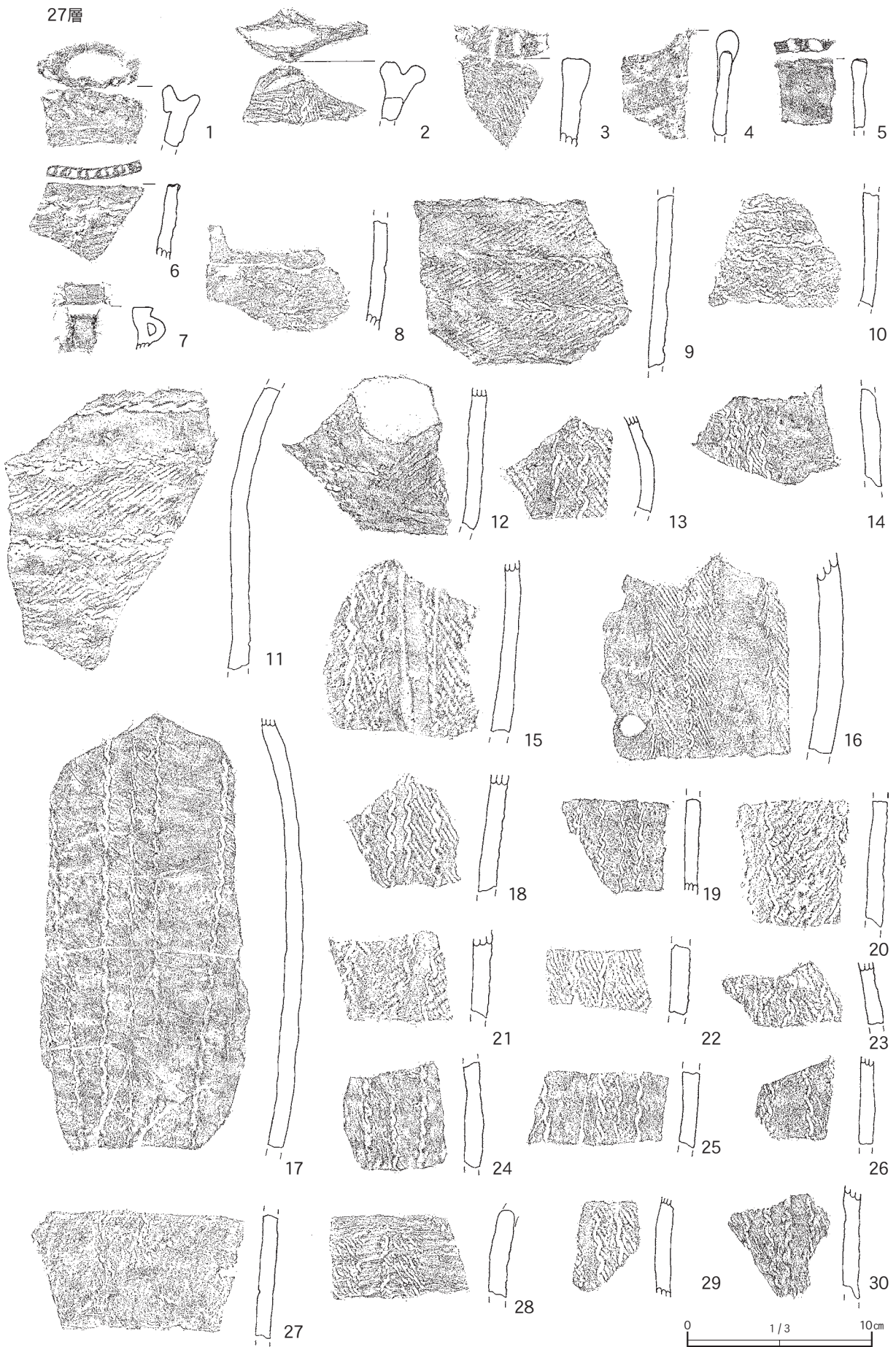


图70 54T出土土器⑫ (S=1/3)

第4節 台ノ前北貝層出土土器

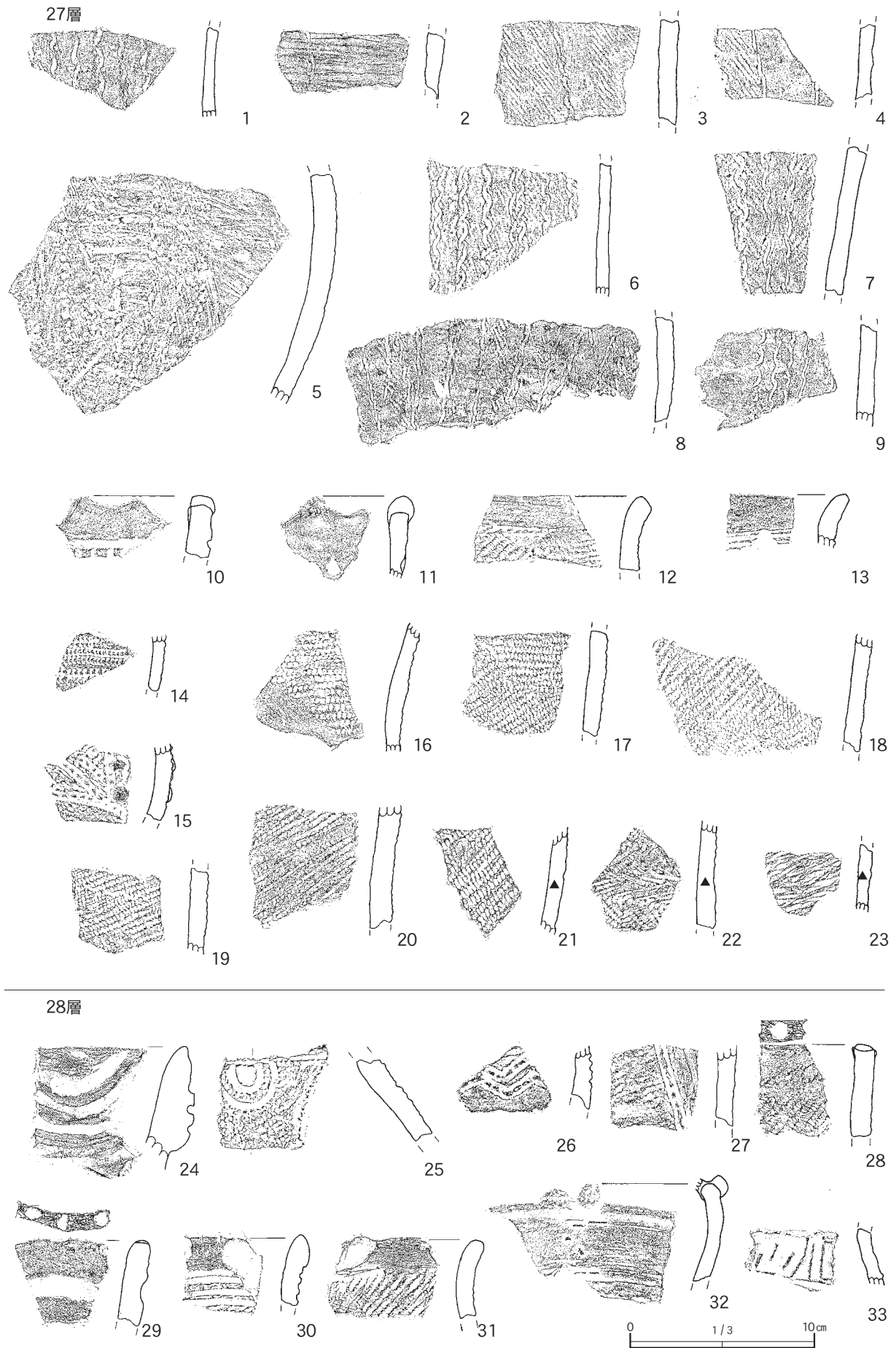


図71 54T出土土器⑬ (S=1/3)

28層

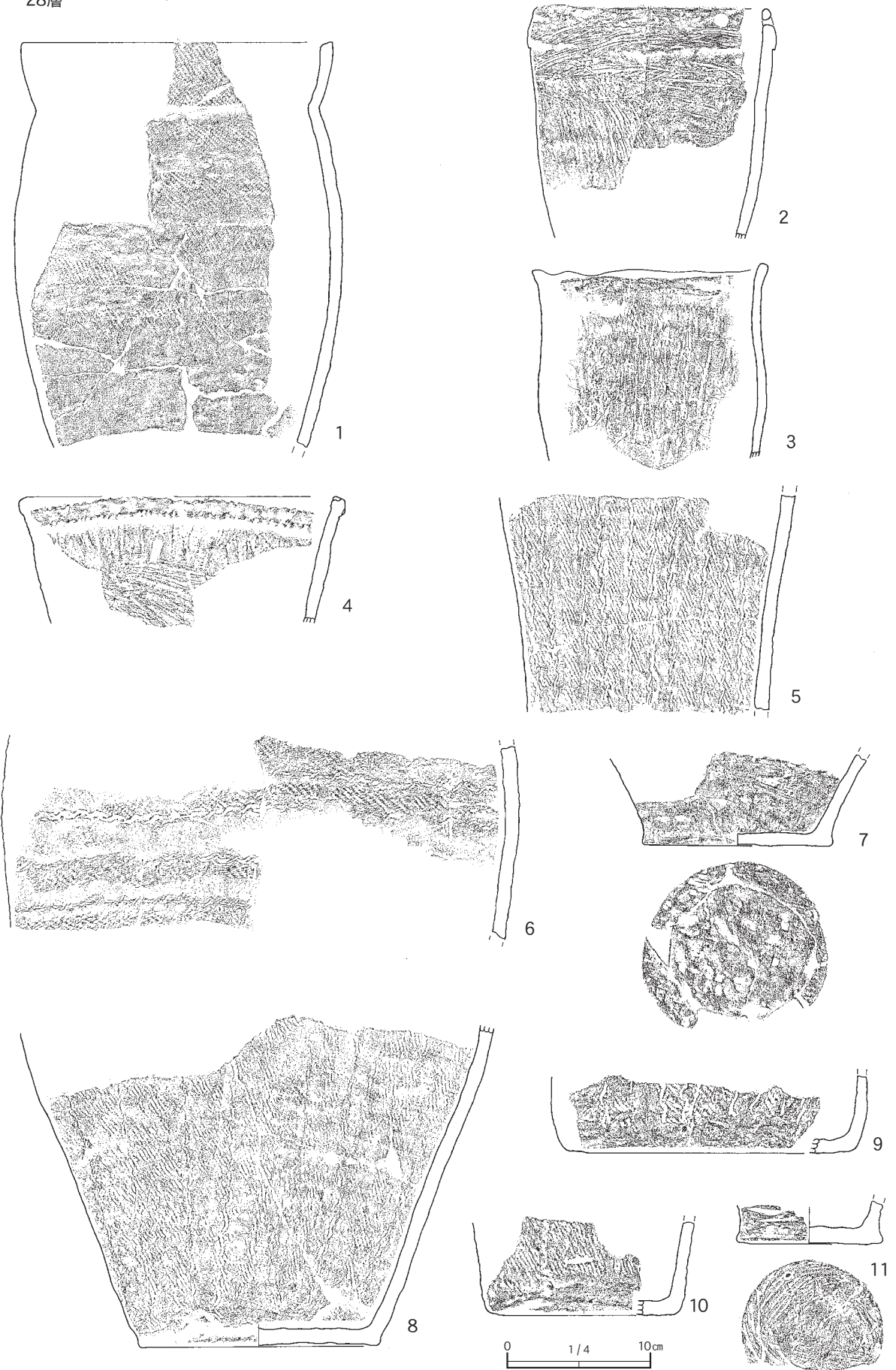


图72 54T出土土器⑭ (S=1/4)

第4節 台ノ前北貝層出土土器

28層

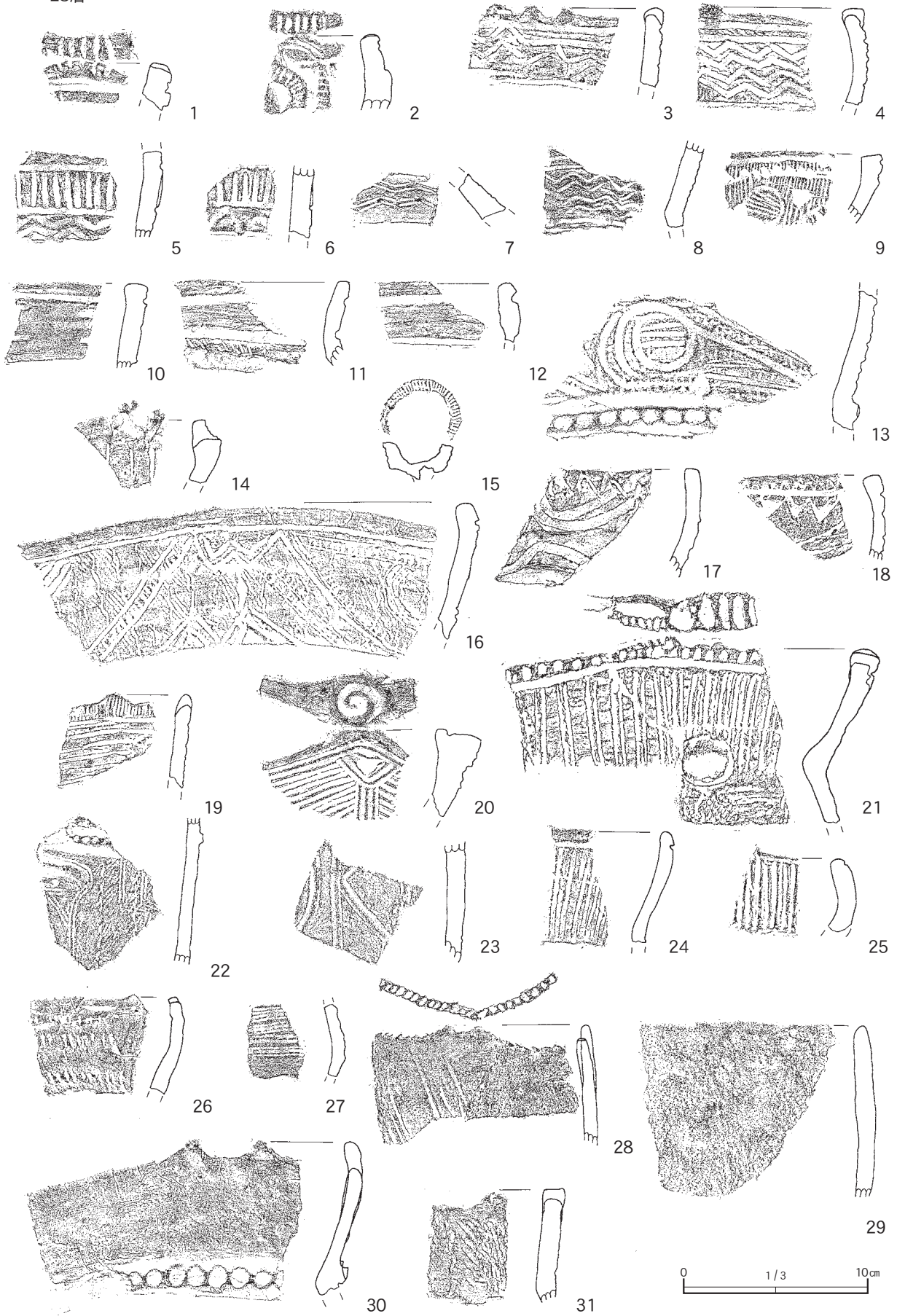


图73 54T出土土器⑮ (S=1/3)

28層

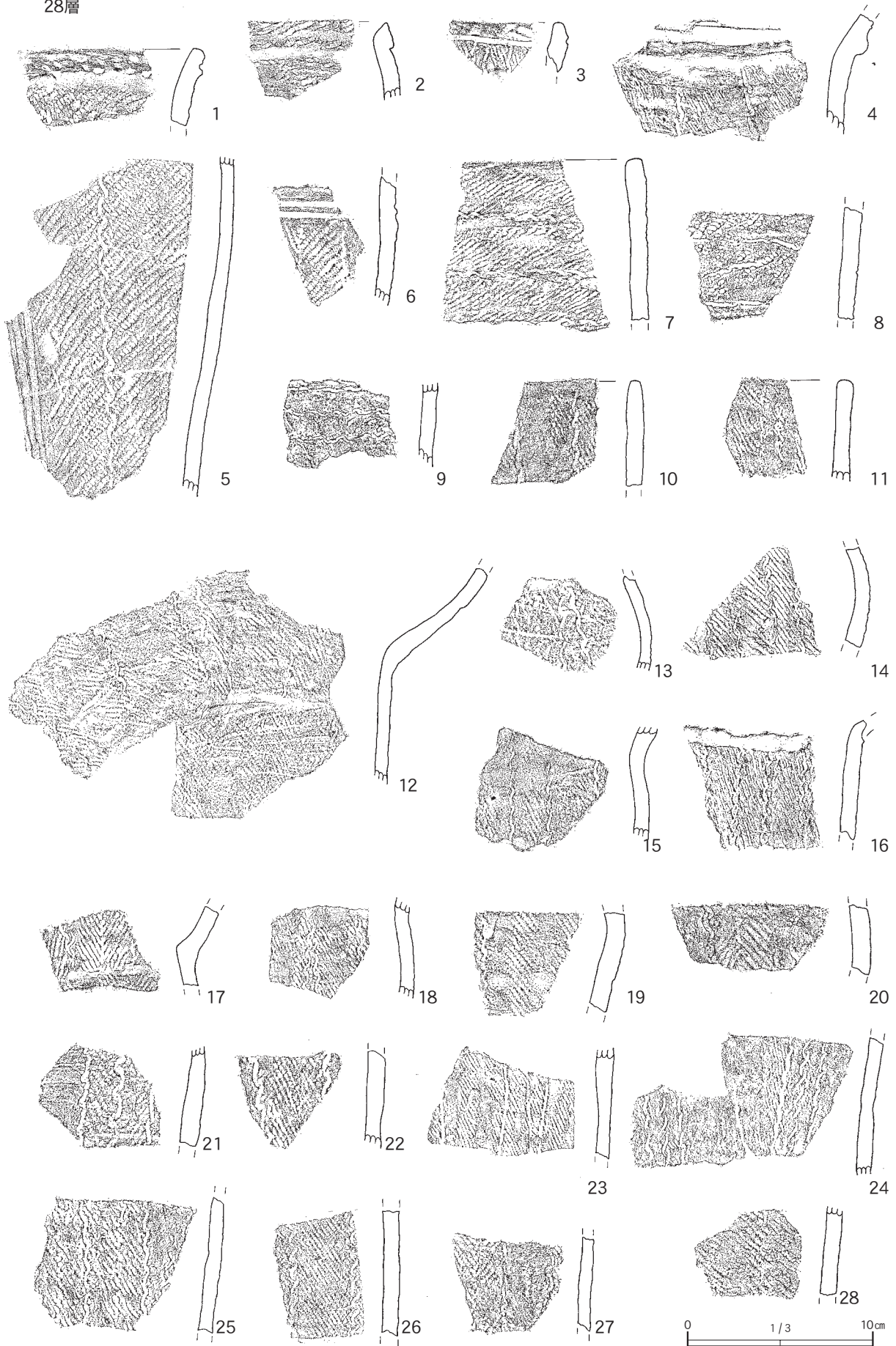


图74 54T出土土器⑩ (S=1/3)

第4節 台ノ前北貝層出土土器

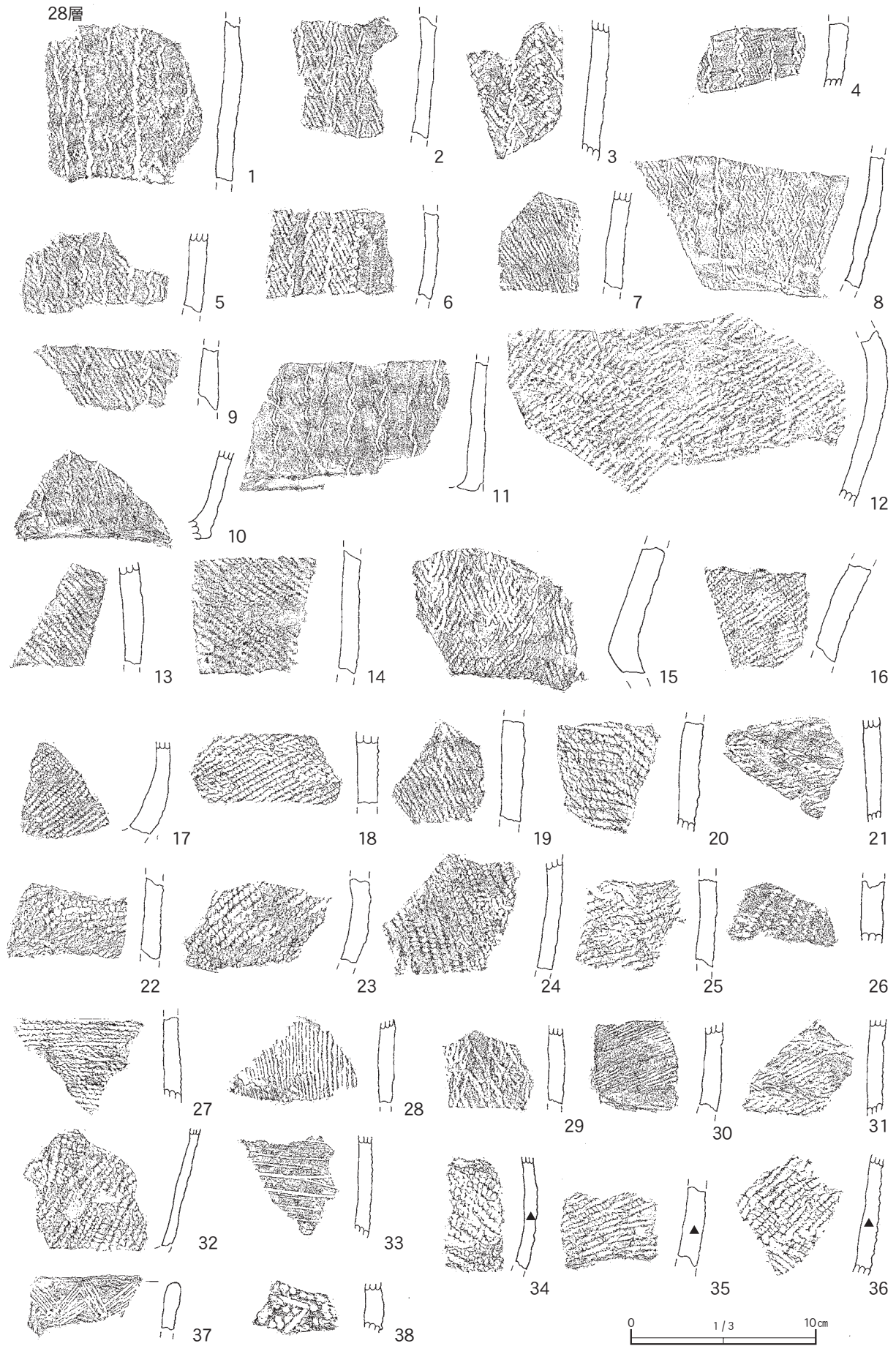


图75 54T出土土器⑰ (S=1/3)

Ⅳ-4類 (図72-1・5・6・8~10、図73-31、図74-2・7~28、図75-1~11) : 図72-1は胴部中位が膨らみ、頸部が屈曲して内湾する口縁を持つものである。横位縄文が施文される。5はやや外反気味の、6・8は膨らみを持つ胴部である。図73-31は口縁に突起が付く。図74-2は複合口縁、同図4は頸部を隆帯で区画している。同図12は胴部上位で内湾気味に大きく開く器形を呈する。横位に結節回転文施文するものも少量存在する (図72-6、図74-2・7~9)。

Ⅳ-3類 (図72-2~4・7・11、図73-28~30) : 図72-2は複合口縁で、やや内湾している。同図3は頸部から緩やかに外反している。同図4は直線的に開き、複合口縁の上下端に刻みが施されている。同図7・11は底部の網代痕をナデ磨り消している。図73-28は口縁上端に双頭状突起と刻みが施されている。30も双頭状の突起が施され、頸部に押捺付隆帯がめぐらされるものである。

Ⅳ群 (図73-26、図74-3~6) : 図73-26は口縁に山形状小突起が付き、縦位刺突列が多段に施される。図74-5は縦位の多条沈線文が施されている。

Ⅲ-4類 (図71-24~30・32・33、図73-5~7・10~12、図74-1) : 図71-24は肥厚口縁に弧状の隆線が施される。同図25は沈線に沿う爪形文、同図26・27は爪形文で文様を描く。同図28・29は口縁に刺突・押捺が施され、同図30は複合口縁下に多条横線文が施されている。32・33はソーメン状隆線文で文様を描くものである。図73-7は半截竹管で山形文を施し、同図5・6・10~12は単沈線で文様を描くものである。図74-1は複合口縁に縄圧痕文が施される。

Ⅲ-5類 (図71-31、図75-12~32) : 図71-31は口縁の縄文をナデ磨り消している。図75-12・15~17は球胴形の器形を呈するものと考えられる。これらはⅢ-4類に伴う可能性が高い。同図27・28は撚糸文、29は附加条2種を施文するものである。

Ⅲ-3類 (図75-37) : 口縁部に半截竹管による山形文が施文されている。

Ⅲ-1類 (図75-38) : 沈線間に円形竹管文が施されている。

Ⅲ-6類 (図73-20・27、図75-33) : 図73-20は波状口縁を呈し、波頂部上端に渦巻隆沈線文が施される。文様は多条の平行沈線文により施され、波頂部からV字状文と直線文が垂下し、口縁に沿って斜位の集合沈線が描かれている。V字状文内には三角刻みが施される。同図27は平行沈線と有節沈線が施されている。図75-33は条線文を施文するものである。

Ⅱ群 (図75-34~36) : 繊維を多く含むもので、36は結束羽状縄文が施されている。

29層 (図82-12・13)

斜面上位の28層下にあり、貝層下にあたる。12はⅢ-6類である。短く内湾する口縁を持ち、半截竹管による横線文と斜線文を交互に配する。13はⅢ-5類である。

30層 (図76~81、図82-1~7)

表土下及び28・29層下にあり、貝層下にあたる。

Ⅳ-2類 (図78-1・2) : 1は隆線に沿う交互刺突文、2は縦横位に縄圧痕文が施されている。

Ⅳ-1類 (図78-3~13) : 3は縦位に半截竹管の刺突が施されるものである。4・5は縦位集合沈線文が施される。6・7は同一個体であり、横位沈線間に多条山形文が施される。8も沈線間に山形文を描くものである。9は複合口縁で、縦位短沈線が施される。上端は刻みが付く。10・11は斜格子状文、12・13は細沈線文・平行沈線文地に単沈線で文様を描くものである。

Ⅳ-4類 (図79-28・30~32、図81-11~23) : 図79-28は口縁内面に輪積み痕を残し、同図30は内面突に段が認められる。同図31は口縁上端に刻み、同図32は渦巻状隆帯が付く突起を施している。図81-11~23は縦位結節回転文が施されるもので、羽状縄文も存在する (11・12)。

30層

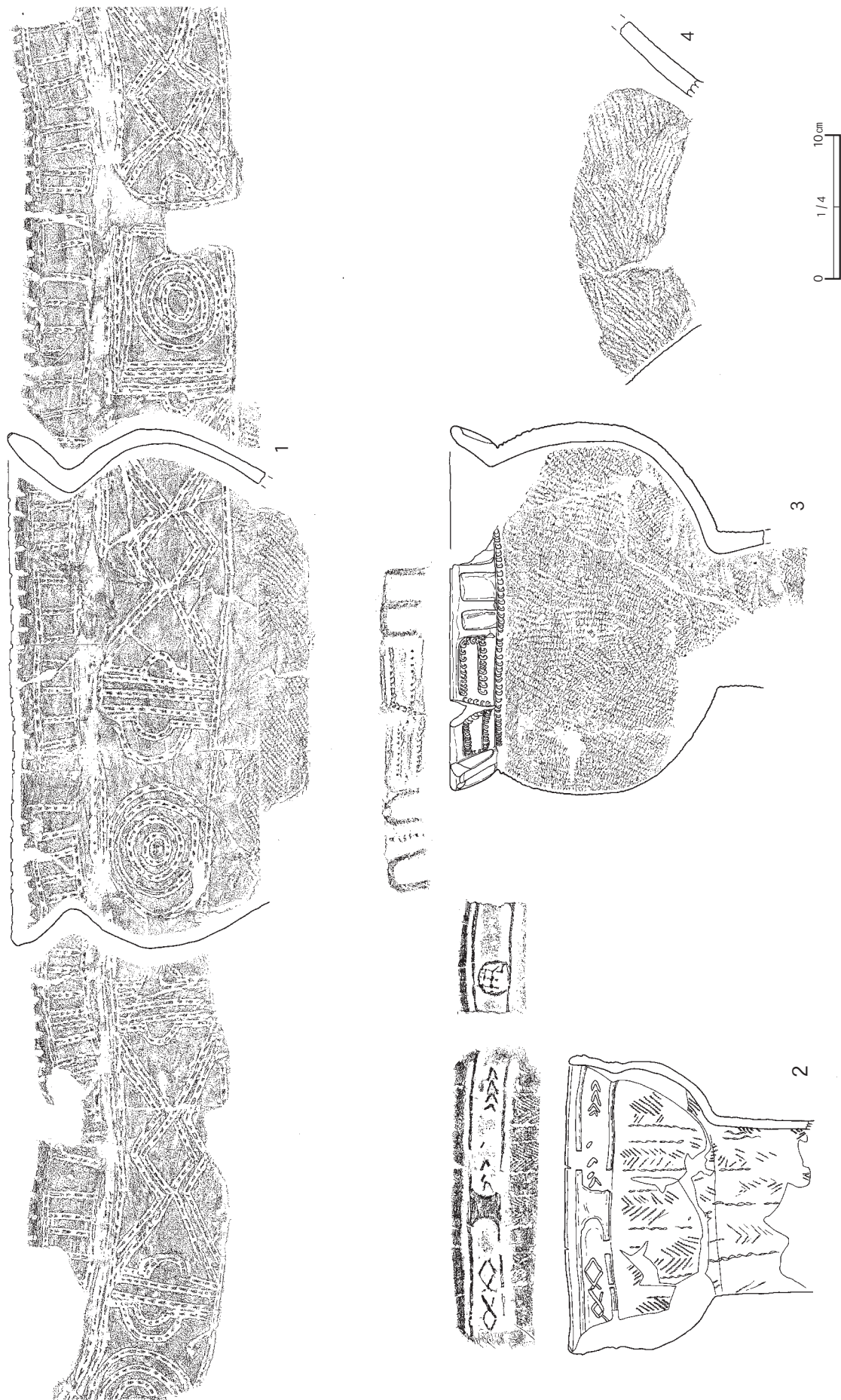


図76 54T出土土器⑱ (S=1/4)

30層

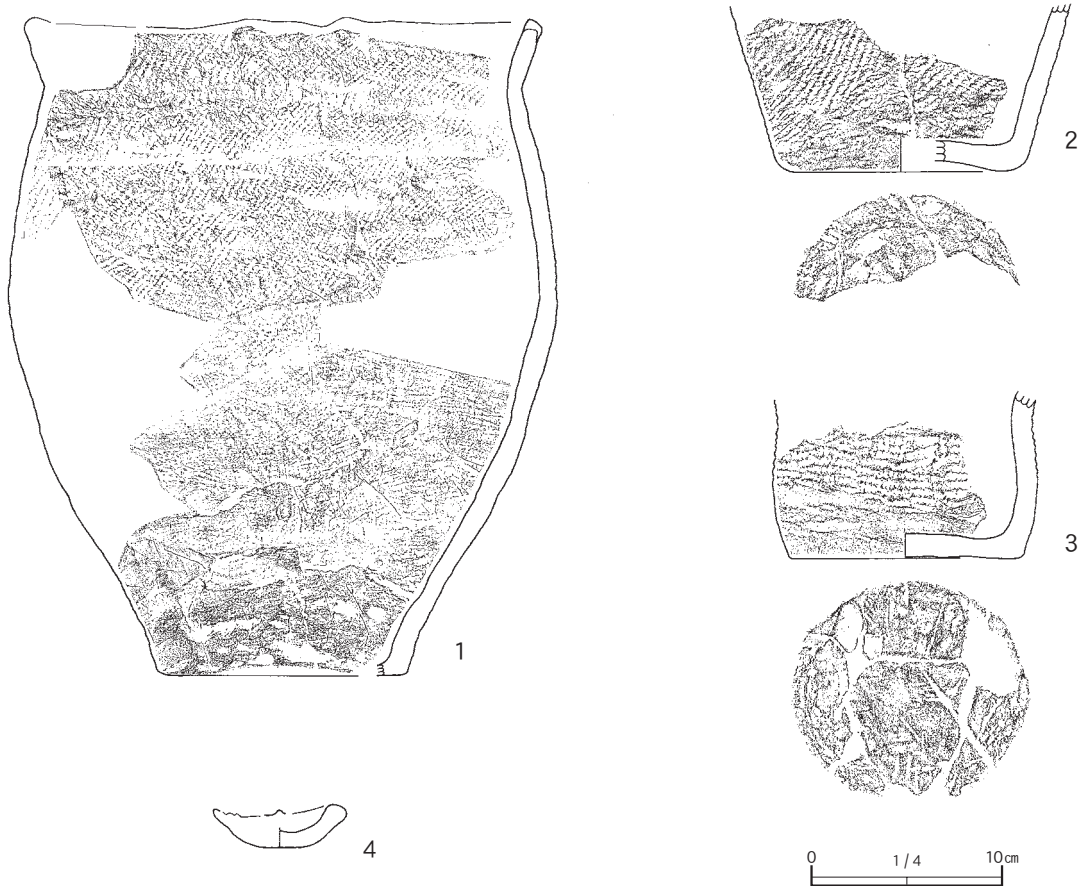


図77 54T出土土器⑱ (S=1/4)

Ⅳ－3類 (図81－31～36) : 31～33は底部に網代痕を残すものである。34は頸部に輪積み痕を残す。35は押捺による波状縁を呈する。

Ⅲ－4類 (図76－1～3、図78－14～33、図79－1～20、図80－3、図81－4) : 図76－1は頸部が屈曲し、胴部が膨らむもので、最大径は胴部上位にある。口縁上端は単沈線による刻みが施され、外面は爪形文による文様が描かれている。口縁は上下を横区画し、縦位の直線文が施されている。胴部上半は上下を区画した中を縦に6分割し、同心円状文と相対する山形文を交互に配している。同図2はソーメン状貼付文で文様を描くものである。縦位の帯状貼付文を中心とした楕円形区画内に、菱形状・矢羽状・円形区画格子状の文様が施される。地文は縦位の結束羽状縄文と結節回転文である。頸部でやや外傾しながら内湾気味の口縁がつき、胴部は上半が球形、下半が直立する器形を呈する。同図3は頸部で屈曲し、いわゆる金魚鉢形を呈するものである。口縁逆U字状隆帯、I字状隆帯がつき、沈線とそれに沿う爪形文による方形文が施される。頸部は1条の横位爪形文で区画される。

図78－14～21は口縁下端に三角刻み等の刻みが施されるものである。16は肥厚する口縁下端に部分的に施されている。同図22～24は貼付文が口縁に施されている。同図25～29は単沈線による文様が口縁に施されており、27は余白部に三角刻みが認められる。28は口縁がやや肥厚し、単沈線で山形文が施される。同図30～33は頸部を刻み付隆帯で横区画するものである。

第4節 台ノ前北貝層出土土器

30層



図78 54T出土土器② (S=1/3)

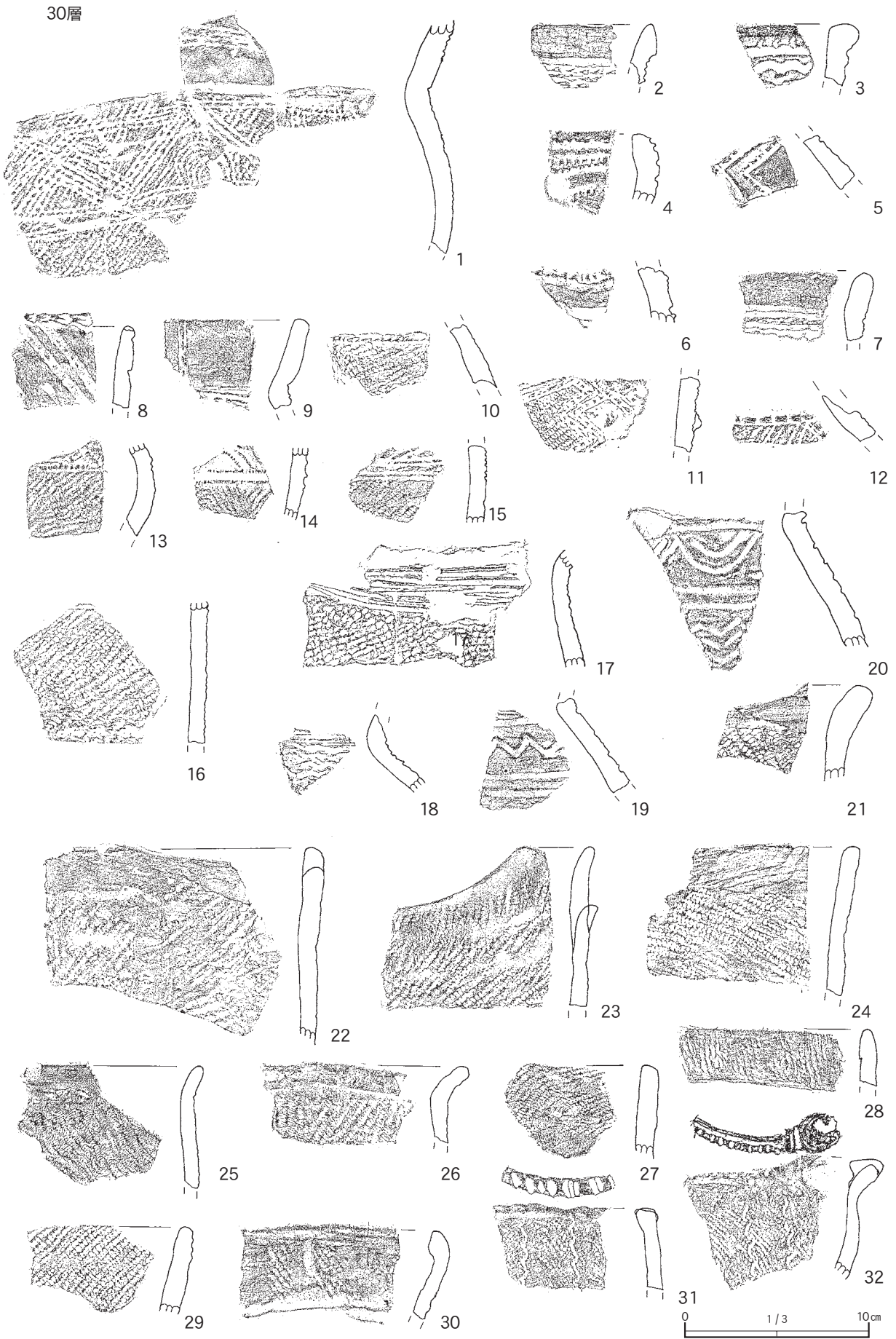


图79 54T出土土器① (S=1/3)

第4節 台ノ前北貝層出土土器

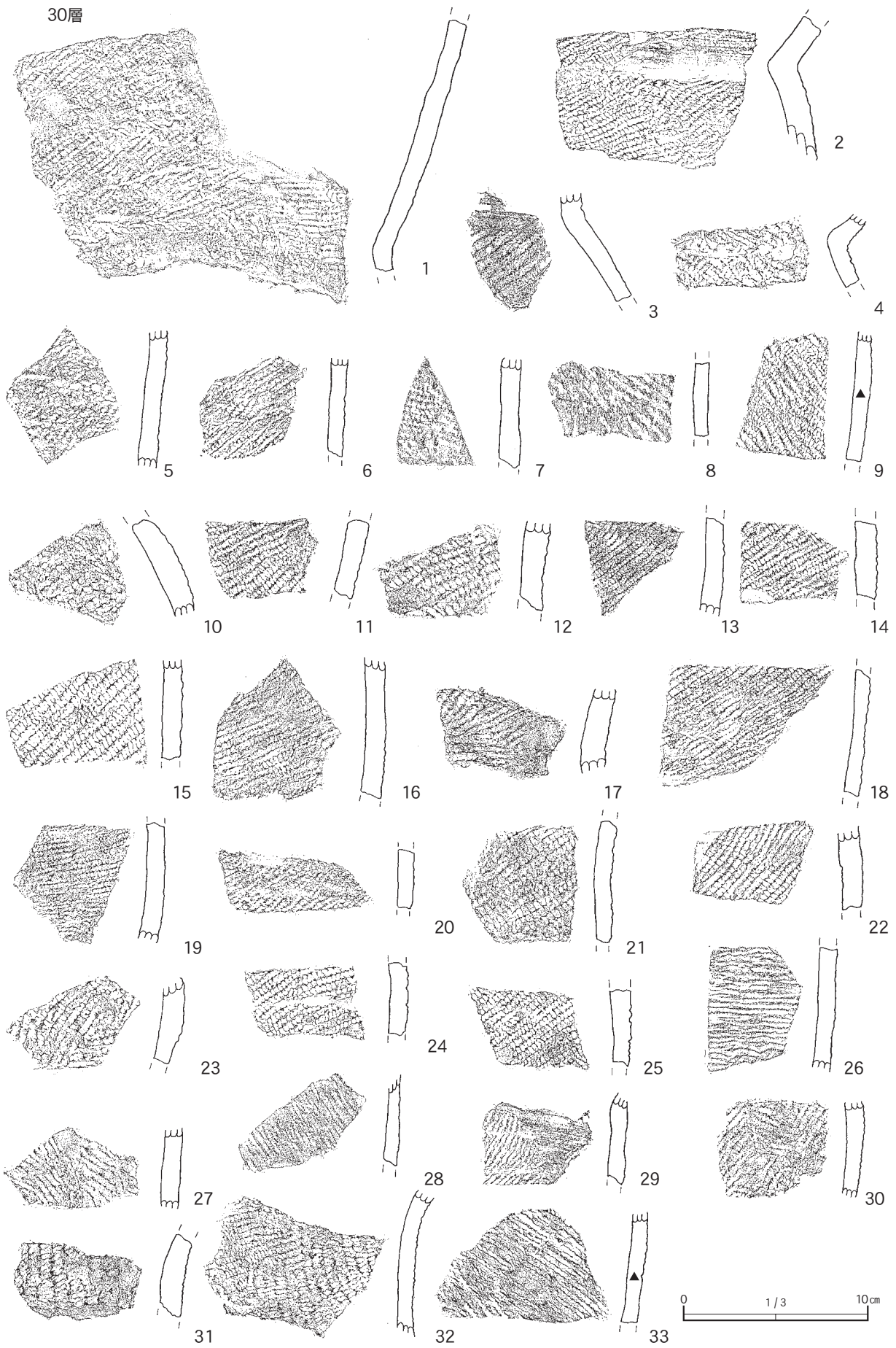


図80 54T出土土器② (S=1/3)

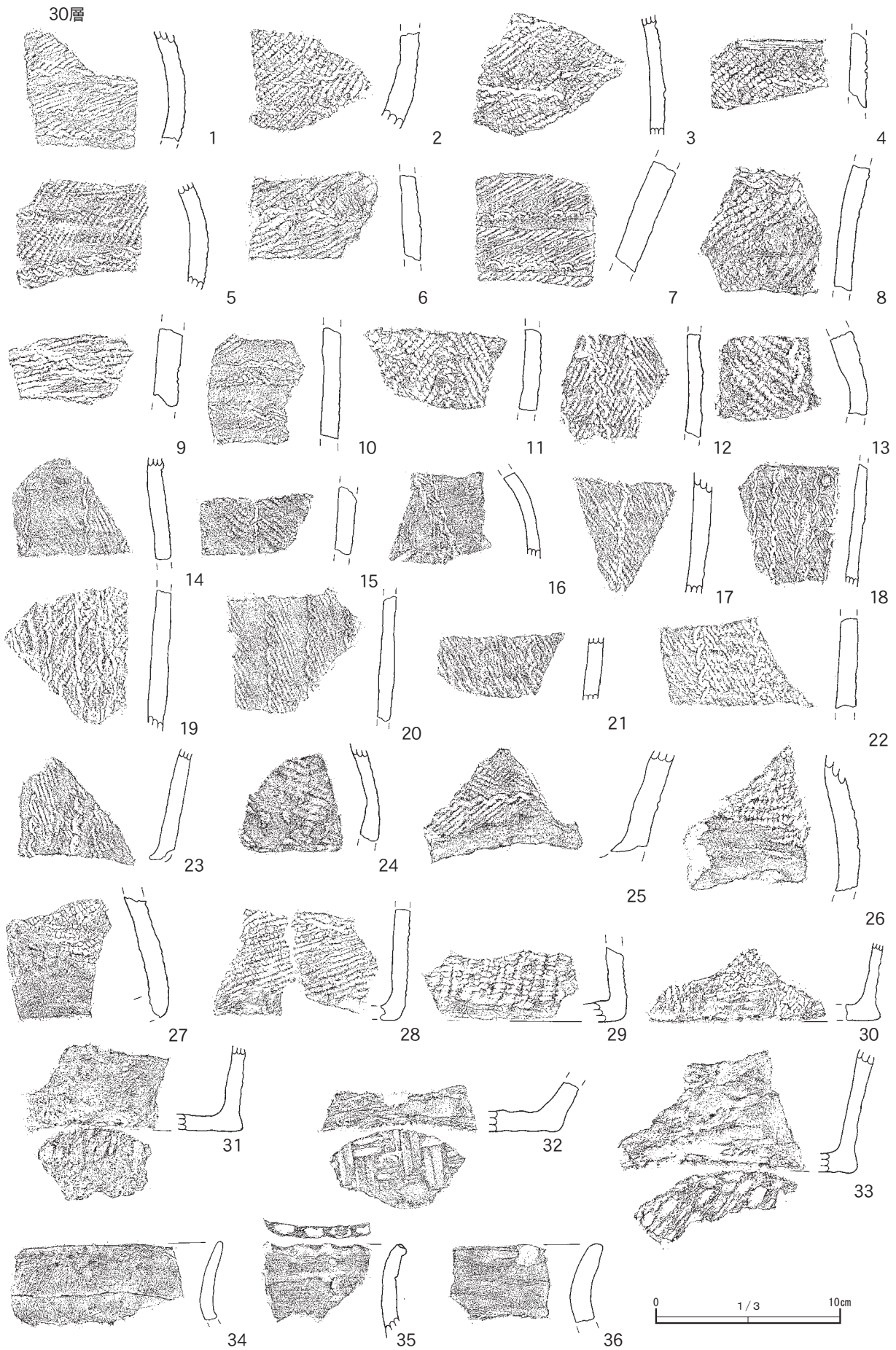


图81 54T出土土器② (S=1/3)

第4節 台ノ前北貝層出土土器

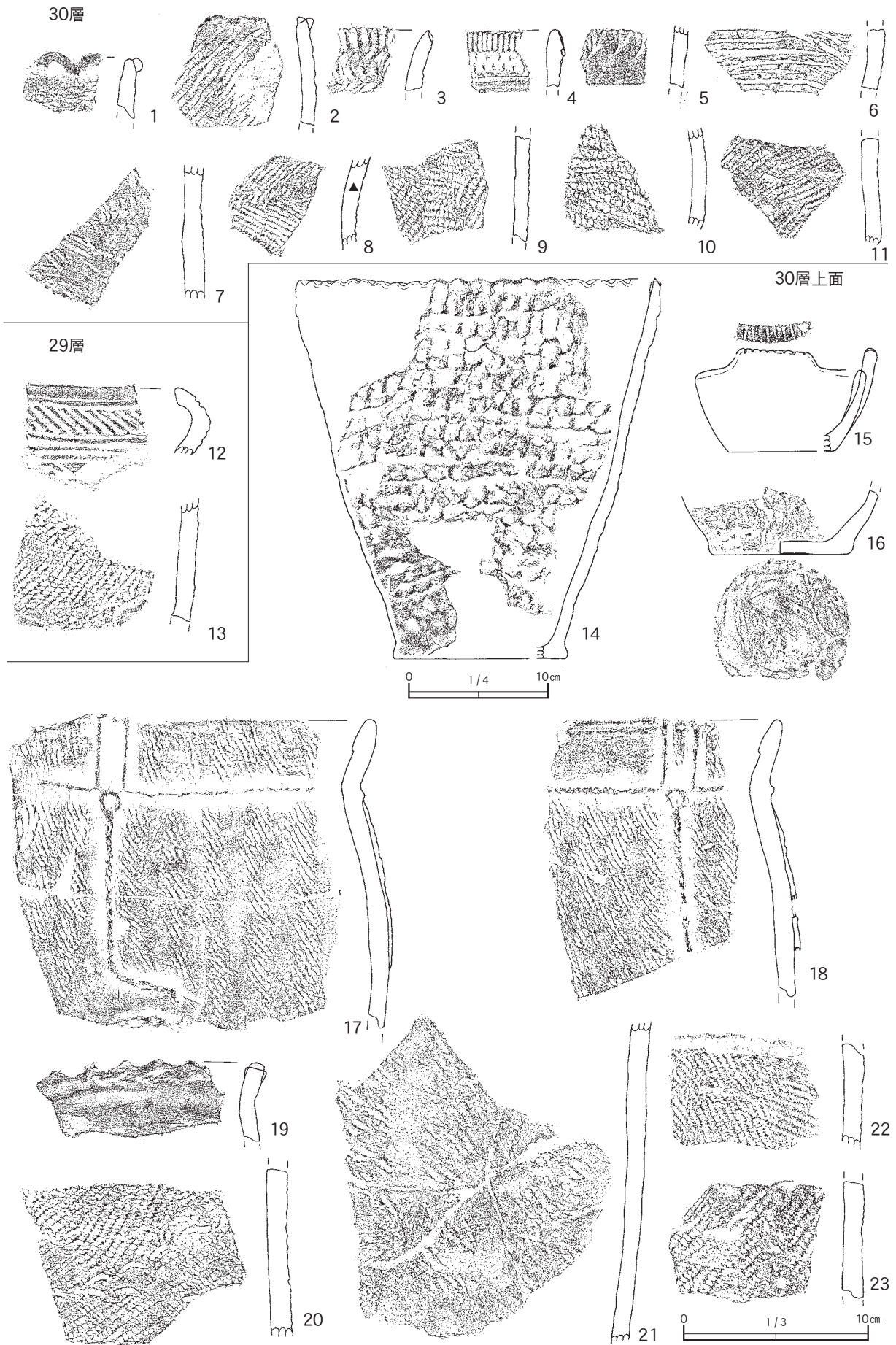


図82 54T出土土器② (S=1/3・1/4)

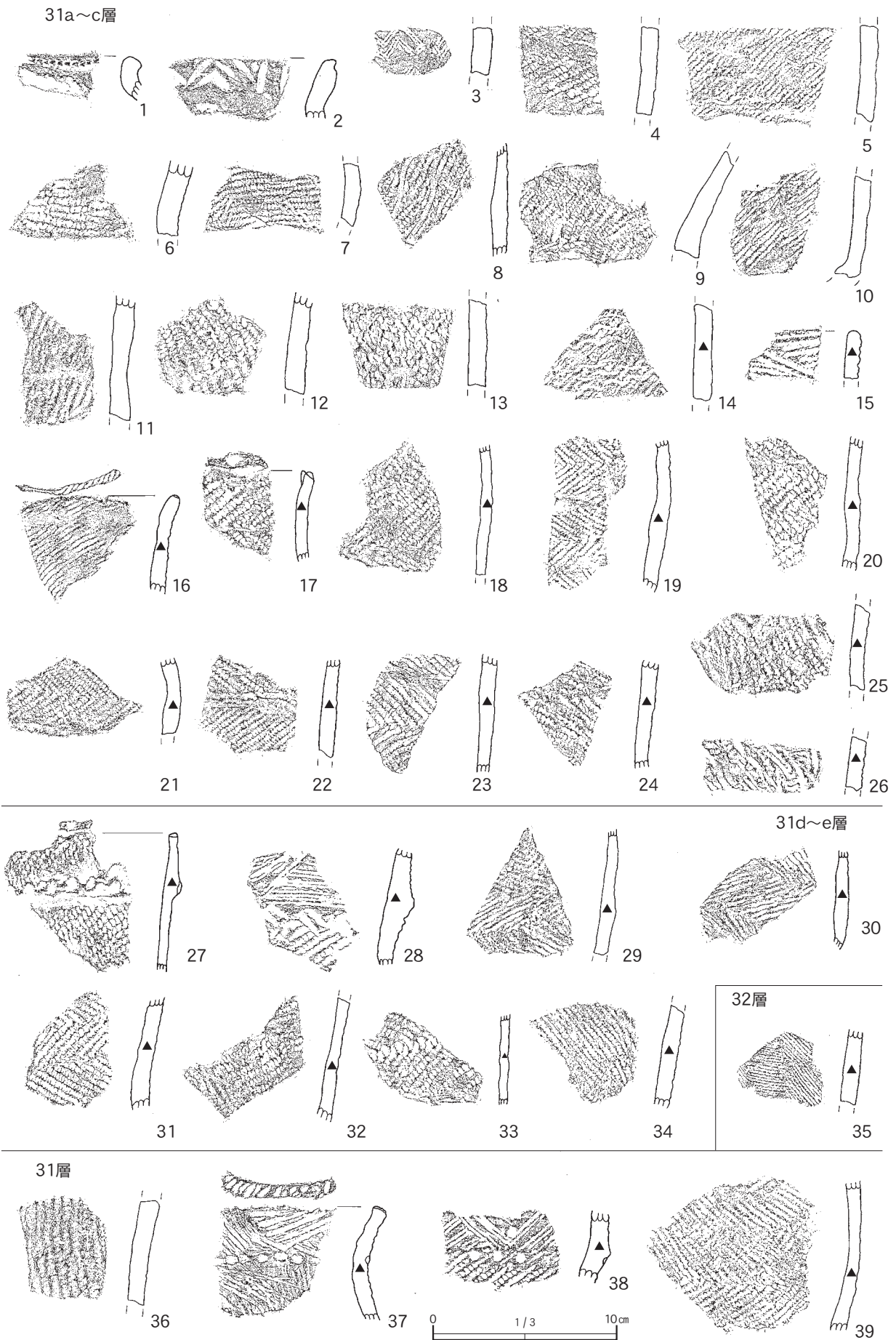


図83 54T出土土器⑤ (S=1/3・1/4)

図79-1は爪形文で胴部に山形文が施文され、山形文間の余白に弧状文を配している。同図3～5は沈線に沿う爪形文ならびに刺突、同図2・7～12は爪形文、同図6・13・14は結節浮線文、同図15～18、図80-3は平行沈線で文様を描いている。図79-19・20は単沈線により弧状文や山形文等の文様が多段施文されるものである。

Ⅲ-5類（図76-4、図77-1～3、図79-21～27・29、図80-1・2・4～33、図81-1・3・5～10・24～30、図82-9～11）：図76-4、図80-1・2・4は金魚鉢形の器形を呈するものと考えられる。図77-1は三山状の突起が施され、口縁は緩やかに外反し、胴部上半に最大径があるものである。胴部下端は縄文のナデ磨消が認められる。同図2・3、図81-25～30も同様に胴部下端にナデ磨消が施される。これらはⅢ-4類に伴う可能性が高い。図80-9・33は胎土に繊維を少量含み、Ⅲ-1・2類に伴う可能性が高い。

Ⅲ-2類（図82-1・2）：1は口縁に波状の粘土貼付文、2は口縁に交互押捺が施される。

Ⅲ-6類（図82-3～7）：3・4は口縁に縦位刻みがつき、変形爪形文が施される。5は貝殻腹縁文、6は条線文、7は条線文と櫛歯状工具による連続刺突文が施されている。

図77-4は皿状の小形土器である。共伴する土器からⅢ・Ⅳ群に伴う可能性が高い。図82-8は羽状縄文が施されるⅡ群である。

30層上面（図82-14～23）

30層の表土除去後確認時の出土遺物である。14・17・18はⅣ-2類である。14は指頭押捺が施された輪積み痕が全面的に認められる。17・18は同一個体で、口縁に2条の縦位隆線、胴部にクランク状の隆線が施される。15・16・19はⅣ-3類である。15は小形の浅鉢で弁状突起部に刻みが認められる。19は口縁が押捺により波状を呈している。21・23はⅣ-4類、20・22はⅢ-5類である。

31a～c層（図83-1～26）

30層下にあり、極少量の獣魚骨の混入が認められるものである。1は結節浮線文、2は単沈線による山形文が施されるⅢ-4類である。3は山形状の文様を施すⅢ-3類、4～13はⅢ-5類である。14は結節回転文が重層するもので、Ⅲ-2類に含めておく。16～26はⅡ群で、16は口縁上端に縄文施文、17は押捺が認められる。15は鋸歯状文が施されるⅠ群である。

31d～e層（図83-27～34）

31a～c層下にあり、獣魚骨がほぼ混入しないものである。27・29～34はⅡ群である。27は口縁上端に刻みを施し、頸部隆起部に押捺が施されている。28は鋸歯状文を施し、頸部屈曲部に半摧竹管による刺突が施されるⅠ群である。

31層（図83-36～39）

31層一括出土資料である。36はⅢ-5類、39はⅡ群に含められる。37・38は鋸歯状文が施されるⅠ群である。

32層（図83-35）

31層下にあるほぼ遺物を含まない層である。35は撚糸文が施される。Ⅰ群である。

3 53T東Ⅲ－3層 (図84)

台ノ前北貝層の斜面上位にあたる53T東端にて確認された。Ⅲ－3層上面からの出土資料を示した。3・4はⅢ－2類である。3は口縁を指頭による交互押捺が施され、3条の横位爪形文と山形の縄圧痕文を施している。4は口縁上端に刻みが施される。1・2はⅢ－2類に伴う可能性が高い。1は結節回転文が重層して施文される。2は条の長い縄文が施文され、底部に木葉痕が残されている。6は条線文が施されるⅢ－6類である。9～13は同一個体で、縄文地に平行沈線により縦位の木葉文を施している。12には横位区画が認められる。Ⅲ－1類に含めておく。5・7はⅢ－5類であり、Ⅲ－1・2類に伴う可能性が高い。8は鋸歯状文が施されるI群である。

4 63T

台ノ前北貝層の斜面上位にあたるトレンチである。混貝土層と土主体層が互層となっており、主に、斜面上位に混貝土層、斜面下位に土主体層が堆積している。北側壁際にサブトレンチを設定し、2層途中までの悉皆サンプルを採取している。※2

1層上面 (図85－1～9、図87－1・2)

斜面上位の1層確認時の上面からの一括出土資料である。図85－1・2はⅦ－2類、同図3はⅥ－2、同図4はⅥ－1類である。同図5は隆沈線による渦巻状曲線文、同図8は口縁に横位の隆線、頸部下に単沈線が施される。図87－2は縦位撚糸文地に縦位直線文と波状文を沈線で描いている。これらはⅤ－2類と考えられる。図85－9はS字状貼付文が付く突起でⅤ－1類に相当する。同図7は渦巻状隆沈線を施すⅤ－3類である。図87－1はⅣ－3類で複合口縁下端に押捺が施される。

1a層 (図85－10～16、図87－3)

サブトレンチ内1a層の出土資料である。斜面上位にあり、貝層と表土の漸移層にあたる。図85－12は三角状に突出する突起部で、渦巻文が施されるⅤ－3類である。同図11・13・14・16はⅣ－2類である。11は複合口縁で、波状の隆線文が施される。13は渦巻状文、14は沈線間小波状文、16は輪積み痕を残すものである。図85－10、図87－3はⅣ－3類であり、横位縄圧痕文が施される。

2層 (図86－1～9)

サブトレンチ内2層の出土資料である。斜面上位にあり、貝層上層にあたる。1・2はⅤ－1類で、2はクランク状の文様が単沈線により描かれている。4は口縁に有節沈線、5は交互刺突文が施されるⅣ群である。6はⅣ－4類、7・8はⅣ－3類である。3は縄圧痕文により文様を描くⅢ－4類である。

3層上面 (図86－10～13、図87－5)

3層は、斜面中位にある貝層上層にあたる確認時の上面からの一括出土資料である。図86－11・13はⅤ－1類で、11は平行沈線による多条渦巻文、13は単沈線によるクランク状等の文様を施す。図86－10は口縁下に縦位多条直線文、横位の波状文が施される。図87－4は上端が蕨手状となる縦位縄圧痕文が施されている。同図5は縦位隆線により区画し、横位蕨手状の沈線文が施されている。これらはⅣ－2類である。図86－12はⅣ－4類である。

5層上面 (図86－14～19)

斜面下位にある5層確認時の上面からの一括出土資料である。貝層中下層と推定される。15は沈線間に交互刺突文を、19は断面三角の隆線とそれに沿う沈線を施すⅣ－2類である。16は輪積み痕を残すⅣ－3類、17・18はⅣ－4類、14は山形状突起が付くⅢ－5類である。

第4節 台ノ前北貝層出土土器

東Ⅲ-3層

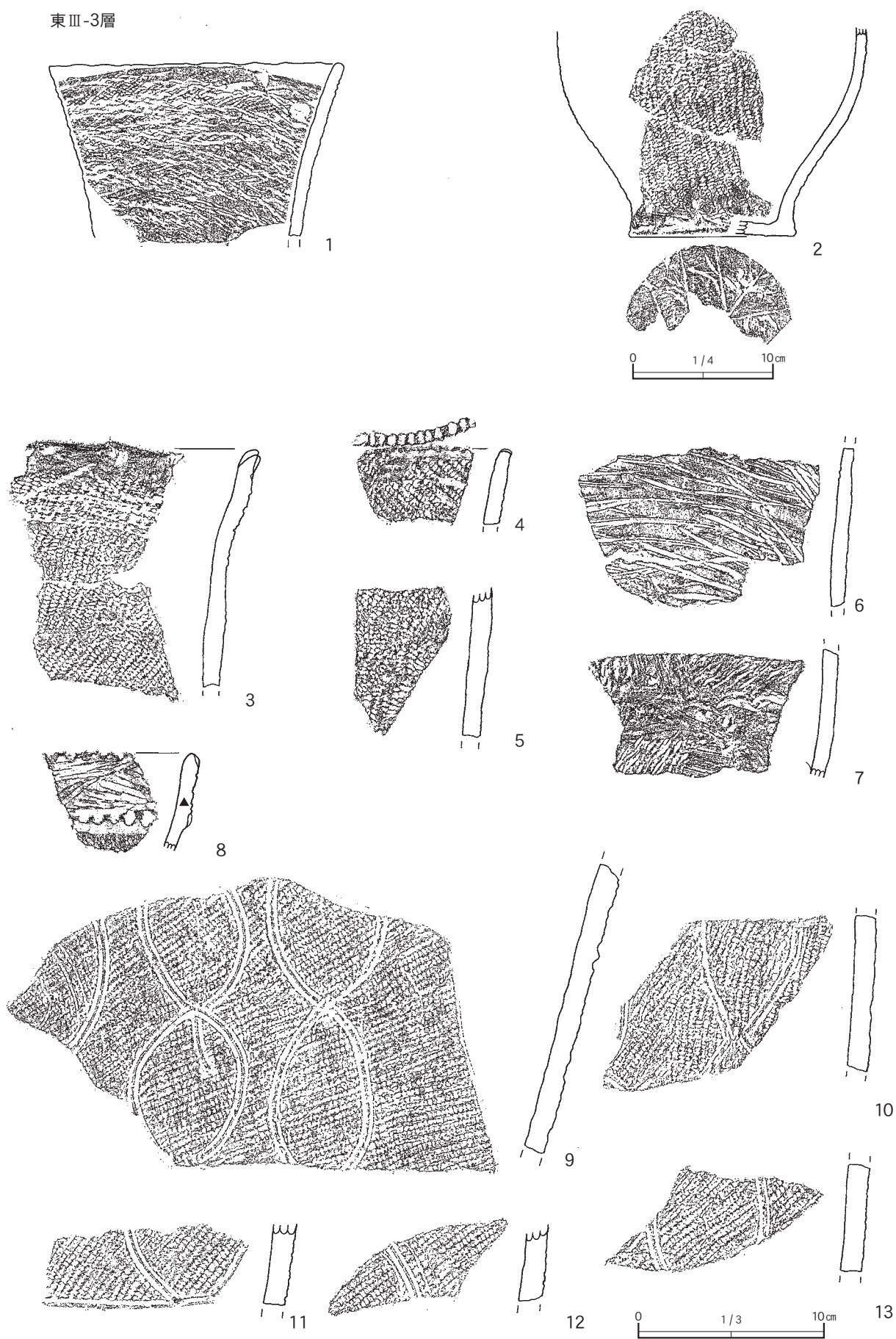


図84 53T東Ⅲ-3層出土土器 (S=1/3・1/4)

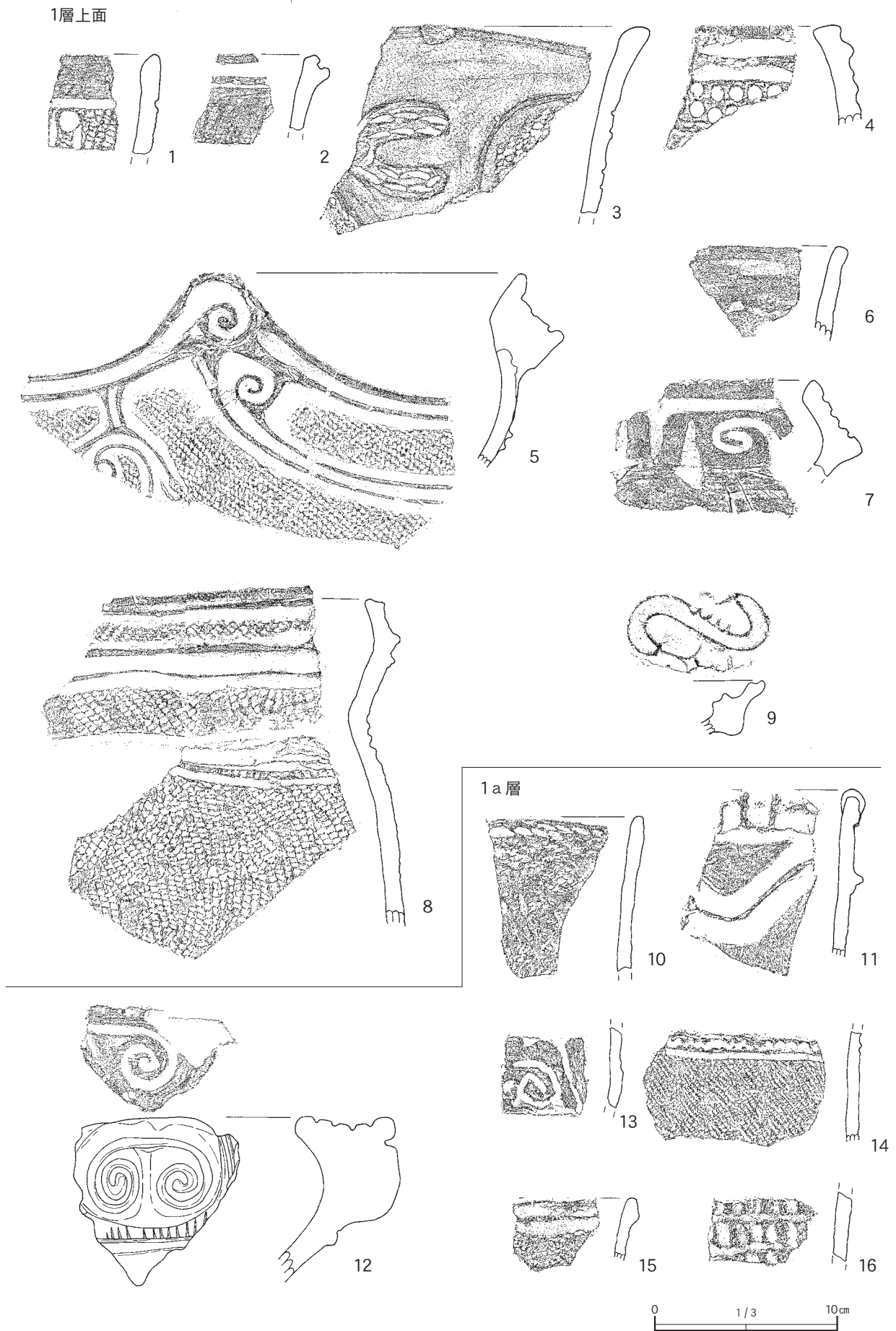
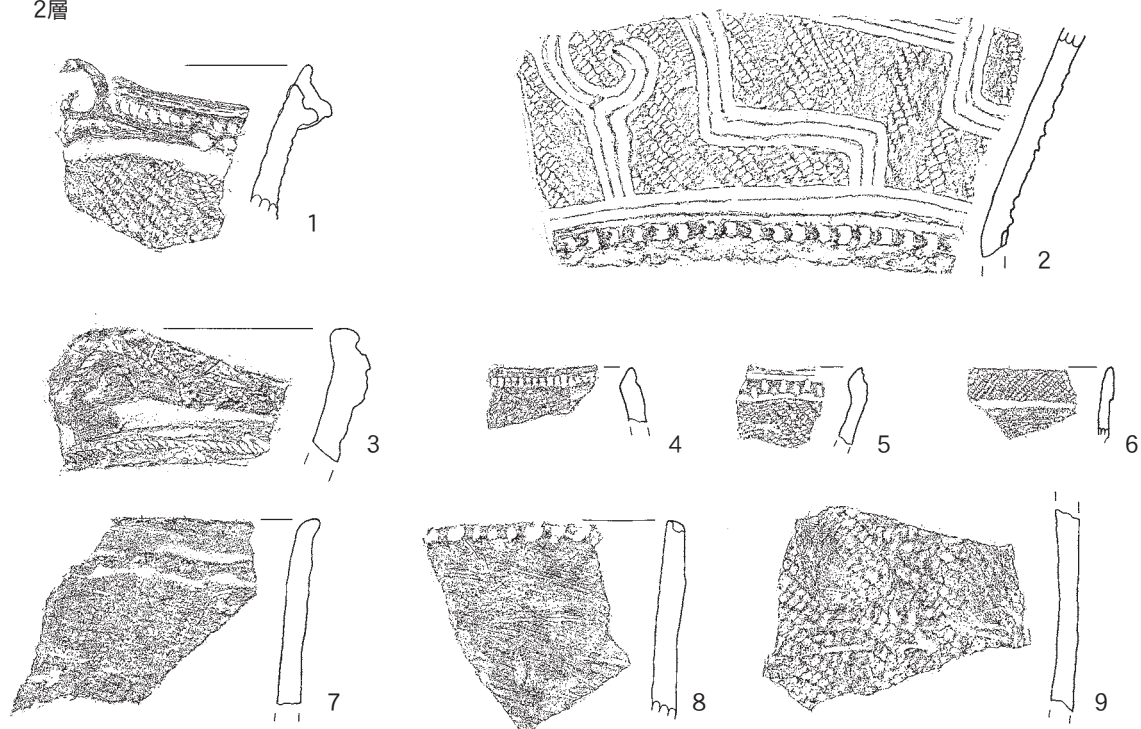


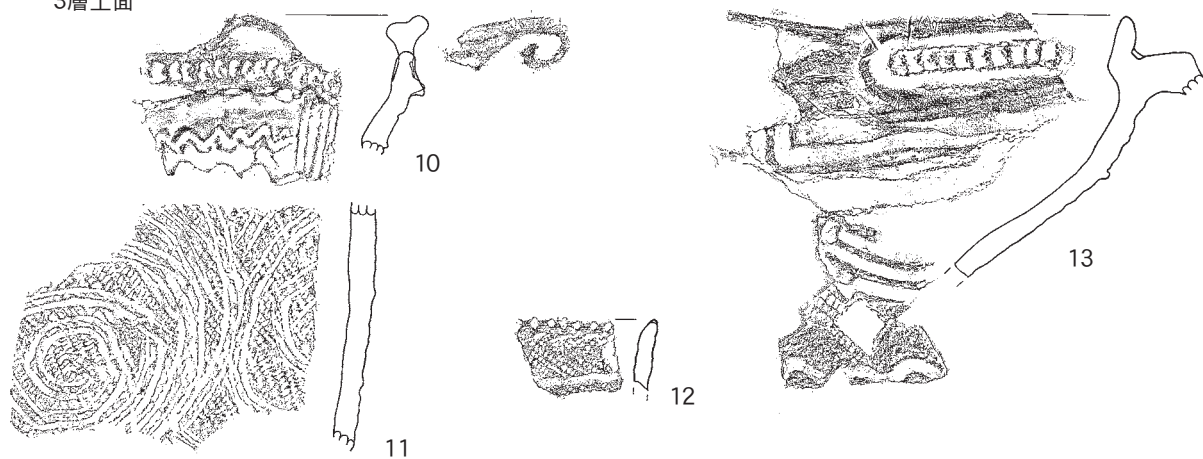
图85 63T出土土器① (S=1/3)

第4節 台ノ前北貝層出土土器

2層



3層上面



5層上面

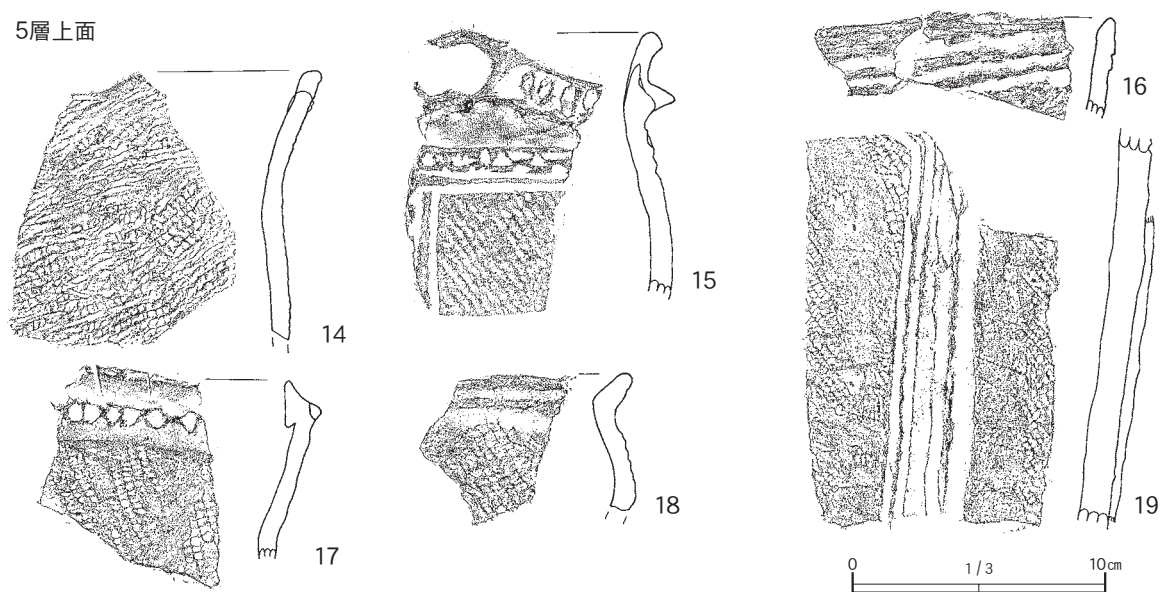


图86 63T 出土土器② (S=1/3)

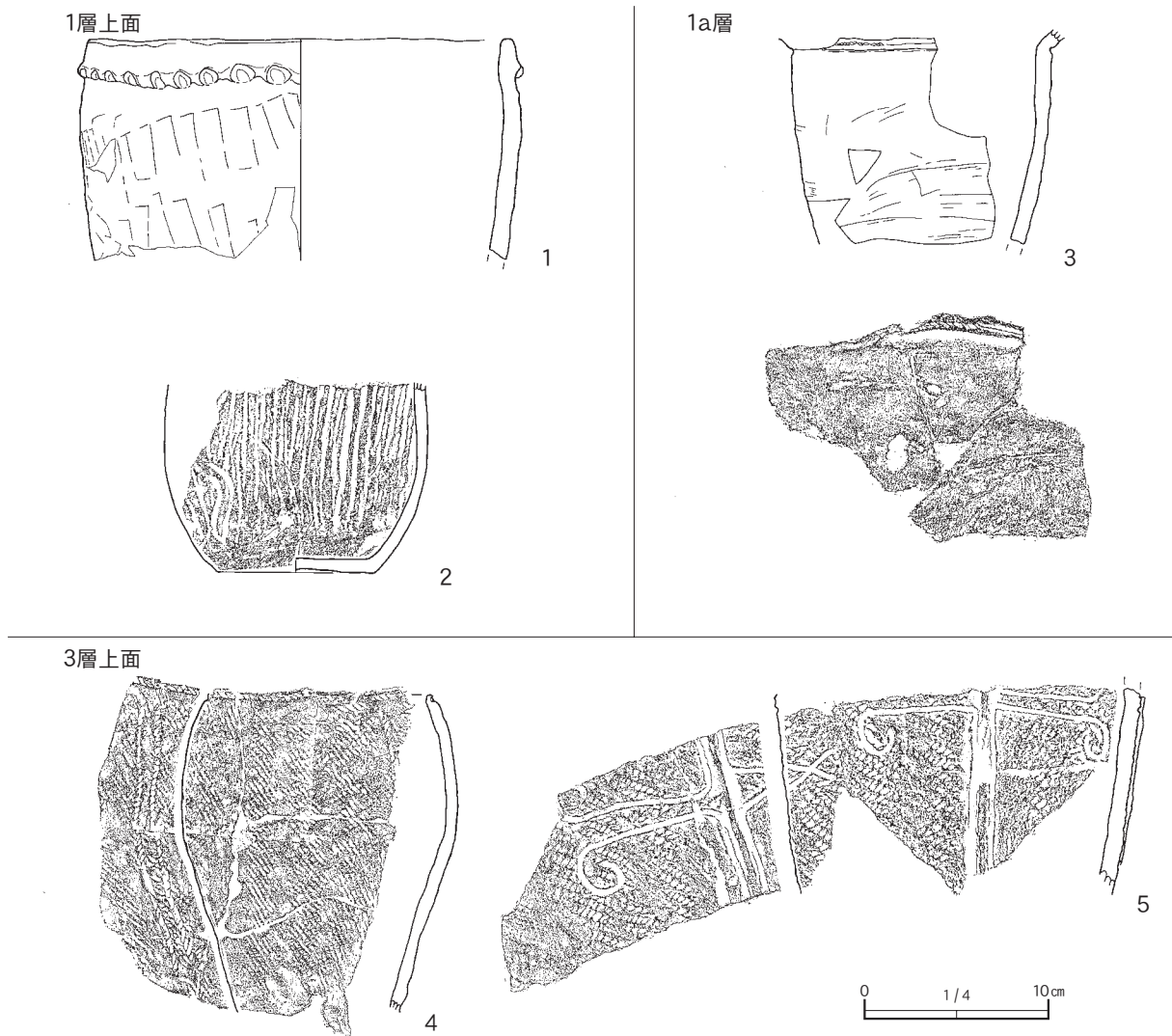


図87 63T出土土器③ (S=1/4)

5 67T (図88)

台ノ前北貝層の斜面上位にあたるトレンチである。土層が斜面側に確認された。掘り下げて調査は実施していない。Ⅲ-3層上面からの出土資料を示した。

1は刻み付隆帯が施されるⅦ-1類、2は多条沈線で渦巻文を施すⅦ-2類である。3・4はⅦ群に含めておく。23はⅦ群の両耳壺把手である。5~7はⅥ-2類、8~10はⅥ-1類に相当する。10は隆線による渦巻文が施される。11は口縁下隆帯が口縁にせり上がり、一方は円形状を呈している。Ⅳ-2類としておく。12~16は同一個体であり、波状口縁を呈すると考えられる。沈線による三角形、方形の区画内に蕨手状、弧状等の文様が付加されている。Ⅳ-2類と考えられる。17~21はⅣ群である。17は隆線、20は有節沈線による文様が施される。18はⅣ-4類、21はⅣ-3類である。22は複合口縁下に刻みを施すⅢ-4類である。

註

※1 図65-1は23層出土としたが、23層上面出土に訂正しておく。

※2 前報告「浦尻貝塚1」にて、63T実測図(前報告図83-1)の記載に誤りがある。断面図表記「1b」⇒「1d」、「1d」⇒「1e」、「1e」⇒「2」に訂正しておく。よってサブトレンチにて調査した層位は、1a・1d・1e・2層である。

第4節 台ノ前北貝層出土土器

Ⅲ-3層上面

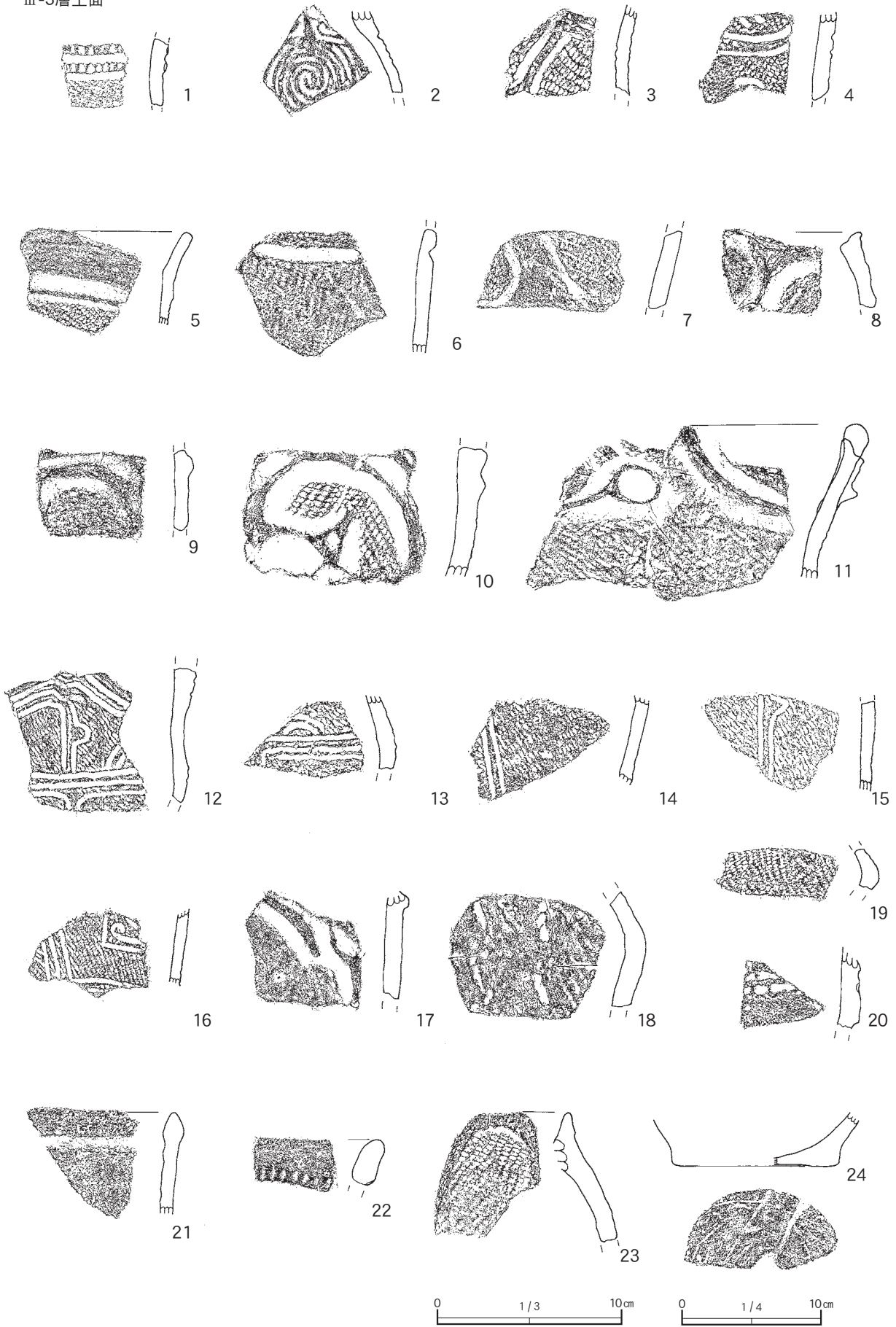


图88 67T出土土器 (S=1/3·1/4)

第5節 西向貝層出土土器

1. 西向貝層の概要

西向貝層は、東西最大約20m、南北約49mを測る。64Tで上下端が確認されており、削平部分を挟んではいるが、土主体層の上位及び斜面下位に混貝土層が堆積している状況が認められた。

2. 64T

64TのⅢ－3層を平面的な観察により、次のように大別した。

- a層 混貝土層を中心とし、黒褐色土を基調とするものである。混貝率が比較的高く、平面観察では最も上層にあたる。
- b層 混貝土層を中心とし、暗褐色土、褐色土を基調とするものである。混貝率はa層に比較し低いものである。a層下、c層上に堆積しており、斜面下に多く認められる。
- c層 土主体層を中心とし、褐色を基調とするものである。台ノ前南・北貝層の土主体層・土層と類似する。a・b層の下層に堆積している。
- d層 貝層最下層にあたり、貝をほとんど含まない層である。

これらは平面観察により、さらに細別されている。また、台地上にサブトレンチ1を設定し、15～25cm掘り下げて貝層上端の確認を行った。また、50cm角のコラムサンプルを4箇所設定し、厚さ5cm毎のサンプルを採取している。

コラムサンプルS1 (図89)

斜面下位にあたる大別a層上に設定したコラムサンプルである。上層に大別a層(混貝土)、下層に大別c層(土主体層)を確認している。サンプルは上位から順に番号をつけ、大別a層に対応するサンプルをA、大別c層に対応するサンプルをBとし、サンプル番号にそれぞれ付記した。

コラムサンプルS1 Ⅲ－3大別a層 (図89-1～21・27～33) : VII群(1～5・7～21)を主体とする。1・4は口縁に1条の沈線、5は列点状の沈線が施される。10・13は口縁下を沈線で区画し、盲孔が施文されている。12は波頂部に盲孔を施している。14・19は曲線状の文様が施されている。これらはVII-2類に相当する。8は口縁下を刻み付隆帯で区画している。15は口縁を隆線・沈線で区画し、蛇行沈線文が施されている。VII-1類である。

6は隆沈線により口縁部を区画するもので、VI-1類の可能性が高い。27は弧状の刻み付隆帯を波頂部下に付け、縦位弧状の沈線文を施すものである。IV-1類と考えられる。28・29は平行沈線による文様を描くⅢ-4類である。30～33はⅢ-5類である。

コラムサンプルS1 Ⅲ－3大別c層 (図89-22～26) : 22はIV-3類、24はIV-4類である。22は波頂部三角形の波状口縁を呈する。23は爪形文、26は多条の波状沈線文が施される。Ⅲ-4類と考えられる。25はⅢ-5類で、胴部下端をナデ磨消している。

コラムサンプルS2 (図90、図91-1～5)

斜面下位にある大別a層上に設定したコラムサンプルである。上層にa層(混貝土)、下層にc層(土主体層)を確認している。サンプルは上位から順に番号をつけ、Ⅲ－3大別a層に対応するサンプルをA、大別c層に対応するサンプルをBとし、サンプル番号にそれぞれ付記した。

コラムサンプルS2 Ⅲ－3大別a層 (図90、図91-4・5) : VII群(図90-2・4～7・9～18)を主体とする。5は列点状沈線が縦位に施される。11は曲線状の文様、15・16は同一個体で、頸部を横位沈線で区画し、蕨手状の文様を施すものである。17は貫通孔をもつ山形の突起が

第5節 西向貝層出土土器

サンプルS1大別a層
一括

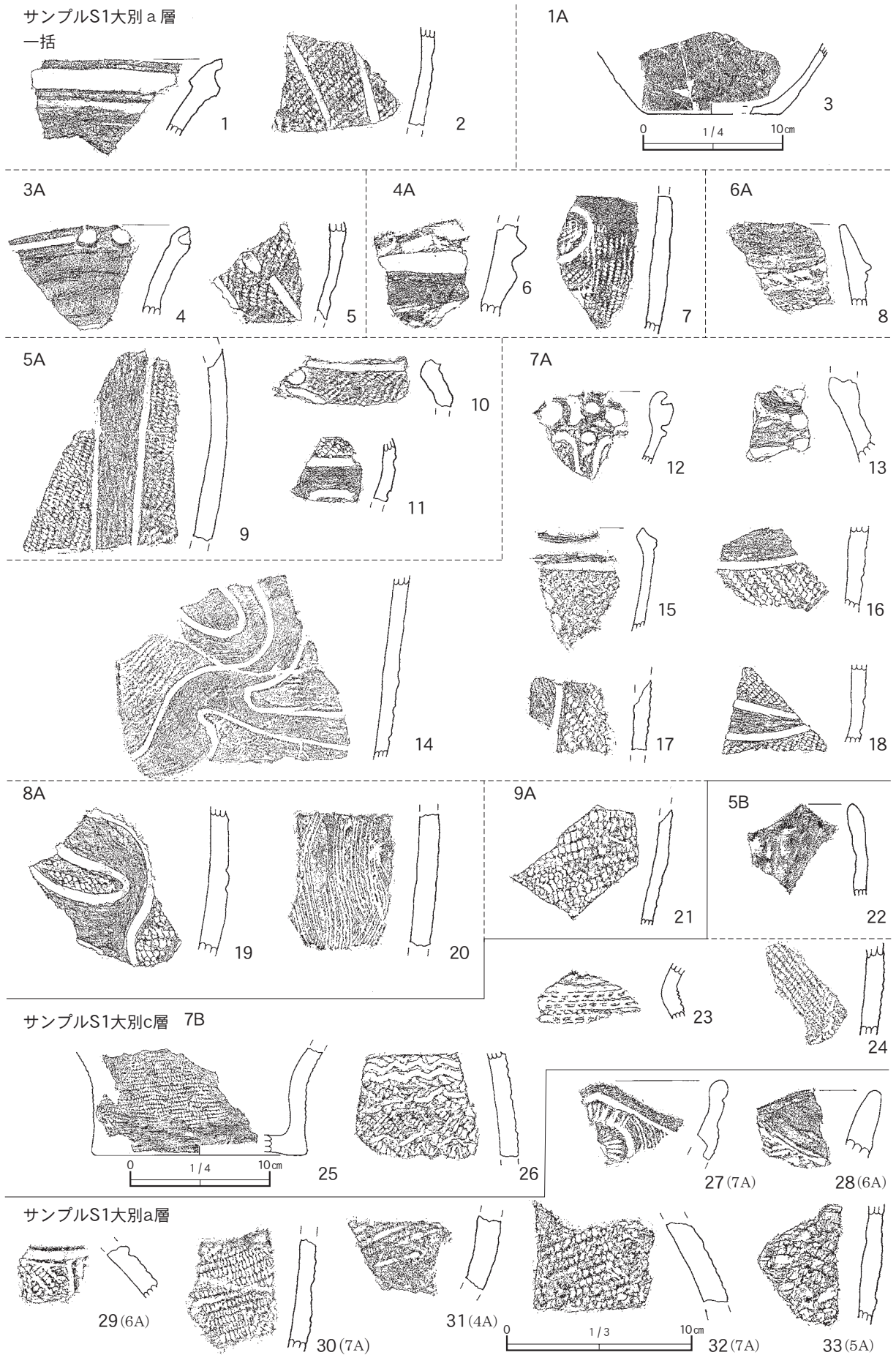


図89 64T出土土器① (S=1/3・1/4)

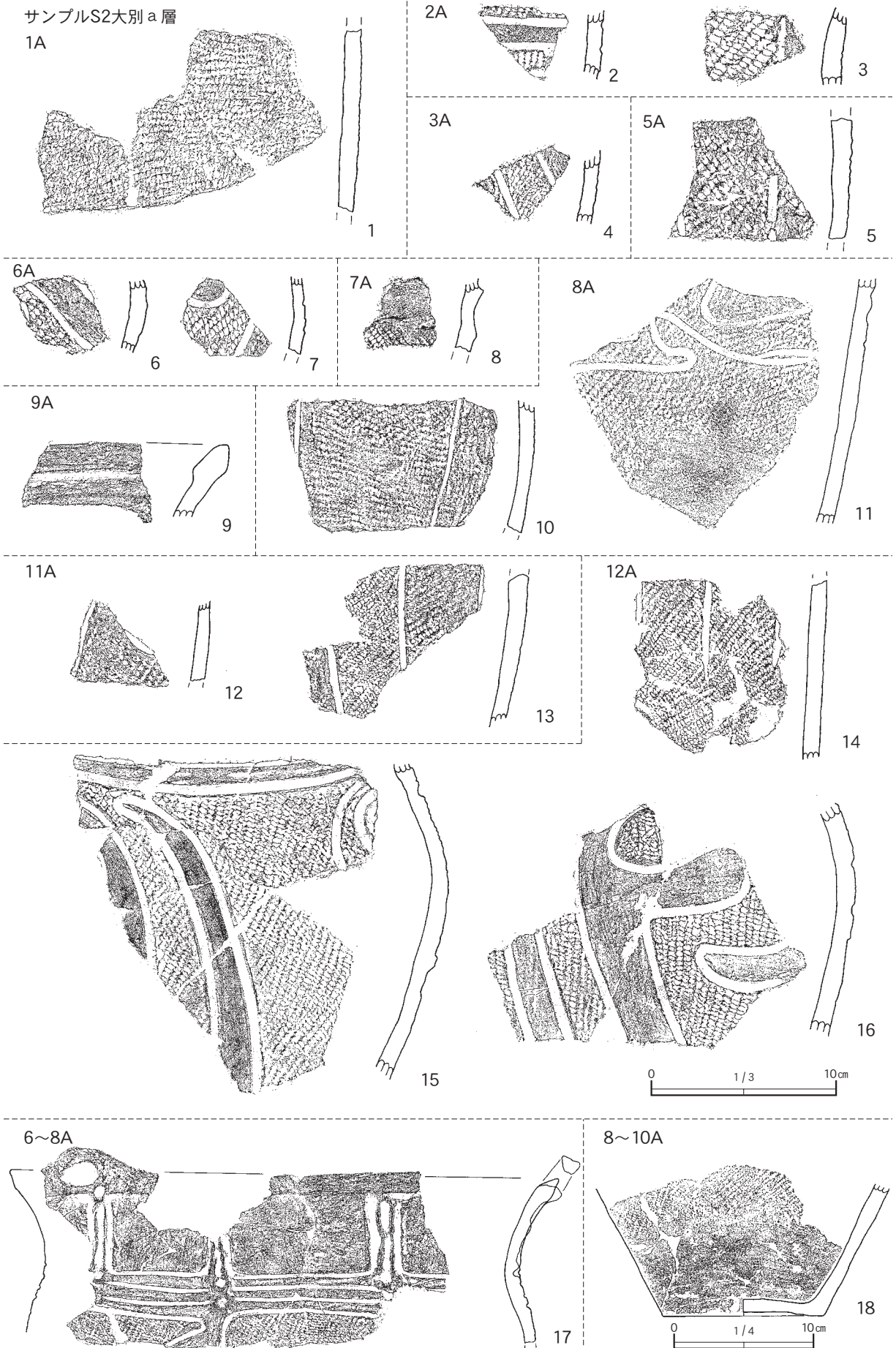


図90 64T出土土器② (S=1/3・1/4)

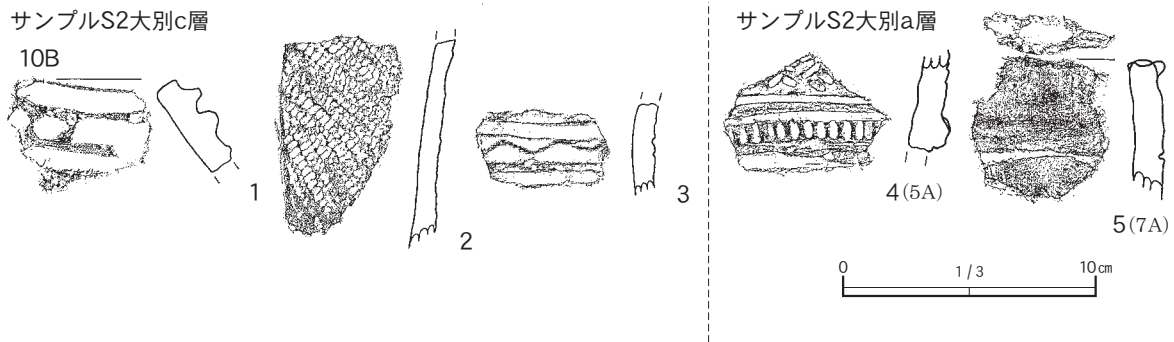


図91 64T出土土器③ (S=1/3)

付き、中央沈溝、盲孔が施される縦位隆帯がつく。頸部は沈線で区画し、胴部は磨消縄文により曲線的な文様を描くものである。これらはⅦ-2類である。図90-8は断面三角の隆線が施されるⅥ-2類である。図91-4は頸部を隆帯で区画し、多条山形文を描くⅣ-1類、5は双頭状の突起と見られる押捺が施されるⅣ群である。

コラムサンプルS 2 Ⅲ-3 大別c層 (図91-1~3) : 1は隆線が施されるⅣ-2類、2は縦位沈線が施されるもので、Ⅴ群と考えられる。3はソーメン状隆線による波状文が施されるⅤ-1類である。

コラムサンプルS 3 (図92、図93-1~9)

斜面上位にある大別c層上に設定したコラムサンプルである。大別c層のみ確認している。サンプルは上位から順に番号をつけた。

Ⅳ群 (図92-2~7・9・10・12・13・18・19) : 7・12は1類である。7は梯子状短沈線による渦巻状文、12は多条山形文が施されている。4・18はⅣ-3類、2・3・5・6・9・10・13・19はⅣ-4類である。

Ⅲ-4類 (図92-1・11・14・15・23・25・26、図93-1・2・4) : 図92-1は口縁に沿う刺突が施される。同図11は波状文と横線文が描かれる。同図14は隆帯による円形文、15は剥離した円形貼付文を中心として単沈線による文様を描くものである。同図23は内湾気味の口縁に単沈線による方形文を描いている。頸部は単沈線で区画し、弧状文を付加している。同図25は頸部を斜位刻み付の隆帯で区画するものである。同図26は縦位の単沈線が施されるもので、本類の可能性が高い。図93-1は口縁上端に押捺を施す。同図2は平行沈線による格子状文、同図4は横位区画内に縦位の波状沈線文が施されるものである。

Ⅲ-5類 (図92-8・16・17・20~22・24、図93-3・5・6) : 図92-8、図93-3は球胴形の器形を呈するものと考えられる。図92-21・24は胴部中位で屈曲する器形を呈するものである。図93-6は胴部下端の縄文をナデ磨消する。これらはⅢ-4類に伴う可能性が高い。

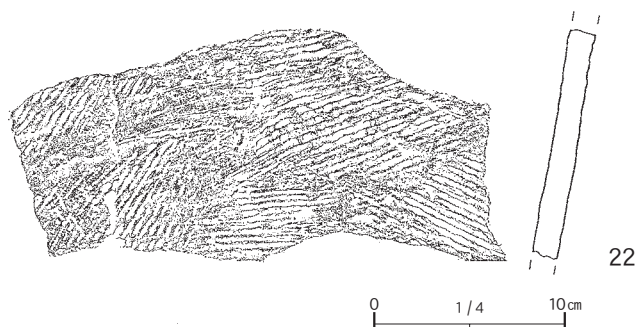
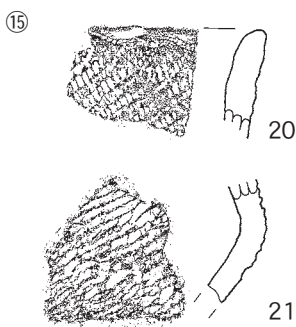
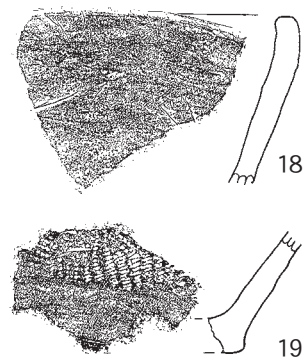
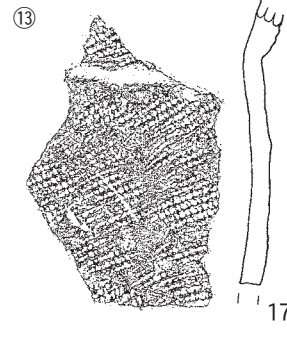
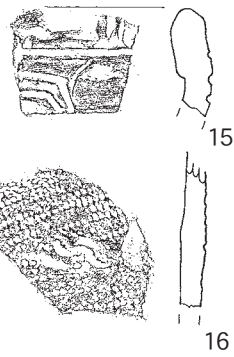
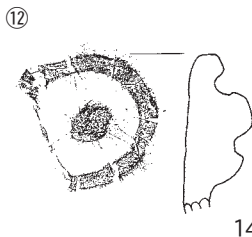
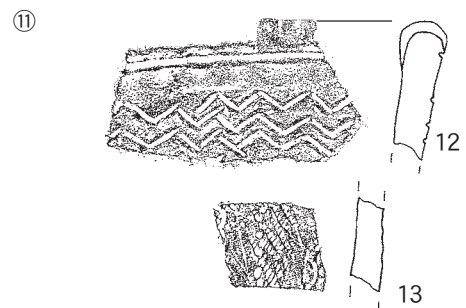
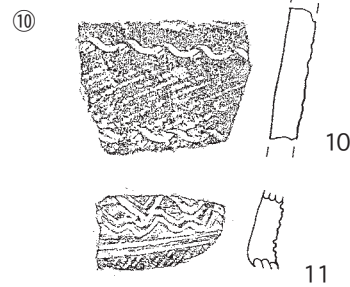
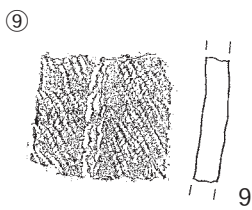
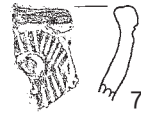
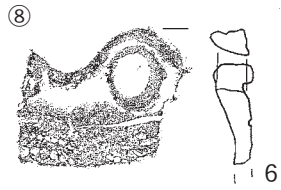
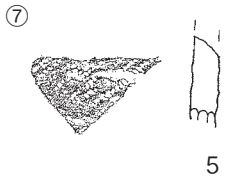
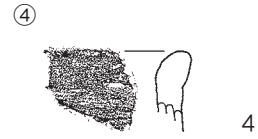
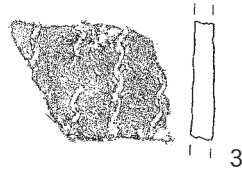
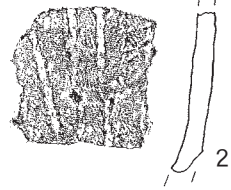
Ⅲ-1・2類 (図93-7~9) : 7・9は結節回転文が施され、口縁部を無文とするものである。2類と考えられる。8は半截竹管による刺突列が施されている。Ⅲ-1・2類に伴う可能性が高い。

コラムサンプルS 4 (図93-10~41)

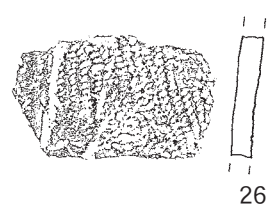
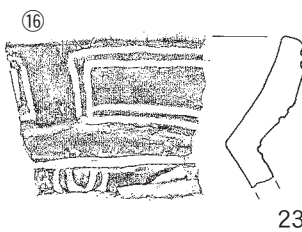
本調査区の最も西側の斜面下位に確認された大別b層上に設定したコラムサンプルである。大

サンプルS3大別c層

③



0 1/4 10cm



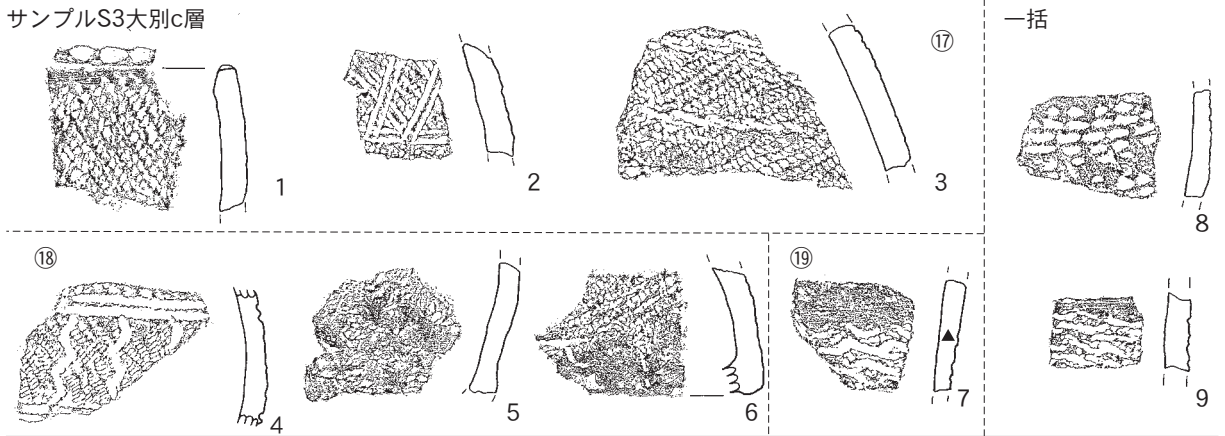
0 1/3 10cm

※○数字はサンプル番号を示す

図92 64出土土器④ (S=1/3・1/4)

第5節 西向貝層出土土器

サンプルS3大別c層



サンプルS4大別b層

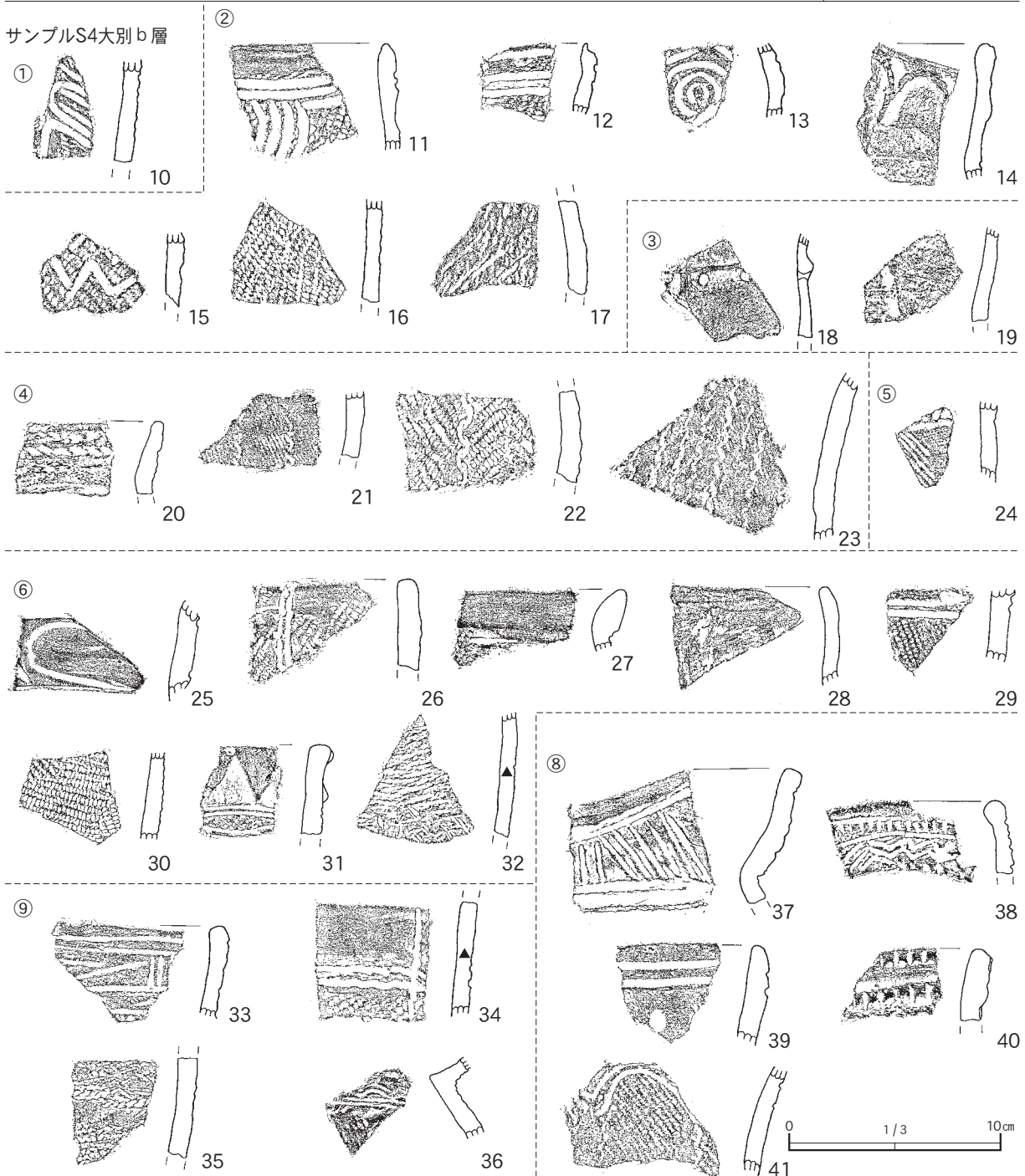


図93 64T出土土器⑤ (S=1/3・1/4)

※○数字はサンプル番号を示す

IV-2類 (10・14・18・19・25) : 14は口縁に連弧状隆線文を施す。18・19は微隆起線が施され、18は隆線に沿い円孔が施されている。25は単沈線により楕円形の文様が描かれている。

IV-1類 (26・38) 26は沈線に沿って刺突が施される。38は梯子状短沈線で口縁を区画し、山形文が施される。

IV群 (12・13・24・29・41) : 12は横位単沈線、13は単沈線による渦巻文、24は横位刻み列、29は横線文、41は平行沈線による連弧状文が施される。

IV-3類 (20・27・28) 20は口縁に横位縄圧痕文が2条施される。27は複合口縁を呈する。

IV-4類 (21~23) : 縦位結節回転文が認められる。

III-4類 (31・33・36・37・39・40) : 31は複合口縁の下端に三角刻みが施されている。33・37・39は単沈線で文様を描くもので、37は波状口縁に斜位の多条沈線、39は盲孔が施される。36は平行沈線による波状文、40は複合口縁に刻みが施されるものである。

15は単沈線による山形文を施すIII-3類である。34は縦横に有節沈線による波状文を描くIII-2類である。16・17・30・32・35はIII-5類である。

大別a層上面 (図94-1~10)

大別a層は平面的な観察により、さらに細別される。細別層別に確認時の一括出土資料を示した。

a1層 (1~3) : いずれもVII群である。2は曲線的モチーフが描かれ、VII-2類と考えられる。

a3層 (4~10) : 4~8はVII群である。4・5は口縁下端を沈線で区画し、曲線的なモチーフを描くものである。VII-2類と考えられる。6・7は口縁を隆帯で区画するVII-1類である。10は底部に網代痕を残すIV-4類、9は球形の胴部のIII-5類である。

大別b層上面 (図94-11~16)

大別b層は平面的な観察により、さらに細別される。細別層別に確認時の一括出土資料を示した。

b1層 (11) : 斜面下位にあり、a層下、c1層上にあたる。11は刻み付隆帯により文様を描くIV-1類である。

b2層 (12) : 斜面下位にあり、a3層下にあたる。12は爪形文で文様を描くIII-4類である。

b3層 (15・16) : 斜面下位にあり、a3層・b2層下、c3層上にあたる。15は太描沈線による山形文を描き、余白に盲孔を施すIII-4類である。

b4層 (13・14) : 斜面下位にあり、c4層上にあたる。13はIV-4類、14は縦位に多条直線文・波状文が施されている。IV群に含められる。

大別c層 (図95~97、図98-7~9、図99・100)

大別c層は平面的な観察により、さらに細別される。細別層別に確認時の一括出土資料を示した。

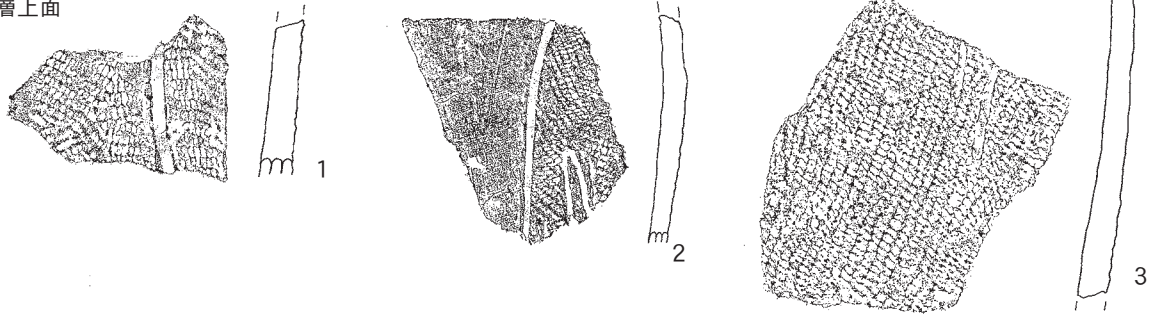
c1層 (図95、図96-1~13) : 斜面上位にあり、a1層・b1層下に、c2層上にあたる。図95-4・5、図96-1~4はVII群である。図96-1は口縁を隆帯と沈線で区画するもの、同図2は刻み付隆帯が縦位に付けられるものである。VII-1類である。同図3は格子状の条線文が施される。

図96-5は上下に渦巻文が施された突起が付くV-2類である。図95-1は横倒しの状態で出土した。土器内から骨片が出土し、ほぼ完形であることなどから、埋設土器と考えられる。口縁には縄圧痕文が施され、隆線区画内に刺突が充填されている。胴部は多条沈線により文様が描かれる。上位に相対する連弧状文を施し、多条横線文と小さい連弧状文で区画する胴部下はクランク状文等が描かれている。図95-3、図96-6は同一個体で、口縁を隆帯、胴部上位を多条のソーメン状隆線文で区画し、下位にクランク状文等の曲線的な文様が多条単沈線で描かれている。これらはV-1類である。図95-2は内湾する器形を呈し、カマボコ状の隆帯で区画してい

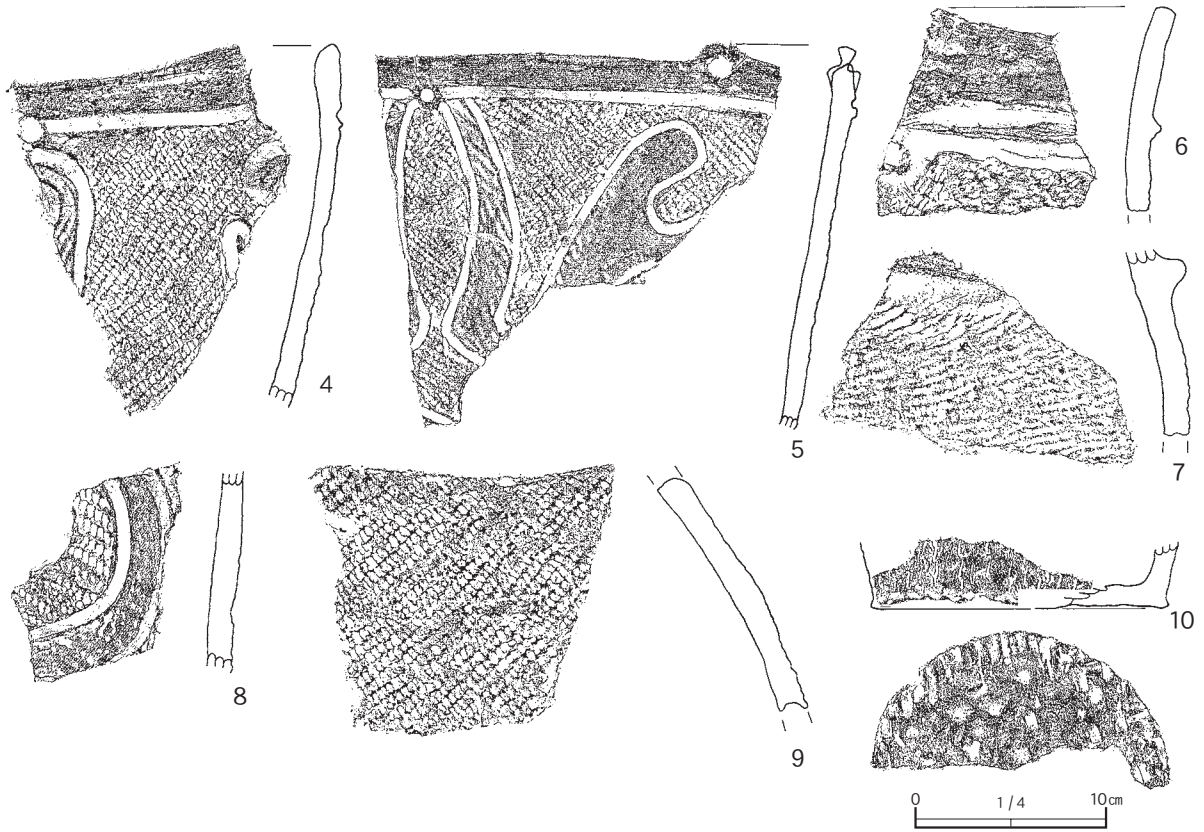
第5節 西向貝層出土土器

大別a層上面

a1層上面



a3層上面

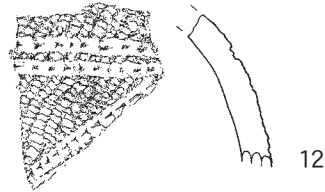


大別b層上面

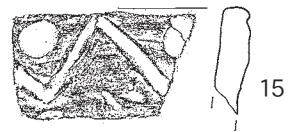
b1層上面



b2層上面



b3層上面



b4層上面

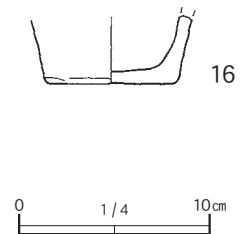
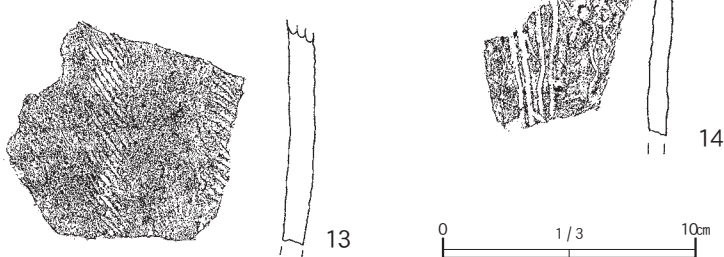


图94 64T出土土器⑥ (S=1/3·1/4)

大別c層上面

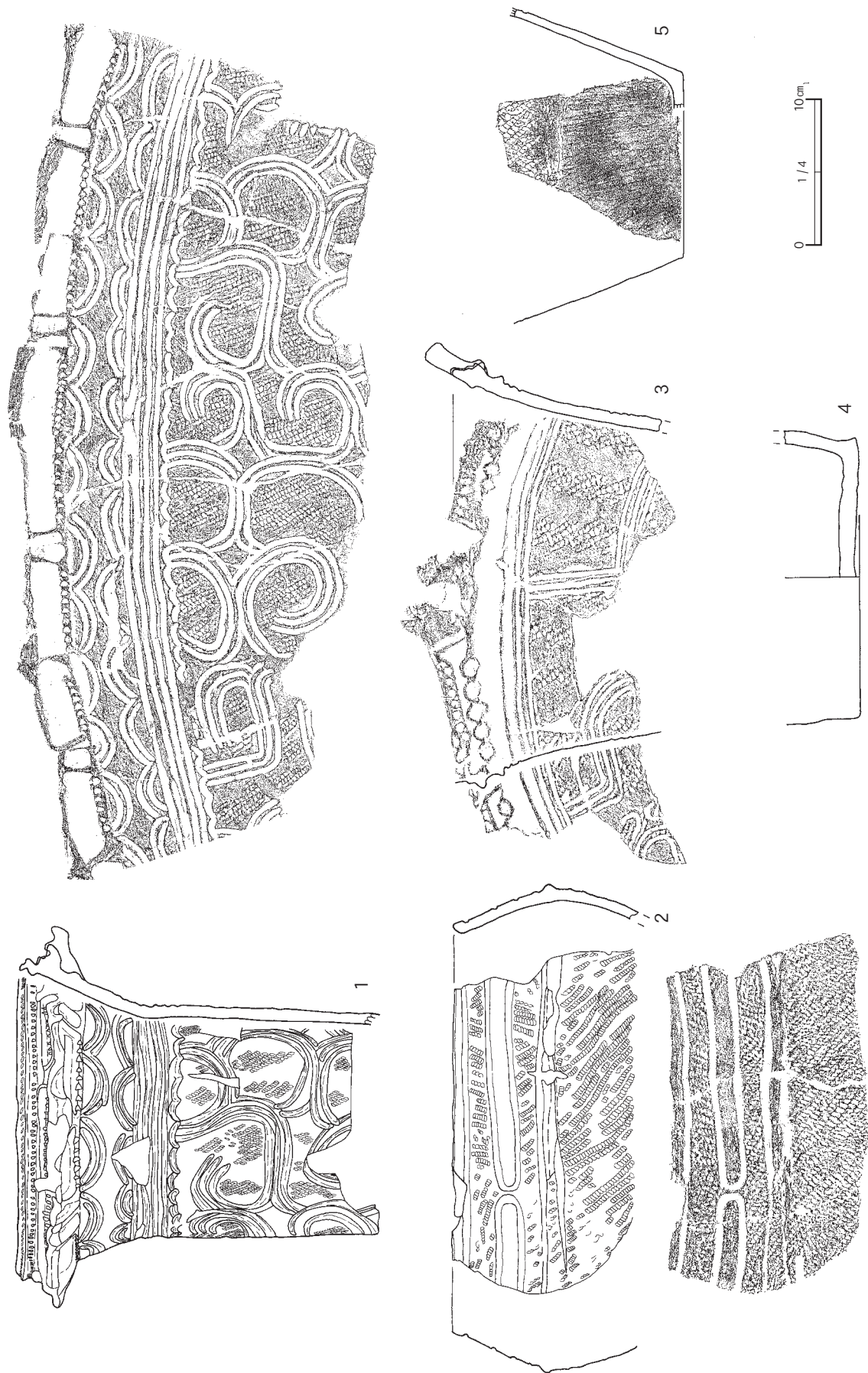
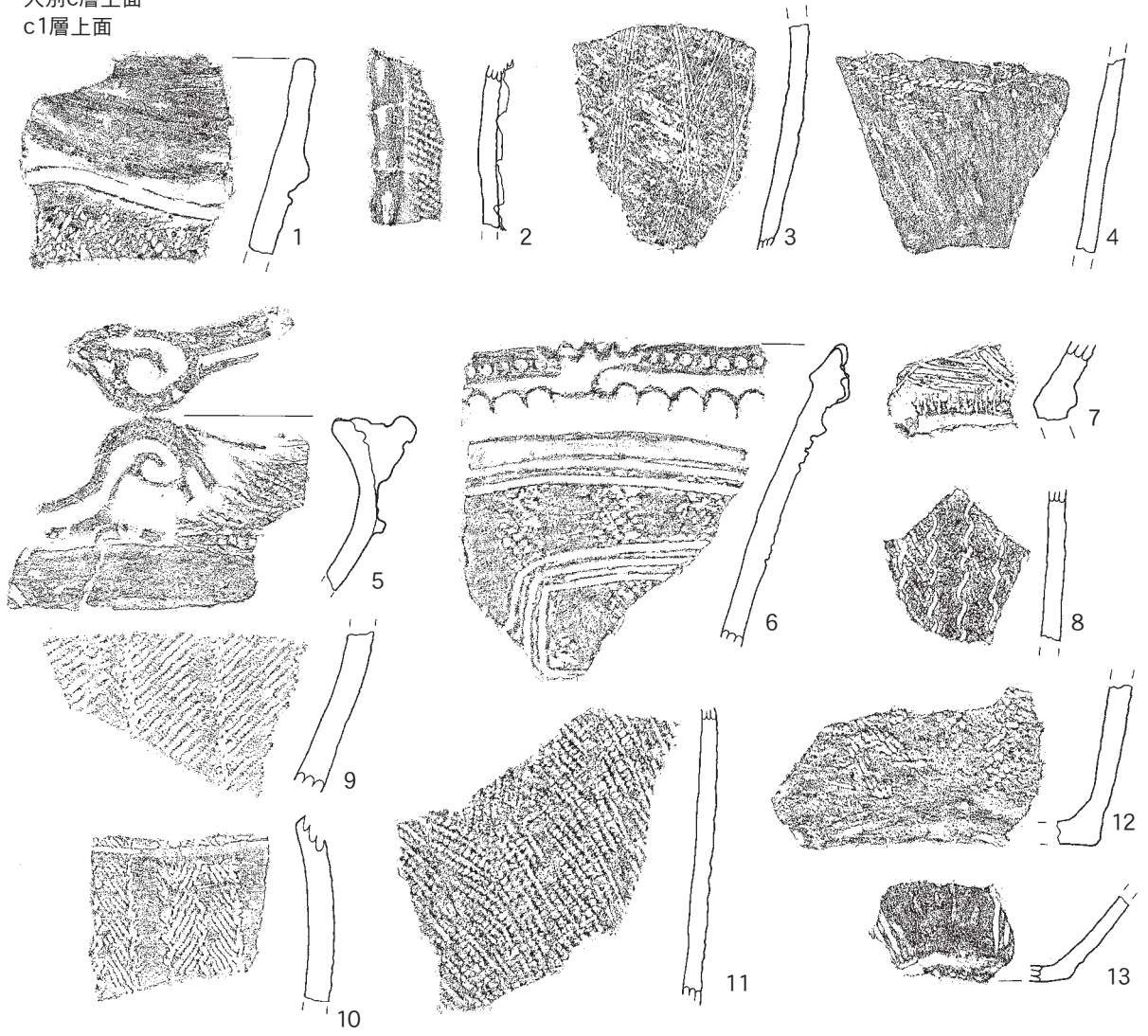


图95 64T出土土器⑦ (S=1/4)

第5節 西向貝層出土土器

大別c層上面

c1層上面



c2層上面

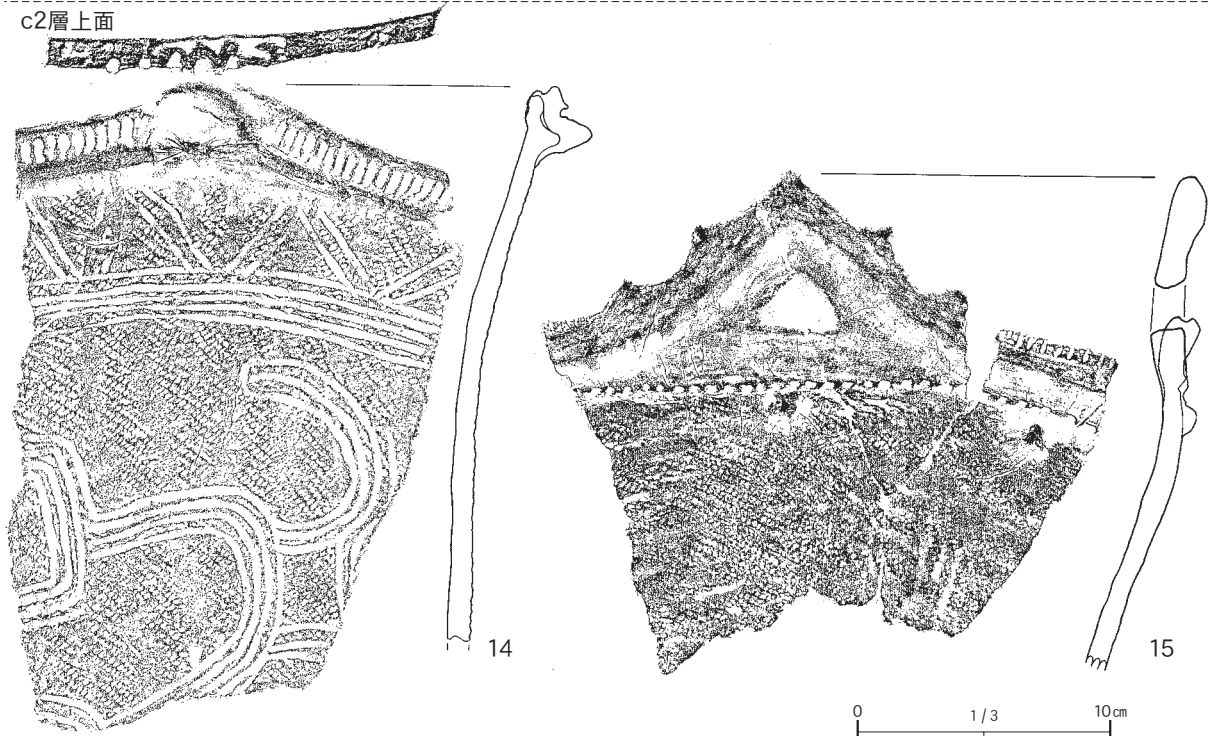


图96 64T出土土器⑧ (S=1/3)

大別c層上面
c2層上面

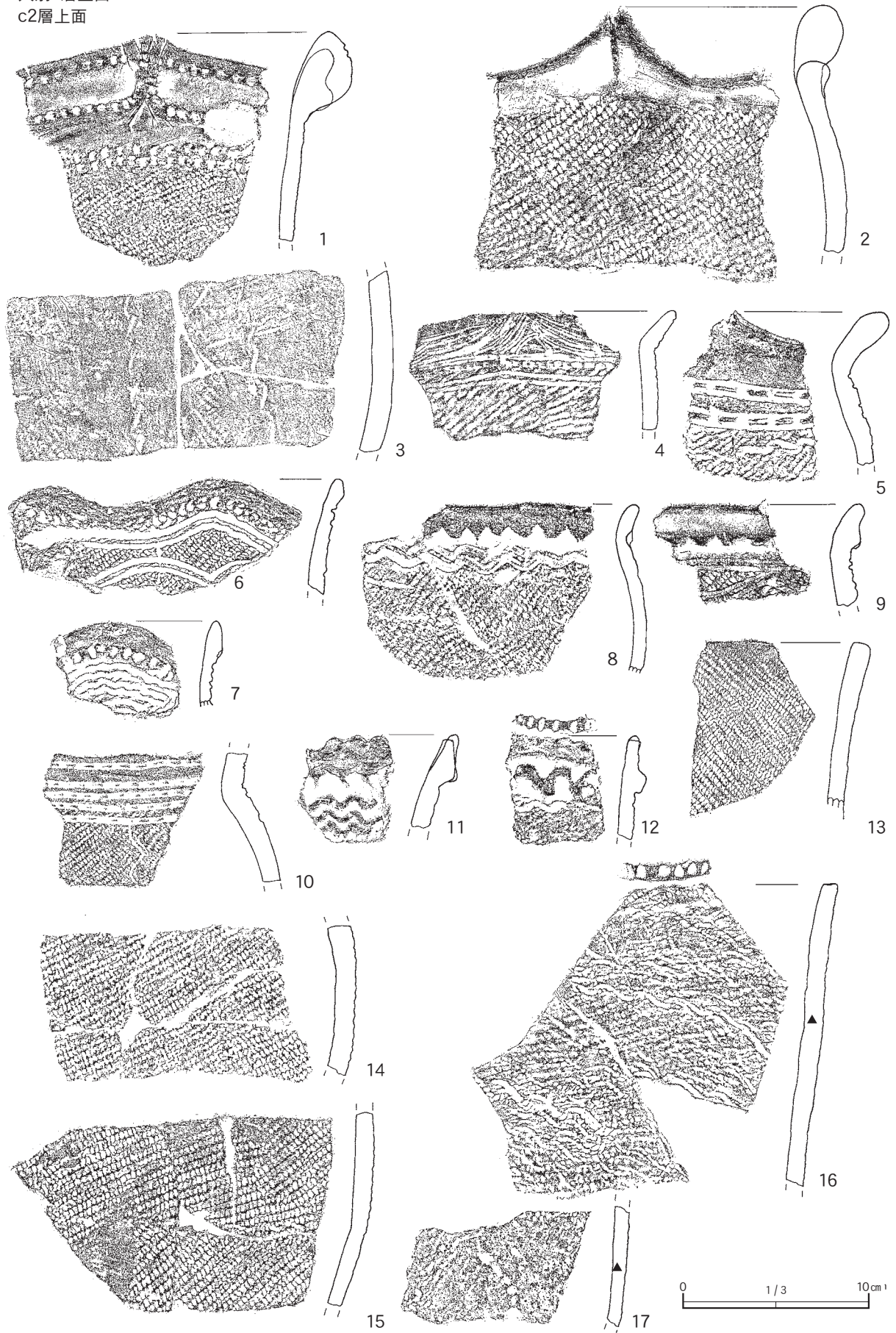


图97 64T出土土器⑨ (S=1/3)

第5節 西向貝層出土土器

サブトレンチ1Ⅲ-3層

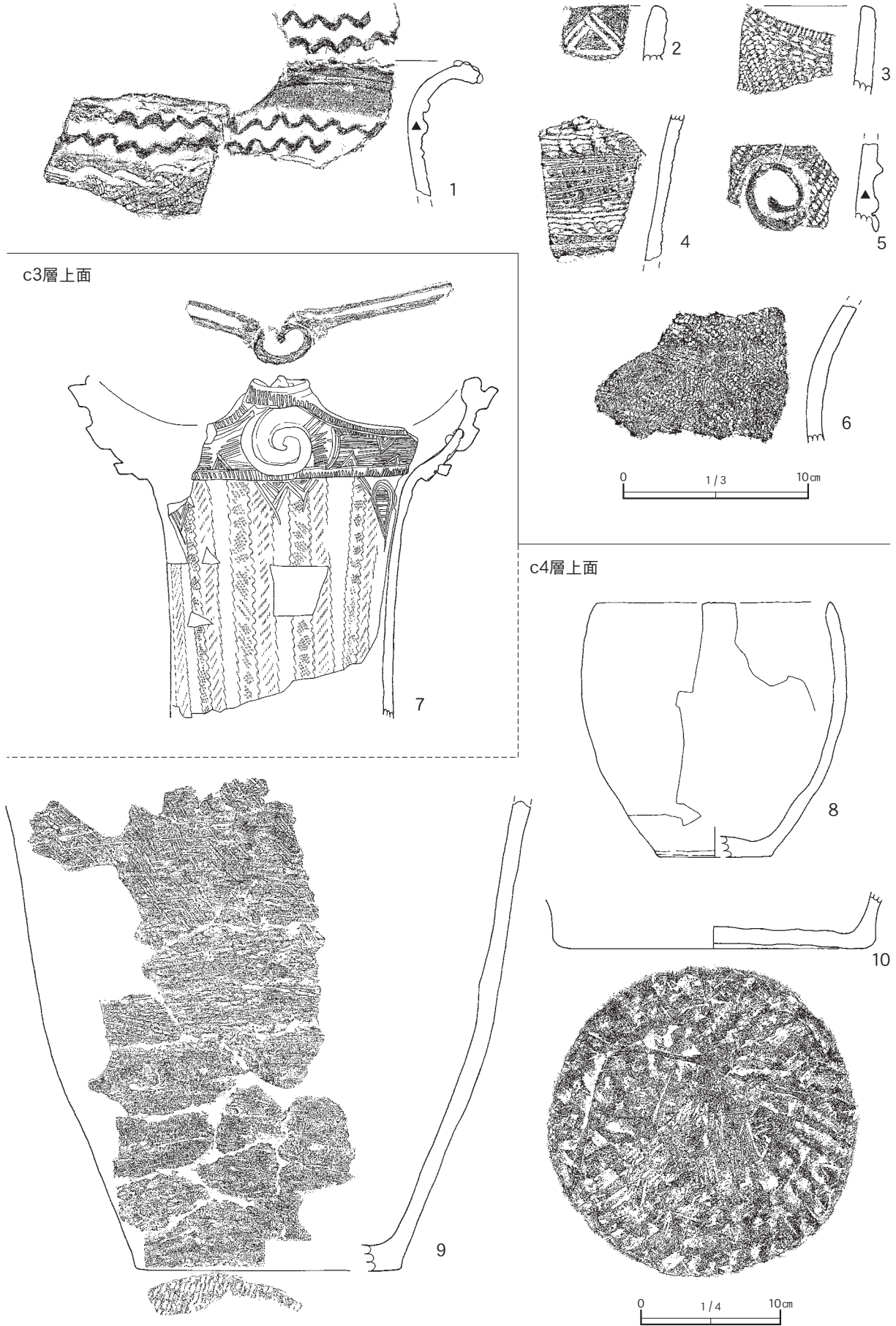


図98 64T出土土器⑩ (S=1/3・1/4)

る。口縁には縄文地を沈線で工字状に区画した横方向に展開する文様が施されている。V群に含めておく。

図96-7~13はIV群である。7は頸部刻み付隆帯で区画し、口縁に平行沈線による文様を施すIV-1類である。13は縦位沈線が施文される。8~12はIV-4類に含めておく。

c 2層（図96-14・15、図97）：斜面上位にあり、c 1層下にあたる。本調査区のⅢ-3層の最下層に相当する。図96-14はV-1類である。口縁を隆帯で区画し、区画内に刻みを施す。胴部上位に単沈線による山形文、下位にクランク状文等を施文している。図97-3はIV-4類、同図17はⅡ群である。

図96-15、図97-1・2・4~10はⅢ-4類である。図96-15は三角形波状口縁を呈し、波頂部には三角形の窓が付く。口縁の波状部分は三角状小突起が付き、平縁部は刻みが施されている。口縁下の有段部は刻み列で区画し、瘤状の貼付文が施されている。図97-1は刺突付隆帯で口縁を区画し、頸部に刺突列が施されている。同図2は三角波状口縁で、波頂部から垂下する縦位隆帯が認められる。同図4は口縁に平行沈線で弧状文を描き、横線文と刺突列で頸部を区画するものである。5・10は多条の爪形文列で頸部を区画している。6・7は同一個体の可能性がある。波状の口縁を呈し、複合口縁下端に刻みを施している。8・9は複合口縁下に三角刻みを施し、平行沈線による波状文を描く。11は鋸歯状貼付文と粘土紐貼付による波状文を施すⅢ-3類である。12・16はⅢ-2類である。12は口縁上端に刻み、粘土紐貼付による波状文が施される。16は口縁上端に刻みを施し、斜位の結節回転文が認められる。13~15はⅢ-5類で、14・15は同一個体である。

c 3層（図98-7）：斜面下位にあり、b 3層下にあたる。確認時の一括出土資料を示した。7はIV-1類である。波状口縁の波頂部から垂下する渦巻状隆帯を中心とし、横位多条短沈線と三角刻みが施され、三角刻みを沿う2条の短沈線で区画している。胴部も三角刻みとそれに沿う多条短沈線による垂下文が施されている。口縁部と胴部に明瞭な段をもち、そこには縦位短沈線が施文されている。

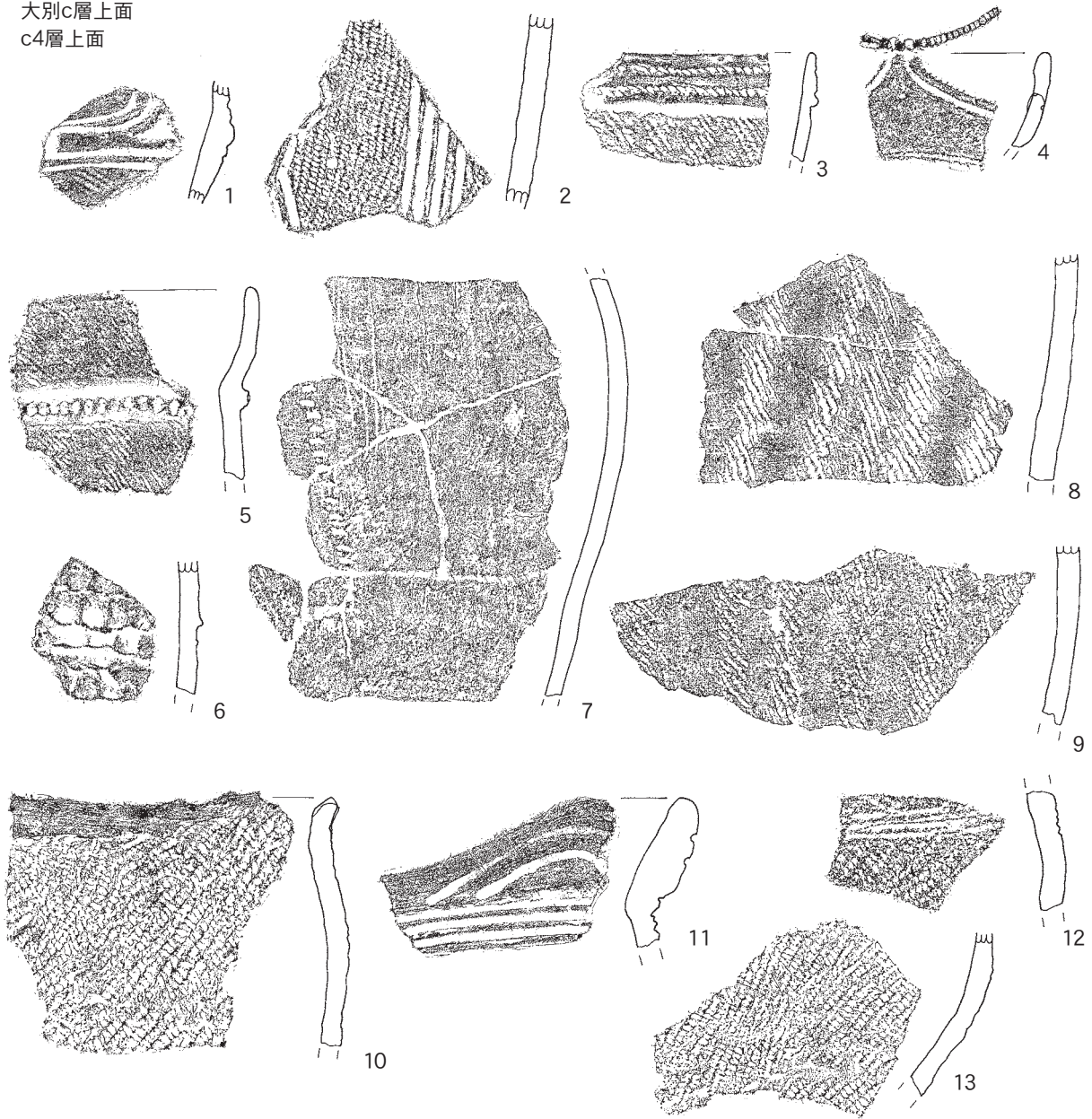
c 4層（図98-8~10、図99-1~13）：斜面下位にあり、b 4層下にあたる。確認時の一括出土資料を示した。図99-2は縦位単沈線が施されるV-2類である。同図1は隆線と沈線による楕円形の文様、同図4は波頂部三山状を呈し、口縁に沿う沈線を施し、同図6は輪積み痕を残すものである。IV-2類である。図98-8・10はIV-3類、同図9、図99-3・5・8・9はIV-4類である。図98-8は砲弾形の器形を呈し、同図9・10は底部網代痕を残す。図99-3は複合口縁に横位の縄圧痕文が施されている。同図11・12はⅢ-4類で、11は肥厚口縁に単沈線による弧状文、12は横位爪形文が施されている。同図10・13はⅢ-5類である。10は押捺による波状縁を呈している。

c 1・2層（図99-14~19、図100）：c 1・2層確認時の一括出土資料を示した。図99-14~19、図100-11はⅦ群である。図99-14・15は口縁を沈線と隆帯で区画するものである。同図16は口縁下を隆帯で区画し、縦位ノ字状隆帯を施している。同図19は円形浮文が施されている。これらはⅦ-1類に相当する。

図100-1は帯状文が施されるⅥ-1類、同図2は多条沈線による曲線文が施されるV-1類である。同図3は波状口縁で瘤状貼付文と単沈線で文様を施すもの、同図4は縄圧痕付隆帯、同図5は押捺付隆帯が付くIV群である。同図8~10はIV-3類である。同図12~17はⅢ-4類である。12~16は複合口縁を呈するものである。12は口縁に縦位隆帯が付き、頸部を隆帯で区画している。14~16は口縁下端に刻み、押捺を施している。17は沈線に沿う爪形文が施されている。

第5節 西向貝層出土土器

大別c層上面
c4層上面



c1·2層上面

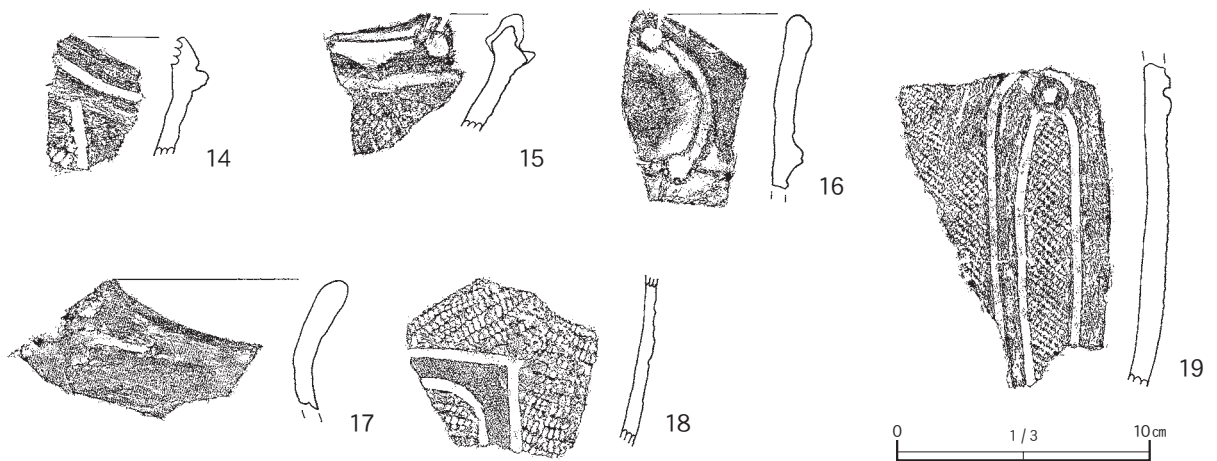


图99 64T出土土器⑪ (S=1/3)

大別c層(c1・2層上面)

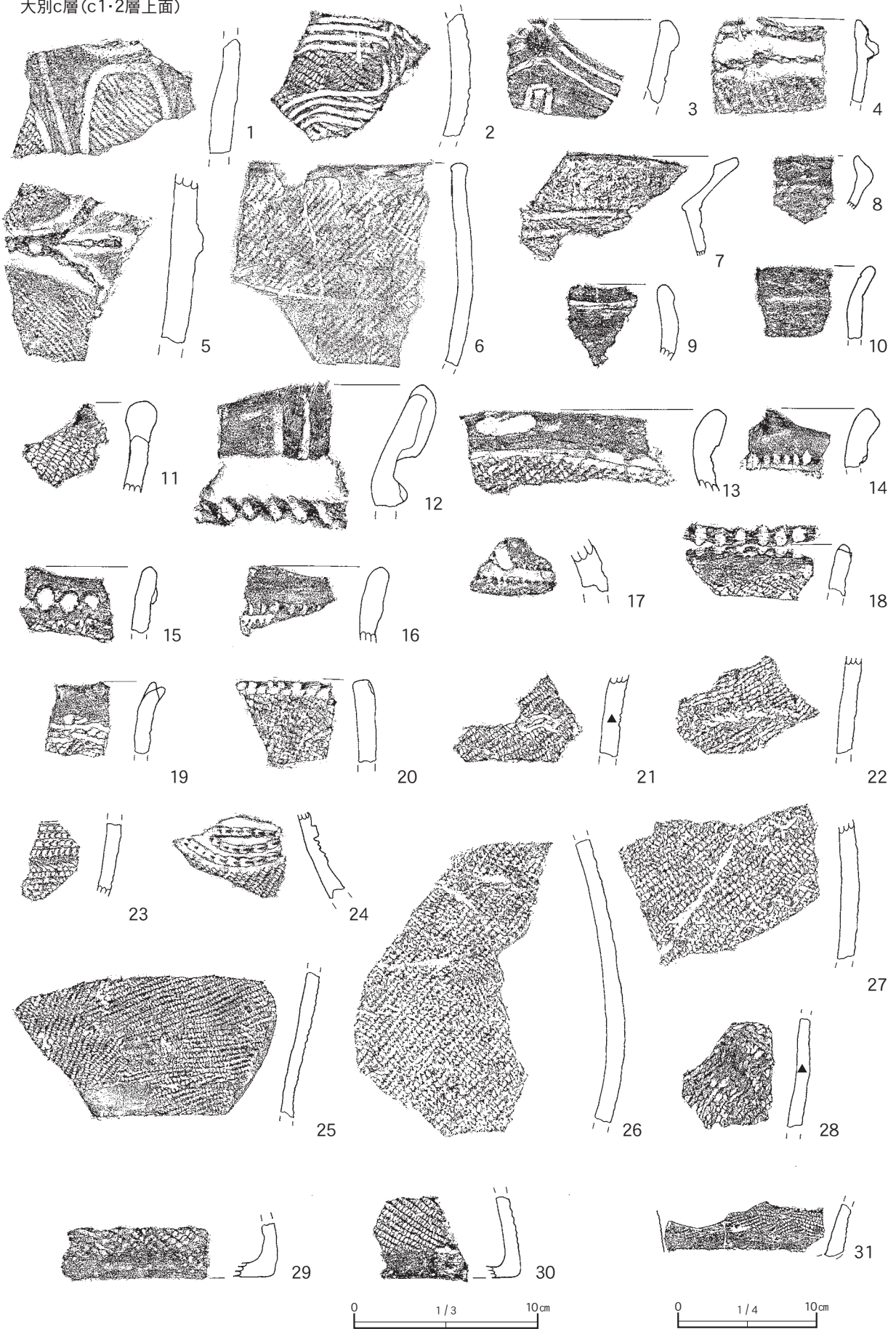


图100 64T出土土器⑫ (S=1/3)

同図18は口縁に刺突を施し、沈線により山形文と考えられる文様を描いている。同図20は口縁に2列の刺突列が施されるⅢ-3類と考えられる。同図19は口縁に交互押捺、同図21は平行沈線による波状文が施されるⅢ-2類、同図24は爪形文が施される隆線によって文様を描くⅢ-1類である。同図6・22・25～31はⅢ-5類である。同図23は変形爪形文と貝殻腹縁文が施文されるⅢ-6類である。

サブトレンチ1Ⅲ-3層(図98-1～6)

Ⅲ-3層斜面上位端の北壁に設定したサブトレンチである。15・16層からの出土資料を示した。大別c2層に相当する。1・2・5はⅢ-2類である。1は口縁が大きく外反し、頸部と口縁内面に2条の粘土紐貼付による波状文が施されている。2は平行沈線による山形文と横線文を施す。5は粘土紐貼付文による渦巻文が施される。3・4はⅢ-6類である。3は波状口縁で、口縁上端に縦位刻みを施し、2条の爪形文を施文するものである。4は貝殻腹縁文、条線文、横線文が交互に配される。6はⅢ-5類である。

第6節 西向地区遺構・遺物包含層出土土器

1. 土坑Ⅳ類

SK671 (図101・102、図103-1~21)

65Tで検出したものである。SK672を切る。Ⅶ群を主体とした土器が多量に出土している。

Ⅶ-2類 (図101-1~11・14・16~21、図102-2~5) : 図101-1~8は口縁に沈線を施し、頸部無文部に縦位隆帯を付け、頸部を沈線で区画し、盲孔が交点等に見られるものである。同図9・16~21は口縁部を沈線で区画し、胴部に曲線状の文様モチーフが描かれるものである。9・10は突起部に貫通孔が見られる。10は渦巻状の突起部であり、口縁等に沿う沈線、盲孔が認められる。11は波状口縁で、内外面に盲孔が施される。14は突起部から盲孔と単沈線が垂下するものである。

図102-3は多条沈線で文様を描いている。同図2・4・5は曲線状の文様モチーフが磨消縄文で施されるものである。同図2は列点状沈線と盲孔が施される。

Ⅶ-1類 (図101-13・15・22、図102-1・21) : 図101-13は口縁下を隆線区画し、ノ字状隆帯が施される。同図15は隆沈線で区画し、円形浮文が付けられる。図102-1は口縁下を刺突付隆帯で区画している。同図21は大形三角文のモチーフを施すものである。

Ⅶ群 (図101-12・23~25、図102-6~20、図103-1~9) : 図101-12は貫通孔が認められる口縁である。同図23~25は口縁を横位沈線で区画する。図102-6~20、図103-2は曲線的なモチーフを磨消縄文で描くものである。図103-1・3は地文上に曲線状の沈線文が施されている。同図6・7は撚糸文を施文しており、本群に伴う可能性が高い。

V・Ⅵ群 (図103-10~15・17) : 10は隆沈線による渦巻文、11はキャリパー形の口縁の口縁のⅥ-1類、13は渦巻文を多条単沈線で施すV-2類である。12はソーメン状隆線による渦巻文、15は上位はソーメン状隆線、下位に沈線によるクランク状文、波状文が認められる。14は単沈線によるクランク状曲線文が施される。17はカマボコ状の隆線と横位縄圧痕文が見られる。これらはV-1類である。

Ⅲ・Ⅳ群 (図103-16・18~21) : 16が隆線と刺突列が施されるⅣ群、18は隆線と縄圧痕文が施されるⅣ-2類である。19は沈線に沿う三角刻み文が施されるⅣ-1類、20は内面が突出するⅣ-3類である。21はソーメン状隆線により横位鎖状、梯子状の文様を施すⅢ-4類である。

SK642 (図103-22~25)

65Tで検出したものである。SK671に切られる。遺構確認時の一括出土資料がある。22は隆沈線による文様を描くⅥ-1類、23・25はⅥ群、24は単沈線で文様を描くV群と考えられる。

2. 遺物包含層

65TⅢ-5層 (図104~106)

65Tでは、ほぼ全面的にⅢ-5層 (遺物包含層) を確認した。Ⅲ-5層を掘り下げ、遺構確認を行い、Ⅲ-5層下にSK671・672を確認した。斜面下部はⅢ-5層を一部残し、サブトレンチを設定し、調査を行った。Ⅲ-5層中の出土遺物を示しておく。

Ⅸ群 (図104-1・2) : 1・2は珠文が施されている。

Ⅶ群 (図104-3・4) : 3は波状口縁を呈し、条線文地に単沈線を描いている。4は口縁に単沈線と盲孔を施しており、2類と考えられる。

Ⅵ群 (図104-6~14) : 6は浅鉢の可能性がある。6~9は断面三角の隆線が施される。これらは2類である。

SK671

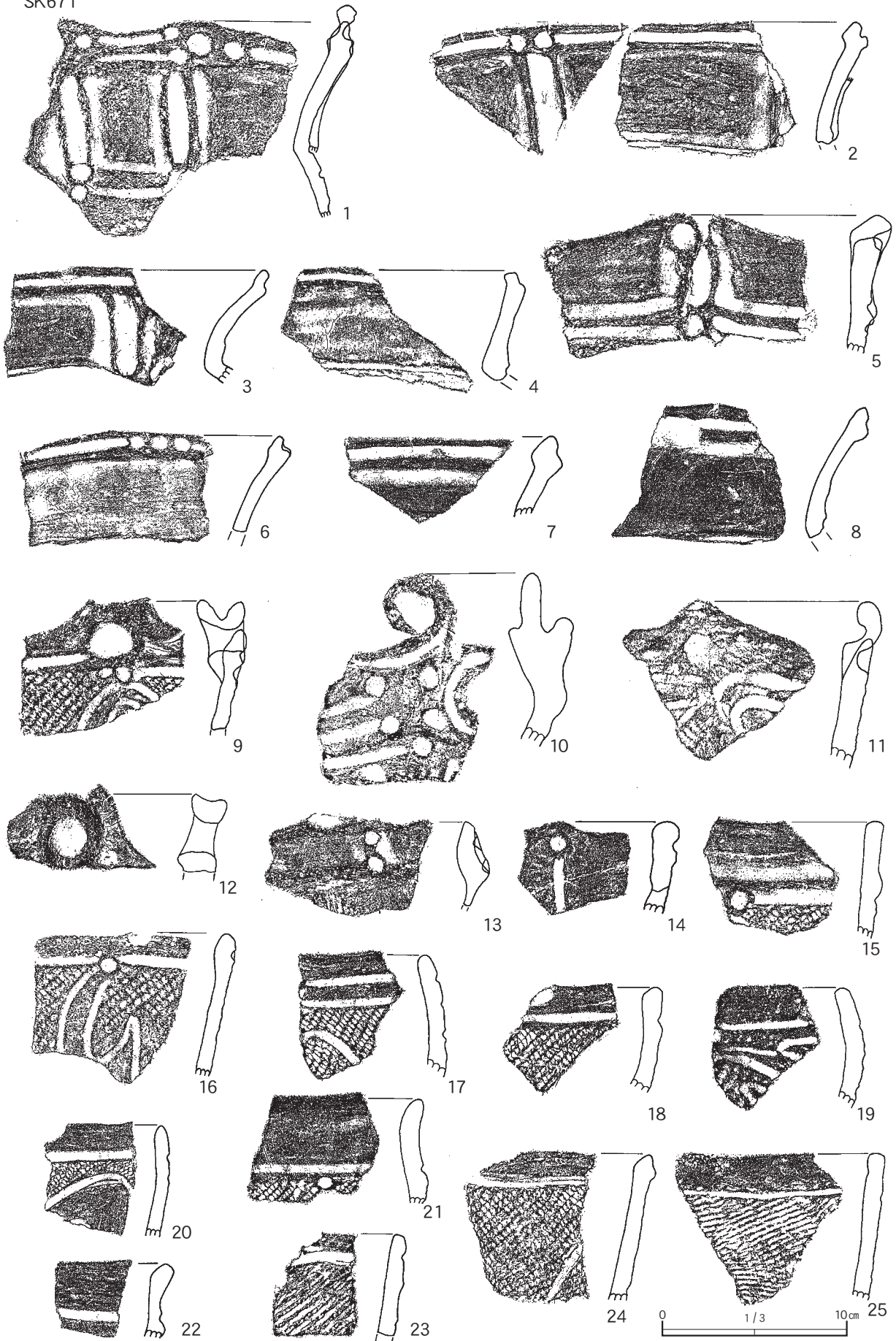


图101 土坑IV類出土土器⑥ (S=1/3)

SK671



图102 土坑IV類出土土器⑦ (S=1/3)

SK671

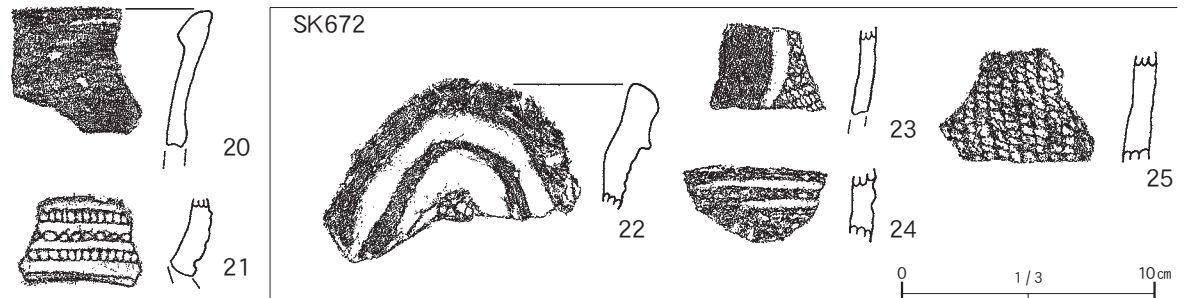


图103 土坑IV類出土土器⑧ (S=1/3)

65TⅢ-5層

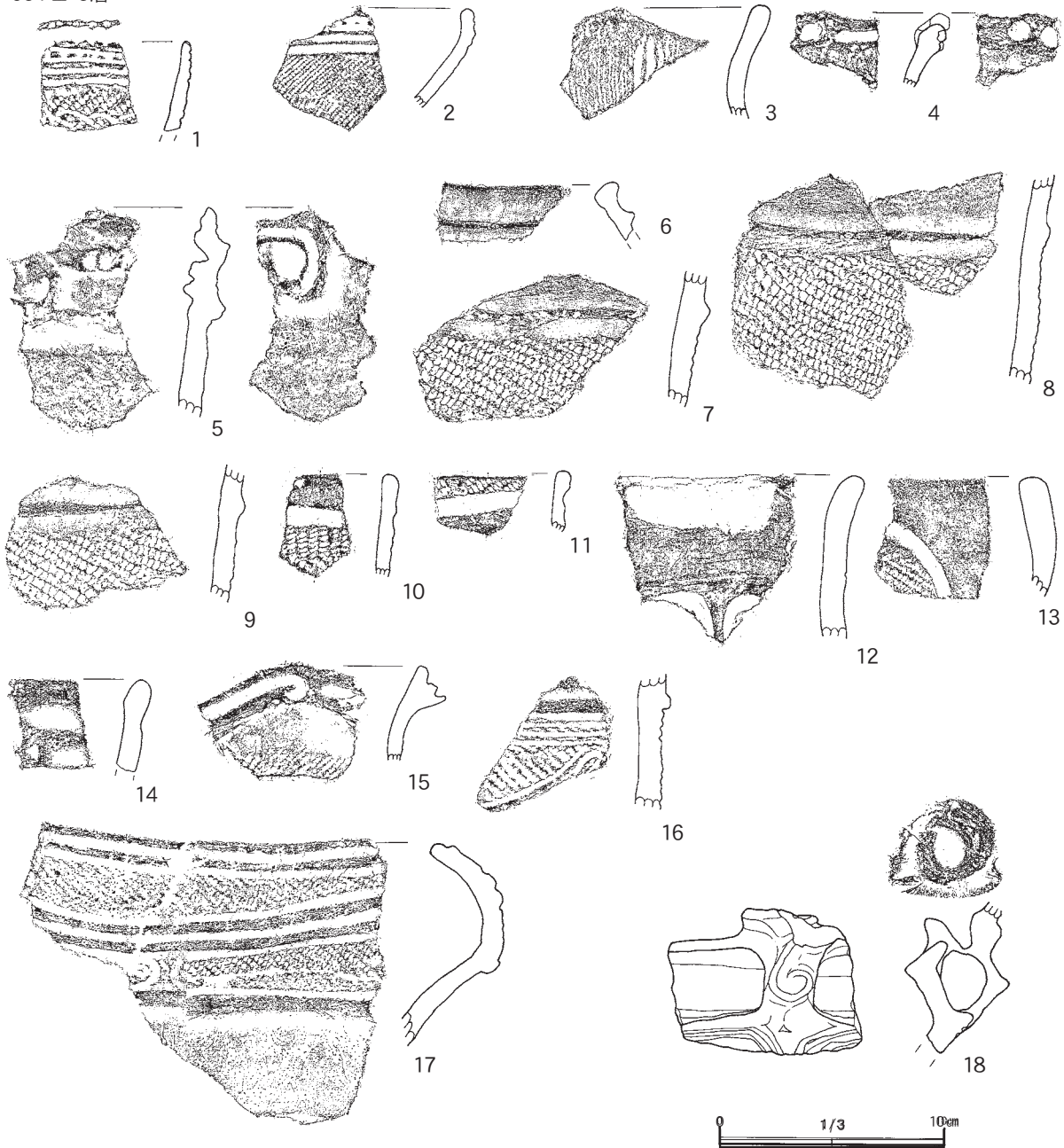


図104 遺物包含層出土土器⑥ (S=1/3)

V-2類 (図104-15~18) : 15は口縁に隆沈線を施す渦巻文、16は頸部を隆帯で区画し、曲線状の文様を施している。17はキャリパー形の器形で、口縁部隆沈線が施文される。18は橋状の把手で渦巻状の隆線が施されるものである。

V-1類 (図105-1~11) : 1~11は多条の沈線・隆沈線により、クランク状等の文様を施すものである。7~11は同一個体で、多条沈線に沿い連弧状文が施されている。

IV-2類 (図104-5、図105-12・17~20、図106-4) : 図105-12は胴部が膨らみ、頸部から屈曲し、内湾気味の口縁を呈するものである。口縁に渦巻状突起が付き、浅い単沈線により多様な文様が描かれている。同図15は口縁隆帯区画内に横位縄圧痕文が施される。図104-5、

65TⅢ-5層

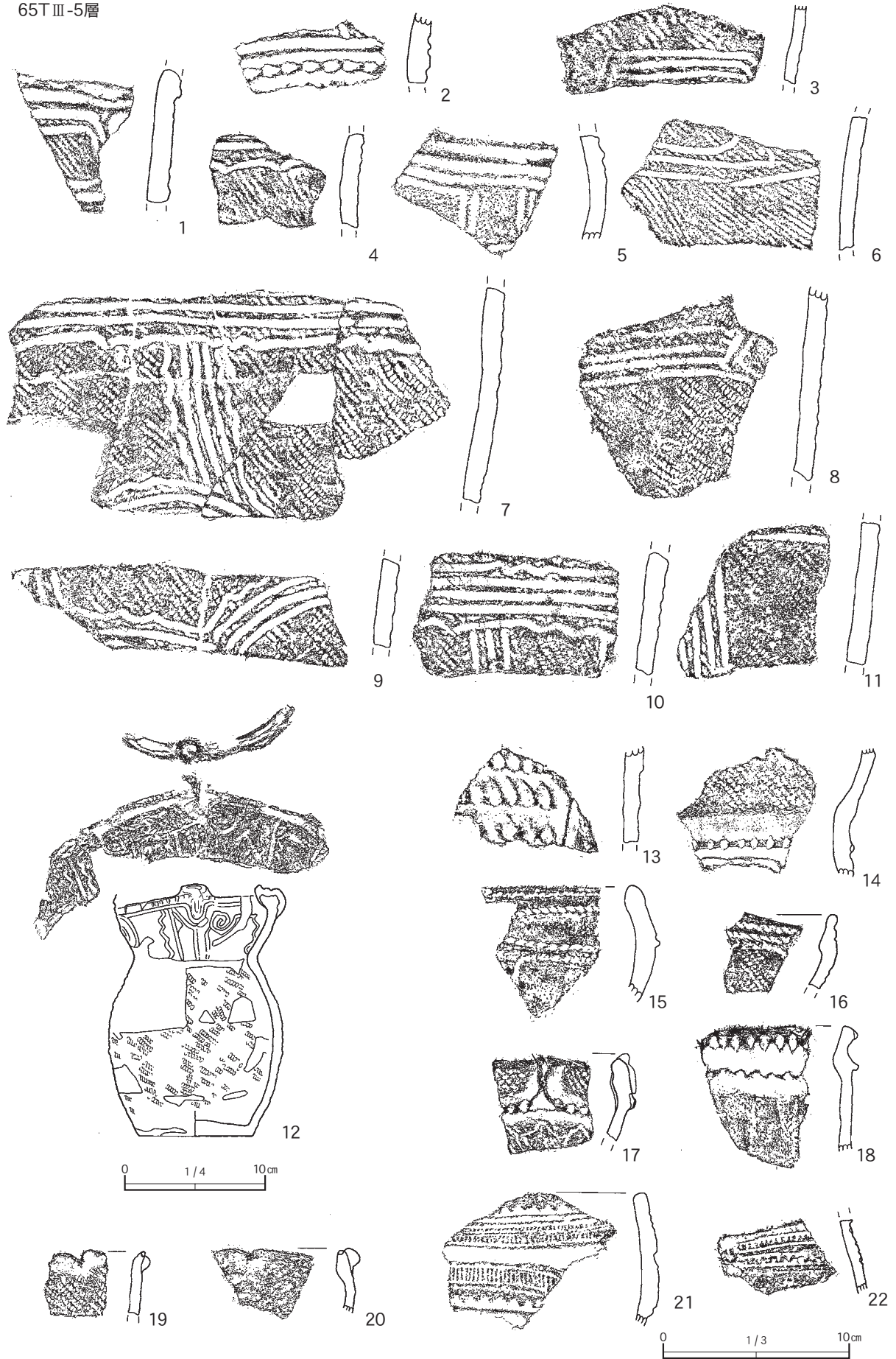


图105 遺物包含層出土土器⑦ (S=1/3·1/4)

65TⅢ-5層

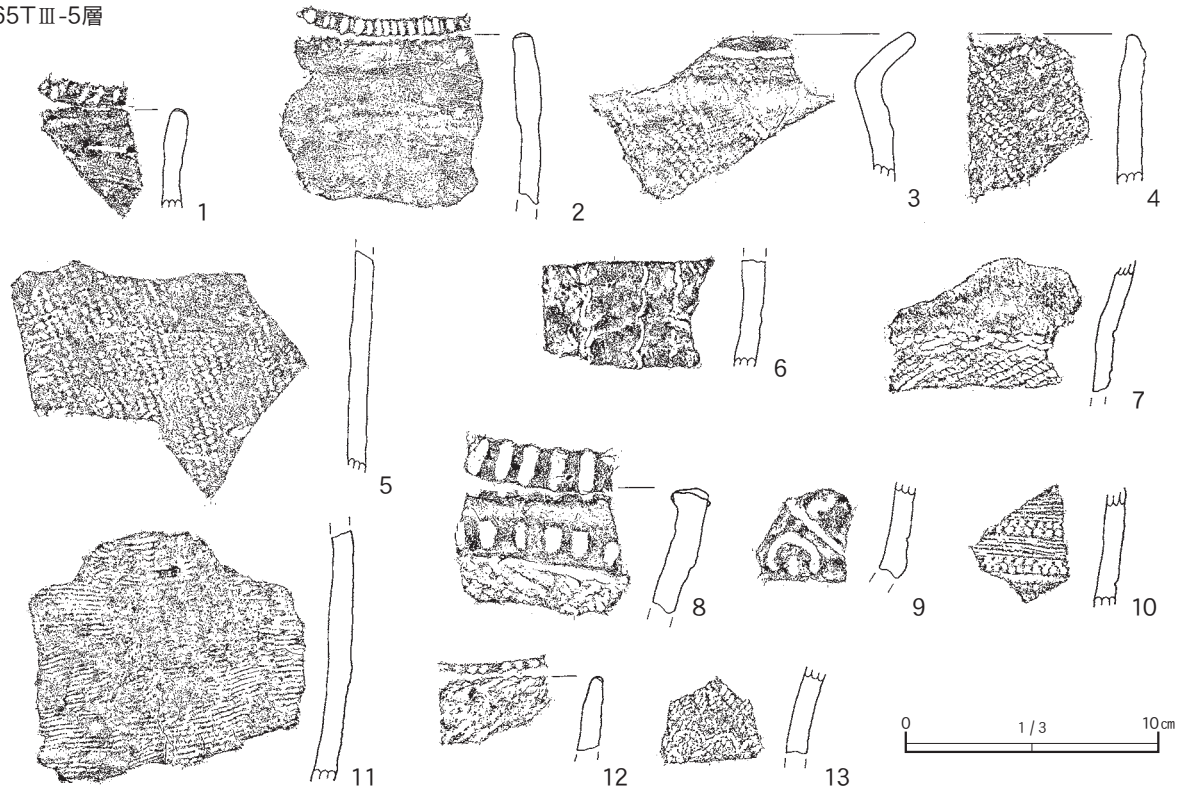


図106 遺物包含層出土土器⑧ (S=1/3)

図105-17・18は口縁部に隆線による楕円形区画が施されるものである。図105-19・20は、口縁をつまみ出したように貼り付けたY字状文が見られる。図106-4は波状の有節沈線文が施される。

Ⅳ-1類 (図105-21・22) : 21は梯子状短沈線と三角刻み文が多段に施されている。22は交互刺突文が横位に施文されるものである。

Ⅳ群 (図105-14) : 14は頸部を隆帯で区画し、隆沈線が施されている。

Ⅳ-3類 (図106-1・2) : 1・2とも口縁上端に刻みが付けられている。

Ⅳ-4類 (図105-15・16、図106-3・5~7) : 図105-15・16、図106-3は口縁に横位縄圧痕文が施されている。同図7は胴部以下に縄文を施文し、口縁部を無文としている。

Ⅳ-6類 (図105-13) : 13は輪積み痕を明瞭に残し、縦位の隆線が付けられている。

Ⅲ群 (図106-8~13) : 8は複合口縁で、口縁上端と下端に刻みが施される。9は単沈線による弧状等の文様が描かれる。8・9は4類に含めておく。12は口縁上端に刻みが施される。2類としておく。11・13は5類、10は平行沈線と変形爪形文等が交互に施される6類である。

第3章 その他の出土遺物

第1節 石製品

搔器（図107-1）：64T大別a層上面から出土したものである。ヘラ状の形態を呈し、背面に素材剥片の剥離面を残している。頁岩製である。

石匙（図107-2）：54T貝層中からの出土である。縦形で先端が尖る形態である。最大長4.8cmとやや小型のものである。背面は素材剥片の剥離面を残し、片側上位は調整が施されていない。珪質頁岩製である。

石錐（図107-3～5）：いずれも54T貝層中からの出土である。3が石英安山岩製、その他は頁岩製である。3・5は錐部が短い。

尖頭器（図107-6・7）：6が54T貝層中から、7が52T西Ⅲ-2層からの出土である。6は両面調整された木葉型の形態である。最大長11.4cmを測る。頁岩製である。7は基部の破片である。同じく両面調整が施される。頁岩製である。

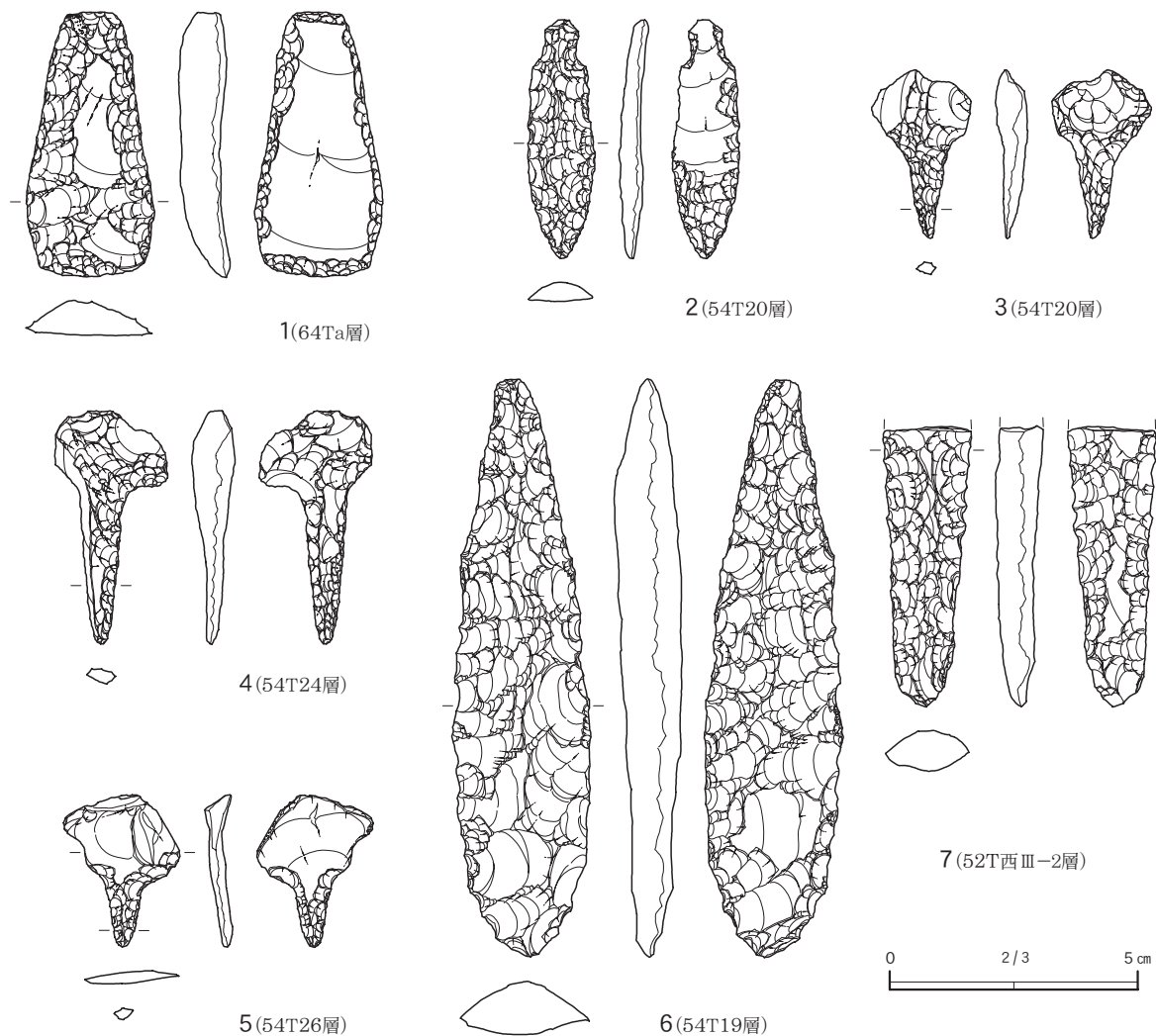


図107 出土石器① (S=2/3)

第1節 石製品

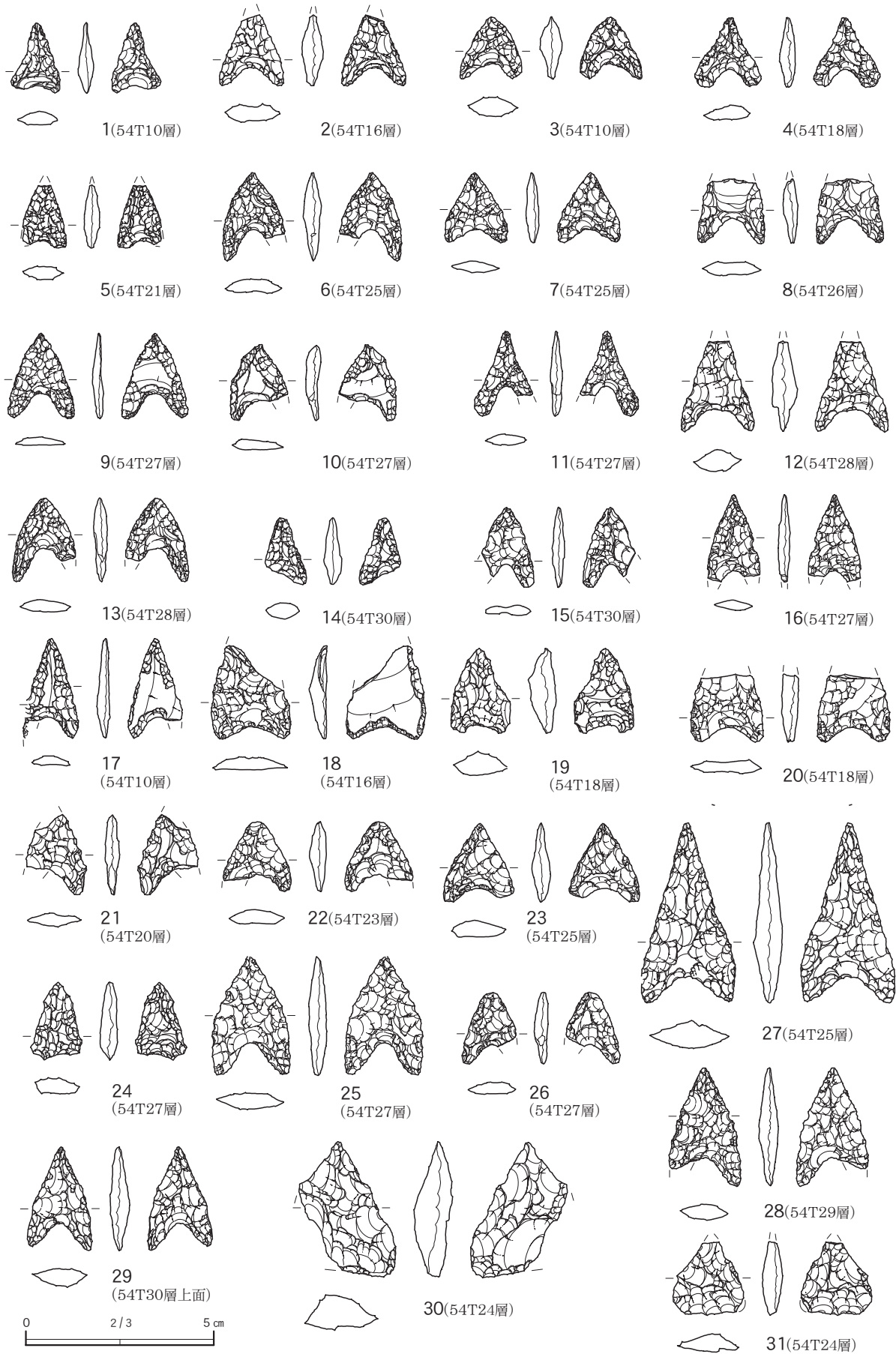


図108 出土石器② (S=2/3)

石鏃（図108・109）：図108は54T貝層中からの出土である。多くがサンプル水洗洗浄時に採集したものである。1～29は凹基無茎鏃である。24は最大長4.1cmと大型のものであるが、その他は最大長1.2～2.5cmである。基部の挟りが深く、断面レンズ状を呈するものが多い。30・31は平基鏃である。石材は、石英安山岩と頁岩がほぼ同数認められる。

図109はその他の遺構・貝層・遺物包含層から出土したものである。1～4は31T貝層中、5～9は38T貝層中、10・11・14は64T大別c層上面、12・13は64T貝層中、15は63T1層上面、16はP596、17は53T西サブトレンチⅢ-1層出土である。1～5・7～13・15・16は凹基無茎鏃、14・17は平基鏃である。石材は石英安山岩と頁岩が多い。

石鏃未製品（図110-1～10）：剥離面を残し、調整が施されない面や側縁を残すもので、最大長4cm、最大幅3cm以内のものを石鏃未製品とした。石材は頁岩が多い。6・10などは搔器の可能性もある。

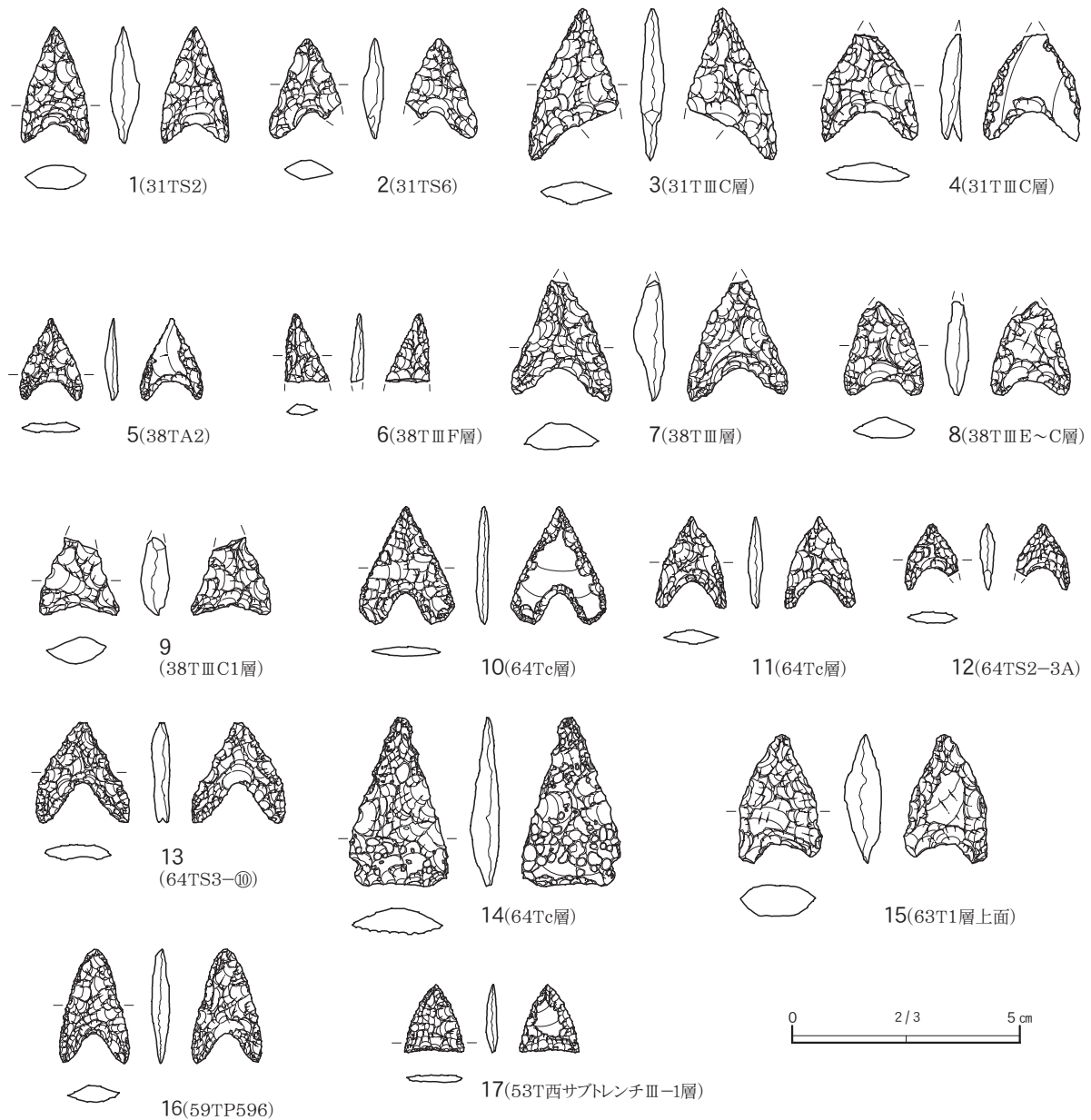


図109 出土石器③ (S=2/3)

第1節 石製品

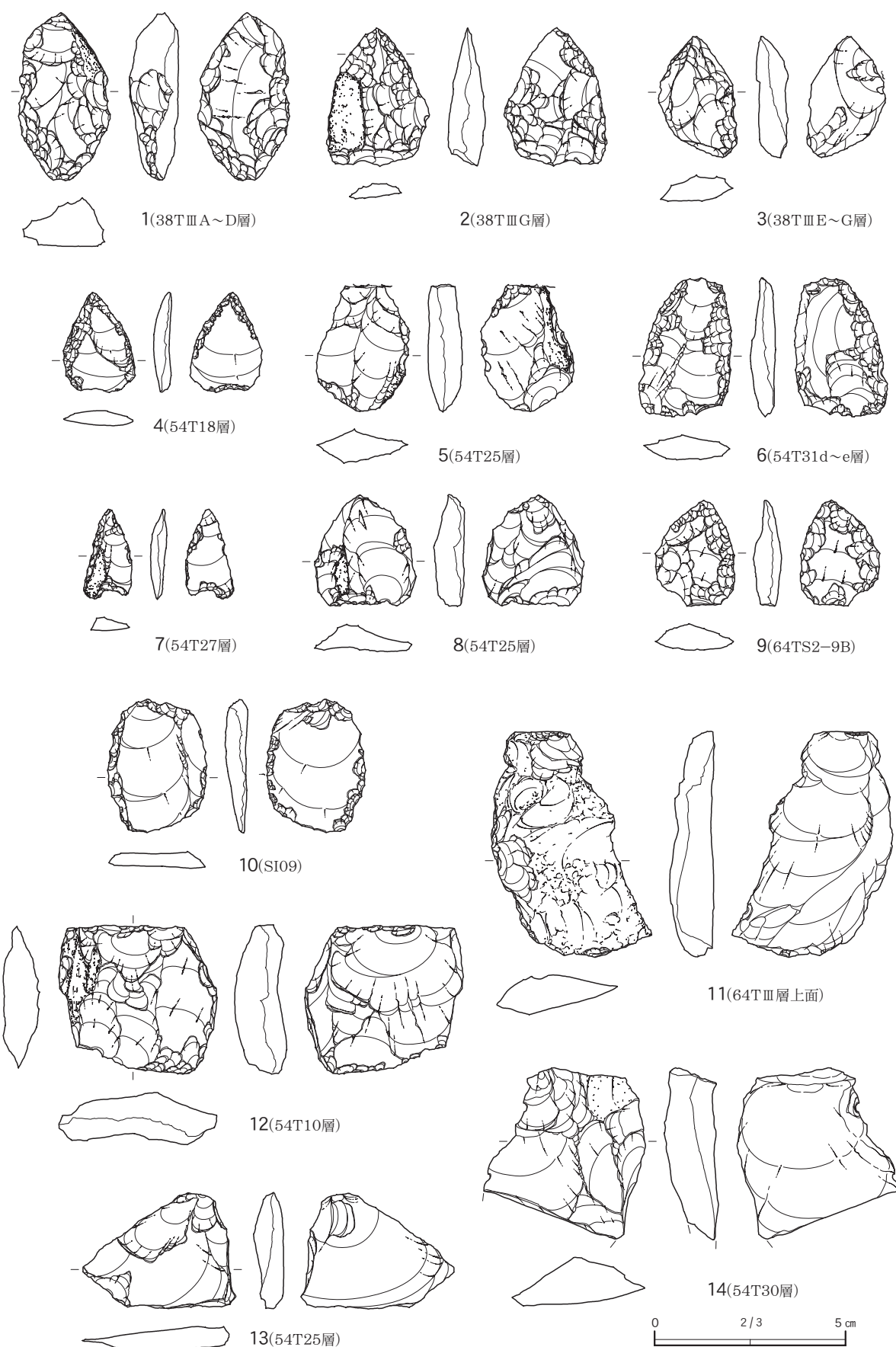


图110 出土石器④ (S=2/3)

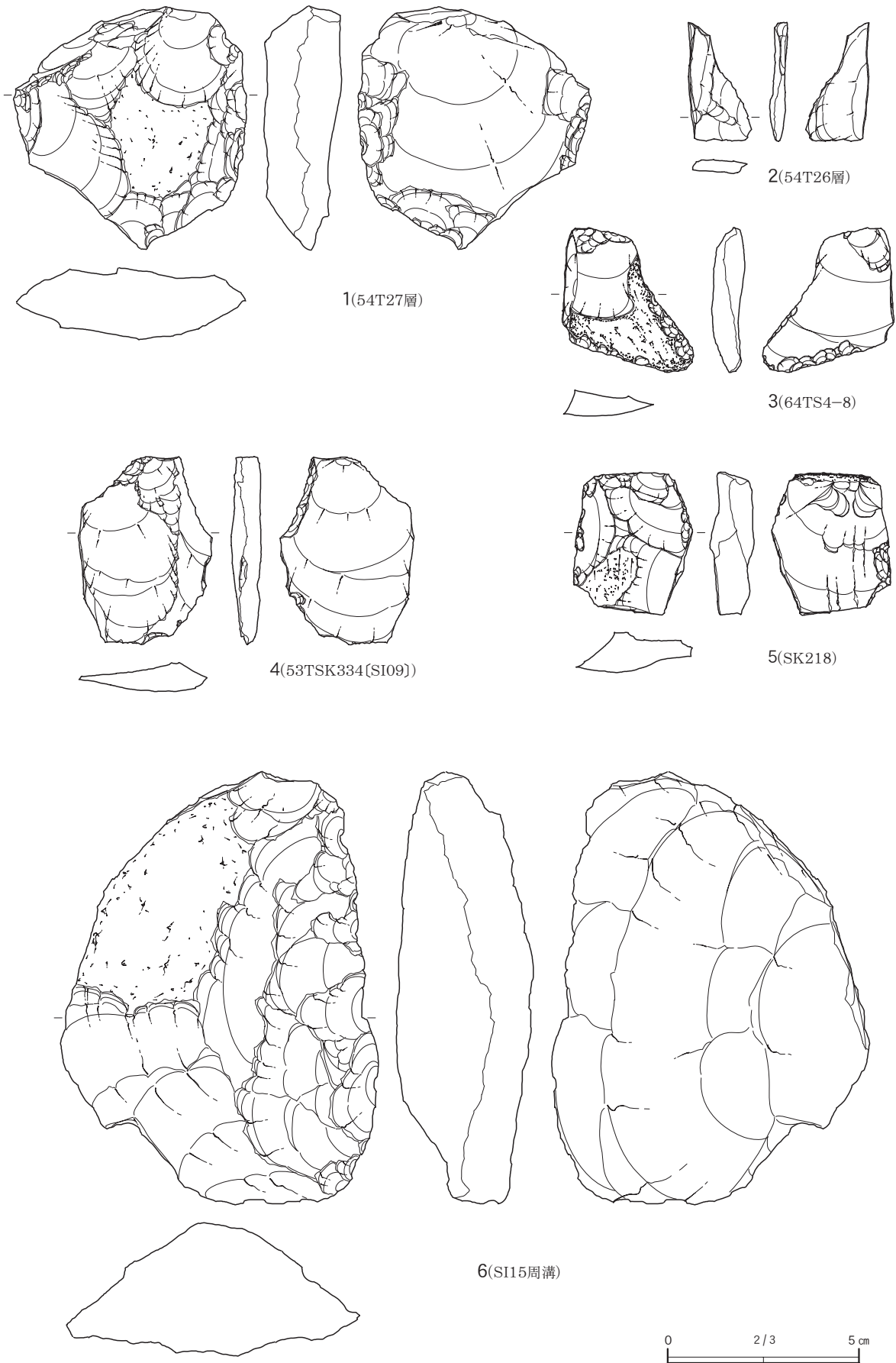


図111 出土石器⑤ (S=2/3)

第1節 石製品

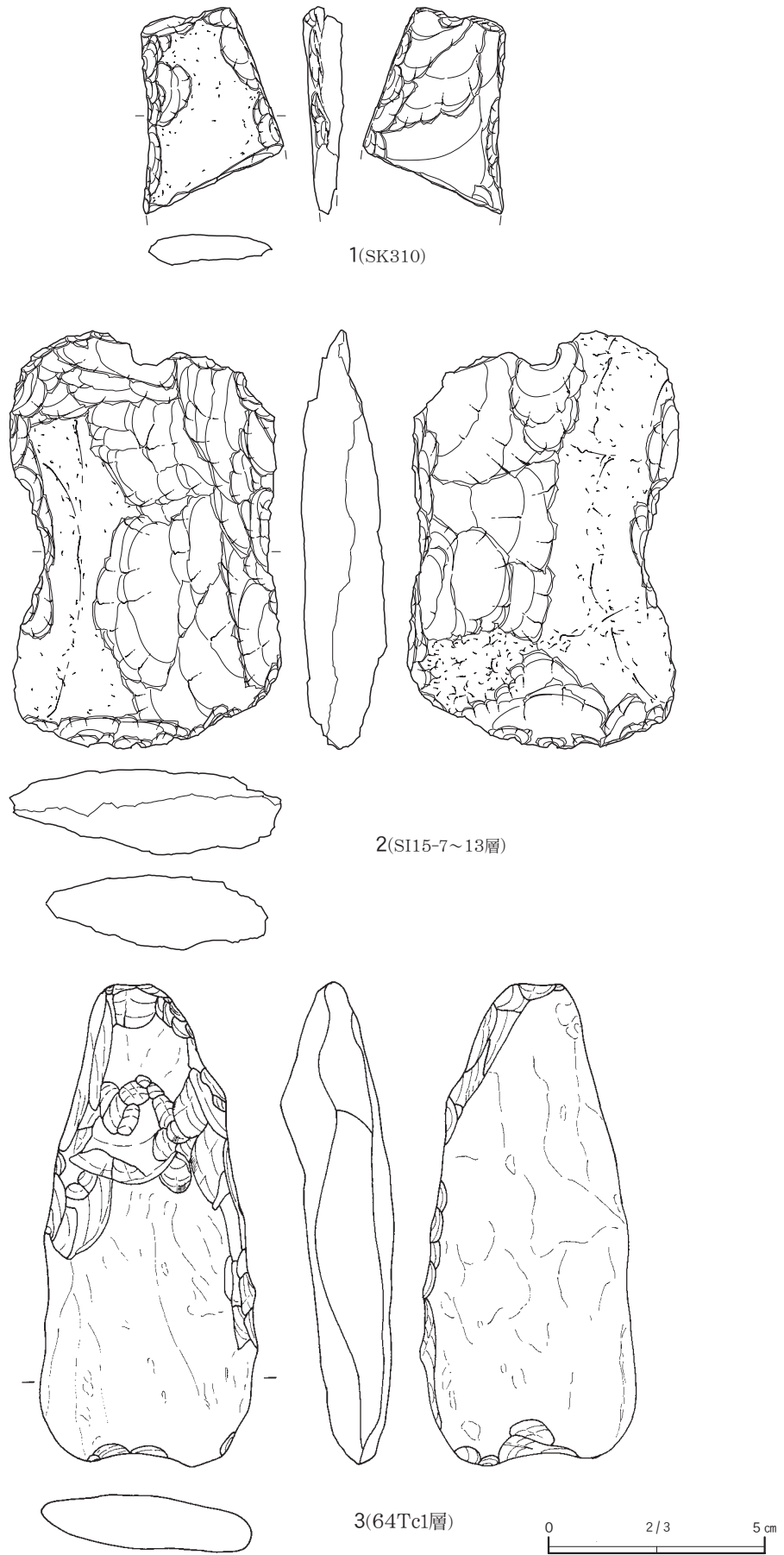


图112 出土石器⑥ (S=2/3)

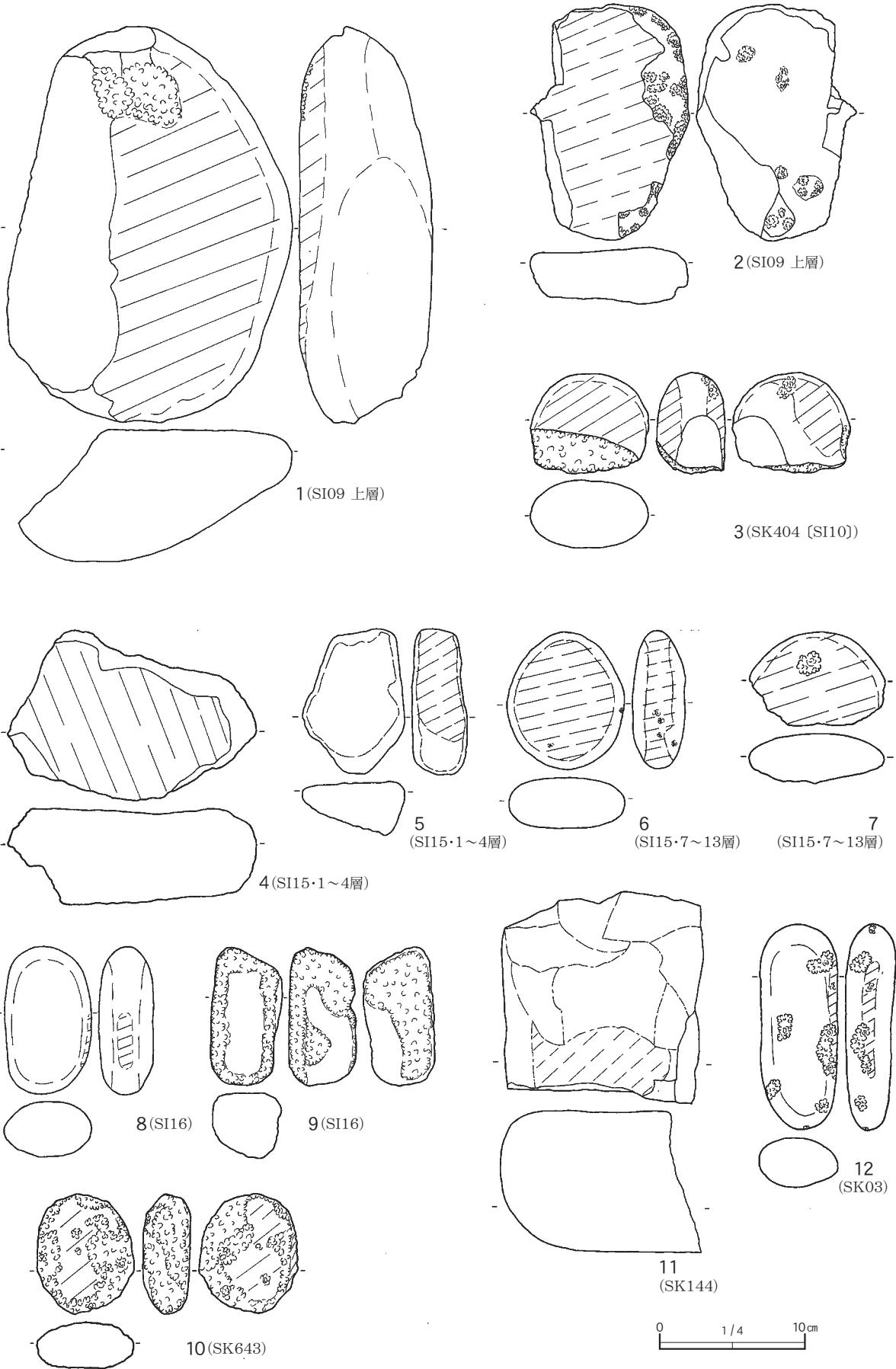


図113 出土石器⑦ (S=1/4)

石匙未製品 (図110-11) : 11は右側縁などに刃部の加工が認められず、つまみの抉りの調整も粗いことから未製品とした。頁岩製である。

剥片 (図110-12~14、図111) : 石鏃未製品に比較し、側縁の調整が施されない部分や剥離面を多く残すものを剥片として分類した。長さ、幅ともに3cm以上を測るものが多い。図110-12、図111-1・3・6などは搔器の可能性ある。石材は頁岩が多い。54T貝層から多く出土している。

打製石斧 (図112-1~3) : 1はSK310上面、2はSI15、3は64TⅢ-3(c1)層上面から出土したものである。1は分胴形の基部破片であり、自然面を残している。ホルンフェルス製である。2も分胴形で両面に自然面を残し、刃部等の調整も粗く、凸刃状である。頁岩製である。3は短冊形で、両面に自然面を残し、刃部はほとんど調整されず、素材の形状を利用している。角閃石片岩製である。

磨石・敲石・石皿 (図113~115) : 側縁等に擦痕が認められるものを磨石、敲打痕が認められるのを敲石とした。これらの石材は花崗班岩や安山岩が多く利用されている。

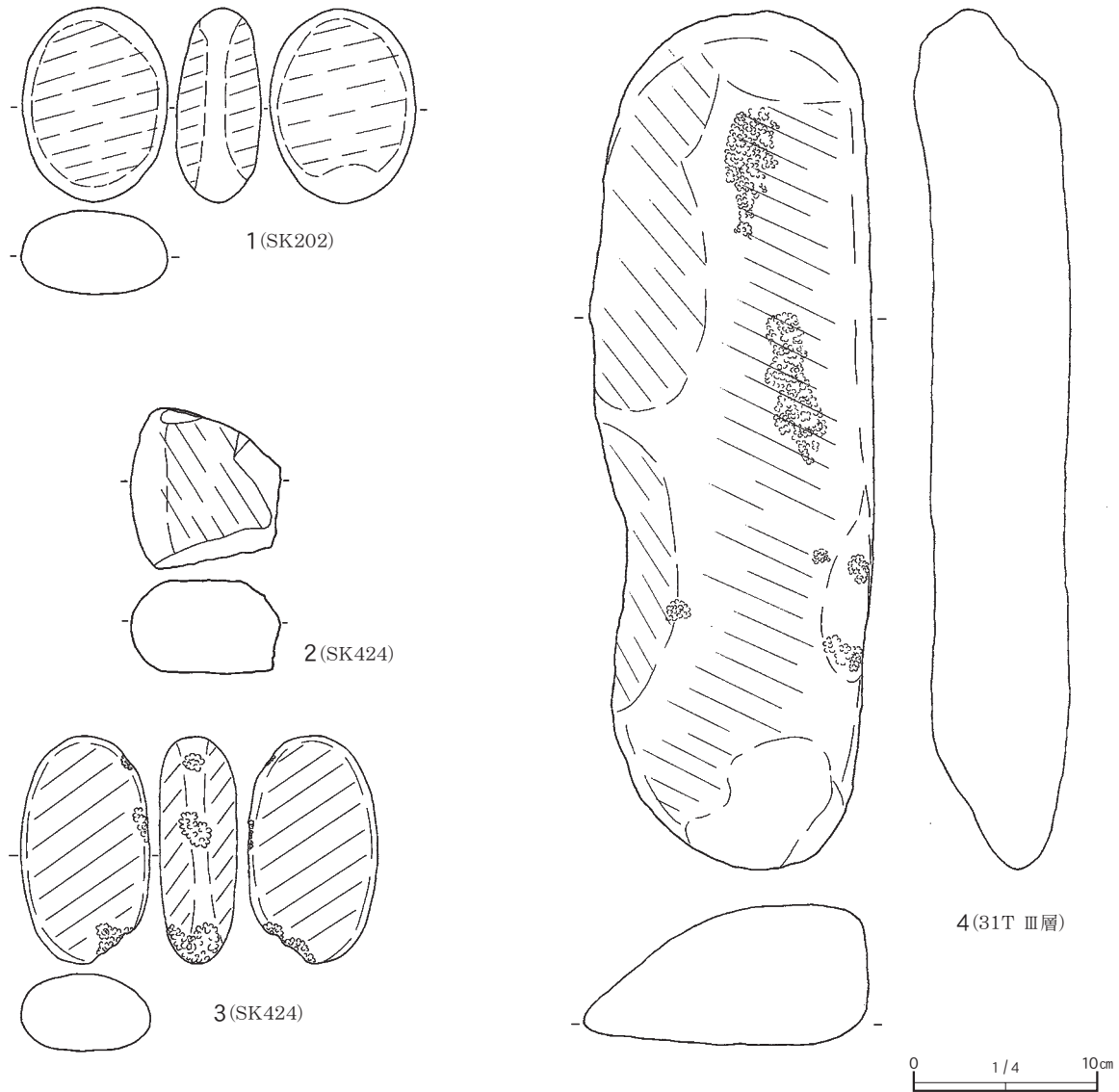


図114 出土石器⑧ (S=1/4)

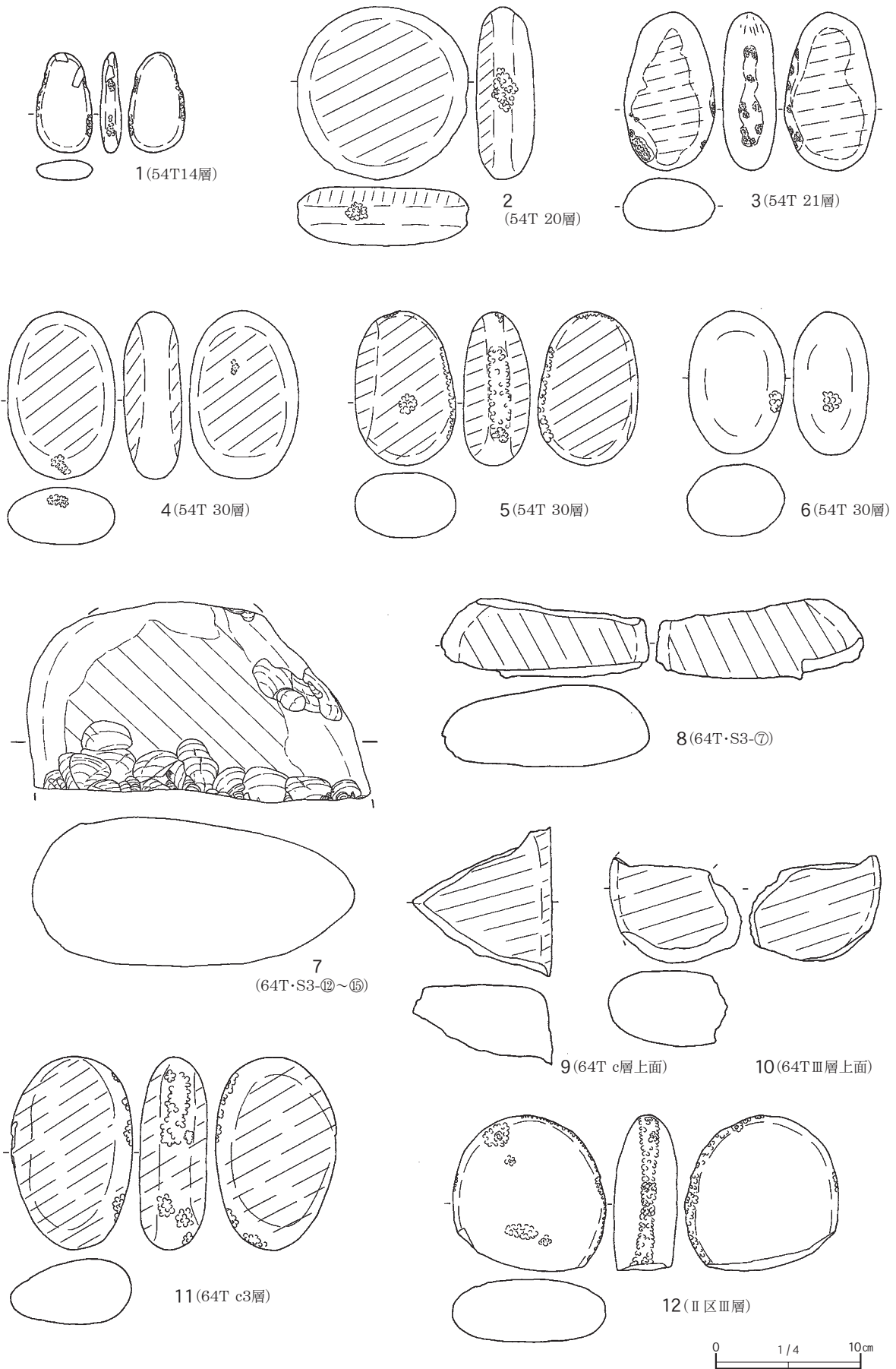


図115 出土石器⑨ (S=1/4)

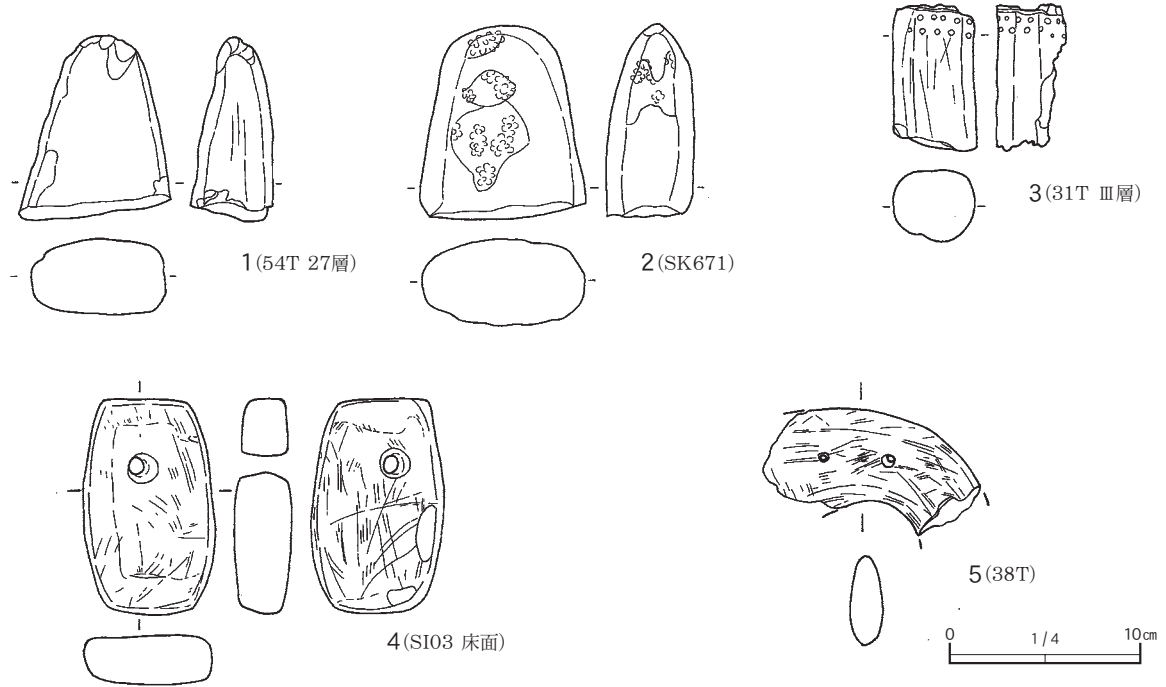


図116 出土石器⑩ (S=1/4)

遺構内出土 (図113・114-1～3) : 図113-1・2は石皿であり、SI09上層出土である。同図3は磨石・敲石でSI10石囲炉の埋設土器内から出土したものである。同図4～7はSI15-1～4層出土で、4が石皿、同図5～7は磨石・敲石である。同図8は磨石、9は敲石でSI16出土である。同図10は土坑Ⅱ類のSK643出土の磨石・敲石、11はSI01貼床面から構築されるSK144出土の石皿である。同図12は土坑Ⅱ類のSK03の埋設土器内から出土した磨石・敲石である。図114-1は磨石で、土坑Ⅳ類のSK202出土である。同図2・3はSK424出土で埋設土器内から出土した石皿(2)と磨石・敲石(3)である。磨石・敲石は埋設土器内から出土することが多いことが認められる。

貝層・遺物包含層出土 (図114-4、図115) : 図114-4は31TⅢ層出土の大形の石皿である。最大長23.2cmを測り、片側の磨り減りが著しい。図115-1～6は54TⅢ層出土の磨石・敲石である。1は側縁部に擦痕がみられ、最大長7.0cmの小形のものである。同図7・8は64TコラムサンプルS3(大別c層)から出土した石皿である。7は部分的に連続した剥離が認められる。同図9～11は64T大別c層上面から出土したもので、9が石皿、10・11は磨石・敲石である。12はⅡ区Ⅲ-1層から出土した側縁に敲打痕が顕著な敲石である。

磨製石斧 (図116-1・2) : 1・2ともに基部である。1は54T貝層中の出土で、緑泥片岩製である。2は土坑Ⅳ類の65T SK671から出土している。敲石に転用されている。輝緑班岩製である。

石棒 (図116-3) : 31TⅢ層から出土した。全体的に擦痕が認められ、1条の沈線と2列の小円孔が施されている。粘板岩製である。

垂飾 (図116-4) : SI03床面から出土した。短冊形を呈している。緑色凝灰岩製である。

けつ状耳飾り (図116-5) : 38Tから出土した。破片であるが、大形のものである。2個の小円孔がある。滑石製である。

第2節 土製品

土器片錘 (図117-1) : 52TサブトレンチⅢ-1層から出土した。上下縁中央に抉りが認められる。

土製円盤 (図117-2~11) : 円形の土器破片で、断面が摩滅し、調整が認められるものである。2はSI15出土である。その他は、土坑の遺構確認時出土したものと64TⅢ-3層上面出土が多い。これらはⅥ・Ⅶ群土器を再利用したものが主体的である。12・20は貝層サンプル中から出土したもので、共伴遺物から、Ⅲ~Ⅳ群土器と考えられる。

土偶 (図118-1~4) : 1は38TⅢG層出土の板状の土偶破片と考えられる。表面は丁寧なミガキが認められ、裏面はナデ調整である。2は1と類似した胎土であり、同様の土偶破片である可能性がある。31TサンプルS15出土である。3は土坑Ⅰ類であるSK149出土の板状土偶破片である。ミガキは認められないが、表面には2列、裏面は1列の円形刺突が施されている。4は土坑Ⅳ類のSK68出土の土偶である。中実土偶の肩~胴部にあたと考えられ、側面に斜方向の貫通孔が施される。文様は沈線と、沈線に沿う刺突列が施される。

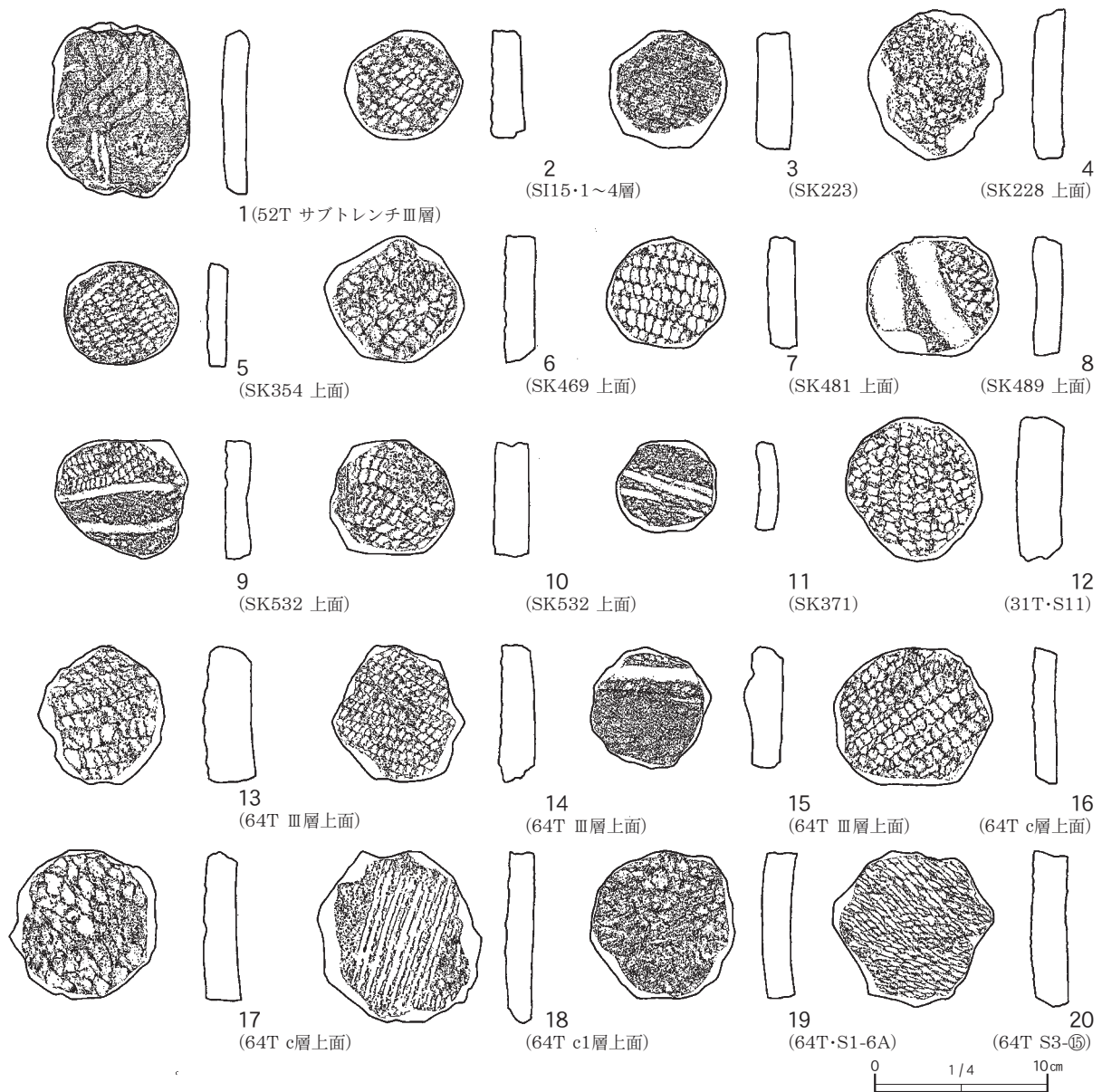


図117 出土土製品① (S=1/2)

第2節 土製品

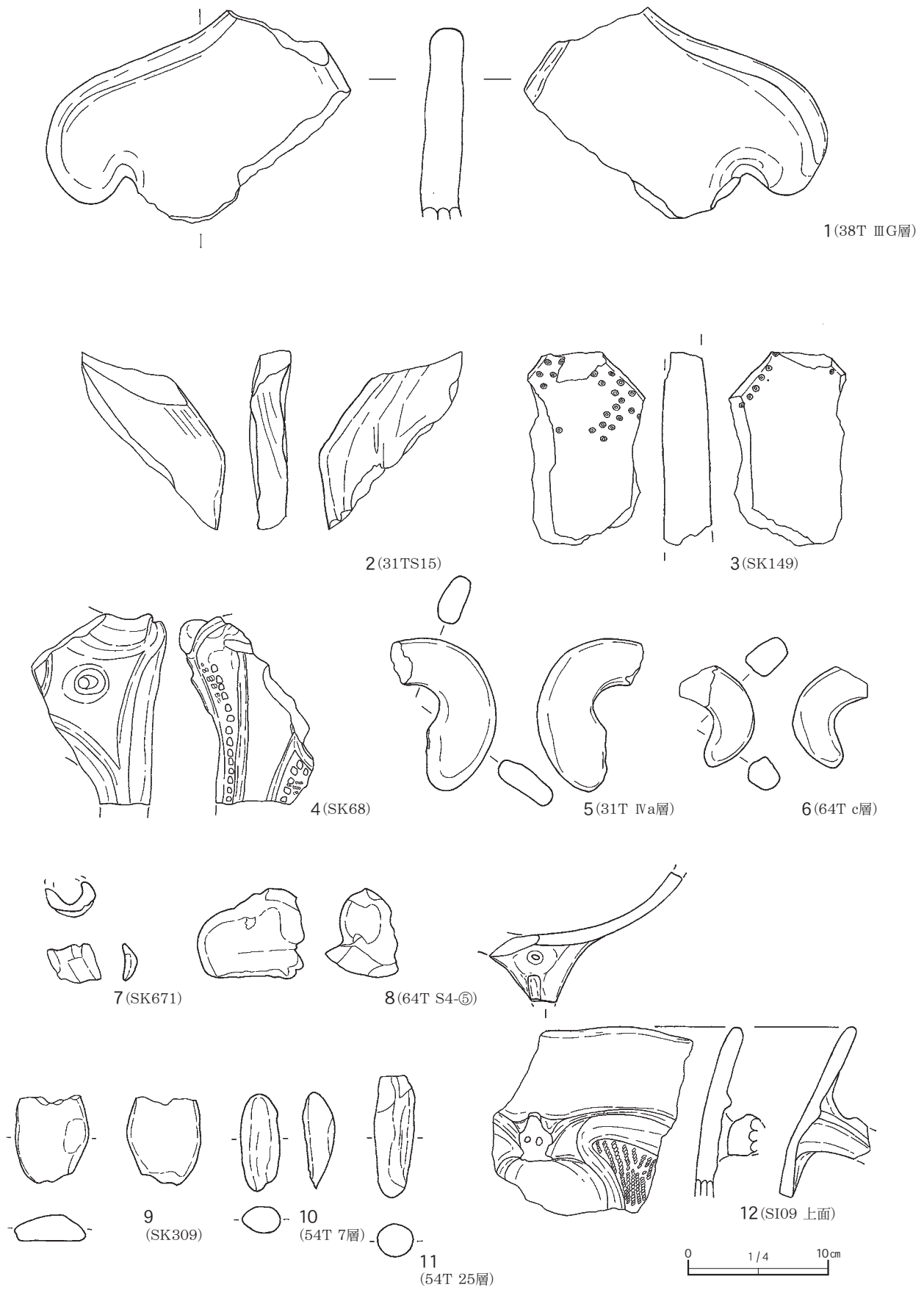


図118 出土土製品② (S=1/2)

耳飾り（図118-5～7）：5・6はけつ状耳飾りである。5は31TIV a層、6は64T大別c層からの出土である。7は環状のもので、土坑IV類の65TSK671出土である。

土製品（図118-8～11）：8は手づくね整形のものである。9は平板状、10・11は棒状の製品である。

獣面土器（図118-12）：SI09上面から出土した。断面三角の隆沈線により文様が描かれている。突起状の先端が欠けているが、破損部に2個の小孔が施されている。

引用・参考文献

会津高田町教育委員会 1984 『冑宮西遺跡』

海老沢稔 1982 「茨城県内における縄文中期前半の土器様相(1)」『婆良岐考古』第4号 婆良岐考古同人会

飯野町教育委員会 2003 『和台遺跡』飯野町埋蔵文化財報告書第5集

飯野町教育委員会 2004 『和台遺跡2』飯野町埋蔵文化財報告書第6集

市川市教育委員会 2000 『東山王貝塚・イゴ塚貝塚－縄文時代低地性貝塚の調査－』

飯館村教育委員会 1981 「松ヶ平B遺跡・岩下向遺跡・羽白A遺跡予備調査」『真野ダム関連遺跡発掘調査報告Ⅱ』

飯館村文化財調査報告第2集

石川隆司 1983 「福島県浦尻台ノ前貝塚における貝類採集活動の復元」『法政考古学』第8集 法政考古学会

石川隆司 1984 「縄文時代前期末葉における土器文化接触に関する予察」『法政大学大学院紀要』第12号

石川隆司 1988 「浦尻貝塚群の縄文土器(1)－浦尻台ノ前貝塚採集資料－」『法政考古学』第13集 法政考古学会

今村啓爾 1985 「五領ヶ台式土器の編年」『考古学研究室紀要』第4号 東京大学文学部考古学研究室

小高町教育委員会 1988 『角部内南台東貝塚』

小高町教育委員会 2005 『浦尻貝塚1』小高町文化財調査報告第6集

縄文セミナーの会 1995 『第8回 縄文セミナー 中期初頭の諸様相』

谷井彪 1986 「阿玉台式からみた東北南部大木式の変遷」『古代80号』早稲田大学考古学会

芳賀英一 1986 「大木5式土器と東部関東の関係」『古代80号』早稲田大学考古学会

福島県教育委員会ほか 1984a 『母畑地区遺跡発掘調査報告16』福島県文化財調査報告書第132集

福島県教育委員会ほか 1984b 「上ノ台A遺跡(第1次)」『真野ダム関連遺跡発掘調査報告V』福島県文化財調査報告書第128集

福島県教育委員会ほか 1984c 「柏久保遺跡」『真野ダム関連遺跡発掘調査報告VI』福島県文化財調査報告第129集

福島県教育委員会ほか 1986 「岩下D遺跡」『真野ダム関連遺跡発掘調査報告VII』福島県文化財調査報告第165集

福島県教育委員会ほか 1987a 「岩下向A遺跡」「日向南遺跡(第1・第2次)」『真野ダム関連遺跡発掘調査報告VIII』

福島県文化財調査報告第183集

福島県教育委員会ほか 1987b 「羽白D遺跡(第1次)」『真野ダム関連遺跡発掘調査報告X』福島県文化財調査報告書第183集

福島県教育委員会ほか 1988a 「羽白D遺跡(第2次)」『真野ダム関連遺跡発掘調査報告XI』福島県文化財調査報告書第193集

福島県教育委員会ほか 1988b 「羽白C遺跡(第1次)」『真野ダム関連遺跡発掘調査報告XII』福島県文化財調査報告書第194集

福島県教育委員会ほか 1989 「羽白C遺跡(第2次)・宮内A遺跡(第1次)・宮内B遺跡(第2次)」

『真野ダム関連遺跡発掘調査報告XIII』福島県文化財調査報告書第210集

福島県教育委員会ほか 1990a 「上ノ台A遺跡(第2次)」『真野ダム関連遺跡発掘調査報告XIV』福島県文化財調査報告書第230集

福島県教育委員会ほか 1990b 「宮内A遺跡(第2次)・上ノ台B遺跡・上ノ台C遺跡・上ノ台D遺跡・日向遺跡(第2次)・

日向南遺跡(第4次)」『真野ダム関連遺跡発掘調査報告XV』福島県文化財調査報告書第230集

福島県教育委員会ほか 1990c 「師山遺跡」『相馬開発関連遺跡調査報告II』福島県文化財調査報告書第312集

福島県教育委員会ほか 1991a 『東北横断自動車道遺跡調査報告11 法正尻遺跡』福島県文化財調査報告書第243集

福島県教育委員会ほか 1991b 「仲ノ縄B遺跡」『東北横断自動車道遺跡調査報告19』福島県文化財調査報告書第290集

福島県教育委員会ほか 1991c 「大富西畑遺跡」『請戸川地区遺跡発掘調査報告I』福島県文化財調査報告書第252集

福島県教育委員会ほか 1992 『三春ダム間連遺跡発掘調査報告5 蛇石前遺跡』福島県文化財調査報告書第279集

福島県教育委員会ほか 1995 「荻原遺跡」『請戸川地区遺跡発掘調査報告III』福島県文化財調査報告書第323集

福島県教育委員会ほか 1996 『三春ダム間連遺跡発掘調査報告8 越田和遺跡』福島県文化財調査報告書第322集

- 福島県教育委員会ほか 1999 「関林A遺跡」 『福島空港公園遺跡発掘調査報告11』 福島県文化財調査報告書第372集
- 福島県教育委員会ほか 2000 『常磐自動車道遺跡発掘調査報告21 鍛冶屋遺跡（第1次）』 福島県文化財調査報告書第365集
- 福島県教育委員会ほか 2001 a 『常磐自動車道遺跡発掘調査報告24 鍛冶屋遺跡（第2次）』 福島県文化財調査報告書第377集
- 福島県教育委員会ほか 2001 b 『常磐自動車道遺跡発掘調査報告25 馬場前遺跡（1次調査）』 福島県文化財調査報告書第378集
- 福島県教育委員会ほか 2002 a 『常磐自動車道遺跡発掘調査報告28 鍛冶屋遺跡（第3次）』 福島県文化財調査報告書第387集
- 福島県教育委員会ほか 2002 b 『常磐自動車道遺跡発掘調査報告29 馬場前遺跡（2次調査）』 福島県文化財調査報告書第388集
- 福島県教育委員会ほか 2002 c 「本町西A遺跡」 『常磐自動車道遺跡発掘調査報告32』 福島県文化財調査報告書第391集
- 福島県教育委員会ほか 2002 d 「上本町G遺跡」 『常磐自動車道遺跡発掘調査報告33』 福島県文化財調査報告書第392集
- 福島県教育委員会ほか 2003 a 『常磐自動車道遺跡発掘調査報告34 馬場前遺跡（2・3次調査）』 福島県文化財調査報告書第398集
- 福島県教育委員会ほか 2003 b 『常磐自動車道遺跡発掘調査報告35 前山A遺跡』 福島県文化財調査報告書第399集
- 福島県教育委員会ほか 2003 d 『阿武隈川右岸築堤遺跡発掘調査報告3 高木・北ノ脇遺跡』 福島県文化財調査報告書第402集
- 福島県立博物館 1988 『三貫地貝塚』 福島県立博物館調査報告第17集
- 福島県立博物館 1991 『企画展 縄文絵巻』
- 福島市教育委員会 1989年 「愛宕原遺跡」 『昭和63年度市道原宿愛宕原1号線建設工事間連遺跡発掘調査報告』
福島市埋蔵文化財報告書第31集
- 福島大学考古学研究会 1971 『浦尻貝塚』 福島大学考古学研究会発掘調査報告書第1冊
- 松田光太郎 1995 「浮島式土器の研究」 『古代探叢Ⅳ－滝口宏先生追悼考古学論集－』 早稲田大学出版部
- 松田光太郎 2002 「関東・中部地方における十三菩提式土器の変遷」 『神奈川考古第38号』 神奈川考古同人会
- 松田光太郎 2003 「大木6式土器の変遷とその地域性」 『神奈川考古第39号』 神奈川考古同人会
- 松本茂 1996 「五領ヶ台式土器から阿玉台式土器へー福島県内出土土器からー」
『論集しのぶ考古－目黒吉明先生頌寿記念－』 論集しのぶ考古刊行会
- 宮城県教育委員会ほか 1986 『小梁川遺跡－遺物包含層土器編－』
- 宮城県教育委員会ほか 2003 『嘉倉貝塚』 宮城県文化財調査報告書第192集

觀 察 表

表1 土器観察表

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
1-1	SK142 (SI01)	VI-2	RL 縄文⇒断面三角の隆線文。	ミガキ	海綿状骨針・石英	1-1~3 同一。 炉埋設土器。
1-2						
1-3						
1-4	SK142 (SI01)	VI-2	RL 縄文⇒断面三角の隆線文。	ミガキ	海綿状骨針・石英	
1-5	SK142 (SI01)	VI-2	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・石英	
1-6	SK142 (SI01)	VI-2	LR 縄文⇒断面三角の隆線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	1-6・7 同一。
1-7						
1-8	SK142 (SI01)	VI-2	RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	炉埋設土器。
1-9	SK142 (SI01)	VI	RL 縄文。	ナデ	雲母・石英	
1-10	SK142 (SI01)	VI-2	注口浅鉢。注口上位橋状把手。RL 縄文⇒断面三角の隆線文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
1-11	SK143 上面	III-5	RL 縄文⇒斜位の結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
1-12	SK143 上面	III-5	LR 縄文。	ナデ	石英・海綿状骨針	
1-13	SK139 上面	VII-2	口縁1条の沈線。頸部横位及び重弧状の多条沈線文。胴部縦に垂下する多条沈線文。	ナデ	雲母	
1-14	SK139 上面	IX	上下沈線区画網目状燃糸文。	ミガキ	石英	
1-15	SK139 上面	III-5	LR 縄文⇒口縁ナデ磨消。	ナデ	雲母	
1-16	SK139 上面	IV-1	口縁刻み、横位単沈線文区画、単沈線文による多条山形文。	ナデ	雲母	
1-17	SK137 上面	VII-3	RL 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
1-18	SK137 上面	VII-2	LR 縄文⇒横位沈線区画弧状の多条沈線文。	ナデ	雲母・石英	
1-19	SK137 上面	VII-2	LR 縄文⇒垂下する多条沈線文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
1-20	SK137 上面	VII-1?	燃糸文⇒隆沈線。	ナデ	石英	
1-21	SK137 上面	VI-1	横位 LR 縄文⇒沈線。	ミガキ		
1-22	SK137 上面	III-5	横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
2-1	SK144 上面	III-5	LR 縄文⇒下端ナデ磨消。底部網代痕。	ナデ	海綿状骨針・石英	
2-2	SK144 上面	III-5	RL 縄文、結節回転文⇒下端ナデ磨消。底部網代痕。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
2-3	SK144 上面	III-6	縦位条線文。	ミガキ	石英	
2-4	SK144 上面	III-5	横位 RL 縄文。	ナデ	繊維(少)	補修孔有。
2-5	SK144 上面	III-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	石英・繊維(少)	
2-6	SK144 上面	III-5	縦位 LR 縄文。	ナデ	雲母・石英	
2-7	SK144 上面	III-5	RL 縄文。	ナデ	石英・繊維(少)	
2-8	P 102 上面	V-2	LR 縄文・RL 縄文⇒カマボコ状隆線。	ミガキ	海綿状骨針・石英	
2-9	P 103 上面	III-6	刺突列・変形爪形文。	ナデ	海綿状骨針・雲母	
2-10	P 104 上面	III-6	アナダラ属の貝殻による波状貝殻腹縁文。	ミガキ	石英	
2-11	P 104 上面	III-5	縄文⇒下端ナデ磨消。底部網代痕。	ナデ	雲母	
2-12	P 104 上面	III-5	LR 縄文。	ナデ	雲母・繊維(少)	
2-13	P 104 上面	III-5	RL 縄文。	ナデ	海綿状骨針・繊維(少)	
2-14	P 104 上面	II	非結束 LR・RL 羽状縄文⇒斜行沈線⇒円形竹管文。	ナデ	海綿状骨針・繊維	
2-15	P 104 上面	III-5?	ナデ。底部網代痕。	ナデ	雲母	
3-1	P 100 上面	IV-1	複合口縁、縦位短沈線。頸部貼付文を中心に縦横位に3条の単沈線。沈線間に交互刺突文。垂下沈線下端に上向弧状沈線。	ナデ	雲母	補修孔有。
3-2	P 100 上面	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母	
3-3	SI03 床面	IV-4	頸部隆起部に縄痕による上下交互押捺。LR 縄文。	ナデ	雲母	
3-4	SI03 周溝	IV?	縦位 RL 縄文⇒上位沈線区画、単沈線による縦位直線文及び波状文。	ナデ	雲母	
3-5	SI03 周溝	IV-4	縦位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
3-6	SI03 周溝	IV-4	横位結節回転文・LR 縄文	ナデ	雲母	
3-7	SI03 床下	VI-1	隆線による渦巻文。	ミガキ	雲母・石英	
3-8	SI03 床下	VI-1	隆線による渦巻文、楕円形区画。区画内円形刺突。	ナデ	石英	
3-9	SI03 床下	V-1	縦位 LR 縄文⇒3条の沈線によるクランク状文。	ナデ	金雲母	
3-10	SI03 床下	V-1	縦位 LR 縄文⇒3条の隆沈線によるクランク状文。	ミガキ	金雲母	
3-11	SI03 床下	IV-2	縦位 LR 縄文⇒2条の断面三角の縦位微隆起線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	図3-10・11 同一。
3-12						
3-13	SI03 床下	IV-4	縦位 LR 縄文。	ナデ	雲母	
3-14	P 97 上面	V-1	縦位 RL 縄文⇒3条の沈線によるクランク状文。	ナデ	海綿状骨針・石英	
3-15	SK138	VI-1	RL 縄文⇒断面三角の隆線文。	ナデ	雲母	埋設土器。
3-16	SK138	VI	LR 縄文⇒沈線文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
3-17	SK138	VI-1	縦位 LR 縄文⇒カマボコ状の隆沈線文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
3-18	SK138	V	縦位 LR 縄文⇒多条沈線文。	ミガキ	雲母	
3-19	SK138	IV-3	2条の横位隆線・沈線⇒隆線上刺突。	ナデ	雲母	

土器観察表

図版 No.	出土遺構・層名	分類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物	備考
4-1	SI04	IV-1	2条の単沈線に沿う三角形刻み。	ナデ	雲母	
4-2	SI04 周溝	III-4	口縁下に半截竹管による刺突。LR 縄文?	ナデ	雲母・石英	
4-3	SK145 上面	IV-4	縦位結節回転文。	ナデ	石英	
4-4	SK145 上面	IV-3?	ナデ。底部網代痕。	ナデ	雲母・石英	
4-5	P 109	III-3	口縁鋸歯状貼付文。貼付文上及び胴部 LR 縄文。	ナデ	金雲母・石英	
4-6	P 119	III-3	口縁鋸歯状貼付文。胴部異節斜縄文・無節 R 縄文。	ミガキ	海綿状骨針・石英	
4-7	P 107 上面	IV-1	口縁肥厚、斜位短沈線。口縁下斜位刻み付隆帯。2条の単沈線による山形文⇒交互の三角形刻み。頸部単沈線による縦位刻み⇒三角形刻み。	ナデ	金雲母・石英	埋設土器
4-8	P 112 上面	VII-2?	口縁1条の単沈線。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	
4-9	P 117 上面	III-5?	RL 縄文。	ナデ	石英	
5-1	SK320	VII?	RL 縄文⇒ミガキ・ナデ。	ミガキ	海綿状骨針	埋設土器
5-2	SK320	V-2	縦位 LRL 縄文⇒斜位・渦巻状沈線。	ナデ	雲母	
5-3	SK317	VI	沈線。	ミガキ	雲母	
5-4	SK317	VII	櫛歯状工具による条線文。	ナデ	海綿状骨針	
5-5	SK317	V	縦位 RL 縄文⇒3条の沈線。	ナデ	石英	
5-6	SK317	VI	LR 縄文⇒沈線。	ナデ		
5-7	SK317	VI	浅鉢?波状口縁。断面三角の隆線。	ミガキ	金雲母	
5-8	SK316	VI-2	RL 縄文⇒沈線。	ナデ	海綿状骨針	
5-9	SK316	VI-1	波状口縁。断面三角の隆線による渦巻文・楕円形区画。区画内 LR 縄文。	ナデ	雲母	
5-10	SK316	IV-2	口縁2条の縄圧痕付ソーマン状隆線。RL 縄文⇒単沈線による波状文。	ナデ		
5-11	SK315	VII	格子状条線文。	ナデ	海綿状骨針・石英	
5-12	SK318	VII-1	口縁隆帯区画、I字状隆帯、上下両端盲孔、中央沈溝。胴部条線文。	ミガキ	金雲母	
5-13	SK318	VII-1	口縁I字状斜位刻み付隆帯。	ミガキ	石英	
5-14	SK318	VI	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	海綿状骨針	
5-15	SK319	VI-1	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
5-16	SI09 上層	VI-2	RL 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
5-17	SI09 上層	VI-1	縦位 LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
5-18	SI09 上層	VI-1	RL 縄文⇒カマボコ状の隆沈線・区画内刺突。	ミガキ	海綿状骨針・石英	
5-19	SI09 上層	VI-1	口縁カマボコ状の隆線区画。	ミガキ	雲母・石英	
6-1	SI09	VI?	ナデ。	ナデ	金雲母・石英	
6-2	SI09	VI	小波状口縁。LR 縄文。	ナデ	海綿状骨針	炉埋設土器。
6-3	SI09	VII-1	斜位刻み隆帯。LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
6-4	SI09	VII-1	沈線区画内棒状工具による刺突。	ナデ	石英	
6-5	SI09	VII-1	LR 縄文?多条沈線文⇒円形浮文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
6-6	SI09	VI-1	RL 縄文⇒沈線・刺突。	ミガキ	雲母	
6-7	SI09	VI-1	RL 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・石英	
6-8	SI09	VI-1	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母	
6-9	SI09	VI-1	LR 縄文⇒隆沈線。	ミガキ	雲母・石英	
6-10	SI09	VI-1	波状口縁。RL 縄文⇒渦巻状・楕円形区画隆沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
6-11	SI09	VI-1	口縁隆沈線。LR 縄文。	ミガキ	雲母	
6-12	SI09	VI-1	隆沈線区画内縦長刺突。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
6-13	SI09	VI-1	RLR 縄文⇒隆沈線。	ナデ	雲母	
6-14	SI09	VI-1	RL 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・石英	
6-15	SI09	VI-1	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
6-16	SI09	VI-1	RL 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・石英	
6-17	SI09	VI-1	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
6-18	SI09	VI-1	RL 縄文⇒沈線。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
6-19	SI09	VI-1	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
6-20	SI09	VI-2	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・金雲母	
6-21	SI09	VI-1	LR 縄文・RL 縄文⇒2条の沈線	ミガキ	石英	
6-22	SI09	VI-1	RL 縄文⇒隆沈線	ナデ	海綿状骨針・石英	
6-23	SI09	VI-1	RL 縄文⇒隆沈線	ミガキ	石英	
7-1	SI09	V-2	カマボコ状の隆沈線による渦巻文。	ナデ	海綿状骨針	
7-2	SI09	V-2	カマボコ状の隆沈線による渦巻文。	ナデ	雲母	
7-3	SI09	V-2	縦位 LR 縄文⇒3条の沈線による曲線文・渦巻文。	ナデ	雲母・金雲母	
7-4	SI09	IV-2	縦位 LR 縄文⇒平行沈線による楕円形の垂下文。	ミガキ	金雲母・石英	
7-5	SI09	VI?	ミガキ。	ナデ	金雲母・石英	
7-6	SI09 (SK330)	VI	RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
8-1	SK404 (SI10)	VII	口縁下沈線区画 R 撚糸文。	ナデ	石英	炉埋設土器。
8-2	SK407	VI-2?	LRL 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	石英	
8-3	SK407	V	RL 縄文⇒ソーマン状隆線。	ナデ	金雲母・石英	

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
8-4	SK407	-	LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
8-5	SK407	V-2	RL 縄文⇒2~3条の単沈線による曲線文・横線文。	ナデ	雲母・金雲母・石英	図8-5・6同一。
8-6	SK407			ナデ	雲母	
8-7	SK399	VII-1	口縁下隆帯区画、条線文。	ナデ	雲母	
8-8	SK399	VII-2	LR 縄文⇒沈線区画⇒磨消縄文によるJ字状文、蕨手状文。	ナデ	石英	
8-9	SK399	VII-1	口縁下隆帯区画、ノ字状隆帯、上下両端盲孔、中央沈溝。胴部 RL 縄文⇒単沈線による曲線文。	ナデ	雲母	
8-10	SK399	VII-1	壺形土器。口縁肥厚、8字状把手。縦位鎖状隆帯。	ミガキ	海綿状骨針	
8-11	SK399	VII-2	口縁沈線。頸部沈線区画、区画内刺突。	ナデ	雲母・石英	
8-12	SK399	VII-2	多条沈線による弧状区画縦位沈線。LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
8-13	SK399	VII-2	LR 縄文⇒沈線区画磨消。蕨手状文。	ナデ	石英	
8-14	SK399	VII	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
8-15	SK399	VII	LRL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・石英	
8-16	SK399	VII-1	口縁隆帯区画、縦位鎖状隆帯、円形浮文。	ナデ	石英	
9-1	SI11 上面	VII-3	3単位の波状口縁。波頂部双頭状。口縁内面単沈線。頸部 LR 縄文⇒単沈線上下区画⇒磨消。	ミガキ	海綿状骨針・石英	
9-2	SI11 上面	VII	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
9-3	SI11 上面	VI	隆沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
9-4	SI11 上面	VI	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母	
9-5	SI11 上面	VI-1	LR 縄文⇒断面三角の隆沈線・沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
9-6	SK497	VI	LR 縄文。口縁1条の沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	図9-12と同一。
9-7	SK497	VI	LR 縄文⇒断面三角の隆沈線。	ナデ	雲母	
9-8	SK481	VI	LR 縄文⇒隆沈線⇒刺突。	ミガキ	雲母	
9-9	SK481	V	縦位 RL 縄文⇒3条以上の沈線。	ナデ	雲母・石英	
9-10	SK494	VI	RL 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母	炉埋設土器。
9-11	SK494	V-1	縦位 LR 縄文⇒ソーメン状隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
9-12	SK494	VI	LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	図9-6と同一。
10-1	SI15-1~4層	VII-1	口縁小突起。RL 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針	図10-1~3同一。
10-2	SI15-1~4層					
10-3	SI15-1~4層					
10-4	SI15-1~4層	VI-2	無節L 縄文⇒2条の沈線	ナデ	雲母・海綿状骨針	
10-5	SI15-1~4層	VI-2	RL 縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
10-6	SI15-1~4層	VI-2	RL 縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
10-7	SI15-1~4層	VI-2	RL 縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	雲母	
10-8	SI15-1~4層	VI-2	RL 縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
10-9	SI15-1~4層	VI-2	RL 縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
10-10	SI15-1~4層	VI-2	RL 縄文⇒断面三角の隆沈線。	ミガキ	雲母・石英	
10-11	SI15-1~4層	VI-2	RL 縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
10-12	SI15-1~4層	VI-2	RL 縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
10-13	SI15-1~4層	VI-2	RL 縄文⇒断面三角の隆沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
10-14	SI15-1~4層	VI-1	カマボコ状の隆沈線による曲線文。	ナデ	雲母・金雲母	
10-15	SI15-1~4層	VI-2	RL 縄文⇒断面三角の隆沈線。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
10-16	SI15-1~4層	VI	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・金雲母	
10-17	SI15-1~4層	VI	RL 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・金雲母	
10-18	SI15-1~4層	VI	RL 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
10-19	SI15-1~4層	VI-1	RL 縄文⇒2条の沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
10-20	SI15-1~4層	VI-1	RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・石英	
10-21	SI15-1~4層	VI-1	RL 縄文⇒カマボコ状の隆沈線による渦巻文・楕円形区画。	ミガキ	雲母・石英	
10-22	SI15-1~4層	VI-2	浅鉢。断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
10-23	SI15-1~4層	VI-2	浅鉢。断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
10-24	SI15-1~4層	VI-2	浅鉢。断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
10-25	SI15-1~4層	VI-2	注口浅鉢。注口上波状口縁。RL 縄文⇒断面三角の隆線文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
11-1	SI15-1~4層	V-2	口縁突起。突起上円形の刺突。RL 縄文⇒カマボコ状の隆沈線。突起側面隆沈線による渦巻文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
11-2	SI15-1~4層	V-2	RL 縄文⇒カマボコ状隆線。	ナデ	雲母	
11-3	SI15-1~4層	V-2?	LR 縄文⇒カマボコ状隆沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
11-4	SI15-1~4層	V-2	3条の沈線による渦巻文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
11-5	SI15-1~4層	V	RL ? 縄文⇒カマボコ状隆沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	

土器観察表

図版 No.	出土遺構・層名	分類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物	備考
11-6	SI15-1~4層	IV-4	縦位 LR 縄文。断面台形状縄圧痕付隆帯。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
11-7	SI15-1~4層	IV-2	楕円形隆帯。	ミガキ	雲母・石英	
11-8	SI15-1~4層	VI?	縦位 LRL 縄文。	ミガキ	金雲母	
11-9	SI15-1~4層	VI?	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
11-10	SI15 炉内	VI-2	RL 縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
11-11	SI15 炉内	VI-2	LR 縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
11-12	SI15 炉内	VI	波状口縁? RL 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
11-13	SI15 炉内	VI-2	RL 縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	炉埋設土器。
11-14	SI15 炉内	VI	沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
12-1	SI15-7~13層	VII-2	RL 縄文⇒沈線・盲孔。多条沈線文。	ナデ	雲母	
12-2	SI15-7~13層	VII	RL 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
12-3	SI15-7~13層	VI-2	波状口縁。LR 縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・石英	図 12-1・2 同一。
12-4	SI15-7~13層			ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
12-5	SI15-7~13層	VI-2	RL 縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
12-6	SI15-7~13層	VI-2	LR 縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	雲母・石英	
12-7	SI15-7~13層	VI-2	RL 縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
12-8	SI15-7~13層	VI-2	RL 縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
12-9	SI15-7~13層	VI	RL 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母	
12-10	SI15-7~13層	VI-1	RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	金雲母	
12-11	SI15-7~13層	VI	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	海綿状骨針・石英	
12-12	SI15-7~13層	VI	RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・金雲母	
12-13	SI15-7~13層	VI	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
12-14	SI15-7~13層	VI-1	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
12-15	SI15-7~13層	VI	縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
12-16	SI15-7~13層	VI	RL 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・石英	
12-17	SI15-7~13層	VI	縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
13-1	SI15-7~13層	VI	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・石英	
13-2	SI15-7~13層	VI-1	RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	図 13-3 と同一。
13-3	SI15-7~13層	VI-1	RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	図 13-2 と同一。
13-4	SI15-7~13層	VI-1	RL 縄文⇒断面台形状の隆沈線による渦巻文、楕円形区画。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
13-5	SI15-7~13層	VI-1	RL 縄文⇒カマボコ状の隆沈線による渦巻文、楕円形区画。	ナデ	雲母	
13-6	SI15-7~13層	V-2	RL 縄文⇒カマボコ状の隆沈線による楕円形区画。突起上下隆沈線による渦巻文、側面円形刺突。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
13-7	SI15-7~13層	V-1	縦位 LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
13-8	SI15-7~13層	V-1	LR 縄文⇒3条の沈線。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
13-9	SI16 周溝	V	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・石英	
13-10	SI16 周溝	VI	縄文⇒カマボコ状の隆沈線。	ナデ	雲母	
14-1	SI17	VII-2	口縁沈線区画、盲孔、縦位3条の沈線。LR 縄文。	ナデ	雲母・石英	
14-2	SI17	VII-2	口縁沈線区画、縦位3条の沈線。LR 縄文⇒盲孔、沈線。	ナデ	雲母	
14-3	SI17	VII-2	多条沈線による重弧状文。盲孔。	ナデ	雲母	
14-4	SI17	VII-2	LR 縄文⇒沈線・盲孔。	ナデ	雲母・石英	
14-5	SI17	VII-2	縄文⇒多条沈線による弧状文。盲孔。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
14-6	SI17	VII-2	LR 縄文⇒多条沈線。	ナデ	海綿状骨針・石英	
14-7	SI17	IV-2	縦位 RL 縄文⇒多条沈線。	ナデ	雲母・石英	
14-8	SI17	VII-2	LR 縄文⇒多条沈線。	ナデ	雲母・金雲母	
14-9	SI17	VII-2	LR 縄文⇒多条沈線。	ナデ	雲母・石英	
14-10	SI17	VII	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
14-11	SI17	VII	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	金雲母	
14-12	SI17	VII	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	石英	
14-13	SI17	VI-1	RL 縄文⇒カマボコ状の隆沈線。	ナデ	雲母・石英	
14-14	SI17	VII?	RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
14-15	SI24	VI-2	RL 縄文⇒断面三角の隆沈線。	ナデ	雲母・石英	

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
14-16	SI24	VI-1	RL 縄文⇒沈線。	ナデ	石英	
14-17	SI24	V-2	R 捺糸文⇒カマボコ状の隆沈線。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
14-18	SI24	V?	R 捺糸文。	ナデ	雲母	
15-1	SK661	VII-1	口縁隆帯区画、ノ字状隆帯、上下両端盲孔、中央沈溝。	ナデ	雲母・金雲母	
15-2	SK661	VII	口縁ナデ。胴部条線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
15-3	SK661	VII	沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
15-4	SK661	VII	沈線。	ナデ	海綿状骨針・石英	
15-5	SK661	VI-1	RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
15-6	SK661	VI-1	RL 縄文⇒断面三角の隆沈線。	ナデ	雲母	
15-7	SK661	VI-2	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
15-8	SK661	VI	沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
15-9	SK661	VI	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母	
15-10	SK661	VI-1	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
15-11	66T III-2層	VII-1	LR 縄文⇒蛇行沈線。	ミガキ	雲母	
15-12	66T III-2層	VII-1	RL 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母	
15-13	66T III-2層	VII-1	円形刺突列。	ナデ	雲母	
15-14	66T III-2層	VII-2	多条沈線による渦巻文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
15-15	66T III-2層	VII?	口縁ナデ。R 捺糸文。	ナデ	雲母・石英	
15-16	66T III-2層	VII	橋状把手。8字状隆帯。	ナデ	金雲母・石英	
15-17	66T III-2層	VI-2	RL 縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
15-18	66T III-2層	VI-2	断面三角の隆線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
15-19	66T III-2層	VI-2	沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
15-20	66T III-2層	VI-1	LR 縄文⇒2条以上の沈線。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	
15-21	66T III-2層	VI-1	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	金雲母・石英	
15-22	66T III-2層	VI-1	LR 縄文⇒2条の沈線。	ミガキ	海綿状骨針・石英	
15-23	66T III-2層	VI-1	RL 縄文⇒沈線による渦巻文。	ミガキ	金雲母	
15-24	66T III-2層	VI-1	波状口縁。RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
15-25	66T III-2層	VI-1	カマボコ状の隆沈線。	ナデ	金雲母	
15-26	66T III-2層	VI	RL 縄文。	ナデ	石英	
15-27	66T III-2層	V-2	RL 縄文⇒カマボコ状の隆沈線による楕円形区画。突起上下隆沈線による渦巻文。	ミガキ	金雲母	
15-28	66T III-2層	V-2	縦位 LR 縄文⇒2条の沈線による曲線文。	ナデ	雲母・石英	
15-29	66T III-2層	V-2	縦位 LR 縄文⇒3条の沈線による曲線文。	ナデ	雲母・石英	
15-30	66T III-2層	V-2	カマボコ状の隆沈線による渦巻文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
15-31	66T III-2層	V-1	縦位 RL 縄文⇒多条沈線文。	ナデ	雲母・石英	
15-32	66T III-2層	-	LR 縄文。	ナデ	雲母・石英	
16-1	SK15	VIII-1	3条の横位沈線。	ナデ		
16-2	SK15	VIII-1	LR 縄文⇒沈線⇒沈線間弧状文。	ナデ	海綿状骨針・石英	
16-3	SK17	V?	縦位 RL 縄文。	ナデ	金雲母	
16-4	SK17・18上面	VII-2	LR 縄文⇒多条沈線。	ナデ	海綿状骨針・石英	
16-5	SK17・18上面	VII-1	口縁小突起、断面三角の隆帯区画。RL 縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	雲母・石英	
16-6	SK28上面	VI	LR 縄文⇒カマボコ状の隆沈線。	ミガキ	雲母・石英	
16-7	SK44	VI	沈線。	ナデ	雲母	
16-8	SK45	VI?	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	海綿状骨針・石英	
16-9	SK93	VI	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	海綿状骨針	
16-10	SK93	VII-2	口縁沈線区画・ノ字状沈線。RL 縄文。	ミガキ	雲母・石英	
16-11	SK93	VI	断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
16-12	SK98	VII-1	口縁沈線区画、ノ字状隆帯。下端盲孔、中央沈溝。LR 縄文。	ナデ	雲母	
16-13	SK149上面	III-6	波状口縁。半截竹管による沈線文、円形竹管文。	ナデ	雲母・石英	
16-14	SK149上面	III-5	横位 LR 縄文。		海綿状骨針・石英・ 繊維(少)	
16-15	SK149上面	III-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	海綿状骨針・石英	
16-16	SK149上面	III-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・石英・繊維(少)	
16-17	SK170	VI-1	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・石英	図 16-17・18 同一。
16-18	SK170					
16-19	SK227	VI-1	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・石英	
16-20	SK227	VI	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	石英	
16-21	SK229上面	VII-2	LR 縄文⇒沈線・盲孔。	ミガキ	雲母・石英	
17-1	SK235	VII-1	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。J字状文等。	ミガキ		

土器観察表

図版 No.	出土遺構・層名	分類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物	備考
17-2	SK235	Ⅶ-1	口縁隆帯区画。胴部垂下する隆帯。	ミガキ	雲母・石英	SK217とSK235で遺構間接合。
17-3	SK235	Ⅶ	附加条1種(LR+R)⇒沈線による蕨手状文?	ナデ	雲母・海綿状骨針	
17-4	SK235	Ⅶ-2	LR縄文⇒多条沈線文。	ナデ	雲母・石英	
17-5	SK235	Ⅶ?	RL縄文。	ナデ	雲母・石英	
17-6	SK245	Ⅶ-1	口縁隆帯区画。無節R縄文。	ナデ	石英	
17-7	SK245	Ⅶ-1	口縁隆帯区画。RL縄文。	ナデ	石英	図17-7・8同一。
17-8	SK245					
17-9	SK258	Ⅶ-2	縄文⇒多条沈線文。	ナデ	雲母・石英	
17-10	SK258	Ⅶ	LR縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母	
17-11	SK258	Ⅶ	LR縄文⇒沈線。	ナデ	雲母	
17-12	SK258	Ⅶ	橋状把手。LR縄文。	ナデ	雲母	
17-13	SK264 上面	Ⅶ-2	RL縄文⇒沈線・盲孔。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
17-14	SK264 上面	Ⅶ-2	RL縄文⇒沈線による蕨手状文。	ミガキ	雲母	
17-15	SK264 上面	Ⅶ-2	LR縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
17-16	SK264 上面	Ⅶ	LR縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
17-17	SK264 上面	Ⅶ	RL縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	海綿状骨針・石英	
17-18	SK264 上面	Ⅶ?	ミガキ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
17-19	SK277 上面	Ⅵ	カマボコ状の隆沈線。	ナデ	雲母	
18-1	SK219・531	Ⅶ?	LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
18-2	SK219・531	Ⅶ	単沈線による格子状文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
18-3	SK353 上面	Ⅵ-2	断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
18-4	SK355 上面	V	カマボコ状の隆沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
18-5	SK356 上面	Ⅶ	微隆起線⇒刺突。	ミガキ	雲母・石英	
18-6	SK356 上面	Ⅶ-2	多条沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
18-7	SK356 上面	Ⅵ-2	断面三角の隆沈線。LR縄文?	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
18-8	SK356 上面	Ⅵ?	RL縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
18-9	SK387 上面	Ⅶ-1	LR縄文⇒沈線⇒円形浮文。	ミガキ	雲母・金雲母	
18-10	SK387 上面	Ⅶ-1	RL縄文⇒蛇行沈線。	ナデ	雲母・石英	
19-1	SK515 上面	V	LR縄文⇒3条の沈線。	ミガキ	雲母	
19-2	SK515 上面	Ⅲ-4	双頭状突起。盲孔。2条の単沈線による上向弧状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
19-3	SK520	Ⅵ-1	RL縄文⇒沈線。	ナデ	金雲母	
19-4	SK520	Ⅵ-1	RL縄文⇒沈線。	ナデ	雲母	
19-5	SK520	Ⅵ-1	LR縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
19-6	SK520	Ⅵ-1	LR縄文⇒沈線。	ミガキ	金雲母・石英	
19-7	SK520	Ⅵ-1	LR?縄文⇒隆沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
19-8	SK520	Ⅵ-1	RL縄文⇒カマボコ状の隆沈線⇒刺突。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
19-9	SK522 上面	Ⅶ-2	RL縄文⇒多条沈線による渦巻文。	ナデ	雲母	
19-10	SK522 上面	Ⅵ	LR縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・金雲母	
19-11	SK522 上面	V	縦位R撚糸文⇒3条の沈線。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
19-12	SK522 上面	Ⅳ-4	口縁上端横位縄圧痕文。頸部押捺付隆帯。縦位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
19-13	SK527 上面	Ⅵ-1	RL縄文⇒カマボコ状の隆沈線。	ミガキ	金雲母	
19-14	SK527 上面	Ⅵ-2	RL縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・金雲母・石英	
19-15	SK527 上面	Ⅳ-3	口縁上端押捺。	ミガキ	雲母	
19-16	SK527 上面	Ⅵ-1	カマボコ状の隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
19-17	SK527 上面	Ⅵ	RL縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・金雲母	
19-18	SK527 上面	Ⅵ?	RL縄文。	ナデ	雲母	
20-1	SK03	Ⅵ-1	RL縄文。口縁隆沈線による渦巻文・楕円形区画。胴部隆沈線による渦巻文、方形、楕円形及び円形区画文。底部ミガキ。	ミガキ	雲母	埋設土器。
20-2	SK03	-	ミガキ。底部縄文⇒ナデ。	ナデ	雲母	
20-3	SK03	Ⅵ	LR縄文⇒断面三角の隆沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
20-4	SK03	V	縦位LR縄文⇒カマボコ状の3条の隆沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
20-5	SK03	V	LR縄文⇒カマボコ状の3条の隆沈線。	ナデ	雲母	
20-6	SK03	V-2	RL縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
20-7	SK03	V-1	口縁隆帯区画刺突。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
20-8	SK03	V-1	口縁隆帯区画刺突。3条の沈線による鋸歯状文。	ナデ	雲母	
20-9	SK03	V-2	縦位RL縄文⇒2条の沈線による曲線文。	ミガキ	雲母・金雲母	
20-10	SK03	V-1	縦位LR縄文⇒2条の沈線による縦位・横位波状文。			

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
20-11	SK03	IV-2	横位隆線による楕円形区画、円盤状貼付文。横位単沈線間に交互刺突文。2条の斜位単沈線に沿う交互刺突文。	ナデ	雲母・金雲母	
20-12	SK04	V	縦位LR縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・石英	
20-13	SK272 上面	VI	LR縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	雲母	
20-14	SK272 上面	III-5	LR縄文。	ナデ	石英・繊維(少)	
20-15	SK290	VII	口縁隆帯区画?盲孔。沈線による垂下する曲線(蕨手状)文、弧状文。	ナデ	雲母・石英	
20-16	SK290	VI	LR縄文⇒沈線。	ナデ	石英	
20-17	SK290	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母	
20-18	SK290	IV-3	ナデ。複合口縁下押捺。上端の押捺による2個一対の小突起。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
20-19	SK290	IV-3	ナデ。複合口縁下押捺。	ナデ	金雲母。	
20-20	SK290	IV-4	縦位LR縄文。	ミガキ	雲母。	
20-21	SK290	IV-4	縦位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
20-22	SK290	IV-3	ナデ。底部網代痕。	ナデ	雲母	
21-1	SK309 上面	III-5	RL縄文。底部網代痕。底部楕円形。	ナデ	雲母・石英	
21-2	SK309 上面	III-2	口縁押捺による小波状。RL縄文⇒結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
21-3	SK309 上面	III-2	口縁押捺による小波状。結節回転文。	ナデ	雲母・繊維(少)	
21-4	SK309 上面	III-2	口縁刻み。LR?縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
21-5	SK309 上面	III-5?	LR・RL縄文を不規則施文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
21-6	SK309 上面	III-3	口縁鋸歯状貼付文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
21-7	SK309 上面	III-2	LR縄文、結節回転文⇒横位コンパス文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 繊維(少)	
21-8	SK309 上面	III-2	RL縄文⇒結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
21-9	SK309 上面	III-2	LR縄文⇒結節回転文。	ナデ	雲母・繊維(少)	
21-10	SK310 上面	VII-1	口縁隆帯区画。	ミガキ	雲母・石英	
22-1	SK506 上面	IX	網目状撚糸文。	ナデ	石英	
22-2	SK506 上面	V	縦位LR縄文⇒沈線による方形文?	ナデ	雲母	
22-3	SK506 上面	V	縄文⇒沈線。	ミガキ	石英	
22-4	SK506 上面	IV-4	複合口縁、縄文。	ナデ	雲母	
22-5	SK506 上面	III-3	波状口縁。LR縄文⇒2条以上の沈線による山形文。	ナデ	海綿状骨針	
22-6	SK509 上面	IV-1	口縁肥厚、縦位短沈線。横位単沈線。	ミガキ	海綿状骨針	
22-7	SK507	IV-3?	ミガキ。底部網代痕⇒ナデ。	ナデ	石英	
22-8	SK518 上面	III-2	RL縄文⇒結節回転文。	ナデ	海綿状骨針・繊維 (少)	
22-9	SK546 上面	II	口縁縦長刻み。ハ字状縄圧痕文。斜位沈線?	ナデ	繊維	
22-10	SK545	V-1	ソーメン状の隆線区画、矢羽状沈線。	ナデ	海綿状骨針	図22-2と同一?
22-11	SK545	V-1	縦位RL縄文⇒単沈線による波状文・ソーメン状隆線文。	ナデ	海綿状骨針	図22-1と同一?
22-12	SK545	V-1	沈線による方形文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
22-13	SK545	III-3	RL縄文⇒半截竹管による横線区画弧状文。	ミガキ	石英	
22-14	SK545	V-1	口縁渦巻状突起。口縁上端隆線による楕円形区画内に縦長刺突。口縁下縄圧痕文・カマボコ状の隆沈線区画。胴部RL縄文⇒隆沈線による方形区画内沈線による蕨手状文、中位に横位波状カマボコ状隆線文。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	
22-15	SK545	V-1	横位沈線内交互刺突文。縦位LR縄文⇒沈線による方形区画。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
22-16	SK545	V-1	刺突付隆線文、上下横位沈線。縦位LR?縄文。	ナデ	雲母・石英	
22-17	SK545	III-3	RL縄文⇒2条の沈線による山形文。	ナデ	海綿状骨針	
22-18	SK545	III-5?	底部網代痕。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
22-19	SK547 上面	VII-1	LR縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	金雲母	
22-20	SK547 上面	VII	両耳壺?橋状把手。	ナデ	雲母	
22-21	SK547 上面	VII-2	RL縄文⇒多条沈線による弧状文。	ナデ	雲母・石英	
22-22	SK548	VI-2	RL縄文⇒沈線。	ミガキ	石英	
22-23	SK548	IV-2	縦位RL縄文。縦位隆線に沿う結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
22-24	SK548	II	LR・RL羽状縄文⇒半截竹管による2条以上の刺突列。	ナデ	繊維・石英	
22-25	SK548	IV-4?	縦位無節L縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
22-26	SK548	IV-3?	ナデ。底部網代痕⇒ナデ磨消。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
23-1	SK620	V-1	縦位LR・RL羽状縄文。口縁上端1条の沈線。口縁隆帯区画渦巻文、ソーメン状隆沈線による矢印状、縦位弧状文。1単位の橋状突起?胴部突起から垂下する2条の縦位単沈線。突起部内面2条の山形沈線文。	ミガキ	雲母・石英	
23-2	SK620	V-1	縦位RL縄文⇒カマボコ状の隆沈線・沈線。	ミガキ	海綿状骨針・石英	

土器観察表

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
23-3	SK620	V-1	縦位附加条1種(RL+r)⇒3条のカマボコ状の隆沈線。	ナデ	雲母・石英	
23-4	SK620	V-1?	縦位RL縄文⇒2~3条の単沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
23-5	SK620	V-1	縦位RL縄文⇒3条の単沈線。	ナデ	雲母・金雲母	
23-6	SK630	VI	RL縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・石英	
24-1	SK642 上面	VI	RL縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・石英	
24-2	SK642 上面	VI	RL縄文⇒沈線。	ミガキ	海綿状骨針	
24-3	SK642 上面	VI	RL縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
24-4	SK642 上面	VI	LR縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
24-5	SK642 上面	VI	RL縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
24-6	SK642 上面	VI-1	LR縄文⇒沈線による渦巻文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
24-7	SK643	VII	沈線。縦位波状条線文。	ミガキ	石英	
24-8	SK643	VI	RL縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
24-9	SK643	VI-2	RL縄文⇒断面三角の隆沈線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
24-10	SK643	VI	RL縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
24-11	SK643	VI	沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
24-12	SK643	VI-1	隆沈線による渦巻文。	ナデ	雲母・石英	
24-13	SK643	IV-2	口縁内外面弧状隆帯。LR縄文⇒口縁縄圧痕付隆線による楕円区画文・区画に沿う沈線文・胴部沈線による方形文。	ナデ	海綿状骨針・金雲母・ 石英	図24-13~16 同一。
24-14						
24-15						
24-16						
24-17	SK643	III-4	複合口縁。口縁下端斜位刻み。LR縄文⇒2条の単沈線による横線文・山形文。	ミガキ	雲母・石英	
24-18	SK643	III-6?	条線文。	ミガキ	海綿状骨針	
24-19	SK643	-	RL縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
24-20	SK643	-	RL縄文。	ミガキ	雲母・石英	
24-21	SK643	II	LR・RL非結束羽状縄文。	ナデ	石英・繊維	
24-22	SK649	V-1	突起?ソーメン状隆線文。	ナデ	雲母	
24-23	SK649	V-1	LR縄文⇒ソーメン状隆線文。	ミガキ	雲母・石英	
25-1	SK54	VIII-1	波状口縁。RL縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	図25-1~3と 同一。
25-2						
25-3						
25-4	SK54	VIII-1	波状口縁。RL縄文⇒沈線・縦位短沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・金雲母	図25-4・5と 同一。
25-5						
25-6	SK54	VIII-1	LR縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母	
25-7	SK54	VIII-1	三角形波頂部。LR縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	金雲母・石英	
25-8	SK54	VIII-1	LR縄文⇒沈線・縦位弧状沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
25-9	SK54	VIII-1	RL縄文⇒沈線・縦位弧状沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
25-10	SK54	VIII-1	曲線状沈線、ミガキ。下位沈線区画。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
25-11	SK54	VIII-1	曲線状?沈線、ミガキ。円形沈線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
25-12	SK54	VIII-1	LR縄文不規則施文⇒沈線による曲線文⇒磨消。	ナデ	雲母	
25-13	SK54	VIII	曲線状の櫛条線文。	ミガキ	雲母・金雲母	図25-13・14 と同一。
25-14						
25-15	SK54	VIII	縄文⇒単沈線による格子状文。	ミガキ	雲母	
25-16	SK54	VIII-1	口縁ナデ。LR縄文・沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
25-17	SK54	VIII	LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
25-18	SK54	VIII	口縁ナデ。RL縄文⇒斜位沈線?	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
25-19	SK54	VIII?	LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
25-20	SK54	VIII?	RL縄文。	ミガキ	雲母・石英	
25-21	SK54	VIII?	LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
25-22	SK54	VIII?	LR縄文。	ミガキ	金雲母	
25-23	SK54	VIII?	LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
25-24	SK54	VII-1	口縁隆帯区画。RL縄文。	ミガキ	海綿状骨針・石英	
25-25	SK54	V-1	縦位LR縄文⇒多条沈線。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	
25-26	SK54	VI	ミガキ。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
25-27	SK54	VIII?	底部布目痕。	ナデ	金雲母・石英	
26-1	SK20	VII?	沈線。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	
26-2	SK20	-	LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
26-3	SK61	VII	口縁盲孔列。	ミガキ	海綿状骨針・石英	
26-4	SK92	VII-3?	LR縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母	
26-5	SK92	VII-3?	LR縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	石英	

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
26-6	SK92	Ⅶ	口縁渦巻状小突起。LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
26-7	SK92	Ⅶ-2	縄文⇒多条沈線文。	ミガキ	雲母・石英	
26-8	SK119	Ⅶ-3	LR 縄文⇒斜位刻み付隆帯・沈線。口縁内面1条の沈線。	ナデ	雲母	
26-9	SK119	Ⅶ	縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
26-10	SK119	Ⅶ	8字状貼付文。橋状把手。	ナデ	金雲母・石英	
26-11	SK119	Ⅶ?	隆帯及び隆帯に沿う沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
26-12	SK119	Ⅶ-1	口縁隆帯区画、ノ字状沈線。上下端盲孔、中央沈溝。	ナデ	石英	
26-13	SK119	V-1	縦位 RL 縄文⇒3条の沈線による曲線文。	ナデ	雲母	
26-14	SK160	Ⅶ	小波状口縁。口縁沈線区画。RL 縄文⇒縦位3条の沈線。	ミガキ	海綿状骨針・石英	
26-15	SK160	Ⅵ-1	LR 縄文⇒カマボコ状の隆沈線。	ナデ	金雲母・石英	
26-16	SK160	Ⅵ-1	縄文⇒カマボコ状の隆沈線。	ミガキ	海綿状骨針・石英	
26-17	SK160	Ⅵ	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・石英	
26-18	SK160	Ⅵ	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
26-19	SK161 上面	Ⅵ	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	海綿状骨針・石英	
26-20	SK163	Ⅵ	RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・石英	
26-21	SK163	V-2	撚糸文⇒3条の沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・石英	
26-22	SK163	V	縦位 RL 縄文⇒カマボコ状の隆線、隆線に沿う沈線による曲線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
26-23	SK163	V	縦位 LR 縄文⇒沈線。	ナデ	海綿状骨針・石英	
26-24	SK163	Ⅳ	半截竹管による2列の刺突列。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
26-25	SK178	Ⅵ	RLR 縄文⇒沈線。	ナデ	金雲母・石英	
26-26	SK178	Ⅳ-4	縦位 LR・RL 結束第2種羽状縄文。	ナデ	雲母・金雲母	
26-27	SK178	Ⅵ-1	LR 縄文⇒カマボコ状の隆沈線。	ナデ	雲母・金雲母・石英	図 26-27・28 同一。
26-28	SK178	Ⅵ-1	LR 縄文⇒カマボコ状の隆沈線。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
26-29	SK178	V-2	LR 縄文⇒3条の沈線による曲線文。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
27-1	SK171	Ⅵ	LR 縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	金雲母・石英	
27-2	SK173	Ⅵ-1	RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
27-3	SK173	Ⅵ-1?	LRL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母	
27-4	SK173	Ⅵ-1	RLR 縄文⇒隆沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母・石英	
27-5	SK173	V-1	口縁上端カマボコ状隆線による楕円形区画内2条の有節沈線文、突起部隆線による渦巻文。胴部縦位 LR 縄文⇒ソーマン状隆線文。口縁内面ソーマン状隆線による波状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
27-6	SK173	V-1	口縁上端カマボコ状隆線による楕円形区画内半截竹管による刺突列。突起あり。胴部縦位 LR 縄文⇒ソーマン状隆線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
27-7	SK173	V-1	縦位 LR 縄文⇒ソーマン状隆線文による方形区画。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
27-8	SK173	V	縦位 LR 縄文⇒3条のカマボコ状隆沈線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
27-9	SK173	V	縦位 LR 縄文⇒カマボコ状隆沈線文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
27-10	SK173	V	縦位 LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母	
27-11	SK173	V	縦位 LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・石英	
27-12	SK173	V	縦位 LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
27-13	SK173	Ⅳ-2	口縁カマボコ状の隆線による楕円形区画文・上下端押捺。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
27-14	SK173	Ⅲ-5	LR 縄文⇒結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
27-15	SK374 上面	Ⅶ-1	刻み付 I 字状隆帯。	ミガキ	雲母	
27-16	SK374 上面	Ⅶ?	LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
27-17	SK641	Ⅶ	格子状条線文。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
27-18	SK641	Ⅵ	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
27-19	SK683	Ⅶ-1	縄文⇒沈線・円形浮文⇒磨消。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
27-20	SK683	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
27-21	SK683	Ⅵ-1	RLR 縄文⇒隆沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
27-22	SK683	-	縦位 LR 縄文。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
27-23	SK683	V?	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
27-24	SK683	V-2	縦位 LR 縄文⇒3条の沈線による曲線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
27-25	SK655	Ⅶ?	多条沈線。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
28-1	SK01	Ⅶ	口縁小突起。RL 縄文。	ナデ	雲母	

土器観察表

図版 No.	出土遺構・層名	分類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物	備考
28-2	SK27 ~ 29 上面	V-1	縄文⇒断面台形状隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
28-3	SK27 ~ 29 上面	V-1	縦位 LR 縄文⇒3 条の沈線。	ミガキ	雲母・石英	
28-4	SK27 ~ 29 上面	-	附加条 1 種 (LR + R)。	ナデ	雲母・石英	
28-5	SK47 ~ 49 上面	VII-2	LR 縄文⇒多条沈線文。	ナデ	雲母	
28-6	SK72 上面	VII?	L 撚糸文。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
28-7	SK68	V	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母	
28-8	SK68	VI-2	LR 縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	金雲母	
28-9	SK73 上面	VI-1	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	図 28-9・10 同一。
28-10	SK73 上面	VI-1	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	図 28-9・10 同一。
28-11	SK73 上面	VIII?	LR 縄文。	ミガキ	金雲母	図 28-17・18 と同一。
28-12	SK78 上面	VI	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・石英	
28-13	SK82	-	縦位 LR? 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
28-14	SK90	VII-2	口縁隆帯? 屈曲部盲孔。RL 縄文⇒磨消。	ミガキ	雲母・石英	
28-15	SK97	IV-2	弧状隆帯。	ミガキ	雲母・石英	
28-16	SK83	VIII?	RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
28-17	SK83	VIII?	LR 縄文。	ミガキ	金雲母	図 28-11・17・18 同一。
28-18	SK83	VIII?	LR 縄文。	ミガキ	金雲母	図 28-11・17・18 同一。
28-19	SK123	VII-3	口縁内面単沈線。頸部沈線。胴部 RL 縄文。	ミガキ	金雲母	
28-20	SK123	VII	波状口縁。縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
28-21	SK123	VII?	RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
28-22	SK126	VII-1	口縁隆帯区画。隆帯上盲孔。	ナデ	雲母・石英	
28-23	SK147 上面	IV	半截竹管による 2 列の刺突列。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
28-24	SK147 上面	IV-4?	縦位 RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
28-25	SK147 上面	IV-4?	縦位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
29-1	SK150 上面	VI-1	カマボコ状隆線。RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
29-2	SK158	VI-2	RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母	
29-3	SK158	VI-2	無節 L 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・金雲母	
29-4	SK167 上面	VI	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・石英	
29-5	SK167 上面	VI?	LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
29-6	SK182・183・186 上面	VI?	LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
29-7	SK182・183・186 上面	VI-2?	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
29-8	SK182・183・186 上面	VIII-1	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
29-9	SK182・183・186 上面	VIII	曲線状の条線文。	ミガキ	雲母	
29-10	SK182・183・186 上面	VIII	曲線状の条線文。	ミガキ	雲母・石英	
29-11	SK182・183・186 上面	VIII?	RL 縄文。	ナデ	雲母・金雲母	
29-12	SK182・183・186 上面	VII?	R 撚糸文。	ナデ	雲母・金雲母	
29-13	SK182・183・186 上面	VII?	RL 縄文。	ミガキ	雲母・石英	
29-14	SK182・183・186 上面	VI	波状口縁。沈線区画内円形刺突。	ミガキ	雲母・石英	
29-15	SK183	VIII-1	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母	
29-16	SK183	VIII-1	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
29-17	SK183	VII	口縁下沈線区画 R 撚糸文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
29-18	SK183	VIII?	RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
29-19	SK183	VIII?	多条沈線による格子状? 文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
29-20	SK187 上面	VIII-1	RL 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
29-21	SK187 上面	VIII-1	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	金雲母	
29-22	SK207 ~ 209 上面	IX	網目状撚糸文。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
29-23	SK207 ~ 209 上面	III-5	RL 縄文。	ナデ	金雲母・石英・繊維(少)	
29-24	SK188 上面	VI	RL? 縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	石英	
29-25	SK188 上面	VII-3?	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	金雲母・石英	
29-26	SK218	VIII-1	RL 縄文⇒多条沈線による弧状文。沈線間横長刺突。	ミガキ	雲母・金雲母	

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
29-27	SK219・531 上面	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母	
29-28	SK210・211・ 212 上面	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・金雲母・石英	
29-29	SK210・211・ 212 上面	Ⅶ-2	LR 縄文⇒多条沈線。	ナデ	金雲母・石英	
29-30	SK211	Ⅶ-2	口縁1条の沈線。LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
30-1	SK223	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	石英	
30-2	SK223	Ⅵ	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・石英	
30-3	SK223	Ⅵ?	沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
30-4	SK254・255 上面	Ⅵ	縄文⇒断面三角の隆沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
30-5	SK260	Ⅵ	LR 縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
30-6	SK270 上面	Ⅶ?	RL 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・石英	
30-7	SK224	Ⅵ	RL 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
30-8	SK224	-	LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
30-9	SK224	-	LR 縄文。	ミガキ	雲母	
30-10	SK268 上面	Ⅵ?	RL 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
30-11	SK287	Ⅶ-2	橋状把手。把手下盲孔。口縁1条の沈線。LR 縄文。	ミガキ	雲母・石英	
30-12	SK306 上面	Ⅲ-6	口縁縦位刻み。アナダラ属貝殻による波状貝殻腹縁文。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
30-13	SK384 上面	Ⅵ-1	RL 縄文⇒カマボコ状隆沈線。沈線間に刺突。	ミガキ	雲母・金雲母	内面赤色顔料付着。
30-14	SK345～348 上面	Ⅲ-4	口縁隆帯区画、単沈線による弧状文。	ミガキ	雲母・石英	
30-15	SK345～348 上面	Ⅲ-5	LR 縄文。	ナデ	雲母・石英	
30-16	SK437 上面	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線	ミガキ	雲母・金雲母	
30-17	SK437 上面	V-1	S字(渦巻)状突起部。	-	海綿状骨針	
30-18	SK373 上面	Ⅶ-1	RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
30-19	SK373 上面	Ⅶ-1	ノ字状隆帯。隆帯上盲孔。	ナデ	雲母・石英	
30-20	SK373 上面	Ⅶ-2	多条沈線文⇒盲孔。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
30-21	SK373 上面	Ⅲ-5	縦位 RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
30-22	SK439 上面	V-1	口縁上端1条のカマボコ状の隆線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
30-23	SK439 上面	Ⅵ	縄文⇒カマボコ状の隆沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
30-24	SK443 上面	Ⅶ-2	波状口縁。波頂部盲孔。口縁ノ字状?沈線、下端盲孔・2条の横位沈線、交点盲孔。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
31-1	SK463 上面	Ⅵ	RL 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母	
31-2	SK463 上面	Ⅵ-2	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・石英	
31-3	SK463 上面	Ⅵ?	RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
31-4	SK485 上面	Ⅷ-1	口縁上端刻み。横位沈線。単沈線間斜位小波状沈線、櫛歯状工具による多条沈線文、連続刺突。	ナデ	金雲母	図31-4~7・ 10・11、図40- 1同一。
31-5						
31-6						
31-7						
31-8	SK508 上面	Ⅳ-2	口縁隆帯による弧状文。口縁下端押捺。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
31-9	SK508 上面	Ⅳ-2	縦位 LR 縄文⇒単沈線による横線・波状文。	ナデ	雲母・金雲母	
31-10	SK489 上面	Ⅷ-1	多条沈線による鋸歯状文。沈線区画内櫛歯状工具による多条沈線文、連続刺突、斜位小波状沈線。	ナデ	金雲母	図31-4~7・ 10・11、図40- 1同一。
31-11						
31-12	SK489 上面	Ⅵ	LR 縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
31-13	SK489 上面	Ⅳ-3	波状口縁。突起?	ナデ	雲母	
31-14	SK532～534 上面	Ⅶ-1	口縁隆帯区画、隆帯上突起。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
31-15	SK532～534 上面	Ⅶ-2	口縁2条の沈線。	ミガキ	雲母	
31-16	SK532～534 上面	Ⅶ	RL? 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
31-17	SK532～534 上面	Ⅶ-2	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
31-18	SK532～534 上面	Ⅵ	断面三角の隆線。	ナデ	海綿状骨針・金雲母・ 石英	
31-19	SK532～534 上面	Ⅶ	条線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	図31-20と同一。
31-20	SK532～534 上面	Ⅶ	条線文。		雲母・海綿状骨針・ 金雲母	図31-19と同一。
31-21	SK532～534 上面	Ⅵ-2	RL 縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	海綿状骨針・金雲母・ 石英	
31-22	SK534 上面	Ⅶ-1	口縁突起。突起部から垂下する刻み付I字状隆帯。LR 縄文⇒沈線による弧状文⇒磨消。	ミガキ	雲母・金雲母	

土器観察表

図版 No.	出土遺構・層名	分類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物	備考
31-23	SK534 上面	Ⅶ-1	RL 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母	
31-24	SK534 上面	Ⅶ-1	LR 縄文⇒沈線による J 字状文。	ミガキ	雲母・石英	
31-25	SK534 上面	Ⅶ?	RL 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	
31-26	SK534 上面	Ⅵ-2	LR 縄文⇒断面三角の隆線。隆線区画内円形刺突。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
31-27	SK534 上面	Ⅶ?	L 撚糸文。	ミガキ	雲母・石英	
31-28	SK534 上面	Ⅵ-1	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母	
31-29	SK534 上面	Ⅵ	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
31-30	SK534 上面	Ⅶ	条線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母・石英	
31-31	SK534 上面	Ⅶ?	RL 縄文。	ミガキ	雲母・金雲母	
32-1	SK537・538 上面	Ⅵ-2	波状口縁。LR 縄文⇒沈線・隆沈線。	ミガキ	雲母・金雲母	
32-2	SK537・538 上面	Ⅵ-2?	波状口縁。縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母	
32-3	SK539 上面	Ⅳ-2	隆線による楕円形区画。区画内1条の縄圧痕文。隆線下押捺。	ナデ	雲母・石英	外面赤色顔料付着。
32-4	SK539 上面	Ⅳ-3	頸部刺突列。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
32-5	SK539 上面	Ⅳ-2	縦位 LR 縄文⇒2条の単沈線による曲線文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
32-6	SK539 上面	Ⅳ-2?	縦位 LR 縄文⇒刻み付隆帯区画・2条以上の沈線による方形文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
32-7	SK540 上面	Ⅵ	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・金雲母	
32-8	SK540 上面	Ⅵ-2	縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	雲母・金雲母	
32-9	SK540 上面	Ⅵ	RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・金雲母	
32-10	SK540 上面	Ⅵ	RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
32-11	SK644	Ⅶ	口縁盲孔、ノ字状隆帯、中央沈溝。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
32-12	SK644	Ⅶ	沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
32-13	SK644	Ⅵ-2	沈線。沈線区画内円形刺突。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
32-14	SK644	V-2?	縄文⇒カマボコ状の隆線。	ナデ	石英	
32-15	SK644	-	LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
32-16	SK647 上面	Ⅶ	条線文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
32-17	SK652 上面	Ⅵ?	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
32-18	SK652 上面	Ⅵ	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
32-19	SK654 上面	Ⅷ?	LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
32-20	SK654 上面	Ⅷ?	RL 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
32-21	SK654 上面	Ⅷ?	RL 縄文。	ナデ	雲母・金雲母	
32-22	SK653	Ⅶ?	ナデ。	ナデ	海綿状骨針・金雲母・石英	
32-23	SK653	Ⅶ	条線文。	ナデ	雲母・石英	
32-24	SK653	Ⅶ	RL 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・金雲母	
32-25	SK653	Ⅶ?	RL 縄文⇒沈線。	ナデ	海綿状骨針・金雲母・石英	
32-26	SK653	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・金雲母・石英	
32-27	SK653	Ⅶ?	縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
32-28	SK653	Ⅶ?	LR 縄文⇒沈線	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
32-29	SK653	Ⅵ?	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
32-30	SK653	Ⅸ	縦位網目状撚糸文。	ナデ	金雲母	
32-31	SK653	-	LR 縄文。	ミガキ	雲母・石英	
32-32	SK653	Ⅶ-4	横方向からの刺突を全面施文。	ナデ	雲母	
32-33	SK653	Ⅶ-4	横方向からの刺突を全面施文。	ナデ	雲母	
33-1	SK197	Ⅶ?	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・石英	
33-2	SK197	Ⅶ?	RL 縄文。	ナデ	雲母・石英	埋設土器
33-3	SK217	Ⅶ-1	口縁突起、橋状把手、貫通孔。突起部2個の盲孔。把手に沿う沈線及び盲孔。口縁内面盲孔、貫通孔に沿う沈線。突起上端渦巻状隆帯。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
33-4	SK217	Ⅶ-2	多条沈線。盲孔。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
33-5	SK217	Ⅶ-2	LR 縄文⇒多条沈線による渦巻文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母・石英	
33-6	SK217	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
33-7	SK217	Ⅵ-1	沈線。	ナデ	雲母	
33-8	SK217	Ⅶ-1	口縁隆帯区画、I 字状隆帯、交点盲孔。胴部単沈線による縦位条線文。口縁隆帯部内面円形浮文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	埋設土器

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
33-9	P938	-	RL 縄文。	ナデ	石英	
34-1	SK217	Ⅶ	RL 縄文⇒胴部下部の2箇所単沈線による格子状文。底部ナデ。	ナデ	雲母・金雲母・石英	埋設土器
35-1	SK424	Ⅶ-1	口縁隆帯区画。R 捺糸文。	ナデ	雲母・金雲母・石英	埋設土器
36-1	道路状遺構	Ⅵ-2	LR 縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母	
36-2	道路状遺構	Ⅵ-2	LR 縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・金雲母	
36-3	道路状遺構	Ⅵ-2	LR 縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
36-4	道路状遺構	Ⅵ	RL 縄文⇒カマボコ状の隆線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
36-5	道路状遺構	Ⅵ-2?	沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
36-6	道路状遺構	Ⅵ-2?	両耳壺? LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
36-7	道路状遺構	V	縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
36-8	道路状遺構	V?	縦位 LR 縄文⇒沈線による波状文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
36-9	道路状遺構	V?	縦位 RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
36-10	道路状遺構	Ⅵ?	RL 縄文⇒下端ミガキ。底部ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
37-1	52T 西Ⅲ-2層	Ⅶ-2	口縁突起、盲孔、沈線。垂下する多条沈線。	ミガキ	雲母・石英	
37-2	52T 西Ⅲ-2層	Ⅶ-2	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・金雲母	
37-3	52T 西Ⅲ-2層	Ⅵ-2	浅鉢。波状口縁。RL 縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	金雲母・海綿状骨針	
37-4	52T 西Ⅲ-2層	Ⅵ-1	RLR 縄文⇒カマボコ状の隆沈線・円形刺突。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
37-5	52T 西Ⅲ-2層	Ⅵ-1	RL 縄文⇒沈線区画・蕨手状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
37-6	52T 西Ⅲ-2層	-	縦位 RL 縄文。	ミガキ	雲母・金雲母・石英	
37-7	52T 西Ⅲ-2層	-	RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
37-8	52T 西Ⅲ-2層	V	縦位 RL 縄文⇒3条以上の沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
37-9	52T 西Ⅲ-2層	V-1	口縁隆帯区画刺突。	ナデ	雲母	
37-10	52T 西Ⅲ-2層	V-1	LR 縄文⇒カマボコ状の隆沈線によるクランク状文。	ミガキ	雲母・金雲母	
37-11	52T 西Ⅲ-2層	Ⅳ-2	カマボコ状隆沈線による楕円形区画。	ナデ	海綿状骨針・石英	
37-12	52T 西Ⅲ-2層	Ⅳ-2?	波状口縁。3条のカマボコ状隆沈線。	ナデ	雲母・石英	
37-13	52T 西Ⅲ-2層	Ⅳ-2	LR 縄文⇒横位沈線1条・断面三角の隆線1条・有節沈線による横位楕円文・1条の有節沈線による垂下するアクセント文。	ミガキ	雲母・石英	
37-14	52T 西Ⅲ-2層	Ⅳ-2	口縁弧状貼付文。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
37-15	52T 西Ⅲ-2層	Ⅳ-1	口縁粘土紐貼付による突起、肥厚部縦位刻み。単沈線による多条山形文⇒上位余白部に三角形刻み。口縁内面粘土紐貼付。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
37-16	52T 西Ⅲ-2層	Ⅳ-1	口縁粘土紐貼付による山形状貼付文。単沈線による方形区画内鋸歯状?文。	ナデ	雲母・金雲母・石英	補修孔有。
37-17	52T 西Ⅲ-2層	Ⅳ-1	口縁小突起、上端半截竹管による刻み、肥厚。半截竹管による多条横線文。	ナデ	雲母・金雲母	
37-18	52T 西Ⅲ-2層	Ⅳ-3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
37-19	52T 西Ⅲ-2層	Ⅳ-3	口縁上端ヘラ状工具による刻み。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
37-20	52T 西Ⅲ-2層	Ⅳ-3	複合口縁。口縁上端押捺。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
37-21	52T 西Ⅲ-2層	Ⅳ-4	縦位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
37-22	52T 西Ⅲ-2層	Ⅳ-4	複合口縁。縦位 LR? 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
37-23	52T 西Ⅲ-2層	Ⅳ-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。			
37-24	52T 西Ⅲ-2層	Ⅲ-4	瓜形文による多条弧状?文。余白部に櫛描条線文。	ナデ	雲母・石英	
37-25	52T 西Ⅲ-2層	Ⅲ-5?	口縁肥厚。LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
37-26	52T 西Ⅲ-2層	Ⅲ-3	口縁鋸歯状貼付文。LR・RL 縄文⇒2条以上の単沈線による山形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
37-27	52T 西Ⅲ-2層	Ⅲ-2	口縁指頭による交互押捺。RL 縄文。	ナデ	雲母・石英	
37-28	52T 西Ⅲ-2層	Ⅲ-1	口縁上端内外面三角形の刺突。LR 縄文⇒円形竹管文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 繊維(小)	
37-29	52T 西Ⅲ-2層	Ⅲ-5	横位結節回転文。	ナデ	海綿状骨針・石英	
37-30	52T 西Ⅲ-2層	Ⅱ	結束第1種 LR・RL 羽状縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
38-1	52T サブトレン チⅢ-1層	Ⅷ-1	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母	
38-2	52T サブトレン チⅢ-1層	Ⅷ-1	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
38-3	52T サブトレン チⅢ-1層	Ⅷ-1	LR 縄文⇒沈線・縦位弧状沈線	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
38-4	52T サブトレン チⅢ-1層	Ⅷ-1	LR? 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針	

土器観察表

図版 No.	出土遺構・層名	分類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物	備考
38-5	52T サブトレンチⅢ-1層	Ⅶ-1	LRL ? 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	
38-6	52T サブトレンチⅢ-1層	Ⅶ?	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	金雲母・石英	
38-7	52T サブトレンチⅢ-1層	Ⅶ	縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母・金雲母	
38-8	52T サブトレンチⅢ-1層	Ⅶ	格子状条線文。	ミガキ	雲母	
38-9	52T サブトレンチⅢ-1層	Ⅵ	RL 縄文⇒沈線。	ナデ	金雲母	
38-10	52T サブトレンチⅢ-1層	Ⅵ	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
38-11	52T サブトレンチⅢ-1層	Ⅵ-2	RL 縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	雲母・石英	
38-12	52T サブトレンチⅢ-1層	Ⅵ-2	RLR 縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	雲母	
38-13	52T サブトレンチⅢ-1層	Ⅵ	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
38-14	52T サブトレンチⅢ-1層	Ⅵ-1	LR 縄文⇒カマボコ状の隆沈線。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
38-15	52T サブトレンチⅢ-1層	-	LR 縄文不規則施文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
38-16	52T サブトレンチⅢ-1層	-	LR 縄文。	ナデ	雲母・石英	
38-17	52T サブトレンチⅢ-1層	-	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	ミニチュア土器。
38-18	53T 西 a・b 層	Ⅶ-1	口縁隆帯区画。LR 縄文。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	
38-19	53T 西 a・b 層	Ⅵ-1	カマボコ状隆沈線。	ミガキ	雲母・金雲母	
38-20	53T 西 a・b 層	Ⅵ	RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
38-21	53T 西 a・b 層	Ⅵ-1	RL 縄文⇒断面三角の隆沈線。	ナデ	雲母・金雲母	
38-22	53T 西 a・b 層	Ⅵ-1	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母・石英	
38-23	53T 西 a・b 層	Ⅵ-1?	RL 縄文⇒2条の沈線。	ミガキ	雲母・金雲母	
38-24	53T 西 a・b 層	Ⅵ	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	
38-25	53T 西 a・b 層	V?	縦位 LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・金雲母	
38-26	53T 西 a・b 層	Ⅳ-2	三角形波状口縁。突起側面及び内面盲孔。突起部左口縁上端及び内面上端に3条の単沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
39-1	53T 西Ⅲ-1層	Ⅵ-2	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
39-2	53T 西Ⅲ-1層	Ⅵ	縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・金雲母・石英	
39-3	53T 西Ⅲ-1層	Ⅵ	縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・石英	
39-4	53T 西Ⅲ-1層	V-2	カマボコ状の隆線。	ナデ	雲母・石英	
39-5	53T 西Ⅲ-1層	V-1	縦位 LR 縄文⇒沈線・ソーメン状隆線による波状文。	ミガキ	雲母・金雲母	
39-6	53T 西Ⅲ-1層	Ⅳ-1	口縁肥厚、縦位短沈線。2条の斜位沈線、余白部に縦長の刻み。	ナデ	雲母	
39-7	53T 西Ⅲ-1層	Ⅲ-4	複合口縁、上端一部凹み。口縁下端三角形刻み。胴部縄文⇒2条以上の波状?文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
39-8	53T 西サブトレンチⅢ-1層	Ⅶ-1	口縁隆帯区画。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
39-9	53T 西サブトレンチⅢ-1層	Ⅶ-1	口縁刻み付隆帯区画、円形浮文。RL 縄文。	ミガキ	金雲母・石英	
39-10	53T 西サブトレンチⅢ-1層	Ⅵ	浅鉢。RL 縄文⇒断面三角形の隆沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
39-11	53T 西サブトレンチⅢ-1層	Ⅵ-2	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
39-12	53T 西サブトレンチⅢ-1層	Ⅵ	RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
39-13	53T 西サブトレンチⅢ-1層	Ⅵ	RL 縄文⇒沈線。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
39-14	53T 西サブトレンチⅢ-1層	Ⅵ	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
39-15	53T 西サブトレンチⅢ-1層	Ⅵ	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	金雲母	
39-16	53T 西サブトレンチⅢ-1層	Ⅵ	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	金雲母	
39-17	53T 西サブトレンチⅢ-1層	Ⅵ	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
39-18	53T 西サブトレンチⅢ-1層	Ⅵ-1	頸部2条の沈線区画、沈線間縦長刺突列。LR 縄文⇒カマボコ状の隆沈線、区画内縦長刺突。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	図 39 - 18・19 同一。
39-19	53T 西サブトレンチⅢ-1層					

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
39-20	53T 西サブトレ ンチⅢ-1層	Ⅵ-1	LR 縄文⇒2条単位の沈線。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	
39-21	53T 西サブトレ ンチⅢ-1層	Ⅵ-1	RLR 縄文⇒断面三角の隆沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
39-22	53T 西サブトレ ンチⅢ-1層	V-2	LR 縄文⇒カマボコ状の隆沈線。	ナデ	雲母・石英	
39-23	53T 西サブトレ ンチⅢ-1層	V-1	口縁隆線によるS字状貼付文。頸部ソーメン状 隆線による上下区画波状文、沈線による鋸歯状？ 文。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
39-24	53T 西サブトレ ンチⅢ-1層	V	縦位 RL 縄文⇒3条単位の沈線。	ミガキ	雲母	
39-25	53T 西サブトレ ンチⅢ-1層	Ⅲ-6	櫛歯状工具による条線文。	ナデ	雲母・石英・繊維(少)	
39-26	53T 西サブトレ ンチⅢ-1層	-	ナデ。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
39-27	53T 西サブトレ ンチⅢ-1層	-	ナデ。	ナデ	雲母・石英	
40-1	59 TⅢ-1層	Ⅷ-1	沈線区画内櫛歯状工具による多条沈線文、連続 刺突。	ナデ	金雲母	図 31 - 4 ~ 7・ 10・11 同一。
40-2	59 TⅢ-1層	Ⅵ-2	無節 L 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
40-3	59 TⅢ-1層	Ⅵ	RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	金雲母・石英	
40-4	59 TⅢ-1層	Ⅵ	LR 縄文⇒カマボコ状の隆沈線。	ミガキ	雲母・石英	
40-5	59 TⅢ-1層	V-2	縦位 RL 縄文⇒3条単位の沈線。	ミガキ	金雲母・石英	
40-6	59 TⅢ-1層	V-2	縦位 LR 縄文⇒2条以上の沈線。	ミガキ	金雲母・石英	
40-7	59 TⅢ-1層	V-2	縦位 RL 縄文⇒沈線による渦巻状文。	ナデ	雲母・石英	
40-8	59 TⅢ-1層	-	RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
40-9	59 TⅢ-1層	-	ミガキ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
40-10	Ⅱ区Ⅲ-1層	Ⅶ-2	口縁沈線区画。ノ字状沈線・上下端盲孔。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
40-11	Ⅱ区Ⅲ-1層	Ⅶ-2	口縁沈線区画。LR ? 縄文⇒盲孔。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
40-12	Ⅱ区Ⅲ-1層	Ⅶ-2	口縁1条の沈線。頸部沈線区画。LR 縄文⇒多条 沈線による渦巻状文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
40-13	Ⅱ区Ⅲ-1層	Ⅶ-1	口縁肥厚、1条の沈線⇒円形浮文・盲孔。胴部 単沈線による格子状文。口縁内面盲孔⇒1条の 沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	図 40 - 13・14 同一。
40-14	Ⅱ区Ⅲ-1層	Ⅶ-1	口縁刻み付隆帯区画、ノ字状隆帯、上下両端盲孔、 中央沈溝。縄文⇒多条沈線による山形文⇒円形 浮文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
40-16	Ⅱ区Ⅲ-1層	Ⅶ-2	口縁沈線区画。LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	図 40 - 16・17 同一。
40-17	Ⅱ区Ⅲ-1層					
40-18	Ⅱ区Ⅲ-1層	Ⅶ-1	口縁隆帯区画、I字状隆帯。縄文。	ナデ	金雲母・石英	
40-19	Ⅱ区Ⅲ-1層	Ⅶ-2	RL 縄文⇒沈線による曲線状文⇒一部磨消。	ナデ	雲母・金雲母	
40-20	Ⅱ区Ⅲ-1層	Ⅶ-2	LR 縄文⇒沈線⇒I字状隆帯、下端盲孔⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
41-1	Ⅱ区Ⅲ-1層	Ⅵ	波状口縁。沈線⇒区画内円形刺突充填。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
41-2	Ⅱ区Ⅲ-1層	Ⅵ	沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
41-3	Ⅱ区Ⅲ-1層	Ⅵ-1	カマボコ状隆沈線⇒縦長刺突充填。	ナデ	雲母・石英	
41-4	Ⅱ区Ⅲ-1層	Ⅵ-2	断面三角の隆線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
41-5	Ⅱ区Ⅲ-1層	Ⅵ	沈線⇒円形刺突充填。	ナデ	海綿状骨針・金雲母・ 石英	
41-6	Ⅱ区Ⅲ-1層	Ⅵ-1 ?	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
41-7	Ⅱ区Ⅲ-1層	Ⅵ	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
41-8	Ⅱ区Ⅲ-1層	Ⅵ-1	縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・金雲母	
41-9	Ⅱ区Ⅲ-1層	V-2	波状口縁。口縁突起隆線による渦巻文。縦位 LR 縄文⇒カマボコ状隆沈線による上下区画渦巻文。	ナデ	海綿状骨針・金雲母・ 石英	
41-10	Ⅱ区Ⅲ-1層	V-2	縦位 LR 縄文⇒カマボコ状隆沈線による上下区 画渦巻文。	ナデ	雲母・石英	
41-11	Ⅱ区Ⅲ-1層	V-2	LR ? 縄文⇒カマボコ状隆沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
41-12	Ⅱ区Ⅲ-1層	V-2	縦位 LRL 縄文⇒沈線による渦巻状曲線文、剣先 状アクセント文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
41-13	Ⅱ区Ⅲ-1層	Ⅶ-1 ?	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
41-14	Ⅱ区Ⅲ-1層	-	縦位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	

土器観察表

図版 No.	出土遺構・層名	分類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物	備考
42-1	31T III層	IV-1	口縁下端斜位刻み付隆帯区画⇒2本1対の刻み付縦位隆帯、口縁上端横位単沈線⇒斜位及び弧状単沈線⇒梯子状短沈線。胴部縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
42-2	31T III層	IV-1	口縁下端縄圧痕付隆帯区画⇒2本1対の縦位縄圧痕付隆帯、刻み付隆帯による円形貼付文。円形貼付文上位の口縁に双頭状小突起。胴部縦位結節回転文・RL縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
42-3	31T III層	IV-1	口縁隆帯貼付による肥厚。口縁突起部縦位短沈線⇒下端単沈線区画。口縁内面隆帯による渦巻文。口頸部沈線⇒梯子状短沈線⇒三角刻み。渦巻文と斜位区画、三角刻みによる玉付き三叉文を横位区画により2段施文。	ミガキ	雲母・石英	
42-4	31T III層	IV-1	波状口縁。口縁内面1条の隆線。口頸部縦位LR縄文、結節縄文⇒沈線⇒梯子状短沈線⇒三角刻み。上位から、口縁肥厚部縦位短沈線、単沈線、三角刻み区画梯子状短沈線、単沈線、縦位刻み付隆帯、三角刻み区画梯子状短沈線、単沈線2条、沈線区画梯子状短沈線による垂下するV字状、弧状、三角状。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
43-1	31T III層	IV-4	口縁半円状小突起、縦位J字状の隆帯。縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
43-2	31T III層	IV-4	口縁上端4条の縦位縄圧痕文。口縁下端縄圧痕付隆帯。口縁横位LR縄文、結節回転文。胴部縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
43-3	31T III層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
43-4	31T III B層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・石英	
43-5	31T III層	IV-4	横位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母	
43-6	31T III B層	III-6	条線による横線文、山形文を交互に多段施文。胴部中位横線文上の一部に波状貝殻腹縁文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
43-7	31T III層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	海綿状骨針・石英	
43-8	31T III層	IV-3	ナデ。底部木葉痕。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母・石英	
43-9	31T III B層	IV-4	横位LR縄文、底部下端ナデ磨消。底部木葉痕。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
43-10	31T III層	IV-4	縦位LR縄文。底部網代痕。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
44-1	31T III層	VI	LR縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
44-2	31T III層	IV-1	横位単沈線⇒弧状単沈線⇒梯子状短沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
44-3	31T III層	IV-1	口縁上下2条の横線区画による三角刻み列を交互に施文。胴部縦位結節回転文⇒縦位Y字状単沈線⇒区画内梯子状短沈線⇒沈線に沿う三角刻み。	ナデ	雲母	
44-4	31T III層	IV-1	口縁肥厚。沈線⇒梯子状短沈線⇒上下交互の三角刻み。山形文。口縁下端隆帯剥離？	ミガキ	雲母・石英	
44-5	31T III C~E層	IV-1	縦位RL縄文、結節回転文⇒単沈線⇒梯子状短沈線充填⇒三角刻み。口縁3帯の三角刻み下端区画梯子状短沈線帯。胴部Y字状に垂下する沈線及びそれに沿う三角刻み区画梯子状短沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
44-6	31T III層	IV-1	横位及び弧状に垂下する刻み付隆帯⇒梯子状短沈線による鋸歯状文・横線文⇒上下交互の三角刻み。	ミガキ	雲母	
44-7	31T III層	IV-1	口縁4単位の山形状突起。半截竹管による斜位・弧状沈線⇒刺突充填。円形貼付文剥離？	ナデ	雲母・海綿状骨針	
44-8	31T III層	IV-1	単沈線による横線文・弧状文⇒梯子状短沈線⇒三角刻み。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
44-9	31T III層	IV-1	刻み付隆帯⇒斜位単沈線⇒梯子状短沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
44-10	31T III層	IV-1	縦位結節回転文⇒下端横位単沈線⇒単沈線による渦巻状文⇒梯子状短沈線⇒三角刻み。玉付き三叉文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
44-11	31T III層	IV-1	隆帯、隆帯に沿う単沈線、半截竹管による弧状・横位沈線、沈線に沿う三角刻み。	ナデ	金雲母・石英	
44-12	31T III層	IV-1	口縁内面隆帯貼付。口縁下端隆帯⇒上下横位沈線区画、単沈線による渦巻状長楕円文、斜位単沈線⇒梯子状短沈線。胴部縦位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	図43-12と同一？
44-13	31T III層	IV-1	斜位・横位単沈線⇒梯子状短沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	図43-11と同一？
44-14	31T III層	IV-1	波状口縁。口縁梯縦位短沈線。縦位RL縄文、結節回転文⇒口縁下端刻み付隆帯区画⇒上下2条の横位単沈線、上位沈線間梯子状短沈線⇒刻み付隆帯による渦巻文⇒単沈線による多条山形文。	ミガキ	雲母・石英	

図版 No.	出土遺構・層名	分類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物	備考
44-15	31T III層	IV-1	口縁2個1対の小突起。口縁上下刻み付隆帯区画、突起から垂下する2本1対の刻み付隆帯⇒単沈線による多条山形文。胴部縦位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
44-16	31T III層	IV-1	単沈線による多条山形文。胴部縦位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
44-17	31T III層	IV-1	波状口縁。単沈線による上位横線区画・長楕円形文⇒単沈線による区画内多条山形文。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
44-18	31T III層	IV-1	複合口縁、単沈線による2条の山形文。胴部縦位LR・RL?羽状縄文、結節回転文。	ナデ	雲母	
44-19	31T III層	IV-1	口縁下端刻み付隆帯区画⇒梯子状短沈線。胴部縦位結節回転文。	ナデ	雲母・石英	
44-20	31T III層	IV-1	口縁下端縄圧痕付隆帯。口縁単沈線による格子状?文。胴部縦位RL縄文、結節回転文。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
44-21	31T III層	IV-1	口縁下端隆帯区画⇒3本単位(1本剥離)の縦位隆帯⇒縦位単沈線文。胴部縦位RL縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
44-22	31T III A層	IV-1	口縁単沈線による多条横線文⇒縦位単沈線文。胴部縦位結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
44-23	31T III層	IV-1	単沈線による縦位多条沈線文⇒単沈線による横位多条沈線文。格子状文。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
44-24	31T III層	IV-1	口縁下端2個1対の瘤状貼付文、貼付文と口縁を区画する単沈線。口縁単沈線による斜格子状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
44-25	31T III層	IV-1?	縦位LR縄文、結節回転文⇒単沈線による多条横線文、ソーマン状隆線文⇒単沈線及び隆線文による弧状?垂下文。	ミガキ	雲母・金雲母・石英	
45-1	31T III層	IV-1	上位単沈線区画⇒斜位単沈線⇒沈線に沿う刺突列。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
45-2	31T III層	IV-1?	2個1対の刺突列。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
45-3	31T III層	IV-1	単沈線に沿う刺突列、蕨手状文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
45-4	31T III層	IV-1	縦位多条単沈線文⇒単沈線による2条の縦位山形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
45-5	31T III C~E層	IV-1	縦位3条単位の沈線文。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
45-6	31T III層	IV-1	縦位多条単沈線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
45-7	31T III層	III-5?	縦位撚糸文。	ナデ	雲母・金雲母	
45-8	31T III層	III-6	条線文。	ナデ	雲母・石英	
45-9	31T III層	III-2?	附加条1種(LR+1?)⇒半截竹管による横位多条短沈線文を上下交互に施文。	ナデ	雲母	
45-10	31T III層	IV-1	複合口縁。口縁山形状小突起、縦位短沈線、突起下瘤状貼付文。縦位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
45-11	31T III層	IV-1	口縁山形状突起。縦位短沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
45-12	31T III層	IV-1	複合口縁。口縁山形状小突起、縦位短沈線、突起下瘤状貼付文。縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
45-13	31T III層	IV-4	口縁縦位刻み。縦位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
45-14	31T III層	IV-4	複合口縁。口縁縦位刻み。縦位RL縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
45-15	31T III層	IV-4	複合口縁。縦位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
45-16	31T III層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
45-17	31T III層	IV-4	口縁肥厚。縦位RL縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
45-18	31T III層	IV-4	縦位LR・RL結束第2種羽状縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
45-19	31T III層	IV-4	縦位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
45-20	31T III層	IV-4	頸部隆帯区画。縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母	
45-21	31T III層	IV-4	縦位結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
45-22	31T III層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
46-1	31T III層	IV-4	縦位附加条1種(LR+r・RL+1)羽状縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母	図46-1・2同一。
46-2	31T III C~E層					
46-3	31T III層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
46-4	31T III層	IV-4	縦位RL縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
46-5	31T III層	IV-4	縦位結節回転文。	ナデ	雲母・石英	
46-6	31T III層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母	
46-7	31T III層	IV-4	縦位附加条1種(RL+R)、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	図46-7・8同一。
46-8	31T III層					
46-9	31T III層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・金雲母	
46-10	31T III層	IV-4	縦位RL縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
46-11	31T III層	IV-4	縦位RL縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・金雲母	
46-12	31T III層	IV-4	縦位RL縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	図46-12・13同一。
46-13	31T III層					

土器観察表

図版 No.	出土遺構・層名	分類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物	備考
46-14	31T III層	IV-4	横位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
46-15	31T III層	IV-4	横位結束第1種 LR・RL 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
46-16	31T III層	IV-4	横位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
46-17	31T III層	IV-4	横位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
46-18	31T III層	IV-3	ミガキ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
46-19	31T III層	IV-3	ナデ。	ミガキ	雲母・石英	
46-20	31T III層	IV-3	口縁縦位刻み。ナデ。	ナデ	雲母	
46-21	31T III層	IV-3	口縁小突起。ヘラナデ。	ナデ	雲母	
46-22	31T III層	IV-3	ヘラナデ。	ナデ	雲母	
46-23	31T III層	IV-3	ナデ。底部網代痕。	ナデ	雲母・金雲母	
47-1	31T III層	III-4	口縁上端刻み。単沈線による上位区画山形?文、下端斜位刻み区画。	ミガキ	雲母・石英	
47-2	31T III層	III-4	口縁単沈線による2条の山形文。下端三角刻み区画。	ミガキ	雲母・金雲母	
47-3	31T III層	III-4	波状口縁。口縁肥厚。有節沈線による口縁上位1条の横線区画、垂下する2条の弧状文、口縁下端有段部2条の有節沈線区画、胴部上位2条の有節沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
47-4	31T III層	III-4	口縁肥厚、2条の横位爪形文。口縁下端～胴部横位 RL 縄文、ソーマン状隆線文。	ナデ	雲母・石英	
47-5	31T III層	III-4	口縁肥厚、縦位縄圧痕文 (LR)。縦位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
47-6	31T III層	III-4	口縁上端刺突。縄圧痕文による上位1条の横区画、多条弧状文。	ナデ	雲母・石英	
47-7	31T III層	III-4	複合口縁。口縁下端斜位刻み。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
47-8	31T III層	III-4	複合口縁。口縁下端三角刻み。胴部横位 LR 縄文⇒平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
47-9	31T III層	III-4	有段部半截竹管による刺突列、横位 RL 縄文。	ミガキ	雲母・石英	
47-10	31T III層	III-4	口縁半円状突起。櫛歯状工具による山形?文	ナデ	雲母・海綿状骨針	
47-11	31T III層	III-4	口縁上位1条の横位単沈線、沈線に沿う縦長刺突列、下位1条の横位単沈線⇒縦長刺突列。	ナデ	雲母・石英	
47-12	31T III層	III-4	縄文⇒頸部上位2条の横位単沈線、多条の単沈線による山形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
47-13	31T III層	III-4	頸部上位縄圧痕文横区画、単沈線による山形文。	ナデ	雲母・石英	
47-14	31T III層	III-2	口縁上端一部刻み。頸部有節沈線による多条横線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
47-15	31T III層	III-4	多条の横位爪形文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
47-16	31T III層	III-4	口縁半円状突起、突起上端刻み。単沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
47-17	31T III層	III-4	横位 LR 縄文⇒単沈線⇒沈線に沿う爪形文。	ミガキ	雲母	
47-18	31T III層	III-4	横位単沈線間に平行沈線による波状文、単沈線による方形文⇒沈線に沿う爪形文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
47-19	31T III層	III-4	横位・斜位爪形文。	ミガキ	雲母	
47-20	31T III層	III-1	横位 LR 縄文⇒2条以上の爪形文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維(少)	
47-21	31T III層	III-3?	横位 LR 縄文⇒縄圧痕文 (LR)	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
47-22	31T III層	III-4	横位 LR 縄文⇒下位平行沈線による横区画⇒瘤状貼付文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
47-23	31T III層	III-3	横位 RL 縄文⇒単沈線による多条横線文⇒単沈線による山形文。	ミガキ	雲母	
47-24	31T III層	III-4	横位 LR 縄文⇒単沈線による弧状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
47-25	31T III層	III-2	口縁小波状。横位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
47-26	31T III層	III-3?	横位 LR 縄文⇒縄圧痕文 (LR)	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
47-27	31T III層	III-3	口縁鋸歯状貼付文。横位 LR 縄文⇒2条以上の半截竹管による山形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
47-28	31T III層	III-3	口縁鋸歯状貼付文。横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
47-29	31T III層	III-2	口縁波状貼付文。横位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・石英	
47-30	31T III層	III-3	横位 LR 縄文⇒C字形爪形文、単沈線による横線文。	ミガキ	石英・金雲母	
47-31	31T III層	III-2	口縁指頭による交互押捺。縄文⇒半截竹管による刺突列。	ナデ	海綿状骨針・石英	
47-32	31T III層	III-2	口縁山形状?小突起。口縁上端刻み。横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維(少)	
47-33	31T III層	III-6	口縁縦位刻み(条線)。半截竹管による刺突列。	ナデ	雲母・海綿状骨針	補修孔有。
47-34	31T III層	III-6	変形爪形文。	ミガキ	海綿状骨針	
48-1	31T III層	III-5	横位 LRL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
48-2	31T III層	III-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
48-3	31T III層	III-5	横位 LR 縄文、口縁ナデによる磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
48-4	31T III層	III-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
48-5	31T III層	III-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
48-6	31T III層	III-5	横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
48-7	31T III層	III-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
48-8	31T III層	III-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・石英・繊維(少)	
48-9	31T III層	III-5	横位 LR 縄文。胴部下端磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母・石英	
48-10	31T III層	III-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
48-11	31T III層	III-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英・繊維(少)	
48-12	31T III層	III-5	横位 LR 縄文。	ナデ	海綿状骨針・石英	
48-13	31T III層	III-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・石英	
48-14	31T III層	III-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・石英	
48-15	31T III層	III-5	横位無節 R 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
48-16	31T III層	III-5	横位附加条1種(LR+R)。	ナデ	石英	
48-17	31T III層	III-5	横位 RL 縄文。	ナデ	海綿状骨針・石英	
48-18	31T III層	III-5	横位 LRL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
48-19	31T III層	III-5	縦位 RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
48-20	31T III層	III-5	口縁山形状突起。横位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	図48-20~22 同一。
48-21	31T III層					
48-22	31T III層					
48-23	31T III層	II	口縁1条の爪形文列。横位結束第1種LR・ RL?羽状縄文。	ナデ	海綿状骨針・石英・ 繊維	
48-24	31T III層	II	波状口縁。横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・石英・繊維	
48-25	31T III層	III-5	横位 LR 縄文、結節回転文	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 繊維	
49-1	31T サンプル S11	III-4	縄圧痕文(LR)による口縁下位横区画、山形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	L III貝層 III C 2~4層
49-2	31T サンプル S11	III-2	口縁上端刺突⇒指頭押捺による小波状口縁。横 位 LR 縄文。	ナデ	雲母・石英	L III貝層 III C 2~4層
49-3	31T サンプル S11	III-4	頸部刻み付横位隆帯。	ナデ	石英	L III貝層 III C 2~4層
49-4	31T サンプル S11	III-5?	横位附加条1種(RL+R)、口縁ナデによる磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針	L III貝層 III C 2~4層
49-5	31T サンプル S11	III-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・金雲母	L III貝層 III C 2~4層
49-6	31T サンプル S11	III-5	横位結束第1種LR・RLR羽状縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	L III貝層 III C 2~4層
49-7	31T サンプル S11	III-5	横位 RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	L III貝層 III C 2~4層
49-8	31T サンプル S11	III-2?	縦位平行沈線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	L III貝層 III C 2~4層
49-9	31T IV層	III-4	横位 LR 縄文、結節回転文。底部ナデ。	ナデ	雲母	
49-10	31T IV層	III-4	横位 LR 縄文、結節回転文。胴部下端ナデによる 磨消。底部ナデ。	ナデ	雲母	
49-11	31T IV層	III-5?	ナデ。底部木葉痕。	ナデ	海綿状骨針・石英	
49-12	31T IV層	III-5?	縦位 LR 縄文。底部木葉痕。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
49-13	31T IV層	III-4	口縁縄文⇒ナデによる磨消⇒沈線による山形文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
49-14	31T IV層	III-4	波状口縁。横位 LR 縄文⇒2条1単位の単沈線 による上下区画山形文。	ミガキ	海綿状骨針	
49-15	31T IV層	III-4	横位 LR 縄文⇒単沈線による2条1単位の横線 文、山形波状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
49-16	31T IV層	III-4	横位 RL 縄文⇒山形波状平行沈線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
49-17	31T IV層	III-4	横位 LR 縄文⇒山形波状平行沈線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
49-18	31T IV層	III-3	横位 LR 縄文⇒平行沈線による下位多条横線文 区画、多条弧状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
49-19	31T IV層	III-5?	横位附加条1種(LR+R)、R捻糸文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
49-20	31T IV層	III-4	口縁肥厚。口縁隆起部横位刺突列。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
49-21	31T IV層	III-4	沈線⇒沈線に沿う爪形文、三角刻み、結節浮線 文による三角形区画内渦巻文。	ミガキ	雲母・金雲母・海綿 状骨針	
49-22	31T IV層	III-4	口縁半円形突起。横位 LR 縄文⇒口縁ナデによる 磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
49-23	31T IV層	III-5	縦位 RL 縄文⇒口縁ナデによる磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
49-24	31T IV層	III-5	横位 LR 縄文⇒口縁ナデによる磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
49-25	31T IV層	IV-1	口縁円形突起。突起部上端三角刻み状刺突。縦 位 LR 縄文。	ナデ	海綿状骨針・石英	

土器観察表

図版 No.	出土遺構・層名	分類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物	備考
49-26	31T IV層	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
49-27	31T IV層	IV-3	ミガキ。口縁下有孔。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
50-1	31T IV層	III-3	口縁鋸歯状貼付文。横位 RL 縄文⇒梯子状貼付文。	ミガキ	海綿状骨針・石英	
50-2	31T IV層	III-3	口縁鋸歯状貼付文。横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
50-3	31T IV層	III-3	口縁鋸歯状貼付文。横位 RL 縄文。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
50-4	31T IV層	III-2	口縁波状貼付文。横位 RL 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
50-5	31T IV層	III-3	口縁上下端刻みによる鋸歯状複合口縁。横位平行沈線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
50-6	31T IV層	III-3	横位 RL 縄文⇒山形貼付文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
50-7	31T IV層	III-3	横位 LR 縄文⇒縦位・横位山形貼付文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
50-8	31T IV層	III-3	横位 LR 縄文⇒横位山形貼付文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
50-9	31T IV層	III-3	横位 LR 縄文⇒単沈線による山形文・幾何学的文様。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
50-10	31T IV層	III-3	横位 LR 縄文⇒2条以上の単沈線による縦位山形文。	ナデ	金雲母	
50-11	31T IV層	III-2	押捺による小波状口縁。横位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・金雲母・繊維(少)	
50-12	31T IV層	III-2	横位結節回転文。	ナデ	雲母・繊維(少)	
50-13	31T IV層	III-2	横位結節回転文。	ナデ	海綿状骨針・金雲母・繊維(少)	
50-14	31T IV層	III-1	口縁上端竹管による刺突。横位 RL 縄文⇒平行沈線による横位・縦位沈線文、縦位山形文、円形竹管文による縦位木葉文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
50-15	31T IV層	III-2	口縁指頭による交互押捺。半截竹管による2個1単位の横位刺突列。	ナデ	海綿状骨針・繊維(少)	
50-16	31T IV層	III-6	変形爪形文、2列の半截竹管による刺突、半截竹管による多条横線文を多段施文。	ミガキ	雲母	
50-17	31T IV層	III-6	半截竹管による多条刺突列、半截竹管による条線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
50-18	31T IV層	III-6	単沈線による条線文。	ナデ	海綿状骨針・金雲母・石英	図50-19と同一。
50-19	31T IV層	III-6	単沈線による条線文。	ナデ	海綿状骨針・金雲母・石英	図50-18と同一。
50-20	31T IV層	III-6	半截竹管による弧状・横線文⇒櫛歯状工具による刺突充填。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
50-21	31T IV層	III-6	変形爪形文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
50-22	31T IV層	III-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母	
50-23	31T IV層	III-5	横位 LRL 縄文。	ナデ	雲母・石英	
50-24	31T IV層	III-5	横位 RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維(少)	
50-25	31T IV層	III-5	横位 RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
50-26	31T IV層	III-5	横位 RL 縄文。	ナデ	雲母	
50-27	31T IV層	III-5	横位 RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
50-28	31T IV層	III-5	横位附加条2種(LR+L)。	ナデ	海綿状骨針・石英	
50-29	31T IV層	III-5	横位附加条2種(RL+L)。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
50-30	31T IV層	III-5	縦位 RL 縄文。	ナデ	雲母	
50-31	31T IV層	III-5	縦位 R 撚糸文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維(少)	
50-32	31T IV層	III-5	横位 LR 縄文⇒胴部下端ナデによる磨消。底部網代痕?	ナデ	雲母・海綿状骨針	
50-33	31T IV層	III-5	ナデ。底部網代痕?	ナデ	雲母・海綿状骨針	
50-34	31T IV層	II	横位 LR 縄文、R 撚糸文。	ナデ	海綿状骨針・石英・繊維	
50-35	31T IV層	II	横位 LR・RL 結束第1種羽状縄文。	ナデ	石英・繊維	
51-1	38T III A 1層	VI	RL 縄文⇒断面三角の隆沈線。	ナデ	雲母・金雲母	
51-2	38T III A 1層	VI-1	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
51-3	38T III C 2~3層	VI-1	波状口縁。カマボコ状の隆沈線による渦巻状文、楕円形区画。区画内に縦長刺突充填。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
51-4	38T III C 2~3層	V-2	波状口縁。口縁カマボコ状の隆沈線。縄文⇒2条の沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
51-5	38T III C 2~3層	VI	縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
51-6	38T III C 2~3層	VI	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
51-7	38T III C 2~3層	VI	RL 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
51-8	38T III C 2~3層	VI-1	ナデ。カマボコ状の隆沈線。	ナデ	雲母・金雲母	
51-9	38T III A 1層	IV-2?	縦位 LR 縄文⇒横位 LR 縄文⇒縦位平行沈線。	ナデ	金雲母	

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
51-10	38T III A 1層	IV-2	縦位・横位 LR 縄文⇒C 字形爪形文付隆線⇒隆線に沿う平行沈線⇒沈線に沿う C 字形爪形文。	ナデ	雲母・石英	図 51-13 と 同一。
51-11	38T III A 1層	IV-2	断面三角の縦位 2 条の微隆起線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
51-12	38T III C 2 ~ 3層	IV-2	複合口縁。胴部上位刻み付瘤状貼付文、貼付文を起点として断面三角の隆線による横区画・縦位クランク状文、隆線に沿う方形区画平行沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
51-13	38T III C 2~3層	IV-2	縦位 LR 縄文⇒半截竹管による沈線⇒沈線に沿う C 字形爪形文。	ナデ	雲母・石英	図 51-10 と 同一。
51-14	38T III C 2~3層	IV-1	頸部刻み付隆線。梯子状短沈線?	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
51-15	38T III C 1層	III-1	横位 LR 縄文⇒平行沈線による弧状または菱形状区画、円形竹管文充填。	ナデ	海綿状骨針・金雲母・石英	
51-16	38T III C 2~3層	III-4?	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
51-17	38T III C 2~3層	III-4	横位 LR 縄文⇒横位・斜位単沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
51-18	38T III C 1層	III-4	横位附加条 1 種 (LR + R)。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
51-19	38T III C 2~3層	IV	浅鉢。ミガキ。底部ナデ。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	補修孔有。
51-20	38T III C 1層	III-5	縦位 LR 縄文。	ナデ	海綿状骨針・金雲母・石英・繊維	
52-1	38T III A ~ D層	VI	LR 縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
52-2	38T III A ~ D層	III-4?	横位 LR 縄文⇒斜位単沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
52-3	38T III A ~ D層	IV-4	口縁下輪積み痕、横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
52-4	38T III A ~ D層	IV-4	口縁上端横位 LR・RL 縄文、縦位 LR・RL 結束第 1 種羽状縄文、下端縄圧痕付隆帯区画。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
52-5	38T III A ~ D層	III-5	横位 RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
52-6	38T III A ~ D層	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
52-7	38T III D 1層	IV-3	ミガキ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
52-8	38T III D 1層	IV-3	ナデ。赤彩。	ミガキ	雲母・金雲母・石英	
52-9	38T III D 1層	III-2	有節沈線による横位多条沈線文。	ナデ	雲母・石英	
52-10	38T III D ~ E層	IV-1	複合口縁。口縁肥厚、縦位短沈線。単沈線による口縁下横位 2 条、縦位 2 条以上、斜位 2 条の方形・三角形区画、区画内単沈線による麻手状文、区画沈線に沿う交互刺突文。	ミガキ	雲母・金雲母	
52-11	38T III D ~ E層	IV-1	単沈線による円形区画、区画内山形文。	ミガキ	雲母・金雲母	
52-12	38T III D ~ E層	IV-4	縦位附加条 1 種 (RL + R)。	ナデ	雲母	
52-13	38T サンプル A5	IV	波状口縁。口縁上端内外面 2 列の刻み。口縁半截竹管による 2 列の刺突列。	ナデ	雲母・海綿状骨針	III A 3 ~ 5層
52-14	38T サンプル A7	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	III A 4・5、D 3層
52-15	38T III A ~ G層	IV	口縁上端刻み。口縁横位結節回転文。口縁下端～頸部へラ状工具による 2 列の刺突列。胴部横位 LR? 縄文⇒結節回転文?	ナデ	雲母・海綿状骨針	
52-16	38T III A ~ G層	III-3	山形波状口縁。横位 RL 縄文⇒単沈線による山形文。	ナデ	雲母	
52-17	38T III G層	IV-1	複合口縁、半円状小突起、突起から垂下する刻み付隆帯、上位 1 条の単沈線区画半截竹管による縦位短沈線、下端三角刻み。胴部縦位結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
52-18	38T III G層	IV-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。底部木葉痕ナデ磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
52-19	38T III G層	III-4	口縁 2 条の単沈線による鋸歯状区画、盲孔。頸部多条横位平行沈線文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
52-20	38T III G層	III-4	2 条以上の単沈線による山形文、沈線に沿う刻み。LR? 縄文。	ミガキ	雲母	
52-21	38T III G層	III-3	口縁鋸歯状貼付文、2 列の刺突列。R 捺糸文⇒単沈線による多条横線文、多条連弧文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母・石英	
52-22	38T III G層	IV-1	複合口縁、縦位短沈線、下端三角刻み。頸部 2 条の刻み付隆帯区画。縦位短沈線⇒斜位及び弧状単沈線⇒単沈線による円形文⇒三角刻み充填。	ミガキ	雲母・金雲母	
53-1	38T III E ~ G層	IV-1	口縁縦位刻み。縦位 RL 縄文⇒上位 2 ~ 3 条の単沈線による横線文、同心円文、弧状文⇒交互刺突。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
53-2	38T III E ~ G層	IV-1	口縁内外面刻み付隆帯による渦巻文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
53-3	38T III E ~ G層	IV-1	波状複合口縁、縦位短沈線、下端三角刻み。縦位結節回転文⇒平行沈線による縦位山形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
53-4	38T III E ~ G層	IV-4	胴部横位 RL 縄文⇒口縁～頸部横位縄圧痕文 (L)。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
53-5	38T III E ~ G層	IV-4	複合口縁。横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
53-6	38T III E ~ G層	IV-4	口縁上端刻み。口縁横位 LR 縄文。胴部縦位 LR 縄文⇒ナデによる磨消。	ミガキ	雲母	
53-7	38T III E ~ G層	IV-1	縦位単沈線による菱形状区画、矢羽状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	

土器観察表

図版 No.	出土遺構・層名	分類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物	備考
53-8	38T III E ~ G 層	IV-1?	頸部縄圧痕文(L)付隆帯区画。口縁単沈線。胴部縦位LR?縄文。	ミガキ	海綿状骨針	
53-9	38T III E ~ G 層	IV-3	複合口縁。ナデ。	ナデ	雲母・金雲母	
53-10	38T III E ~ G 層	IV-3	波状口縁、山形状小突起。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
53-11	38T III E ~ G 層	IV-3	複合口縁。ナデ。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
53-12	38T III E ~ G 層	IV-3	口縁山形状小突起。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
53-13	38T III E ~ G 層	III-5	横位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
53-14	38T III E ~ G 層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
53-15	38T III E ~ G 層	IV-4	横位RL縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
53-16	38T III E ~ G 層	IV-4	縦位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
53-17	38T III E ~ G 層	III-5	横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
53-18	38T III E ~ G 層	III-5	横位LR縄文⇒結節回転文。	ミガキ	雲母・繊維(少)	
53-19	38T III E ~ G 層	III-4	波状口縁、双頭状突起。縄文⇒平行沈線による波状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
53-20	38T III E ~ G 層	III-4	口縁棒状工具による刻み。単沈線による多条横線文。	ミガキ	雲母・石英	
53-21	38T III E ~ G 層	III-5	縦位附加条1種(LR+R)。	ナデ	雲母・石英	
53-22	38T III E ~ G 層	III-4	横位LR縄文⇒平行沈線による横位山形波状文、縦位沈線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
53-23	38T III E ~ G 層	IV-3	ナデ。底部ミガキ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
54-1	38T III G 層	IV-1	複合口縁、縦位短沈線。下端三角刻み。縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
54-2	38T III G 層	IV-1?	波状口縁、口縁双頭状突起。横位LR縄文⇒半截竹管による方形区画多条沈線文、区画内上向きの弧状?文。頸部横位コンパス波状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
54-3	38T III G 層	IV-3	口縁やや肥厚。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
54-4	38T III G 層	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
54-5	38T III G 層	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
54-6	38T III G 層	IV-3	口縁双頭状突起。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
54-7	38T III G 層	IV-4	縦位附加条1種(RL+R)。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
55-1	38T IV a 層	IV-1	口縁3条の縦位刻み付突起。口縁上位単沈線による横線文区画⇒縦位刻み、下位2条の単沈線による横線文区画、区画内3条の単沈線による山形文。縦位LR・RL結束第1種羽状縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
55-2	38T IV a 層	IV-1	縦位半截竹管による細線文⇒上位単沈線による横線文・鋸歯状文・弧状文、刻み付隆沈線、半截竹管による斜位または横線文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	図55-2・3同一。
55-3	38T IV a 層					
55-4	38T IV a 層	IV-4	頸部隆帯区画。縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
55-5	38T IV a 層	IV-1	縦位結節回転文⇒半截竹管による2条の沈線文⇒梯子状短沈線⇒三角刻み。	ナデ	金雲母・石英	
55-6	38T IV a 層	IV-4	複合口縁。縦位RL縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
55-7	38T IV a 層	III-4	山形波状口縁。頸部斜位刻み付隆線区画。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
55-8	38T IV a 層	III-3	複合口縁、上下棒状工具による刻み。縦位RL縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
55-9	38T IV a 層	III-4	波状口縁、上端半截竹管による縦位刻み。横位RL縄文⇒2条の爪形文付隆線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
55-10	38T IV a 層	III-4	複合口縁、単沈線による山形文、沈線に沿うC字形爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
55-11	38T IV a 層	III-4	横位爪形文。頸部隆帯区画、下端三角刻み。	ミガキ	雲母	
55-12	38T IV a 層	III-4	横位LR縄文⇒横位または斜位結節浮線文、横位ソーマン状隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
55-13	38T IV a 層	III-5	山形波状口縁。横位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
55-14	38T IV a 層	III-5	複合口縁。横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
55-15	38T IV a 層	III-5	横位RL縄文⇒口縁磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
55-16	38T IV a 層	III-3	波状口縁。横位LR縄文⇒結節回転文⇒口縁2個1対の刺突列、単沈線による山形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
55-17	38T IV a 層	III-2	口縁指頭押捺による波状。口縁上端LR縄文。2条の有節沈線による縦位または弧状の沈線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
55-18	38T IV a 層	III-2	口縁上端ヘラ状工具による刺突。有節沈線による方形区画文⇒平行沈線による山形文・曲線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母・石英	
55-19	38T IV a 層	III-1	口縁半截竹管による縦位刻み。円形竹管文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
55-20	38T IV a 層	III-2	口縁指頭による交互押捺。横位附加条1種(RL+R)。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
55-21	38T IV a 層	III-2	横位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
55-22	38T IV a 層	III-6	半截竹管による条線文。	ナデ	雲母・石英	

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
55-23	38T IV a層	IV-4	口縁山形状小突起。縦位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
55-24	38T IV a層	IV-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
55-25	38T IV a層	IV-4	縦位結節回転文。	ナデ	雲母	
55-26	38T IV a層	III-5	横位 LR 縄文⇒胴部下端磨消。底部網代痕。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母・石英	
56-1	38T IV a層	III-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・石英	
56-2	38T IV a層	III-5	横位 LR・RL 結束第1種羽状縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
56-3	38T IV a層	III-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
56-4	38T IV a層	III-5	縦位 RL 縄文。	ミガキ	雲母	
56-5	38T IV a層	III-5	縦位 RL 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
56-6	38T IV a層	III-5	無節 L 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
56-7	38T IV a層	III- 1・2	縦位 LR ? 縄文⇒斜位または横位平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 繊維(少)	
56-8	38T IV a層	II	横位 LR・RL 結束第1種羽状縄文。	ナデ	雲母・石英・繊維	
56-9	38T IV a層	II	横位 LR・RL 非結束羽状縄文。	ナデ	海綿状骨針・繊維	
56-10	38T IV a層	I	縄文⇒ヘラ状工具による刺突。	条痕	雲母・海綿状骨針・ 繊維	
57-1	39T 2~4層	VII-2	口縁1条の単沈線。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	
57-2	39T 2~4層	VII?	縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	
57-3	39T 2~4層	VII	RL 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
57-4	39T 2~4層	VI-2	LR 縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	雲母・金雲母	
57-5	39T 2~4層	VII-1	口縁下端隆帯区画。条線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母・石英	
57-6	39T 2~4層	IV-3	複合口縁、口縁上端ヘラ状工具による刻み。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
57-7	39T 2~4層	IV-1	平行沈線による縦位集合沈線文、縦位山形文。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
57-8	39T 5~9層	IV-2	口縁上端押捺。輪積み痕⇒指頭押捺。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
57-9	39T 5~9層	IV-4	縦位 LR ? 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
57-10	39T III-3層	IV-2	三角波状口縁、片側三角状小突起。口縁縦位 LR 縄文⇒断面三角の縄圧痕付隆線による垂下する蛇行状文、下向連弧文⇒隆線に沿う縄圧痕文(L)。胴部縦位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	
57-11	39T III-3層	IV-2	円形突起、片側半円状小突起。平行沈線による同心円文、中心に瘤状貼付文、口縁に沿う平行沈線。	ミガキ	金雲母	
57-12	39T III-3層	IV	2条の単沈線による横線文。三角刻み。	ナデ	金雲母	
57-13	39T III-3層	IV-1	刻み付隆帯による弧状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
57-14	39T III-3層	IV	口縁肥厚、2条以上の縦位単沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
57-15	39T III-3層	IV-2	口縁上端押捺による波状口縁。輪積み痕⇒指頭押捺。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
57-16	39T III-3層	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
57-17	39T III-3層	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
57-18	39T III-3層	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
57-19	39T III-3層	IV-4	口縁2個の山形状小突起。縦位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
57-20	39T III-3層	III-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
57-21	39T III-3層	III-4	縦位 LR 縄文⇒爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
57-22	39T III-3層	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	補修孔有。
57-23	39T III-3層	III-5	横位 RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
57-24	39T III-3層	III-5	横位附加条1種(LR + 1?) ⇒ 下端磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英・繊維(少)	
58-1	43T 2(III-3) 層	IV-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
58-2	39T10層	VI	LR 縄文⇒沈線。	ナデ		
58-3	39T10層	VII-2	LR 縄文⇒沈線、盲孔⇒沈線。	ナデ	雲母・金雲母	
58-4	39T10層	IV-1?	単沈線による上位横線文、山形?文。	ナデ	雲母	
58-5	39T10層	IV-4	口縁上端ヘラ状工具による刻み。縦位 RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
58-6	39T10層	IV-3	口縁上端半截竹管による刺突。頸部瘤状貼付文、半截竹管による1条の横位刺突列。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
58-7	39T10層	III-4	波状口縁、隆帯による縦位、楕円形区画文。区画内および口縁下平行沈線による波状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
58-8	39T10層	III-4	複合口縁、上下棒状工具による刻み。縄文⇒2条の横位単沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	

土器観察表

図版 No.	出土遺構・層名	分類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物	備考
58-9	39T10層	Ⅲ-4	頸部棒状貼付文。口縁ソーメン状隆線による山形文、梯子状文。胴部横位LR縄文、縦位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
58-10	39T10層	Ⅲ-5	縄文⇒口縁横ナデ。	ナデ	雲母	
58-11	39T10層	Ⅲ-3	複合口縁、上下棒状工具による刻み。胴部横位縄圧痕文(R)	ナデ	雲母・海綿状骨針	
58-12	39T10層	Ⅲ-3	横位LR縄文⇒単沈線による多条山形文。	ナデ	海綿状骨針	
58-13	39T10層	Ⅲ-6	口縁上端半截竹管による刺突。口縁2個1単位の横位刺突列。胴部条線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
58-14	39T10層	Ⅲ-6	貝殻腹縁文。	ナデ	雲母・石英	
58-15	39T10層	Ⅳ-4	口縁縄圧痕(RL)による押捺。横位RL縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
58-16	39T10層	Ⅳ-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
58-17	39T10層	Ⅳ-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
58-18	39T10層	Ⅲ-5	横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
58-19	39T10層	Ⅲ-5?	横位RL縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
58-20	39T10層	Ⅲ-5	縦位R撚糸文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
58-21	39T10層	Ⅳ-4	縦位LR縄文、結節回転文。底部ナデ。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
59-1	54TⅢ-3層上面	V-3	弧状平行沈線区画⇒縦位集合沈線文充填。頸部横位単沈線。口縁内面突出。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
59-2	54TⅢ-3層上面	Ⅵ-1	LR縄文⇒カマボコ状の隆沈線による渦巻文。	ミガキ	雲母・金雲母・石英	
59-3	54TⅢ-3層上面	V-2	縦位LR縄文⇒カマボコ状の隆沈線による渦巻文、鋸歯状区画⇒隆線上円形刺突。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針	
59-4	54TⅢ-3層上面	Ⅳ-2	縦位LR縄文⇒縦位4条以上の縄圧痕文(L)。2条以上の単沈線による横線文。	ナデ	金雲母	
59-5	54TⅢ-3層上面	Ⅳ-2?	縦位LR縄文、結節回転文⇒口縁横位3条の縄圧痕文(L)。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
59-6	54TⅢ-3層上面	Ⅳ-2	縦位LR縄文⇒口縁相対する弧状隆帯⇒上端2条の短沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
59-7	54TⅢ-3層上面	Ⅳ-1?	突起形三角波状口縁。突起内面三角刻み、上方及び左右への単沈線。口縁上端刻み。胴部上位に単沈線による上下区画、交互の三角刻み。	ナデ	雲母・金雲母	
59-8	54TⅢ-3層上面	Ⅳ-1	口縁上端刻み。半截竹管による沈線区画交互刺突文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
59-9	54TⅢ-3層上面	Ⅳ-1?	口縁上端刻み。2個1単位の横位刺突列、垂下する3個1単位の刺突列。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
59-10	54TⅢ-3層上面	Ⅳ-1	口縁上位単沈線による沈線区画⇒平行沈線による斜格子状文⇒三角刻み。縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母	
59-11	54TⅢ-3層上面	Ⅳ-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
59-12	54TⅢ-3層上面	Ⅳ-1	縦位LR縄文。頸部逆U字状貼付文、横位平行沈線区画、胴部平行沈線による弧状文⇒沈線に沿う半截竹管による刺突列。単沈線によるY字状文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
59-13	54TⅢ-3層上面	Ⅳ-1	複合口縁、口縁縦位短沈線、下端三角刻み。縦位結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
59-14	54TⅢ-3層上面	Ⅲ-4	双頭状突起。結節回転文⇒縦位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
59-15	54TⅢ-3層上面	Ⅲ-4	複合口縁、上端棒状工具による刺突、下端半截竹管による爪形文。縄文⇒半截竹管による山形波状文。	ミガキ	雲母・石英	
59-16	54T3層	Ⅲ-2	波状口縁。平行沈線による縦位コンパス波状文。横位結節回転文?	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維(少)	
59-17	54T3層	Ⅳ	頸部断面三角の微隆起線、胴部カマボコ状の隆線によるY字状文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
59-18	54T2層	Ⅳ	口縁横位2条の横位有節沈線文。内面1条の単沈線による横線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
59-19	54T2層	Ⅳ	口縁横位2条の横位有節沈線文。内面1条の単沈線による横線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
59-20	54T2層	Ⅳ-3	口縁上端刻み。ミガキ。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
59-21	54T2層	Ⅳ-3	波状口縁。ミガキ。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
59-22	54T2層	Ⅳ-3	複合口縁。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
59-23	54T2層	Ⅳ-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
59-24	54T2層	Ⅳ-4	複合口縁。縦位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母・石英	
59-25	54T2層	Ⅲ-5	横位LR縄文⇒平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英・繊維(少)	
59-26	54T2層	Ⅲ-5	横位LR縄文、結節回転文⇒隆線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・繊維(少)	

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
60-1	54T 8層	IV-3	口縁3段の輪積み痕⇒指頭押捺。ヘラナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
60-2	54T 8層	IV-3	輪積み痕3段以上。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
60-3	54T 8層	IV-4	口縁横位LR縄文。胴部縦位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
60-4	54T 8層	IV-1	口縁平行沈線による横線文、山形波状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
60-5	54T 8層	IV-1	口縁肥厚、内面横位隆帯、上端縦位隆帯。斜位 単沈線⇒梯子状短沈線⇒三角刻み。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
60-6	54T 8層	III-4	横位LR縄文⇒平行沈線による鋸歯状・波状文。	ミガキ	雲母	
60-7	54T 8層	III-4?	縄文⇒平行沈線による多条山形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
60-8	54T 8層	III-4?	縄文⇒平行沈線による多条波状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
60-9	54T 8層	III-4	横位RL縄文⇒爪形文による鋸歯状文。	ミガキ	雲母	
60-10	54T 8層	III-4	横位LR縄文、結節回転文⇒隆沈線。	ナデ	雲母	
60-11	54T 8層	III-6	浅鉢。ミガキ。赤彩。	ミガキ	雲母	
60-12	54T 8層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
60-13	54T 8層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
60-14	54T 8層	III-5	横位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
60-15	54T 8層	III-5	横位附加条1種(LR+R)。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 繊維(少)	
60-16	54T10層	IV-2	複合口縁、斜位縄圧痕文(LR)。縦位RL縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
60-17	54T10層	IV	縦位撚糸文?カマボコ状の隆線による横位区画 Y字状隆線文。	ナデ	雲母・石英	
60-18	54T11層	IV-3	波状口縁、渦巻状隆線による半円状突起。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
60-19	54T11層	IV-3	口縁上端刻み。ナデ	ナデ	雲母・海綿状骨針	
60-20	54T11層	IV-1	単沈線による多条横線文、沈線間及び沈線に沿 う三角刻み。	ナデ	雲母・金雲母	
60-21	54T11層	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
60-22	54T11層	IV-4	縦位RL縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・石英	
60-23	54T11層	III-5	横位RL縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
60-24	54T11層	III-5	横位RL縄文。	ミガキ	雲母	
60-25	54T11層	IV?	底部網代痕⇒ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
60-26	54T12層	IV-3	頸部2個1単位の刺突付横位隆帯。ミガキ。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
60-27	54T12層	III- 1・2	縦位多条平行沈線文。	ナデ	海綿状骨針・金雲母・ 繊維(少)	
60-28	54T14層	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
61-1	54T15層	IV-3	ナデ。頸部輪積み痕。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
61-2	54T15層	IV-3	ナデ。口縁下端輪積み痕。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
61-3	54T15層	III-4	波状口縁。口縁上端刻み。横位RL縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
61-4	54T15層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・金雲母	
61-5	54T15層	III-4	半截竹管による多条横線文、波状文。	ミガキ	雲母	
61-6	54T15層	IV-3	ミガキ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
61-7	54T15層	IV-3?	胴部下端ナデ。底部ミガキ。	ナデ	雲母・石英	
61-8	54T17層	IV-3	口縁上端刻み。頸部半截竹管による1条の刺突 列。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
61-9	54T17層	III-5	横位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
61-10	54T18層	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
61-11	54T18層	III-6	多条平行沈線文、有節沈線文、爪形文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
61-12	54T18層	III-4	複合口縁、下端縦位刻み。単沈線による横線文、 波状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
61-13	54T18層	IV-3	複合口縁、小波状。ナデ。頸部輪積み痕。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
61-14	54T18層	IV-1	口縁下端円形押捺付隆帯区画。縦位細線文⇒単 沈線による多条横線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
61-15	54T18層	IV-4	縦位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
61-16	54T18層	IV-4	縦位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
61-17	54T19層	IV-3	ミガキ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母・石英	
61-18	54T19層	IV-3	複合口縁。口縁上下端半截竹管による刻み。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
61-19	54T19層	IV-4	口縁上下端隆線区画、区画内無文。縦位結節回 転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
61-20	54T19層	IV-4	縦位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	

土器観察表

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
61-21	54T19層	IV-3	ミガキ。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
61-22	54T19層	III-5	横位附加条2種(RL+r)。	ナデ	雲母・石英	
61-23	54T20層	IV-2	縦位・斜位の縄圧痕文(L)⇒三角刻み。	ミガキ	雲母・石英	
61-24	54T20層	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
61-25	54T20層	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
61-26	54T20層	IV-3	輪積み痕3段以上。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
62-1	54T17~20層	IV-4	横位LR縄文、口縁~胴部上位に輪積み痕。	ナデ	雲母・金雲母・海綿 状骨針	
62-2	54T21層	IV-3	ミガキ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
62-3	54T21層	IV-1	波状口縁、波頂部弁状、3個の刻み。胴部上位 単沈線による多条横線文、橋状貼付文、貼付文 から垂下する多条沈線文⇒沈線間に交互刺突、 沈線に沿う半截竹管による刺突列。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	図62-3~5同 一。
62-4	54T21層					
62-5	54T21層					
62-6	54T21層					
62-7	54T21層	IV-4	複合口縁、上端半截竹管による刻み、横位LR 縄文。胴部横位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
62-8	54T21層	IV-3	複合口縁。ナデ。	ナデ	海綿状骨針	
62-9	54T21層	IV-3	口縁上端半截竹管による刻み。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
62-10	54T21層	IV-4	口縁上端半截竹管による刻み。横位LR縄文、 結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
62-11	54T21層	IV-3	波状口縁。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
62-12	54T21層	IV-4	横位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・石英	
62-13	54T21層	IV-4	横位・縦位結節回転文によるT字状文?	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
63-1	54T22層	IV-1	複合口縁、5個の小突起、口縁及び突起上端単 沈線による刻み、横位LR縄文。胴部縦位LR縄 文⇒胴部LR縄文付隆線による方形区画、隆線 に沿う沈線、突起下及び胴部中位LR縄文付橋 状貼付文⇒2条の沈線による上下に相対する弧 状文⇒横位沈線⇒沈線に沿う半截竹管による刺 突列、三角状単沈線区画⇒区画間に三角刻 み。口縁内面1条の隆線。	ミガキ	雲母	
63-2	54T22層	IV-1	口縁上端半截竹管による刻み。口縁下端横位平 行沈線⇒沈線間及び上位に半截竹管による刺突 (刺突による三角状文)。胴部上位単沈線による 山形沈線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
63-3	54T22層	III-5	横位LR縄文⇒胴部下端磨消。底部網代痕。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
63-4	54T22層	IV-2	波状口縁、双頭状波頂部。波頂部から垂下する 縦位波状カマボコ状隆線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
63-5	54T22層	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母・金雲母	
63-6	54T22層	III-4	縦位LR縄文、結節回転文⇒単沈線⇒ソーメン 状隆線文。	ミガキ	雲母・石英	
63-7	54T22層	IV-3	口縁上端半截竹管による刻み。口縁下端横位半 截竹管による刺突列。	ナデ	雲母・石英	
63-8	54T22層	IV	半截竹管による縦位刺突列。	ナデ	雲母・石英	
63-9	54T22層	III-5	横位LR縄文。	ナデ	雲母	
63-10	54T22層	IV-4	複合口縁、上端半截竹管による刻み、横位無節 L縄文。胴部縦位結節回転文、無節L縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
63-11	54T22層	IV-4	縦位・一部横位無節L縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	補修孔有。
63-12	54T22層	IV-3	複合口縁。ナデ。	ナデ	金雲母・石英	
63-13	54T22層	IV-3	ナデ。	ナデ	海綿状骨針・金雲母・ 石英	
63-14	54T22層	IV-3	ナデ。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
63-15	54T22層	IV-3	口縁上端縄圧痕文(L?)による刻み。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
63-16	54T22層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
63-17	54T22層	IV-4	横位附加条1種?、結節回転文	ナデ	雲母・海綿状骨針	
63-18	54T22層	III-5	横位LR?縄文。	ナデ	雲母・石英	
63-19	54T22層	IV-4	横位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母	
63-20	54T22層	III-6	縦位半截竹管による条線文。	ナデ	金雲母・石英	
63-21	54T22層	IV-1	複合口縁、双頭状小突起、縦位短沈線、縦位2 条の刻み付隆線⇒刺突による山形状文⇒隆線に 沿う単沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
63-22	54T22層	IV	隆線、下端三角刻み。	ミガキ	海綿状骨針・石英	
63-23	54T22層	III-5	横位RL縄文。	ミガキ	雲母	
64-1	54T23層	IV-1	波状口縁、口縁に沿う2条の単沈線による三角 状区画、区画内2個の上向弧状文、多条三角状 文。縦位LR縄文⇒頸部2条の単沈線による横 線文区画、波頂部に対応したY字状(多条三角状) の垂下文。	ミガキ	雲母・石英	

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
64-2	54T23層	IV-2?	縦位平行沈線文⇒平行沈線による連弧状文⇒下端一部単沈線による横線文区画。底部ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
64-3	54T23層	IV?	ナデ。底部網代痕。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
64-4	54T23層	IV-1	波状口縁、波頂部弁状、突起上端単沈線による刻み。波頂部から垂下する2条の単沈線及び口縁に沿う単沈線による区画文。区画内単沈線による蕨手状文。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	
64-5	54T23層	III-3	横位LR縄文⇒口縁2条の単沈線による横線文、縦位山形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
64-6	54T23層	IV	口縁横位縄圧痕文(L)、輪積み痕3段以上。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
64-7	54T23層	IV	縦位LR縄文⇒隆線による方形区画⇒隆線に沿う2条の単沈線。	ミガキ	雲母・金雲母	
64-8	54T23層	IV-2	下向き弧状隆線文⇒隆線に沿う2条の縄圧痕文(L)	ナデ	雲母・海綿状骨針	図64-8・9同一。
64-9	54T23層					
64-10	54T23層	III-6	櫛描条線文。	ナデ	雲母・石英	
64-11	54T23層	III-6	櫛描条線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
64-12	54T23層	IV	輪積み痕3段以上。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
64-13	54T23層	IV-4	波状口縁。縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
64-14	54T23層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
64-15	54T23層	IV-4	縦位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
64-16	54T23層	IV-4	縦位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
64-17	54T23層	IV-4	口縁上端刻み、口縁下輪積み痕。縦位LR縄文。	ナデ	金雲母	
64-18	54T23層	IV-4	口縁隆線貼り付けによる小突起、上端半截竹管による刻み。横位RL?縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
64-19	54T23層	IV-4	縦位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
64-20	54T23層	IV-4	横位附加条(?+L)。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
64-21	54T23層	III-5	横位結節回転文。	ナデ	雲母	
64-22	54T23層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母	
64-23	54T23層	IV-4	縦位附加条(?+R)。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
65-1	54T23層	IV-3	複合口縁。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
65-2	54T23層	IV-3	複合口縁。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
65-3	54T23層	IV-3	複合口縁。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
65-4	54T23層	IV-4	縦位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
65-5	54T23層	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
65-6	54T23層	IV-1	波状口縁。弁状?波頂部、上端単沈線による刻み。縦位集合沈線。	ナデ	金雲母・石英	
65-7	54T23層	III-3	縄文⇒単沈線による1条の山形文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
65-8	54T23層	III-4	単沈線による鋸歯状文?	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
65-9	54T23層	III-4	横位LR?縄文⇒上位単沈線による横沈線文区画、1条の山形文、口縁下端刺突列。	ナデ	雲母・石英	
65-10	54T23層	IV-1	複合口縁、口縁下隆帯。口縁及び隆帯上縦位刻み。胴部縦位RL縄文、結節回転文。	ナデ	雲母	
65-11	54T23層上面	IV-2	縦位LR縄文⇒縄圧痕文(L)による方形区画。	ナデ	雲母・石英	
65-12	54T23層上面	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
65-13	54T23層上面	IV-2	縦位LR縄文、縄圧痕文(L)付隆線による頸部横区画、Y字状文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
65-14	54T23層上面	IV-4	横位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
65-15	54T24層	IV-3	口縁上端刻み。ナデ。	ナデ	雲母・金雲母	
65-16	54T24層	IV-2?	縦位縄圧痕文(L)	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
65-17	54T24層	III-1?	横位LR縄文⇒斜位単沈線文。	ミガキ	雲母	
65-18	54T24層	IV-4	横位RL縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
65-19	54T24層	IV-3	口縁下輪積み痕、指頭押捺。ナデ。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
65-20	54T24層	IV-4	縦位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
65-21	54T24層	II	RL縄文⇒頸部隆起部斜位刻み。	ナデ	石英・繊維	
66-1	54T25層	III-6	木目状捺糸文(L)	ミガキ	雲母・金雲母	
66-2	54T25層	III-6	多条平行沈線による入組木葉文。	ナデ	雲母	
66-3	54T25層	IV-1	複合口縁。口縁1条、口縁下端1条、口縁下2条の横位三角刻み。胴部三角刻みによる山形文。	ミガキ	雲母・石英	
66-4	54T25層	IV-1	口縁単沈線による縦位短沈線、口縁下斜位単沈線⇒三角刻み。	ミガキ	金雲母	
66-5	54T25層	III-4	口縁二山以上の突起。横位LR縄文⇒爪形文による上下区画山形文。	ミガキ	雲母・石英	

土器観察表

図版 No.	出土遺構・層名	分類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物	備考
66-6	54T25層	IV-1	複合口縁。単沈線による多条横線文⇒沈線間に斜位刺突、梯子状短沈線?	ナデ	雲母・海綿状骨針	
66-7	54T25層	IV-1?	横位単沈線?刻み付縦位隆帯。	ミガキ	雲母・金雲母	
66-8	54T25層	IV-4	横位 RL 縄文、結節回転文。頸部輪積み痕、横位棒状貼付文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
66-9	54T25層	IV-4	縦位結節回転文。	ナデ	海綿状骨針・金雲母・石英	
66-10	54T25層	IV-4	横位・縦位 LR 縄文を T 字状に施文。	ナデ	雲母・石英	
66-11	54T25層	IV-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
66-12	54T25層	III-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母	
66-13	54T25層	III-5	横位 RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
66-14	54T25層	III-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・繊維(少)	
66-15	54T25層	III-5	横位附加条1種(LR+R)⇒結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
66-16	54T25層	II	結束第1種 LR・RL 羽状縄文。	ナデ	石英・繊維	
66-17	54T25層	IV-4	縦位結束第1種 LR・RL 羽状縄文、結節回転文。底部ナデ。	ミガキ	雲母・金雲母	
66-18	54T25層	IV-3	ナデ。底部ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
66-19	54T25層	IV-1	複合口縁、1条の単沈線による横線文、下端三角刻み⇒縦位棒状(橋状)貼付文。縦位結節回転文⇒2条の単沈線による上向弧状文⇒沈線間に三角刻み。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母・石英	
66-20	54T25層	IV-1	口縁下端半截竹管による刻み付隆帯区画、縦位結束第1種 LR・RL 羽状縄文、結節回転文⇒単沈線による横線文、梯子状短沈線。	ミガキ	海綿状骨針・石英	
66-21	54T25層	IV-3	口縁横位1条の縄圧痕文(L)。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
66-22	54T25層	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
66-23	54T25層	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母・石英	
67-1	54T27層	IV-1	口縁山形突起。口縁上下単沈線による縦位刻み付隆帯及びそれに沿う単沈線による区画⇒区画内単沈線による多条の山形文⇒突起から垂下する刻み付縦位隆帯、下端瘤状貼付文。胴部縦位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
67-2	54T27層	IV-3	口縁渦巻状突起。口縁肥厚。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
67-3	54T27層	IV-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
67-4	54T27層	IV-1	口縁半截竹管による縦位短沈線⇒1条の単沈線による横線文区画。縦位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
67-5	54T27層	IV-4	縦位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
67-6	54T27層	IV-4	縦位 RL 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
67-7	54T27層	-	台付土器。ナデ。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
67-8	54T26層	IV-1	頸部隆帯区画、隆帯上瘤状?貼付文⇒隆帯上下横位爪形文列。胴部縦位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	海綿状骨針・金雲母・石英	
68-1	54T26層	IV-1	口縁2個非対称の瘤状突起、内面渦巻状沈線。口縁沈線⇒梯子状短沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
68-2	54T26層	IV-1	口縁沈線⇒縦位短沈線。単沈線による山形文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
68-3	54T26層	IV-1	口縁横位 LR?縄文⇒半截竹管による横線文。	ナデ	金雲母	
68-4	54T26層	IV-1	縦位 LR 縄文、結節回転文⇒単沈線による三角状文、瘤状貼付文。	ミガキ	雲母	
68-5	54T26層	IV-1	頸部単沈線による縦長刻み付隆帯区画、口縁横位刺突文。	ナデ	金雲母・石英	
68-6	54T26層	IV-3	口縁上端刻み。ナデ。輪積み痕。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
68-7	54T26層	IV-4	横位 LR 縄文、結節回転文。口縁下端輪積み痕。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
68-8	54T26層	IV-4	横位附加条1種(LR?+R)。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
68-9	54T26層	IV-4	縦位結節回転文。	ナデ	金雲母・石英	
68-10	54T26層	IV-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
68-11	54T26層	IV?	縦位単沈線による条線文?底部網代痕。	ナデ	雲母・金雲母	
68-12	54T26層	IV-3	ナデ。底部木葉痕。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
68-13	54T27層	IV-1	口縁双頭状突起。口縁上位単沈線による横区画⇒縦位刻み。口縁下端刻み付隆帯区画⇒単沈線による縦位刻み。刻み付隆線による渦巻状文、隆線に沿う単沈線。口縁内面隆線貼付、上端単沈線による縦位刻み。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
68-14	54T27層	IV-1	口縁上位単沈線による横線文区画、下端刻み付隆帯区画、縦位ノ字状刻み付隆帯。区画内横位・斜位の平行沈線文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	

図版 No.	出土遺構・層名	分類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物	備考
68-15	54T27層	IV-1	口縁非対称のC字状突起。横位・弧状単沈線⇒梯子状短沈線。	ミガキ	雲母	
68-16	54T27層	IV-1	頸部棒状工具による刻み付隆帯区画。口縁半截竹管による斜位(ハ字状)沈線。胴部梯子状短沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
68-17	54T27層	IV-1	多条梯子状短沈線による上位及び斜位区画渦巻文⇒余白に三角刻み(玉付三叉文)。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
68-18	54T27層	IV-1	口縁双頭状突起、縦位短沈線。突起部から垂下する2本1対の単沈線による刻み付隆帯、隆帯間瘤状貼付文⇒口縁・隆帯に沿う2条単位の単沈線文⇒区画内2条単位の単沈線による多条山形文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
68-19	54T27層	IV-1	頸部棒状工具による刻み付隆帯区画。口縁半截竹管による斜位沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
68-20	54T27層	IV-1	横位単沈線、縦位刻み、単沈線による山形文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
68-21	54T27層	IV-1	単沈線による格子状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
68-22	54T27層	IV-1	縦位細線文⇒斜格子状沈線文⇒横位単沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
68-23	54T27層	III-4	単沈線による3条以上の横線文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
68-24	54T27層	IV-1	口縁山形状小突起、口縁上下端縦位刻み付隆帯、突起部から垂下する刻み付隆帯⇒隆帯下端三角刻み。縦位RL縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・石英	
68-25	54T27層	IV-1	縦位刻み付隆帯⇒下端三角刻み。縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母・石英	
68-26	54T27層	IV-3	頸部半截竹管による縦位刻み列、2個1対の瘤状貼付文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
68-27	54T27層	IV-4	頸部縦位刻み付隆帯。縦位結節回転文。	ナデ	雲母・石英	
69-1	54T27層	IV-1	横位単沈線文⇒単沈線による縦位短沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
69-2	54T27層	IV-1	横位単沈線文⇒単沈線による縦位短沈線。	ミガキ	雲母・石英	
69-3	54T27層	IV-1	口縁単沈線による刻み付突起。口縁上位横位沈線⇒口縁単沈線による縦位刻み。頸部瘤状貼付文⇒横位沈線⇒縦位集合平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
69-4	54T27層	IV-1	横区画? 縦位集合平行沈線。	ナデ	雲母	
69-5	54T27層	IV-1	縦位集合平行沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
69-6	54T27層	IV-1	斜位刻み列による矢羽状? 文・縦位刻み列⇒多条横位単沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	図69-6~9同一
69-7	54T27層					
69-8	54T27層					
69-9	54T27層					
69-10	54T27層	IV-1	縦位結節回転文⇒単沈線によるY字状文。	ミガキ	雲母	
69-11	54T27層	IV-1	複合口縁、上端半截竹管による刻み、横位RL縄文。口縁下端半截竹管による刻み付隆帯区画、横位棒状貼付文。区画内3条の横位爪形文。胴部横位RL縄文⇒1条の爪形文による弧状・Y字状文。横位平行沈線⇒梯子状短沈線。	ナデ	雲母・金雲母	
69-12	54T27層	IV-1	口縁半截竹管による横位沈線文⇒半截竹管による梯子状短沈線。口縁下単沈線による横位区画。縦位LR縄文、結節回転文⇒斜位平行沈線文⇒半截竹管による梯子状短沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
69-13	54T27層	III-1	波状口縁。単沈線による上位横線区画山形文・弧状文⇒区画内円形竹管文。	ミガキ	雲母・金雲母	
69-14	54T27層	IV-1	単沈線による横線文・弧状文。沈線に沿う刺突列。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
69-15	54T27層	III-6	単沈線による横線文・斜線文。半截竹管による刺突列。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
69-16	54T27層	IV?	縦位LR縄文、結節回転文。3条の縦位単沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
69-17	54T27層	IV?	縦位単沈線文。	ナデ	雲母・金雲母	
69-18	54T27層	III-4	複合口縁。口縁下1条の横位単沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
69-19	54T27層	III-6?	櫛描条線文。	ナデ	雲母・金雲母	
69-20	54T27層	IV-4?	複合口縁、上端押捺による波状、横位LR縄文。胴部横位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
69-21	54T27層	IV-4	複合口縁、横位LR縄文。横位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母・石英	
69-22	54T27層	IV-1	口縁下端横位単沈線区画⇒単沈線による縦位短沈線。口縁下輪積み痕、輪積み痕上刺突列。縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母・石英	
69-23	54T27層	IV-4	波状口縁、波頂部双頭状。波頂部から垂下する縦位、頸部横位のRL縄文付隆帯。横位RL縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
69-24	54T27層	IV-4	複合口縁、片側挟り入り三角状突起、口縁上端刻み、横位LR縄文。横位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
70-1	54T27層	IV-3	口縁上端刻み?、隆帯貼付による突起。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
70-2	54T27層	IV-4	波状口縁、波頂部内外隆帯貼付による突起。縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	

土器観察表

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
70-3	54T27層	IV-4	口縁小突起、突起上端刻み。縦位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
70-4	54T27層	IV-3	口縁上端刻み、瘤状突起。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
70-5	54T27層	IV-3	口縁上端押捺。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
70-6	54T27層	III-2	口縁交互押捺。横位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
70-7	54T27層	IV-1?	橋状突起。ミガキ、赤彩。	ミガキ	雲母・金雲母	
70-8	54T27層	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
70-9	54T27層	IV-4	横位結節回転文。	ナデ	雲母・石英	
70-10	54T27層	IV-4	横位LR縄文、結節回転文。	ナデ	海綿状骨針	
70-11	54T27層	IV-4	横位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・金雲母	
70-12	54T27層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母・石英	
70-13	54T27層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
70-14	54T27層	IV-4	縦位RL縄文、結節回転文。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
70-15	54T27層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
70-16	54T27層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
70-17	54T27層	IV-4	縦位結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
70-18	54T27層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
70-19	54T27層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
70-20	54T27層	IV-4	縦位RL縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母・石英	
70-21	54T27層	IV-4	縦位RL・LR結束?羽状縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
70-22	54T27層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
70-23	54T27層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・金雲母・石英	
70-24	54T27層	IV-4	縦位結節回転文。	ナデ	雲母・石英	
70-25	54T27層	IV-4	縦位RL縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
70-26	54T27層	IV-4	縦位附加条1種(LR+1?)、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
70-27	54T27層	IV-4	縦位結節回転文。	ナデ	雲母・金雲母	
70-28	54T27層	IV-4	縦位無節L縄文、結節回転文。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母・石英	
70-29	54T27層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
70-30	54T27層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
71-1	54T27層	IV-4	縦位結節回転文。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
71-2	54T27層	IV-4	縦位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
71-3	54T27層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
71-4	54T27層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・金雲母	
71-5	54T27層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
71-6	54T27層	IV-4	縦位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
71-7	54T27層	IV-4	縦位RL縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
71-8	54T27層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
71-9	54T27層	IV-4	縦位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
71-10	54T27層	III-4?	口縁双頭状突起。横位単沈線⇒単沈線による縦位刻み。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
71-11	54T27層	III-4?	口縁双頭状突起。口縁下三角刻み。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
71-12	54T27層	III-5	横位LR縄文⇒口縁ナデによる磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
71-13	54T27層	III-4?	横位平行沈線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
71-14	54T27層	III-6	横位多条爪形文。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
71-15	54T27層	III-4	横位LR縄文⇒爪形文⇒瘤状貼付文。	ミガキ	雲母	
71-16	54T27層	III-5	横位LR縄文⇒下端ナデによる磨消。	ナデ	雲母・金雲母	
71-17	54T27層	III-5	横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
71-18	54T27層	III-5	横位LR縄文。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
71-19	54T27層	III-5	横位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
71-20	54T27層	III-5	横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
71-21	54T27層	III-5	横位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英・繊維(少)	

図版 No.	出土遺構・層名	分類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物	備考
71-22	54T27層	II	LR・RL 結束第1種羽状縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維	
71-23	54T27層	II	無節L縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維	
71-24	54T28層	III-4	肥厚口縁、多条隆線による上向弧状文。頸部斜位単沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
71-25	54T28層	III-4	横位LR縄文⇒多条単沈線⇒沈線に沿う爪形文。横位区画弧状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
71-26	54T28層	III-4	爪形文による山形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
71-27	54T28層	III-4	横位LR縄文⇒斜位爪形文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
71-28	54T28層	III-4	口縁上端円形刺突。横位LR縄文。	ミガキ	雲母・金雲母・石英	
71-29	54T28層	III-4	口縁上端押捺。単沈線。	ナデ	雲母	
71-30	54T28層	III-4	複合口縁。縄文⇒多条横位単沈線。	ミガキ	雲母・石英	
71-31	54T28層	III-5	横位LR縄文⇒口縁ナデによる磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
71-32	54T28層	III-4	口縁2個1対、内面1個の瘤状小突起。口縁上下横位単沈線区画。区画内ソーマン状隆線。	ナデ	雲母・金雲母	
71-33	54T28層	III-4	ソーマン状隆線による上下区画、区画内縦位弧状文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
72-1	54T28層	IV-4	口縁一部上端棒状工具による刻み。横位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
72-2	54T28層	IV-3	複合口縁。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
72-3	54T28層	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
72-4	54T28層	IV-3	複合口縁、口縁上下端刻み。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
72-5	54T28層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
72-6	54T28層	IV-4	横位RL縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
72-7	54T28層	IV-3	ナデ。底部網代痕⇒ナデ。	ナデ	雲母・石英	
72-8	54T28層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
72-9	54T28層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
72-10	54T28層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
72-11	54T28層	IV-3	ナデ。底部網代痕⇒ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
73-1	54T28層	IV-1	波状口縁。波頂部単沈線による刻み。口縁上端横位隆帯、単沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
73-2	54T28層	IV-1	口縁半円状突起、突起上端刻み。刻み付隆帯による弧状文、横位・弧状平行沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
73-3	54T28層	IV-1	口縁3個以上の瘤状小突起、上位2条・下位1条以上の横位単沈線区画⇒単沈線による2条の山形文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
73-4	54T28層	IV-1	口縁瘤状小突起。上位2条・下位1条以上の横位単沈線区画⇒単沈線による4条の山形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
73-5	54T28層	III-4	横位単沈線⇒沈線間に単沈線による縦位短沈線・2条以上の山形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
73-6	54T28層	III-4	横位単沈線⇒沈線間に単沈線による縦位短沈線・1条の下向連弧状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
73-7	54T28層	III-4	横位平行沈線区画、区画内2条の平行沈線による山形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
73-8	54T28層	IV-1	上下平行沈線区画、区画内2条の平行沈線による山形波状文。	ミガキ	雲母・金雲母	
73-9	54T28層	IV-1	半截竹管による縦位細線文⇒横位・斜位・円形単沈線⇒円形区画内斜位短沈線、口縁下三角刻み列、余白に三角刻み。玉付三叉文？	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
73-10	54T28層	III-4	上下横位単沈線区画、区画内横位短沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
73-11	54T28層	III-4	口縁2条の横位単沈線。胴部縦位無節L縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	図73-11・12同一。
73-12	54T28層					
73-13	54T28層	IV-1	波状口縁？口縁縦位多条単沈線⇒渦巻部横位3条の単沈線⇒1条の単沈線による渦巻文⇒斜位多条単沈線⇒口縁上下縦位刻み列⇒頸部押捺付隆帯、横位1条の単沈線⇒三角刻み。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
73-14	54T28層	IV-1	口縁2個以上の瘤状突起。縦位短沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
73-15	54T28層	IV-1	直交する刻み付隆線による円形突起。突起周囲2~3条の単沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
73-16	54T28層	IV-1	縦位LR縄文、結節回転文⇒斜位・山形・弧状平行沈線⇒沈線間に半截竹管による梯子状短沈線一部充填。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
73-17	54T28層	IV-1	口縁上端単沈線による山形文。2条単位の単沈線による横位弧状・波状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
73-18	54T28層	IV-1	口縁上端横位単沈線区画⇒沈線上下単沈線による山形文。2条以上の単沈線による弧状文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	

土器観察表

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
73-19	54T28層	IV-1	口縁山形状小突起、上端縦位短沈線⇒横位多条単沈線文。	ミガキ	雲母・金雲母	
73-20	54T28層	III-6	波状口縁、波頂部上端渦巻状の隆沈線。横位多条平行沈線⇒波頂部2条のV字状平行沈線⇒縦位2条の平行沈線、V字状文内三角刻み。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
73-21	54T28層	IV-1	口縁上端単沈線による刻み付突起、刻み付隆線貼付による楕円形文。口縁上端1条の横位単沈線区画⇒半截竹管による刺突。口縁縦位平行沈線。円形貼付文剥離痕。胴部縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
73-22	54T28層	IV-2	頸部半截竹管による刺突付隆帯区画、隆帯上半截竹管による刺突列。胴部RL縄文、結節回転文⇒隆線・平行沈線（クランク状文・弧状文等）。	ミガキ	雲母・金雲母	
73-23	54T28層	IV-2	平行沈線。縦区画山形文、弧状文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
73-24	54T28層	IV-1	口縁上端横位単沈線区画⇒縦位平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
73-25	54T28層	IV-1	口縁上端横位単沈線区画⇒縦位平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
73-26	54T28層	IV	口縁山形状小突起。縦位刻み列3列以上。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
73-27	54T28層	III-6	平行沈線、3条1単位の有節沈線を交互に施文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
73-28	54T28層	IV-3	口縁双頭状小突起。口縁上端刻み。ナデ。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
73-29	54T28層	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
73-30	54T28層	IV-3	口縁双頭状小突起。頸部押捺付隆帯区画。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
73-31	54T28層	IV-4	口縁瘤状？突起。縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
74-1	54T28層	III-4	複合口縁、縄圧痕文。横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
74-2	54T28層	IV-4	複合口縁。横位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
74-3	54T28層	IV	口縁単沈線区画、斜位刻み？縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
74-4	54T28層	IV	口縁横位平行沈線。頸部単沈線による縦位刻み付隆帯。縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
74-5	54T28層	IV	縦位RL縄文、結節回転文。3条以上の縦位単沈線。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
74-6	54T28層	IV	縦位LR・RL結束第1種羽状縄文、結節回転文。2条の横位単沈線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
74-7	54T28層	IV-4	横位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
74-8	54T28層	IV-4	横位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
74-9	54T28層	IV-4	横位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
74-10	54T28層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
74-11	54T28層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
74-12	54T28層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
74-13	54T28層	IV-4	縦位RL？縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母・石英	
74-14	54T28層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
74-15	54T28層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
74-16	54T28層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
74-17	54T28層	IV-4	縦位LR・RL結束第1種羽状縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
74-18	54T28層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
74-19	54T28層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
74-20	54T28層	IV-4	縦位LR・RL？結束第1種羽状縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
74-21	54T28層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
74-22	54T28層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
74-23	54T28層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
74-24	54T28層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・石英	
74-25	54T28層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
74-26	54T28層	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
74-27	54T28層	IV-4	縦位LR・RL結束第1種羽状縄文、結節回転文。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	
74-28	54T28層	IV-4	縦位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
75-1	54T28層	IV-4	縦位 RL 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・金雲母	
75-2	54T28層	IV-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
75-3	54T28層	IV-4	縦位 LR・RL 結束第1種羽状縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・金雲母	
75-4	54T28層	IV-4	縦位附加条1種 (LR + R?)、結節回転文。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
75-5	54T28層	IV-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
75-6	54T28層	IV-4	縦位 LR ループ縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母	
75-7	54T28層	IV-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
75-8	54T28層	IV-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・石英	
75-9	54T28層	IV-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
75-10	54T28層	IV-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
75-11	54T28層	IV-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母	
75-12	54T28層	III-5	横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
75-13	54T28層	III-5	縦位 RL 縄文。	ナデ	雲母・石英	
75-14	54T28層	III-5	横位 RL 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
75-15	54T28層	III-5	縦位 RL・LR 結束第2種羽状縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
75-16	54T28層	III-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
75-17	54T28層	III-5	横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
75-18	54T28層	III-5	横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
75-19	54T28層	III-5	縦位 RL 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
75-20	54T28層	III-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
75-21	54T28層	III-5	横位附加条1種 (LR + R)、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
75-22	54T28層	III-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
75-23	54T28層	III-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
75-24	54T28層	III-5	縦位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
75-25	54T28層	III-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
75-26	54T28層	III-5	横位附加条1種?	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
75-27	54T28層	III-5	横位 L 捺糸文。	ナデ	雲母・石英	
75-28	54T28層	III-5	縦位 L 捺糸文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
75-29	54T28層	III-5	縦位附加条2種 (RL + L)。	ナデ	海綿状骨針・石英	
75-30	54T28層	III-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
75-31	54T28層	III-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
75-32	54T28層	III-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
75-33	54T28層	III-6	横位条線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
75-34	54T28層	II	横位 RL 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 繊維	
75-35	54T28層	II	横位 LR 縄文。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母・ 繊維	
75-36	54T28層	II	横位 LR・RL 結束第1種羽状縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 繊維	
75-37	54T28層	III-3	縄文⇒半截竹管による山形文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
75-38	54T28層	III-1	単沈線による鋸歯状文、余白に円形竹管文充填。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
76-1	54T30層	III-4	口縁上端単沈線による刻み。口縁上下1条の横位爪形文区画縦位多条爪形文。胴部上半上位2条・下位1条の横位爪形文区画、多条の縦位爪形文で分割し、弧状・同心円状・山形に施文。横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
76-2	54T30層	III-4	口縁ソーメン状・帯状貼付文による楕円形区画。区画内ソーメン状貼付文による菱形状、矢羽状、円形区画内格子状文。胴部縦位 LR・RL 結束第1種羽状縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
76-3	54T30層	III-4	口縁逆U字状隆帯、爪形文付I字状隆帯。単沈線による方形区画⇒沈線に沿う爪形文。頸部1条の横位爪形文。胴部横位 LR 縄文。	ミガキ	海綿状骨針	
76-4	54T30層	III-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
77-1	54T30層	III-5	口縁三山状小突起。横位 LR 縄文⇒胴部下端磨消。底部ナデ。	ミガキ	海綿状骨針	
77-2	54T30層	III-5	横位・縦位 LR 縄文⇒胴部下端磨消。底部ナデ。	ナデ	雲母・石英	
77-3	54T30層	III-5	横位 LR 縄文⇒胴部下端磨消。底部木葉痕。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
77-4	54T30層	III・IV?	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
78-1	54T30層	IV-2	波状口縁。カマボコ状の隆線による下向連弧状文? 隆線に沿う交互刺突文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	

土器観察表

図版 No.	出土遺構・層名	分類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物	備考
78-2	54T30層	IV-2	縄圧痕文(L)によるT字状?文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
78-3	54T30層	IV-1?	縦位附加条1種(RL+L)⇒縦位半截竹管による刺突列。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
78-4	54T30層	IV-1	頸部横位平行沈線⇒縦位平行沈線⇒口縁横位平行沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
78-5	54T30層	IV-1	2条の横位単沈線⇒縦位多条単沈線⇒斜位単沈線。	ミガキ	雲母・金雲母	
78-6	54T30層	IV-1	口縁縦位隆帯貼付。口縁上下1条の横位単沈線区画、区画内単沈線による山形文。頸部1条の単沈線区画、区画内円形竹管文。縦位LR・RL結束第1種羽状縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・石英・金雲母	図78-6・7同一。
78-7	54T30層					
78-8	54T30層	IV-1	上下横位単沈線区画、区画内単沈線による山形文⇒上位区画上刺突。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
78-9	54T30層	IV-1	複合口縁。口縁上端単沈線による刻み。口縁縦位短沈線。ナデ	ナデ	雲母	
78-10	54T30層	IV-1	単沈線による斜格子状文⇒口縁横位単沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
78-11	54T30層	IV-1	単沈線による斜格子状文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
78-12	54T30層	IV-1	斜位の細線文⇒口縁上下横位単沈線、単沈線による蕨手状文⇒単沈線による山形文⇒蕨手状文、中央刺突。頸部上刻み付貼付文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
78-13	54T30層	IV-1	半截竹管による縦位平行沈線⇒1条の単沈線による鋸歯状?文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
78-14	54T30層	III-4	複合口縁、口縁下端三角刻み。横位1条の爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
78-15	54T30層	III-4	複合口縁、口縁下端三角刻み。横位LR縄文。	ナデ	金雲母	
78-16	54T30層	III-4	肥厚口縁、口縁下端三角刻み。横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
78-17	54T30層	III-4	複合口縁、口縁下端斜位刻み。縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
78-18	54T30層	III-4	口縁下端半截竹管による刻み。頸部横位平行沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
78-19	54T30層	III-4	複合口縁、口縁下端三角刻み、山形状小突起。縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
78-20	54T30層	III-4	複合口縁、口縁下端半截竹管による刻み。頸部横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
78-21	54T30層	III-4	波状口縁、波頂部双頭状、口縁下端単沈線による刻み。斜位平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
78-22	54T30層	III-4	刻み付円形貼付文。横位単沈線⇒沈線に沿う刻み。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
78-23	54T30層	III-4?	口縁縦位隆帯。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
78-24	54T30層	III-4	山形状小突起?ハ字状貼付文?	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
78-25	54T30層	III-4	肥厚口縁。口縁上端縦位刻み。多条斜位単沈線、口縁下横位単沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
78-26	54T30層	III-4	複合口縁、縦位単沈線。頸部横位平行沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
78-27	54T30層	III-4	口縁上端3個以上の縦位隆帯。単沈線による山形文、横線文。余白に三角刻み。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
78-28	54T30層	III-4	2条の単沈線による山形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
78-29	54T30層	III-4	肥厚口縁。口縁下端2条の横位単沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
78-30	54T30層	III-4	肥厚口縁。頸部斜位刻み付隆帯。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
78-31	54T30層	III-4	頸部刻み付隆帯。口縁三角刻み?横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
78-32	54T30層	III-4	2条以上の横位爪形文、下端三角刻み付隆帯。横位RL?縄文⇒3条の横位単沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
78-33	54T30層	III-4	平行沈線、斜位刻み付隆帯。横位LR?縄文⇒横位爪形文。	ナデ	雲母	
79-1	54T30層	III-4	口縁3条の横位爪形文。胴部横位LR縄文⇒上下2条の横位爪形文区画⇒多条爪形文による山形・鋸歯状・弧状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
79-2	54T30層	III-4	複合口縁。2条以上の横位爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
79-3	54T30層	III-4	横位単沈線区画多条波状文⇒沈線に沿う半截竹管による刺突。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
79-4	54T30層	III-4	波状口縁。横位多条単沈線⇒沈線に沿う刺突。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
79-5	54T30層	III-4	横位多条単沈線⇒沈線に沿う刺突。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
79-6	54T30層	III-4	弧状の結節浮線文・単沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
79-7	54T30層	III-4	口縁下端2条以上の爪形文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
79-8	54T30層	III-4	口縁上端半截竹管による刺突。2条の斜位爪形文、半截竹管による斜位刺突列。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
79-9	54T30層	III-4	口縁縦位爪形文。頸部2条以上の横位爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
79-10	54T30層	III-4	横位LR縄文⇒横位爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
79-11	54T30層	III-4	横位LR縄文⇒多条爪形文による斜位・縦位山形文、瘤状貼付文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
79-12	54T30層	III-4	横位LR縄文⇒多条爪形文による横位区画山形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
79-13	54T30層	Ⅲ-4	横位LR縄文⇒結節浮線文による下端横位区画鋸歯状?文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
79-14	54T30層	Ⅲ-4	横位LR縄文⇒結節浮線文による横位区画弧状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
79-15	54T30層	Ⅲ-4?	横位LR縄文、結節回転文⇒平行沈線文。	ミガキ	雲母	
79-16	54T30層	Ⅲ-4?	横位LR縄文⇒平行沈線文。	ミガキ	海綿状骨針・石英	
79-17	54T30層	Ⅲ-4	横位LR縄文⇒横位多条平行沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
79-18	54T30層	Ⅲ-4	横位多条平行沈線による波状文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
79-19	54T30層	Ⅲ-4	単沈線による横線文、山形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
79-20	54T30層	Ⅲ-4	2条の単沈線による上向連弧状文、横線文。多条単沈線による山形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
79-21	54T30層	Ⅲ-5	波状口縁。横位RL縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
79-22	54T30層	Ⅲ-5	波状口縁、波頂部口縁上端単沈線による刻み(双頭状突起)。横位LR縄文⇒口縁磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
79-23	54T30層	Ⅲ-5	波頂部双頭?状の波状口縁。横位LR縄文。	ミガキ	雲母	
79-24	54T30層	Ⅲ-5	横位RL縄文⇒口縁磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
79-25	54T30層	Ⅲ-5	横位RL縄文⇒口縁磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
79-26	54T30層	Ⅲ-5	口縁輪積み痕。横位・縦位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母・石英	
79-27	54T30層	Ⅲ-5	横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
79-28	54T30層	Ⅳ-4	口縁内面輪積み痕。縦位LR縄文⇒口縁磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
79-29	54T30層	Ⅲ-5	横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
79-30	54T30層	Ⅳ-4	縦位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
79-31	54T30層	Ⅳ-4	口縁上端単沈線による斜位刻み。縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
79-32	54T30層	Ⅳ-4	口縁渦巻状隆帯、縦位刻み付隆帯、口縁上端刻み。縦位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
80-1	54T30層	Ⅲ-5	横位LR縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
80-2	54T30層	Ⅲ-5	横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
80-3	54T30層	Ⅲ-4?	横位単沈線、横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
80-4	54T30層	Ⅲ-5	横位RL縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
80-5	54T30層	Ⅲ-5	横位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
80-6	54T30層	Ⅲ-5	横位附加条1種(LR+R)。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
80-7	54T30層	Ⅲ-5	横位RL縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
80-8	54T30層	Ⅲ-5	横位RL縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
80-9	54T30層	Ⅲ-5	横位RL縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維(少)	
80-10	54T30層	Ⅲ-5	横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
80-11	54T30層	Ⅲ-5	横位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
80-12	54T30層	Ⅲ-5	横位LR縄文。	ナデ	金雲母・石英	
80-13	54T30層	Ⅲ-5	横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
80-14	54T30層	Ⅲ-5	横位LR縄文。	-	雲母・海綿状骨針・石英	
80-15	54T30層	Ⅲ-5	横位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
80-16	54T30層	Ⅲ-5	横位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
80-17	54T30層	Ⅲ-5	横位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
80-18	54T30層	Ⅲ-5	横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
80-19	54T30層	Ⅲ-5	横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
80-20	54T30層	Ⅲ-5	横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
80-21	54T30層	Ⅲ-5	横位LR縄文。	ナデ	雲母・石英	
80-22	54T30層	Ⅲ-5	横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
80-23	54T30層	Ⅲ-5	横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
80-24	54T30層	Ⅲ-5	横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
80-25	54T30層	Ⅲ-5	横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
80-26	54T30層	Ⅲ-5	横位無節R縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
80-27	54T30層	Ⅲ-5	縦位LR縄文。	ナデ	雲母・石英	
80-28	54T30層	Ⅲ-5	縦位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
80-29	54T30層	Ⅲ-5	縦位RL縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
80-30	54T30層	Ⅲ-5	縦位LR・RL結束第2種羽状縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
80-31	54T30層	Ⅲ-5	縦位RL縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	

土器観察表

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
80-32	54T30層	Ⅲ-5	RL 縄文を不規則施文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
80-33	54T30層	Ⅲ-5	L 燃糸文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英・繊維(少)	
81-1	54T30層	Ⅲ-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
81-2	54T30層	Ⅲ-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
81-3	54T30層	Ⅲ-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
81-4	54T30層	Ⅲ-4	横位 LR 縄文、結節回転文⇒横位単沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
81-5	54T30層	Ⅲ-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
81-6	54T30層	Ⅲ-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
81-7	54T30層	Ⅲ-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
81-8	54T30層	Ⅲ-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
81-9	54T30層	Ⅲ-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
81-10	54T30層	Ⅲ-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
81-11	54T30層	Ⅳ-4	縦位 LR・RL 結束第1種羽状縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
81-12	54T30層	Ⅳ-4	縦位 LR・RL 結束第1種羽状縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
81-13	54T30層	Ⅳ-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母	
81-14	54T30層	Ⅳ-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
81-15	54T30層	Ⅳ-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
81-16	54T30層	Ⅳ-4	縦位結節回転文。	ミガキ	雲母	
81-17	54T30層	Ⅳ-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
81-18	54T30層	Ⅳ-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	補修孔有。
81-19	54T30層	Ⅳ-4	縦位 RL 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
81-20	54T30層	Ⅳ-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
81-21	54T30層	Ⅳ-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
81-22	54T30層	Ⅳ-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
81-23	54T30層	Ⅳ-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
81-24	54T30層	Ⅲ-5	横位 RL ? 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
81-25	54T30層	Ⅲ-5	横位 LR・RL 非結束羽状縄文⇒胴部下端磨消。	ナデ	海綿状骨針	
81-26	54T30層	Ⅲ-5	横位 LR 縄文⇒胴部下端磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
81-27	54T30層	Ⅲ-5	横位 LR 縄文⇒胴部下端磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
81-28	54T30層	Ⅲ-5	横位 LR 縄文、結節回転文⇒胴部下端磨消。底部網代痕。	ナデ	雲母	
81-29	54T30層	Ⅲ-5	縦位 RL 縄文⇒胴部下端磨消。底部木葉痕?	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
81-30	54T30層	Ⅲ-5	横位 RL 縄文、結節回転文⇒胴部下端磨消。底部木葉痕。		雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
81-31	54T30層	Ⅳ-3	ナデ。底部網代痕。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
81-32	54T30層	Ⅳ-3	ナデ。底部網代痕。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
81-33	54T30層	Ⅳ-3	ナデ。底部網代痕。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
81-34	54T30層	Ⅳ-3	ナデ。頸部ナデによる横位微隆起線。	ナデ	雲母	
81-35	54T30層	Ⅳ-3	口縁上端押捺による波状線。頸部輪積み痕。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
81-36	54T30層	Ⅳ-3	ナデ。	ナデ	雲母・石英	
82-1	54T30層	Ⅲ-2	口縁波状貼付文。結節回転文?	ナデ	雲母	
82-2	54T30層	Ⅲ-2	口縁指頭による交互押捺。横位 LR 縄文。	ナデ	雲母	
82-3	54T30層	Ⅲ-6	口縁縦位刻み(条線)。横位変形爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
82-4	54T30層	Ⅲ-6	口縁縦位刻み(条線)。半截竹管による2条の横位刺突列、横位変形爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
82-5	54T30層	Ⅲ-6	波状貝殻腹縁文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
82-6	54T30層	Ⅲ-6	横位条線文。	ナデ	雲母・石英	
82-7	54T30層	Ⅲ-6	櫛歯状工具による連続刺突文、半截竹管による条線文。	ナデ	雲母・石英	
82-8	54T30層	Ⅱ	LR・RL 非結束羽状縄文。	ナデ	雲母・繊維	
82-9	54T30層	Ⅲ-5	LR 縄文を不規則に施文。	ミガキ	雲母	
82-10	54T30層	Ⅲ-5	横位 RL 縄文。	ミガキ	雲母	
82-11	54T30層	Ⅲ-5	横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・石英	
82-12	54T29層	Ⅲ-6	上位から1条の横位平行沈線、斜位多重平行沈線、3条の横位平行沈線、斜位平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
82-13	54T29層	Ⅲ-5	横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
82-14	54T30層上面	Ⅳ-2	口縁押捺による波状線。輪積み痕⇒指頭押捺。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
82-15	54T30層上面	Ⅳ-3	浅鉢。口縁弁状突起、突起上端縦位刻み。ミガキ。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
82-16	54T30層上面	Ⅳ-3	ナデ。底部網代痕⇒磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針	

図版 No.	出土遺構・層名	分類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物	備考
82-17	54T30 層上面	IV-2	縦位 LR 縄文⇒縄圧痕付断面三角の隆線（口縁縦位 2 条、頸部横位 1 条、交点に円形、縦位 1 条のクランク状文貼付）。口縁内面輪積み痕。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	図 82-17・18 同一。
82-18						
82-19	54T30 層上面	IV-3	口縁押捺による波状縁。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
82-20	54T30 層上面	III-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
82-21	54T30 層上面	IV-4	縦位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母・石英	
82-22	54T30 層上面	III-5	LR 縄文を不規則に施文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
82-23	54T30 層上面	IV-4	縦位 RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母・石英	
83-1	54T31 a~c 層	III-4	波状口縁。口縁に沿う結節浮線文。	ミガキ	雲母・金雲母	
83-2	54T31 a~c 層	III-4	肥厚口縁、単沈線による 2 条以上の縦位単沈線、多条単沈線による山形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
83-3	54T31 a~c 層	III-3	半截竹管による山形状文。	ナデ	雲母	
83-4	54T31 a~c 層	III-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
83-5	54T31 a~c 層	III-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
83-6	54T31 a~c 層	III-5	横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
83-7	54T31 a~c 層	III-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母	
83-8	54T31 a~c 層	III-5	横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
83-9	54T31 a~c 層	III-5	横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
83-10	54T31 a~c 層	III-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
83-11	54T31 a~c 層	III-5	縦位 RL 縄文。	ナデ	雲母	
83-12	54T31 a~c 層	III-5	縦位 RL 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
83-13	54T31 a~c 層	III-5	異節斜縄文？	ナデ	雲母	
83-14	54T31 a~c 層	III-2?	横位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維（少）	
83-15	54T31 a~c 層	I	多重平行沈線による鋸歯状文。	ナデ	海綿状骨針・繊維	
83-16	54T31 a~c 層	II	口縁上端 LR 縄文。LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英・繊維	
83-17	54T31 a~c 層	II	口縁上端押捺。LR・RL 非結束羽状縄文。	ナデ	海綿状骨針・繊維	
83-18	54T31 a~c 層	II	LR・RL 非結束羽状縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維	
83-19	54T31 a~c 層	II	LR・RL 非結束羽状縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維	
83-20	54T31 a~c 層	II	LR・RL 非結束羽状縄文。	ナデ	海綿状骨針・繊維	
83-21	54T31 a~c 層	II	LR・RL 結束第 2 種羽状縄文。	ナデ	雲母・繊維	
83-22	54T31 a~c 層	II	LR・RL 結束第 1 種羽状縄文。	ナデ	海綿状骨針・繊維	
83-23	54T31 a~c 層	II	RL 縄文。	ナデ	海綿状骨針・繊維	
83-24	54T31 a~c 層	II	RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維	
83-25	54T31 a~c 層	II	RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維	
83-26	54T31 a~c 層	II	附加条 1 種 (RL+1)	ナデ	雲母・繊維	
83-27	54T31 d~e 層	II	口縁上端刻み。頸部有段部半截竹管による縦位刺突。LRL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維	
83-28	54T31 d~e 層	I	多重平行沈線による鋸歯状文。頸部有段部半截竹管による斜位刺突。LR 縄文。	ナデ	雲母・繊維	
83-29	54T31 d~e 層	II	LR・RL 非結束羽状縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維	図 83-29・30 同一。
83-30						
83-31	54T31 d~e 層	II	LR・RL 非結束羽状縄文。	ナデ	海綿状骨針・石英・繊維	
83-32	54T31 d~e 層	II	LR・RL 非結束羽状縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維	
83-33	54T31 d~e 層	II	LR・RL 結束第 1 種羽状縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英・繊維	
83-34	54T31 d~e 層	II	附加条 1 種 (RL+L)。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維	
83-35	54 T 32 層	I	R 撚糸文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維	
83-36	54 T 31 層	III-5	縦位 RL 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
83-37	54 T 31 層	I	口縁上端斜位刻み。条痕⇒多重平行沈線による鋸歯状、頸部半截竹管による刺突、胴部斜位平行沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・繊維	
83-38	54 T 31 層	I	多重平行沈線による鋸歯状文⇒円形竹管文。LR 縄文。	ナデ	雲母・繊維	
83-39	54 T 31 層	II	LR・RL 非結束羽状縄文。	ナデ	海綿状骨針・繊維	

土器観察表

図版 No.	出土遺構・層名	分類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物	備考
84-1	53T 東Ⅲ-3層	Ⅲ-2?	横位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
84-2	53T 東Ⅲ-3層	Ⅲ-2?	横位 RL 縄文。底部木葉痕。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
84-3	53T 東Ⅲ-3層	Ⅲ-2	口縁指頭による交互押捺。横位 LR 縄文⇒縄圧痕 (LR) による山形文、3条の横位爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
84-4	53T 東Ⅲ-3層	Ⅲ-2	口縁上端刻み。横位 RL 縄文。	ナデ	雲母	
84-5	53T 東Ⅲ-3層	Ⅲ-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
84-6	53T 東Ⅲ-3層	Ⅲ-6	斜位条線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
84-7	53T 東Ⅲ-3層	Ⅲ-5	横位 LL 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・石英	
84-8	53T 東Ⅲ-3層	I	口縁縦位刻み、頸部隆帯刺突、単沈線による鋸歯状文。			
84-9	53T 東Ⅲ-3層	Ⅲ-1	横位 RL 縄文⇒半截竹管による縦位連結木葉状文、横線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	図 84-9 ~ 13 同一。
84-10	53T 東Ⅲ-3層					
84-11	53T 東Ⅲ-3層					
84-12	53T 東Ⅲ-3層					
84-13	53T 東Ⅲ-3層					
85-1	63T 1層上面	Ⅶ-2	口縁沈線区画。LR 縄文⇒沈線⇒盲孔。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
85-2	63T 1層上面	Ⅶ-2	口縁1条の沈線。	ミガキ	雲母・石英	
85-3	63T 1層上面	Ⅵ-2	RL 縄文⇒断面三角の隆線⇒刺突充填。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
85-4	63T 1層上面	Ⅵ-1	カマボコ状の隆沈線⇒円形刺突充填。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
85-5	63T 1層上面	V-2	波状口縁。RL 縄文⇒カマボコ状の隆沈線による渦巻状曲線文。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	
85-6	63T 1層上面	Ⅵ	ミガキ。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
85-7	63T 1層上面	V-3	上位区画渦巻状隆沈線。	ミガキ	金雲母	
85-8	63T 1層上面	V-2	RL 縄文を不規則施文⇒口縁上端隆帯貼付、2条のカマボコ状隆線、頸部3条の横位単沈線。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
85-9	63T 1層上面	V-1	S字状貼付文付突起、ソーマン状隆線。	-	雲母・金雲母・石英	
85-10	63T 1 a層	Ⅳ-3	口縁横位縄圧痕文 (LR)。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
85-11	63T 1 a層	Ⅳ-2	複合口縁、縦位2本以上隆帯貼付、山形状小突起。断面三角の波状隆線文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
85-12	63T 1 a層	V-3	三角状に突出する突起、隆沈線による渦巻文。口縁下端沈線区画、区画内縦位刻み。	ミガキ	海綿状骨針・石英	
85-13	63T 1 a層	Ⅳ-2	斜位・渦巻状単沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
85-14	63T 1 a層	Ⅳ-2?	縦位 LR 縄文。単沈線による下位横線区画小波状文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
85-15	63T 1 a層	Ⅳ-3	複合口縁。ナデ。	ナデ	雲母・金雲母	
85-16	63T 1 a層	Ⅳ-2	輪積み痕⇒指頭押捺。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
86-1	63T 2層	V-1	口縁隆線による渦巻状突起、下端押捺付隆線区画。区画内横位爪形文1条、半截竹管による刺突列1状。縦位 LR 縄文。	ミガキ	海綿状骨針・石英	
86-2	63T 2層	V-1	縦位 LR 縄文⇒横位2条の単沈線、半截竹管による刺突列、3条の単沈線によるクランク状文、渦巻状文。	ミガキ	雲母・石英	
86-3	63T 2層	Ⅲ-4	波状肥厚口縁、縄圧痕文 (LR) による多条山形状 (弧状) 文。頸部縄圧痕 (LR) による横位区画斜位直線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
86-4	63T 2層	Ⅳ	口縁1条の横位有節沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
86-5	63T 2層	Ⅳ	口縁2条の横位単沈線、沈線間交互刺突文。縦位 LR 縄文。	ナデ	海綿状骨針・石英	
86-6	63T 2層	Ⅳ-4	複合口縁、横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
86-7	63T 2層	Ⅳ-3	頸部輪積み痕。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
86-8	63T 2層	Ⅳ-3	口縁上端半截竹管による刻み。ナデ。	ナデ	海綿状骨針・石英	
86-9	63T 2層	Ⅳ?	弧状平行沈線⇒縦位 LR 縄文。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	
86-10	63T 3層上面	Ⅳ-2	口縁内面渦巻状突起。口縁下端断面三角の隆線区画、隆線下端押捺、区画内半截竹管による刺突列。縦位多条沈線⇒2条以上の単沈線による山形波状文。	ミガキ	金雲母	
86-11	63T 3層上面	V-1	縦位 RL 縄文⇒多条平行沈線による渦巻状文。	ナデ	雲母・石英	
86-12	63T 3層上面	Ⅳ-4	口縁上端刻み。口縁下端輪積み痕。横位 RL 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
86-13	63T 3層上面	V-1	口縁下端隆帯貼付、カマボコ状の隆線による楕円形区画、区画内半截竹管による刺突列。縦位 LR 縄文⇒多条単沈線によるクランク状文、弧状文、波状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
86-14	63T 5層上面	Ⅲ-5	口縁山形状小突起。横位 LR 縄文。	ミガキ	海綿状骨針・石英	
86-15	63T 5層上面	Ⅳ-2	口縁渦巻状突起、下端押捺付隆線区画。区画内縦位縄圧痕文 (L)。縦位 LR 縄文⇒多条の横位・縦位単沈線⇒沈線間交互刺突。	ミガキ	金雲母	
86-16	63T 5層上面	Ⅳ-3	口縁3段の輪積み痕。ナデ。	ナデ	海綿状骨針	

図版 No.	出土遺構・層名	分類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物	備考
86-17	63T 5層上面	IV-4	口縁下端半截竹管による刻み。縦位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
86-18	63T 5層上面	IV-4	口縁輪積み痕。縦位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
86-19	63T 5層上面	IV-2	縦位断面三角の隆線、隆線に沿う3条の単沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
87-1	63T 1層上面	IV-3	複合口縁、口縁下端押捺。ナデ。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
87-2	63T 1層上面	V-2	縦位L? 燃糸文⇒2条単位の縦位直線文、波状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
87-3	63T 1a層	IV-3	口縁横位縄圧痕文(LR)。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
87-4	63T 3層上面	IV-2	縦位LR縄文⇒口縁横位縄圧痕文(L)、上位先端蕨手状の縦位縄圧痕文(L)。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
87-5	63T 3層上面	IV-2	縦位LR縄文⇒カマボコ状の縦位隆線⇒単沈線による隆線に沿う直線文、横位の先端蕨手状文。	ナデ	雲母・金雲母	
88-1	67T III層上面	VIII-1	2条の横位刻み付隆帯。RL縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
88-2	67T III層上面	VII-2	多条沈線による渦巻状文⇒縦位隆帯⇒隆帯下端盲孔⇒横位沈線。	ナデ	海綿状骨針	
88-3	67T III層上面	VII?	RL縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
88-4	67T III層上面	VII?	LR縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
88-5	67T III層上面	VI-2	RL縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母	
88-6	67T III層上面	VI-2	LR縄文⇒沈線。	ナデ	金雲母	
88-7	67T III層上面	VI-2	RL縄文⇒沈線。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
88-8	67T III層上面	VI-1	カマボコ状の隆沈線による渦巻状文。	ナデ	海綿状骨針・金雲母・石英	
88-9	67T III層上面	VI-1	カマボコ状の隆沈線。	ナデ	海綿状骨針・石英	
88-10	67T III層上面	VI-1	カマボコ状の隆線による渦巻状曲線文。	ナデ	海綿状骨針・石英	
88-11	67T III層上面	IV-2?	口縁下横位隆帯、円形・ノ字状にせりあがる突起。RL?縄文	ナデ	海綿状骨針・金雲母・石英	
88-12	67T III層上面	IV-2	波状口縁。縦位LR縄文⇒2~3条単位の単沈線による文様。口縁三角形区画、波頂部から縦位文。胴部上位横位区画、下向連弧状文、縦位垂下文、蕨手状文。	ナデ	海綿状骨針・石英	図88-12~16同一。
88-13	67T III層上面					
88-14	67T III層上面					
88-15	67T III層上面					
88-16	67T III層上面					
88-17	67T III層上面	IV-2	カマボコ状のY字状垂下文・弧状文、隆線に沿う1条の単沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
88-18	67T III層上面	IV-4	縦位LR縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
88-19	67T III層上面	IV?	縦位LR縄文⇒隆線?	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
88-20	67T III層上面	IV-2?	横位多条有節沈線文。	ナデ	雲母	
88-21	67T III層上面	IV-3	肥厚口縁。ナデ。	ナデ	金雲母・石英	
88-22	67T III層上面	III-4	複合口縁、下端刻み。	ナデ	石英	
88-23	67T III層上面	VII	両耳壺、橋状把手。RL縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
88-24	67T III層上面	-	ナデ。底部木葉痕。	ナデ	石英	
89-1	64T サンプル S1 III-3(a)層	VII-2	口縁1条の沈線。ミガキ。	ミガキ	金雲母	
89-2	64T サンプル S1 III-3(a)層	VII	LR縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
89-3	64T サンプル S1-1A	VII?	ミガキ。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	III-3(a)層
89-4	64T サンプル S1-3A	VII-2	口縁1条の沈線、2個以上の盲孔。頸部横位沈線。	ミガキ	雲母	III-3(a)層
89-5	64T サンプル S1-3A	VII-2	LR縄文⇒短沈線。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	III-3(a)層
89-6	64T サンプル S1-4A	VI-1?	カマボコ状の隆沈線。	ミガキ	海綿状骨針	III-3(a)層
89-7	64T サンプル S1-4A	VII	LR縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	金雲母	III-3(a)層
89-8	64T サンプル S1-6A	VII-1	口縁刻み付隆帯区画。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	III-3(a)層
89-9	64T サンプル S1-5A	VII	LR縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	III-3(a)層
89-10	64T サンプル S1-5A	VII-2	LR縄文⇒沈線、盲孔。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	III-3(a)層
89-11	64T サンプル S1-5A	VII	LR縄文⇒沈線。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	III-3(a)層
89-12	64T サンプル S1-7A	VII-2	波状口縁、波頂部盲孔。縄文⇒沈線、盲孔。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	III-3(a)層
89-13	64T サンプル S1-7A	VII-2	ノ字状?隆帯、盲孔、沈線。	ミガキ	雲母・金雲母	III-3(a)層

土器観察表

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
89-14	64T サンプル S1-7A	Ⅶ-2	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	Ⅲ-3(a) 層
89-15	64T サンプル S1-7A	Ⅶ-1	波状口縁。LR ? 縄文⇒口縁下横位隆線・沈線区画、縦位蛇行沈線文。	ミガキ	金雲母	Ⅲ-3(a) 層
89-16	64T サンプル S1-7A	Ⅶ	RL 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	Ⅲ-3(a) 層
89-17	64T サンプル S1-7A	Ⅶ	RL 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	Ⅲ-3(a) 層
89-18	64T サンプル S1-7A	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	Ⅲ-3(a) 層
89-19	64T サンプル S1-8A	Ⅶ-2	RL 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母・ 石英	Ⅲ-3(a) 層
89-20	64T サンプル S1-8A	Ⅶ	曲線状条線文。	ナデ	金雲母・石英	Ⅲ-3(a) 層
89-21	64T サンプル S1-9A	Ⅶ?	LR 縄文。	ミガキ	雲母・金雲母	Ⅲ-3(a) 層
89-22	64T サンプル S1-5B	Ⅳ-3	三角形波状口縁。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c) 層
89-23	64T サンプル S1-7B	Ⅲ-4	4条以上の横位爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c) 層
89-24	64T サンプル S1-7B	Ⅳ-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c) 層
89-25	64T サンプル S1-7B	Ⅲ-5	横位 LR 縄文⇒下端磨消。底部網代痕。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c) 層
89-26	64T サンプル S1-7B	Ⅲ-4	横位 RL 縄文、結節回転文⇒横位単沈線区画、 多条の単沈線による波状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c) 層
89-27	64T サンプル S1-7A	Ⅳ-1	波状口縁、口縁に沿う1条の単沈線区画。刻み 付隆帯による弧状?文、平行沈線による縦位弧 状文、余白に刻み充填。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c) 層
89-28	64T サンプル S1-6A	Ⅲ-4	波状口縁。平行沈線による弧状文、斜線文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	Ⅲ-3(c) 層
89-29	64T サンプル S1-6A	Ⅲ-4	縦位 LR 縄文⇒平行沈線。	ナデ	海綿状骨針	Ⅲ-3(c) 層
89-30	64T サンプル S1-7A	Ⅲ-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c) 層
89-31	64T サンプル S1-4A	Ⅲ-5	横位附加条1種?(LR+r?)。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	Ⅲ-3(c) 層
89-32	64T サンプル S1-7A	Ⅲ-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・石英	Ⅲ-3(c) 層
89-33	64T サンプル S1-5A	Ⅲ-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c) 層
90-1	64T サンプル S2 Ⅲ-3(a) 層	-	LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
90-2	64T サンプル S2-2A	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	Ⅲ-3(a) 層
90-3	64T サンプル S2-2A	Ⅵ	RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(a) 層
90-4	64T サンプル S2-3A	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母・金雲母	Ⅲ-3(a) 層
90-5	64T サンプル S2-5A	Ⅶ-2	LR 縄文⇒短沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母	Ⅲ-3(a) 層
90-6	64T サンプル S2-6A	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	Ⅲ-3(a) 層
90-7	64T サンプル S2-6A	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	Ⅲ-3(a) 層
90-8	64T サンプル S2-7A	Ⅵ-2	LR 縄文⇒断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・金雲母	Ⅲ-3(a) 層
90-9	64T サンプル S2-9A	Ⅶ	ミガキ。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(a) 層
90-10	64T サンプル S2-8A	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	Ⅲ-3(a) 層
90-11	64T サンプル S2-8A	Ⅶ-2	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母・石英	Ⅲ-3(a) 層
90-12	64T サンプル S2-11A	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	金雲母・石英	Ⅲ-3(a) 層
90-13	64T サンプル S2-11A	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	Ⅲ-3(a) 層
90-14	64T サンプル S2-12A	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(a) 層
90-15	64T サンプル S2-12A	Ⅶ-2	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	図 90-15・16 と同一。Ⅲ-3 (a) 層。
90-16	64T サンプル S2-12A					

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
90-17	64T サンプル S2-6~8A	Ⅶ-2	口縁山形状突起、突起部円形貫通孔。口縁縦位隆帯⇒中央沈溝、上下端・中位に盲孔。LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	Ⅲ-3(a)層
90-18	64T サンプル S2-8~10A	Ⅶ	LR 縄文⇒胴部下端磨消。底部ナデ。	ナデ	雲母・石英	Ⅲ-3(a)層
91-1	64T サンプル S2-10B	Ⅳ-2	カマボコ状隆線による2条の横位文、円形文。	ミガキ	雲母・金雲母	Ⅲ-3(c)層
91-2	64T サンプル S2-10B	V?	縦位 LR 縄文⇒縦位単沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c)層
91-3	64T サンプル S2-10B	V-1	横位多条単沈線、沈線間にソーメン状隆線による波状文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	Ⅲ-3(c)層
91-4	64T サンプル S2-5A	Ⅳ-1	口縁下端刻み付隆帯、2条の横位単沈線区画、単沈線による多条山形文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c)層
91-5	64T サンプル S2-7A	Ⅳ	口縁上端横位押捺、双頭状小突起?	ミガキ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c)層
92-1	64T サンプル S3-3	Ⅲ-4	横位・斜位多条単沈線⇒沈線に沿う刺突。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c)層
92-2	64T サンプル S3-3	Ⅳ-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c)層
92-3	64T サンプル S3-3	Ⅳ-4	縦位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c)層
92-4	64T サンプル S3-4	Ⅳ-3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c)層
92-5	64T サンプル S3-7	Ⅳ-4	横位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c)層
92-6	64T サンプル S3-8	Ⅳ-4	口縁隆帯貼付による波状突起、外縁隆線貼付円形貫通孔、横位 RL? 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c)層
92-7	64T サンプル S3-8	Ⅳ-1	1条の単沈線による渦巻状文⇒梯子状短沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c)層
92-8	64T サンプル S3-8	Ⅲ-5	横位 LR? 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c)層
92-9	64T サンプル S3-9	Ⅳ-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c)層
92-10	64T サンプル S3-10	Ⅳ-4	横位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c)層
92-11	64T サンプル S3-10	Ⅲ-4	横位 LR 縄文⇒平行沈線による横位多条波状文、横線文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	Ⅲ-3(c)層
92-12	64T サンプル S3-11	Ⅳ-1	口縁縦位刻み付隆帯貼付。口縁上端横位単沈線、単沈線による多条山形文。	ミガキ	海綿状骨針・石英	Ⅲ-3(c)層
92-13	64T サンプル S3-11	Ⅳ-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	海綿状骨針	Ⅲ-3(c)層
92-14	64T サンプル S3-12	Ⅲ-4	隆帯による円形文、中心に瘤状貼付文、隆帯に沿う爪形文。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	Ⅲ-3(c)層
92-15	64T サンプル S3-12	Ⅲ-4	口縁上端瘤状突起、縦位単沈線による刻み付隆帯貼付。円形貼付文剥離。横位・斜位多条単沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c)層
92-16	64T サンプル S3-12	Ⅲ-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	海綿状骨針	Ⅲ-3(c)層
92-17	64T サンプル S3-13	Ⅲ-5	横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	Ⅲ-3(c)層
92-18	64T サンプル S3-13	Ⅳ-3	ミガキ。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c)層
92-19	64T サンプル S3-13	Ⅳ-4	縦位 LR 縄文⇒胴部下端磨消。	ナデ	雲母・金雲母	Ⅲ-3(c)層
92-20	64T サンプル S3-15	Ⅲ-5	横位附加条1種(LR+R)、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c)層
92-21	64T サンプル S3-15	Ⅲ-5	横位無節L縄文。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母・石英	Ⅲ-3(c)層
92-22	64T サンプル S3-15~16	Ⅲ-5	横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	Ⅲ-3(c)層
92-23	64T サンプル S3-16	Ⅲ-4	口縁2条1単位の単沈線による方形文。頸部1条の横位単沈線区画、2条1単位の上向弧状文。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	Ⅲ-3(c)層
92-24	64T サンプル S3-16	Ⅲ-5	横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	Ⅲ-3(c)層
92-25	64T サンプル S3-16	Ⅲ-4	横位 LR 縄文⇒斜位刻み付隆帯。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	Ⅲ-3(c)層
92-26	64T サンプル S3-16	Ⅲ-4?	縦位・横位 RL 縄文⇒縦位単沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	Ⅲ-3(c)層
93-1	64T サンプル S3-17	Ⅲ-5	口縁上端押捺。横位 RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c)層
93-2	64T サンプル S3-17	Ⅲ-4	横位 RL 縄文⇒平行沈線による格子状文。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	Ⅲ-3(c)層
93-3	64T サンプル S3-17	Ⅲ-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	Ⅲ-3(c)層

土器観察表

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
93-4	64T サンプル S3-18	Ⅲ-4	横位 RL 縄文⇒2条の単沈線による上下横線文 区画、区画内単沈線による縦位多条波状文。	ミガキ	雲母	Ⅲ-3(c) 層
93-5	64T サンプル S3-18	Ⅲ-5	縦位 LR ? 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(c) 層
93-6	64T サンプル S3-18	Ⅲ-5	横位 LR 縄文⇒胴部下端磨消。底部網代痕。	ナデ	海綿状骨針・石英	Ⅲ-3(c) 層
93-7	64T サンプル S3-19	Ⅲ-2	横位結節回転文。	ナデ	海綿状骨針・繊維 (少)	Ⅲ-3(c) 層
93-8	64T サンプル S3	Ⅲ-1・ 2?	2個1単位の半截竹管の刺突列。	ナデ	雲母	Ⅲ-3(c) 層
93-9	64T サンプル S3	Ⅲ-2	横位結節回転文。	ナデ	雲母	Ⅲ-3(c) 層
93-10	64T サンプル S4-1	Ⅳ-2?	縦位 LR 縄文⇒多条単沈線。	ミガキ	雲母	Ⅲ-3(b) 層
93-11	64T サンプル S4-2	Ⅶ-2	LR 縄文⇒多条単沈線による口縁上端区画弧状 文。	ミガキ	雲母	Ⅲ-3(b) 層
93-12	64T サンプル S4-2	Ⅳ	口縁上端1条の単沈線。縦位 LR 縄文⇒2条の 横位単沈線。	ナデ	海綿状骨針・金雲母・ 石英	Ⅲ-3(b) 層
93-13	64T サンプル S4-2	Ⅳ	単沈線による三角形区画?、渦巻状文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(b) 層
93-14	64T サンプル S4-2	Ⅳ-2	波状口縁。口縁に沿う縄圧痕付隆線による連弧 状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(b) 層
93-15	64T サンプル S4-2	Ⅲ-3	横位 RL 縄文⇒2条以上の単沈線による山形文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(b) 層
93-16	64T サンプル S4-2	Ⅲ-5	横位 RL 縄文。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	Ⅲ-3(b) 層
93-17	64T サンプル S4-2	Ⅲ-5	横位附加条1種 (LR + R)。	ナデ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(b) 層
93-18	64T サンプル S4-3	Ⅳ-2	有孔土器。頸部断面三角の横位微隆起線、微隆 起線に沿う有孔列。縦位微隆起線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(b) 層
93-19	64T サンプル S4-3	Ⅳ-2	断面三角の縦位隆線。	ミガキ	雲母・金雲母	Ⅲ-3(b) 層
93-20	64T サンプル S4-4	Ⅳ-3	2条の横位縄圧痕文 (LR?)。ナデ。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	Ⅲ-3(b) 層
93-21	64T サンプル S4-4	Ⅳ-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	Ⅲ-3(b) 層
93-22	64T サンプル S4-4	Ⅳ-4	縦位 LR・RL 非結束羽状縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(b) 層
93-23	64T サンプル S4-4	Ⅳ-4	縦位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(b) 層
93-24	64T サンプル S4-5	Ⅳ	横位刻み。縦位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(b) 層
93-25	64T サンプル S4-6	Ⅳ-2?	横位単沈線区画、区画内単沈線による楕円文、斜 線文。	ミガキ	海綿状骨針	Ⅲ-3(b) 層
93-26	64T サンプル S4-6	Ⅳ-1	縦位 RL 縄文⇒縦位平行沈線⇒沈線上及び沈線 に沿う刺突。	ナデ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(b) 層
93-27	64T サンプル S4-6	Ⅳ-3	複合口縁。ナデ。	ミガキ	金雲母・石英	Ⅲ-3(b) 層
93-28	64T サンプル S4-6	Ⅳ-3	ナデ。	ナデ	雲母	Ⅲ-3(b) 層
93-29	64T サンプル S4-6	Ⅳ	2条の横位単沈線、縦位 LR 縄文。	ミガキ	金雲母	Ⅲ-3(b) 層
93-30	64T サンプル S4-6	Ⅲ-5	横位 RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(b) 層
93-31	64T サンプル S4-6	Ⅲ-4	複合口縁、口縁下端三角刻み。横位 LR 縄文⇒ 横位平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(b) 層
93-32	64T サンプル S4-6	Ⅲ-5	附加条1種 (LR + r)。	ナデ	海綿状骨針・石英・ 繊維(少)	Ⅲ-3(b) 層
93-33	64T サンプル S4-9	Ⅲ-4	横位・縦位・斜位多条単沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	Ⅲ-3(b) 層
93-34	64T サンプル S4-9	Ⅲ-2	横位 LR 縄文⇒半截竹管による縦位・横位小波 状有節沈線。	ナデ	海綿状骨針・石英・ 繊維(少)	Ⅲ-3(b) 層
93-35	64T サンプル S4-9	Ⅲ-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・石英	Ⅲ-3(b) 層
93-36	64T サンプル S4-9	Ⅲ-4	頸部横位平行沈線、口縁平行沈線による横位多 条波状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(b) 層
93-37	64T サンプル S4-8	Ⅲ-4	波状口縁。口縁上下1条の横位単沈線区画、区 画内縦位・斜位多条単沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(b) 層
93-38	64T サンプル S4-8	Ⅳ-1	口縁上位2条の横位単沈線、沈線間梯子状短沈 線。単沈線による多条山形文、下端刺突列。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(b) 層
93-39	64T サンプル S4-8	Ⅲ-4	口縁2条の横位単沈線。盲孔。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(b) 層

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
93-40	64T サンプル S4-8	Ⅲ-4	肥厚口縁、上下端縦位刻み。	ナデ	雲母・海綿状骨針	Ⅲ-3(b)層
93-41	64T サンプル S4-8	Ⅳ	縦位 LR 縄文、結節回転文⇒平行沈線による連弧状文。	ナデ	雲母	Ⅲ-3(b)層
94-1	64T Ⅲ-3(a1) 層) 上面	Ⅶ	RL 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
94-2	64T Ⅲ-3(a1) 層) 上面	Ⅶ-2	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
94-3	64T Ⅲ-3(a1) 層) 上面	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
94-4	64T Ⅲ-3(a 3層) 上面	Ⅶ-2	波状口縁、口縁下端沈線区画、縦位ノ字状?沈線⇒盲孔。LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
94-5	64T Ⅲ-3(a3) 層) 上面	Ⅶ-2	口縁内外面盲孔付突起⇒口縁下端沈線区画⇒円形浮文。RL 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	
94-6	64T Ⅲ-3(a3) 層) 上面	Ⅶ-1	口縁下端隆帯区画、円形浮文。RL 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
94-7	64T Ⅲ-3(a3) 層) 上面	Ⅶ-1	口縁下端隆帯区画。LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
94-8	64T Ⅲ-3(a3) 層) 上面	Ⅶ	RL 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
94-9	64T Ⅲ-3(a3) 層) 上面	Ⅲ-5	横位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
94-10	64T Ⅲ-3(a3) 層) 上面	Ⅳ-4	縦位結節回転文。底部網代痕。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
94-11	64T Ⅲ-3(b1) 層) 上面	Ⅳ-1	口縁突起。口縁上位1条の横位単沈線区画梯子状短沈線。梯子状刻み付隆帯による渦巻文。突起内面三角刻み。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
94-12	64T Ⅲ-3(b2) 層) 上面	Ⅲ-4	横位 LR 縄文⇒2条の爪形文。	ミガキ	雲母・金雲母	
94-13	64T Ⅲ-3(b4) 層) 上面	Ⅳ-4	縦位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
94-14	64T Ⅲ-3(b4) 層) 上面	Ⅳ	単沈線による多条の縦位直線文、多条の縦位波状文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
94-15	64T Ⅲ-3(b3) 層) 上面	Ⅲ-4	1条の単沈線による山形文。余白部に盲孔。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
94-16	64T Ⅲ-3(b3) 層) 上面	-	ナデ。	ナデ	雲母・石英	
95-1	64T Ⅲ-3(c1) 層) 上面	V-1	上位から、横位縄圧痕文(L)、カマボコ状の隆線による楕円形区画・S字状突起・波状文、隆線間縦位刻み。突起から垂下する縦位1条の隆帯・波状隆線文から垂下する3条の縦位隆帯。横位半截竹管による刻み付隆線。縦位 LR 縄文⇒2条の単沈線による上下相対する連弧状文、3条の単沈線による下向連弧状文、4条の単沈線による横線文、2~3条の単沈線による蕨手状・弧状・クランク状に垂下する曲線文。口縁内面隆線。	ナデ	雲母・金雲母・石英	埋設土器。
95-2	64T Ⅲ-3(c1) 層) 上面	V	RL 縄文⇒口縁下端カマボコ状の隆線区画⇒沈線。	ミガキ	雲母。	
95-3	64T Ⅲ-3(c1) 層) 上面	V-1	口縁上端一部刻み、波状貼付文。口縁突起、口縁下端押捺付隆線区画、ソーメン状隆線⇒円形竹管文。頸部断面三角の横位隆線。縦位 LR 縄文⇒3条単位の単沈線による方形区画直線文・クランク状曲線文。口縁内面隆線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	図96-6と同一。
95-4	64T Ⅲ-3(c1) 層) 上面	Ⅶ?	ミガキ。	ミガキ	雲母・石英	
95-5	64T Ⅲ-3(c1) 層) 上面	Ⅶ	RL 縄文⇒胴部下端磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母・石英	
96-1	64T Ⅲ-3(c1) 層) 上面	Ⅶ-1	口縁下端ハ字状にせりあがる横位隆帯区画、隆帯に沿う単沈線。RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
96-2	64T Ⅲ-3(c1) 層) 上面	Ⅶ-1	LR 縄文⇒縦位刻み付縦位隆帯。	ナデ	金雲母・石英	
96-3	64T Ⅲ-3(c1) 層) 上面	Ⅶ	櫛歯状工具による格子状条線文。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
96-4	64T Ⅲ-3(c1) 層) 上面	Ⅶ?	RLR 縄文⇒胴部下端磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
96-5	64T Ⅲ-3(c1) 層) 上面	V-2	口縁 LR 縄文⇒上下カマボコ状の隆沈線区画、口縁突起上下隆沈線による渦巻文。	ナデ	雲母・石英	
96-6	64T Ⅲ-3(c1) 層) 上面	V-1	口縁上端一部刻み、波状貼付文。口縁突起、口縁下端押捺付隆線区画、ソーメン状隆線⇒円形竹管文。頸部断面三角の横位隆線。縦位 LR 縄文⇒3条単位の単沈線による方形区画直線文・クランク状曲線文。口縁内面隆線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	図95-3と同一。

土器観察表

図版 No.	出土遺構・層名	分類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物	備考
96-7	64T III-3(c1) 層) 上面	IV-1	口縁下端縦位刻み付隆帯区画、平行沈線による鋸歯状?文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
96-8	64T III-3(c1) 層) 上面	IV-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
96-9	64T III-3(c1) 層) 上面	IV-4	縦位 RL 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
96-10	64T III-3(c1) 層) 上面	IV-4	縦位 LR・RL 非結束羽状縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
96-11	64T III-3(c1) 層) 上面	IV-4?	縦位 LR 縄文。	ミガキ	雲母・金雲母・石英	
96-12	64T III-3(c1) 層) 上面	IV-4?	縦位 RL 縄文。底部ナデ。	ナデ	金雲母・石英	
96-13	64T III-3(c1) 層) 上面	IV?	2条単位の縦位単沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
96-14	64T III-3(c2) 層) 上面	V-1	口縁 S 字状?突起、下端隆線区画。区画内縦位刻み。縦位 LR 縄文⇒2条の単沈線による山形文、5条の横線文、3~4条の蕨手状・弧状・クラック状に垂下する曲線文。口縁内面一部ソーマン状隆線による波状文。	ナデ	雲母・金雲母	
96-15	64T III-3(c2) 層) 上面	III-4	三角波状口縁、4個の三角状小突起。口縁上端一部刻み。波頂部下三角形貫通孔。口縁下有段部半截竹管による刺突列。横位 RL 縄文⇒瘤状貼付文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母・石英	
97-1	64T III-3(c2) 層) 上面	III-4	三角波状口縁。波頂部から垂下する縦位及び口縁下横位の半截竹管による刺突付隆帯。横位 LR 縄文⇒半截竹管による2列の刺突列。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
97-2	64T III-3(c2) 層) 上面	III-4	三角波状口縁。波頂部から垂下する縦位隆帯。横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
97-3	64T III-3(c2) 層) 上面	IV-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
97-4	64T III-3(c2) 層) 上面	III-4	口縁多条平行沈線による弧状文。横位 LR? 縄文⇒頸部上位から横位1条の平行沈線、半截竹管による横位1条の刺突列、2条の横位平行沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
97-5	64T III-3(c2) 層) 上面	III-4	波状口縁。横位 LR 縄文、結節回転文⇒頸部2条の横位爪形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
97-6	64T III-3(c2) 層) 上面	III-4	複合波状口縁、下端爪形文。LR 縄文⇒平行沈線による弧状文。	ミガキ	雲母	図 97-7 と 同一?
97-7	64T III-3(c2) 層) 上面	III-4	複合波状口縁、下端爪形文。平行沈線による多条波状文。	ミガキ	雲母	図 97-6 と 同一?
97-8	64T III-3(c2) 層) 上面	III-4	複合口縁、下端三角刻み。横位 LR 縄文⇒平行沈線による山形波状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
97-9	64T III-3(c2) 層) 上面	III-4	複合口縁、下端刻み。横位 LR 縄文⇒1条の平行沈線による横線文、山形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
97-10	64T III-3(c2) 層) 上面	III-4	横位 LR 縄文⇒横位多条爪形文、1条の平行沈線による縦位波状文。	ナデ	雲母・石英	
97-11	64T III-3(c2) 層) 上面	III-3	口縁鋸歯状貼付文。多条山形貼付文。	ナデ	雲母・石英	
97-12	64T III-3(c2) 層) 上面	III-2	口縁上端刻み。横位 LR? 縄文、結節回転文⇒1条の波状貼付文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
97-13	64T III-3(c2) 層) 上面	III-5	横位 RL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
97-14	64T III-3(c2) 層) 上面	III-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	図 97-14・15 と同一。
97-15	64T III-3(c2) 層) 上面					
97-16	64T III-3(c2) 層) 上面	III-2	横位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英・繊維(少)	
97-17	64T III-3(c2) 層) 上面	II	LR 縄文?	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英・繊維	
98-1	64T サブトレンチ 1 III-3 層	III-2	口縁上端~口縁内面2条の波状貼付文。頸部横位 LR 縄文、結節回転文⇒2条の波状貼付文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英・繊維(少)	
98-2	64T サブトレンチ 1 III-3 層	III-2	平行沈線による山形文、横線文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
98-3	64T サブトレンチ 1 III-3 層	III-6	波状口縁。口縁上端縦位刻み(条線)、口縁下2条の半截竹管による刺突列。横位 RL 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
98-4	64T サブトレンチ 1 III-3 層	III-6	上位から貝殻腹縁文、平行沈線による条線文、貝殻腹縁文、単沈線による横線文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
98-5	64T サブトレンチ 1 III-3 層	III-2	横位 LR 縄文⇒渦巻状貼付文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母・繊維(少)	
98-6	64T サブトレンチ 1 III-3 層	III-5	横位 RL? 縄文。	ナデ	金雲母・石英	

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
98-7	64T III-3 (c3 層) 上面	IV-1	波状口縁、波頂部口縁上端渦巻状隆線。口縁内面1条の隆沈線。波頂部から垂下する渦巻状隆帯⇒口縁上下横位単沈線区画⇒横位多条短沈線⇒2条の縦位弧状単沈線⇒区画内梯子状短沈線⇒交互の三角刻み⇒三角刻みに沿う2条の単沈線。胴部縦位LR・RL非結束羽状縄文、結節回転文⇒三角刻み、刻みに沿う多条短沈線による垂下文、2条の単沈線による垂下文、区画内梯子状短沈線。	ミガキ	雲母・石英・海綿状骨針	
98-8	64T III-3 (c4 層) 上面	IV-3	ナデ。底部ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母・石英	
98-9	64T III-3 (c4 層) 上面	IV-4	縦位LR縄文。底部網代痕。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
98-10	64T III-3 (c4 層) 上面	IV-3	ミガキ。底部網代痕。	ナデ	雲母・石英	
99-1	64T III-3 (c4 層) 上面	IV-2	縦位LR縄文⇒カマボコ状の隆線、隆線に沿う2条の沈線による楕円形区画。	ナデ	金雲母・石英	
99-2	64T III-3 (c4 層) 上面	V-2?	縦位LR縄文⇒4条の縦位単沈線、単沈線による曲線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
99-3	64T III-3 (c4 層) 上面	IV-4	複合口縁、横位2条の縄圧痕文(LR)。縦位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
99-4	64T III-3 (c4 層) 上面	IV-2	波状口縁、波頂部三山状、口縁上端縦位刻み。口縁に沿う1条の横位単沈線、口縁下端横位短沈線。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
99-5	64T III-3 (c4 層) 上面	IV-4	縦位LR縄文。頸部縄圧痕文(LR)付横位隆帯。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
99-6	64T III-3 (c4 層) 上面	IV-2	輪積み痕、指頭押捺。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
99-7	64T III-3 (c4 層) 上面	IV	縦位半截竹管による刺突列。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
99-8	64T III-3 (c4 層) 上面	IV-4	縦位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	図99-8・9同一。
99-9	64T III-3 (c4 層) 上面					
99-10	64T III-3 (c4 層) 上面	III-5	口縁押捺による波状縁。横位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
99-11	64T III-3 (c4 層) 上面	III-4	肥厚波状口縁、2条の単沈線による弧状文。頸部横位多条平行沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
99-12	64T III-3 (c4 層) 上面	III-4	横位LR縄文⇒下位2条の横位爪形文、斜位爪形文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
99-13	64T III-3 (c4 層) 上面	III-5	横位LR縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
99-14	64T III-3 (c1・ 2層) 上面	VII-1	口縁1条の単沈線、隆帯区画。縄文⇒沈線。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	
99-15	64T III-3 (c1・ 2層) 上面	VII-1	口縁渦巻状隆線による突起、突起部盲孔、1条の単沈線、隆帯区画。RL縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
99-16	64T III-3 (c1・ 2層) 上面	VII-1	口縁隆帯区画。縦位ノ字状隆帯、中央沈溝、上下端盲孔。縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
99-17	64T III-3 (c1・ 2層) 上面	VII	波状口縁。波頂部下円孔。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
99-18	64T III-3 (c1・ 2層) 上面	VII-1	LR縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
99-19	64T III-3 (c1・ 2層) 上面	VII-1	LR縄文⇒沈線⇒磨消、円形浮文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
100-1	64T III-3 (c1・ 2層) 上面	VI-1	LR縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
100-2	64T III-3 (c1・ 2層) 上面	V-1	縦位LR縄文⇒4条単位のクランク状曲線文。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
100-3	64T III-3 (c1・ 2層) 上面	IV-2?	波状口縁、波頂部ボタン状貼付文、口縁に沿う2条の単沈線。波頂部から垂下する縦位2条の単沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
100-4	64T III-3 (c1・ 2層) 上面	IV-2?	口縁2条の縄圧痕文(LR)付横位隆帯、下位隆帯上瘤状貼付文。縦位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
100-5	64T III-3 (c1・ 2層) 上面	IV-2	縦位LR縄文⇒押捺付隆帯による横位区画、弧状文(Y字状文)。	ナデ	雲母・石英	
100-6	64T III-3 (c1・ 2層) 上面	III-5	横位LR縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
100-7	64T III-3 (c1・ 2層) 上面	IV	頸部2条の横位単沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
100-8	64T III-3 (c1・ 2層) 上面	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
100-9	64T III-3 (c1・ 2層) 上面	IV-3	口縁肥厚。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	

土器観察表

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
100-10	64T III-3(c1・ 2層) 上面	IV-3	頸部輪積み痕。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
100-11	64T III-3(c1・ 2層) 上面	VII	口縁三角突起。横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
100-12	64T III-3(c1・ 2層) 上面	III-4	複合波状口縁、波頂部2条以上の縦位隆帯。頸部縄圧痕文 (LR) 付横位隆帯。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
100-13	64T III-3(c1・ 2層) 上面	III-4	複合口縁。横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
100-14	64T III-3(c1・ 2層) 上面	III-4	複合口縁、2個以上の突起。口縁下端縦位刻み。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
100-15	64T III-3(c1・ 2層) 上面	III-4	複合口縁、2個以上の突起、下端押捺。横位結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
100-16	64T III-3(c1・ 2層) 上面	III-4	山形波状複合口縁、下端縦位刻み。横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
100-17	64T III-3(c1・ 2層) 上面	III-4	横位・縦位単沈線、沈線に沿う爪形文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
100-18	64T III-3(c1・ 2層) 上面	III-3	口縁上端縦位刻み。横位 LR 縄文⇒単沈線による山形文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
100-19	64T III-3(c1・ 2層) 上面	III-2	口縁指頭による交互押捺。横位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母・石英・繊維 (少)	
100-20	64T III-3(c1・ 2層) 上面	III-3	RL 縄文を不規則施文⇒口縁2条の刺突列。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
100-21	64T III-3(c1・ 2層) 上面	III-2	横位 LR 縄文⇒平行沈線による波状文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英・繊維 (少)	
100-22	64T III-3(c1・ 2層) 上面	III-5	横位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	海綿状骨針・石英	
100-23	64T III-3(c1・ 2層) 上面	III-6	平行沈線、3条の爪形文、1条の変形爪形文、貝殻腹縁文。	ミガキ	雲母・石英	
100-24	64T III-3(c1・ 2層) 上面	III-1	横位 LR 縄文⇒爪形文付3条の隆線。横位区画弧状?文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
100-25	64T III-3(c1・ 2層) 上面	III-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	図100-31と同一。
100-26	64T III-3(c1・ 2層) 上面	III-5	横位 LRL 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	図100-26・27 と同一。
100-27	64T III-3(c1・ 2層) 上面			ナデ	雲母・海綿状骨針・ 繊維 (少)	
100-28	64T III-3(c1・ 2層) 上面	III-5	LR?縄文を不規則施文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 繊維 (少)	
100-29	64T III-3(c1・ 2層) 上面	III-5	横位 RL 縄文⇒胴部下端磨消。底部網代痕。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
100-30	64T III-3(c1・ 2層) 上面	III-5	横位 RL 縄文⇒胴部下端磨消。底部ナデ?	ナデ	海綿状骨針・石英	
100-31	64T III-3(c1・ 2層) 上面	III-5	横位 LR 縄文⇒胴部下端磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	図100-25と同一。
101-1	65 T SK671	VII-2	口縁山形状突起、突起部盲孔、1~2条の横位沈線。2条単位の縦位隆帯、胴部縄文⇒沈線区画⇒隆帯との交点に盲孔、磨消。内面盲孔。	ナデ	雲母	
101-2	65 T SK671	VII-2	口縁横位沈線、盲孔。2条単位の縦位隆帯、頸部沈線区画。	ミガキ	海綿状骨針・雲母	
101-3	65 T SK671	VII-2	口縁1条の横位沈線、2条単位の縦位隆帯、下端盲孔。口縁下端沈線区画。	ナデ	海綿状骨針・石英	
101-4	65 T SK671	VII-2	口縁横位沈線。口縁下端沈線区画。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	
101-5	65 T SK671	VII-2	口縁山形状突起、突起部盲孔、2条単位の縦位隆帯、上下端盲孔。口縁下端隆線・隆線に沿う上下に1条の沈線⇒縦位隆帯との交点に盲孔。胴部縄文。	ナデ	海綿状骨針・石英	
101-6	65 T SK671	VII-2	口縁横位沈線、盲孔。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
101-7	65 T SK671	VII-2	口縁横位沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
101-8	65 T SK671	VII-2	口縁横位沈線。口縁下端沈線区画。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
101-9	65 T SK671	VII-2	口縁渦巻状突起、突起部円形貫通孔。口縁沈線区画。LR 縄文⇒沈線⇒磨消、突起下盲孔。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
101-10	65 T SK671	VII-2	口縁渦巻状突起、円形貫通孔、突起・円孔に沿う沈線、盲孔。口縁下端沈線区画。突起内面盲孔。	ナデ	海綿状骨針・金雲母・ 石英	
101-11	65 T SK671	VII-2	口縁山形状小突起、突起下盲孔。RL 縄文⇒沈線⇒磨消。突起内面盲孔。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
101-12	65 T SK671	VII	口縁山形状突起、突起部円形貫通孔。	ナデ	海綿状骨針・金雲母・ 石英	
101-13	65 T SK671	VII-1	口縁下端隆線区画。ノ字状隆帯、上下端盲孔。縄文。	ナデ	海綿状骨針・金雲母・ 石英	
101-14	65 T SK671	VII-2	口縁山形状小突起、突起下盲孔、縦位沈線。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
101 - 15	65 T SK671	Ⅶ - 1	口縁下端隆沈線区画、円形浮文。LR 縄文。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
101 - 16	65 T SK671	Ⅶ - 2	口縁沈線区画、盲孔。LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	海綿状骨針・金雲母	
101 - 17	65 T SK671	Ⅶ - 2	口縁沈線区画、盲孔。LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	
101 - 18	65 T SK671	Ⅶ - 2	口縁沈線区画。LR 縄文。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	
101 - 19	65 T SK671	Ⅶ - 2	口縁沈線区画、盲孔。縄文⇒沈線⇒盲孔、磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
101 - 20	65 T SK671	Ⅶ - 2	口縁沈線区画。LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
101 - 21	65 T SK671	Ⅶ - 2	口縁下端隆沈線区画。LR 縄文⇒円形竹管文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
101 - 22	65 T SK671	Ⅶ - 1	波状口縁? 口縁下端隆沈線区画。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
101 - 23	65 T SK671	Ⅶ	口縁沈線区画。LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
101 - 24	65 T SK671	Ⅶ	口縁隆沈線区画。LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母・石英	
101 - 25	65 T SK671	Ⅶ	口縁沈線区画。LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
102 - 1	65 T SK671	Ⅶ - 1	口縁下端刺突付隆帯区画。LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
102 - 2	65 T SK671	Ⅶ - 2	LR 縄文⇒沈線⇒磨消、盲孔。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
102 - 3	65 T SK671	Ⅶ - 2	盲孔、多条沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
102 - 4	65 T SK671	Ⅶ - 2	LR 縄文⇒沈線・縦位隆帯⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
102 - 5	65 T SK671	Ⅶ - 2	頸部沈線区画。LR 縄文⇒沈線⇒磨消、盲孔。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
102 - 6	65 T SK671	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母・石英	
102 - 7	65 T SK671	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母・ 石英	
102 - 8	65 T SK671	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	海綿状骨針・金雲母・ 石英	
102 - 9	65 T SK671	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
102 - 10	65 T SK671	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母・石英	
102 - 11	65 T SK671	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
102 - 12	65 T SK671	Ⅶ	RL 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
102 - 13	65 T SK671	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母・石英	
102 - 14	65 T SK671	Ⅶ	RL 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
102 - 15	65 T SK671	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
102 - 16	65 T SK671	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
102 - 17	65 T SK671	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
102 - 18	65 T SK671	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
102 - 19	65 T SK671	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	海綿状骨針・金雲母・ 石英	
102 - 20	65 T SK671	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母・金雲母	
102 - 21	65 T SK671	Ⅶ - 1	RL 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
103 - 1	65 T SK671	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
103 - 2	65 T SK671	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
103 - 3	65 T SK671	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
103 - 4	65 T SK671	Ⅶ	LR 縄文⇒沈線⇒磨消。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
103 - 5	65 T SK671	Ⅶ?	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・石英	
103 - 6	65 T SK671	Ⅶ?	R 捺糸文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
103 - 7	65 T SK671	Ⅶ?	l? 捺糸文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
103 - 8	65 T SK671	Ⅶ?	ナデ。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
103 - 9	65 T SK671	Ⅶ?	ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
103 - 10	65 T SK671	Ⅵ - 1	波状口縁、隆沈線による渦巻状文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
103 - 11	65 T SK671	Ⅵ - 1	LR 縄文⇒口縁上下隆線区画。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	

土器観察表

図版 No.	出土遺構・層名	分類	器形・文様の特徴	内面調整	含有物	備考
103-12	65 T SK671	V-1	口縁渦巻状突起。内外面ソーメン状隆線による渦巻文。	ナデ	雲母・金雲母	
103-13	65 T SK671	V-2	LR 縄文⇒2条単位の単沈線による渦巻状文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
103-14	65 T SK671	V-1	LR 縄文⇒3条単位の単沈線によるクランク状曲線文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
103-15	65 T SK671	V-1	RL 縄文⇒2条単位のソーメン状隆線によるクランク状文、頸部4条の横位単沈線、1条の波状単沈線、3条の横位単沈線による方形区画、区画内3条のクランク状曲線文、1条の波状文。	ナデ	金雲母	
103-16	65 T SK671	IV	横位断面三角の隆線、隆線に沿う横位刺突列。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
103-17	65 T SK671	V-1	横位縄圧痕文 (LR)、カマボコ状隆線。	ナデ	雲母	
103-18	65 T SK671	IV-2	口縁斜位縄圧痕文 (LR)、横位縄圧痕 (LR) 付隆帯。縦位 LR 縄文、結節回転文。	ミガキ	雲母	
103-19	65 T SK671	IV-1	縦位 LR? 縄文⇒多条単沈線による弧状文⇒沈線に沿う三角刻み。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
103-20	65 T SK671	IV-3	ナデ。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
103-21	65 T SK671	III-4	ソーメン状隆線による横位梯子状文、鎖状文、横位1条の単沈線区画。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
103-22	65 T SK672	VI-1	山形波状口縁。LR 縄文⇒カマボコ状の隆沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
103-23	65 T SK672	VI	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・金雲母	
103-24	65 T SK672	V	2条以上の横位単沈線。	ナデ	海綿状骨針・金雲母・石英	
103-25	65 T SK672	VI?	LR 縄文。	ミガキ	金雲母・石英	
104-1	65T III-5層	IX	口縁上端刻み。珠文、2条の単沈線、LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
104-2	65T III-5層	IX	珠文、2条の単沈線。LR 縄文。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
104-3	65T III-5層	VII	波状口縁。条線文⇒2条の縦位単沈線。	ナデ	雲母	
104-4	65T III-5層	VII-2	口縁1条の単沈線、盲孔。口縁内面盲孔。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
104-5	65T III-5層	IV-2	口縁押捺付隆帯による楕円形区画。口縁内面2条の渦巻状隆帯。	ナデ	雲母・金雲母	
104-6	65T III-5層	VI-2	浅鉢?断面三角の隆線。	ミガキ	雲母・金雲母	
104-7	65T III-5層	VI-2	RL 縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	雲母・金雲母・石英	図104-7・8 同一。
104-8	65T III-5層		RL 縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
104-9	65T III-5層	VI-2	RL 縄文⇒断面三角の隆線。	ナデ	雲母・金雲母・石英	
104-10	65T III-5層	VI	RL 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・金雲母	
104-11	65T III-5層	VI	LR 縄文⇒沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
104-12	65T III-5層	VI	沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
104-13	65T III-5層	VI	LR 縄文⇒沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
104-14	65T III-5層	VI	隆沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針	
104-15	65T III-5層	V-2	波状口縁、渦巻状隆沈線。LR 縄文⇒単沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・石英	
104-16	65T III-5層	V-2	横位カマボコ状隆線。LR 縄文⇒横位2条の平行沈線、平行沈線による渦巻状曲線文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
104-17	65T III-5層	V-2	口縁 RL 縄文⇒上下カマボコ状の隆沈線による弧状・楕円形区画。頸部無文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
104-18	65T III-5層	V-2	口縁橋状把手、把手上端・外面渦巻状隆線。2条の隆沈線による方形?文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・金雲母・石英	
105-1	65T III-5層	V-1	LR 縄文⇒1条のカマボコ状の隆線、2条の単沈線による方形区画文。	ミガキ	雲母・金雲母	
105-2	65T III-5層	V-1	カマボコ状の横位隆沈線、下端半截竹管による刺突列。	ナデ	雲母・金雲母	
105-3	65T III-5層	V-1	LR 縄文⇒3条単位の単沈線によるクランク状文。	ミガキ	雲母	
105-4	65T III-5層	V-1?	LR 縄文⇒横位単沈線、下向連弧状単沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・金雲母	
105-5	65T III-5層	V-1	LR 縄文⇒横位多条隆沈線、2条の沈線による方形区画文。	ミガキ	雲母・金雲母・石英	
105-6	65T III-5層	V-1	LR 縄文⇒多条単沈線によるクランク状?文。	ミガキ	雲母・金雲母	
105-7	65T III-5層	V-1	LR 縄文⇒横位5条の単沈線区画、多条単沈線による曲線文 (一部波状)。	ナデ	雲母・海綿状骨針	図105-7~11 同一。
105-8	65T III-5層					
105-9	65T III-5層					
105-10	65T III-5層					
105-11	65T III-5層					
105-12	65T III-5層	IV-2	口縁渦巻状突起、縦位刻み。口縁上下1条の横位単沈線区画。単沈線による縦位直線文・波状文、渦巻状文。縦位 LR 縄文。底部網代痕磨消。	ナデ	雲母・海綿状骨針・石英	
105-13	65T III-5層	IV-6	輪積み痕⇒指頭押捺、縦位断面三角の隆線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	

図版 No.	出土遺構・ 層名	分類	器形・文様の特徴	内面 調整	含有物	備考
105-14	65T III-5層	IV	縦位 LR 縄文。頸部縦位刻み付隆線、隆沈線。	ミガキ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
105-15	65T III-5層	IV-4	口縁下端カマボコ状の隆線区画。口縁上端2条・ 隆線に沿う1条の縄圧痕文 (L、R)	ナデ	雲母	
105-16	65T III-5層	IV-4	口縁横位2条の縄圧痕文 (LR)。縦位 LR 縄文。	ミガキ	海綿状骨針・金雲母	
105-17	65T III-5層	IV-2	小波状縁。縦位 LR 縄文⇒隆線による楕円形区 画⇒下位隆線縄圧痕文、隆線下単沈線による上 向連弧状文。	ミガキ	金雲母	
105-18	65T III-5層	IV-2	口縁隆線による楕円形区画⇒上位隆線縄圧痕 (RL)、下位隆線交互押捺。	ナデ	雲母・金雲母	
105-19	65T III-5層	IV-2	隆線貼付によるY字状文。ナデ。	ナデ	雲母・金雲母	
105-20	65T III-5層	IV-2	隆線貼付によるY字状文。縦位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
105-21	65T III-5層	IV-1	平行沈線、梯子状短沈線、三角刻みを多段に施文。	ナデ	金雲母	
105-22	65T III-5層	IV-1	平行沈線⇒沈線間交互刺突文⇒ボタン状貼付文。	ミガキ	雲母・金雲母	
106-1	65T III-5層	IV-3	口縁上端刻み。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
106-2	65T III-5層	IV-3	口縁上端刻み。ナデ。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
106-3	65T III-5層	IV-4	口縁1条の横位縄圧痕文 (LR)。縦位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 金雲母	
106-4	65T III-5層	IV-2	縦位 LR 縄文⇒波状有節沈線文。	ナデ	雲母・金雲母	
106-5	65T III-5層	IV-4	縦位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
106-6	65T III-5層	IV-4	縦位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
106-7	65T III-5層	IV-4	横位 LR 縄文、結節回転文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英	
106-8	65T III-5層	III-4	複合口縁、口縁上端単沈線による刻み、口縁下 端刻み。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
106-9	65T III-5層	III-4	斜位・弧状単沈線。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
106-10	65T III-5層	III-6	横位多条平行沈線、2条単位の爪形文、変形爪 形文を交互に施文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
106-11	65T III-5層	III-5	横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針・ 石英。	
106-12	65T III-5層	III-2?	口縁上端刻み。横位 LR 縄文。	ナデ	雲母・海綿状骨針	
106-13	65T III-5層	III-5	縦位 RL 縄文。横位結節回転文。	ミガキ	雲母	

石製品観察表

表2 石製品観察表

※ 採集の「現」は、調査中、現地で確認し、取り上げたもの。「5」は貝層サンプル等土壌の水洗浄時に取り上げたもの。

※ 重量は磨石・敲石・石皿以外の石製品のみ小数点第1位まで計測した。

図版番号	出土遺構・層名	採集	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
107-1	64 T III-3 (a) 層	現	搔器	頁岩	5.3	2.5	0.9	13.4
107-2	54 T 20 層	5	石匙	珪質頁岩	4.8	1.3	0.4	2.9
107-3	54 T 20 層	5	石錐	石英安山岩	3.1	2.0	0.6	2.0
107-4	54 T 24 層	5	石錐	頁岩	4.7	2.2	0.9	4.4
107-5	54 T 26 層	現	石錐	頁岩	3.0	2.0	0.5	2.0
107-6	54 T 19 層	現	尖頭器	頁岩	11.4	2.7	1.2	38.5
107-7	52 T 西 III-2 層	現	尖頭器	頁岩	5.6	1.8	0.9	8.2
108-1	54 T 10 層	5	石鏃	珪質頁岩	1.6	1.3	0.4	0.6
108-2	54 T 16 層	5	石鏃	珪質頁岩	1.4	1.7	0.6	1.2
108-3	54 T 10 層	5	石鏃	頁岩	1.2	1.6	0.6	0.9
108-4	54 T 18 層	5	石鏃	頁岩	1.4	1.7	0.4	0.8
108-5	54 T 21 層	5	石鏃	頁岩	1.5	1.1	0.4	0.7
108-6	54 T 25 層	5	石鏃	頁岩	1.6	1.6	0.5	1.1
108-7	54 T 25 層	5	石鏃	頁岩	1.5	1.6	0.3	0.7
108-8	54 T 26 層	現	石鏃	頁岩	1.5	1.8	0.4	1.0
108-9	54 T 27 層	5	石鏃	頁岩	1.6	1.7	0.2	0.7
108-10	54 T 27 層	5	石鏃	頁岩	1.5	1.5	0.4	0.9
108-11	54 T 27 層	5	石鏃	頁岩	1.4	1.4	0.3	0.5
108-12	54 T 28 層	5	石鏃	頁岩	1.8	1.9	0.6	1.9
108-13	54 T 28 層	5	石鏃	頁岩	1.3	1.6	0.3	0.7
108-14	54 T 30 層	5	石鏃	頁岩	1.4	0.9	0.4	0.6
108-15	54 T 30 層	5	石鏃	頁岩	1.5	1.3	0.3	0.6
108-16	54 T 27 層	5	石鏃	赤色頁岩	2.0	1.4	0.3	0.8
108-17	54 T 10 層	5	石鏃	石英安山岩	2.1	1.4	0.3	0.8
108-18	54 T 16 層	5	石鏃	石英安山岩	2.4	2.1	0.5	1.6
108-19	54 T 18 層	5	石鏃	石英安山岩	2.0	1.6	0.7	1.8
108-20	54 T 18 層	5	石鏃	石英安山岩	1.7	1.9	0.4	1.6
108-21	54 T 20 層	5	石鏃	石英安山岩	1.5	1.6	0.4	0.9
108-22	54 T 23 層	5	石鏃	石英安山岩	1.4	1.8	0.4	1.0
108-23	54 T 25 層	5	石鏃	石英安山岩	1.7	1.8	0.5	1.1
108-24	54 T 25 層	現	石鏃	石英安山岩	4.1	2.5	0.7	4.9
108-25	54 T 27 層	5	石鏃	石英安山岩	1.9	1.3	0.4	1.1
108-26	54 T 27 層	5	石鏃	石英安山岩	2.3	2.1	0.5	2.3
108-27	54 T 27 層	5	石鏃	石英安山岩	1.4	1.3	0.4	0.7
108-28	54 T 29 層	5	石鏃	石英安山岩	2.4	1.9	0.5	1.9
108-29	54 T 30 層上面	現	石鏃	石英安山岩	2.0	1.7	0.5	1.4
108-30	54 T 24 層	5	石鏃	石英安山岩	3.3	1.9	0.9	5.4
108-31	54 T 24 層	5	石鏃	石英安山岩	1.9	1.9	0.5	1.4

図版番号	出土遺構・層名	採集	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
109-1	31 T サンプル S 2	5	石鏃	頁岩	2.1	1.5	0.6	1.6
109-2	31 T サンプル S 6	5	石鏃	頁岩	1.6	1.4	0.4	0.9
109-3	31 T III C 層	現	石鏃	石英安山岩	2.5	1.8	0.5	1.7
109-4	31 T III C 層	現	石鏃	石英安山岩	1.7	2.1	0.4	1.6
109-5	38 T A 2 層	5	石鏃	頁岩	1.4	1.3	0.3	0.4
109-6	38 T III F 層	現	石鏃	赤色頁岩	1.5	0.9	0.3	0.4
109-7	38 T III 層	現	石鏃	石英安山岩	1.9	2.2	0.6	1.9
109-8	38 T III E ~ G 層	5	石鏃	石英安山岩	1.7	1.7	0.5	1.4
109-9	38 T III C 1 層	現	石鏃	メノウ	1.5	1.7	0.6	1.4
109-10	64 T III - 3 (c) 層	現	石鏃	頁岩	1.9	2.1	0.2	0.9
109-11	64 T III - 3 (c) 層	現	石鏃	頁岩	1.4	1.5	0.3	0.7
109-12	64 T S 2 - 3 A	現	石鏃	頁岩	0.9	1.1	0.3	0.3
109-13	64 T S 3 - 10	5	石鏃	頁岩	1.3	2.0	0.4	1.1
109-14	64 T III - 3 (c) 層	5	石鏃	頁岩	3.6	2.1	0.6	3.3
109-15	63 T I 層上面	現	石鏃	石英安山岩	2.4	1.8	0.8	3.2
109-16	P 596	現	石鏃	頁岩	1.9	1.5	0.4	1.0
109-17	53T 西サブトレ III - 1 層	現	石鏃	赤色頁岩	1.4	1.3	0.2	0.4
110-1	38 T III A ~ D 層	5	石鏃未製品	頁岩	4.3	2.4	1.3	13.3
110-2	38 T III G 層	5	石鏃未製品	石英安山岩	3.5	2.6	0.9	8.1
110-3	38 T III E ~ G 層	5	石鏃未製品	頁岩	2.9	2.0	0.8	5.3
110-4	54 T 18 層	5	石鏃未製品	頁岩	2.5	1.8	0.4	2.0
110-5	54 T 25 層	現	石鏃未製品	頁岩	3.3	2.3	0.9	6.9
110-6	54 T 31d ~ e 層	現	石鏃未製品	頁岩	3.5	2.3	0.6	5.8
110-7	54 T 27 層	5	石鏃未製品	珪質頁岩	2.1	1.2	0.4	0.9
110-8	54 T 25 層	現	石鏃未製品	赤色頁岩	2.8	2.6	0.8	4.6
110-9	64 T サンプル S2 - 9 B	5	石鏃未製品	石英安山岩	2.7	2.0	0.7	3.4
110-10	SI09	現	石鏃未製品	赤色頁岩	3.5	2.5	0.6	5.8
110-11	64 T III - 3 層上面	現	石鏃未製品	頁岩	5.8	3.2	1.1	22.9
110-12	54 T 10 層	現	剥片	頁岩	3.8	4.0	1.2	22.0
110-13	54 T 25 層	現	剥片	頁岩	3.0	3.8	0.8	7.7
110-14	54 T 30 層	現	剥片	頁岩	4.2	3.9	1.3	20.9
111-1	54 T 27 層	現	剥片	砂岩	6.2	6.0	1.9	78.0
111-2	54 T 26 層	現	剥片	石英安山岩	3.0	1.5	0.4	1.5
111-3	64 T サンプル S4 - 8	5	剥片	頁岩	3.2	3.0	0.8	7.4
111-4	SK118	現	剥片	石英安山岩	4.8	3.5	0.8	11.5
111-5	SK218	現	剥片	赤色頁岩	3.6	3.0	1.1	15.2
111-6	SI15 周溝	現	石核	石英斑岩	11.1	8.2	3.5	296.7
112-1	SK310	現	打製石斧	ホルンフェルス	4.3	3.0	0.8	14.4
112-2	SI15 - 7 ~ 13 層	現	打製石斧	頁岩	9.5	6.1	1.8	113.8
112-3	64 T III - 3 (c 1) 層	現	打製石斧	角閃石片岩	10.8	5.1	2.3	158.0
113-1	SI09 上層 (SK318)	現	石皿	花崗斑岩	27.4	18.8	9.1	6050
113-2	SI09 上層 (SK318)	現	石皿	花崗斑岩	16.2	10.8	4.0	935

石製品観察表

図版番号	出土遺構・層名	採集	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
113 - 3	SI10 炉内 (SK404)	現	磨石・敲石	細粒花崗岩	6.9	8.2	4.7	380
113 - 4	SI15 - 1 ~ 4層	現	石皿	砂岩	16.9	10.9	6.6	1800
113 - 5	SI15 - 1 ~ 4層	現	磨石	花崗斑岩	9.9	7.1	3.8	330
113 - 6	SI15 - 1 ~ 4層	現	磨石・敲石	安山岩	9.6	8.0	3.6	425
113 - 7	SI15 - 1 ~ 4層	現	磨石・敲石	輝緑岩	9.4	6.4	3.5	215
113 - 8	SI16	現	磨石	花崗閃緑岩	10.4	6.0	3.8	360
113 - 9	SI16	現	敲石	安山岩	9.5	4.8	4.6	350
113 - 10	SK643	現	敲石	花崗岩 (石英斑岩)	8.3	6.7	3.3	265
113 - 11	SK144	現	石皿	流紋岩 (花崗斑岩)	14.0	14.0	9.8	3250
113 - 12	SK03	現	磨石・敲石	花崗斑岩	14.4	5.5	3.5	415
114 - 1	SK202	現	磨石	アプライト	10.6	8.0	4.6	615
114 - 2	SK424	現	石皿	安山岩質玄武岩	8.8	8.2	5.2	590
114 - 3	SK424	現	磨石	花崗岩 (石英斑岩)	12.6	7.1	4.3	615
114 - 4	31 T III層	現	石皿	安山岩	47.3	15.6	7.6	9500
115 - 1	54 T 14層	現	磨石	安山岩	7.0	3.9	1.4	55
115 - 2	54 T 20層	現	磨石・敲石	輝緑閃岩	12.1	11.9	4.1	885
115 - 3	54 T 21層	現	磨石・敲石	花崗閃緑岩	10.8	6.4	3.6	375
115 - 4	54 T 30層	現	磨石・敲石	花崗斑岩	11.7	7.5	4.1	885
115 - 5	54 T 30層	現	磨石・敲石	安山岩	10.8	7.0	4.6	570
115 - 6	54 T 30層	現	敲石	石英斑岩	10.0	6.7	5.2	470
115 - 7	64 T サンプル S 3 - 12 ~ 15A	現	石皿	安山岩	23.2	13.0	10.3	5300
115 - 8	64 T サンプル S 3 - 7	現	石皿	安山岩	14.3	5.5	5.7	610
115 - 9	64 T III - 3 (c) 層上面	現	石皿	安山岩	10.3	9.7	4.8	555
115 - 10	64 T III - 3 層上面	現	石皿	花崗斑岩	8.7	6.7	5.4	520
115 - 11	64 T III - 3 (c 3) 層上面	現	磨石・敲石	石英斑岩	13.6	8.4	4.6	740
115 - 12	II 区 III - 1 層	現	敲石	花崗斑岩	10.9	10.6	4.4	810
116 - 1	54 T 27層	現	磨製石斧	緑泥片岩	4.8	3.9	4.8	59.0
116 - 2	SK671	現	磨製石斧・敲石	輝緑斑岩	5.1	4.4	2.3	80.5
116 - 3	31 T III層	現	石棒	粘板岩	3.8	2.1	1.9	26.4
116 - 4	SI03 床面	現	垂飾	緑色凝灰岩	5.8	3.5	1.4	31.6
116 - 5	38 T	現	けつ状耳飾り	滑石	5.8	2.7	0.9	16.6

表3 土製品観察表

※ 採集の「現」は、調査中、現地で確認し、取り上げたもの。「5」は貝層サンプル等土壌の水洗洗浄時に取り上げたもの。

※ 土器片錘・土製円盤の最大長・最大幅はそれぞれ長径・短径を示す。

図版番号	出土遺構・層名	採集	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
117-1	52 TサブトレンチⅢ-1層	現	土器片錘	5.0	4.1	0.7	20.8
117-2	SI15-1~4層	現	土製円盤	3.4	3.2	1.0	11.4
117-3	SK223	現	土製円盤	3.4	3.4	1.0	14.2
117-4	SK288上面	現	土製円盤	4.4	3.9	0.9	15.4
117-5	SK354上面	現	土製円盤	3.3	3.0	0.6	6.6
117-6	SK469上面	現	土製円盤	3.9	3.7	0.9	15.4
117-7	SK481上面	現	土製円盤	3.5	3.2	0.8	10.2
117-8	SK489上面	現	土製円盤	3.8	3.5	0.8	14.0
117-9	SK532上面	現	土製円盤	3.8	3.4	1.0	10.2
117-10	SK532上面	現	土製円盤	3.6	3.4	1.0	15.4
117-11	SK671上面	現	土製円盤	2.9	2.7	0.6	6.3
117-12	31 Tサンプル S11	現	土製円盤	4.2	4.0	1.3	26.4
117-13	64 TⅢ-3層上面	現	土製円盤	4.0	3.7	1.4	23.8
117-14	64 TⅢ-3層上面	現	土製円盤	4.0	3.9	1.1	17.2
117-15	64 TⅢ-3層上面	現	土製円盤	3.5	3.4	1.1	13.4
117-16	64 TⅢ-3(c)層上面	現	土製円盤	4.6	4.0	0.7	16.6
117-17	64 TⅢ-3(c)層上面	現	土製円盤	4.4	4.3	1.0	23.6
117-18	64 TⅢ-3(c1)層上層	現	土製円盤	5.0	4.1	0.8	21.6
117-19	64 T S 1-6 A	現	土製円盤	4.3	4.2	0.8	19.0
117-20	64 T S 3-15	現	土製円盤	4.7	4.5	1.1	27.0
118-1	38 TⅢ G層	現	土偶	3.6	10.2	0.7	110.0
118-2	31 T S15層	現	土偶	3.9	3.5	1.3	25.0
118-3	SK149	現	土偶	7.0	3.9	1.2	55.5
118-4	SK63	現	土偶	6.9	3.4	4.6	60.5
118-5	31 T IV a層	現	けつ状耳飾り	5.4	3.2	0.9	17.2
118-6	64 TⅢ-3(c)層上面	5	けつ状耳飾り	3.7	2.4	1.1	8.4
118-7	SK 671	現	耳飾り	1.4	1.6	0.4	1.2
118-8	64 T S 4-5層	現	土製品	3.1	2.6	0.9	24.8
118-9	SK309	現	土製品	3.2	3.7	2.4	7.6
118-10	54 T 7層	現	土製品	3.5	1.3	1.0	5.6
118-11	54 T 25層	5	土製品	4.4	1.4	1.2	8.3
118-12	SI09上層	現	獣面土器	-	-	0.6	-

写真図版



写真1 豎穴住居出土土器①



写真2 竖穴住居出土土器②



写真3 竖穴住居出土土器③



写真4 竖穴住居出土土器④

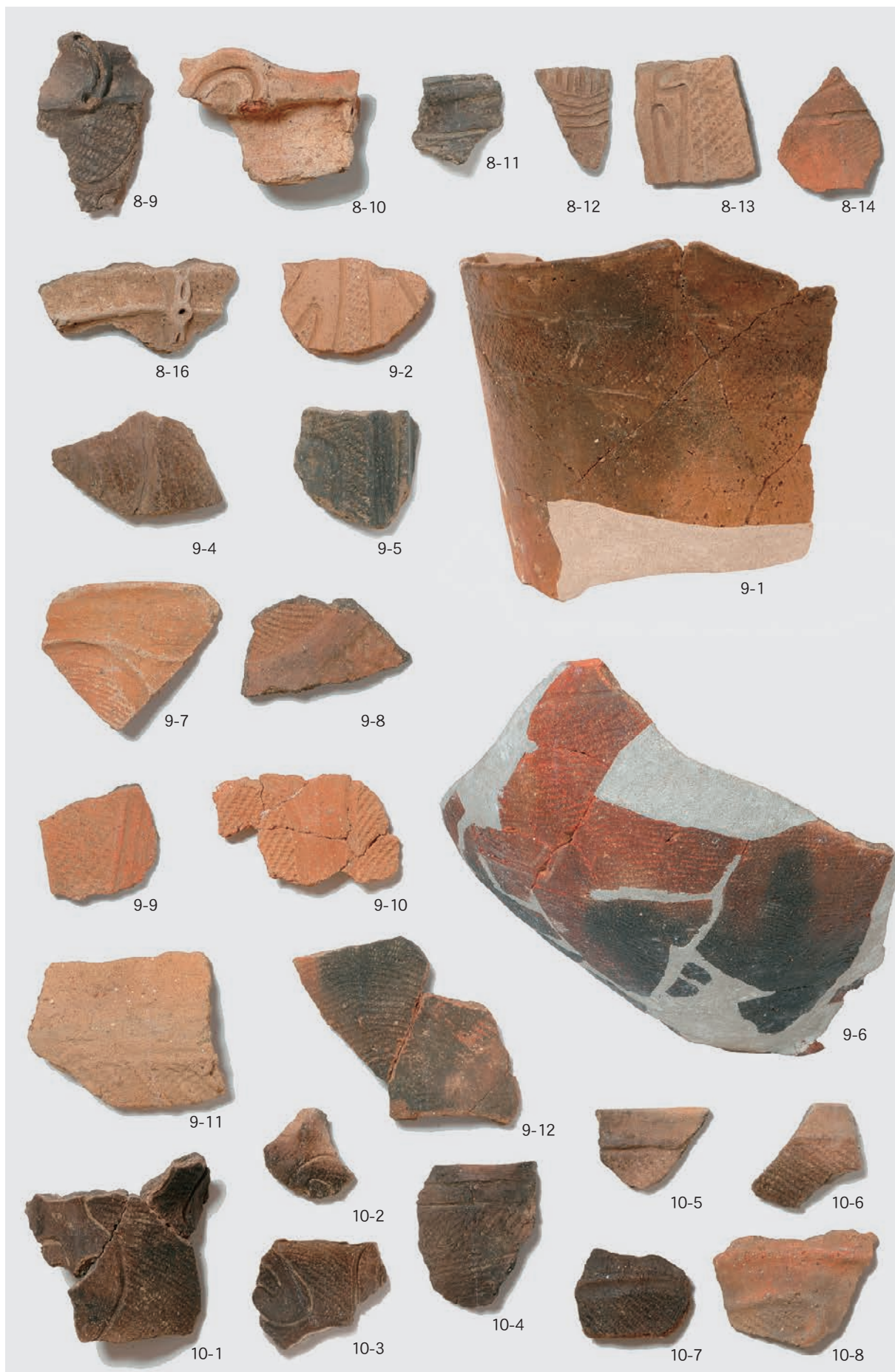


写真5 竖穴住居出土土器⑤



写真6 竖穴住居出土土器⑥



写真7 豎穴住居出土土器⑦



写真8 豎穴住居出土土器⑧



写真9 土坑 I 類出土土器①



写真10 土坑 I 類出土土器②



写真11 土坑Ⅱ類出土土器①

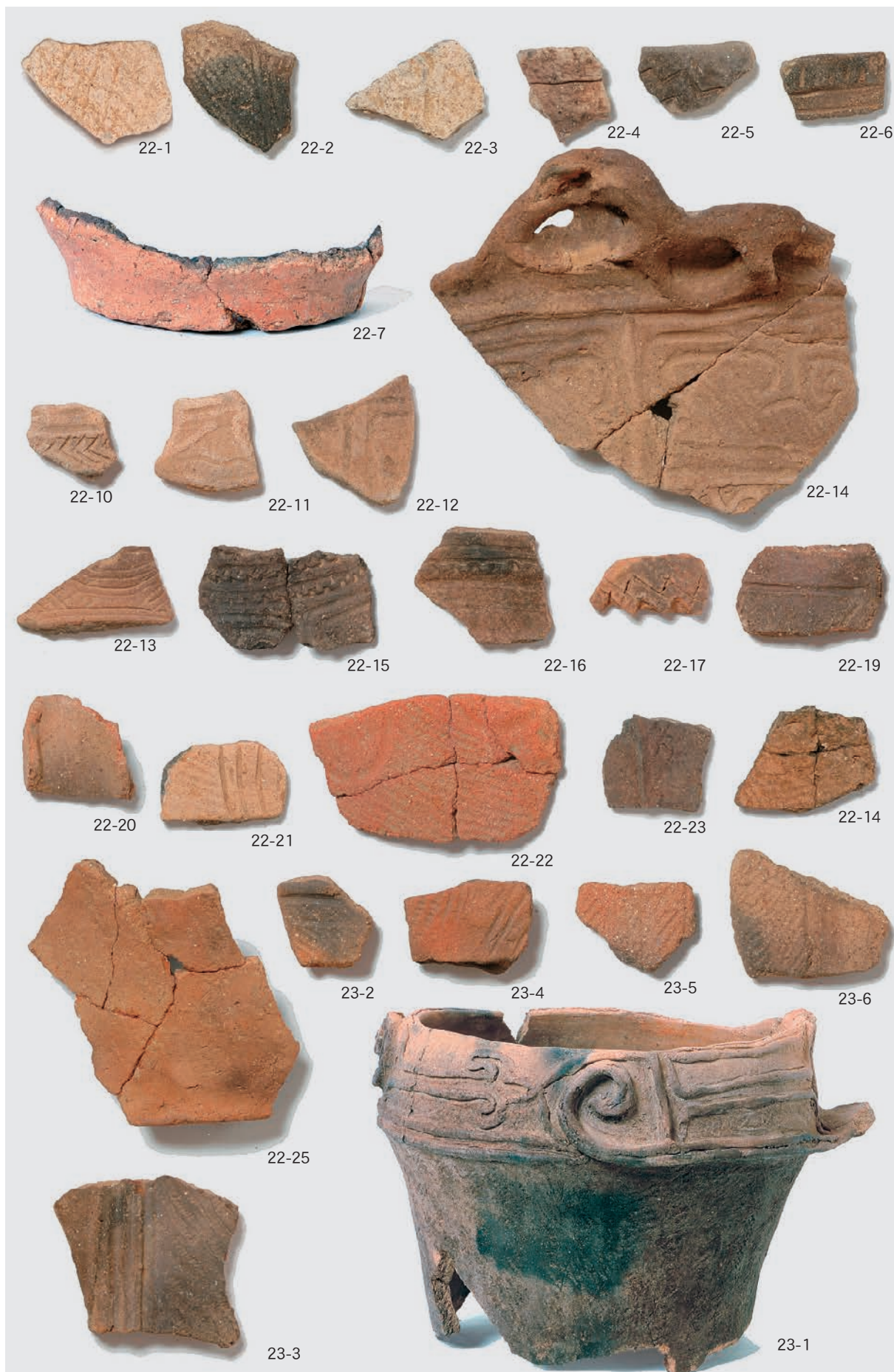


写真12 土坑Ⅱ類出土土器②



写真13 土坑Ⅱ類出土土器③



写真14 土坑Ⅲ類出土土器①



写真15 土坑Ⅲ類出土土器②



写真16 土坑IV類出土土器①



写真17 土坑IV類出土土器②



写真18 土坑IV類出土土器③



写真19 埋設土器出土土器



写真20 道路状遺構・遺物包含層①出土土器



写真21 遺物包含層出土土器②



写真22 遺物包含層出土土器③



写真23 遺物包含層出土土器④



写真24 31T 出土土器①



写真25 31T 出土土器②



写真26 31T出土土器③

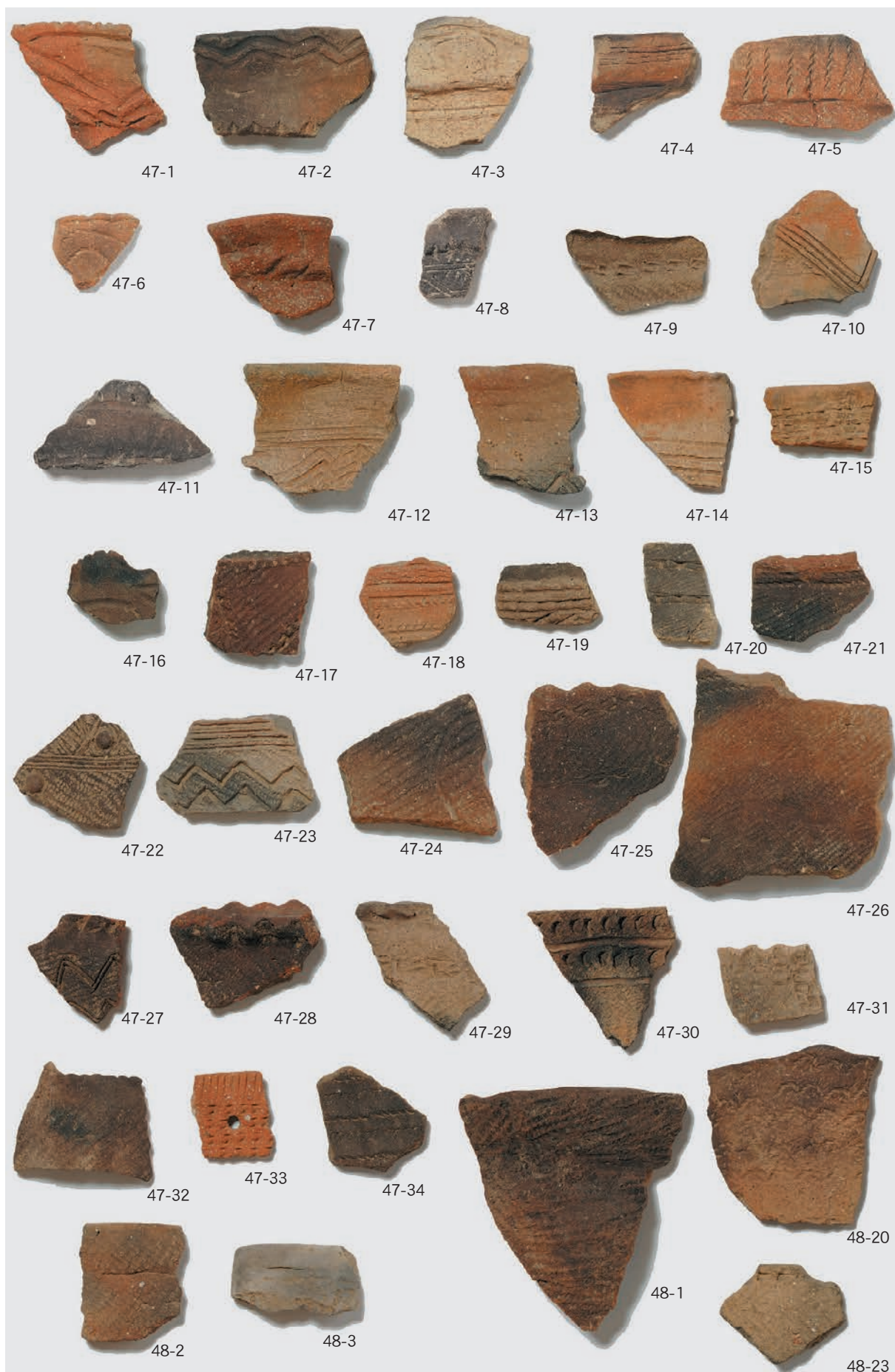


写真27 31T出土土器④



写真28 31T出土土器⑤



写真29 38T出土土器①



写真30 38T出土土器②



写真31 38T出土土器③



写真32 38T出土土器④



写真33 39T出土土器



写真34 54T出土土器①



写真35 54T 出土土器②



写真36 54T出土土器③



写真37 54T出土土器④



写真38 54T 出土土器⑤



写真39 54T 出土土器⑥



写真40 54T出土土器⑦



写真41 54T出土土器⑧



写真42 54T 出土土器⑨



写真43 54T出土土器⑩



写真44 54T出土土器①



写真45 54T 出土土器⑫



写真46 54T出土土器⑬



写真47 54T出土土器⑭



写真48 54T 出土土器⑮



写真49 54T出土土器①



写真50 54T 出土土器⑰

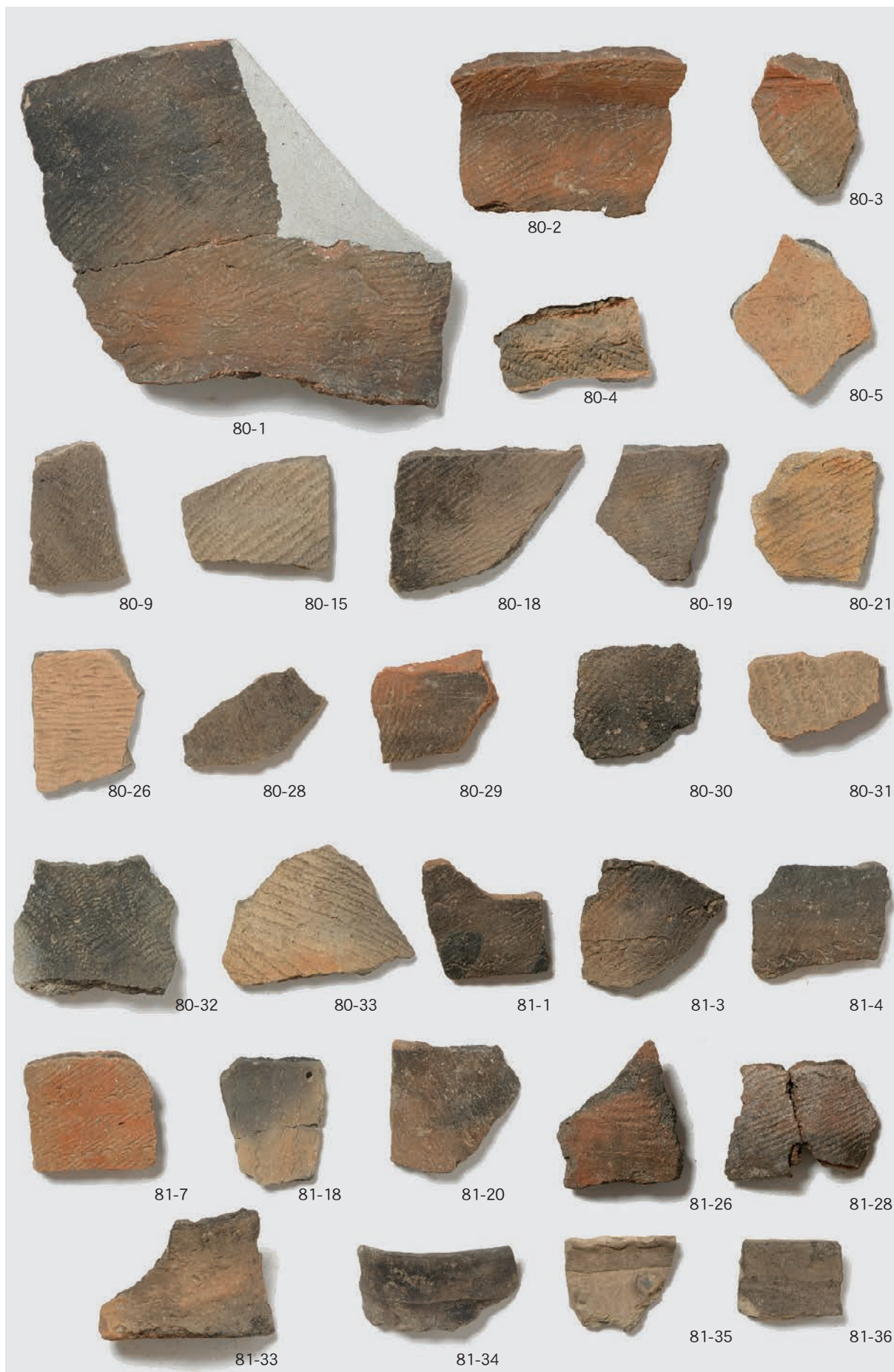


写真51 54T出土土器⑧



写真52 54T 出土土器①



写真53 54T出土土器②



写真54 53T東Ⅲ - 3層出土土器



写真55 63T出土土器①



写真56 63T出土土器②



写真57 63T③・67T出土土器



写真58 64T 出土土器①



写真59 64T出土土器②



写真60 64T出土土器③



写真61 64T出土土器④



写真62 64T出土土器⑤



写真63 64T出土土器⑥



写真64 64T出土土器⑦



写真65 64T出土土器⑧



写真66 土坑IV類出土土器④



写真67 土坑IV類出土土器⑤



写真68 遺物包含層出土土器⑤



写真69 出土石器①



写真70 出土石器②



写真71 出土石器③



写真72 出土石器④



写真73 出土石器⑤



写真74 出土土製品

附 編

附編 浦尻貝塚における AMS-¹⁴C 年代測定

国立歴史民俗博物館・年代測定研究グループ

1. 概要

本報告は縄文時代後期末葉から中期中葉の貝層である浦尻貝塚台ノ前北貝層を対象として、形成過程を推定するために行った AMS-¹⁴C 年代測定の報告である。

浦尻貝塚台ノ前北貝層の時期は 54T と 63T の 2 トレンチが調査成果から、おおよそ大木 6 式から 8b 式期に形成された貝層であることが推定されている。包含層は大きく褐色～黄褐色土の層と混土貝層の互層となっており、54T では大木 6 式期から大木 7b 式期に形成された層が細かく区分可能である。

本稿で報告する測定は、断面全体の傾向の把握を目的として行った。試料は、層ごとに土壌を水洗して得た炭化種子を試料として用いた。測定の結果、台ノ前北貝層の主たる形成時期は 3400 cal BC ～ 3000 cal BC であると考えられる。なお、各層、遺物の時期については小高町教育委員会の川田強氏、佐川久氏にご教授いただいた。

2. 測定試料の概要と測定

試料は小高町教育委員会が 2003 年の調査で層別に水洗した土壌から回収した炭化種子から各層別に数点ずつ採取した。測定試料は、貝層もしくは貝層に挟まれた層を中心に選定した(表 1)。

測定試料の前処理¹⁾は村本周三²⁾が国立歴史民俗博物館年代測定資料実験室の自動 AAA 処理装置(Sakamoto et al., 2004)を用いて行い、燃焼・ガス化と精製及びグラフアイト化は坂本稔³⁾が同実験室の真空ラインを用いて行い、AMS による ¹⁴C 測定は松崎浩之⁴⁾が東京大学原子力研究総合センターのタンデム加速器研究施設(機関番号 MTC)において行った。

3. 測定結果

測定試料及び測定結果一覧を表 1 に、較正年代の確率密度分布を図 1 に示した。参考までに小高町教育委員会(2005)で報告された結果についても RHcal⁵⁾で暦年較正したものをのせた。小高町教育委員会(2005)と本報告の測定は、測定機関が異なるが整合的な値が得られており、測定値について測定機関の差異を考慮する必要はない。

30 層出土試料の年代測定結果は 4575 ± 35 ¹⁴C BP で、小高町教育委員会(2005)とも整合的である。

表 1 測定結果一覧

遺物出土層位	種別	測定機関番号	測定値 ¹⁴ C BP	備考
2 層	オニグルミ	IAAA-41062	4270 ± 40	小高町教委(2005)を RHcal で再較正
10 層	未同定	MTC-05667	4495 ± 35	歴博試料番号 HKOD-C11
11 層	未同定	MTC-05668	4555 ± 35	歴博試料番号 HKOD-C12
15 層	オニグルミ	MTC-05663	4500 ± 40	歴博試料番号 HKOD-C4
15 層	オニグルミ	IAAA-41063	4430 ± 40	小高町教委(2005)を RHcal で再較正
21 層	未同定	MTC-05665	4440 ± 35	歴博試料番号 HKOD-C7
25 層	未同定	MTC-05666	4515 ± 35	歴博試料番号 HKOD-C9
27 層	オニグルミ	IAAA-41064	4620 ± 40	小高町教委(2005)を RHcal で再較正
30 層	オニグルミ	MTC-05664	4575 ± 35	歴博試料番号 HKOD-C6
30 層	オニグルミ	IAAA-41065	4570 ± 40	小高町教委(2005)を RHcal で再較正

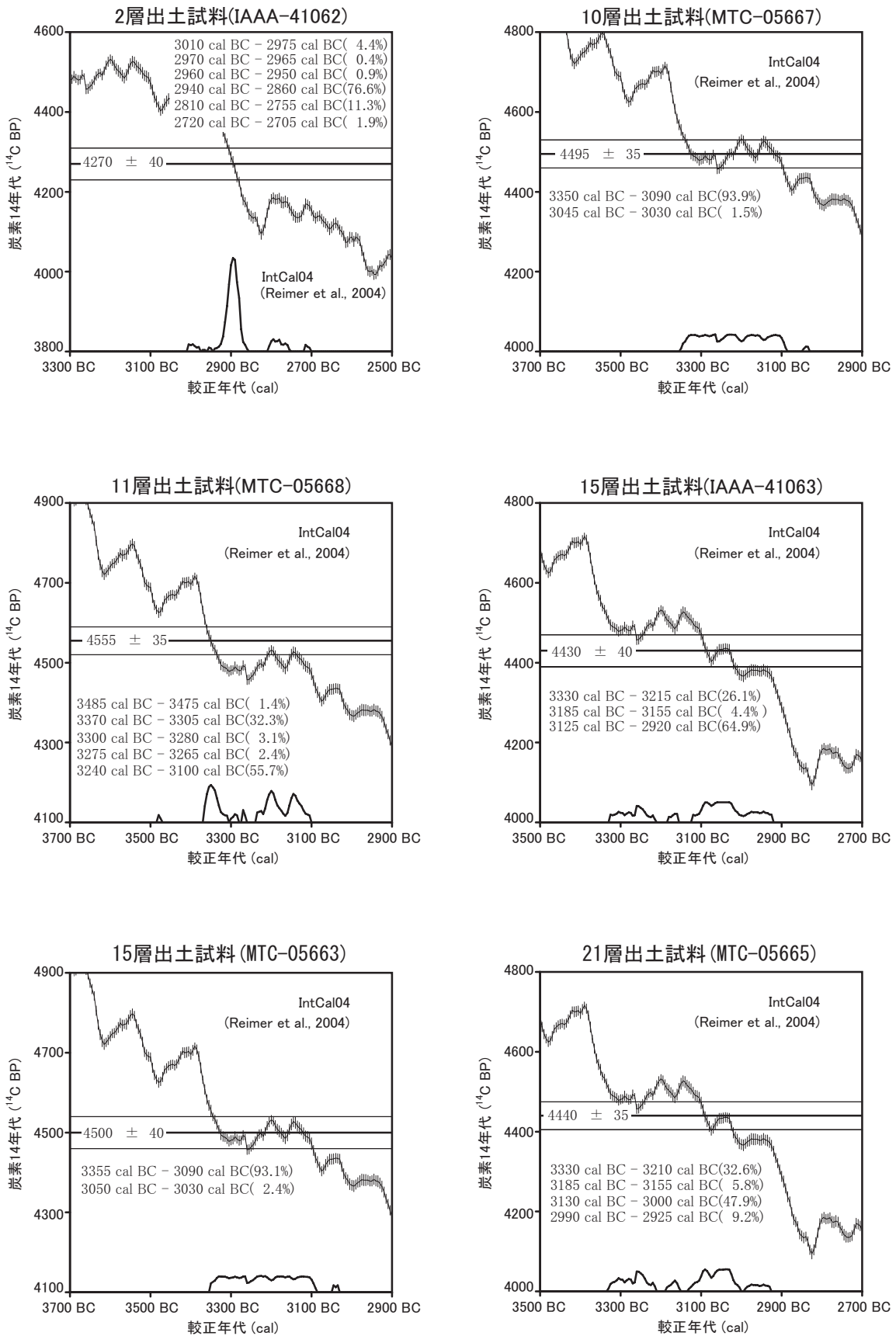


図1 暦年較正の結果1

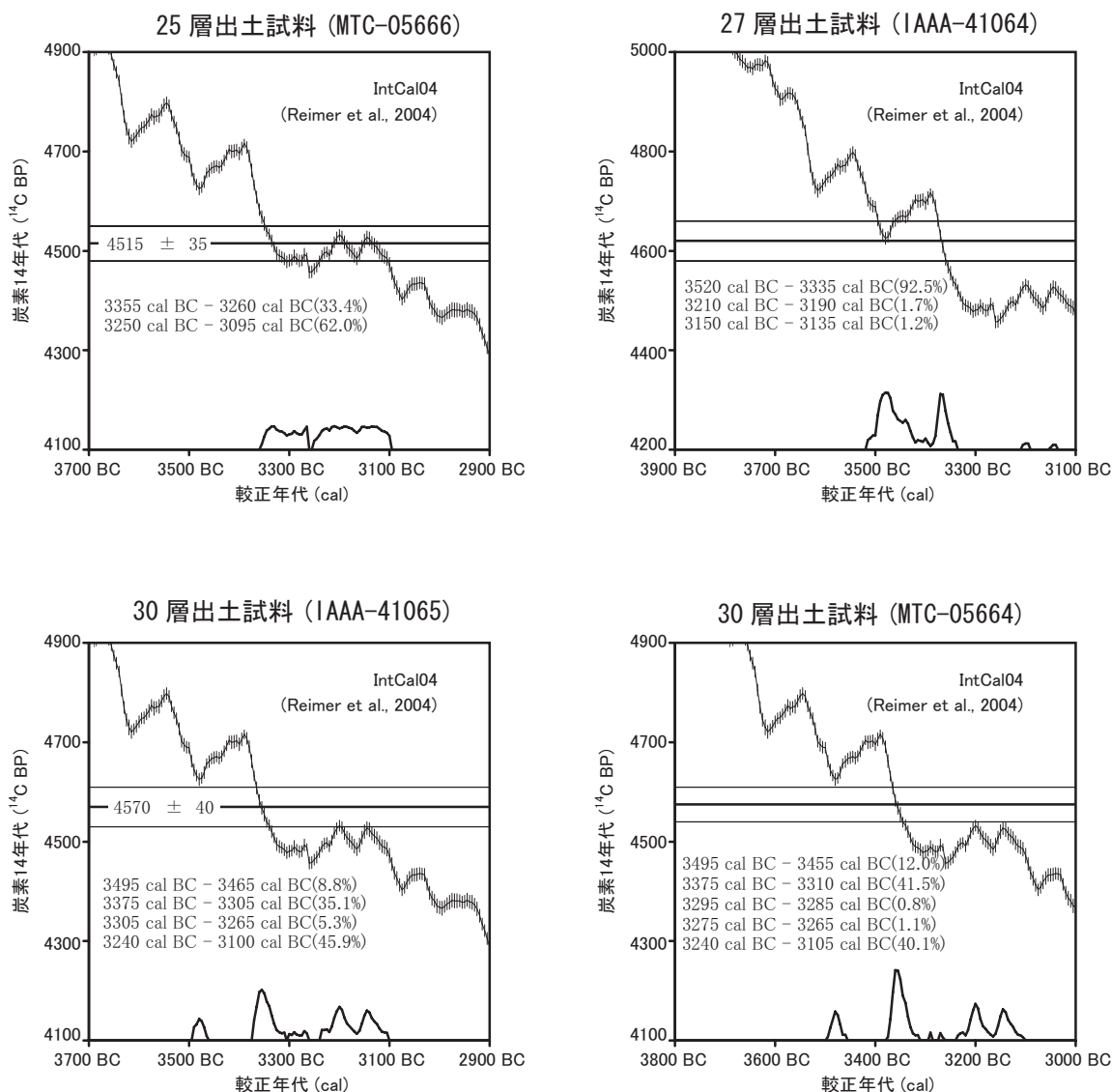


図2 暦年較正の結果2

よって、暦年較正の結果から 30 層の形成は 3380-3260 cal BC である可能性が高いといえる。

27 層は 4620 ± 40 ¹⁴C BP と 30 層の測定結果と逆転しているが較正年代の確率密度分布で比較すると、似た分布を示しており、この 1 点の結果のみで前後していると言うことはできない(図 2)。

10 ~ 25 層出土試料の測定結果については 4555 ± 35 ~ 4440 ± 35 ¹⁴C BP であるが、4550 ~ 4400 ¹⁴C BP については当時の大気中の ¹⁴C 濃度が安定していなかったことが知られており、波部の狭い較正値が得られない。暦年較正の結果から 3400-3000 cal BC である可能性が高い。

2 層出土試料は他の試料より新しく、4270 ± 40 ¹⁴C BP の値が報告されている(図 1)。測定例が 1 例であるため、2 層の年代を示しているか否かを判断することは困難であるため、今後の継続的な測定と検討で明らかにしていきたい。

本報告は西本豊弘³⁾、小林謙一³⁾、坂本稔の指導の下、村本周三が執筆した。測定は、平成17年度科学研究費補助金(学術創成研究)「弥生農耕の起源と東アジア-炭素年代測定による高精度編年体系の構築」(研究代表 西本豊弘)、国立歴史民俗博物館平成17年度基盤研究「高精度年代測定法の活用による歴史資料の総合的研究」(研究代表者 今村峯雄)の成果の一部である。また、村田六郎太氏、樋泉岳二氏からご指導、ご協力を得た。末筆ならご芳名を記し感謝申し上げたい。

- 1) 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻博士課程
- 2) 前処理は、純水中で試料を超音波洗浄、80℃に維持して1規定塩酸で2回、1規定水酸化ナトリウム溶液で5回洗浄した後、1規定塩酸で中和、純水で洗浄した。その後の試料処理と測定、測定値の補正については今村他(2002)、村本他(2005)に従った。
- 3) 国立歴史民俗博物館研究部。
- 4) 東京大学原子力研究総合センター、現 東京大学大学院工学系研究科。
- 5) 国立歴史民俗博物館・年代測定研究グループでは、IntCal04の較正曲線をもとに、OxCal(Ramsey 2001)に準じた計算法で較正を行う暦年較正用プログラムRHcalを用いて暦年較正を行っている。

参考文献

- 今村峯雄・小林謙一・坂本稔・西本豊弘(2003)「AMS¹⁴C年代測定と土器編年との対比による高精度編年の研究」『考古学と自然科学』45 pp.1-18 文化財科学会
- 小高町教育委員会(2005)『浦尻貝塚1』
- 村本周三・坂本稔・松崎浩之(2005)「東京都神明上遺跡における¹⁴C年代測定」『神明上遺跡』 pp.222-224 アルケアリサーチ
- C.Bronk Ramsey., (2001)Development of the Radiocarbon calibration program OxCal, Radiocarbon, 43 (2A), pp.355-363
- M.Sakamoto, et al.(2004)An automated AAA preparation system for AMS radiocarbon dating.,Nuclear Instruments and Methods in Physics Research B, 298-301, pp.223-224
- P.J.Reimer et al.(2004) IntCal04 Terrestrial Radiocarbon Age Calibration. 0-26 Cal Kyr BP, Radiocarbon, 46(3), pp. 1029-1058

報告書抄録

ふりがな	うらじりかいづか2						
書名	浦尻貝塚2						
シリーズ名	南相馬市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第1集						
編著者名	川田強						
編集機関	福島県南相馬市教育委員会文化課						
所在地	〒975-0012 福島県南相馬市原町区三島町二丁目45番地						
発行年月日	2006.3.31						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡				
うらじりかいづか 浦尻貝塚	みなみそうましおだかくら 南相馬市小高区浦 じり みなみだい 尻字南台ほか	72125	52 53 54 114	37° 31' 00"	141° 01' 40"	5,140	道路・ 保存目的 範囲内容 確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項	
浦尻貝塚	貝塚・集 落跡・古 墳・館	縄文～近世		貝塚・竪 穴住居 柱穴・貯 蔵穴等	縄文土器・ 石器・土 製品	縄文時代前期～晩 期貝塚・集落跡 遺構及び貝層等か ら出土した縄文時 代の遺物	

南相馬市埋蔵文化財調査報告書第1集

浦尻貝塚2

印刷 2006年3月29日

発行 2006年3月31日

編集 南相馬市教育委員会 文化課

発行 南相馬市教育委員会

〒975-0012

福島県南相馬市原町区三島町二丁目45番地

印刷 有限会社 ライト印刷

〒975-0018

福島県南相馬市原町区北新田字信田 370-1